

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成18年 6 月

徳山工業高等専門学校



## 目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	26
	基準3 教員及び教育支援者	57
	基準4 学生の受入	94
	基準5 教育内容及び方法	110
	基準6 教育の成果	172
	基準7 学生支援等	187
	基準8 施設・設備	310
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	320
	基準10 財務	346
	基準11 管理運営	354
	選択的評価事項に係る目的	373
	選択的評価事項A	
	研究活動の状況	375
	選択的評価事項B	
	正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	400



## I 対象高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

#### (1) 高等専門学校名

徳山工業高等専門学校

#### (2) 所在地

山口県周南市

#### (3) 学科等構成

学 科：

機械電気工学科，情報電子工学科，  
土木建築工学科

専攻科：

機械制御工学専攻，情報電子工学専攻，  
環境建設工学専攻

#### (4) 学生数及び教員数

(平成18年5月1日現在)

学生数：学 科 645名

専攻科 48名

教員数：66名（校長含む）

### 2 特徴

・伝統、建学の精神、理念など

本校は、3つの複合学科および専攻より成り、それぞれの境界領域を含めた専門分野において基礎理論の習熟とともに実験実習に重点をおいた教育を行い、実技に明るく、総合判断力に優れた実践的技術者の養成をめざしている。開学（昭和49年）当初から、開発型教育に力を注いできており、ロボコンを始めとする各種コンテストや創造教育に係る受賞などで多くの実績を有している。なお、本科低学年は混合学級制度が採用され、得意とする技術分野の異なる学生同士が交流し易い環境にある。

平成6年に「テクノ・リフレッシュ教育センター」を、さらに平成9年には高専と地場の企業との連携を行う「徳山高専テクノ・アカデミア」を創設し、地域の企業との共同研究などを通じ、実際の現場の問題を解決することによって、実践力のある技術者の育成に努めてきた。

・創造教育

高専が早期創造教育の可能な高等教育機関であるとの認識から、創造性育成のための教育方法の開発と実践を積極的に進めている。平成7年度からは機械電気工学科で、平成8年度からは情報電子工学科および土木建築工学科で創造演習の時間を新設し、学生の自発性、創造性育成の取り組みを開始した。創造教育では、自分自身で

課題を見出し、自らの発想により答えをみつけ、新しいものを生み出す力を養成することを目的としている。

・専攻科教育

平成7年度に、専攻科を設置した。修了に際しては、研究の成果をまとめ、世に問う経験を積むため、特別研究の成果について、設置当初から、学協会での発表を修了要件として義務づけている。国際会議を含め毎年30件程度の発表があり、優秀講演表彰なども受けてきている。さらに平成12年度から、TOEICスコア400以上の取得を、また平成14年度から、情報関連等外部資格の取得も修了要件としている。平成15年度には工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE認定の本審査を受審し、プログラム認定された。カリキュラム上の特色は、情報技術、英語力およびプレゼンテーション能力の向上に力を注いでいること、ならびに高専教育の特色である実践的な開発型教育の充実にある。なかでも、専攻科1年次前期のインターンシップ（約3ヶ月）期間中、実務経験のなかから発掘した課題に関する特別研究の例や、知的財産管理、経営管理の授業など、地元企業との協力による教育に特色がある。

・新しい取り組み

英語力の向上に資するため、平成14年度に開始した海外研修助成制度により、シドニー工科大学などにおいて、毎年、十数名の学生が語学研修に参加している。また、平成14年度には、英語のネットワーク・ラーニング・システム(e-Learning)も導入し、学生の自主的な学習を促進している。さらに、UCSDはじめ海外の大学と学術交流協定も締結している。

本校の活動について地域の理解を深め、同時に広く意見を求めるために、チャレンジショップ「高専夢広場」を平成14年度に開設した。その企画・運営には学生も参画している。さらに、平成17年度の周南市「ひと・輝きプロジェクト」においては、公募により採択された10件のうち、過半数に本校教職員が関与している。

平成15年度に徳山高専および周南市を舞台に制作された映画「ロボコン」では、高専の教育活動や周南市の国内への広報役を担った。さらに、平成17年度には山口県東部で初の国際会議「第3回構造工学と建設に関する国際会議(ISEC-03)」を本校において開催し、世界に通用する教育研究機関の一端を世界に発信した。

## Ⅱ 目的

徳山工業高等専門学校の使命

学習・教育目標

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

### 1 教育理念

○ 準学士課程の学習・教育目標と具体的到達目標

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

(A 2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・自らの目標を定め、外部試験を活用して、英語力のステップアップを図る

(B) 「実践力のある」技術者をめざすために

(B 1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

(B 2) 自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

(C) 「開発型」技術者をめざすために

(C 1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する

(C 2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

・創造系の科目を修得する

・創造演習発表会、卒業研究発表会などで発表を行う

○ 専攻科課程の学習・教育目標と具体的到達目標

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

・学士を取得する

(A 2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

・TOEICにおいて400以上のスコアを取得する

(B) 「実践力のある」技術者をめざすために

(B 1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

・情報関連・実験の科目を修得する

・情報関連等外部資格を取得する

(B 2) 自主性と自立性を養うこと

・卒業研究の科目を修得する

(C) 「開発型」技術者をめざすために

(C 1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する

・総合科目（2科目以上）及び総合演習の科目を修得する

(C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

- ・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する
- ・国内外の学協会で発表を行う

## 2 養成しようとする技術者像

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者

○本科卒業生のめざす技術者象と到達目標

自らの業務における技術的課題を解決できる技術者

○専攻科修了生のめざす技術者象と到達目標

自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者

## 3 各学科／専攻で修得する技術

進学士課程と専攻科課程が1対1で対応しているため、双方のめざす技術者像も踏まえて、学科／専攻を通して修得する技術を明確に定めている。

○機械電気工学科／機械制御工学専攻

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」／

「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」

○情報電子工学科／情報電子工学専攻

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術」／

「コンピュータを核とする多用なシステムを設計・開発する技術」

○土木建築工学科／環境建設工学専攻

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術」／

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」

教育活動等の基本的な方針，教育目標等

### 1 教育，研究，社会との連携，国際交流等に関する目標

既成概念にとらわれずチャレンジ精神をもって教育・研究に取り組むとともに、地域に根ざした高専づくりを推進し、世界に認められる個性をもった教育界のオンリーワンをめざす。

### 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標

情報収集・分析，学校運営の企画・総合調整を行う「総合企画室」を設置し，学内運営の円滑化，効率化を行う。地域協力を発展させるために、「テクノ・リフレッシュ教育センター」の見直しと，知的財産に関する業務の強化を行う。「学習・教育レビュー室」を設置し，業務の持続的発展を可能とする評価改善システムを構築する。

### 3 財務内容の改善に関する目標

国立高等専門学校機構の定めた中期計画による効率化を踏まえ，従来業務に係る経費の削減を行うとともに，新規業務に対する戦略的な資金投入を行う。また，外部資金の積極的な導入を進め，総経費の5%程度を外部資金（知的財産の活用に伴う資金も含む。）により確保する。

### 4 社会への説明責任に関する目標

ウェブサイトの充実などによる可能な限りの情報公開，授業や卒業研究の成果の公開，シラバスの内容，授業評価の内容などの公開，教員の研究成果などの開示を通して，社会に対する説明責任能力を高める。

### 5 その他業務運営に関する重要目標

日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を継続するとともに，本校教育の高度化と教員の業績向上により国際的同等性を確保し，専攻科修了生の学位授与を実質的に可能とする。

### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点到係る状況)

本校では，昭和 49 年の開学時に「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を養い，有為の人材を育成する」ことを目的に掲げ（資料 1-1-②-1），教育を行ってきたが，平成 5 年，教育目標として次のことを掲げ，めざすべき教育のねらいを明示した。

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

平成 14 年度にはそのねらいをより明確にするため，「世界に通用する」「実践力のある」「開発型」という 3 つの理念をそれぞれ 2 つに具体化し，学習・教育目標（資料 1-1-①-1）とした。それと同時に，養成しようとする技術者像を次のように定めた（資料 1-1-①-2）。

情報技術をベースに，それぞれ得意とする複合技術を生かして，

設計・開発を行う素養をもつ技術者

これらは本校の伝統や実績ならびに社会の要求等を考慮しており，準学士課程と専攻科課程に共通した本校全体でめざすべき目標である。

平成 17 年度には，準学士課程卒業生と専攻科課程修了生のめざす技術者像や到達目標をさらに明確にした（資料 1-1-①-2）。自然科学系科目や基礎工学科目などの基本的素養や自主性・自立性の到達度は準学士課程卒業生も専攻科課程修了生も変わりがなく，両者の差は，技術的課題への対応経験や訓練が社会でなされるか在学中になされるかの違いと位置づけている。

これらの内容を，学習・教育目標に沿ってより具体的に定めたものを（資料 1-1-①-3）に示す。準学士課程卒業時の到達目標のうち，（A2）に関する次の項目「自らの目標を定め，外部試験を活用して，英語力のステップアップを図る」に対し，各学年に所属する学生の 60%以上が達成することをめざした到達目標を平成 17 年度に具体的に定め，指針を与えるとともに，平成 18 年度から英語能力検定テスト「ACE」を導入し，準学士課程在籍者全員が受験すること，ならびに TOEIC-IP テストを実施し，準学士課程 4・5 年生全員が受験することも併せて決め，便宜を図ることとした（資料 1-1-①-4）。また，専攻科課程修了時の到達目標では，「学士の取得」「TOEIC において 400 以上のスコアの取得」「情報関連等外部資格の取得」「国内外の学協会での発表」との外部評価項目をもって 3 つの理念ごとに総合評価し，達成度をより客観的に評価できるようにしている点が大きな特徴である。

なお，この具体的到達目標は，準学士課程と専攻科課程を終えるとき，全員が到達する内容を示している。また，そのイメージを，（資料 1-1-①-2）に併せて示した。

さらに，本校は準学士課程と専攻科課程が 1 対 1 に対応しているため，各学科／専攻を通し，修得すべき複合技術を定めている。また，準学士課程卒業生と専攻科課程修了生のめざす技術者像を踏まえ，学科と専攻でそれぞれ修得する技術も明確にしている（資料 1-1-①-5）。

以上述べたように，学習・教育目標と養成しようとする技術者像，それらを実現すべき具体的到達目標，ならびに各学科／専攻で修得する技術の相互関係を（資料 1-1-①-6）に示した。

資料 1 - 1 - ① - 1 学習・教育目標



## 学習・教育目標

### Educational Goal

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成

To educate the students to be future engineers with a world-class competitive edge, practical skills, and competence in research and development



徳山高专は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を、平成5年度から教育目標として掲げてきました。平成14年度にはその内容をさらに具体化し、次に示す6つの学習・教育目標にまとめました。左のイラストは、そのイメージをまとめたものです。

Tokuyama College of Technology has put “to educate the students to be future engineers with a world-class competitive edge, practical skills, and competence in research and development” forward as its educational goal since 1993. Based on the educational goal, our college set the following six concrete goals in 2002. The chart on the left illustrates how these goals are pursued in our college.

- (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために
    - (A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
    - (A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
  - (B) 「実践力のある」技術者をめざすために
    - (B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
    - (B2) 自主性と自立性を養うこと
  - (C) 「開発型」技術者をめざすために
    - (C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
    - (C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
- (A) In order to educate our students to be future engineers with a world-class competitive edge, we get them
    - (A1) to acquire basic knowledge to apply to interdisciplinary fields, and
    - (A2) to deepen their global understanding, cultivate their ethics for engineers, and improve their communicative ability.
  - (B) In order to educate our students to be future engineers with practical skills, we get them
    - (B1) to be able to utilize information technology and improve their presentation ability through practice and internship programs, and
    - (B2) to be independent.
  - (C) In order to educate our students to be future engineers with competence in research and development, we get them
    - (C1) to improve the ability to combine and organize their knowledge of various fields, and
    - (C2) to be able to analyze, address and solve problems and polish their sensibility and creativity.

資料 1 - 1 - ① - 2 養成しようとする技術者像



## 養成しようとする技術者像

### The Engineers Our College Aims to Send Out into Society

本校では、学習・教育目標の実現をめざして教育を行い、次のような技術者を育てようとしています。これは、「本科と専攻科に共通した」本校で養成しようとする技術者像で、平成14年度に定めたものです。

Trying to achieve our educational goal, our college has been training the students to be an engineer with the following abilities. The images of a desirable engineer with these abilities that our college aims to send out into society were defined for both undergraduate and advanced courses in 2002.

**情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者**

Engineers who have a good command of information technology and good grounding in designing and developing anything by utilizing their strong compound technologies

学習・教育目標や養成しようとする技術者像を踏まえつつ、本科卒業生と専攻科修了生のめざす技術者像や到達目標を、平成17年度に明確にしました。自然科学系科目や基礎工学科目などの基本的素養や自主性・自立性の到達度は本科も専攻科も変わりがなく、両者の差は、技術的課題への対応経験や訓練が社会でなされるかや在学中になされるかの違いだといえます。そのイメージを下のイラストにまとめています。

**本科卒業生のめざす技術者像と到達目標**

**自らの業務における技術的課題を解決できる技術者**

実地経験と具体的な業務に応じた学習により、専門分野の課題に対応できる基本的な素養をもつこと

Specific goal for undergraduate course students to achieve and the desirable engineers for them to become

Engineers who can solve technical problems in their work

Engineers who have basic knowledge and abilities through practical experiences at their work and can carry out tasks in the engineering field

**専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標**

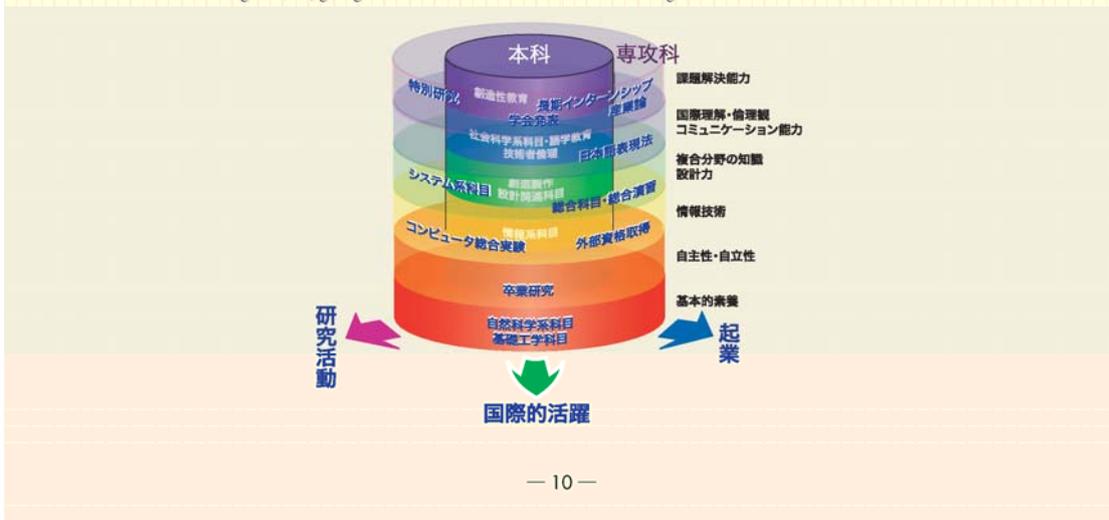
**自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者**

技術者の行う諸活動（研究、技術指導、起業など）に必要な基本的な素養をもつこと

Specific goal for advanced course students to achieve and the desirable engineers for them to become

Engineers who can solve various technical problems in their specialized fields

Engineers who have basic knowledge and abilities to carry out various activities in the engineering field such as doing research, giving technical advice and instructions and starting a business



資料 1 - 1 - ① - 3 具体的到達目標

## 具体的到達目標 Concrete Goals for the Students to Achieve

本科卒業生と専攻科修了生のめざす到達目標を、学習・教育目標に沿って、より具体的に定めました。この具体的目標は、準学士課程と専攻科課程を終えるとき、全員が到達する内容を示しています。

In line with our educational goal, our college has set more specific goals for undergraduate and advanced courses respectively. All the students are supposed to achieve the following goals when they have completed their undergraduate and advanced courses.

### 準学士課程卒業時

#### When You Have Completed the Undergraduate Course

- (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために
  - (A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
    - ・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
  - (A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
    - ・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
    - ・自らの目標を定め、外部試験を活用して、英語力のステップアップを図る
- (B) 「実践力のある」技術者をめざすために
  - (B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
    - ・情報関連・実験の科目を修得する
  - (B2) 自主性と自立性を養うこと
    - ・卒業研究の科目を修得する
- (C) 「開発型」技術者をめざすために
  - (C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
    - ・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
  - (C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
    - ・創造系の科目を修得する
    - ・創造演習発表会、卒業研究発表会などで発表を行う



### 専攻科課程修了時

#### When You Have Completed the Advanced Course

- (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために
  - (A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
    - ・数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
    - ・学士を取得する
  - (A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
    - ・国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
    - ・TOEICにおいて400以上のスコアを取得する
- (B) 「実践力のある」技術者をめざすために
  - (B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
    - ・情報関連・実験の科目を修得する
    - ・情報関連等外部資格を取得する
  - (B2) 自主性と自立性を養うこと
    - ・卒業研究の科目を修得する
- (C) 「開発型」技術者をめざすために
  - (C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
    - ・メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
    - ・総合科目（2科目以上）及び総合演習の科目を修得する
  - (C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
    - ・インターンシップ及び特別研究の科目を修得する
    - ・国内外の学協会で発表を行う



資料 1-1-①-4 学年ごとの英語資格スコア・到達目標と外部試験実施内容

	TOEICスコア	実用英検	工業英検	A C E
専攻科2年	470	2級	2級	参考(590)
専攻科1年	400	2級	3級	参考(540)
5年	350	2級	3級	480
4年	330	準2級	3級	440
3年	310	準2級	4級	400
2年	(290)	準2級	4級	360
1年	(250)	3級	4級	320

出典：学生便覧

資料 1-1-①-5 各学科／専攻で修得する技術

### 各学科／専攻で修得する技術

#### Technological Skills the Students Are Required to Master

本校は本科と専攻科が1対1に対応しているため、学科／専攻を通して修得する技術を定めています。また、本科卒業生と専攻科修了生のため技術者像も踏まえ、各学科と専攻で修得する技術を明確にしました。  
Our college has three five-year undergraduate courses and each undergraduate course is followed by its corresponding two-year advanced course. The technological skills that the undergraduate and advanced course students are required to master in common have already been shown, in addition, on the basis of the images of a desirable engineer that our college aims to send out into society, we have specified the following as technological skills that the undergraduate and advanced course students are required to master respectively.

**情報系分野**

**創造力**

情報 (メカの制御)

**機械系分野**

設計 (CAD)  
加工 (CAM)

材料 (メカの強度)

**メカトロ技術**  
Technologies of mechatronic engineering

**機械電気工学科**

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術」  
Technological skills to design and produce machines controlled by computers

**機械制御工学専攻**

「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」  
Technological skills to design and develop machines controlled by computers

**情報電子工学科**

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術」  
Technological skills to design and build computer-based electronic telecommunications systems

**情報電子工学専攻**

「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術」  
Technological skills to design and develop various computer-based systems

**情報電子技術**

Technologies of computer science and electronic engineering

**建築系分野**

**建築**  
(建物・住環境)

環境 (自然・エコロジー)

**土木系分野**

**都市・交通**  
(構造・材料)

防災 (道路整備・治水)

**社会環境整備技術**  
Technologies of environmental and civil engineering

**土木建築工学科**

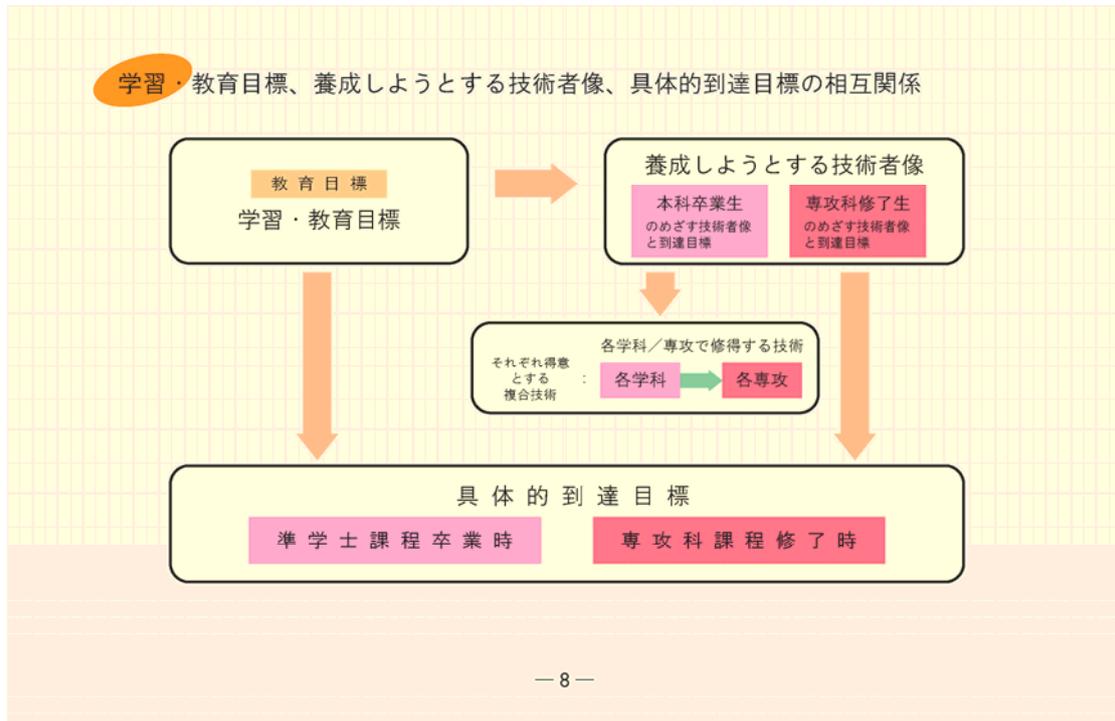
「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術」  
IT-based skills to design and construct infrastructure and architectural space

**環境建設工学専攻**

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」  
IT-based skills to design and develop infrastructure and architectural space

出典：学校要覧

資料 1-1-①-6 教育目標、養成しようとする技術者像および具体的到達目標の相互関係



出典：学校要覧

(分析結果とその根拠理由) 明確に定められている。

昭和49年の開学以来、教育の基本方針は一貫して変わっていないが、平成5年に現在の教育目標を掲げることでめざすべき教育のねらいを定め、以後学習・教育目標、養成しようとする技術者像、各学科/専攻で修得する技術ならびに準学士課程卒業時と専攻科課程修了時の具体的到達目標などその内容をより明確に示してきており、平成18年度に全体像が定まった。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

学則第1章 目的 第1条(資料1-1-②-1)において定められている本校の教育目的は、学校教育法第70条の2を踏まえて規定されたものであり、本校の学習・教育目標を始めとする一連の教育方針がその延長上にあることは、観点1-1-①ですでに述べたとおりである。

資料 1-1-②-1 学則第1章 目的 第1条

徳山工業高等専門学校学則

第1章 目 的  
(目 的)

第1条 徳山工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神にのっとり、及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。

出典：学生便覧

学校教育法第70条の2には「深く専門の学芸を教授」し、「職業に必要な能力を育成」という二つの具体的な目的が規定されているが、本校の学習・教育目標や養成しようとする技術者像は、これらとの関連を明確に意識して定められている。その対応を示すと、次のようになる。

「深く専門の学芸を教授」

学習・教育目標：(A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

(C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

養成しようとする技術者像：

・・・、それぞれ得意とする専門技術を生かして、・・・

「職業に必要な能力を育成」

学習・教育目標：(A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

(B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

(B2) 自主性と自立性を養うこと

(C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

養成しようとする技術者像：

情報技術をベースに、・・・、設計・開発を行う素養をもつ

(分析結果とその根拠理由) 目的からはずれるものではない。

本校の教育目的は、学校教育法の目的を踏まえて規定されたものであり、その延長上にある学習・教育目標や養成しようとする技術者像も、そこに示された二つの具体的な目的との関連を明確に意識して定められている。

**観点1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。**

(観点に係る状況)

学習・教育目標、養成しようとする技術者像、各学科／専攻で修得する技術は、本校が作成する多くのパンフレット類に明示されている。代表的なものとして学生便覧（資料1-2-①-1）やシラバス（資料1-2-①-2）があり、全学生と非常勤を含む教職員全員（ただし、職員は基本的には各係に1冊）に、毎年配布されている。また、専攻科履修要覧（資料1-2-①-3）や専攻科学生募集要項（資料1-2-①-4）にも同様に記載がされており、関係者にはすべて、これらも配布している。一方、平成15年度に広報活動の効率化を図るための見直しが行われた結果、電子媒体としてのウェブサイトを本校の中心に据えた広報活動が展開されており、そのなかにもこれらの目的が掲載されている（資料1-2-②-1）。なお、準学士課程卒業時ならびに専攻科課程修了時の具体的到達目標は平成18年5月に決定されたため、学校要覧（資料1-1-①-3）およびウェブサイトのみに記載・掲載されている。

これらの目的は、教職員（非常勤を含む）に対しては配布するパンフレット類やウェブサイトにより周知しており、新たに定められた内容に関しては、会議等を通じて周知を図っている（資料1-2-①-5）。なお、平成16年度からは新任転任教職員を対象とした研修会（資料1-2-①-6）も開催され、重点的に説明が行なわれている。

学生に対しては、新年度当初に配布するパンフレット類をもとに、周知に努めている。新入学生

に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて、本科は教務主事、専攻科は専攻科長が周知を図っている（資料 1-2-①-7）。また、在学生に対しては、毎年度、始業式に行う学年別オリエンテーションならびに学科 HR において、教務主事室および学科主任が周知をはかっている（資料 1-2-①-8）。なお、学年別オリエンテーションと学科 HR には教員も参加することになっており（資料 1-2-①-8）、ここでも周知を図っている。

さらに、日頃から学習・教育目標に触れる機会をもつため、すべての教室に、目標と時計とが一体になった本校オリジナルのパネル（資料 1-2-①-9）を掲示している。さらに教職員は、裏に学習・教育目標が印刷されている顔写真入りの名札（資料 1-2-①-10）を付けており、必要に応じて利用している。

## 資料 1-2-①-1 養成しようとする技術者像，各学科／専攻で修得する技術

### 2. 学習心得

#### (1) 学習・教育目標、養成しようとする技術者像

本校は 「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」 を、平成 5 年度から教育目標として掲げてきました。平成 14 年度にはその内容をさらに具体化し、次に示す 6 つの学習・教育目標にまとめました。

- (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために
  - (A 1) 複合分野の基礎となる基本的教養を身につけること
  - (A 2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
- (B) 「実践力のある」技術者をめざすために
  - (B 1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
  - (B 2) 自主性と自立性を養うこと
- (C) 「開発型」技術者をめざすために
  - (C 1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
  - (C 2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

本校では、この学習・教育目標の実現をめざして教育を行い、次のような技術者を育てようとしています。

「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」

これは、本校で養成しようとする本科と専攻科に共通した技術者像で、平成 14 年度に定めたものです。

一方、本科と専攻科では修業年限が異なりますので、めざす技術者像や到達目標は自ずと異なってきます。本科卒業生と専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標を次に示します。

- 本科卒業生のめざす技術者像と到達目標
  - 「自らの業務における技術的課題を解決できる技術者」
  - 実地経験と具体的な業務に応じた学習により、専門分野の課題に対応できる基本的な素養をもつこと
- 専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標
  - 「自らの専門分野に関連する技術的課題に幅広く対応できる技術者」
  - 技術者の行う諸活動（研究，技術指導，起業など）に必要な基本的素養をもつこと

出典：学生便覧

資料 1-2-①-2 養成しようとする技術者像，各学科／専攻で修得する技術

目 次

1. はじめに
2. 学習・教育目標／JABEEプログラム／JABEE基準1（1）
3. カリキュラム系統図
  - ・一般科目
  - ・機械電気工学科／機械制御工学専攻
  - ・数学系統図と講義内容／物理系統図と講義内容
4. 学科の概要／資格への道しるべ
5. 「設計情報工学」プログラム修了要件
6. 学習・教育目標とJABEE基準1（1）及び開設科目の対応
7. プログラム修了要件確認表
8. シラバスの解説
9. 授業時数と授業時間のパターン
10. 年間行事予定表
11. HR実施計画表（共通内容）
12. 推薦図書

一 般 科 目

第1学年	1
第2学年	25
第3学年	59
第4学年	87
第5学年	117

機 械 電 気 工 学 科

第1学年	131
第2学年	139
第3学年	147
第4学年	163
第5学年	185

機 械 制 御 工 学 専 攻

教養科目	211
専門基礎科目	221
専門科目	230

出典：シラバス

資料 1 - 2 - ① - 3 養成しようとする技術者像, 各学科/専攻で修得する技術

■徳山高専の学習・教育目標■

**世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成**

- (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために
  - (A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
    - イ) 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
  - (A 2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
    - ロ) 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
    - ハ) TOEICにおいて400以上のスコアを取得する
- (B) 「実践力のある」技術者をめざすために
  - (B 1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
    - ニ) 情報関連・実験の科目を修得する
    - ホ) 情報関連等外部資格を取得する
  - (B 2) 自主性と自立性を養うこと
    - ヘ) 卒業研究の科目を修得する
- (C) 「開発型」技術者をめざすために
  - (C 1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
    - ト) メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
  - (C 2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
    - チ) インターンシップ及び特別研究の科目を修得する
    - リ) 国内外の学協会で発表を行う

出典：専攻科履修要覧

資料 1 - 2 - ① - 4 専攻科学生募集要項 (目的部分)

**入 学 案 内**

1. 専攻科の目的

徳山高専専攻科(平成7年4月1日設置)では、高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた卒業生に対して、さらに専門的な分野について精深かつより実践的な教授並びに研究指導を行っています。それらを通して深い専門的知識と表現力をはじめとする幅広い素養を身につけ、自ら課題を把握・分析し、解決の道を探ることができる感性並びに創造性豊かな人材を育てることをめざしています。

2. 学習・教育目標

「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

- (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために
  - (A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
    - イ) 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
    - ロ) 学士を取得する
  - (A 2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
    - ハ) 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
    - ニ) TOEICにおいて400以上のスコアを取得する
- (B) 「実践力のある」技術者をめざすために
  - (B 1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
    - ホ) 情報関連・実験の科目を修得する
    - ヘ) 情報関連等外部資格を取得する

出典：専攻科学生募集要項

資料 1 - 2 - ① - 5 目的の周知

報告事項

(1) 学習・教育目標等について

教務主事から、平成 18 年度学校要覧により、学習・教育目標、具体的到達目標等について詳細な説明があり、教員へはメールによる通知後、各学科主任から学科会議において周知徹底し、学生に対してはクラス担任を通じて説明していただきたい旨の依頼があった。

出典：運営委員会 6 / 13 議事録

資料 1 - 2 - ① - 6 新任者研修プログラム

平成 17 年度新規採用等教職員オリエンテーション実施要項

1. 目的 独立行政法人国立高等専門学校機構徳山工業高等専門学校の教職員として必要な心構えを自覚させるとともに、業務遂行上の基礎知識及び認識すべき事項等を周知・理解させることを目的とする。
2. 期 日 平成 17 年 4 月 1 日（金）～8 日（金）
3. 場 所 小会議室（管理棟 1 階）
4. 対象者 平成 16 年 12 月 1 日以降に採用（転入者を含む）された教職員
5. 講 師 校長及び運営委員会委員等
6. 日 程 別紙日程表のとおり

出典：庶務課人事係文書

## 資料 1-2-①-7 新入学生オリエンテーション実施要領

## 平成18年度新入生オリエンテーション

日 時 : 平成18年4月5日(水), 6日(木)

場 所 : メディアホール

4月 5日(水)

(1) 1年生合宿研修説明会 11:40 ~ 12:40 (60分)  
(学生主事)

(クラスHR終了後) 説明会終了後帰宅

4月 6日(木)

(1) 教 務 主 事 8:40 ~ 9:30 (50分) 1時限  
(森野数博) (休憩10分)9:40 ~ 10:30 (50分) 2時限  
(休憩10分)(2) 学 生 主 事 10:40 ~ 11:30 (50分) 3時限  
(上 俊二) (休憩10分)(3) 情報処理センター長 11:40 ~ 12:00 (20分) 4時限  
(義永常宏)(4) 一般科目主任 12:00 ~ 12:30 (30分)  
(原田幸雄) (休憩45分)(5) 学生相談室長 13:15 ~ 14:05 (50分) 5時限  
(櫻本, 国重, 原田徳, 日南住, 松尾) (休憩10分)(6) 寮 務 主 事 14:15 ~ 14:40 (25分) 6時限  
(池田信彦)(7) 図 書 館 長 14:40 ~ 15:05 (25分)  
(天内和人) (休憩10分) 各教室へ移動(8) 学科別オリエンテーション 15:15 ~ 16:05 (50分) 7時限  
担当: 各学科主任

機械電気工学科は, 1年1組の教室 (藤田重隆, 石田浩一)

情報電子工学科は, 1年2組の教室 (江口賢和, 守川和夫)

土木建築工学科は, 1年3組の教室 (工藤洋三, 古田健一)

出典: 教務係資料

資料 1-2-①-8 学年別オリエンテーション実施要領

平成 18 年度始業式(4月5日)日程表

徳山工業高等専門学校

I 合同HR(9:00~9:40)

- 場 所：第2体育館
- 出席者：本科生全員、専攻科生全員、教員全員、関係職員
  1. 校長、教務主事、学生主事、専攻科長の話
  2. 新任教員、編入生、留学生の紹介
  3. 連絡事項（本日の予定について）

II 学科HR(9:50~10:30)

- 場 所：ME/MC：第2体育館 I E/C E：メディアホール CA/E C：第1体育館
- 出席者：本科生全員、専攻科生全員、教員全員
  1. 主任の話（学科/専攻のめざすべき技術者像、当年度の目標、心構え、など）
  2. 再度、新任教員、編入生、留学生の紹介
  3. 就職状況について
  4. 教務関係や学生関係に関し、各学科の事情に合わせて内容を選び、話す

III 本科はクラスHR(10:40~11:30)

・専攻科はオリエンテーション(10:40~12:30/終了後解散)  
 (専攻科担当：専攻科長、専攻幹事、専門員(野頭) /内容は別紙参照)

- 場 所：本科/各HR 専攻科/テクノセンター多目的室
- 配布物：全員/学生便覧、シラバス、著作権について(2枚もの)、学生証  
 5年生/研究日誌 専攻科/研究日誌、専攻科履修要覧、カードキー

IV 本科1年生は合宿研修説明会(11:40~12:30/終了後解散)

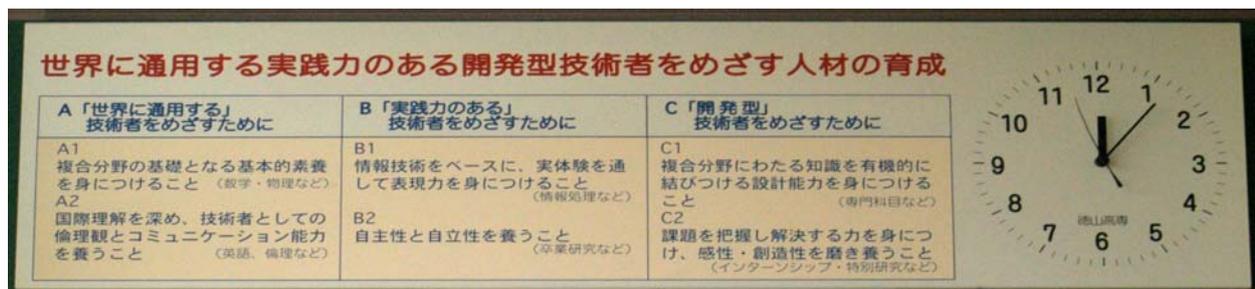
- 場 所：メディアホール ※1年生のオリエンテーションは4月6日に実施)
- 参加者：1年生、4・5年の指導学生、学生主事、学生主事補、1年担任、学生係職員

V オリエンテーション(13:15~14:45) ※教員は必ずいずれかに出席すること

- 場 所：本科2~3年/第2体育館 本科4年/合併教室 本科5年/メディアホール
- 所持品：学生便覧、シラバス、筆記具
- 0. 出席確認/クラス担任(13:15~13:25)
  1. 教育方針ならびに教務関連について(13:25~14:25)
    - 担当：2~3年/教務主事 4年/学習・教育レビュー室長 5年/進路支援室長
  2. 学生生活について(14:25~14:45)
    - 担当：2~3年/学生主事 4年/学生主事補(齊藤) 5年/学生主事補(鳥袋)

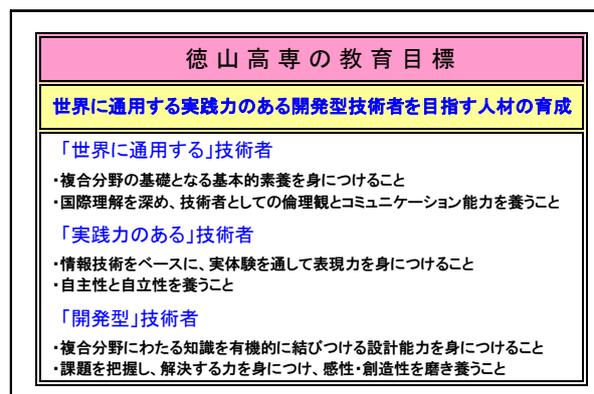
出典：教務係資料

資料 1-2-①-9 目標と時計とが一体になった本校オリジナルの各教室掲示版



出典：教務係資料

資料 1-2-①-10 裏に学習・教育目標が印刷されている顔写真入りの教職員名札



出典：教務係資料

(分析結果とその根拠理由) 周知されている。

本校が作成する多くのパンフレット類やウェブサイトにも、学習・教育目標を始めとする一連の教育目的が記載・掲載され、本校の構成員に対してさまざまな方法で周知に努めており、周知されていると認識しているが、アンケート等による確認は、いまのところ行っていない。

**観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。**

(観点に係る状況)

本校が作成する多くのパンフレット類に記載しているが、代表的なものとして、主として学外に対しては学校要覧(資料 1-1-①-1~3, 5)がある。その他、主として中学生を対象とした学校案内(資料 1-2-②-1)や準学士課程学生(資料 1-2-②-2)や編入学生(資料 1-2-②-3)、専攻科学生の各募集要項にも入学案内として記載している(資料 1-2-②-4)。

これらの情報は、すべて本校のウェブサイトにも公表されているが、そのアクセス数は毎日平均 700 件以上(最近 6 ヶ月平均実績, 資料 1-2-②-5)と増加の傾向を示しており、本校に関するさまざまな情報を通じ、本校のめざしている教育目的が広く伝わっていることが予想される。

また、高専夢広場を活用しての各種情報発信によっても広く市民に公表されている。平成 16 年度には、国立高等専門学校機構の中期目標・中期計画を踏まえ、徳山高専独自の中期計画(資料 1-2-②-6)を策定し、顧問会議(資料 1-2-②-7)及び運営委員会の審議を経て、高専夢広場において記者発表した。

資料1-2-②-1 学習・教育目標

(1) 学校案内 (目的部分)

## 学習・教育目標

# 世界に通用する実践力のある 開発型技術者をめざす人材の育成

### 本校の沿革

- 昭和49年6月7日 徳山工業高等専門学校の開校が決定した。6月15日 第1回入学式を挙げる。
- 昭和54年3月16日 第1回卒業式を挙げる。
- 平成6年 創立20周年記念式典を挙げるした。  
テクノ・リフレッシュ教育センター完成。
- 平成7年4月1日 専攻科が設置された。
- 平成9年3月17日 第1回専攻科修了式を挙げる。
- 平成11年 メディアホール完成。
- 平成16年4月 独立行政法人国立高等専門学校機構「徳山工業高等専門学校」となった。
- 平成16年5月 日本技術者教育認定機構から「設計情報工学」プログラムが、JABEE認定を受けた。
- 平成16年 創立30周年記念式典を挙げるした。

### 徳山高専の特徴

本校には、機械電気工学科、情報電子工学科、土木建築工学科の3学科があります。いずれも2つの分野にまたがる複合学科になっています。また、これらの学科の上に機械制御工学専攻、情報電子工学専攻、環境建設工学専攻の3つの専攻からなる専攻科があります。本校の特色を以下に示します。

- 国際的に通用するJABEE認定校
- 5年間または7年間の一貫教育
- 複合教育のハイオニア
- 実践、実習で実践的な技術者の育成
- 創造性豊かな開発型技術者の育成
- 混合学級を実施
- 多くの教職員による少人数教育
- 就職率ほぼ100%
- 地域社会に貢献する高専

# 機械電気工学科



実習工場での機械工作実習

## コンピュータで制御する機械を 設計開発できるエンジニアの育成

あらゆる産業分野で、機械は人間を助けて幅広く活躍しています。これらの機械の特徴は、電気駆動され、コンピュータで制御されていることです。このように、今日機械と電気・電子技術が複合したメカトロニクス技術が大変重要になっています。機械電気工学科では、このようなメカトロニクス・エンジニアの養成に最も早い段階から取り組んできた先進的な学科です。現在の日本は、創造性豊かな技術者を求めています。これらの要請に応えるために、創造性豊かなメカトロニクス・エンジニアを育てるための教育プログラムを作成し、低学年から自発性、創造性を育成し、実践を重視した教育を行っています。

出典：学校案内

(2) ウェブサイト

徳山高専の学習・教育目標

世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成



- (A)「世界に通用する」技術者をめざすために
- (A1)複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること  
イ)数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
- (A2)国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと  
ロ)国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する  
ハ)TOEICにおいて400以上のスコアを取得する
- (B)「実践力のある」技術者をめざすために
- (B1)情報技術をベースに、  
実体験を通して表現力を身につけること  
ニ)情報関連・実験の科目を修得する  
ホ)情報関連等外部資格を取得する
- (B2)自主性と自立性を養うこと  
ヘ)卒業研究の科目を修得する
- (C)「開発型」技術者をめざすために
- (C1)複合分野にわたる知識を有機的に結びつける  
設計能力を身につけること  
ト)メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
- (C2)課題を把握し解決する力を身につけ、  
感性・創造性を磨き養うこと  
チ)インターシップ及び特別研究の科目を修得する  
リ)国内外の学協会で発表を行う

養成しようとする技術者像

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、  
設計・開発を行う素養をもつ技術者

各学科/専攻において得意とする複合技術
機械電気工学科/機械制御工学専攻 「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」 (メカトロ技術)
情報電子工学科/情報電子工学専攻 「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術」 (情報電子技術)
土木建築工学科/環境建設工学専攻 「コンピュータを活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」 (社会環境整備技術)

徳山工業高等専門学校は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を、教育の目標としています。すなわち、深い専門的知識と表現力をはじめとする幅広い素養を身につけ、自らの目で課題を把握し分析し解決の道を探る感性豊かな人材を育てたいと考えています。

このような人材を育てるために、5年間一貫教育と周辺地域の企業との連携により、しっかりとした教養と専門知識を身につけさせると同時に、身につけた知識を実際に生かす方途を学生自らが体得できるよう努めています。今後さらに、国際的な活動を拡大するとともに、地域の特性に根ざした世界のオンラインをめざしたいと考えています。

出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/what\\_is/goal.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/what_is/goal.html)

## 資料 1 - 2 - ② - 2 準学士課程募集要項（目的部分）

**徳山工業高等専門学校入学案内****1. 本校の概要**

本校は、昭和49年に開校した国立の工業高等専門学校で、5年間の一貫した教育により、豊かな教養と高度の技術や実践力を身につけた技術者を育成することを目的としています。

卒業時には準学士と称することができます。また、本校をはじめとする高専専攻科への進学により「学士」の学位が得られます。

また、平成15年度から本校における「設計情報工学」プログラムが、国際的に通用する技術者教育プログラムとして、日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定されました。

JABEE 認定に関する詳細は、本校ホームページをご覧ください。

アドレス <http://www.tokuyama.ac.jp>

**2. 学習・教育目標**

「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

イ) 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

(A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

ロ) 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する

出典：学生募集要項

## 資料 1 - 2 - ② - 3 編入学生募集要項（目的部分）

**徳山工業高等専門学校編入入学案内****1. 本校の概要**

本校は、昭和49年に開校した国立の工業高等専門学校で、5年間の一貫した教育により、豊かな教養と高度の技術や実践力を身につけた技術者を育成することを目的としています。

卒業時には準学士と称することができます。また、本校をはじめとする高専専攻科への進学により「学士」の学位が得られます。

また、平成15年度から本校における「設計情報工学」プログラムが、国際的に通用する技術者教育プログラムとして、日本技術者教育認定機構（JABEE）より認定されました。

JABEE 認定に関する詳細は、本校ホームページをご覧ください。

アドレス <http://www.tokuyama.ac.jp>

**2. 学習・教育目標**

「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

イ) 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する

(A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を

出典：編入学生募集要項

資料 1 - 2 - ② - 4 専攻科生募集要項（目的部分）

## 入 学 案 内

1. 専攻科の目的

徳山高専専攻科（平成 7 年 4 月 1 日設置）では、高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた卒業者に対して、さらに専門的な分野について精深かつより実践的な教授並びに研究指導を行っています。それらを通して深い専門的知識と表現力をはじめとする幅広い素養を身につけ、自ら課題を把握・分析し、解決の道を探ることができる感性並びに創造性豊かな人材を育てることをめざしています。

2. 学習・教育目標

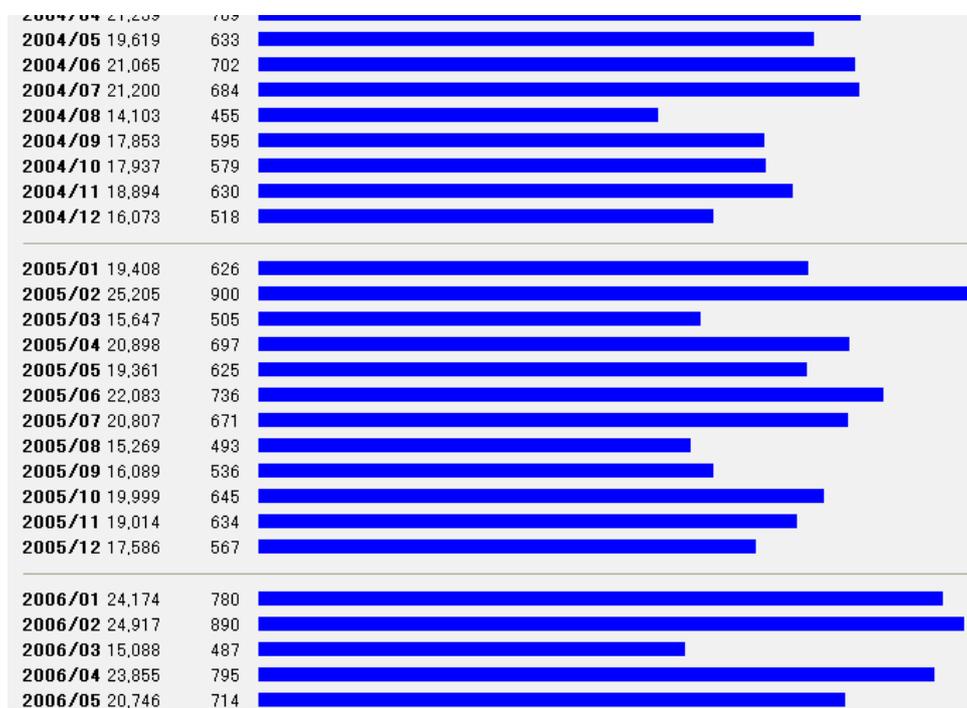
「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A 1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

出典：専攻科生募集要項

資料 1 - 2 - ② - 5 本校ウェブサイトアクセス数



出典：本校ウェブサイト

## 資料 1 - 2 - ② - 6 徳山工業高等専門学校中期計画（平成 16 年 5 月 25 日策定）（抜粋）

## 中期計画

## 教育に関する事項

## 1. 教育の成果に関しての達成すべき内容・水準（徳育，創造教育を含む）

## （1）教養教育

○実践的技術者として備えるべき人文・社会系，体育ならびに理数系を含む教養教育や外国語能力の内容・水準  
国際的に通用する日本語・英語能力，コミュニケーション能力，歴史，政治・経済，文化的素養を身につける。特に，英語能力においては，低学年のできるだけ早い時期に実用英検準 2 級（同等レベルの工業英検），高学年では，TOEIC スコア 400（同等レベルの実用英検，工業英検）の取得を目標とする。なお，学生の英語能力を飛躍的に高めるには，英語科の教員に依存するだけでなく，全学的な取り組みが必要であり，専門技術に関する英語情報の提供，専門講義における英語の利用を増やす。国際的に通用する理数能力を身につけ，技術士第 1 次試験に合格する水準を確保する。体育では，運動について科学的理解を深め，健康の増進と体力の向上を図り，生涯を通して運動を実践できる能力と態度を育てる。

## （2）専門教育

○ 実践的技術者として備えるべき内容・水準（学科ごとに記載）

本科において，技術士 1 次試験の合格水準を有する専門的知識を修得する。

## 1) 機械電気工学科

「コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術」を修得する。

国際社会においてメカトロニクス技術を駆使するための自主・自立性及び基本的素養を身につける。先端技術を教授し，また，国際協調が可能となる技術者倫理観，コミュニケーション能力を修得し，国際理解の深い技術者をめざす人材を育成する。機械設計技術者 3 級，デジタル検定 1 級・2 級及び CAD 利用技術者試験 1 級・2 級の取得をめざす。

## 2) 情報電子工学科

「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術」を修得する。

コンピュータシステムのハードウェア・ソフトウェア技術，電気電子・通信技術に関する基礎知識を学ぶとともに，情報処理システム，情報通信システム，コンピュータ応用機器システムの設計・開発技術を修得する。情報処理技術者資格，電気通信工事担任者資格などの取得をめざす。

## 3) 土木建築工学科

「コンピュータを活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術」を修得する。

土木及び建築技術の基礎理論を修得するとともに，コンピュータを活用した専門技術を身につける。同時に，地球規模から生活空間に至るまでの社会基盤整備や環境技術を修得する。国家公務員試験Ⅱ種，縣市などの地方公務員試験の合格をめざす。また，土木施工技術者や建築施工技術者などの資格を取得する。

## （3）専攻科教育

○ 高度な実践的技術者として備えるべき内容・水準

社会（企業）とともに次世代の技術者を育成するために，3 ヶ月の長期インターンシップや開発型の特別研究などを実施し，国際的に活躍できる技術及び能力の高度化を図る。具体的には，英語能力において 1 年で TOEIC スコア 450，2 年で TOEIC スコア 500 をめざす。同時に，各種技術者資格の取得，特別研究の成果を学会で発表する。これらを通じて，大学院修士課程 1 年生相当の実力を養成する。

## 1) 機械制御工学専攻

コンピュータシステム技術を基盤とした各分野でのより高度な技術を修得する。本科よりも上位の資格取得をめざし，デジタル技術検定 1 級・2 級，CAD 利用技術者試験 1 級・2 級などを取得する。同時に，全国・国際レベルでの学会発表をめざす。

## 2) 情報電子工学専攻

コンピュータシステム技術を基盤とした各分野でのより高度な技術を修得する。本科よりも上位の資格取得をめざし，情報処理技術者資格，電気通信工事担任者資格などを取得する。同時に，全国・国際レベルでの学会発表をめざす。

## 3) 環境建設工学専攻

コンピュータシステム技術を基盤とした社会基盤整備にかかわる各分野でのより高度な技術を修得する。本科よりも上位の資格取得をめざし，二級建築士，土木施工技術者，福祉住環境コーディネータなどを取得する。同時に，全国・国際レベルでの学会発表をめざす。

## 2. 教育内容・水準を達成するための教育指導等

## （1）入学者選抜

○ 独立行政法人国立高等専門学校機構にふさわしい者を選抜するための入試方法に関する具体的方策  
県内外からの優秀な入学志願者を確保するため，入学試験場の拡大，中学校への説明会の充実，推薦枠の拡大などを行う。また，学科を越えた一括入学試験と，その後の進路教育の整備を行うことを検討する。

○ 各年度の学生収容定員

本科の収容定員は 600 人とし，専攻科の収容定員は本科の入学定員の 10% 程度とする。

## (2) 教育課程, 教育方法, 成績評価等

○ 教養教育, 専門教育, 専攻科教育ごとに, IIの1に掲げた内容・水準を達成するための効果的な教育課程の編成方針の設定をはじめ, 授業形態, 学習指導方法等の改善の具体的方策

## 1) 教養教育

## (教育課程)

教養教育では, 教育目標を基本に, 個性豊かな文化を創造し, 進んで国際社会に貢献できる, 主体性のある調和のとれた人間形成を目標として, 長年の「混合学級制」の特徴を生かしながら, 人文・社会科学系領域, 数学・自然科学系領域, 外国語の3領域における均衡のとれたカリキュラムで教育を行う。

## (教育方法及び成績評価)

課題研究や選択科目の導入で主体性や個性化を図る。

マルチメディアを活用した授業を拡大するとともに, 「学習シート」などを活用した双方向の指導形態を採用する。学科の枠を越えた授業の展開を充実させるとともに, 達成度や習熟度に応じた授業クラス編成を行う。成績評価法はシラバスに明示し, その適正化, 透明性の確保を図る。

## 2) 専門教育

## (教育課程)

## ・機械電気工学科

材料技術, エネルギー技術, 情報技術を軸とし, 設計・加工技術を加えたメカトロニクス技術の基本を修得する。さらに, 創造製作・演習, インターンシップなど, 実践教育を通して知識の融合を行い, ものづくりに必要な感性を磨き, 創造性を鍛えることにより, 知識を知恵に変える。

## ・情報電子工学科

低学年では, コンピュータを核とする応用システムの基盤をなすコンピュータのハードウェアとソフトウェア両面の技術と電気電子・通信技術の基礎, 及びそれらの技術を支える数理的基礎を系統的に習得する。高学年では, より高度なコンピュータシステム技術の修得, さらにコンピュータを核とする応用システムの設計・開発に関連する専門技術を修得する。そのため, 各科目に関連した実験・実習を多く取り入れ, また総合的応用力を養う総合科目, 総合実験を開設する。

目標達成型の集団教育システムである「プロジェクト・ベースド・ラーニング」や実験・実習をリンクした授業形態を確立する。「理解させる」指導方法の確立として, コンピュータのハードウェアとソフトウェア教育の一体化, 教育用コンピュータによる情報技術教育の導入, ハードウェアとソフトウェアを統合したコンピュータシステム実験の導入, コンピュータシステム関連テキストの編集・出版, 実験指導の充実(一斉テーマの導入, インタビューによる個別指導), 能力別指導体制の確立(チームティーチング), 科目内容検討会の制度化, 資格試験補講と実力テストの実施などを行う。

## ・土木建築工学科

構造力学, 土質力学, 水理学などの力学基礎の修得を基本とし, 4年生からは, 土木系と建築系のコースに分かれて多様な選択科目を学ぶことによって, 専門知識の修得に努める。

集中測量合宿など実践的な実験実習を重視する。学生の自発性を基礎とした「創造演習」や建築模型づくりなど土木建築に関するものづくり教育を通じて, 実践的技術を修得する。

## (教育方法及び成績評価)

学生の主体的な参加を可能とする授業の確立, ミニ実験を多用する体験型学習の実践を行う。学習指導方法としては, 学生の理解度, 到達度を踏まえた「学習シート」を活用した指導法を確立する。成績評価法はシラバスに明示し, その適正化, 透明性の確保を図る。

## 3) 専攻科教育

## (教育課程)

## ・機械制御工学専攻

機械工学系及び計測制御工学系に共通する自然科学, 英語講読, 実験, 演習及び特別研究を必修とし, さらに専門性を高めるため各系に対応した選択科目を開設し, 時代に対応しうる機械設計技術あるいはメカトロニクス技術を修得する。これらを通して, より高度な機能と知能を有する機械・機器を開発しうる能力を有する実践力のある開発型技術者をめざす。

## ・情報電子工学専攻

本科で修得した知識・技術をもとに, コンピュータ技術, 電気電子・通信技術の基礎となる数理科学系の科目に加え, 英語講読, 実験, 演習及び特別研究などの実践教育に重点をおくことにより, 自ら新分野を開拓できる研究開発能力を養う。また, 高度化する情報化社会に対応するために, コンピュータを核とする情報処理システム, 通信システム, コンピュータ応用機器システムなどの融合システムに関連する選択科目を開設し, これらを通して実践的総合情報システムの設計開発能力を有する技術者をめざす。

## ・環境建設工学専攻

建設工学系に共通する自然科学, 英語講読, 実験, 演習及び特別研究を必修とする。さらに, 優れた専門性を身につけるために, 幅広い選択科目を開設し, 高度化する情報化社会, 地球環境時代に対応しうる建設技術を修得する。これらを通して, 自ら新分野を開拓できる能力を有する実践力のある開発型技術者をめざす。

## (教育方法及び成績評価)

専攻科生の主体性を重視した双方向型の授業を行う。その際, 専攻科生の自主的な学習や調査研究を柱とした自発

性を引き出す指導法を強化する。また、開発型教育の柱として、現実の問題解決や課題を探究するテーマの選択や考察を深めさせ、実践力を養成する。さらに学習成果については、プレゼンテーションで発表する方式を採用する。成績評価については、シラバスに明記する。

出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/what\\_is/aim\\_plan.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/what_is/aim_plan.html)

#### 資料 1 - 2 - ② - 7 顧問会議（目的部分の承認）

平成 16 年度第 1 回顧問会議日程表

日 時 平成 16 年 5 月 19 日（水） 14:00～16:30

場 所 徳山工業高等専門学校 メディアホール

開 会 ・ 司 会：事務部長

議 事

- 14:00 学校紹介DVD上映
- 14:15 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標及び中期計画について【資料 1】 校 長
- 14:25 徳山工業高等専門学校の中期計画（案）について 【資料 2】 総合企画室長
- 14:50 J A B E E 技術者教育プログラムの認定について 【資料 3】 教務主事
- 14:55 高等専門学校機関別認証評価（試行的評価）の受審について 【資料 4】 自己評価委員長
- 15:05 学習・教育レビュー室について 【資料 5】 学習・教育レビュー室長
- 15:15 ～ 15:25 《休憩》 校長室
- 15:30 意見交換（パネルディスカッション）※顧問及び本校関係者の紹介 司 会 総合企画室長
- 16:25 閉会挨拶 16:30 《終了》

出典：庶務課資料

（分析結果とその根拠理由） 公表されている。

目的は、本校のさまざまな情報発信手段を通して広く公表されている。本校独自の中期計画も各種広報媒体や報道機関を通じ、広く紹介されている。顧問会議においても、教育理念や中期計画などについての審議を行い、肯定的な評価を受けた。

#### （2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

- ・学習・教育目標、養成しようとする技術者像、各学科／専攻で修得する技術や準学士課程卒業時と専攻科課程修了時の具体的到達目標など、めざしている教育方針が明確で具体性があり、それらの間に整合性がとれている。また、学校内外に対して、意識的に発信されている。

（改善を要する点）

該当なし

#### （3）基準 1 の自己評価の概要

本校は、学則第 1 章第 1 条において、その目的を明文化している。平成 5 年度以来掲げてきた教育目標を、引き続き本校の学習・教育目標とするにふさわしいと確認し、そのねらいをより明確にするため、最終的には平成 14 年度にこれを教育理念とし、それに基づく 6 つの目標を設定した。そのめざすべきところは、情報技術をもとに、それぞれが得意とする複合分野で具体的なモノを設計・開発できる能力を養うことにある。これらは本校の伝統や実績ならびに社会の要求等を考慮しており、外部の客観的な評価も可能な具体性のあるものとなっている。すなわち「世界に通用する」「実践力のある」「開発型」という 3 つの理念がそれぞれ 2 つに具体化され、それを達成するために、開設され

るすべての科目との関連がシラバス等で明示されている。また、これらは J A B E E 基準にも対応している。

また、平成 16 年 4 月の独立行政法人化に伴い、国立高等専門学校機構の中期目標、中期計画を踏まえ、徳山高専独自の中期計画を策定し、顧問会議および運営委員会の審議を経て、公表した。このなかには、本校の使命、教育理念、教育目的、教育目標および学科等ごとの教育目標はすべて明確に定めてある、さらに、平成 17 年度には、準学士課程および専攻科課程での目標のさらなる明確化に取り組み、教育目標、養成しようとする技術者像および具体的到達目標の相互関係を明らかにした。

これらの教育理念および教育目的は学校要覧やウェブサイト等によって公開され、本校教職員や学生、社会一般に対して周知されている。

## 基準 2 教育組織（実施体制）

## （1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程における学科は学則に定められており、機械電気工学科、情報電子工学科、土木建築工学科の3つの複合学科で構成されている（資料 2-1-①-1）。

機械電気工学科は「コンピュータで制御する機械を設計・製作するメカトロ技術」の修得をめざしており、それを実現するため、材料・エネルギー・情報・設計加工の4つの分野に実験・実習ならびに創造性を養う科目でカリキュラムを構成している（資料 1-1-①-5、資料 2-1-①-2）。

情報電子工学科は「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する情報電子技術」の修得をめざしており、それを実現するため、ソフトとハードのコンピュータ教育をベースに、情報処理システム・コンピュータ応用機器システム・情報通信システムの3つの分野に実験・実習ならびに創造性を養う科目でカリキュラムを構成している（資料 1-1-①-5、資料 2-1-①-2）。

土木建築工学科は「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する社会環境整備技術」の修得をめざしており、それを実現するため、都市交通系・防災系・環境系・建築系の4つの分野に実験・実習ならびに創造性を養う科目でカリキュラムを構成している（資料 1-1-①-5、資料 2-1-①-2）。

本校で養成しようとする技術者像は、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」であり、学科の構成は、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

## 資料 2-1-①-1 学科の構成

第3章 学科、学級数、入学定員及び職員組織  
（入学定員及び学級編制）

第7条 学科、学級数、入学定員及び学級編制は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機械電気工学科	1	40人
情報電子工学科	1	40人
土木建築工学科	1	40人

出典：本校学則

資料 2-1-①-2 授業科目系統図

教養科目カリキュラム系統図

		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年	
							前期	後期	前期	後期
複合分野の基礎となる 基本的素養	数学	数学ⅠA 数学ⅠB	数学ⅡA 数学ⅡB	数学ⅢA 数学ⅢB	微分積分学 ベクトル解析 フーリエ変換	微分方程式 線形代数 確率・統計	関数論 数値計算 応用数学 数値解析 統計学		工学解析 応用統計学	Engineering Mathematics 離散数学
	自然科学	科学基礎 化学Ⅰ 保健	基礎物理Ⅰ 化学Ⅱ 化学Ⅲ	基礎物理Ⅱ	力学 電磁気学 物理化学 生物学	一般物理	◎物理科学 ◎一般化学 ◎生命科学			
	基礎工学				自然科学特講 健康科学	環境リサイクル論 社会情報システム 環境衛生工学			経営工学 環境設計論	
国際理解を深め、 技術者としての 倫理観とコミュニケーション能力を養う	地球観と倫理観を深める能力	歴史 地理	歴史 倫理	政治・経済	世界思想史 世界経済	特別講義 環境科学	◎国際比較文化論			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     必修科目                      選択科目                      総合科目                      ◎学習・教育目標達成度評価の主要な科目                 </div>
	技術者倫理					技術者倫理 西洋史 心理学	◎技術者の倫理			
	発表、コミュニケーション能力	国語総合Ⅰ 基礎英語 英会話	国語総合Ⅱ 総合英語Ⅰ 英会話	国語総合Ⅱ 総合英語Ⅱ 英会話	日本語コミ 英語特別演習 人文社会特講 中国文学 ドイツ語 中国語	言語学概論 総合英語演習Ⅰ 英語特別演習 工業英語Ⅱ 英語特講 ドイツ語 中国語	◎日本語表現法 ◎科学英語表現法 専攻英語講義		総合英語 英会話	
総合	体育	体育	体育	体育	体育					
能力	課題解決能力		芸術							

- A1: 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
- B1: 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
- C1: 複合分野わたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
- A2: 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
- B2: 自主性と自立性を養うこと
- C2: 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

メカトロ技術(機械電気工学科/機械制御工学専攻)カリキュラム系統図

		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年	
							前期	後期	前期	後期
複合分野の設計能力	総合	技術発達史論							回路応用設計	
	情報系	電気の基礎		電気回路Ⅰ 電子回路Ⅰ アクチュエータ	電気回路Ⅱ 電子回路Ⅱ (電磁気学) 制御工学Ⅰ	知能情報工学 計測工学 制御工学Ⅱ 数値計算 計算力学			応用計測工学 システム制御工学	ロボット制御工学 システム設計工学
	材料系			材料学Ⅰ 材料力学Ⅰ	材料学Ⅱ 材料力学Ⅱ	機能材料 弾塑性論		弾性力学	材料強度学	材料設計工学
	エネルギー系	機械の基礎		水力学Ⅰ	水力学Ⅱ	流体力学 ターボ機械		流体制御工学	熱流体工学 環境設計論	
	設計・加工系		加工学	機械学 工業力学	機械力学Ⅰ 機械設計論Ⅰ	機械力学Ⅱ 機械設計論Ⅱ			生体機械力学 自動加工学	CAE
	実験・演習	基礎設計製図Ⅰ 工作実習Ⅰ	基礎設計製図Ⅱ 工作実習Ⅱ 創造製作Ⅰ	設計製図Ⅰ コンピュータ制御 工学実験Ⅰ	設計製図Ⅱ 創造製作Ⅱ 工学実験Ⅱ			コンピュータ総合演習 ◎機械制御工学専攻総合実験		◎機械制御工学専攻総合演習
課題の把握と解決能力		創造演習Ⅰ		創造演習Ⅱ		産業財産権 ベンチャービジネス論	産業論 ◎インターンシップ	経営管理		
			総合実地演習		校外実習Ⅰ 校外実習Ⅱ 工学セミナー	◎卒業研究				◎特別研究

- A1: 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
- B1: 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
- C1: 複合分野わたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
- A2: 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
- B2: 自主性と自立性を養うこと
- C2: 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

情報電子技術(情報電子工学科/情報電子工学専攻)カリキュラム系統図

		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年	
							前期	後期	前期	後期
複 合 分 野 の 設 計 能 力	情報処理 システム系	基礎プログラミング コンピュータの基礎知識 コンピュータの基礎知識 基礎コンピュータ工学	データ構造の基礎 プログラミング コンピュータ工学	アルゴリズムとデータ構造 システムプログラミング コンピュータシステム概論	データベース ソフトウェア工学 システムプログラミング オペレーティングシステムⅠ ネットワークアーキテクチャⅠ	図形処理 言語処理 知的情報処理 オブジェクト指向プログラミング システム概理工学 オペレーティングシステムⅡ ネットワークアーキテクチャⅡ		生体情報工学 オートマタと計算論	総論工学 知識データベース 自然言語処理 コンピュータ構成学	
	コンピュータ 応用機器 システム系	基礎電気回路	電気回路 複素数・ベクトル 電子工学概論	デジタル回路 アナログ回路 計測工学	コンピュータアーキテクチャ デジタル回路応用 (電磁気学)	マイコン応用 集積回路設計 制御工学 画像工学		論理設計 システム計測工学	デジタル制御 画像処理応用 電子材料工学	ロボット制御工学
	情報通信 システム系				情報通信工学 情報理論 フーリエ・ラプラス変換	データ通信 デジタル信号処理			コンピュータネットワークプロトコル 通信ネットワーク工学	光情報処理
	総合 実験・演習			電子工学実験	コンピュータシステム実験 創造演習	電子通信システム実験 情報システム実験		◎情報電子工学 総合実験	◎情報電子工学 総合演習	
課題の把握と 解決能力					校外実習1 校外実習2 工学セミナー	卒業研究	卒業論 ◎インターンシップ	終業管理		◎特別研究
									必修科目 選択科目 総合科目 ◎学習・教育目標達成度評価の 主要な科目	

- A1: 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
- B1: 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
- C1: 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
- A2: 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
- B2: 自主性と自立性を養うこと
- C2: 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

社会環境整備技術(土木建築工学科/環境建設工学専攻)カリキュラム系統図

		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年	
							前期	後期	前期	後期
複 合 分 野 の 設 計 能 力	都市・交通系	建設材料	構造力学基礎	構造力学基礎	構造力学 * 鋼構造Ⅰ 鉄筋コンクリート工学	応用力学基礎 * 鋼構造Ⅱ 建設先端材料 PCコンクリート工学 * 橋杭基礎 工学概論		応用力学	連続体力学 振動工学 鉄筋コンクリート構造学	計算法学
	防災系			土質工学基礎	地盤工学 * 土質 土工法 * 道路工学 * 土木法	* 水害学 基礎 構造学 * 土木法			土質力学 耐震基礎 構造学 * リニア トンネル シミュレーション学	
	環境系			水理学基礎	* 水理学 * 道路工学	* 河川工学 * 環境衛生工学		水理科学	応用水理学 環境システム 工学	
	建築系			建築概論 建築一般 構造	都市計画 建築概論Ⅰ 建築概論Ⅱ * 建築概論 演習Ⅰ * 建築概論 演習Ⅱ * 建築概論 演習Ⅲ * 建築概論 演習Ⅳ * 建築法 * 建築法 * 建築法 * 建築法	* 建築計画 * 建築概論 演習Ⅰ * 建築概論 演習Ⅱ * 建築概論 演習Ⅲ * 建築概論 演習Ⅳ * 建築法 * 建築法 * 建築法 * 建築法		建築計画学	都市環境 計画学	
課題の把握と 解決能力	情報処理	工学デザイン基礎Ⅰ 測量学	情報処理 工学デザイン基礎Ⅱ 測量学 測量実習	情報処理 工学デザイン基礎Ⅲ 基礎工学実験 測量実習	工学デザインⅠ 工学実験Ⅰ CAD基礎 CAD応用	工学デザインⅡ 工学実験Ⅱ 応用プロ グラミング		建設プロ グラミング ◎環境建設工学 総合実験	◎環境建設工学 総合演習	◎特別研究
		創造演習	創造演習	集中測量実習 創造演習	測量学 キャリアガイダンス 校外実習1 校外実習2	測量学特論 建設マネジメント * 特別演習 ◎卒業研究	卒業論 ◎インターン シップ	終業管理	◎特別研究	必修科目 選択科目 総合科目 * 選択必修科目 ◎学習・教育目標 達成度評価の 主要な科目

- A1: 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
- B1: 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
- C1: 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
- A2: 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
- B2: 自主性と自立性を養うこと
- C2: 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

出典：シラバス，本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/syllabus/syllabus.html>

## 資料 2-1-①-3 平成 14 年度企業アンケート調査結果

平成 14 年度  
専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

平成 15 年 3 月 27 日

徳山工業高等専門学校  
技術者教育認定対策会議第 5 小委員会

## まえがき

徳山高専は、間もなく創立 30 周年を迎えます。その 30 年の昔、時代はまだ高度成長のただ中にあり、本校発足の前年に筑波大学が新構想大学の看板のもとに発足し、その他にも、医科大学や教育大学、そして、長岡・豊橋の両技術科学大学の構想も着実に実現してゆく、そんな渦中に、本徳山高専と八代高専が、当時としては斬新とも言われた“複合学科”を看板に開校しました。廃校となった小学校の仮校舎からのスタートは、今となっては懐かしい思い出となりましたが、教職員も学生も移り行く時代の流れのなかで必死にがんばってきた姿は、今年も、入学者選抜試験の倍率が全国トップであることに現れているのかもしれない。

しかし、時代が高度成長期から経済の低迷期に移り、また、グローバルスタンダードが一般的になってきた今日、徳山高専のあるべき姿、社会が徳山高専に求めるニーズは、当然これまでとは異なるであろうことは容易に予想されるところ

出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/survey2003/index.html>

(分析結果とその根拠理由) 適切なものになっている。

産業技術が高度かつ複雑になり、あらゆる分野で複合化や融合化が進んでいることを背景に、本校では、昭和 49 年、時代を先取りし、我が国の国立高専・大学で最初の複合学科制を採用した。

平成 14 年度に実施した企業（165 社）のアンケート調査結果（資料 2-1-①-3）によれば、本校の学習・教育目標のうち(A1)、(B2)、(C2)について、3分の1以上の企業が特に重要と考えている。また、準学士課程卒業生に対するアンケート結果では、専門科目教育、卒業研究、情報処理関連教育に対する満足度が高い。本校の学習・教育目標に関して、企業からみた卒業生の達成度は(C2)、(B2)において高いと評価されており、学生の満足度や自己評価結果と同じ傾向を示している。これらの項目は企業の要求とも合致しており、本校の学習・教育目標が社会の要求も考慮したものになっていることを裏づけている。本校で行っている複合教育については、本校から学生を採用している企業の90%が適切と評価している。複合技術を身につけた人材を社会が求めていることは、本校が複合教育を始めて以来、全国の高等教育機関においてさまざまな複合学科が着実に増え続けていることでも明らかである。また、本校の卒業生に対する仕事の満足度（勤務成績）について、およそ60%の企業が満足していると回答している。なお、本校に対する求人倍率は5倍以上あり、就職希望者の就職率は100%である。また、入学志願者については、少子化の影響はあるものの、3倍を越える倍率を維持している。これらのことは、本校準学士課程で行ってきた複合教育が社会の要請に応えていることを裏付けている証左であるといえよう。

**観点2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

(観点に係る状況)

本校の専攻科課程における専攻は学則に定められており、機械制御工学専攻、情報電子工学専攻、環境建設工学専攻の3つの複合分野で構成されている(資料2-1-②-1)。

機械制御工学専攻は「コンピュータで制御する機械を設計・開発するメカトロ技術」の修得をめざしており、それを実現するため、材料・エネルギー・情報・設計加工の4つの分野に総合的な実験や演習ならびに長期インターンシップや特別研究などの科目でカリキュラムを構成している(資料1-1-①-5、資料2-1-①-2)。

情報電子工学専攻は「コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する情報電子技術」の修得をめざしており、それを実現するため、ソフトとハードのコンピュータ教育をベースに、情報処理システム・コンピュータ応用機器システム・情報通信システムの3つの分野に総合的な実験や演習ならびに長期インターンシップや特別研究などの科目でカリキュラムを構成している(資料1-1-①-5、資料2-1-①-2)。

環境建設工学専攻は「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する社会環境整備技術」の修得をめざしており、それを実現するため、都市交通系・防災系・環境系・建築系の4つの分野に総合的な実験や演習ならびに長期インターンシップや特別研究などの科目でカリキュラムを構成している(資料1-1-①-5、資料2-1-①-2)。

本校で養成しようとする技術者像は、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」であり、本校ではそれぞれの複合技術に関して学科と専攻が1:1に対応して設置されており、準学士課程で培った複合技術をそのまま継承発展させることができる体制となっていることから、専攻科の構成は、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

資料2-1-②-1 専攻科課程における専攻の構成

第6章 専攻科

(設置)

第29条 本校に専攻科を置く。

(目的)

第30条 専攻科は、工業高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた技術者に対し、さらに専門的な分野について精深な教授を行い、自ら新分野を開拓できる能力を有する実践力のある開発型技術者を養成することを目的とする。

(修業年限及び在学期間)

第31条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

(専攻及び入学定員)

第32条 専攻科の専攻及び入学定員は次のとおりとする。

専攻	入学定員
機械制御工学専攻	4名
情報電子工学専攻	4名
環境建設工学専攻	4名

出典：本校学則

(分析結果とその根拠理由) 適切なものになっている。

観点2-1-①で述べたように、平成14年度に実施した企業(165社)のアンケート調査結果(資料2-1-①-3)によれば、本校の学習・教育目標のうち、(A1)、(B2)、(C2)について、3分の1以上の企業が特に重要と考えている。また、専攻科修了生に対するアンケート結果では、専門科目教育、特別研究・卒業研究、情報処理関連教育に対する満足度が高い。本校の学習・教育目標に関して、企業からみた卒業生や修了生の達成度は(C2)、(B2)において高いと評価されており、学生の満足度や自己評価結果と同じ傾向を示している。これらの項目は企業の要求とも合致しており、本校の学習・教育目標が社会の要求も考慮したものになっていることを裏づけている。本校で行っている複合教育については、本校から学生を採用している企業の90%が適切と評価している。専攻でいくぶん差はあるが、修了生の60%程度の者が、本校の複合教育が就職して役立ったと回答している。この傾向は最終学歴が上がるほど顕著であり、大学院後期課程進学者では、85%の者にとって有益だったことがわかる。また、本校の卒業生・修了生に対する仕事の満足度(勤務成績)について、およそ60%の企業が満足していると回答している。これらのことは、本校専攻科で行ってきた複合教育が社会の要請に答えていることを裏付けている証左であるといえよう。

**観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。**

(観点到に係る状況)

全学的なセンターとして、情報処理センター、教育研究支援センターおよびテクノ・リフレッシュ教育センターが設置されている。

情報処理センター(資料2-1-③-1)は、全学生にアカウントを発行し、情報処理教育のために学生が自由に利用できるネットワーク端末を用意するなど、本校教育の基幹をなす情報処理技術の教育環境を提供している(資料2-1-③-2)。また、学内LANの充実や情報セキュリティの確保、各種ソフトウェアの開発などにより、全学的に利用しやすい情報管理システムの構築も行っており、情報処理教育環境の整備にも力を注いでいる。

教育研究支援センター(資料2-1-③-3)は、工作実習や工学実験、創造演習や創造製作、ロボコンや各種コンテスト、あるいは卒業研究や特別研究に欠かせない実験装置の製作など、本校教育の基幹をなす実践教育を支援しており、そのことを通して学生の技術レベルの向上や自主性を育てることに貢献している(資料2-1-③-4)。

テクノ・リフレッシュ教育センター(資料A-1-①-1)は、地域企業との共同研究や地域社会への学習支援などを行っているが、このセンターは、さらに徳山高専テクノ・アカデミア(地元企業の本校への支援組織)(資料A-1-①-3)とも協調し、各種講習会や研究会、共同研究企画などの推進を図っている。このテクノ・アカデミア事業において、学生は実践的な内容をもつ人材養成講座や技術研修会に参加することができ(資料2-1-③-5)、テクノ・リフレッシュ教育センターはそれを支援する役割を果たしている。

資料 2-1-③-1 情報処理センター規則 (抜粋)

徳山工業高等専門学校情報処理センター規則

(設置)

第1条 徳山工業高等専門学校における電子計算機による情報処理を推進することを 目的として、徳山工業高等専門学校情報処理センター (以下「センター」という。) を置く。

(業務)

第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 情報処理教育の充実
- (2) センターの管理運営
- (3) 校内ネットワークの管理運営
- (4) センターの予算の執行
- (5) その他必要な事項

(センター運営会議)

第3条 センターの運営を円滑に行うため、センター運営会議を置き、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 情報処理教育に関する基本的事項に関すること
- (2) センターの管理運営に関する基本的事項に関すること
- (3) 校内ネットワークと関連機器の管理運用に関すること
- (4) センターの予算に関すること
- (5) その他必要な事項

出典：本校規則集

資料 2-1-③-2 情報処理センターパソコン室の利用状況 (授業)

情報処理センター パソコン室の利用状況 (授業)

2006年度 前期

第1パソコン室 前期						第2パソコン室 前期					
月	MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	月	MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI
1	情報処理 CA3 渡辺・鳥袋		Engineering Mathematics 専攻科2 飛車	アーリ互換 ME4 飛車	応用プログラ ミング CA5 原			コンピュータ システム概論 IE3 守川	データ構造の 基礎 IE2 神田		
2											
3	工学デザイン I CA4 能野	工学実験 I CA4 木村・原・佐 賀・渡辺・ 佐々木・能野	工学デザイン 基礎 II CA2 原	技術者倫理 ME5 森野	確率・統計 ME5 飛車		コンピュータ の基礎知識 IE1 杉村・新田			音楽 本科2 古川	
4											
5	創造制作 I ME2 藤本・櫻本・ 兼重・逆瀬川		情報処理 CA1 田村・桑嶋	工学デザイン II CA5 原・古田	コンピュータ 制御 ME3 伊藤・石田・ 藤本・森崎		プログラミング IE2 江口	基礎プログラ ミング IE1 奥本・原田耕	創造演習 CA2 藤原・木村・ 鳥袋		
6											
7			工学実験 II CA5 木村・工藤・ 佐賀・能野・ 古田・渡辺・ 佐々木					CAD基礎 CA4 原・古田	基礎プログラ ミング IE1 奥本・原田耕		
8											

出典：情報処理センター資料

資料 2-1-③-3 教育研究支援センター規則 (抜粋)

徳山工業高等専門学校における技術職員の組織に関する規則

(目的)

第1条 この規則は、徳山工業高等専門学校 (以下「本校」という。) における技術専門員、技術専門職員及び技術職員 (以下「技術職員等」という。) の技術に関する専門的業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その能力、資質等の向上を図り、優れた人材を確保するため、技術職員等の組織に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(センター等)

第 2 条 前条の目的を達成するため、本校に「教育研究支援センター」（以下「センター」という。）を設置する。

2 センターは、第一技術室（機械工作部門）、第二技術室（計測制御部門）及び第三技術室（ネットワーク部門）の 3 室で構成する。

3 センターにおいては、技術職員等の勤務部署との連絡を緊密に図り、技術職員等の研修、実験・実習室及び工場の設備及び備品の維持管理並びに地域社会との連携及び技術協力を行うとともに、各室においては、次表に掲げる業務を行う。

区 分	業 務 内 容
第一技術室 (機械工作部門)	機械工作・設計技術及びメカトロニクスに関する業務
第二技術室 (計測制御部門)	土木計測技術及び情報制御技術に関する業務
第三技術室 (ネットワーク部門)	ネットワーク運用技術及びネットワーク設計に関する業務

(センター長)

第 3 条 センターにセンター長を置き、テクノ・リフレッシュ教育センター長をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を統括する。

(技術長等)

第 4 条 センターに、次の各号に掲げる職員を置き、本校の技術職員等の中から校長が任命する。

- (1) 技術長
- (2) 技術室長
- (3) 技術室員

2 技術長は、センター長を補佐し、各技術室の業務を統括するとともに技術室長及び技術室員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。

3 技術室長は、技術室の業務を整理するとともに技術室員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。

4 技術室員は、技術業務を行う。

(事務)

第 5 条 技術職員等の組織に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 6 条 この規則に定めるもののほか、技術職員等の組織に関し必要な事項は、別に定める。

出典：徳山工業高等専門学校における技術職員の組織に関する規則

### 資料 2 - 1 - ③ - 4 実習工場の利用状況（加工依頼，工作機械利用状況）

#### 実習工場利用状況

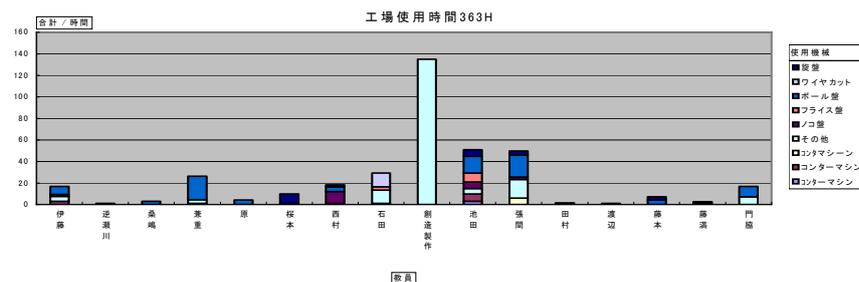
村上洋士、西山芳明、中村金良、石川善丈、板谷年也

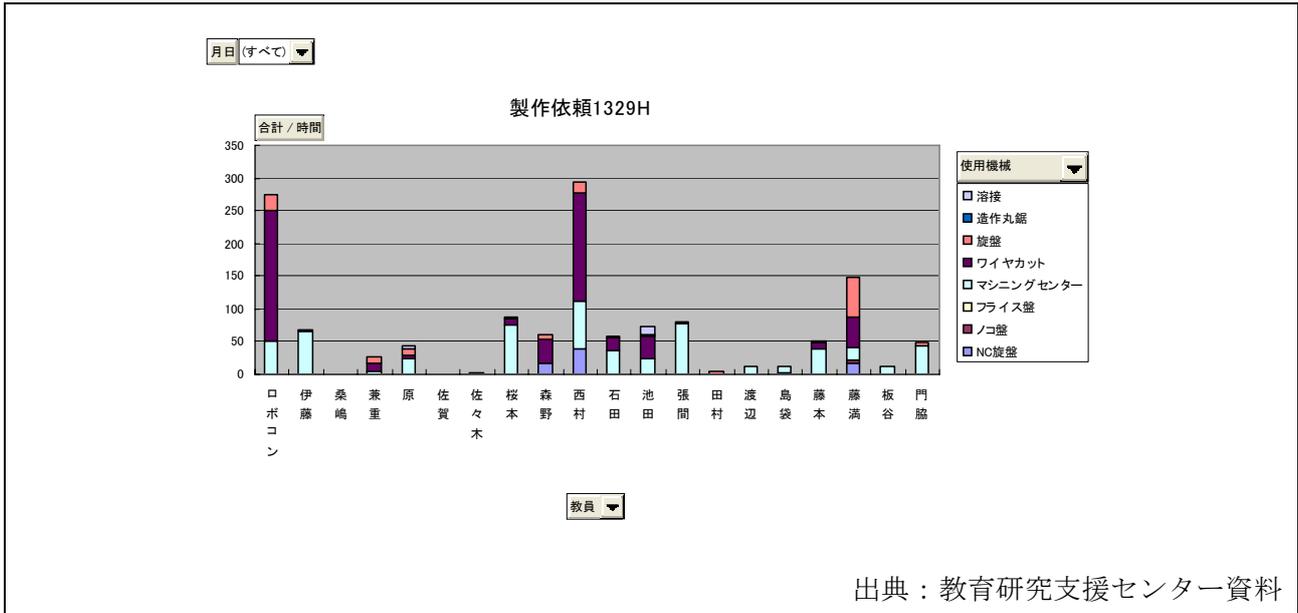
実習工場は、全学の共同利用施設でありその管理運営は機械電気工学科を中心に行われている。現在 5 名の技術職員が各研究室の実験設備、試験片等の製作、学生の工作実習、創造製作、卒業研究等における工作技術の指導、製作依頼等に携わっている。

工場使用時間は卒研、高専祭、創造製作等で平成 17 年度 3 6 3 時間

製作依頼は平成 17 年度 1 3 2 9 時間

項目 [すべて]





資料2-1-③-5 テクノ・アカデミア事業への学生の参加状況

平成11～17年度 学生参加（受講）状況

事業名	講座等名	本科生参加者	専攻科生参加者
平成12年度 テクノ・アカデミア人材養成講座	2級建築士基礎講座		1
	工業所有権セミナー	6	
	環境水理講座	3	1
平成14年度 テクノ・アカデミア技術研修会	インターネットセキュリティとビジネス	1	
	企業戦略とプロジェクトマネジメント	34	18
テクノ・アカデミア人材養成講座	技術士1次試験受験講座	10	
平成15年度 テクノ・アカデミア技術研修会	特許セミナー＝研究者向け基礎セミナー＝	20	
	特許セミナー＝明細書作成セミナー＝	5	1
	アイデア創成塾	2	2
テクノ・アカデミア人材養成講座	建築学基礎講座		3
	解析を主とした破壊力学入門講座		2
平成16年度 テクノ・アカデミア技術研究会	コンクリートよろず研究会・第1回講習会	1	4
	知的財産制度と企業活動		5
テクノ・アカデミア技術研修会	PIC初級講座		1
	コミュニケーション・センス講座		8
テクノ・アカデミア人材養成講座	建築学講座	2	1
	アカデミア共同研究発表会		4
テクノ・アカデミア交流会	アカデミア共同研究発表会		4
周南サテライトカレッジ	機械設計技術者試験対策講座	19	
特別研究促進費研究成果報告会		22	
平成17年度 テクノ・アカデミア交流会	アカデミア共同研究発表会	3	
	特別研究促進費研究成果報告会	7	
合 計		135	51

出典：テクノ・アカデミア資料

(分析結果とその根拠理由)

3つのセンター活動につき、教育の目的に照らし合わせて分析する。

情報処理センターは、情報処理教育のために学生が自由に利用できるネットワーク端末の提供を通して目標（B1）の実践力とe-Learningを通して目標（A2）のコミュニケーション能力を、教育研究支援センターは、日々の活動を通して目標（B1）の実践力と（B2）の自主性・自立性を養うことを、テクノ・リフレッシュ教育センターは、地域との関わりを通して目標（C2）の開発力に主として関与している。以上のべたように、センターなどが適切なものとなっている。

**観点2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。**

（観点に係る状況）

本校における教育課程を検討する組織の相互関係は、教育点検システムとして概観できる（資料9-1-①-6）。このなかで、教育課程全体を企画・調整する役割は「Plan」に含まれる「総合企画室」が主として担っており、「将来計画委員会」と「FD委員会」が役割を一部分担している。また、その運営の方向づけと最終決定は、「運営委員会」が担っている。

そこでの「Plan」を受け、実際にどうするか審議する「Do」に該当するのが準学士課程は「教務委員会」、専攻科課程は「専攻科委員会」で、二つに共通する話題は「教務・専攻科合同委員会」ならびに「科目間調整会議」で検討が行われる。

さらに、それを有効に展開するため「Check」機関をもっており、学内では「学習・教育レビュー室」が、学外関係者では「顧問会議」がそれにあたる。また、「教育モニター制度」も定めている。

それぞれの委員会等の主な役割ならびに委員構成を、委員会規則とともにまとめて次に示す。

また、平成17年度における主な会議開催回数を{ }付き数字で示す。

学内組織

- 「運営委員会」（教員17名、事務職員4名、{17}、資料2-2-①-1）  
学校全体の運営の方向づけ
- 「総合企画室」（教員5名、事務職員2名、{63}、資料11-1-①-3）  
学校運営・教育研究に係る総合的な企画・調整
- 「将来計画委員会」（教員8名、事務職員3名、{4}、資料2-2-①-2）  
長期的な観点での中期計画やキャンパスプラン策定
- 「FD委員会」（教員19名、事務職員4名、{3}、資料2-2-①-3）  
JABEE受審後、平成16年に「技術者教育認定対策会議」を発展改組  
教職員のFD活動を日常的に発展させる
- 「教務委員会」（教員9名、事務職員1名、{8}、資料2-2-①-4）  
教務に関する事項を審議
- 「専攻科委員会」（教員8名、事務職員1名、{6}、資料2-2-①-5）  
専攻科に関する教務・厚生補導・入学試験に関する事項を審議
- 「科目間調整会議」（資料2-2-①-③）  
科目間の内容・系統の整合性の確保  
一般科目担当教員とその応用専門科目担当教員の連携の緊密化
- 「学習・教育レビュー室」（教員5名、事務職員1名、{10}、資料2-2-①-7）

教育内容の点検評価，水準の向上提案

学外の有識者の意見を学校の運営に反映させるための具体的方策

- 「顧問会議」（8名，資料1 1-2-①-1，資料2-2-①-8）

教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価の結果について提言を受ける

- 「教育モニター制度」（8名，資料2-2-①-9）

公開授業の評価

なお，各種委員会等会議開催回数一覧を資料2-2-①-10に示す。また審議の内容はすべて議事録として保管しており，ここへの掲載は省略するが，閲覧可能である。

資料2-2-①-1 運営委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校運営委員会規則

制定昭和52年4月1日

最終改正平成18年4月1日

（設置）

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営委員会（以下「委員会」という。）を置く

（目的）

第2条 校長は，本校の運営に関する重要事項について委員会の意見を聴く。

（構成）

第3条 委員会は，次の委員をもって構成する。

- (1) 教務主事
- (2) 学生主事
- (3) 寮務主事
- (4) 専攻科長
- (5) 各学科主任
- (6) 一般科目主任
- (7) 図書館長
- (8) テクノ・リフレッシュ教育センター長
- (9) 情報処理センター長
- (10) 総合企画室長
- (11) 学習・教育レビュー室長
- (12) 学生相談室長
- (13) 進路支援室長
- (14) eラーニング推進支援室長
- (15) 将来計画委員長
- (16) 自己評価委員長
- (17) 事務部長
- (18) 各課長

（以下略）

出典：本校規則集

資料2-2-①-2 将来計画委員会規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校将来計画委員会規則

（設置）

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に将来計画委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第2条 委員会は，校長の諮問に応じ，本校の充実発展を図るための将来計画に関する次の事項を調査・検討する。

- (1) 学科・学級の増設及び学科の改組に関する事項
- (2) 共同利用教育・研究施設・講堂等の新設に関する事項
- (3) 施設・設備の整備・充実にに関する事項
- (4) 施設・設備の点検・評価及び有効活用に関する事項
- (5) その他校長が諮問する事項

(構成)

第3条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 一般科目及び各学科の教員のうちから各2名
- (2) 事務部より若干名

2 前項に定める委員のほか、諮問事項に応じ、校長が必要と認めた者を加えることができる。

(以下略)

出典：本校規則集

### 資料 2 - 2 - ① - 3 FD委員会規則 (抜粋)

徳山工業高等専門学校FD委員会規則

(設置)

第1条 徳山工業高等専門学校に、教職員の資質・職務能力の向上及び教育システムの改善を行うこと（以下「FD活動」という。）により、教育水準の質的向上を図ることを目的として、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、次の事項を審議し、実施する。

- (1) FD活動の企画に関すること。
- (2) FD活動の実施に係る総合調整に関すること。
- (3) FD活動における対外的な連携に関すること。
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 教務主事及び教務主事補
- (2) 専攻科長、専攻幹事及び教養・専門基礎科目担当幹事
- (3) 学習・教育レビュー室長及びエグザミネーター
- (4) 事務部長及び各課長
- (5) その他校長が指名する者

(以下略)

出典：本校規則集

### 資料 2 - 2 - ① - 4 教務委員会規則 (抜粋)

徳山工業高等専門学校教務委員会規則

(設置)

第1条 徳山工業高等専門学校に、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、校長の命を受け、教務に関する次の事項を審議する。

- (1) 教育課程に関すること。
- (2) 授業及び試験実施に関すること。
- (3) 学校行事に関すること。
- (4) 入学、進級、休学、復学、退学、再入学、転校及び卒業に関すること。
- (5) 学生指導要録に関すること。
- (6) 学生の課外教育に関すること。
- (7) 学外実習に関すること。
- (8) 見学旅行に関すること。

(9) その他教務に関すること。

(構成)

第3条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 一般科目及び各学科の教員のうちから各1名
- (4) 学生課長

(以下略)

出典：本校規則集

#### 資料2-2-①-5 専攻科委員会規則 (抜粋)

徳山工業高等専門学校専攻科委員会規則

(設置)

第1条 徳山工業高等専門学校に専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、専攻科における次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教務に関すること。
- (2) 厚生補導に関すること。
- (3) 入学試験に関すること。
- (4) その他専攻科に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 各専攻幹事
- (3) 教養・専門基礎科目担当幹事
- (4) 各専攻の教員のうちから各1名
- (5) 学生課長

(以下略)

出典：本校規則集

#### 資料2-2-①-6 科目間調整会議

科目間調整会議の設置について

教務・専攻科合同委員会

1. 設置目的（資料1「科目間の整合性を確保するための組織について」参照）

- (1) 科目間の内容の整合性の確保
- (2) 科目間の系統の整合性の確保
- (3) 一般科目担当教員とその応用専門科目担当教員の連携の緊密化

2. 今年度の設置

- (1) 数学関連科目
- (2) 物理関連科目

3. 構成員

・数学または物理それぞれに関連する科目の担当教員全員

※構成員の選任は合同委員会で行う。

その他調整会議の運営に必要な事項は合同委員会で定める。

○ 数学（主査：原田幸雄）

・一般科目：秋吉、原田、長廣

- ・機械電気： 山田英、長山
- ・情報電子： 義永、小林
- ・土木建築： 橋本、日南住
- ・教務・専攻科合同委員会： 田村教務主事補
- ・事務局： 吉井教務係長

○ 物理（主査：室長大應）

- ・一般科目： 室長、長廣
- ・機械電気： 石田、兼重
- ・情報電子： 池田信、神田
- ・土木建築： 日南住、工藤
- ・教務・専攻科合同委員会： 長山専攻幹事
- ・事務局： 西村専門員

出典：教務係資料

### 資料 2-2-①-7 学習・教育レビュー室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学習・教育レビュー室規則

（設置）

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学習・教育レビュー室（以下「レビュー室」という。）を置く。

（目的）

第2条 レビュー室は、本校の教育内容，教育手段及び学習環境等について恒常的に点検・評価し，その結果に基づく継続的な教育改善を行うことにより，本校教育の質の向上を図ることを目的とする。

（業務）

第3条 レビュー室は，次の業務を行う。

- (1) シラバスの内容及び活用状況の評価に関すること。
- (2) 学習シートの活用状況の評価に関すること。
- (3) 公開授業に関すること。
- (4) 試験等学習・教育目標の達成度評価方法の点検・評価に関すること。
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務。

（組織）

第4条 レビュー室は，次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) エグゼクティブ 若干名
- (3) 事務主査

（以下略）

出典：本校規則集

### 資料 2-2-①-8 顧問会議議事録

平成17年度 第1回顧問会議議事概要

日時 平成18年 3月 7日（火） 14：00～16：30

場所 徳山工業高等専門学校メディアホール

司会 総合企画室長：佐賀孝徳

出席者 小野 英輔 徳山高専テクノ・アカデミア会長  
 柏原 伸二 柏原塗研工業(株) 代表取締役社長  
 小泉 達也 (社) 山口県技術交流協会会長  
 松為 宏幸 豊橋技術科学大学副学長  
 三池 孝道 (社) 周南青年会議所直前理事長  
 村中 民義 徳山地区中学校長会代表 岐陽中学校長

欠席者 三木 俊克 山口大学工学部長

和田 卓也 山口県商工労働部長

○会議進行概要（別紙予定表）

【顧問からの意見・コメント】

地元企業との交流について（原 隆）

小泉氏

私は、企業の立場で大学等との共同研究を行ってきたが、一番最初の問題は企業との付き合い方だと思う。何か良いことをしようと思って始めるとほとんどが良い結果になっていない、適当に酒でも飲んで情報交換をしている時に良いテーマが出てくるといったことが多かったように思う。あまり、効率ばかり追い求めるのではなく、無駄を覚悟で望むことも必要だと思う。

原

まさにその通りだと思います。

小野氏

テクノ・アカデミアの会長の立場としてお話しさせていただきます。の活性化は、難しいと思いつながり今までやってきたことが、成功しているのか、失敗しているのかよく分からないが、少なくとも企業が高専に来はじめたということは事実だと思う。

もう少し活発化させるには何が必要か、皆さんからも是非お知恵を拝借したいと思っている。工学系の研究機関は、山口県の東部にはここしかないのだから、この近隣の産業の活性化に何とか活かして行きたいと思っている。

（以下、省略）

出典：庶務課資料

資料 2 - 2 - ① - 9 教育モニター制度



徳山高専の教育改善に参加して頂けませんか

徳山高専教育モニター募集

徳山高専では、平成15年度から、外部の方々のご意見も取り入れてより良い授業を実施するため、年数回の「公開授業」を実施しています。

この「公開授業」とその後引き続いて開催される「公開授業レビュー会」に参加していただき、授業の感想や改善すべき点について、ご意見をいただける方を募集しています。徳山高専に関心をお持ちの方であれば、経験の有無にかかわらずどなたでも結構ですが、今年度16回予定しております公開授業(日程などの概略は[こちらへ](#)。)に5回以上ご参加頂ける方をお願いしたいと考えております。

交通費程度しかお支払いできませんが、関心のある方の登録をお待ちしています。

授業時間 一回50分 または、110分 その後、レビュー会60分程度

登録の申し込み或いはお問い合わせは、  
徳山高専教務係 濱井(0834-29-6232, e-mail: kyoumu@tokuyama.ac.jp)まで。

出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/review/index.html>

## 資料 2-2-①-10 各種委員会等会議開催回数一覧

連絡会・委員会名等	H16	H17	備考
教務主事（連絡会）	37	27	
学生主事（連絡会）	35	34	
寮務主事（連絡会）	38	32	
専攻科（連絡会）	??	36	H16も多数開催している模様
学科会議（一般科目）	18	20	
学科会議（機械電気）	25	19	
学科会議（情報電子）	21	21	
学科会議（土木建築）	30	31	
図書館（連絡会等）	5	6	
テクノ・リフレック教育センター運営会議	31	28	
情報処理センター（連絡会等）	11	16	
総合企画室（コアタイム）	28	29	
総合企画室（ミーティング）	41	34	
学習・教育レビュー室（連絡会等）	17	10	
学生相談室（連絡会等）	12	14	
進路支援室（連絡会等）	11	21	
eラーニング推進支援室（連絡会等）	—	4	H18.1発足
運営委員会	15	17	
教員会議	7	11	
教務委員会	12	8	
専攻科委員会	7	6	
厚生補導委員会	8	15	
学寮運営委員会	4	3	
自己評価委員会	16	10	
将来計画委員会	4	4	
情報セキュリティ委員会	0	1	
紀要編集委員会	5	5	
FD委員会	0	3	
知的財産委員会	3	1	H16に事前検討会を2回開催
安全衛生委員会	5	0	安全点検は随時実施
セクシュアル・ハラスメント防止委員会	0	0	委員への個別相談は有
サテライト運営委員会	10	7	
ロボットコンテスト実行委員会	0	0	実働部隊の会合は多数
広報メディア管理委員会	1	0	実働部隊の会合は多数

出典：総合企画室資料

（分析結果とその根拠理由）

教育課程全体を企画調整し、有効に展開するための検討を行うために、「総合企画室」や、「将来計画委員会」、「FD委員会」などが機能しており、その運営の方向づけと最終決定は、「運営委員会」が担っている。実際の運用にあたっては、「教務委員会」や「専攻科委員会」が審議し、そのチェック機能を「学習・教育レビュー室」や「顧問会議」などが担っている。

以上のように、各種委員会などが適切に整備され、機能している。

観点 2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

（観点到る状況）

科目間の連携は、まず、カリキュラムの設計にあたって「系統図」を作成することから始まる。そのためには、それぞれの科目の学習・教育目標に対する位置づけおよび相互の関連を明確にする必要がある。その検討は、大きなコンセプトを[教務委員会]ならびに[専攻科委員会]で決め、その後、各学科で詳細を検討し、再度それを前述の委員会に持ち寄り、整合性をとる作業を数回繰り返

して決定している。それをシラバスの冒頭に掲載（資料2-1-①-2）するとともに、各科目のシラバスにも関連科目の欄を設けて示した（資料5-2-②-1）。

その系統図をベースに、各教員が具体的な授業内容を組み立てる。その際、公開されたシラバスも参考にし、連携がスムーズにかつ教育効果が上がるよう、授業内容の改善を図っている。平成14年度からは公開授業（資料9-1-④-4, 5）も実施されており、指導状況についても、教員相互が直接確認できるシステムもある。

また、各教員は、定期試験が終わるごとに担当科目の「学習指導連絡票」（資料7-1-①-6）を教務係経由で学級担任に届け、学級担任はそれらを参考に学生の指導を行うとともに、日常の指導を通じて得られた情報などを、月2回、定例的に開かれる各学科の教室会議で適宜報告している。必要な場合は週1回行われる「教務連絡会」あるいは「専攻科幹事会」で取り上げ、全学的な検討が必要な場合は「教務委員会や専攻科委員会で審議・検討するなど、改善のための検討が日常的に行われている（資料2-2-①-10）。

非常勤教員については、常勤教員と同レベルの教育に対する意識で授業に臨めるように毎年、「懇談会」（資料3-1-①-3）を開催して、本校の教育点検システム等を説明し、継続的な教育改善が行えるよう話し合いを行っている。

また、カリキュラム改訂等の必要がある場合は「教務委員会」（資料9-1-⑤-4）において検討することとしている。なお、特別な検討が必要とされる場合、アドホックなタスクフォースを設けることもある。平成15年度は「英語力向上タスクフォース」が設けられ、平成17年度には「英語教育に関する懇談会」が各学科主任と専攻科長、英語科教員で構成され（資料2-2-②-1）、そこでの答申を受け、「教務・専攻科合同委員会」の審議を経て、平成18年度から行われる英語教育の指針を定めるに至った（資料2-2-②-2, 資料1-1-①-4）。

さらに、教養科目や専門科目の科目間相互の内容や年次配当のさらなる整合性をとることを念頭に、平成15年11月、「科目間調整会議」を「教務・専攻科合同委員会」のもとに新たに設置し（資料2-2-②-3）、一般科目と各専門学科の教員で構成するメンバーで数学と物理に関して検討を行い、成案を得た（資料3-1-①-4）。平成17年度には数学、物理に加え、化学・生物、国語、英語、創造系科目についても「科目間調整会議」（資料5-1-①-2）が開かれ、成案を得た。この結果は「系統図と講義内容」としてシラバスに記載され（資料5-1-①-4, 資料5-2-③-1）、個々の科目はその内容に従ってシラバスを作成し、授業がなされている。

このような教員間連絡ネットワーク組織は資料9-1-④-1に示される。年5回程度開催の「教員研修会」（資料9-2-②-1）においても意見交換がなされ、教員間の連携が図られている。

資料 2-2-②-1 英語教育に関する懇談会

2005.4.26

英語教育に関する懇談会のまとめ

日時：4月14日 16時10分

場所：小会議室

出席者：各学科主任（藤田，江口，原田，大成），専攻科長（大橋），英語科（桂，長戸，国重）

テーマ：全学的に英語協力をいかに発展させるか

1. TOEIC 未修問題

結果的に未修学生が発生し、この問題を真剣に考える必要がある。そのために、長期的な視野からの学習指導と学生の自学自習を進展させる必要がある。

また、全学的な取り組みを展開する必要がある。

400 が確保できない学生は、特別研究どころではなかった（IE の場合）

CA の場合は、そうではなかった。160 が 330 まで向上

2. TOEIC と英検

TOEIC 470 と 英検 2 級 が同等

300 英検準 2 級

工業英検 3 級 TOEIC 400 ていどか

準 2 級 100 人、工業英検 4 級 100 人が受験

経費 団体加盟の場合 初年度 60 万円 二年度目から 10 万円

各人は割引で 4500 円が 3500 円程度になる

徳山高専の学生は、文法が極端に弱い（リスニングの半分しか取れない）

3. 到達目標の明確化と改善提案

現在は、3 年生までに準 2 級をとるように指導しているが、100 人程度の資格者にとどまっている。3 年生以下の対策も考える必要がある。

4 年、5 年で TOEIC を受けさせて自分の能力を理解させる必要がある。（他高専でも実施例がある）同時に、目標を明確化する。

6 年で 350 点ぐらいは必要。350 点取得者には、専攻科学力試験の免除も可能。

5 年の目標を 400 点、4 年を 300 点ぐらいにする

専攻科受験生資格として 350 点を設定する

TOEIC の模擬テストを行う（2 回は可能）

E-learning を発展させる。

とにかく全校あげて、みんなで取り組む必要があり、今後とも協議を行う。

出典：英語教育に関する懇談会議事録

資料 2-2-②-2 教務委員会・専攻科委員会の審議結果

2006.2.8

教務・専攻科合同委員会 答申（2005.5.18）に対する  
教務委員会・専攻科委員会の審議結果

(審議結果はゴシック体で示す)

諮問事項：本校の全学生が「世界に通用する」技術者をめざすためには  
英語教育をどのように改善すればいいか、検討願いたい。

.....  
以上のことから、次の2点を本校の英語教育を改善するための柱とする。

1. 国際的に活躍できる技術者を育成するため、異文化を理解して英語で意思を伝えあうことができる学生の育成をめざす科目を新設する。

具体的答申内容：

・「異文化理解セミナー（仮称）」を新設する。

<審議結果>

○平成18年度から一般科目で新たに設けられる「人文社会特講」として、適宜開講する。

2. いわゆる「中だるみ」を解消する仕組みを考え、英語力の順調な養成を促すこと。卒業、修了時まで継続的・計画的に学生の英語力を捉えるため、低学年の時期から定期的・継続的にデータを収集し、学生の指導に生かせるシステムを構築すること。

具体的答申内容：

・学年進行とともに合理的に難化・高度化する教育課程を策定する。

<審議結果>

○平成18年度より実施することで、策定済み。

・特に4・5年の英語授業単位を見直し、大学単位科目を決定する。

<審議結果>

○4・5年の英語授業単位は、すべて修得単位(大学単位)とすることでカリキュラム改正済み。ただし、実際には平成19年度から修得単位として実施する。

・専攻科修了要件としてTOEICスコア以外の基準として、実用英検2級、工業英検2級を加える。(ただし、これについては、従来通り、TOEICテストスコアのみを要件とするという意見もあった。)

<審議結果>

○専攻科修了要件は、現行どおり、TOEIC400以上のスコア取得のみとする。

・TOEIC賛助会員となり、学生のTOEIC受験料の負担を軽減する。

<審議結果>

○TOEIC賛助会員となる。

・低学年のうちから専攻科修了要件のTOEICスコアを見据えてスコアアップをめざさせる尺度となるACEを導入し、年1回、本科生全員に受験させる。

<審議結果>

○平成18年度からACEを導入し、本科生全員に受験させる。実施時期は後期中間試験の第1日第1限目とする。受験料は個人負担とする。なお、その様子を見て、平成19年度に、再度実施内容を検討する。

・定められた目標のいずれかを達成した学生が、その学年全体の少なくとも60%以上を占めることが可能な学年目標を設定する。(次頁「学年ごとの英語資格スコア・取得目標(要60%以上達成)」参照。)

(なお、この学年目標のうち、専攻科2年生の「スコア470」は、既に専攻科自

体が独自に定めた数値に従った。なお、徳山高専中期目標では、「スコア500」を目標として掲げている。)

<審議結果>

○原案どおり、設定された目標を「学年ごとの英語資格スコア・取得目標(要60%以上達成)」として認める。

・本科の4年生に「学年修了要件」を追加する。修了要件は前学年である3年次のスコア・取得目標とする。(「実用英検準2級以上・工業英検4級以上の取得、TOEIC310以上・ACE400以上のスコア獲得のいずれか1つを満たすこと」)

(ただし、本科の修了要件については、「4年次でなく、3年次に同じ基準で設定し、要件を満たさない者には、4年への仮進級を認めて、必要な級の取得、スコアの獲得を促す。」という意見もあった。)

<審議結果>

○平成18年度に実施するACEならびにTOEIC等の結果を分析し、再度検討する。

・本科4・5年に対しては、TOEIC IP (または SP) を少なくとも1年に1回は受験することを原則とする意見が委員会で出されて、強く支持された。

<審議結果>

○本科4・5年生全員に、TOEIC IPを受験させる。実施時期は英語科に一任する。受験料は個人負担とする。なお、その様子を見て、平成19年度に、再度実施内容を検討する。

○ACEとTOEICの受験料の集金方法については、英語科に検討を依頼する。

学年ごとの英語資格スコア・取得目標（要 60%以上達成）

	TOEIC スコア	実用英検	工業英検	(ACE)	修了要件
専攻科 2年	470	2 級	2 級	参考(590)	TOEIC 400 点、実用英検 2 級、工業英検 2 級のいずれかを取得
専攻科 1年	400	2 級	3 級	参考(540)	3 年次のいずれかの基準をクリアすること
5 年	350	2 級	3 級	480	
4 年	330	準 2 級	3 級	440	
3 年	310	準 2 級	4 級	400	
2 年	(290)	準 2 級	4 級	360	
1 年	(250)	3 級	4 級	320	

出典：教務委員会・専攻科委員会議事録

資料 2 - 2 - ② - 3 教務・専攻科合同委員会資料

2003. 11. 27

科目間調整会議の設置について

教務・専攻科合同委員会

1. 設置目的（資料 1 「科目間の整合性を確保するための組織について」参照）

- (1) 科目間の内容の整合性の確保
- (2) 科目間の系統の整合性の確保
- (3) 一般科目担当教員とその応用専門科目担当教員の連携の緊密化

2. 今年度の設置

- (1) 数学関連科目
- (2) 物理関連科目

3. 構 成 員

- ・数学または物理それぞれに関連する科目の担当教員全員
- ※構成員の選任は合同委員会で行う。
- その他調整会議の運営に必要な事項は合同委員会で定める。

○ 数 学（主査：原田幸雄）

- ・一般科目：秋吉、原田、長廣
- ・機械電気：山田英、長山
- ・情報電子：義永、小林
- ・土木建築：橋本、日南住
- ・教務・専攻科合同委員会：田村教務主事補
- ・事務局：吉井教務係長

○ 物 理（主査：室長大應）

- ・一般科目：室長、長廣
- ・機械電気：石田、兼重
- ・情報電子：池田信、神田
- ・土木建築：日南住、工藤
- ・教務・専攻科合同委員会：長山専攻幹事

・事務局：西村専門員

今年度の検討内容など

(1) 中学校における新教育課程の内容を踏まえ、本校とのスムーズな移行も配慮し、その上で、**本科と専攻科の7年間を見通し、本校の卒業・修了生として確実に身につけさせたい学科・専攻に共通な内容を定める**。その際、どの学年で何をどこまで教え、身につけさせるか、用いる教科書の選定も含め、内容を定める。

(2) 学習・教育内容は、学年間の連続性を考慮するとともに、**専門科目との整合性も配慮**する。その際、現在開設されている専門科目への対応に固執することなく、来年度のカリキュラムの改善見直し(マイナーチェンジ)を念頭におき、検討する。

※ 専門科目の内容が難しすぎるのではないか、過密すぎるのではないか、学生が不消化をおこしている科目が見受けられるのは、それらも一因ではないかとJABEE審査員から多くの指摘あり。

→ 学習・教育内容の見直しは、来年度から改善できる点はさっそく改善し、カリキュラムを見直す必要がある科目については、来年度検討

(3) 全校で共通科目として取り上げるには無理があると判断される科目は、各学科の専門科目として扱う。

(4) 専攻科の数学では、英語で教える科目(本科で教えた内容をまとめ直したものなど)を2科目程度、導入する。

(5) 数学は、本科4年以上で、最低4科目は修得できるようにする。

(6) 各学年の単位数は、現行のものを目安とする。

○ 数 学

本科1年：6単位、2年：6単位、3年：4単位、4年：4単位、5年：2単位

専攻科1年：4単位、2年：2単位

(7) **数学・物理系科目のカリキュラムは今年度改定し、来年度からの適用をめざす**。

(8) シラバスに、本校における7年間の学習・教育内容を、各科目ごとに1ページにまとめ、掲載する。

(9) 「**科目間調整会議**」の第1次とりまとめは、1月下旬を目途に教務・専攻科合同委員会に対して行い、**合同委員会は2月下旬までに最終報告をまとめる**。

出典：教務係資料

(分析結果とその根拠理由)

教養科目や専門科目の科目間での整合性をとるための「科目間調整会議」をはじめ、各会議が機能的に働き、教員間の連携が適切に行われている。非常勤教員と常勤教員の連携のための懇談会や、公開授業制度など、教員間連絡ネットワーク組織が整備され、機能している。

**観点2-2-③：教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。**

(観点に係る状況)

まず、学級担任および専攻幹事の教育活動を円滑に実施するための支援体制について述べる。本科生における学習指導上の問題およびHR運営計画に対しては、教務主事を中心とした「教務委員会」が、専攻科生については、専攻科長を中心とする「専攻科委員会」が専攻特別研究指導教員と協力しながら、学級担任や専攻幹事の支援を行っている(資料2-2-③-1, 2, 資料5-4-①-1)。また、学級担任については学年主任を中心とする「学年担任連絡会議」(資料2-2-③-3), 3~5年生については学科主任を中心とする「学科会議」も教育活動を円滑に実施するための支援体制として機能している(資料2-2-③-4)。なお、学生課教務係によって学生連絡網も整備され、

学級担任や専攻幹事から学生への連絡手順も明示されている（資料2-2-③-5）。

次に、生活面に関する問題では、本科生の場合、学生主事室または学生主事を中心とした「厚生補導委員会」が、専攻科に関する問題は「専攻科委員会」が統括している（資料2-2-③-6, 7）。なお、寮生の生活指導については、寮務主事を中心とした「学寮運営委員会」が機能しており、実務的には寮務係が学級担任と連絡を保ちながら、学生指導を支援している（資料2-2-③-8）。さらに、学生の精神衛生上の問題や個人的な問題に対する相談を行なう組織として、「学生相談室」が設置されている（資料7-2-①-1）。その他、学生の進路を支援する全学的組織として、「進路支援室」が平成17年度に設置された。本科生から専攻科生まで各学年に応じた、進路支援プログラムが年度始めに策定され、実行されており、就職・進学に関する情報の提供や指導に役立っている（資料7-2-④-2）。進路支援室が設置されたことにより、全学年にわたり学級担任の負担が軽減された。

#### 資料2-2-③-1 教務主事室によるHR指導マニュアル

##### 学級担任の手引き

はじめに

高専の5年間は、中等教育から高等教育にわたり、学生の心身の発達・変化が著しい時代である。

青年期から成熟した大人へと発達するこの時期は、身体的発達は最高の段階に達し、精神的な面でも、抽象的・論理的思考の発達が進み、社会的関心も本格的なものとなる。抽象的思考は内省的傾向や社会関心と結びつき、人生論的な思索や社会現象の理論的な把握へと関心が向いてくる。また、具体的な状況に束縛されることなく、自由に論理を展開し、みずみずしい感受性や憧れ、理想などを強く示し、自己の判断と責任で行動しようとする傾向が強いが、期待と不安、自信と劣等感、自己主張と自己批判といった矛盾した感情をもつ学生も少なくないので、指導にあたってはこの点を十分配慮することが必要である。学生の自己矛盾や欠陥の意識は、新しい自己の生き方を確立しようとする動きの現れであり、このような動きなしには人格の発達は不可能であることを理解して、その発達を支援するという姿勢で指導にあたることが望まれる。

学生の学校生活は、課外活動や学生会活動を除けば、ほとんどがクラスを単位として行われる。

本校では、1～2学年は学科の枠を取りのぞいた混合学級を編成することにより学生の学校への適応を図り、3～5学年は学科ごとのクラス編成を採っているが、いずれの学年においてもそれぞれのクラスの雰囲気や個々の学生に及ぼす影響は大きく、クラス運営が教育活動の根幹をなすものである。

クラス運営の中心となる学級担任は、学生にとって最も身近な教員であり、最も頼れる指導者・助言者・相談相手でもある。また、学校からの連絡や学生指導も学級担任を通じてなされることが多い。担任は学生に対する影響力が極めて大きいことを認識して指導にあたるべきである。学級担任・クラス・学生それぞれに個性があるが、指導は学校の指導方針や諸規則の一定の枠の中で、適宜適切に行われなければならない。

担任の任務の範囲に限界を設けることは難しいが、ここでは、学級担任の仕事として、本校で従来なされてきたことのうち基本的なものを列挙して参考に資することにする。なお、学級担任以外の教員も、

出典：教務係資料

#### 資料2-2-③-2 教務主事室によるHR担任支援例（各クラスで問題点の把握）

（クラス名および担任名は伏せて掲載）

年間2回、保護者会の後に各クラス担任へ報告を依頼し報告書を3主事へ知らせている。

クラスの現状ならびに問題点（10月29日保護者会終了時点）

担当クラス名 XXXX 担任名 XXXXXXXX

○ クラスの現状

- ・ 1年次からリーダーがいなかったため、クラスのまとまりはない。
- ・ 勉強意欲の高い学生と、低い学生にはっきりわかれている。特に、意欲の低い学生がめだっているため、クラス全体の勉強意欲も低くなってしまっている。
- ・ 試験の平均点をグラフにすると、正規分布になっているが、平均点が低い側の裾野に、もう一山あるのがクラスの特徴である。

・ 人柄はたいへんよい。  
 ・ XXX 名という人数の熱気と、教室の位置の関係から全く風がとおらず、7 月・9 月は教室が蒸し風呂状態だった。My 扇風機をもってくる学生が 4～5 名いた。教室にクーラーはつかないものでしょうか。

・・・・・・・・ 平常のクラス運営ならびに保護者会等で感じられた問題点 ・・・・・・・・

○ 教務関連  
 ・ 資格試験には積極的に挑戦している。  
 ・ 進級がきわどい学生が 2 名いる。  
 ・ 留学生を除く XX 名中 XX 名が、保護者会に来られた。就職・進学に対する保護者の興味が高い。

○ 学生関連  
 ・ XXX が主事訓告を受けたりと、クラスのモラルが少し低い。  
 ・ ノーズピアスをしたり、ハングル能力検定を受けたり、個性的な学生がいる。

○ 寮務関連  
 ・ 後期、編入生も一人部屋となり、喜んでいる。

○ その他  
 ・ 前期中間試験中には工業英検があり、後期中間試験中には工事担任者の国家試験があり、学生は大変苦勞している。中間試験の日程を再考していただきたい。

-----

> 平成 17 年 1 月 17 日

> クラス担任の先生方

> 教務主事 森野数博  
 > 学生主事 上 俊二  
 > 寮務主事 室長大應

> 常日頃よりクラス運営にご尽力いただき、ありがとうございます。

> 前期中間試験終了時点でお願ひしました、クラスの現状ならびに問題  
 > 点について、今回は 10 月 29 日の保護者会終了後の現状として、保護者会  
 > での意見及びクラスの現状を、添付しましたファイルにご記入いただき、  
 > ご報告いただきたいと思います。

> 先生方にはお忙しいところを恐縮ですが、11 月 30 日（水）までに  
 > ファイルを坂本教務係長（h-sakamo@tokuyama.ac.jp）まで、ご提出  
 > いただきたく、よろしくお願ひいたします。

出典：教務係資料

資料 2 - 2 - ③ - 3 学年担任連絡会による HR 活動支援例

平成 18 年度第 4 学年担任連絡会開催日と議事内容

目的：学生指導の共通点、問題点を情報交換し、学生指導に生かす（その他メールでの情報交換も行う）  
 担当：ME 4 担任兼重、IE 4 担任杉村、CA 4 担任佐賀（学年主任）

第 1 回 平成 18 年 3 月 29 日（水）9 時から（総合企画室）  
 学級運営について  
 考慮すべき指導事項、予測される問題点  
 研修旅行、校外実習

第 2 回 平成 18 年 4 月 6 日（木）13 時半から（杉村教員室）  
 学級運営  
 学生の違反行為  
 研修旅行、校外実習

第 3 回 平成 18 年 4 月 20 日（木）11 時から（兼重教員室）  
 学級運営について

研修旅行, 校外実習 問題点 第4回 平成18年5月18日(木) 13時半から(兼重教員室) 学級運営について 定期試験前の指導 研修旅行, 校外実習 第5回 平成18年5月30日(火) 13時から(兼重教員室) 学級運営について 試験明けの指導 校外実習 第6回 平成18年6月15日(木) 13時半から(予定:兼重教員室) 学級運営について 保護者会 校外実習(マナー教育) 研修旅行	出典:平成18年度第4学年担任連絡会資料
--	----------------------

資料2-2-③-4 学科会議による学級担任支援例  <p style="text-align: right;">平成18年4月12日</p> <p>機械電気工学科4年生保護者各位</p> <p style="text-align: center;">研修旅行のアンケート結果と臨時保護者会(案内)</p> <p style="text-align: right;">機械電気工学科主任 藤田重隆 学級担任 兼重明宏</p> <p>拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。</p> <p>さて、先日は研修旅行実施のアンケートについて、ご回答頂き有り難うございました。お礼申し上げます。アンケートは別紙の結果となり、研修旅行のあり方など忌憚のないご意見を頂けたかと思えます。しかし、海外研修の経緯や内容説明の不足もあり、海外研修と国内研修の意見が分かれ、研修旅行のあり方(研修先、研修内容など)の意見集約には至りませんでした。</p> <p>つきましては、下記のように臨時保護者会を開催し、研修旅行の説明と保護者の方の意見集約を図りたいと思っておりますので、ご案内致します。ご多用中とは存じますがご参集頂きますようお願い申し上げます。なお、ご都合の悪い方は、返信用紙にご記入頂くか、学級担任へご連絡頂きたくお願い致します。</p> <p>出席の有無については、開催の都合上、4月17日(月)までに返信頂きたく、重ねてお願い申し上げます。</p> <p>また、研修旅行の実施については、旅行手配の関係上、4月中に決定したいと考えております。ご不明な点がありましたら、担任(電話0834-29-6282(ダイヤルイン) E-mail:kanesige@tokuyama.ac.jp)までご連絡下さい。</p> <p style="text-align: right;">敬具</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 日 時: 平成18年4月23日(日) 午前10時から(1時間程度)</p> <p>2. 場 所: 徳山工業高等専門学校 機械電気工学科4年教室</p> <p>3. 審議事項:</p> <p style="margin-left: 2em;">① 経緯説明(学科主任、学級担任)</p> <p style="margin-left: 2em;">② 研修旅行のあり方(研修先、研修内容)</p> <p style="margin-left: 2em;">③ その他</p> <p style="text-align: right;">出典:平成18年度機械電気工学科4年担任資料</p>
---

資料2-2-③-5 教務係による学生連絡網の整備  <p style="text-align: center;">(4) 情報の伝達について</p> <p>1. 掲 示</p> <p>学生に対する各種通知や呼出は、学生昇降口や各棟の掲示板で行われます。毎日見るように心がけ、重要な掲示を見逃して不利益な結果を招かないようにしてください。</p> <p>外部からの電話は緊急の場合以外は取り次ぎをしません。また、校内から外部への連絡は学生談話室の公衆電話を利用することもできます。</p>
---

## 2. 校内放送

昼休み等休憩時間に学生への諸連絡・呼出の放送がされることがあります。  
放送があったら静かに聞き、すみやかに対応してください。

## 3. 緊急連絡網

毎年、学期始めに、電話による緊急連絡網をクラスごとに作成し、全員に配布しています。災害等で休校などになる場合は学級担任から連絡がありますので、連絡網に従い、順次連絡してください。電話番号が変更になった場合は、担任及び自分に連絡する同級生への連絡も忘れずにしてください。

## 4. 携帯メール

徳山高専では、学生が所有する「携帯電話のメール」に緊急連絡等の送信を行うシステムの運用を行っています。  
緊急連絡は、原則として緊急連絡網により自宅に電話連絡することになっていますが、通学時間帯等は電話による連絡が難しいため、携帯メールへの送信サービスを行います。

携帯電話を所持している学生は、下記の登録方法を確認の上、速やかに登録手続きを行ってください。メールアドレスの登録は強制ではありませんが、システムを有効に利用するため、できるだけ多くの学生が参加することを期待しています。

なお、このサービスは、携帯電話を購入することを強要するものではありません。

## 【携帯メールアドレスの登録、変更、確認方法】

## 1 「登録」方法

登録する携帯電話から下記の要領で送信してください。携帯電話からアクセスすることによりアドレスが自動的に登録されます。登録が正常に終了した場合は、送信した携帯のメールアドレスと学校のあなたのメールアドレスの両方に登録完了のメッセージが届きます。登録できなかった場合は、送信した携帯のメールアドレスに登録できなかった旨のメッセージが届きます。

宛先メールアドレス： ksinki@tokuyama.ac.jp

件名： なし

メッセージ： #学校のあなたのメールアドレス 例 #m05yama

(@tokuyama.ac.jp は不要です。#を忘れないようにして半角英数字で入力してください。)

(中略)

※ 本件について不明な点がございましたら、学生課に問い合わせてください。

出典：平成18年度学生便覧

## 資料2-2-③-6 厚生補導委員会による学級担任支援例

## 厚生補導委員会議事録

1. 開催日時 平成18年6月5日(月) 17:15～18:20
2. 開催場所 管理棟2階会議室
3. 出席者 上, 齊藤, 森崎, 力, 島袋, 桂, 原田耕, 渡辺, 池田, 神田, 重松, 学生課長, 学生係長
4. 欠席者 伊藤
5. 議事要旨

## (1) 学生の処分について

・主事より6名の行為について審議提案がなされた。

## (2) 齊藤主事補より事件の概要について説明(別紙資料)

## (3) 内容について質問

特に無し

## (4) 各担任より現状説明

(省略)

## (5) 厚生補導委員の意見

- ・前例としては、XXXXXXXXXX補導された件がある。 ・処分内容は信用失墜行為で無期停学
- ・信用失墜行為には間違いない。 ・嘘をついている。
- ・土足で立ち入った。 ・ピアス、茶髪でXXXXXXXXXXに怖がられた。
- ・威嚇行為はあったのか。---威嚇行為はなし。
- ・無期停学にしないのであれば別の名目にしないといけなのではないか。
- ・普通は家庭謹慎であるが、別に指導が必要である。 ・自分達から自主してきたので反省点も。
- ・新しい案件のため教員会議に諮るのが良い。 ・XXXXXXXXXX 無期停学は重い3日程度
- ・XXXXXXXXXX " 4日程度 ・XXXXXXXXXX " 4日程度
- ・XXXXXXXXXX " 4日程度 ・XXXXXXXXXX 無期停学で反省点を見て解除する
- ・XXXXXXXXXX 該当行為は他に無いのであれば無期停学に相当
- ・XXXXXXXXXX 無期停学 ・XXXXXXXXXX 社会通念上無断で立入るのは良くない。

厚生補導委員会の見解

・ ██████████ 信用失墜行為の本校の名誉を著しく傷つけたとまでは行かないため、無期停学には相応しない。しかし、「他校への迷惑行為」で停学4日で教員会議に諮ることとする。また、**厚生補導委員及び担任で毎日家庭訪問をするなどの指導**を行う。喫煙した学生には処分を加算する。

出典：厚生補導委員会資料

資料2-2-③-7 学生主事室による担任支援例

平成17年10月22日

クラス担任 各位

学生主事

ゴミの分別収集について（依頼）

このことについて、会計課から全教職員・学生宛にゴミの分別についての協力依頼を行っておりますが、混在のまま集積場に持ち込まれる状況が続いております。このままで推移しますと、引取処理経費の倍増が避けられない状況にあります。そこで、教室でのゴミの減量化へのお願いと分別を徹底していただくため、ゴミ箱が4個そろっていない教室には補充し、分別種類についても説明の表示（別表）を行いますので、ご協力の程よろしくお願いたします。準備ができ次第、学生係から配付します。

なお、ゴミ箱の数を減らしている特別な理由（例えば、クラスの方針として、ペットボトルは個人処理とし、教室では回収しないなど）により現在の数で分別を行う場合は、10月21日までに学生係宛その旨をご連絡下さい。

また、各クラスでは当番制などにより、責任を持って分別を確認のうえ集積場へ持ち込むよう、運用方法についてもご検討下さるよう、併せてお願いします。

※一方でゴミ減量化や売店への返却を求めながら、教室でペットボトルや缶の収集を行うことは相反するのご指摘もあるかと思いますが、一気に問題解決を計るにはそれなりの準備期間と労力を必要としますので、当面は分別用のゴミ箱を揃え、分別種類を明記することで対応しようとするものです。

各クラスゴミ箱の設置及び分別状況について

クラス	ゴミ箱の種類				設置数	教室での分別状況
	燃えるゴミ	飲料缶	ペットボトル	プラスチック		
1-1	○	●	●	●	4	燃えるゴミ以外はいろいろ混在
1-2	○	○	●		3	Pボトルとビニール類の混在
1-3	○	○	●		3	Pボトルとカップ麺容器の混在
2-1	○	○	●		3	Pボトルと缶の一部混在
2-2	●	●●●3連結		●	3	分別されていない
2-3	○	○	●	○	4	Pボトルとカップ麺容器の混在
ME3	●●●3連結	○	○		3	燃えるゴミにカップ麺容器の混在
IE3	○	●			2	缶とビニールの混在
CA3	●●2個	●	●	●	5	分別されていない
ME4	○	●	●	○	4	Pボトルと缶の混在
IE4	○	○		●	3	不燃物にPボトルの混在
CA4	○	●●2連結		○	3	Pボトルと缶の混在
ME5	●	●		●	3	分別されていない
IE5	○			○	2	
CA5	●		●		2	分別されていない

出典：学生主事室資料

## 資料 2-2-③-8 寮務係による学級担任支援例

----- 2006年4月26日付けメール -----

From: 寮務係 <gakuryou@tokuyama.ac.jp>  
 To: kimura@tokuyama.ac.jp, n-ikeda@tokuyama.ac.jp,  
 Subject: 欠席の報告  
 Date: Wed, 26 Apr 2006 08:43:19 +0900 (JST)

下記の学生は今日【2006/04/26(水)】

【風邪】のため【欠席】します。

3-CA : XXXXXXXXXX

寮務係

出典：寮務係メール

課外活動については、原則として全教員が顧問を務めており、必要に応じて、学生主事が中心となり、課外活動の指導に関する意見交換や調整を行なうためのクラブ顧問会議（資料 2-2-③-9）や、クラブリーダー研修会（資料 7-1-⑥-10）などを通して、顧問教員の支援を行っている。なお、主に後援会費によって、顧問教員の時間外指導従事手当や引率旅費についての財政支援も行われている（資料 2-2-③-10）。また、平成 17 年度からはクラブ活動引率のためのレンタカー利用（資料 7-1-⑥-5）も可能となり、顧問教員の便宜が図られている。

## 資料 2-2-③-9 クラブ顧問会議による顧問支援例

## クラブ顧問会議事録

1. 開催日時 平成 17 年 7 月 4 日（月） 16:30～17:20
2. 開催場所 管理棟 2 階大会議室
3. 出席者 上, 室長, 小田, 齊藤, 原田徳, 山田, 佐賀, 石田, 原田幸, 兼重, 柏倉, 島袋, 守川, 藤田, 義永, 池田光, 櫻本, 杉村, 藤本, 学生課長, 学生係長, 坂本, 金子, 田中
4. 欠席者
5. 議事要旨
  - (1) クラブ活動におけるレンタカーの使用要領について
    - ・島袋主事補より資料に基づいて説明が行われた。
    - ・10月頃の使用状況を見て調整を行う。
    - ・プリウスを使用した場合の高速料金は後援会が支払う。
    - ・ロボコン等には使用出来ない。
    - ・休業補償の負担もありうる。（確認中）
  - (2) 第 41 回中国地区高専体育大会（大島, 米子, 広島会場）について
    - ・別添資料により説明が行われた。
    - ・共通事項を説明した後、各会場に分れて打合わせが行われた。
  - (3) 全国高専体育大会について
    - ・どこまで前々泊を認めるのか。（卓球）
      - 東京以北は前々泊を認める。
      - 東京都内は前々泊を認めない。
    - ・勝ち上がるにつれて宿泊日数が多くなるため補助をして欲しい。（サッカー）
      - 後援会の予算等の兼ね合いがあるため検討する。
    - ・雨天時で試合が延びた場合の負担はどうなるのか。（ソフトテニス）
 前例としては硬式野球では全額負担であった。

## クラブ顧問会議（案）

1. 開催日時 平成 17 年 2 月 2 日（水） 17:25～18:20

2. 開催場所 管理棟 2階大会議室  
 3. 出席者 上, 和田, 小田, 原田徳, 佐賀, 石田, 原田幸, 兼重, 桑嶋, 島袋, 守川, 藤田, 義永, 池田光, 櫻本, 学生課長, 学生係長, 学生係 田中  
 4. 欠席者 山田健  
 5. 議事要旨

(1) 中国地区大会運営委員会議題の確認について  
 ・和田体育教員より別添資料に基づいて説明  
 剣道, 陸上, 硬式野球, ソフトテニス部の顧問教員に別添資料の各競技の議題について確認を行った。  
 その他の全クラブに共通する議題についても全クラブ顧問教員に確認を行った。

(2) 中国地区大会の宿泊費について  
 ・上学生主事より説明  
 前回の中国地区大会運営委員会で各高専に宿泊費の検討を依頼したところ, 各高専で意見が様々であった。  
 各高専の意見が統一され低料金になるように運営委員会に諮りたい。  
 サッカー部顧問より参加校で独自に宿舎を選択できるようにしたらどうかという提案があった。  
 (温泉地で宿泊費 7,000円は可能である。)

(3) 専体協競技運営委員会の報告  
 ・和田教員より説明  
 経費削減について  
 18年度の全国大会より予算額を10%減額する。  
 体育大会の見直しについて

出典：学生係資料

資料 2-2-③-10 後援会によるクラブ顧問教員支援実績 (顧問名は伏せて掲載)

目	予算額 円	支出済額 円	摘 要
ク ラ ブ 関 係 経 費	3,850,000	4,167,122	コーチ謝金 600,000
			各協会連盟登録料及び参加料 1,199,090
			クラブ指導費 2,236,032
			合宿指導費 132,000
			全国高専体育大会参加費補助 3,338,986
体 育 大 会	6,222,000	6,949,957	中国地区高専体育大会参加費補助 2,129,834
			中国地区高専文化連盟行事参加費補助 828,584
			西日本地区高専大会参加費補助 247,870
			中国・全国高体連参加費補助 404,683
			会費及び分担金 651,000
小 計	10,723,000	11,768,919	全国高専体育大会分担金補助 231,840
			中国地区高専体育大会分担金補助 420,000

クラブ指導費支給内訳

(平成17年4月～平成17年6月 校外指導分)

校外指導手当は8割支給を行う。

なお、クラブ指導費の予算額180万円に残額が生じた場合は、最終支払で調整を行う。また、クラブ指導費のクラブ毎の上限額を30万円とする。(校外・校内指導手当の)

クラブ名	受給者氏名	クラブ指導従事日等	計算額	2割減額	支給額
陸 上		5/3, 5/4	6,400	1,280	5,120
		4/10, 5/3, 5/4, 5/20-22, 5/22, 6/25	43,040	8,608	34,432
		5/14	1,300	260	1,040
		4/10, 5/14, 6/25	7,700	1,540	6,160
バスケ		4/16, 4/17, 5/8, 6/4, 6/5	21,949	4,389	17,560
		4/16	2,863	572	2,291
バレー		4/9, 4/16-17, 5/14, 6/4-5	26,380	5,276	21,104
		5/14, 6/4-5	13,120	2,624	10,496
		4/16-17	11,500	2,300	9,200
卓 球		4/29, 5/1, 5/3, 5/4, 5/5, 5/6-8, 5/8	58,300	11,660	46,640
		6/4, 6/5, 6/6, 6/12, 6/26			

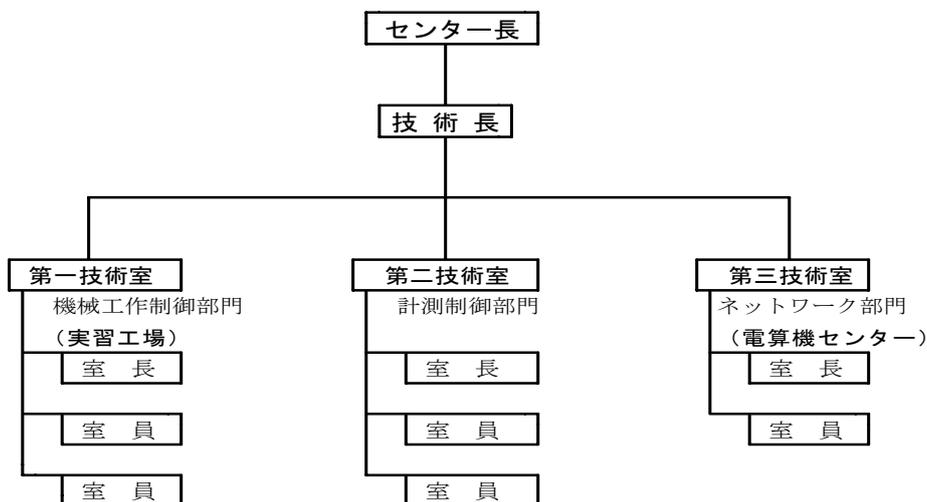
出典：学生係資料

これらの支援体制には、事務職員および技術職員45名も含まれており、教員と緊密な協力体制を取りつつ、全校一体となって運営されている。

- (1) 学生課には以下の組織を置き、教育活動への支援を行っている。  
学生係、教務係および寮務係（資料1 1-1-②-2）
- (2) 「教育研究支援センター」の3技術室において、機械工作部門に4名（含む技術長）、計測制御部門に3名、ネットワーク部門に2名の技術職員を配置し、「実験」「実習」および「研究」等を支援している。その内訳を以下に示す（資料2-2-③-11）。
- ・授業に用いる設備・装置の維持管理と授業の補佐
  - ・授業時間内外における学生・教職員に対する技術的な支援
  - ・ロボコン、高専祭、創造演習等、学生の創造活動具現化の支援
  - ・「テクノ・リフレッシュ教育センター」資料はテクノセンターレポートに記述
- (3) 学生相談室を設置し、4人の常勤教員の相談員に加えて、常勤の看護師および非常勤のカウンセラーを配している（資料7-2-①-1）。
- (4) 進路支援室を設置し、室長ほか、4名のキャリアアドバイザー（教員）および事務職員を配置し、学級担任の進路指導の支援および学生に対する進路等（就職・進学相談、情報の提供等）の指導を行っている（資料7-2-④-1）。
- (5) 学習・教育レビュー室を設置し、教員のほかに室員として事務職員を配置して支援している（資料2-2-①-7）。

資料2-2-③-11 教育研究支援センターの詳細

### 教育研究支援センター組織図



センター長（土木建築工学科教授）	原 隆
技 術 長（実習工場：技術専門員）	村上洋士
【第一技術室】（実習工場）	
室 長（技術専門職員）	西山芳明
室 員（技術専門職員）	中村金良
室 員（技術職員）	石川善丈
【第二技術室】	
室 長（情報電子工学科：技術専門職員）	山本孝子
室 員（土木建築工学科：技術専門職員）	福田 靖
室 員（情報電子工学科：技術職員）	寺西 信
【第三技術室】（電算機センター）	
室 長（技術専門職員）	鳥居恵子
室 員（技術職員）	林 嘉雄

### 第一技術室

		業 務 内 容
工 作 実 習		内容立案 備品・材料の選定 計画集・安全手帳作成 ME 1・ME 2・CA 4及び留学生の指導 レポート点検
卒業研究及び教官研究等の支援		安全点検 切削工具等選定 各種機械操作指導 実験用装置および実験用試験片製作 実験用装置製作指導 実験用試験片製作指導
創造製作		ME 2・ME 3の設計・製作指導 材料・使用工具選定 備え付け部品・工具の補充と管理 切削工具の修理・管理 精密部品製作
安全 管 理	定期自主点検	シャー切断機・油圧プレス・クレーン等特殊機械 実習工場各機械保守点検
	安全資格	ガス溶接，アーク溶接，玉掛け，危険物取扱，研削と いし取扱，プレス機械取扱
	危険物等管理	切削油・潤滑油・灯油 C <sub>2</sub> H <sub>2</sub> ・O <sub>2</sub> ・Ar・CO <sub>2</sub> 等ボンベの保管
テ ク ノ	ジュニア科学教室	教材製作・製作指導
	技術相談	地場企業からの技術相談
	夢広場	支援および主催
ロ ボ コ ン	N H K	設計製作指導 適正部品選定 精密部品の製作
	学 内	設計製作指導 適正部品選定 製作用具管理
研究発表及び研修等		研究紀要論文発表 高専教育論文発表 電気学会研究発表 技術研究会発表（国立研究機関，国立大学） 中国地区国立高等専門学校技術職員一般研修 西日本地区国立高等専門学校機構職員特別研修会

出典：教育研究支援センター資料

（分析結果とその根拠理由） 機能している。

教員が行う教育活動を支援するため，人的・物的・経済的な面からさなざまな方策が採られてお

り、支援体制は十分に機能している。これらの体制の目的や組織規定は運営組織規則に定められている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・時代に適合した複合学科を採用している。
- ・準学士課程と専攻科課程が1：1に対応している。
- ・教育課程全体を企画・調整する役割を総合企画室が主として担っている。
- ・科目間調整会議が効果的に機能している。
- ・全学的に英語の資格試験を導入した。
- ・教育制度改善に係るさまざまな試みや、JABEE認定にともなう質的保証の積極的な取り組みがなされている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準2の自己評価の概要

準学士課程は、機械電気工学科、情報電子工学科、土木建築工学科の3つの複合学科で構成されており、専攻科課程は準学士課程と1：1に対応する3つの専攻、機械制御工学専攻、情報電子工学専攻、環境建設工学専攻で構成されている。本校の教育の目的は、「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」であり、学科／専攻の構成は、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

本校には、これらの教育を支援する全学的な施設として「情報処理センター」「教育研究支援センター」および「テクノ・リフレッシュ教育センター」が設置されており、本校の教育の目的を達成する上でそれぞれが重要な役割を果たしている。

教育課程全体を企画・調整する役割は総合企画室が主として担っており、将来計画委員会とFD委員会が役割を一部分担している。また、その運営の方向づけと最終決定は、運営委員会が担っている。実際にどうするか審議するのが準学士課程は教務委員会、専攻科課程は専攻科委員会で、二つに共通する話題は教務・専攻科合同委員会ならびに科目間調整会議で検討が行われる。さらに、それを有効に展開するため、学内では学習・教育レビュー室が、学外関係者では顧問会議がそれにあたっている。

教育活動を支援する体制としては、学級担任の学生指導の支援を学生相談室や進路支援室が担っている。また、各学年の学級担任のなかに代表をおくことにより、各学年担任の意見交換のできる場を設けている。これらの事務的な裏づけとして、事務部学生課が大きな役割を果たしている。

### 基準3 教員及び教育支援者

#### (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

- ・ 一般科目は主として、教養科目としての国語や英語の語学、数学、物理、化学、生物学などの理科系科目や地理、歴史、政治経済学などの社会科学系科目によって構成され、それぞれの専門分野を担当する専任教員14名および非常勤教員22名が、学習・教育目標に沿って、各分野に適切に配置されている(資料3-1-①-1, 2)。
- ・ 「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」の教育目的を達成するため、学生の国際感覚を養い、視野を広げるためにも選択科目の幅を広げ、2年生では、書道、工芸、美術、音楽などの芸術分野が選択できるように、また4、5年生では、西洋史、心理学、言語学概論、ドイツ語、中国語などの幅広い人文系や言語などの選択科目、専門科目の基礎をつかさどる生物、物理、化学、環境科学、健康科学などの科目を配し(資料2-1-①-2)、そのための教員が配置されている(資料3-1-①-1)。
- ・ 英語教育においては、平成18年度から英語教員の1人が人事交流(資料3-1-②-3)による出向で研修を積んでいる常勤の不足を補い、世界に通用する人材の育成として、国際感覚ある英会話教育のために、ネイティブスピーカー3名の非常勤教員による英会話教育等を実施している。
- ・ 国語については、教育目的の達成のために実践力のある技術者としての素養を養い、コミュニケーション能力を高めるために、4年生で日本語コミュニケーションの授業が行われている(資料5-2-①-1)。
- ・ 常勤教員と非常勤教員の教育連携を図るため懇談会(シラバスの書き方、成績評価資料のまとめ方、学生による授業アンケートの方法等)を行っている(資料3-1-①-3)。
- ・ 実践力のある開発型技術者の育成のためには、基礎科目として数学や物理学の充実が重要であり、それらに関して、平成15年に「科目間調整会議」(資料5-1-①-1, 2)を設置し、一般科目の教員と専門科目の教員が相互に乗り入れ、系統的な授業がなされる工夫をしている。その一例として、数学および物理のカリキュラム系統図と講義内容を資料3-1-①-4に示す。

資料 3 - 1 - ① - 1 一般科目担当教員配置

(1) 常勤教員

一般科目

社会	吉田 輝	西洋哲学	倫理、ドイツ語、世界思想史
	柏倉 知秀	歴史	歴史、世界経済、西洋史
数学	秋吉 康光	数学、数理物理学	数学ⅠA、数学ⅢA、ベクトル解析
	原田 幸雄	数学	数学ⅡA、数学ⅢB、微分方程式、微分積分学
	長廣 恭子	物理、数学	数学ⅠB、数学ⅢB、微分方程式
理科	室長 大應	科学教育(物理)、教育工学	力学、基礎物理Ⅰ、基礎物理Ⅱ
	大橋 正夫	固体化学	化学Ⅰ、化学Ⅱ、物理化学
	天内 和人	発生遺伝学	科学基礎、生物学、化学Ⅲ
英語	国重 徹	英語	言語学概論、基礎英語R、英語特別演習
	桂 哲男	英語	総合英語ⅡR、英語特別演習(Ⅰ)、総合英語演習Ⅰ、総合英語演習Ⅱ
国語	谷本 圭司	中国文学	国語総合Ⅱ、中国文学
	一色 誠子	日本近代文学	国語総合Ⅰ、国語総合Ⅱ、日本語コミュニケーション
	加田 謙一郎	近世国文学	国語総合Ⅱ、人文・社会特講Ⅰ(日本文学)、人文・社会特講Ⅱ(日本現代文学)
保健体育	齊藤 一彦	スポーツ教育学、国際教育協力学	保健、体育

(2) 非常勤教員

平成 18 年度非常勤講師				
番号	氏名	期間	学科等	本務
1	田中数恵	通年	英語(公募)	私立大学教員
2	中光義亮	通年	英語(公募)	私立大学教員
3	北野弘子	通年	英語	なし
4	トニー・ルトウク	通年	英語	民間等
5	ペリー・チャインバース	通年	英語	民間等
6	ペニー・オマニ	通年	英語	民間等
7	谷國晶洋	通年	英語	なし
8	山本博徳	通年	体育	元高校教員
9	田中富美子	通年	体育	元高校教員
10	和田實	通年	体育(公募)	元高専教員
11	大竹義則	通年	地理	私立大学教員
12	佐伯喜誠	通年	芸術(公募)	なし
13	山田哲生	通年	芸術	民間等
14	藤川文子	通年	芸術	元中学教員
15	古川昭夫	通年	芸術(公募)	なし
16	好村友江	通年	国語	元私立大学教員
	好村友江	通年	日本語	元私立大学教員
17	徳永彩理	通年	中国語	なし
18	渡邊基	通年	歴史	元高校教員
19	小川礼子	通年	政治・経済	なし
20	光本容子	通年	心理学(公募)	なし
21	池川哲治	通年	健康科学(公募)	私立大学教員
22	小田宮章夫	通年	環境科学	元高専教員

出典：庶務課資料

## 資料3-1-①-2 一般科目教員の専門分野一覧

職名	氏名	研究テーマ	専門分野	校務
教授	吉田 輝	相互主観性の問題点 超越論的領域における理性と現実	西洋哲学	
教授	秋吉 康光	超準測度論 反強磁性体の2次元長周期構造モデル	数学 数理物理学	1年2組担任
教授	室長 大應	英国におけるゼネラルサイエンス運動に関する研究 物理教育の組織化に関する研究	科学教育(物理) 教育工学	eラーニング推進支援室長 情報処理センター参事 1年1組担任
教授	原田 幸雄	退化型の楕円および放物型偏微分方程式の解の正則性について	数学	一般科部主任
教授 理学博士	大橋 正夫	二次電池正極活性物質の合成と特性	固体化学	専攻科長
教授	国重 徹	文法カテゴリーのメタファーによる拡大について	英語	将来計画委員長 学生相談室相談員
助教授	桂 哲男	ユージーン・オニール研究・アメリカ演劇	英語	テクノ・リフレッシュ教育副センター長
助教授 学術博士	天内 和人	生物の発生に関わるシグナル伝達系の機能解析	発生情報遺伝学 発生工学	図書館長 寮務主事補
助教授	谷本 圭司	中国宋代文学研究	中国文学	1年3組担任
助教授	一色 誠子	室生犀星作品研究	日本近代文学	進路支援室キャリアアドバイザー 図書館参事
助教授	加田 謙一郎	近世から近代への移行期における小説作品研究	近世・近代国文学	総合企画室主務
助教授	齊藤 一彦	アラブ諸国のスポーツ教育システムに関する研究 開発途上国への教育協力方策に関する研究	スポーツ教育学 国際教育協力学	学生主事補 eラーニング推進支援室 インストラクター
講師	長廣 恭子	開水路流れの可視化法を用いた流況解析 物理教育における数学的概念の導入	物理, 数学	教務主事補
講師	柏倉 知秀	西洋中世史	歴史	専攻科教養・専門基礎科目担当幹事 学習・教育レビュー室エグゼクティブ

出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/introduction/staff.html>

資料3-1-①-3 常勤教員と非常勤教員の懇談会資料

平成16年5月18日

非常勤講師 各位

徳山工業高等専門学校長 天野 徹  
【公印省略】

非常勤講師との懇談会への参加について（依頼）

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の学修教育に関しまして熱心なご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本校ではJABEE認定校として恥ずかしくない教育水準を維持し続けていくため教育改革及び教授方法等の改善を行っておりますが、この度、非常勤講師の先生方との懇談会を下記のとおり開催することとなりました。

この会では、学校の現状報告及び授業等に対するご意見をお伺いし、教育方法の改善を図ることを目的に開催いたします。

については、ご多忙のところとは存じますが是非ともご出席くださいますようお願いいたします。

なお、旅費等の支払い準備のため、ご出欠について5月24日(月)までに電話・FAX又は返信用封筒でご回答願います。

敬具

記

日 時：平成16年5月26日(水) 16:10～18:00

場 所：本校 管理棟2階会議室

参加者：非常勤講師および本校教員

本件の連絡先 学生課教務係

電話 0834-29-6232

ファックス 0834-29-6161

メールアドレス kyoumu@tokuyama.ac.jp

平成16年5月18日

非常勤講師 各位

徳山工業高等専門学校  
教務主事 森野 教博  
【公印省略】

アンケート調査実施のご協力について（お願い）

非常勤講師の先生方には日頃より本校教育指導にご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本校では授業中における修学態度が目に見える学生も見受けられるとの指摘が従来から寄せられており、教育方法改善の一環として別添のアンケート調査の実施を計画しました。

については、非常勤講師の先生方には外部識者からみた本校の学生に対するご意見及び本校に対する忌憚のないご意見を別紙のアンケートによりお聞かせ願いたいと存じます。

なお、アンケート用紙は同封の返信用封筒にて5月24日(月)までに学生課教務係へ送付願います。また、別途ご案内しました懇談会へご出席の際は、旅費等の支払いのため印鑑をご持参願います。

出典：教務係資料

資料 3-1-①-4 数学及び物理のカリキュラム系統図と講義内容

徳山高専数学系統図と講義内容(平成18年度)



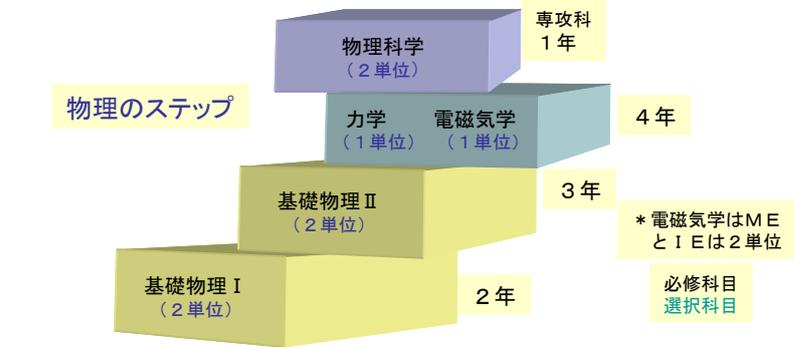
必修科目  
選択科目

講義内容

(抜粋、詳細はシラバス参照)

<p><b>数学 I A</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2次関数のグラフ</li> <li>分数関数、無理関数</li> <li>分数不等式、無理不等式</li> <li>逆関数</li> <li>指数関数、対数関数</li> <li>三角比</li> <li>三角関数のグラフ</li> <li>加法定理</li> <li>三角方程式、不等式</li> </ol> <p>教科書 基礎数学 (大日本図書) 担当 秋吉康光</p>	<p><b>数学 II A</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関数の極限</li> <li>導関数の公式</li> <li>三角関数の導関数</li> <li>対数関数の導関数</li> <li>平均値の定理</li> <li>関数の最大・最小</li> <li>接戦と法線</li> <li>曲線の凹凸</li> <li>定積分と不定積分</li> </ol> <p>教科書 微分積分 I (大日本図書) 担当 原田幸雄</p>	<p><b>数学 III A</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>置換積分・部分積分</li> <li>分数・無理関数の積分</li> <li>三角関数の積分</li> <li>面積・立体の体積</li> <li>曲線の長さ</li> <li>広義積分</li> <li>多項式による近似</li> <li>級数</li> <li>テイラー展開</li> </ol> <p>教科書 微分積分 I・II (大日本図書) 担当 藤田・秋吉・日南住</p>	<p><b>微分積分学</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>偏導関数</li> <li>高次偏導関数・全微分</li> <li>2変数関数の極値</li> <li>陰関数の極値</li> <li>2重積分</li> <li>極座標による2重積分</li> <li>2重積分の変数変換</li> <li>2重積分の広義積分</li> <li>2重積分の応用</li> </ol> <p>教科書 微分積分 II (大日本図書) 担当 飛車・原田・橋本</p>	<p><b>微分方程式</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>微分方程式の意味</li> <li>変数分離形</li> <li>3次形</li> <li>1階線形微分方程式</li> <li>完全微分方程式</li> <li>1階微分方程式の応用</li> <li>2階線形微分方程式</li> <li>定数係数2階微分</li> <li>線形でない2階微分</li> </ol> <p>教科書 微分積分 II (大日本図書) 担当 原田・長廣・重松</p>
<p><b>数学 I B</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>整式</li> <li>因数分解</li> <li>分数式、比例式</li> <li>実数、複素数</li> <li>2次方程式の解</li> <li>分数方程式、無理方程式</li> <li>等式の証明</li> <li>2次不等式</li> <li>不等式の証明</li> </ol> <p>教科書 基礎数学 (大日本図書) 担当 長廣恭子</p>	<p><b>数学 II B</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>三角関数の加法定理</li> <li>円・楕円の方程式</li> <li>不等式と領域</li> <li>順列・組合せ</li> <li>等差数列、等比数列</li> <li>漸化式と数学的帰納法</li> <li>平面ベクトル</li> <li>空間ベクトル</li> <li>直線・平面・球の方程式</li> </ol> <p>教科書 基礎数学・線形代数 (大日本図書) 担当 日南住 博</p>	<p><b>数学 III B</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>行列とその演算</li> <li>転置行列、逆行列</li> <li>掃き出し法</li> <li>行列式の性質と展開</li> <li>クラームルの公式</li> <li>線形変換</li> <li>固有値、固有ベクトル</li> <li>対称行列の対角化</li> </ol> <p>教科書 線形代数 (大日本図書) 担当 原田・義永・長廣</p>	<p><b>ベクトル解析</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>空間のベクトル</li> <li>ベクトル関数</li> <li>曲線</li> <li>曲面</li> <li>スカラー場とベクトル場</li> <li>発散と回転</li> <li>グリーンンの定理</li> <li>面積分</li> <li>ガウスの発散定理</li> <li>ストークスの定理</li> </ol> <p>教科書 応用数学 (大日本図書) 担当 秋吉康光</p>	<p><b>確率・統計</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>順列・組合せ</li> <li>確率・条件付き確率</li> <li>確率変数・平均・分散</li> <li>2項分布・分布</li> <li>連続型確率変数</li> <li>正規分布</li> <li>資料の整理</li> <li>母集団と標本</li> <li>母平均の区間推定</li> </ol> <p>教科書 教科別：シラバス参照 担当 飛車・池田・日南住</p>
<p><b>応用統計学</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>度数分布</li> <li>相関係数と回帰直線</li> <li>確率分布</li> <li>正規分布</li> <li>X<sup>2</sup>分布、t分布など</li> <li>標本分布</li> <li>区間推定</li> <li>仮説検定</li> <li>母相関係数の推定</li> </ol> <p>教科書 新統計入門 (裳華房) 担当 飛車来人</p>	<p><b>工学解析</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>関数とグラフ</li> <li>行列とその応用</li> <li>多項式とその応用</li> <li>FFTとその応用</li> <li>常微分方程式の解法</li> <li>偏微分方程式とその応用</li> <li>シミュレーションと制御入門</li> </ol> <p>教科書 Octaveを用いた数値計算入門 担当 原 隆</p>	<p><b>離散数学</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>基本的証明法</li> <li>整数の基本的性質</li> <li>合同式</li> <li>整数の暗号への応用</li> <li>有限体と拡大体</li> <li>符号</li> <li>有限体の誤り訂正符号への応用</li> </ol> <p>教科書 情報数学の基礎 (サイエンス社) 担当 義永常宏</p>	<p><b>Engineering Mathematics</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Fundamental concepts</li> <li>Ordinary differential equations</li> <li>Applications of differential equations</li> <li>Linear differential equations</li> <li>Applications</li> <li>Multiple, line and surface integrals and integral theorems</li> <li>Matrices</li> </ol> <p>教科書 Advanced Mathematics for Engineering and Scientists (McGraw-Hill) 担当 飛車来人</p>	

徳山高専  
物理系統図と講義内容  
(平成18年度)



講義内容 (抜粋、詳細はシラバス参照)

基礎物理 I		基礎物理 II	
1. 速度・加速度	10. 位置エネルギー	1. 電場と導体	10. 交流回路
2. 自由落下運動	11. エネルギー保存の法則	2. 電位	11. 電気振動
3. 放物運動	12. ボイル・シャルルの法則	3. コンデンサー	12. 真空放電と陰極線
4. 力の合成・分解	13. 熱と仕事	4. オームの法則	13. 光電効果
5. 運動の法則	14. 波の伝わり方	5. 直流回路	14. X線とその粒子性
6. 剛体にはたらく力	15. 重ね合わせの原理	6. ジュールの法則	15. 原子の構造
7. 運動量保存の法則	16. 波の反射・屈折・回折	7. 電磁誘導	16. 水素原子のエネルギー準位
8. 仕事	17. 音と音波	8. 交流	17. 放射線とその性質
9. 運動エネルギー	18. 光と光波	9. 相互誘導・自己誘導	18. 核反応と核エネルギー
教科書 新物理学 (学術図書)		教科書 新物理学 (学術図書)	
担当 室長 大鷹		担当 室長大鷹・石田浩一	

力学	電磁気学	物理科学
1. ニュートンの運動の法則	1. ガウスの定理	1. 現代物理学の業績
2. 運動の表し方 (座標系)	2. 電界と電位	2. 科学・技術・社会(STS)
3. 運動方程式	3. 静電容量	3. 特殊相対性理論(1)
4. いろいろな運動	4. 誘電体	4. 特殊相対性理論(2)
5. 運動量・角運動量	5. 電流と抵抗	5. 原子核と素粒子
6. 仕事とエネルギー	6. ビオ・サバールの法則	6. 一般相対性理論
7. 剛体と回転運動	7. 電磁誘導	7. 量子力学(1)
8. 連続体の力学	8. インダクタンス	8. 量子力学(2)
9. 運動法則の一般化	9. マクスウェルの方程式	
教科書 力学とは何か (裳華房)	教科書 基礎電磁気学(電気学会)	教科書 現代物理学 (裳華房)
担当 石田・室長	担当 逆瀬川・重安・武平	担当 室長大鷹

出典：本校シラバス

(分析結果とその根拠理由)

- ・教育目的に沿って、担当する授業科目を研究テーマとする常勤教員と経験豊かな非常勤教員が適切に配置されている。
- ・常勤と非常勤教員との連絡会や科目間の連絡調整会議により教育連携が図られている。
- ・改善点として、教育目的からすれば国際的に通用する英語教育のいっそうの充実が望まれ、英語教育専門のネイティブスピーカーの常勤教員としての採用が望まれる。

以上のことから、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

- 本校は「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」を養成する複合学科を有するため、専門学科の定員が、通常の高専における単独学科の5割増である17名となっており、3学科で専任教員42名（他に助手9名）、非常勤教員12名（平成18年度前期）が配置され、充実している（資料3-1-②-1, 2）。それぞれの学科においては、学科を構成する各分野に教員が適切に配置されている。
- 目的のうち、「実践力のある開発型技術者の育成」に対しては、各専門科目に該当する専任教員が授業を担当しており、博士42名のほか、技術士3名、一級建築士3名、APECエンジニア1名などの技術者資格を有するか、民間企業で技術開発に従事していた経歴をもつ常勤教員が14名、在籍している（資料3-1-④-2）。
- 非常勤教員については、実務や開発に詳しいテクノ・アカデミア会員、技術士、一級建築士などの資格をもつ非常勤教員25名（平成17年度）が専門授業科目を担当しており、常勤との連携により専門教育が行われている。
- 全国に先駆け、平成16年度から17年度にかけて、専門科目担当教員の教員人事交流を呉高専と実施した。
- 平成18年度からは高専機構の人事交流が開始され、今年度は一般科目英語1人の出向に対して、一般科目国語、情報電子工学科、機械電気工学科に他高専から3人の教員を迎えた。なお、長岡技術科学大学にも機械電気工学科から1人出向している（資料3-1-②-3）。

資料3-1-②-1 専門科目担当教員配置

機械制御工学専攻		
材 料 系		
教 授	藤満 達朗	高温および腐食環境下における金属材料の疲労強度特性に関する研究 切欠きを有する金属材料の疲労強度特性に関する研究
教 授	森野 数博	プラズマ表面改質材を用いた超高サイクル疲労破壊機構の解明 疲労および摩耗・腐食特性に優れたプラズマ表面改質材の研究開発 広範囲な応力下における疲労現象の統一的解釈に関する研究 さまざまな産業機械や構造物の開発研究ならびに問題解決
助教授	小田 和広	有限要素法による界面き裂問題の高精度解析に関する研究 三次元き裂の同定に関する逆問題解析的研究

エネルギー系		
教 授	門脇 重道	メカトロニクスに必要な創造性の向上技術に関する研究
教 授	伊藤 尚	自然エネルギーを応用したものづくり教育に関する研究 PICを用いたメカトロニクス教育に関する研究
教 授 助教授	藤田 重隆 張間 貴史	中央に配置された長方形切欠による長方形噴流の制御 噴流中心間距離が異なる2円形自由噴流の混合拡散過程 複数の切欠による二次元噴流の制御 長方形ノズル角部の形状変化が長方形噴流の発達特性へ与える影響 水槽による長方形切欠噴流の流れ場の可視化
助教授	池田 光優	多成分燃料における噴霧特性および燃焼特性に関する研究 軽油・水乳化燃料の燃焼特性に関する研究
助教授	飛車 来人	弾性体と流体の数値的なシミュレーション 等角写像とリーマンの関数論

計測 制御系		
助教授	櫻本 逸男	人工関節の機能高度化に関する研究 生体組織の機械的性質に関する研究
助教授	兼重 明宏	搬送システムの制御系設計に関する研究 離散事象システムの解析・設計に関する研究
講 師	石田 浩一	うず電流の利用と応用に関する研究 基礎工学教育プログラムの開発と応用に関する研究
助 手	藤本 浩	工学教育における創造教育に関する研究
助 手	逆瀬川 栄一	誘導電動機の世界速度センサレスベクトル制御に関する研究 永久磁石同期電動機のベクトル制御に関する研究
助 手	森崎 哲也	圧電素子を用いた構造物のヘルスマニタリングシステム開発に関する研究

情報電子工学専攻		
コンピュータ・通信系		
教授 教授 助教授 講師 助手	神田 徳夫 江口 賢和 原田 徳彦 重村 哲至 新田 貴之	組合せ論理回路の最適設計に関する研究
		データベースシステムに関する研究
		動的再構成可能システムに関する研究
		インターネットファイルシステムに関する研究
		有限差分時間領域法による電磁界解析用ソフトウェアの開発
		有限差分時間領域法を用いた電子回路教育ソフトウェアの開発
		学習支援システムに関する研究

情報機器制御系		
教授 教授 教授 教授	重安 邦之 百田 正広 大橋 正夫 山田 健仁	動画処理に関する研究
		コンピュータによる機器制御に関する研究
		画像処理による各種計測に関する研究
		ワンチップマイコンを用いた計測制御装置の開発
		二次電池正極活物質の合成と評価

知識情報系		
教授 助教授 助教授 助教授	池田 信彦 義永 常宏 奥本 幸 天内 和人	ニューラルネットワークの数理的研究
		ニューラルネットワークの工学的応用研究
		音楽情報処理に関する研究
		オートマトンの計算能力に関する研究
		ゲームプレイヤモデルに関する研究
		画像認識に関する研究
		生体情報機能の解析 複雑系の数理，特に免疫系，脳，エージェントなどの生物型情報システムの研究

環境建設工学専攻		
構 造 系		
教授 教授 助教授	重松恒美 原 隆 田村隆弘	鋼構造物の耐荷力特性に関する研究
		構造物の動的挙動に関する研究
		鉄筋コンクリート構造のせん断耐力に関する研究
		鉄筋コンクリートシェル構造の特性に関する研究
		構造解析における数値計算手法の研究 歴史的建造物の構造解析

材 料 系		
教 授	工藤洋三	リモートセンシング技術を用いた都市のモニタリングに関する研究
		航空写真を用いた旧市街地図の復元
		岩石・コンクリートなど岩質材料の力学的特性に関する研究
教 授 助 手	橋本堅一 島袋 淳	圧縮荷重下のき裂の進展挙動に関する研究
		建設材料を用いた応力集中部材とその破壊挙動に関する研究
		構造材料としての竹の材料特性に関する研究
		カルシウム系固化材を利用したコンクリートの性質に関する研究
		藁場造成を目的としたコンクリートブロックの開発
界面き裂の安全性に対する評価		

土 質 系		
教 授 教 授	藤原東雄 上 俊二	フィルターを用いた斜面の保護工法に関する研究
		廃材を用いた防草材、緑化基盤材の開発に関する研究
		サンドコンパクション工法における砂杭の造成メカニズムに関する研究
		団粒化剤とセメント系固化材を用いた地盤改良に関する研究
		粘土の年代効果（二次圧密、セメンテーション）に関する研究
破砕性地盤の変形及び支持力発現機構に関する研究		

水 理 系		
教 授 教 授 助 教 授	大成博文 佐賀孝徳 渡辺勝利	物体周りの組織構造に関する研究
		河岸周辺のせん断乱流構造に関する研究
		ダム湖および海域の水質浄化に関する研究
		マイクロバブルによる抵抗軽減ならびに水産養殖に関する研究
		複断面開水路流れの乱流特性の解明と制御に関する研究
		椀型粗面開水路流れの乱流構造に関する研究
開水路乱流に形成された大規模組織構造の時空間特性と流体力学的特性		

建 築 系		
助 教 授	古田健一	住み替えによる住宅変化および居住地移動に関する研究
		公的賃貸住宅の住み替えシステムに関する研究
助 教 授	熊野 稔	景観法による景観計画策定手法に関する研究
		外国人観光客を対象とした観光まちづくり手法に関する研究
		G I Sによる都市環境管理計画支援システムに関する研究
助 手	佐々木伸子	都市農村交流、「道の駅」および廃校活用等による地域振興
		地域資源を活用した通所介護施設の計画に関する研究
		公共空間におけるユニバーサルデザインの導入方法に関する研究

出典：庶務課資料

資料 3-1-②-2 専門分野との適合性を示す専任教員・非常勤教員別配置状況一覧表

機械電気工学科

職名	氏名	研究テーマ	専門分野	校務
教授 博士(工学)	門脇 重道	地球環境と共存しうる技術システムの検討 3次元 CAD/CAM システムによる製図・実習教育の検討	環境技術論 CAD教育	ME5 担任
教授 工学博士	藤満 達朗	金属材料の疲労強度特性 微小疲労き裂の発生と成長挙動	機械材料	図書館参事
教授 博士(工学)	森野 数博	低サイクル疲労に関する研究 プラズマによる表面改質材の開発研究	材料力学	教務主事
教授 博士(工学)	伊藤 尚	セラミックス材の急速凝固処理による材質改善 自然エネルギーを利用したもののづくり教育	材料工学	自己評価委員長 テクノ・リフレッシュ教育センター参事
教授 工学博士	藤田 重隆	三次元自由噴流のバッシュコントロール 有限長十字形ノズルから流出する三次元自由噴流	流体工学 流体機械	学科主任
助教授 博士(工学)	櫻本 逸男	人工関節の機械高度化に関する研究 軟組織用試験機の開発	機械力学 電子制御	学生相談室長 学習・教育レビュー室エグゼクティブ
助教授 博士(工学)	兼重 明宏	搬送システムのモーションコントロールに関する設計と応用 離散事象システムの設計と解析	システム制御 工学	ME4 担任 ロボコン実行委員長 総合企画室主務
助教授 理学博士	飛車 来人	弾性体と流体の数値的なシミュレーション 等角写像とリーマンの関数論	理論物理	情報処理センター参事
助教授 博士(工学)	小田 和広	表面き裂の同定に関する研究 体積力法による応力解析	材料力学	
助教授 博士(工学)	池田 光優	LPG混入ディーゼルエンジンの燃料特製	熱工学	2年1組担任 eラーニング推進支援室インストラクター
助教授 博士(工学)	張間 貴史	複数円形噴流の流れ場の制御	流体工学	寮務主事補
講師	森 徹	データベース技術について、画像処理解析	データベース 信号処理	テクノ・リフレッシュ教育センター参事 進路支援室キャリアアドバイザー
講師	石田 浩一	STMを用いた超微細加工に関する研究 計算機プログラムの光学情報処理への応用	応用物理	教務主事補
助手	藤本 浩	画像処理に関する研究	電子制御	ロボコン実行副委員長
助手 博士(工学)	森崎 哲也	損傷検知技術とヘルスマonitoringシステムの開発	メカトロニクス	学生主事補 ME1 副担任
助手 博士(工学)	逆瀬川栄一	誘導電動機の世界速度センサレスベクトル制御	電気機器	機械制御工学専攻幹事 情報処理センター参事 ME2 副担任

情報電子工学科

職名	氏名	研究テーマ	専門分野	校務
教授 博士 (情報工学)	神田 徳夫	論理回路の最適設計に関する研究	計算機工学	2年2組担任 IE2 副担任
教授 工学博士	重安 邦之	マイクロコンピュータを応用した機器の開発	計測制御	テクノ・リフレッシュ教育センター参事
教授 博士(工学)	江口 賢和	データベースシステムに関する研究	情報工学	学科主任
教授 工学博士	池田 信彦	ニューラルネットワーク理論	情報工学	寮務主事
教授 博士(工学)	百田 正広	画像処理による粒子像解析に関する研究	画像工学	総合企画室長
教授 博士(工学)	山田 健仁	画像処理による認識の研究 サーボ系に関する研究	制御工学	学習・教育レビュー室長
助教授	守川 和夫	教育用マイクロプロセッサに関する研究	計算機工学	教務主事補 進路支援室キャリアアドバイザー
助教授	小林 明伸	楽器演奏時における楽譜情報処理に関する研究	情報工学	IE3 担任 留学生担当 IE1 副担任
助教授 博士(工学)	義永 常宏	オートマトン理論	情報工学	情報処理センター長 テクノ・リフレッシュ教育センター参事
助教授 博士(工学)	奥本 幸	パターン認識	情報工学	IE5 担任
助教授 博士(工学)	原田 徳彦	FD-TD 法による電磁界解析	応用物理	情報電子工学専攻幹事 学生相談室相談員
助教授 博士(経済学)	松野 成悟	企業間関係における情報共有のモデル分析とその応用	経営学 経営情報論	図書館長補 学習・教育レビュー室エグゼクティブ ミナー
講師	杉村 敦彦	画像処理(2次元巡回型フィルタ)	デジタル信号 処理	IE4 担任
講師	重村 哲至	計算機アーキテクチャ	計算機工学	総合企画室主務
助手 博士(学術)	原田 耕治	Idiotype ネットワーク仮説の検証及び、免疫機能メカニズムの 解明 リカレントニューラルネットワークにおける学習ダイナミクス解 析 マルチエージェントシステムにおける協調学習理論と大域特 性解析	生体情報 システム学	
助手	力 規晃	モデル生成型定理証明に基づく分散知識処理システムの研 究	情報工学	学生主事補 情報処理センター副センター 長 eラーニング推進支援室イン ストラクター
助手 博士(工学)	新田 貴之	教育支援システムに関する研究	計算機工学	寮務主事補 情報処理センター副センター 長 eラーニング推進支援室 インストラクター

## 土木建築工学科

職名	氏名	研究テーマ	専門分野	校務
教授	木村 武馬	地域生産材による木造建築の振興方策 伝統的居住および集落の保存・再生計画	建築計画	CA3 担任 留学生担当
教授 工学博士	藤原 東雄	粘土の繰返し圧密特性 粘性土の応力・変形・せん断強度特性	地盤工学	CA5 担任
教授	日南住 博	Phase Transitions in Dielectrics	固体物理	学習・教育レビュー室エグ ザミネー 学生相談室相談員
教授 工学博士	重松 恒美	構造物の動的安定解析 構造物の静的耐力	土木建築構造 工学	2年3組担任
教授 工学博士	大成 博文	壁乱流の秩序構造とその制御 閉鎖水域における水質浄化	水理学 流体力学	テクノ・リフレッシュ教育セ ンター参事 CA2 副担任
教授 工学博士	工藤 洋三	岩石の力学的異方性と岩石内構造の関連 岩石試験におけるばらつきに関する研究	岩石力学 土木材料学	学科主任 サテライト運営委員長
教授 博士(工学)	原 隆	構造物の動的耐力解析 鉄筋コンクリート構造の有限要素解析	構造力学 計算力学	テクノ・リフレッシュ教育セ ンター長
教授 博士(工学)	上 俊二	擬似過圧密粘土の力学的性質に関する研究 繰返し荷重を受ける粘土の力学的性質に関する研究	土質工学	学生主事
教授 博士(工学)	佐賀 孝徳	乱流境界層の組織構造に関する研究 乱流に形成される二次流れに関する研究	水工学	CA4 担任
教授 博士(工学)	橋本 堅一	圧縮荷重下のき裂の進展挙動, 応力集中と部材の破壊	応用力学	環境建設工学専攻幹事 eラーニング推進支援室イ ンストラクター
助教授 博士(工学)	古田 健一	公的賃貸住宅利用システムに関する研究 大都市圏における持家需要特性に関する研究	建築計画	教務主事補
助教授 博士(工学)	田村 隆弘	軸力と曲げを受ける鉄筋コンクリート部材のせん断耐力 ひび割れを有する鉄筋コンクリート部材のせん断耐力	鉄筋コンクリート 構造工学	進路支援室長
助教授 博士(工学)	熊野 稔	中心市街地の再整備計画に関する研究 都市計画におけるポケットパーク, 景観および都市緑化に関 する研究	都市計画 環境デザイン	図書館参事
助教授 博士(工学)	渡辺 勝利	縦横粗度を有する開水路流れの乱流構造に関する研究 開水路乱流に形成された大規模組織構造に関する研究	水理学 流体力学	テクノ・リフレッシュ教育副 センター長
助教授 博士(学術)	佐々木伸子	高齢期のグループリビングに関する研究 まちづくりに関する女性の視点に関する研究	建築計画 住宅問題	総合企画室主務 進路支援室キャリアアドバ イザー
助手	桑嶋 啓治	破砕性の卓越した土の力学特性 破砕性の卓越した地盤における杭の支持力	土質力学	寮務主事補 情報処理センター参事 CA1 副担任
助手 博士(工学)	太田(中川) 明 子	古代ギリシア建築の施工技術に関する研究, 歴史的建造物 の保存修復活用に関する研究	西洋建築史 歴史的建造物 の保存活用	
助手 博士(工学)	島袋 淳	コンクリート及び鉄筋コンクリートの破壊メカニズムに関する 研究	土木材料学	学生主事

出典：本校ウェブサイト

## 非常勤教員一覧

平成18年度非常勤講師				
番号	氏名	期間	学科等	本務
1	田中数恵	通年	英語（公募）	私立大学教員
2	中光義亮	通年	英語（公募）	私立大学教員
3	北野弘子	通年	英語	なし
4	トニー・ルートヴィック	通年	英語	民間等
5	ペリー・チャインバース	通年	英語	民間等
6	バーニー・オマニ	通年	英語	民間等
7	谷國晶洋	通年	英語	なし
8	山本博徳	通年	体育	元高校教員
9	田中富美子	通年	体育	元高校教員
10	和田實	通年	体育（公募）	元高専教員
11	大竹義則	通年	地理	私立大学教員
12	佐伯喜誠	通年	芸術（公募）	なし
13	山田哲生	通年	芸術	民間等
14	藤川文子	通年	芸術	元中学教員
15	古川昭夫	通年	芸術（公募）	なし
16	好村友江	通年	国語	元私立大学教員
	好村友江	通年	日本語	元私立大学教員
17	徳永彩理	通年	中国語	なし
18	渡邊基	通年	歴史	元高校教員
19	小川礼子	通年	政治・経済	なし
20	光本容子	通年	心理学（公募）	なし
21	池川哲治	通年	健康科学（公募）	私立大学教員
22	小田宮章夫	通年	環境科学	元高専教員
23	武平信夫	通年	電子回路・計測工学・電磁気学	元高専教員
24	河村次男	前期	弾塑性論（公募）	なし
25	坂本修	通年	建設マネジメント	民間等
26	福山和子	通年	日本語	元高校教員
27	琴山素行	通年	日本語	民間等
28	田口琢也	前期	火薬学	民間等
29	右田正和	前期	産業論	民間等
30	野田泰典	前期	建築施工法	民間等
31	岩崎豪人	前期	技術者倫理	なし
32	小野英輔	前期	産業論	民間等
33	平原克己	前期	産業論	民間等
34	池高聖	前期	産業論	民間等
35	丹羽啓一	前期	経営工学	私立大学教員
36	高橋宏二	前期	特別講義	民間等
37	近文彦	通年	カウンセラー	民間等
38	星山春香	通年	カウンセラー	なし

出典：人事係資料

資料3-1-②-3 他高専との人事交流の実績資料

高専間教員交流制度実施要項

平成17年4月18日  
一部改正 平成17年6月20日  
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定

1. 趣旨

各国立高等専門学校の教員を、教員交流派遣者（以下「派遣者」という。）として他校へ一定期間派遣し、他校において教育研究活動に従事させることにより、教員の力量を高め、各学校における教育及び研究の向上を図り、もって国立高等専門学校全体の活性化及び人事の流動性の確保に資するため、高専間教員交流制度を設ける。

2. 派遣方法等

- (1) 派遣は、他校への配置換により行うものとする。
- (2) 派遣期間は原則1年以上とし、派遣の開始時期は4月とする。

3. 派遣者の推薦

- (1) 各学校の校長は、原則毎年1名づつ、派遣の前年の8月31日までに派遣者を理事長へ推薦するものとする。
- (2) 派遣者は、原則50才未満で、かつ高専教員として5年以上の経験を有する者とし、専門分野は問わない。

(中略)

9. 日程

5月31日	各学校から機構へ大型委託研究等調書を提出
6月20日	機構から各学校へ全学校の大型委託研究等調書を送付
8月31日	各学校から機構へ派遣者推薦調書を提出
9月20日	機構から各学校へ派遣者名簿を送付
10月10日	各学校から機構へ受入れ希望調書を提出
10月31日	機構において派遣者の受入れ校を決定
3月 中旬	意見交換会を開催
4月	派遣開始
派遣終了後	受入れ校から機構及び派遣校へ実施報告書を提出

(受入校への通知)

17高機総第266号

平成17年10月31日

徳山工業高等専門学校長 殿

独立行政法人国立高等専門学校機構  
理事長 河野 伊一郎  
(公印省略)

平成18年度高専間教員交流制度による受入れ者の決定について

標記のことにつきまして、高専間教員交流制度実施要項（平成17年4月18日 理事長裁定）4.（3）に基づき、貴校の受入れ者を下記のとおり決定しましたので、お知らせします。受入れに伴い、必要となる措置については、追って、連絡します。

記

学校 受入れ者 受入れ期間

鶴岡工業高等専門学校	加田 謙一郎	平成18年4月1日	～	平成19年3月31日
和歌山工業高等専門学校	森 徹	平成18年4月1日	～	平成19年3月31日
宇部工業高等専門学校	松野成悟	平成18年4月1日	～	平成19年3月31日

【担当】機構事務局総務課人事第一係  
電話：043（351）5055

17高機総第264号

平成17年10月31日

徳山工業高等専門学校長 殿

独立行政法人国立高等専門学校機構  
理事長 河野 伊一郎  
(公印省略)

平成18年度高専間教員交流制度による推薦者の派遣決定について  
標記のことにつきまして、高専間教員交流制度実施要項（平成17年4月18日 理事長裁定）4.（3）に基づき、貴校からの推薦者については、下記のとおり派遣が決定しましたので、お知らせします。派遣に伴い、必要となる措置については、追って、連絡します。

派遣先派遣者	記	派遣期間
明石工業高等専門学校 長戸 喜隆	平成18年4月1日	～平成20年3月31日

【担当】機構事務局総務課人事第一係  
電話：043（351）5055

出典：人事係資料

(分析結果とその根拠理由)

- ・ 高等専門学校設置基準に定められた相当数の専任の専門科目担当教員が適切に配置されている。
  - ・ 教育目的に沿って実践的な開発型技術者の育成のために、博士はもとより、技術士、一級建築士などの技術者資格を有する者や民間企業で実務や技術開発に従事していた者などの教員が適切に配置されている。
  - ・ 常勤および非常勤教員の連絡会や人事交流などが適切に行われ、機能している。
- 以上のことから、専門科目担当教員が適切に配置されている。

### 観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

- ・ 教員の専門研究分野と専攻科授業科目とは合致しており、必要な専攻科の授業科目が適切に配置されている（資料3-1-③-1, 2）。
- ・ 教育目的に沿って教育課程を遂行するため、専攻科授業を担当する教員と特別研究を担当する教員の研究業績の基準を設けており（資料3-1-③-3）、基準をクリアした教員が42名配置されている。
- ・ 非常勤教員においては民間の実務者・技術者を中心に20名が配置されている（資料3-1-③-1）。
- ・ 教員の専門学会での学術講演数は過去5年間の平均で1年あたり60件、同様に学術論文数は42編（和文論文：20編、英文論文：22編）あり、インパクトファクターのある論文数も過去3年間で上昇傾向にある（資料A-1-②-1, 2）など、教員は、専門性能力の研鑽および研究能力水準の維持向上に努めている。
- ・ 「世界に通用する人材の育成をめざす」教育目的のためにも、平成17年度に機械電気工学科／機械制御工学専攻助教授として、ドイツ人教員を採用した（資料3-1-③-4）。専攻科における応用数学授業を英語で行い、国際感覚の環境づくりに寄与している。

資料 3 - 1 - ③ - 1 専攻科専任教員・非常勤教員別配置状況一覧

所属	官職	氏名	授業科目	科目
<b>専任教員</b>				
一般科目	助教授	一色誠子	教養科目	日本語表現法
一般科目	教授	国重 徹	教養科目	科学英語表現法
			教養科目	総合英語
			教養科目	英会話
一般科目	講師	柏倉知秀	教養科目	国際比較文化論
一般科目	教授	大橋正夫	専門基礎科目	一般化学
			情報電子工学専攻専門科目	電子材料工学
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合演習
一般科目	教授	室長大應	専門基礎科目	物理科学
一般科目	助教授	天内和人	専門基礎科目	生命科学

機械電気工学科	教授	門脇重道	機械制御・環境建設・工学専攻専門科目	環境設計論
機械電気工学科	教授	藤満達朗	機械制御工学専攻専門科目	機械制御工学総合実験
			機械制御工学専攻専門科目	特別研究
機械電気工学科	教授	森野数博	教養科目	産業論
			機械制御工学専攻専門科目	材料設計工学
			機械制御工学専攻専門科目	機械制御工学総合演習
			機械制御工学専攻専門科目	特別研究
			機械制御工学専攻専門科目	機械制御工学専攻英語講読
機械電気工学科	教授	伊藤 尚	機械制御工学専攻専門科目	自動加工工学
			機械制御工学専攻専門科目	コンピュータ総合演習
			機械制御工学専攻専門科目	機械制御工学総合演習
機械電気工学科	教授	藤田重隆	機械制御工学専攻専門科目	流体制御工学
			機械制御工学専攻専門科目	機械制御工学総合実験
			機械制御工学専攻専門科目	特別研究
機械電気工学科	助教授	櫻本逸男	機械制御工学専攻専門科目	生体機械力学
			機械制御工学専攻専門科目	機械制御工学総合実験
			機械制御工学専攻専門科目	特別研究
機械電気工学科	助教授	兼重明宏	機械制御工学専攻専門科目	システム制御工学
			機械制御工学専攻専門科目	システム設計工学
			機械制御工学専攻専門科目	機械制御工学総合実験
			機械制御工学専攻専門科目	機械制御専攻英語講読
機械電気工学科	助教授	飛車来人	専門基礎科目	応用統計学
			専門基礎科目	Engineering Mathematics
機械電気工学科	助教授	小田和広	機械制御工学専攻専門科目	弾性力学
			機械制御工学専攻専門科目	CAE
			機械制御工学専攻専門科目	特別研究
機械電気工学科	助教授	池田光優	機械制御工学専攻専門科目	燃流体工学
			機械制御工学専攻専門科目	機械制御専攻英語講読
			機械制御工学専攻専門科目	特別研究
機械電気工学科	講師	石田浩一	機械制御工学専攻専門科目	応用計測工学
機械電気工学科	助手	逆瀬川栄一	機械制御工学専攻専門科目	インターンシップ

情報電子工学科	教授	神田徳夫	情報電子工学専攻専門科目	論理設計
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合演習
情報電子工学科	教授	重安邦之	機械制御・情報電子・工学専攻専門科目	ロボット制御工学
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合実験
情報電子工学科	教授	江口賢和	情報電子工学専攻専門科目	知識データベース
			情報電子工学専攻専門科目	自然言語処理
			情報電子工学専攻専門科目	特別研究
情報電子工学科	教授	池田信彦	情報電子工学専攻専門科目	生体情報工学
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合実験
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子専攻英語講読
			情報電子工学専攻専門科目	特別研究
情報電子工学科	教授	百田正広	情報電子工学専攻専門科目	画像処理応用
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合実験
情報電子工学科	教授	山田健仁	情報電子工学専攻専門科目	デジタル制御
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合演習
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子専攻英語講読
			情報電子工学専攻専門科目	特別研究
情報電子工学科	助教授	守川和夫	情報電子工学専攻専門科目	コンピュータ構成学
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合実験
情報電子工学科	助教授	義永常宏	専門基礎科目	離散数学
			情報電子工学専攻専門科目	オートマトンと計算論
情報電子工学科	助教授	奥本 幸	情報電子工学専攻専門科目	認識工学
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合演習
			情報電子工学専攻専門科目	特別研究
情報電子工学科	助教授	原田徳彦	情報電子工学専攻専門科目	通信ネットワーク工学
			情報電子工学専攻専門科目	光情報処理
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子専攻英語講読
			情報電子工学専攻専門科目	特別研究
			情報電子工学専攻専門科目	インターンシップ
情報電子工学科	講師	杉村敦彦	情報電子工学専攻専門科目	システム計測工学
			情報電子工学専攻専門科目	情報電子工学総合演習
情報電子工学科	講師	重村哲至	情報電子工学専攻専門科目	コンピュータネットワークプロトコル

土木建築工学科	教授	藤原東雄	環境建設工学専攻専門科目	耐震基礎構造学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
土木建築工学科	教授	重松恒美	環境建設工学専攻専門科目	振動工学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設工学総合演習
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科		橋本堅一	環境建設工学専攻専門科目	連続体力学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	教授	大成博文	環境建設工学専攻専門科目	環境システム工学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	教授	工藤洋三	環境建設工学専攻専門科目	建設プログラミング
			環境建設工学専攻専門科目	リモートセンシング工学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設工学総合実験
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	教授	原 隆	専門基礎科目	工学解析
			環境建設工学専攻専門科目	応用力学
			環境建設工学専攻専門科目	計算工学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	教授	上 俊二	環境建設工学専攻専門科目	土質力学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設工学総合実験
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	教授	佐賀孝徳	環境建設工学専攻専門科目	水理科学
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	助教授	古田健一	環境建設工学専攻専門科目	住宅計画学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設工学総合演習
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	助教授	田村隆弘	環境建設工学専攻専門科目	鉄筋コンクリート構造学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設工学総合実験
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	助教授	熊野 稔	環境建設工学専攻専門科目	都市環境計画学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	助教授	渡辺勝利	環境建設工学専攻専門科目	応用水理学
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設工学総合実験
			環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究
土木建築工学科	助教授	佐々木伸子	環境建設工学専攻専門科目	環境建設専攻英語講読
			環境建設工学専攻専門科目	特別研究

非常勤講師

非常勤	講師	岩崎豪人	教養科目	技術者の倫理
非常勤	講師	坂本 修	教養科目	産業論
非常勤	講師	小野英輔	教養科目	産業論
非常勤	講師	右田正和	教養科目	産業論
			教養科目	経営管理
非常勤	講師	平原克己	教養科目	産業論
			教養科目	経営管理
非常勤	講師	池高 聖	教養科目	産業論
非常勤	講師	米田千里	教養科目	経営管理
非常勤	講師	上田和宏	教養科目	経営管理
非常勤	講師	田辺正雄	教養科目	経営管理
非常勤	講師	溝国暢久	教養科目	経営管理
非常勤	講師	野村史郎	教養科目	経営管理
非常勤	講師	池田祥人	教養科目	経営管理
非常勤	講師	森重勝文	教養科目	経営管理
非常勤	講師	西 祐司	教養科目	経営管理
非常勤	講師	徳原靖子	教養科目	経営管理
非常勤	講師	武波秀直	教養科目	経営管理
非常勤	講師	西村浩二	教養科目	経営管理
非常勤	講師	丹羽啓一	教養科目	経営工学
非常勤	講師	河村次男	機械制御工学専攻専門科目	材料強度学
非常勤	講師	武平信夫	機械制御工学専攻専門科目	回路応用設計

出典：専攻科資料

資料 3-1-③-2 本校専攻科特別研究担当教員の主な研究テーマ

機械制御工学専攻		
材 料 系		
教 授	藤満 達朗	高温および腐食環境下における金属材料の疲労強度特性に関する研究 切欠きを有する金属材料の疲労強度特性に関する研究
教 授	森野 数博	プラズマ表面改質材を用いた超高サイクル疲労破壊機構の解明 疲労および摩耗・腐食特性に優れたプラズマ表面改質材の研究開発 広範囲な応力下における疲労現象の統一的解釈に関する研究 さまざまな産業機械や構造物の開発研究ならびに問題解決
助教授	小田 和広	有限要素法による界面き裂問題の高精度解析に関する研究 三次元き裂の同定に関する逆問題解析的研究

エネルギー系		
教 授	門脇 重道	メカトロニクスに必要な創造性の向上技術に関する研究
教 授	伊藤 尚	自然エネルギーを応用したものづくり教育に関する研究 PICを用いたメカトロニクス教育に関する研究
教 授 助教授	藤田 重隆 根間 貴史	中央に配置された長方形切欠による長方形噴流の制御 噴流中心間距離が異なる 2 円形自由噴流の混合拡散過程 複数の切欠による二次元噴流の制御 長方形ノズル角部の形状変化が長方形噴流の発達特性へ与える影響 水槽による長方形切欠噴流の流れ場の可視化
助教授	池田 光優	多成分燃料における噴霧特性および燃焼特性に関する研究 軽油・水乳化燃料の燃焼特性に関する研究
助教授	飛車 来人	弾性体と流体の数値的なシミュレーション 等角写像とリーマンの関数論

計測 制御系		
助教授	櫻本 逸男	人工関節の機能高度化に関する研究 生体組織の機械的性質に関する研究
助教授	兼重 明宏	搬送システムの制御系設計に関する研究 離散事象システムの解析・設計に関する研究
講 師	石田 浩一	うず電流の利用と応用に関する研究 基礎工学教育プログラムの開発と応用に関する研究
助 手	藤本 浩	工学教育における創造教育に関する研究
助 手	逆瀬川栄一	誘導電動機の世界速度センサレスベクトル制御に関する研究 永久磁石同期電動機のベクトル制御に関する研究
助 手	森崎 哲也	圧電素子を用いた構造物のヘルスマonitoringシステム開発に関する研究

情報電子工学専攻		
コンピュータ・通信系		
教授 助教授 講師 助手	神田 徳夫 江口 賢和 原田 徳彦 重村 哲至 新田 貴之	組合せ論理回路の最適設計に関する研究
		データベースシステムに関する研究
		動的再構成可能システムに関する研究
		インターネットファイルシステムに関する研究
		有限差分時間領域法による電磁界解析用ソフトウェアの開発
		有限差分時間領域法を用いた電子回路教育ソフトウェアの開発
		学習支援システムに関する研究

情報機器制御系		
教授 教授 教授 教授	重安 邦之 百田 正広 大橋 正夫 山田 健仁	動画像処理に関する研究
		コンピュータによる機器制御に関する研究
		画像処理による各種計測に関する研究
		ワンチップマイコンを用いた計測制御装置の開発
		二次電池正極活物質の合成と評価

知識情報系		
教授 助教授 助教授 助教授	池田 信彦 義永 常宏 奥本 幸 天内 和人	ニューラルネットワークの数理的研究
		ニューラルネットワークの工学的応用研究
		音楽情報処理に関する研究
		オートマトンの計算能力に関する研究
		ゲームプレイヤモデルに関する研究
		画像認識に関する研究
		生体情報機能の解析 複雑系の数理, 特に免疫系, 脳, エージェントなどの生物型情報システムの研究

環境建設工学専攻		
構 造 系		
教授 教授 助教授	重松恒美 原 隆 田村隆弘	鋼構造物の耐荷力特性に関する研究
		構造物の動的挙動に関する研究
		鉄筋コンクリート構造のせん断耐力に関する研究
		鉄筋コンクリートシェル構造の特性に関する研究
		構造解析における数値計算手法の研究 歴史的建造物の構造解析

材 料 系		
教 授	工藤洋三	リモートセンシング技術を用いた都市のモニタリングに関する研究
		航空写真を用いた旧市街地図の復元
		岩石・コンクリートなど岩質材料の力学的特性に関する研究
教 授 助 手	橋本堅一 島袋 淳	圧縮荷重下のき裂の進展挙動に関する研究
		建設材料を用いた応力集中部材とその破壊挙動に関する研究
		構造材料としての竹の材料特性に関する研究
		カルシウム系固化材を利用したコンクリートの性質に関する研究
		藻場造成を目的としたコンクリートブロックの開発
界面き裂の安全性に対する評価		

土 質 系		
教 授 助 手	藤原東雄 上 俊二	フィルターを用いた斜面の保護工法に関する研究
		廃材を用いた防草材、緑化基盤材の開発に関する研究
		サンドコンパクション工法における砂杭の造成メカニズムに関する研究
		団粒化剤とセメント系固化材を用いた地盤改良に関する研究
		粘土の年代効果（二次圧密、セメンテーション）に関する研究
破砕性地盤の変形及び支持力発現機構に関する研究		

水 理 系		
教 授 助 手	大成博文 佐賀孝徳 渡辺勝利	物体周りの組織構造に関する研究
		河岸周辺のせん断乱流構造に関する研究
		ダム湖および海域の水質浄化に関する研究
		マイクロバブルによる抵抗軽減ならびに水産養殖に関する研究
		複断面開水路流れの乱流特性の解明と制御に関する研究
		椀型粗面開水路流れの乱流構造に関する研究
開水路乱流に形成された大規模組織構造の時空間特性と流体力学的特性		

建 築 系		
助 教 授	古田健一	住み替えによる住宅変化および居住地移動に関する研究
		公的賃貸住宅の住み替えシステムに関する研究
助 教 授	熊野 稔	景観法による景観計画策定手法に関する研究
		外国人観光客を対象とした観光まちづくり手法に関する研究
		G I Sによる都市環境管理計画支援システムに関する研究
助 手	佐々木伸子	都市農村交流、「道の駅」および廃校活用等による地域振興
		地域資源を活用した通所介護施設の計画に関する研究
		公共空間におけるユニバーサルデザインの導入方法に関する研究

出典：専攻科資料

### 資料 3 - 1 - ③ - 3 専攻科の授業科目及び特別研究を担当する教官について

1. 専攻科を担当する教官は、大学設置基準による教授、助教授又は講師の資格を有し、かつ、専攻科の学生を指導するに十分な資格・業績等があると認められる者の中から、専攻科長が推薦し、校長が指名する。
2. 専攻科長は、推薦しようとする教官から次の書類を提出させるものとする。
  - (1) 専攻科担当教官に係る資格審査について（申請）別紙
  - (2) 専攻科の授業科目を担当する教員の履歴書（様式1）
  - (3) 教育研究業績書（様式2）
  - (4) 職務調書（様式3）
3. 校長は、新たに専攻科を担当する教官の指名を行う場合は、専攻科委員会の意見を徴し、これを行うものとする。
4. 専攻科の開設授業科目を担当する教官は、次の一に該当する者とする。
  - (1) 開設授業科目（特別研究を除く。）と密接な関連がある研究業績を有し、推薦日現在において過去5年間

で2編以上の学術論文がある者。

(2) 民間等において優れた研究歴等がある者。

5. 専攻科の特別研究を担当する教官は、次の一に該当する者とする。

(1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、推薦日現在において、過去5年間に3編以上の学術論文がある者。

(2) 推薦日現在において、過去3年間に3編以上の学術論文がある者。

(3) 民間等において優れた研究歴等がある者。

6. 上記5の基準の一に該当する助手は、指導教官の責任の下に特別研究の指導を分担することができる。

注1 学術論文とは、当該分野を代表する主要な学協会誌で、査読（員）が付いている論文あるいはこれに準ずる論文とする。

注2 上記4及び5にいう「研究歴等」とは、

(1) 技術士の資格（これに相当する資格を含む。）

(2) 特許

(3) 高度な経営経験

(4) 海外での業務経験をいう。

附 則

この基準は、平成14年7月9日から施行し、平成14年4月1日から適用する。

出典：専攻科資料

資料3-1-③-4 外国人教員採用記事

**全国初の  
高専  
外国人教員**

**ドイツ人のクルトさんが助教授で  
4月から工業数学など教**

**徳山高専**  
徳山高専に全国の高専で初めての外国籍の正教員、フィッシャー・クルトさん(39)が助教として就任した。新学年から教壇に立つが、クルトさんは早く学生に会いたいと張り切っている。高専は独立行政法人化で日本国籍でなくても就任できるようになった。徳山高専は一世に通用する人材の育成を目指しており、昨秋から工学分野の実績を条件に外国人教員を公募していた。

クルトさんはドイツのオランダ国境に近いクレイフェルト出身。専門は固体物理学で、ドイツとイスラエルの工業大学を出て東京大学で研究員を務めた。民間研究団体では次世代コンピュータ開発の国家プロジェクトに携わった。あと東京のソフト開発会社などに勤めていた。日本語も上手で、名前も「飛車人」を使う。高校の年齢から専門分野を学ぶ高専に魅力を感じて応募したが、採用されてすぐ東京から日本人の妻と周南市の教員宿舎に

張り切るクルトさん  
高専は一世

界に通用する人材の育  
成を目指しており、昨  
秋から工学分野の実績を  
条件に外国人教員を公募  
していた。

クルトさんはドイツの  
オランダ国境に近いクレ  
イフェルト出身。専門は固  
体物理学で、ドイツとス  
イスラエルの工業大学を出て東  
京大学で研究員を務め  
た。民間研究団体では次世代  
コンピュータ開発の国  
家プロジェクトに携わ  
った。あと東京のソフト開  
発会社などに勤めていた。  
日本語も上手で、名前  
も「飛車人」を使う。  
高校の年齢から専門分野  
を学ぶ高専に魅力を感じ  
て応募したが、採用され  
てすぐ東京から日本人の  
妻と周南市の教員宿舎に

クラフ汗

出典：日刊新周南新聞 平成17年4月1日

(分析結果とその根拠理由)

教員の専門研究分野に対応して専攻科の授業科目が適切に配置されている。

専攻科授業の担当教員基準（開設授業科目と密接な関係がある研究業績を有し、5年間に2編以上の学術論文がある者）と特別研究担当教員の研究業績の基準（博士号を所有し5年間に学術論文3編以上）を設けて、教員の専門性能力の研鑽と研究能力水準の維持向上に努めている。

以上のことから、専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されている。

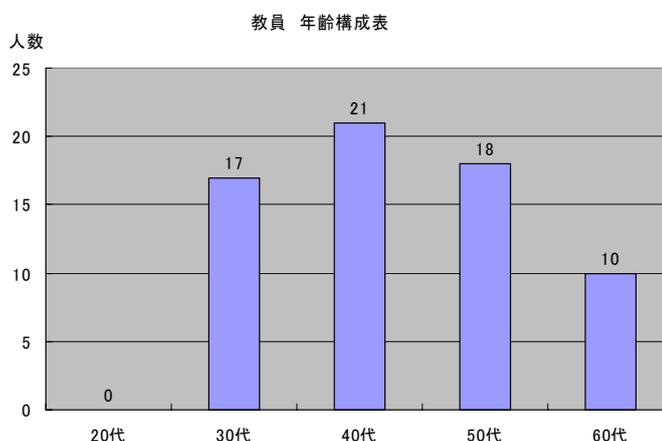
**観点3-1-④：** 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

(観点に係る状況)

- 教員年齢構成表（資料3-1-④-1）によれば、40歳代が一番多く、次に50歳代と中高年層に偏っており、20歳代はいない。若手人材の確保の課題は残るものの教育と研究の経験豊富な教員が多く、比較的均衡はとれている。全学科を通して、5人の女性教員がおり、この3年間で2人の教員が採用された。女性教員を積極的に採用することは本校中期計画（資料1-2-②-6）にも述べられており、さらなる均等化が求められる。
- 現在、学位取得者は42名であり、全教員の3分の2である。そのうち、一般科目教員では2名、専門科目教員では40名である。また、若い教員のほとんどが取得をめざしており、そのための研修を許可している。技術者資格としては、技術士3名、APECエンジニア1名、1級建築士3名がいる（資料3-1-④-2）。
- 国際情勢や国際感覚を身につけるため、国際会議の参加や、海外在住の経験をもつ教員も多い（資料3-1-④-3, 4）。
- 企業経験者は14名いる（資料3-1-④-5）が、比較的年齢の高い人が多く、若い人は少ない。他大学および研究機関に勤務経験のある人は、現在の出向中あるいは受け入れ中の教員を含めて28名である。これも、比較的年齢の高い人が多いが、若手に機会を与えるべく人事交流に努めている。現在、明石高専、長岡技術科学大学に2名出向、米国カリフォルニア大学へ1名留学しており、鶴岡、和歌山および宇部高専からの教員3名を本校に受け入れている（資料3-1-②-3）。
- 教員の教育や研究などの能力開発や改善については、1年単位でその年度の自己評価（年間職務の自己評価）を行っており（資料9-1-①-2）、よい点は伸ばし改善すべき点は反省することで、教員の自己研鑽に努めている。また、その結果はウェブサイト上に公表している。
- 学習教育レビュー室が主体となって教員の公開授業を実施しており（資料9-1-④-5）、教員相互の評価によって、より良い授業をめざして教員の自己研鑽に努めている。
- 平成18年度より成績評価資料は学習レビュー室だけでなく、教員相互によりチェックすることを予定しており、教育の連携や教員同士の研鑽に役立つことが期待される。
- 国立高等専門学校教員顕彰の選考方法は教員の自己申請書の内容40点、当該教員の教育業績自己採点20点、教員の相互評価結果20点、学生の評価結果20点の計100点であり、平成14年度に国立高等専門学校協会会長賞1名、同15年度に国立高等専門学校協会会長奨励賞を1名が受賞した。同16年度には、独立行政法人国立高等専門学校機構が初めて行った教員顕彰制度により高専機構理事長奨励賞を1名受賞し（資料3-1-④-6, 7）、3年連続して受賞している。

- 「開発型」教育を行うため、多くの教員が地域からの依頼による各種委員や講師の経験を積んでおり、共同研究や受託研究を行っている（資料3-1-④-8）。

資料3-1-④-1 教員の年齢構成表（平成18年4月）



出典：人事係資料

資料3-1-④-2 技術士取得者一覧（平成18年2月1日現在）

常勤教員（3名）

氏名	年齢	所属学科	職名	取得部門	取得年
原 隆	51	土木建築工学科	教授	建設部門	2002.4
田村隆弘	47	土木建築工学科	助教授	建設部門	2003.5
熊野 稔	46	土木建築工学科	助教授	建設部門	2003.5

非常勤教員（5名）

氏名	年齢	担当科目	職名	取得部門	取得年
河村志朗	50	技術者倫理	非常勤講師	建設部門	1987.3
山本美子	51	技術者倫理	非常勤講師	水道部門	1985.2
				環境部門	1999.2
				建設部門	2001.3
吉永文雄	58	技術者倫理	非常勤講師	機械部門	2001.2
				総合技術監理部門	2003.4
大原 守	62	技術者倫理	非常勤講師	総合技術監理部門	2003.4
目山直樹	42	技術者倫理	非常勤講師	建設部門	1998.3

出典：人事係資料

資料 3-1-④-3 常勤教員の国際会議等への参加状況 (平成 16～17 年度)

氏名	所属職名	国際会議等名	開催地	期間
長山 暁子	機械電気工学科助手	第 1 回マイクロ・ナノテクノロジーに関する国際シンポジウム	アメリカ (ハワイ)	H16. 3/14～19
兼重 明宏	機械電気工学科助教授	2004 International Symposium on Industrial Electronics	アジャクシオ (フランス) マンハイム (ドイツ)	H16. 5/2～9
原 隆	土木建築工学科教授	5 <sup>th</sup> International Symposium on Natural-Draught Cooling Towers	トルコ共和国	H16. 5/19～26
原田 徳彦	情報電子工学科助教授	IEEE Conference CEFC 2004	大韓民国	H16. 6/5～9
原 隆	土木建築工学科教授	CONSEC' 04 (第 4 回コンクリート構造に関する国際会議)	大韓民国	H16. 6/27～7/2
兼重 明宏	機械電気工学科助教授	5 <sup>th</sup> ASCC (Asian Control Conference)	メルボルン (オーストラリア)	H16. 7/19～26
森野 数博	機械電気工学科教授	FDAM2004 (国際会議)	中華人民共和国	H16. 8/10～15
小田 和広	機械電気工学科助教授	FDAM2004 (国際会議)	中華人民共和国	H16. 8/10～15
池田 光優	機械電気工学科助教授	ILASS-ASIA2004	中華人民共和国	H16. 8/22～25
原 隆	土木建築工学科教授	ASEM' 04 および WCCMVI	大韓民国 中華人民共和国	H16. 9/1～12
原田 耕治	情報電子工学科助手	KES 2 0 0 4	ニュージーランド	H16. 9/18～26
長山 暁子	機械電気工学科助手	6th KSME/JSME	大韓民国	H17. 3/20～24
藤田 重隆	機械電気工学科教授	国際会議 (ETMM6)	ミラノ (イタリア)	H17. 5/21～29
張間 貴史	機械電気工学科助教授	国際会議 (ETMM6)	ミラノ (イタリア)	H17. 5/21～29
原 隆	土木建築工学科教授	第 4 回鋼構造国際会議	上海市	H17. 6/12～16
兼重 明宏	機械電気工学科助教授	The 5 <sup>th</sup> International Conference on Control & Automation	ブタペスト (ハンガリー), ミュンヘン (ドイツ)	H17. 6/21～7/1
原 隆	土木建築工学科教授	The Tenth International Conference on Civil, Structural and Environmental Engineering Computing (CC2005)	ローマ (イタリア)	H17. 8/29～9/2
原田 耕治	情報電子工学科助手	KES2005	メルボルン (オーストラリア)	H17. 9/12～18

出典：庶務係資料

資料 3-1-④-4 常勤教員の海外在住経験者一覧

所属職名	氏名	滞在地 研究機関等	滞在期間
一般科目 助教授	天内 和人	米国ジョージア州ジョージア大学研究員	H. 5. 9. 1～H. 11. 11. 31
		米国テキサス大学研究員	H. 11. 12. 1～H. 14. 8. 31
一般科目 助教授	齊藤 一彦	シリア・アラブ共和国 青年海外協力隊員陸上競技・体育実技指導	H. 5. 7. 13～H. 7. 9. 12
機械電気 助教授	飛車 来人	ドイツ, 複合システム・マックス・プランク研究所研究員	H. 3. 10. 1～H. 9. 10. 31

2. 留学経験者（3名）

所属 職名	氏名	滞在地 研究機関等	滞在期間
一般科目 助教授	谷本 圭司	中華人民共和国 武漢大学普通進修生	S. 62. 9～S. 63. 8
機械電気 助手	逆瀬川栄一	ドイツ ブッパターール大学研究室	H. 14. 4～H. 15. 3
土木建築 助手	太田 明子	フランス ストラスブール・マーク・ブロック大 学高等専門研究課程	H. 12. 11～H. 13. 10

3. 文部科学省在外研究員（6名）

所属 職名	氏名	派遣の 種類	主たる滞在地・国 主たる研究機関	研究題目	派遣期間	従たる滞在地
機械電気 助教授	武平 信夫 S. 16. 9. 23 39才	長期 (甲種)	ノックスビル市 アメリカ テネシー大学	うず電流の諸応用に関する 研究	S. 56. 10. 15 ～ S. 57. 8. 14	マサチューセッツ工科大学 カルフォルニア大学
土木建築 教授	大成 博文 S. 23. 8. 15 45才	長期 (甲種)	ゲッチンゲン市 ドイツ 国立流体力学 研究所	壁乱流の秩序構造に関する 研究	H. 6. 10. 1 ～ H. 7. 7. 31	南カルフォルニア大学
情報電子 教授	池田 信彦 S. 27. 1. 14 44才	長期 (甲種)	デトロイト市 アメリカ ウェーン州立大学	ニューラルネットワークに 関する研究	H. 8. 10. 1 ～ H. 9. 7. 31	
機械電気 教授	山田 英巳 S. 27. 4. 16 45才	長期 (甲種)	メルボルン市 オーストラリア メルボルン大学	非定常近傍後流場の制御に 関する研究	H. 9. 7. 7 ～ H. 10. 3. 23	
土木建築 教授	原 隆 S. 29. 9. 13 44才	長期 (甲種)	セントルイス市 アメリカ ワシントン大学	鉄筋コンクリートシェル構 造の耐荷力特性の研究	H. 10. 10. 7 ～ H. 11. 8. 6	イリノイ大学 ノースカロライナ州立大学 ヒューストン大学
機械電気 助教授	伊藤 尚 S. 29. 9. 11 47才	長期 (甲種)	キャニオン市 アメリカ ウェスタンAA&M大学	自然エネルギー利用および 地球環境教育に関する研究	H. 14. 8. 1 ～ H. 15. 5. 31	オレゴン州立大学

4. 国立高等専門学校機構在外研究員（1名）

所属 職名	氏名	取組名称	滞在地 研究機関等	滞在期間
機械電気 助教授	小田和広	界面強度評価に関する数値解析的研究	アメリカ カリフォルニア大学アーバ イン校	H. 18. 3. 18～H. 18. 9. 29

5. 長期海外研修者（1名）

所属 職名	氏名	滞在地 研究機関等	滞在期間
一般科目 助教授	国重 徹	アメリカ ハワイ州立大学マノア校 (応用言語学研究)	H. 10. 7. 15～H. 11. 8. 15

6. 海外先進教育研究実践支援プログラム派遣（1名）

所属 職名	氏名	事業名称	滞在地 研究機関等	滞在期間
土木建築 教授	原 隆	産学連携による国際性 をもつ実践教育の推進	アメリカカリフォルニア大学サテライト校 オーストラリア グリフィス大学 " クイーンズランド工科大学 " シドニー工科大学 " ワランゴン大学 " メルボルン工科大学 " パース工科大学	H. 16. 11. 1～H. 17. 1. 29 H. 17. 1. 31～H. 17. 2. 6 H. 17. 2. 7～H. 17. 2. 13 H. 17. 2. 14～H. 17. 2. 26 H. 17. 2. 27～H. 17. 3. 5 H. 17. 3. 6～H. 17. 3. 13 H. 17. 3. 14～H. 17. 3. 20

出典：人事係資料

## 資料 3-1-④-5 民間の職歴を有する教員一覧 (平成 18 年 5 月 1 日現在)

## 常勤教員(14名)

氏名	年齢	所属学科	職名	経験年数(年月)
藤満 達朗	60	機械電気工学科	教授	1年 4月
伊藤 尚	51	機械電気工学科	教授	2年
飛車 来人	40	機械電気工学科	助教授	4年 5月
森 徹	44	機械電気工学科	講師	6年
藤本 浩	45	機械電気工学科	助手	3年10月
森崎 哲也	30	機械電気工学科	助手	2年
神田 徳夫	60	情報電子工学科	教授	5年
重安 邦之	60	情報電子工学科	教授	5年
松野 成悟	36	情報電子工学科	助教授	2年 6月
山田 健仁	49	情報電子工学科	助教授	14年
藤原 東雄	61	土木建築工学科	教授	4年
日南 住博	60	土木建築工学科	教授	3年
重松 恒美	60	土木建築工学科	教授	4年
古田 健一	47	土木建築工学科	助教授	2年11月

## 非常勤教員(9名)

氏名	年齢	担当科目	職名	経験年数(年月)
琴山 素行	67	日本語	非常勤講師	32年 8月
井上 浩	47	産業財産権	非常勤講師	11年10月
山田 哲生	40	工芸	非常勤講師	15年
佐伯 喜誠	64	書道	非常勤講師	4年
河村 次男	62	弾塑性論	非常勤講師	35年 9月
野田 泰典	66	建築施工法	非常勤講師	39年
田口 琢也	36	火薬学	非常勤講師	13年
坂本 修	51	産業論	非常勤講師	28年
Ludwig Blayne Anthony	48	英語	非常勤講師	14年11月

出典：人事係資料

## 資料 3-1-④-6 国立高等専門学校教員顕彰実施要項 (抜粋)

## 1. 教員の教育業績等評価の趣旨

言うまでもなく、高専は深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的としている。そしてこの目的達成のために、常に教育水準の維持向上に努めるとともに、教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるよう努めなければならない。

一方、高専には後期中等教育相当の学生を受入れ5年(専攻科進学の場合は7年)の長期間にわたる教育を行うため、学生生活指導は極めて重要な役割をもつ。さらに、学校運営においても教員の役割が強く求められる。

このように、高専教員は主として教育者の面を持ち、一方で研究者の面を持つとともに高専の管理運営にも果たすべき役割がある。

高専教員個々に対する業績評価は、これらを総合して行われるべきものであるが、現状においては、とすれば専門の研究業績のみが重視され、教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていない恐れがある。

この教育業績等評価案は、このような観点から研究業績以外の業績評価を定量的に行おうとするものである。敢えて定量的に評価するのは、評価に透明性があること、短期間に実施が可能なこと、一高専内のみならず全高専の中での相対的位置を示す参考資料となることからである。

この教育業績等評価を一つの資料として、学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、そのことを通じてひいては高専における教育の充実・向上を目指すものである。

この教育業績等評価案は、第1部教員による自己採点、第2部教員による相互評価及び第3部学生による教員の評価から成る。今回は、この方法で実施するが、将来的にはさらに多角的な評価も必要であろう。

本案は、言うまでもなく完璧なものではなく、将来にわたり適切な修正・改善を経てより良いものになることを期待する。

2. 教員の教育業績等評価

第1部 教員の自己採点

自己評価項目についての留意事項

- (1) 多くの項目は5年間の平均値を書いてください。
- (2) 着任後5年未満の教員は、その年数の平均値を書いてください。
- (3) 完全にあてはまらないような設問、回答に対しては適宜判断して答えてください。
- (4) 小数点が出るような場合、四捨五入してください。

配点

A. 授業等の担当

[49]

1. 授業について

[6]

(1) 週当たりの授業単位時間数はどれだけですか？ 最近5か年の平均値で答えてください。(1単位時間；約50分。実験、実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。)

- 1) 15単位時間以上：[3点]
- 2) 12～14単位時間：[2点]
- 3) 11単位時間以下：[1点]

(2) 正規の授業のほかに補習授業をやっていますか？(不定期に実施しているものを含む。)

- 1) 進学・就職希望者、資格試験受験者および達成度の低い学生に実施している：[3点]
- 2) 進学・就職希望者および資格試験受験者について実施している：[2点]
- 3) 達成度の低い学生についてのみ実施している：[2点]
- 4) 正規の授業で十分理解されると自信をもっているため、補習授業は行っていない：[1点]
- 5) 補習授業をまったく考えていない：[0点]

2. 授業内容・方法

[11]

(1) シラバスはありますか？また、有効に利用していますか？

- 1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している：[3点]
- 2) シラバスはあり、およその目安としている：[2点]
- 3) シラバスはあるが、あまり利用していない：[1点]
- 4) シラバスはまだ作成配布していない：[0点]

(略)

出典：人事係資料

資料3-1-④-7 優秀教員評価制度の表彰実績

田村隆弘先生「国立高等専門学校機構理事長奨励賞」を受賞



本校の 田村 隆弘 助教授 が、国立高等専門学校機構の行う初めての教員顕彰制度により、「独立行政法人国立高等専門学校機構理事長奨励賞」を贈られました。

この教員顕彰制度は、全国の高等専門学校において、教育や学生生活指導などの分野で、顕著な成果をあげている教員を、顕彰しようというもので、昨年度までは、国立高等専門学校協会の顕彰制度として行われていました。今年度、独立行政法人国立高等専門学校機構が発足したことに伴い、同機構の顕彰制度となったものです。教員自身の自己評価と学生及び教員相互の投票による評価、さらに、第三者による業績評価を総合して、優秀な方に、「文部科学大臣賞」「国立高等専門学校機構理事長賞」及び「国立高等専門学校機構理事長奨励賞」が授与されます。

(中略)

なお、今回の顕彰の判断材料となった、「学生による教員の評価」、「教員の自己採点」、「教員相互評価」の、本校における結果は、以下のとおりでした。

1. 学生投票学科別上位得票者(五十音順)

一般科目	機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科
柏倉知秀	池田光優	池田信彦	上俊二
国重徹	小田和広	杉村敦彦	佐賀孝徳
谷本圭司	櫻本逸男	新田貴之	島袋淳
原田幸雄	西村太志	守川和夫	田村隆弘
和田實	藤田重隆	義永常宏	渡辺勝利

2. 自己採点高得点者(得点100点以上, 五十音順)

秋吉康光	池田光優	一色誠子	伊藤尚
大成博文	大橋正夫	門脇重道	兼重明宏
国重徹	熊野稔	佐賀孝徳	櫻本逸男
重松恒美	重安邦之	田村隆弘	長戸喜隆
長廣恭子	原隆	原田幸雄	藤田重隆
藤満達朗	藤本浩	室長大應	森野数博
山田健仁	吉田輝		

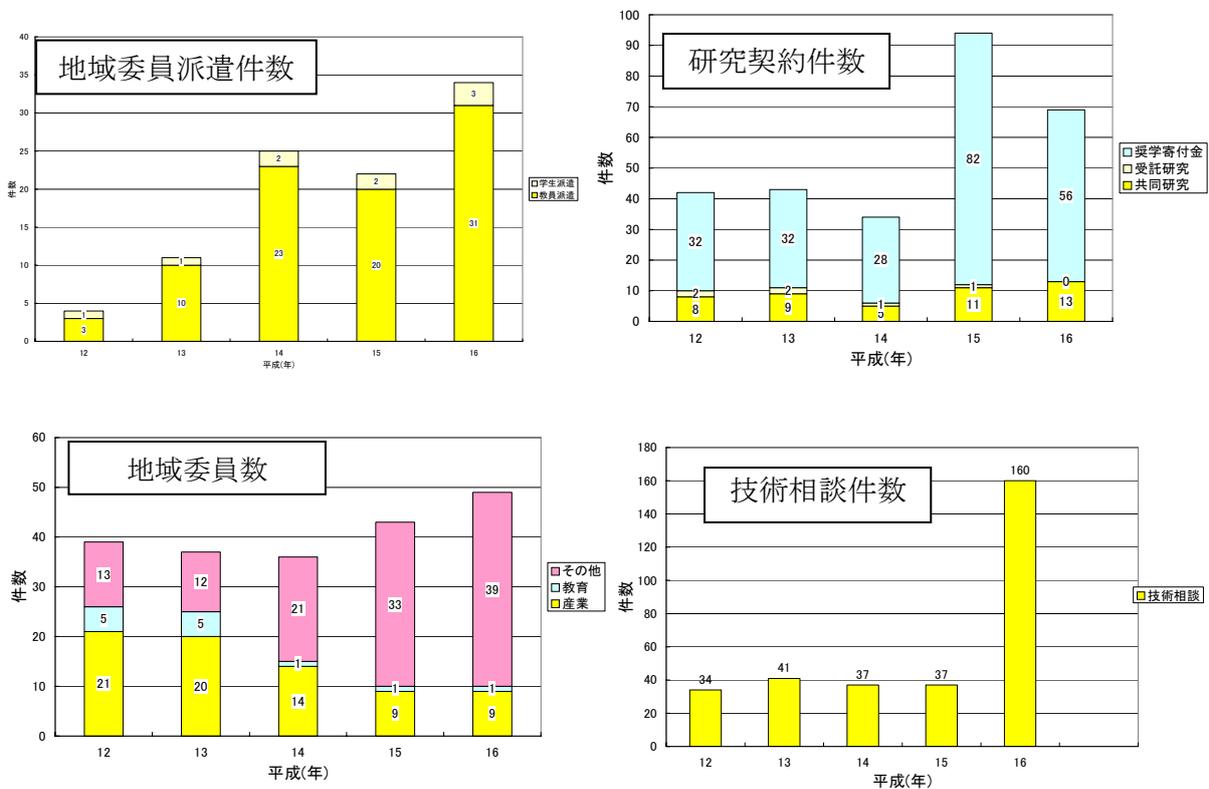
(昨年度の高得点者(100点以上)は21人)

3. 教員相互評価上位得票者(五十音順)

上俊二	国重徹	佐賀孝徳	重村哲至
田村隆弘	西村太志	新田貴之	原田徳彦
藤本浩	室長大應		

出典：本校ウェブサイト

資料3-1-④-8 共同研究や技術相談、地域委員などの常勤教員の実績



出典：庶務課資料

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目標を達成するため、目的に適った教員の配置がなされている。すなわち、「世界に通用する」教育を行うため、基本的素養を兼ね備えておく必要があることから、学校全体で学位の取得をめざしており、全教員の2/3である42名が取得している。

また、世界のレベルを知り、国際情勢や国際感覚を身につけるため、国際会議の参加や、海外在住の経験をもつ教員も多い。「実践力のある」教育を行うため、23名の企業経験者（常勤14名、非常勤9名（平成18年度前期））や、技術士（常勤3名、非常勤5名（平成17年度））および各種術者資格取得者がいる。「開発型」教育を行うため、多くの教員が地域からの依頼による共同研究や受託研究を行っている。ただし年齢構成のバランスからいえば、20歳代の若手が不足している課題がある。また、若い教員に他の機関を経験した数が少なく、さらに人事交流を促進すべきである。

以上のことから、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

### 観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

- ・ 常勤教員の採用及び承認に関する選考については、公募を原則とする教員選考規則（資料3-2-①-1）が定められており、所定の書類と面接結果をもとに、校長が指名した委員若干名により構成した委員会で審議し、校長が決定することになっている。資料3-2-①-2に平成17年度の教員採用の手続き例を示す。なお、教員の採用基準、昇格基準（資料3-2-①-3）も明確に定められており、公表されている。
- ・ 非常勤教員の採用についても任用に関する内規（資料3-2-①-4）が定められており、平成17年度からは公募が行われた（資料3-2-①-3）。
- ・ 助教授から教授への昇任についても昇任基準が定められている。
- ・ 助教授、助手は公募とし民間企業における経験（5年以上）、海外在住（2年以上）または同程度以上の語学力を有する者を優先するとしている（資料3-2-①-3）。
- ・ 平成16年度は、生命科学担当教員、通信ネットワーク担当教員及び機械電気工学科教員(外国人)が公募により採用された。平成17年度は、保健体育教員、機械電気工学科教員が公募により採用された。

#### 資料3-2-①-1 徳山工業高等専門学校教員選考規則

(趣旨)

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の採用及び昇任に係る選考（以下「選考」という。）については、法令等に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(選考方針)

第2条 校長は、定年退職(辞職を含む。)又は転任等により、欠員が生じる見込みとなったときは、本校の将来計画及び各学科の意向を踏まえ、運営委員会の議を経て、当該欠員の補充に係る教員の選考について、方針を定める。

(選考)

第3条 教員の選考は、原則として、公募とし、教員選考委員会（以下「委員会」という。）を開催しその結論を踏まえて、これを行うものとする。ただし、昇任については、本校内に適任者がいる場合は、これによらないことができる。

2 選考にあたっては、候補者の人格、健康、教授能力、教育業績、研究業績、学会活動及び社会的活動等を総合的に勘案するものとする。

3 選考に必要な書類は、次に掲げるものとする。

- (1) 履歴書
- (2) 著書・論文等一覧
- (3) 著書・論文等の概要
- (4) 著書・論文等の別刷
- (5) 教育、学生指導及び管理運営事項等の業績調書
- (6) 高専の教育、研究及び学生指導等に関する抱負
- (7) 推薦書
- (8) その他必要とする書類

(委員会)

第4条 委員会は、校長及び選考の都度校長が指名する委員若干名をもって組織する。

2 委員会は、校長が主催する。

3 委員会の委員の任期は、当該選考の審議が終了するまでとする。

(事務)

第5条 この規則に係る事務は、庶務課において処理する。

(その他)

第6条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し、必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成14年7月9日から施行する。

出典：人事係資料

### 資料3-2-①-2 平成17年度教員採用および昇任の流れ

平成17年度における教員の採用及び昇格に係る選考について  
採用について（平成17年度採用）

1. 平成16年9月

「平成17年度教員選考方針（案）」が運営委員会において協議され、承認された。

2. 平成16年9月

上記教員選考方針をもとに、教員公募を行った。

(1) 保健・体育担当教員

11月30日 公募締切

12月9日 教員選考委員会（第一次選考）

12月20日 面接審査実施（第二次選考）

教員選考委員会において、採用者決定。

3. 平成16年9月

教員の公募を行った。

(1) 機械電気工学科助教授

10月29日 公募締切

11月5日 教員選考委員会（第一次選考）

11月12日 面接審査実施（第二次選考）

教員選考委員会において、採用内定。

昇任について（平成17年昇任）

1. 平成16年12月

各学科主任から推薦された候補者の中から、選考方針に従い、教授に昇格する者を選考した。

出典：人事係資料

### 資料3-2-①-3 教育上の能力を含む教員の採用基準，昇格基準

(1) 教員選考方針

平成17年度教員選考方針

平成16年9月14日

天 野 徹

1. 教員の公募

保健・体育分野の助教授について、公募を行う。

他機関における指導経験(5年以上)を有する者を優先する。

公募期間は、2ヶ月間とする。

2. 助教授の教授への昇任

各科から推薦のあった者の中から、以下の4点を均等に評価して、総合評価の高い者から1人を昇任させる。なお、それぞれの項目の評価に当たっては、本校の中期計画に掲げられている数値的な目標達成への貢献度(平成15年度)を加味する。

○ 教育

学生による授業評価結果(過去3年間)

専攻科特別研究指導(過去3年間)

教育に関する表彰(助教授在任中)

○ 教務, クラブ活動

主事補, 専攻科幹事, 委員会委員, 学級担任, 学生相談室員(過去3年間)

クラブ活動の指導(3年以上継続したものすべて)

指導クラブの受賞, 入賞歴(指導期間中)

○ 研究

教育論文, 研究論文, 特許, 著書(過去5年間)

学会発表, 学術講演(過去5年間)

外部競争的資金の導入(助教授在任中)

学術表彰

○ 社会貢献

外部団体の委員(1年以上継続したものすべて)

公開講座, 招待講演(過去3年間)

テクノ委員・参事(過去3年間)

共同研究, 受託研究, 奨学寄付金(助教授在任中)

なお、一級建築士, 技術士, 弁理士など特別な資格を有する者, 大臣表彰級以上の表彰を受けた者については、さらに評価する。

出典：人事係資料

(2) 非常勤講師公募

徳山高専では来年度の非常勤講師を公募します。募集する科目は以下の9科目です。

科目名学科・学年勤務形態

本科

基礎英語 W 全1年 1週3時間 公募要領(PDF形式)

総合英語 IR 全2年 1週6時間 公募要領(PDF形式)

体育 全1~4年 1週8時間 公募要領(PDF形式)

健康科学 全4, 5年 1週1日1時間 公募要領(PDF形式)

芸術(書道) 全2年 1週1日2時間 公募要領(PDF形式)

芸術(音楽) 全2年 1週1日2時間 公募要領(PDF形式)

心理学 全5年 1週1日1時間 公募要領(PDF形式)

弾塑性論 機械電気工学科5年 1週1日2時間公募要領(PDF形式)

専攻科

材料強度学 機械制御工学専攻2年 1週1日2時間公募要領(PDF形式)

教員(本科非常勤講師)公募要領

1. 公募人員 1名

2. 担当科目 基礎英語W(1年生通年)

3. 勤務形態 1週3時間

4. 勤務手当 1時間5,000円

5. 応募資格 年齢満70歳未満で以下のいずれかに該当する者

(1)博士の学位を有する者

(2)修士の学位を有する者

(3)大学又は高等専門学校において教授, 助教授, 専任の講師又は助手の経歴がある者

(4)高等学校において教諭の経歴がある者

(5)学校, 研究所, 試験所, 調査所等に在職し, 教育若しくは研究に関する実績を有する者

(6)工場その他の事業所に在職し技術に関する業務についての実績を有する者

(7)担当科目について優れた知識及び経験を有すると認められる者

6. 応募期限 平成18年2月6日(月)必着

7. 選考方法 書類審査

8. 雇用期間 平成18年4月から平成19年2月まで

9. 提出書類

(1) 履歴書 (市販の履歴書に自筆で記入し, 写真を貼付する。)

(2) 教育・研究業績一覧表 (博士論文, 口頭発表等を含む。)

(3) 志望の動機 (履歴書に記入も可)

10. 提出先及び問い合わせ先

(中略)

学校紹介については, 以下の URL にてご覧ください。 <http://www.tokuyama.ac.jp/>

出典：人事係資料

## 資料 3-2-①-4 非常勤講師の任用に関する内規

## 徳山工業高等専門学校非常勤講師の任用に関する内規

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の任用については、この内規の定めるところによる。

第2条 非常勤講師は、次の各号のすべてに該当する者とする。

- (1) 高等専門学校設置基準（昭和36年8月30日文科省令第23号）に定められた講師以上の資格を有する者
- (2) 優れた見識を持ち、本校の教育方針に添った教育指導のできる者
- (3) 任用時において、年齢満70歳未満の者
- (4) 健康で勤務に支障がない者

第3条 任用の期間は、1年以内とする。ただし、校長が必要と認めるときは、任用を更新することができる。

第4条 非常勤講師が担当できる授業時数は、週8時間以内とする。

第5条 非常勤講師（第3条ただし書きに定めるところにより更新しようとする者を除く。）の選考は、原則として公募によるものとし、選考委員会（以下「委員会」という。）が、これを行うものとする。

2 選考にあたっては、候補者の人格、健康、教授能力、教育業績、研究業績及びその他の活動等を総合的に勘案するものとする。

第6条 委員会は、校長及び校長が指名する委員若干名をもって組織する。

2 委員会は、校長が主宰する。

3 委員の任期は、当該選考の審議が終了するまでとする。

第7条 特別な事情により、この内規により難しい場合には、校長は別段の取扱いをすることができる。

出典：庶務課資料

（分析結果とその根拠理由）

常勤教員はもとより非常勤教員に関しても教員採用や昇格等に関する規定等や内規が明確に定められており、適切に運用されている。採用や昇格等に関する規定が設置基準に外れていないこと、および教育面に関する考慮や評価も行っており、教育上の能力も判定されている。

改善点として、本校中期計画でも触れているように、人事システムの流動性向上のために任期つき採用制度についても今後検討する余地がある。

以上のことから、教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされている。

**観点 3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。**

（観点に係る状況）

- ・ 教員の教育活動に関する定期的な評価体制の1つとして、「学習・教育レビュー室」がある。年4回の授業アンケートが実施されており、授業改善の方向に向かっていると見える（資料9-1-①-1）。なお、平成18年度からはオンライン授業アンケートシステムを導入し、さらなる改善をはかることになっている（資料9-1-①-2）。さらに、公開授業（資料9-1-④-4, 5）が毎年、計画的に行われており、各教員の教育活動の評価に役立っている。
- ・ 教員は年間職務の自己評価（資料9-1-①-2）により、授業アンケート結果なども含めた教育活動の評価と改善を行っている、「自己評価委員会」（資料3-2-②-1）による5年間のまとめによれば、授業評価アンケートの効果も明らかである（資料3-2-②-2）。

資料 3-2-②-1 徳山工業高等専門学校自己評価委員会規則（抜粋）

（設置）

第1条 徳山工業高等専門学校学則第1条の2の規定に基づき、自己点検・評価を行うため自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第2条 委員会は、運営委員会の付託を受け、自己点検・評価に関する具体的事項を検討する。

2 委員会は、自己点検・評価に関する専門的事項を検討するため、関連する各種委員会等に付託することができる。

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事補のうちから選出された者 1名
- (2) 学生主事補のうちから選出された者 1名
- (3) 寮務主事補のうちから選出された者 1名
- (4) 各学科及び一般科目の教員のうちから選出された者 各1名
- (5) 庶務課長

2 前項に定める委員のほか、校長が必要と認めた者を加えることができる。

出典：本校規則集

資料 3-2-②-2 年間職務の自己評価－5年間のまとめ－

平成16年度前期末から授業アンケート総合評価が3.2以上かつすべての項目で2.9以上の科目に対して授業アンケートの免除科目が設定されて、評価の高い科目数がわかるようになった（表1参照）。同一時期の免除科目数を比較すると、平成17年度には前期末、後期中間、後期末のいずれの場合においても16年度の免除科目数を上回り、授業の改善傾向が窺える。

表1 授業アンケート免除科目数

	平成16年度			平成17年度			
	前期末	後期中間	後期末	前期中間	前期末	後期中間	後期末
一般科目	8	5	15	9	21	8	20
機械電気	6	0	11	6	14	11	11
情報電子	3	0	5	3	5	7	7
土木建築	5	0	9	7	19	11	11
専攻科	0	0	13	9	8	0	6
計	22	5	53	34	67	37	55

数字は同一科目に複数教員が担当する場合を区別して集計した値

出典；自己評価委員会資料

（分析結果とその根拠理由）

教員の教育活動に関する定期的な評価は、学習・教育レビュー室と自己評価委員会により行う体制が整備され、授業アンケートや公開授業、年間職務の自己評価などを通して適切に行われている。

以上のことから、教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われている。

**観点 3-3-①：** 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

事務職員、技術職員等の教育支援者の配置状況（組織、人数、支援内容など）については、学生課に専門員1名、教務係4名、学生係に4名が配置されている（資料11-1-②-2）。図書館に3名の職員、情報処理センターに2名の職員（第三技術室と兼務）、教育研究支援センターに9名の技術職員が学生の勉学や実習等の支援を行うために配置されており、学生の教育を支援し教員を補佐する体制が整備されている（資料11-1-②-3）。また、平成8年度から専攻科生によるTA（ティ

ーチング・アシスタント) 制度を設け、低学年の1年生では数学を、2年生では物理の演習授業を放課後に行っている(資料7-1-①-19)。

(分析結果とその根拠理由)

事務職員、技術職員等の教育支援者が、図書館や情報処理センター、教育研究支援センター等に適切に配置されている。専攻科生によるTA制度も平成8年度から行われており、低学年の数学と物理演習で教育支援の一翼を担っている。

以上のことから、事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 非常勤教員についても公募を行っている。
- ・ 専攻科授業および特別研究を担当する教員に研究業績の基準を設け、教員の専門性能力の研鑽と研究能力水準の維持向上に努めている。
- ・ 授業アンケートを実施し、授業改善に取り組んでいる。
- ・ 人事交流や教員の自己評価などが定期的に行われ、適切に機能している。

(改善を要する点)

- ・ 該当なし

## (3) 基準3の自己評価の概要

養成しようとする技術者教育を行うため、各学科/専攻のカリキュラムを構成する3~4の分野別担当者は、いずれの学科/専攻においてもほぼバランスがとれており、教員が適切に配置されている。一般科目では「世界に通用する」分野を担当しているが、それを構成する各分野に教員が適切に配置されている。

専攻科では、専攻科を担当できる資格基準が明確に定められており、43名の常勤教員がこの基準を満たしている。また、養成しようとする技術者教育が行えるよう、各分野の教員も適切に配置されている。

本校の教育目標を達成するため、目的に合った教員の配置がなされている。すなわち、「世界に通用する」教育を行うため、学位を取得し、国際会議に参加したり、海外在住の経験をもつ教員も多い。「実践力のある」教育を行うため、企業経験者や技術士および各種技術者資格取得者が揃っている。「開発型」教育を行うため、多くの教員が地域からの依頼による各種委員や講師の経験を積んでおり、共同研究や受託研究を行っている教員も多い。

教員採用は公募方式により基準を設けて適切に行われ、昇格の基準も明確になっている。非常勤教員についても同じく公募が行われている。また、高専間人事交流、内地、外地留学などさまざまな制度を活用し、教員のブラッシュアップをめざし、積極的に交流を進めている。

教員の教育活動に関する定期的な評価は、学習・教育レビュー室と自己評価委員会により行う体制が整備され、授業アンケートや公開授業、年間職務の自己評価などを通して適切に行われている。このようなことも反映し、3年連続して、国立高等専門学校機構から、教員顕彰の表彰を受けた。

事務職員、技術職員等の教育支援者が、図書館や情報処理センター、教育研究支援センター等に適切に配置されている。専攻科生によるTA制度も平成8年度から行われており、低学年の数学と物理演習で教育支援の一翼を担っている。

## 基準 4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

#### (a) アドミッション・ポリシーの設定

本校の各種募集要項（準学士課程学生、編入学生、専攻科学生）のなかに、次のように定められている（資料 4-1-①-1）。

「入学者選抜の基本方針（アドミッションポリシー）は、本校の学習・教育目標（後の頁の入学案内を参照する旨、明記している）を達成できる能力をもった学生を入学させることである」

木で鼻をくくったような表現ではあるが、入学案内に、本校の概要、学習・教育目標、養成しようとする技術者像などを募集対象に合わせて記載しており、特に学習・教育目標が明確であることから、十分ではないものの、本校の求める人物像は定められていると考えている。

#### (b) アドミッション・ポリシーの周知・公表

アドミッション・ポリシーは、学生募集要項、編入学生募集要項、専攻科学生募集要項に記載している（資料 4-1-①-1）。それらに加え、本校のウェブサイト（入試情報）にも掲載し、公開している（資料 4-1-①-2）。

教職員にはそれらの募集要項を配布するとともに、教員会議や各学科教室会議等により、随時周知している。

社会に対しては、準学士課程と専攻科課程の入試を主たる対象に、下記のように多くの機会を利用して、学生の受け入れ方針を説明している。なお、4年次への編入学に関しては特別のPRを行っておらず、希望者に資料を配付するにとどまっている。

#### ① 準学士課程入試関係

##### 1) 中学校訪問（中学校前年度進学担当者等が対象）

- 前期の中間試験結果が出揃った7月上旬前後に、学生の出身中学校を教務主事および主事補の教員が訪問する。
- 入学後の学習状況やクラブ活動等の状況をもとに前年度進学担当者等と懇談を行う。
- 中学校側の進路指導や本校での学習・生活指導に役立っている（資料 4-1-①-3）。

##### 2) 徳山高専現状説明会（中学校校長が対象）

- 8月上旬に、在学生出身中学校の校長等を対象に本校の教育方針や現状説明を行う（資料 4-1-①-4）。

##### 3) 進学説明会（中学校進学担当者が対象）

- 本校ならびに県内、県外の中学校を会場（約20会場）とし、本校の概要や学生募集要項の説明、入学までの諸手続き等の説明を行っている（資料 4-1-①-5）。

##### 4) 中学校主催高校説明会（中学生、保護者、中学校教員が対象）

- 中学校からの要請により近隣高校と合同で開催される。
- 3年生や保護者等に学校の概要や入試の状況等の説明を行っている（資料 4-1-①-

6)。

5)校内見学会(中学生,保護者,中学校教員が対象)

- 8月と11月の年2回,中学生を対象とした校内見学会を実施している(資料4-1-①-7)。

②専攻科入試関係

1)専攻科入試説明会(準学士課程学生対象)

- 5月下旬に,準学士課程学生を対象に専攻科入試説明会を開いている(資料4-1-①-8)。

2)専攻科説明会(保護者対象)

- 11月上旬の保護者会で,保護者を対象に約1時間,専攻科の説明会を開いている。
- 配付資料をもとに,専攻科の概要や現況を中心に専攻科の紹介をしている(資料4-1-①-9)。
- 例年,20~30名の保護者が参加している。

3)専攻科説明会(準学士課程学生対象)

- 11月中旬に,準学士課程学生を対象に約1時間,専攻科の説明会を開いている。
- 配付資料をもとに,専攻科の概要や現況,JABEEや入学試験と専攻科の紹介をしている(資料4-1-①-8)。
- 例年,4年生を中心に40~50名の学生が参加している。

(c) アドミッション・ポリシー公開資料

- 学生募集要項・入学案内
- 編入学生募集要項・入学案内
- 専攻科学生募集要項
- ウェブサイト

(分析結果とその根拠理由)

- 募集要項に,アドミッション・ポリシーが明確に示されている。
- 教員に対する周知は,募集要項の配布や教員会議,各学科教室会議により随時行われている。
- 学校要覧,学生募集要項・入学案内は中学校を中心に配布されているが,ウェブサイト,校内見学会等を通じて社会に対しても公表している。

以上のことから,適切に対処されている。

資料4-1-①-1 アドミッション・ポリシー

## 平成18年度 徳山工業高等専門学校学生募集要項

### I 選抜の基本方針

入学者選抜の基本方針(アドミッションポリシー)は,本校の学習・教育目標(8頁を参照)を達成できる能力をもった学生を入学させることです。

出典:募集要項

資料 4-1-①-2 アドミッション・ポリシー

入試情報 Entrance Exam  
Copyright 2002 Tokuyama College of Technology (Japan). All Right Reserved.  
徳山工業高等専門学校

HOME  
学校案内  
入試情報  
学科専攻紹介  
JABEE  
イベント  
ニュース  
リンク集  
教職員限定

## 入試概要

### 平成18年度入学試験

#### 選抜の基本方針

入学者選抜の基本方針（アドミッションポリシー）は、本校の学習・教育目標を達成できる能力を持った学生を入学させることです。

出典：本校ウェブサイト  
<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/entrance/departments/outline.html>

資料 4-1-①-3 中学校訪問記録

### 平成17年度中学校訪問日程表

注：網掛の中学校は本校入学者なし

月 日	曜日	時間	本校担当者	会場校	参加中学校			
5/10	火	14:00	森野敦博	住吉中学校	住吉中	秋月中		
5/11	水	10:00	谷本圭司	福川中学校	福川中	和田中	桜田中	
5/13	金	14:00	杉村敦彦	岐陽中学校	岐陽中	大島中		
5/16	月	14:00	古田健一	周陽中学校	周陽中			
5/20	金	14:00	杉村敦彦	富田中学校	富田中	鹿野中	菊川中	
5/23	月	14:00	杉村敦彦	末武中学校	下松中	久保中	末武中	熊毛中
5/25	水	14:00	谷本圭司	太華中学校	太華中	鼓南中		
5/26	木	14:00	石田浩一	須々万中学校	須々万中	須金中	中須中	翔北中

出典：教務係資料

## 資料 4-1-①-4 中学校校長への徳山高専現状報告会案内

## 徳山高専の教育方針・現状説明会

1. 開催日時 平成17年8月 1日(月) 15時～18時
2. 場 所 ホテルサンルート徳山
3. 出席者  
別紙出席名簿
4. 日 程
 

受 付	14:30～15:00
開 会	15:00
日程説明等	15:00～15:02
出席者紹介	15:02～15:05
校長挨拶	15:05～15:25
徳山高専の教育方針・現状について	
・本科, 専攻科について(教務主事)	15:25～15:55
・進路支援室について(進路支援室長)	15:55～16:10
質疑応答	16:10～16:25
(休 憩)	
懇談会	16:30～18:00

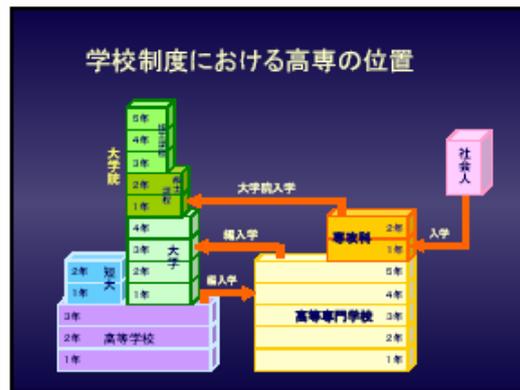
出典：教務係資料

資料 4 - 1 - ① - 5 進学説明会資料 (抜粋)

**Tokuyama College of Technology**

徳山高専は  
プロのエンジニアをめざす  
学校です

徳山工業高等専門学校



徳山高専の学習・教育目標

世界に通用する  
実践力のある  
開発型  
技術者をめざす  
人材の育成

徳山高専の教育の特色

- 複合  
わが国のパイオニア的存在、OBや企業から高い評価
- 実践的  
ロボコンを始めとする各種コンテストの実績
- 開発型  
創造教育に係る各種コンテストの実績  
専攻科設置以来、修了生全員が学協会で発表
- 地域企業との連携  
テクノ・リフレッシュ教育センターの活発な活動  
徳山高専テクノ・アカデミアを通じた地域との連携



出典：教務係資料

資料 4 - 1 - ① - 6 中学校主催高校説明会日程表

平成 1 7 年度進学説明会日程表

実施期日	開始時刻	会 場		電 話	説明者
		開催地区名 学 校 名	所 在 地		
10月18日(火)	14:00	宇部市・山陽小野田市 厚南中学校	宇部市厚南区中野	0836-41-8041	谷本圭司 空 俊雄
10月19日(水)	14:00	下関市 川中中学校	下関市川中本町2-2-1	0832-52-0900	古田健一 坂本浩史
10月20日(木)	10:00	山口市 山大附属山口中学校	山口市白石1-9-1	083-922-2824	森野数博 坂本浩史
	13:30	防府市 華陽中学校	防府市大字田島7-19-2	0835-22-1049	
10月21日(金)	10:00	大島郡 蒲野中学校	大島郡周防大島町東三蒲1106-1	0820-74-2329	杉村敦彦 坂本浩史
	13:30	玖珂郡 周東中学校	玖珂郡周東町大字下久原483	0827-84-1271	
10月25日(火)	10:00	山口市(旧佐波郡) 島地中学校	山口市徳地島地43	0835-54-0010	杉村敦彦 空 俊雄
	13:30	山口市(旧吉敷郡) 小郡中学校	山口市小郡下郷879-1	083-973-0509	
10月26日(水)	10:00	光市 浅江中学校	光市花園2-1-1	0833-72-0027	古田健一 空 俊雄
	13:30	広島県大竹市 大竹中学校	大竹市白石1-8-1	0827-52-5177	
10月27日(木)	10:30	萩市・長門市 萩東中学校	萩市土原556-1	0838-25-2721	石田浩一 坂本浩史
	14:00	美祿郡・美祿市 美東中学校	美祿郡美東町大字大田6258	08396-2-0521	
11月4日(金)	10:00	岩国市 川下中学校	岩国市中津町2-22-25	0827-21-5168	石田浩一 坂本浩史
	13:30	柳井市・熊毛郡 柳井中学校	柳井市柳井4155	0820-22-0405	
11月10日(木)	13:30	周南市・下松市 徳山工業高等専門学校	周南市久米高城3538	0834-29-6232	森野数博 空 俊雄 坂本浩史

出典：教務係資料

資料 4-1-①-7 校内見学会案内

平成 17 年 6 月 15 日

各 中 学 校 長 殿

徳山工業高等専門学校長  
天 野 徹  
(公印省略)

平成 17 年度第 1 回校内見学会の開催について (ご案内)

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より本校の教育に関しご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年度も中学生とその保護者及び教職員の皆様を対象に、下記のとおり見学会を計画いたしました。第 1 回見学会は「高専まるかじり」と題し、参加者がすべての学科を自由に見学できるように企画いたしました。

ついては、ご多忙とは存じますが、貴校生徒、保護者及び教職員の皆様にご連絡いただき、多数ご参加くださるようご案内申し上げます。

また、当日は各校の進路指導担当の先生 (1 名) と本校教務主事等との意見交換会を 12 時より約 1 時間開催いたしますので併せてご案内申し上げます。意見交換会では簡単な昼食をご用意いたします。

なお、準備の都合もありますので、お手数ですが別紙申込書にご記入のうえ、7 月 22 日 (金) までにファクシミリで学生課教務係へ送付くださるようお願いいたします。

更に、第 2 回校内見学会は「1 日体験入学」をテーマに 11 月 12 日 (土) に開催する予定です。詳細については後日改めてお知らせしますので、よろしく願いいたします。

敬具

記

1. 日 時 平成 17 年 8 月 24 日 (水) 9 時 30 分～15 時 (9 時から受付)
2. 場 所 徳山工業高等専門学校 (周南市久米高城 3 5 3 8)
3. 内 容 1) 全体説明会 (徳山高専の概要等), 学科説明会  
2) 自由見学・研究室開放 (各学科の企画等)  
3) 学生寮見学, その他

※ 当日は筆記用具を持参してください。

※ 午後も見学される場合は、昼食が必要となりますので各自で準備願います。

なお、学生食堂ではカレーライス (300 円), 冷麺 (350 円), 定食 (400 円), 中華丼 (350 円), ミートスパゲティ (350 円), フルーツポンチ (100 円) を販売します。(金額は税込み)

ご利用については、お手数ですが中学校で希望者数を取りまとめてお申し込みください。

お申し込みのない方は学生食堂をご利用いただけませんので、ご注意ください。

担 当 : 学生課教務係

TEL (0834) 29-6232

FAX (0834) 29-6161

出典 : 教務係資料

資料 4 - 1 - ① - 8 専攻科入試説明会 (学生用) 資料 (抜粋)

## 徳山高専専攻科の紹介

本校はJABEE認定校です

## 進路の選択肢は3つ

- ・ 就 職
- ・ 進 学
  - ・ 大学編入
  - ・ 専攻科入学

どの進路も一長一短  
個人の特性を見極めることが肝要

## 就 職 の 場 合

- ・ 学校推薦が多く、就職は比較的容易
- ・ 職種は生産管理や品質管理、メンテナンスやフィールドエンジニアが主体
- ・ 学卒と給与体系が別  
(“頑張れば”という条件)
- ・ 一流企業からの求人はほとんどなし

## 大学編入の場合

- ・ 推薦が多く、旧帝大を除けば編入は容易
- ・ 多彩で豊富な教師集団
- ・ 人脈が広がり、自主性が育ちやすい
- ・ 旧帝大クラスは学力試験が必須
- ・ 学部で卒業する場合、就職きわめて不利  
(大学院生が優先)
- ・ 大学院への入学時に推薦入学が困難
- ・ JABEE認定をとっていない大学は困難も

## 専攻科進学の場合

1. 国際的に通用するJABEE認定校出身者 (5年認定)
2. 学士の学位が得られる (大卒と同じ資格)
3. 在学中に全員が学会発表するなど、学士にして大学院レベルの実力をつける
4. 学会発表に対し、2年間で2回、旅費の補助あり
5. 1年前期に3ヶ月間のインターンシップ実施、実践的環境下で十分な体験が積める
6. インターンシップの一環で海外研修もOK、経費の補助あり
7. 英語力がつく (修了時に、TOEICスコア400は最低保証)
8. 社会的に価値ある各種資格を全員が取得できる(二級建築士など)、経費の補助あり

## 専攻科進学の場合

9. 就職先の職種は研究開発や設計につくことが多い
10. 大学院への推薦入学実施校多数、推薦入学、確実。  
旧帝大への進学は断然優位 / 平成16年度：39校  
(東北大、名大、京大、阪大、山大、九大総理工、九工大他)
11. 大学院へ推薦入学の場合、希望する研究室に入りうる
12. 大学院修了後の進路、かなりよし。  
(専攻科⇒大学院はハイレベルの実力養成コース)
13. 授業料が安い  
(本科と同額22.8万円、国立大学(52万円)の約1/2.5)
14. 育英会奨学金の可能性、大  
(4・5年の成績と家計が対象)

出典：説明会資料

## 資料 4 - 1 - ① - 9 専攻科入試説明会（保護者用）資料

## 専攻科とは

## ○ 本校専攻科に進学の場合

## 長 所

1. 国際的に通用する J A B E E 認定校出身者(H15：5年認定)となる。
2. **学士の学位**が得られる（大卒と同じ資格）
3. 在学中に全員が学会発表するなど、学士にして**大学院レベルの実力**をつける
4. 学会発表に対し、**2年間で2回、旅費の補助**あり
5. 1年前期に**3ヶ月間のインターンシップ実施**。実践的環境下で十分な体験が積める
6. インターンシップの一環で、**海外研修もOK**。経費の補助あり
7. 英語力がつく（修了時に、**TOEICスコア400は最低保証**）
8. 社会的に価値ある**各種資格を全員が取得**できる（二級建築士など）。経費の補助あり
9. 就職先の職種は**研究開発や設計**につくことが多い
10. 大学院への**推薦入学実施校多数**。推薦入学、确实。旧帝大への進学は断然優位  
／平成16年度：39校（東北大、名大、京大、阪大、山大、九大総理工、九工大他）
11. 大学院へ推薦入学の場合、希望する研究室に入りうる（**専攻科生は別枠**）
12. 大学院修了後の進路、かなりよし。（**専攻科⇒大学院はハイレベルの実力養成コース**）
13. **授業料が安い**（本科と同額22.8万円、国立大学（52万円）の約1/2.5）
14. **育英会奨学金受給の可能性、大**（4・5年の成績と家計が対象）

## 短 所

1. 知名度が低く、苦勞することもあり（しかし J A B E E 認定されれば問題なし）
2. 教員スタッフが大学ほど豊富ではない
3. 就職試験は大卒と同様で厳しい（J A B E E 認定で大企業に有利。合格すれば好待遇）
4. 学力で大学院を受験する場合はやや厳しい（しかし推薦の場合は逆に容易）
5. 学内で多くの人や物に接する機会が大学より少ない
6. より高度の知識をもった上級生（例えば博士課程の学生）が少ない
7. 学内で学会や研究会に参加する機会が大学より少ない
8. 7年間、同じ環境（しかし大学も条件は同等（修士課程だと6年間）：編入は別）

## ◎ 専攻科進学に適しているタイプ

- ・ 興味をひく研究テーマがあり、卒研担当の先生と相性の合う人
- ・ 社会に出る前に、**実践的環境下で十分な体験を積みたい人**
- ・ 社会的に価値のある各種資格（二級建築士など）を在学中に取得したい人
- ・ 通常の勉学を続けることで、**J A B E E 認定を受けたい人**
- ・ **研究中心に実力をつけ、旧帝大に進学したい人**
- ・ **ここから離れたくない人**（現在の環境を変えたくない人）
- ・ **経済的な負担を減らしたい人**

## ◎ 大学編入に適しているタイプ

- ・ **本校にやりたい分野がない人**
- ・ 理論面により重きをおきたい人
- ・ **環境（家、学校、友人、地域、等）を変えたい人**
- ・ **学歴を大学卒としたい人**

出典：教務係資料

観点 4-2-①： アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校のアドミッション・ポリシーは、「本校の学習・教育目標を達成できる能力をもった学生を入学させること」である。そこで、6つの学習・教育目標(A1)～(C2)と推薦選抜ならびに学力選抜ごとに、準学士課程ならびに専攻科課程においてどのように選抜方法を対応させているか、まとめたものを資料4-2-①-1に示す。また、それらの詳しい実施状況を以下に示しているが、実際の入学者選抜はアドミッション・ポリシーを反映して、適切に行われている。

(a) 準学士課程1年次への入学試験

① 推薦による選抜

- 中学校長から推薦のあった者に対して一般面接、適性面接及び作文を課し、推薦書ならびに調査書を併せて評価し、入学試験委員会で合格者を決定する。(禁帯出：推薦書、調査書の配点の総合得点の表)
- クラブ活動等の特別活動を積極的に行い、活躍している者については、優先的に選抜している。なお、推薦基準は学生募集要項に明記している。

② 学力検査による選抜

- 学力検査による選抜は、学力試験の成績と調査書の成績の合計を基本データとして、入学成績総合で判断している。
- 数学の試験成績は2倍、英語と国語はそれぞれ1.5倍の傾斜配点を行っている。このことは、進学説明会等で説明することで、受験生及び中学校に周知している。

(資料4-1-①-3, 5, 6, 7)

(b) 準学士課程4年次への編入学試験

学力検査及び面接を課し、入学試験委員会で合格者を決定している。(禁帯出：編入試験入試委員会議事録)

(c) 専攻科課程への入学試験

① 推薦による選抜

- 高等専門学校長や短期大学長、専修学校長から定められた基準に基づいて推薦のあった者に対して行っている。
- 卒業研究のねらいもしくは各専攻が別に定めたテーマによるプレゼンテーションならびにそれをもとにした口頭試問及び面接を行い、推薦書・調査書・成績証明書と併せて総合評価を行っている。
- 合否の判定は、校長、専攻科長、教務主事、専攻幹事、学科主任による入試選考会議で行っている。(禁帯出：専攻科推薦入試選考会議議事録)

② 学力検査による選抜

- 学力検査(数学、英語、専門科目(6科目から3科目を選択))及び面接を行い、調査書・成績証明書と併せて総合評価を行っている。
- 合否の判定は、合格最低基準を設定し、入試選考会議で行っている。(禁帯出：学力入学試験入試委員会議事録)

③ 社会人特別選抜

- 企業の推薦を受けた者は企業からの推薦内容を重視し、選抜は主に面接により行っている。

- 合否の判定は入試選考会議で行うこととしている。

(分析結果とその根拠理由)

- 入学者の選抜は、準学士課程ならびに専攻科課程とも推薦および学力試験で行っており、アドミッション・ポリシーである学習・教育目標の6項目とそれらの選抜方法を対応させ、入学者を選抜している。

以上のことから、適切に行われている。

資料4-2-①-1 学習・教育目標 (A1) ~ (C2)

学習・教育目標と入試選抜方法の対応

アドミッション・ポリシー

本校の学習・教育目標を達成できる能力をもった学生を入学させること

○ 準学士課程

学習・教育目標	推薦選抜	学力選抜
(A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること	推薦基準を高レベルに設定 調査書で評価し、適性面接でも 数学・理科により評価	専門科目の基礎となる 数学を2倍に傾斜 配点
(A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと	技術者として考えて欲しいテーマで書かれた作文により評価	国語と英語を1.5 倍に傾斜配点
(B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること	推薦書で各種資格や表彰実績により評価	特になし
(B2) 自主性と自立性を養うこと	推薦書で特別活動やクラブ活動により評価し、一般面接でも評価	特になし
(C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること	推薦書で各種コンテストでの表彰により評価	特になし
(C2) 課題を把握し、解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと	推薦書に書かれた志望学科への適性や意欲を一般面接で確認・評価	特になし

※推薦選抜評価方法：推薦書、調査書、一般面接、適性面接、作文の5項目の合計点で評価

○ 専攻科課程

学習・教育目標	推薦選抜	学力選抜
(A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること	推薦基準を高レベルに設定	試験科目に数学及び 専門基礎科目を課す
(A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと	卒業研究のプレゼンテーション能力で評価	試験科目に英語を課す
(B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること	卒業研究のプレゼンテーションに用いるパワーポイント等で評価	特になし
(B2) 自主性と自立性を養うこと	推薦書と面接により特別活動やクラブ活動を評価	特になし
(C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること	卒業研究の発表内容と質疑応答で評価	特になし
(C2) 課題を把握し、解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと	卒業研究の発表内容と専攻科での特別研究内容などで評価	特になし

※推薦選抜評価方法：卒業研究のプレゼンテーション及びそれをもとにした口頭試問ならびに調査書への記載事項などを参考にした面接を行い、研究面における基礎的素養ならびに研究への意欲あるいは人物面について3段階で総合評価する。

出典：教務係資料

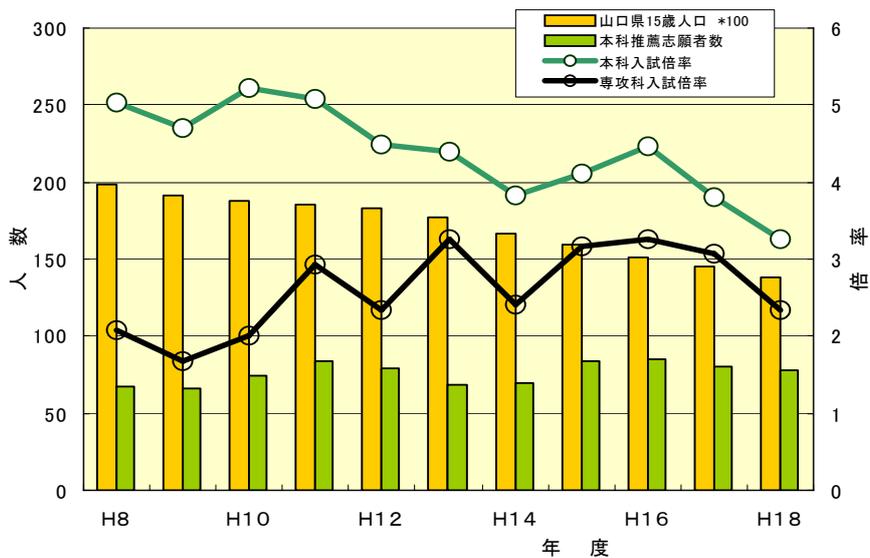
観点 4-2-②： アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

- アドミッション・ポリシーという表現は使っていなかったものの、その趣旨に沿った選抜は、現在の教育目標（6項目の学習・教育目標は平成14年度制定）が掲げられた平成5年度（専攻科課程は平成7年度）以来、続けられている。その目標のもとで学生を受け入れ、教育を行ってきた。

平成8年度以降の準学士課程と専攻科課程の入試倍率などのデータを資料4-2-②-1に示す。準学士課程では倍率が次第に低下しているが、この傾向は山口県における15歳人口の減少傾向とほぼ似かよっており、それが原因と考えられるが、依然として3倍を維持している。そのなかにあって、推薦志願者は約80名（定員は120名）と高レベルを維持し続けており、推薦基準が比較的高い（2・3年次の9教科または5教科の平均が4.0以上）ことを併せ考えると、受験者のレベルは相対的には上がっているとも考えられる。また専攻科課程では、年度によって変動があるものの、ほぼ2.5倍を上回っている。このことは、間接的ではあるが、アドミッション・ポリシーに沿った本校の選抜方法が適切であったことのひとつの傍証にはなる。
- 準学士課程における留年者数は、平成8～17年度まで順に12, 10, 10, 12, 10, 8, 19, 14, 13, 14名と平均12名となり、平均留年率は約2%ときわめて低いレベルにある。このことも、学生が本校の教育方針に合致し、適応していることを示しているひとつの傍証にはなる。専攻科課程の留年は、ほとんどいない。
- 現在行っている選抜方法で特に不都合も起こっていないことから、特に検証は行っていないものの、現行の方法を変更する必要性をいまのところ認めていない。

資料 4-2-②-1 準学士課程と専攻科課程の入試倍率などのデータ



出典：教務係資料

(分析結果とその根拠理由)

- 実際に入学した学生がアドミッション・ポリシーに沿っていたか、直接的に検証することは難しい。そのため、実質的に現在と教育方針や入学者選抜方法が変わっていない過去10年間の入学試験志願状況ならびに留年率を追跡したところ、大きな変化はみられなかった。これらのことは、間接的ではあるが、アドミッション・ポリシーに沿った本校の選抜方法が適切であったことを示しており、従来の入学者選抜方法を継続している。
- 今後入学者の追跡調査等を実施し、その結果を入学者選抜の改善に役立てる必要がある。

以上のことから、適切に行われている。

**観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。**

(観点に係る状況)

(a) 入学定員と実入学者数

- 準学士課程においては過去5年間大幅に定員を超える、又は下回る状況にない(資料4-3-①-1)。
- 専攻科においては、定員の2倍近い数の入学者を受け入れている(資料4-3-①-2)。

(b) 専攻科において、入学者が多いことに対する状況

①施設・設備

- 専攻科棟の講義室(24名収容)3室に加え、テクノ・リフレッシュ教育センター多目的研修室、中講義室、情報処理センターなど、大人数収容の施設が利用可能。
- 専攻科棟内の学生研究室には、自由に使用できる机やパソコンなどがあり、学習環境を整備。
- 特別研究は、各指導教員のもとに配属され、教員とコミュニケーションがとれる形で実施。

②教員数等

- 専攻科生は現在1・2年生合わせて48名(定員は24名)在籍しているが、専攻科の授業を担当する資格のある常勤教員は54名(指導補助教員(助手)5名を含む)であり、特別研究を指導する資格のある常勤教員も43名(指導補助教員(助手)5名を含む)と十分な教員数を確保しており、教員の負担が過重になることはない。
- ③修了要件と学位取得者
- 専攻科のプログラムは4年間に相当する学習・教育で構成され、124単位以上修得し、学士の学位を得た者を修了生としている(資料5-7-①-2)。
- 専攻科生のほとんどすべてが大学評価・学位授与機構から学士の認定を受けている(資料4-3-①-4)。

資料 4 - 3 - ① - 1 学科別志願者状況の推移

学科別入学志願状況の推移

		機械電気工学科	情報電子工学科	土木建築工学科	計
平成13年	志願者	181 (4)	196 (63)	151 (37)	528 (104)
	入学者	50 (1)	43 (14)	40 (15)	133 (30)
	倍率	4.5	4.9	3.8	4.4
平成14年	志願者	179 (10)	142 (34)	139 (38)	460 (82)
	入学者	42 (2)	41 (11)	40 (12)	123 (25)
	倍率	4.5	3.6	3.5	3.8
平成15年	志願者	182 (5)	172 (43)	139 (42)	493 (90)
	入学者	41	41 (11)	45 (13)	127 (24)
	倍率	4.6	4.3	3.5	4.1
平成16年	志願者	163 (3)	206 (60)	167 (57)	536 (120)
	入学者	39	40 (16)	46 (15)	125 (31)
	倍率	4.1	5.2	4.2	4.5
平成17年	志願者	148 (7)	173 (45)	136 (39)	457 (91)
	入学者	40 (4)	43 (9)	43 (11)	126 (24)
	倍率	3.7	4.3	3.4	3.8
( ) は女子学生内数					

出典：教務係資料

資料 4 - 3 - ① - 2 専攻科志願者状況の推移

専攻別入学志願状況の推移

		機械制御工学専攻	情報電子工学専攻	環境建設工学専攻	計
平成13年	志願者	13	6	20 (7)	39 (7)
	入学者	10	4	12 (3)	26 (3)
平成14年	志願者	4	7 (2)	18 (9)	29 (11)
	入学者	3	5 (2)	8 (5)	16 (7)
平成15年	志願者	9	8 (1)	21 (3)	38 (4)
	入学者	9	8 (1)	14 (3)	31 (4)
平成16年	志願者	10	10 (1)	19 (3)	39 (4)
	入学者	6	4	13 (2)	23 (2)
平成17年	志願者	10	5	22 (5)	37 (5)
	入学者	10	3	14 (3)	27 (3)
( ) は女子学生内数					

出典：教務係資料

資料 4 - 3 - ① - 3 専攻科修了要件

(修了)

第37条 専攻科に2年以上在学し、別表第4に定める単位を修得した者には、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

3 第1項に規定する単位の修得については、別に定める。

別表第 4 (第37条関係)

修了に必要な単位数等

区 分	機械制御工学専攻		情報電子工学専攻		環境建設工学専攻	
	開設単位	履修単位	開設単位	履修単位	開設単位	履修単位
履修科目						
教養科目						
必 修	10	10	10	10	10	10
選 択	6	2	6	2	6	2
専門基礎科目						
必 修	8	8	8	8	8	8
選 択	6	2	6	2	6	2
専門科目						
必 修	22	22	22	22	22	22
選 択	28	18 ※	28	18	28	18 ※
合 計	80	62以上	80	62以上	80	62以上

※ 専門科目 (選択) は、総合科目 (#印) を4単位以上修得すること。

出典：学生便覧

資料 4 - 3 - ① - 4 学位取得者数の推移

	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
卒業者数	16名	26名	16名	31名	22名
学位取得者数	16名	25名	15名	30名	22名

出典：教務係資料

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程

- 入学者定員と比して過不足のない優秀な学生が志願し、入学している。

専攻科課程

- 入学者数が定員の約2倍となつてはいるが、施設・設備面、教員数等の面で支障はなく、学生の学業に対する不利益はない。なお、定数改定の概算要求を、数年来、行っている
- 専攻科課程の学生のほとんどが学士を取得しており、十分な教育が行われている。

以上のことから、適切に行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- 該当なし

(改善を要する点)

- ・ 該当なし

### (3) 基準 4 の自己評価の概要

アドミッション・ポリシーは、入試関係資料に示されている。教員に対する周知は、教員会議、各学科教室会議により随時行われており、中学校および社会一般に対しては、学校要覧、学生募集要項、入学案内の配布、学校訪問、ウェブサイト、校内見学会の開催を通じて公表している。

入学者の選抜は、準学士課程ならびに専攻科課程とも推薦および学力試験で行っており、アドミッション・ポリシーである学習・教育目標の 6 項目とそれらの選抜方法を対応させ、入学者を選抜している。

入学者数については、準学士課程において、定員に比して過不足のない優秀な学生が入学している。同時に、15 歳人口の減少に対して、志願者数の急激な変化はなく、優秀な学生が志願している。専攻科課程において、入学者数が定員の約 2 倍となっはいるが、学生の学業に対する不利益はまったくなく、専攻科課程の学生のほとんどが学士を取得しており、十分な教育が行われている。

## 基準5 教育内容及び方法

## (1) 観点ごとの分析

## ＜準学士課程＞

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

## (a) カリキュラムの設計

- カリキュラムの設計にあたっては、特に本校の場合、すべての学科で準学士課程と専攻科課程が1：1に対応していることから、準学士課程における5年間の一貫性や整合性に留意するとともに、専攻科課程の2年間も視野に置きつつ、それぞれの学科／専攻で得意とする複合技術をどのように修得させるか、それを念頭に置きつつ教育課程を編成し、併せて学習・教育目標の実現をめざしている。
- 学習・教育目標の具体的到達目標を念頭におき、科目を厳選している。
- 平成15年度には科目間調整会議を設置し（資料2-2-①-6）、数学と物理の調整が行われ、教養科目と専門科目との整合性に留意して一貫した教育課程とした（資料5-1-①-1）。
- 平成17年度には英語、国語、化学・生物、創造系科目についても整合性がとれるように科目間調整会議を設置し、系統図および講義内容を作成した（資料5-1-①-2）。
- 平成17年度に4・5年次の学修単位導入に向けてカリキュラムを検討し、授業時間割も念頭に置きつつ、平成18年度から一部変更した（資料5-1-①-3）。なお、学修単位については、平成19年度から、上限の60単位を目安に導入する予定である。

## (b) カリキュラムの体系

- 全学の共通科目である数学、物理、化学・生物、国語、英語、創造系科目の系統図と講義内容を示し、それぞれの科目ごとに、各学年で学習する内容を分かりやすく示した（資料5-1-①-4）。
- 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れを教養科目、および学科ごとに作成し、計4枚の系統図にまとめた（資料2-1-①-2）。その際、専攻科課程も含めて作成し、それぞれ得意とする複合技術を修得する流れをわかりやすく示している。
- それぞれ得意とする複合技術は3～4つの分野で構成されており（資料1-1-①-5）、その分野ごとに学年進行にしたがって開設科目を定めている。その際、数学や物理など関連する共通科目や他の分野の専門科目の開設状況との整合性に留意している。
- 各科目に対し、6つの学習・教育目標ごとに色分けもしており、その特徴がわかるように配慮している。

（分析結果とその根拠理由）

- カリキュラムの内容は、それぞれ得意とする複合技術の修得と、6つの学習・教育目標を満足するよう設計されており、具体的到達目標が達成できるように工夫されている。

- 教養科目とそれぞれ得意とする複合技術ごとに計4枚の系統図を作成し、全体の流れのなかで各科目の果たす役割を横に並べたり色分けしたりすることにより、分かりやすく示している。
- 以上のことから、授業科目は本校の教育目的に添って適切に配置されており、体系的が確保されるとともに、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

資料5-1-①-1 平成16年度数学、物理科目間調整会議

第3回教務委員会・専攻科委員会合同会議（科目間調整会議）議事概要

日 時 平成16年2月9日（月）16：10～17：00  
 場 所 管理棟1階 中講義室  
 出席者 重松教務主事，長戸，杉村，田村，小田宮，藤満，守川，木村  
 森野専攻科長，長山，重安，渡辺，国重，三木，橋本  
 数学：原田主査，物理：室長主査，  
 西村，吉井  
 欠席者 石田，伊藤，山岸学生課長

議 事

- 、1 数学、物理の系統図及び講義内容について  
 田村委員から、配付資料に基づき、数学及び物理の科目間調整会議で検討されたそれぞれの関連科目の系統図及び講義内容について説明があった後、専攻科の数学に英語を用いた科目を開設すること等について意見の交換があり、数学及び物理の科目間調整会議の原案のとおり了承された。

出典：科目間調整会議議事録

資料5-1-①-2 平成17年度数学、物理、化学・生物、国語、英語、創造系科目間調整会議

平成17年度 第4回科目間調整会議事概要

- ① 日 時 平成17年 6月29日（水） 16：15～17：20
- ② 場 所 管理棟2階 会議室
- ③ 出席者 主事，石田，杉村，谷本，学生課長，教務係長  
 数学（原田幸），物理（室長），化学・生物（大橋）  
 国語（一色），英語（長戸），創造教育（義永）
- ④ 欠席者 古田

内容要旨メモ

- 1) 検討状況の最終報告について  
 各主査より、下記のとおり最終報告を行う。  
 数学) 前回報告どおり変更はない。  
 物理) 変更は、専攻科2年物理化学を1年の後期で実施。  
 化学生物) 変更は、専攻科2年生命化学を1年での実施。  
 別紙，系統図添付  
 国語) 前回報告に変更はない。  
 別紙，系統図添付  
 英語) 専攻科2年で実施の総合英語を現行前期2単位を通年で実施。

別紙、系統図添付
「英語に関する答申への対応」は引き続き教務・専攻科合同委員会で審議する。
創造教育)別紙資料により経過の説明。
別紙、系統図添付

出典：科目間調整会議議事録

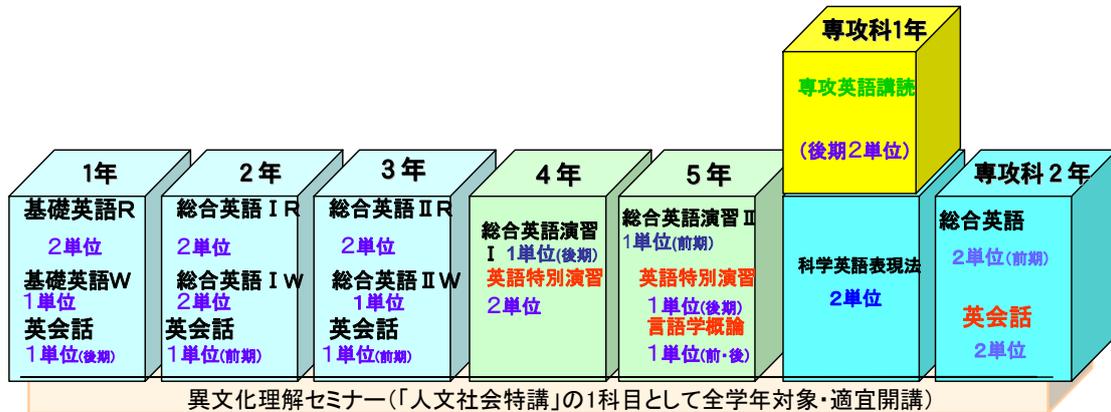
資料5-1-①-3 平成18年度前期時間割

Table with columns for 月曜日, 火曜日, 水曜日, 木曜日, 金曜日 and rows for various subjects and departments. Includes a detailed schedule and a summary table at the bottom.

出典：教務係資料

資料5-1-①-4 共通科目の系統図と講義内容（英語を例示）

徳山高専 英語系統図と講義内容（平成18年度）



黒字は一般科目 緑字は専門科目  
赤字は選択科目

講義内容		基礎英語R	総合英語IR	総合英語IIR	総合英語演習I	総合英語演習II	
基礎英語R		文科省検定教科「Power On English I」をテキストに英語によるコミュニケーション能力と意欲を身につけることを目標とする。	「World Trek English Course II」をテキストに1年次にめざしたコミュニケーション能力と意欲を更に発展させる。	物語や論説文など様々な英文を英語と日本語の違いに留意しながら読み進み、読解力の養成に努める。テキストはEXCEED English Reading。	「TOEIC対策トレーニング」を用いてスコア500を目標に文法、語法、熟語、構文の演習をする。e-learningも活用する。	アメリカ文学の短編を読んで、英語の読解力を養うと共に、秀逸な文学作品に触れることで豊かな人間性を育む。今年度は「The Happy Prince」を読み、味わう。	
教科書	文科省検定「英語I」	教科書	文科省検定「英語II」	教科書	TOEIC対策テキスト	教科書	文学作品テキスト
担当	国重徹	担当	中光善亮	担当	桂哲男	担当	桂哲男
基礎英語W		総合英語IW	総合英語IIW	英語特別演習(4年)	英語特別演習(5年)		
1. 文のいろいろ 2. 5文型 3. 現在完了形 4. 助動詞 5. 受動態 6. 不定詞 7. 分詞		1. 動名詞 2. 分詞 3. 接続詞 4. 比較 5. 関係詞 6. 仮定法 7. 接続詞 8. 話法 9. 名詞・冠詞・代名詞 10. 形容詞・副詞など 11. 構文	1・2年次にした習得した文法力・構文力を復習しつつ、それらを実際を使って英文を書く訓練を行う。使用するテキストはEasy Everyday English Through Sentence Patterns(北野) / Communicative English Composition(谷國)	科学的Reading中心の総合教材を用いて英語力を伸ばす。	英会話中級		
教科書	英文法文科省準教科書	教科書	文科省準教科書継続	教科書	大学用総合教材	教科書	Basic Grammar
担当	田中数恵	担当	北野弘子	担当	谷國昌洋	担当	Bernie
				日常の様々な場面で相手の英語が理解でき、それに対して自ら英語で応答できるようにするための訓練を行う。英語による授業。	英会話上級		
				教科書	Chatterbox	教科書	英文作法入門
				担当	国重徹	担当	桂哲男
英会話(1年)		英会話(2年)	英会話(3年)	言語学概論			
基礎的英会話能力と文法力の基礎を養う。		聴き取り能力と発話能力の養成に加えて、実際に会話で使える文法力の基礎的知識を与える。	TOEICテストに備えるための基本的なポイントをマスターする。聴き取りと発話の基礎練習と文法項目の修得もめざす。	比較的難易度の高い英文テキストを用いて、言語学の知識、英語の語彙力・表現力を身につける。半期完結。前後期同内容。			
教科書	i Talk	教科書	i Think	教科書	All Talk 1	教科書	英語言語学テキスト
担当	Tony, Perry	担当	Tony, Perry	担当	Bernie, Tony	担当	国重徹
科学英語表現法		専攻英語講読	総合英語	英会話			
大学生用テキストである「General Science」を用い、科学技術関係の仕事をするのに必要なコミュニケーション能力の基礎を身につける。		少人数で専攻に関する英文を輪読し、特別研究論文執筆に役立つよう専門的な論文の詳読を心がける。合わせてプレゼン能力の養成も図る。	全員が修了要件のスコア400をクリアできるように、リスニング力、文法力、速読力を総合的にレベルアップするためのトレーニングをする。テキストは「Total Strategy for the TOEIC Test」を使用。	「世界に通用する」技術者に必要なコミュニケーション能力、とりわけ聴き取り能力の養成に力を入れる。			
教科書	大学用科学英語テキスト	教科書	専攻論文各種	教科書	TOEIC対策テキスト	教科書	On the Go
担当	国重徹	担当	論文指導教員	担当	国重徹	担当	国重徹

出典：シラバスより英語を抜粋

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズに対応するために以下のことを行い，学外での教育機会を与えている。

- 徳山大学，カリフォルニア大学サンディエゴ校，フィティレイア・コミュニティ・ポリテクニクと協定を締結（資料5-1-②-1～3）
- 徳山大学との単位互換制度の実施（資料5-1-②-4）
- 外部資格取得など，特別学修による単位認定（資料5-1-②-5）
- 2年次および4年次でのインターンシップの実施と単位認定（資料5-2-③-4）

（分析結果とその根拠理由）

- 学生の多様なニーズに対応するため，他大学との協定や単位互換，外部資格取得などによる単位認定やインターンシップを行うことで，教育の幅を広げている。
- 実践力を身につけるため，学生の外部資格の取得が増えている。

以上のことから，本校では学生の多様なニーズを配慮し，それに対応している。

資料5-1-②-1 徳山大学との協定書

徳山大学と徳山工業高等専門学校の協力に関する基本協定

徳山大学(以下「甲」という。)と徳山工業高等専門学校(以下「乙」という。)は、  
 教育・研究分野を異にする甲及び乙が協力し、相互に業務を補完しあうことの意義を認識し、  
 甲及び乙の教職員又は学生の交流が、甲及び乙相互の教育・研究水準の向上に有効であることを確信し、  
 甲及び乙の緊密な連携の下に行われる活動が、周辺地域の社会・経済の発展に貢献することを希望し、  
 甲と乙の協力に関する基本的な事項について、次のとおり、協定した。

第一条

甲及び乙は、相互裨益及び地域共栄の精神に基づき、協力を推進するものとする。  
 2. 本協定の実施に関し必要なことは、協力の案件ごとに、別途定める。

第二条

本協定の実施を円滑に進めるため、本協定に基づく協力の最高調整機関として、甲及び乙の長並びに甲及び乙の長が必要と認める者により構成する「協力協定運営会議」を開催する。  
 2. 協力協定運営会議の開催に関し必要なことは、別途定める。

第三条

本協定の実施は、甲又は乙それぞれの有する権能の範囲内において行われるものであり、本協定の存在は、甲又は乙とその他の機関との関係に影響を及ぼすものではない。

第四条

本協定の有効期間は、3年間とし、甲又は乙からの文書による打ち切りの申し出が無い限り、自動的に、3年間の延長がなされるものとする。

以上の証拠として、協定書2通を作成し、甲及び乙の長が署名し、甲及び乙それぞれ1通ずつ保管することとした。

平成 17年 1月 18日

徳山工業高等専門学校のために

徳山大学のために

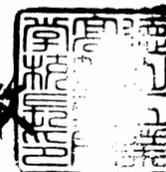
徳山大学学長

杉光英復



徳山工業高等専門学校校長

天野 徹

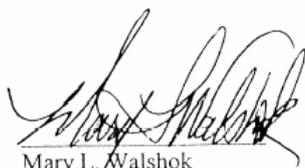


出典：協定書より抜粋

資料 5 - 1 - ② - 2 カリフォルニア大学との協定書

- i. To promote and develop further the friendship between the two parties and to strengthen their academic cooperation, the President, Tokuyama College of Technology, and the Vice Chancellor, University of California, San Diego, agree to develop academic exchange between the two universities. The exchange may include:
  - A. Visit of faculty members;
  - B. Visit of post doctoral, graduate and undergraduate students;
  - C. Visit of staff members;
  - D. Exchange of publications and teaching materials;
  - E. Joint research projects; and
  - F. Other mutually beneficial projects that may be defined as required.
- ii. The terms of such mutual assistance and cooperation shall be discussed and agreed upon in writing by both parties prior to the initiation of the particular programs or activities, since any specific program shall be subject to mutual consent, availability of funds, and approval of the President and the Vice Chancellor.
- iii. Each university shall be prepared to develop necessary procedures to implement the intent of this agreement.
- iv. This agreement is effective from the date of signature and shall be valid for five years. At its expiration, the agreement may be modified and/or the period of validity may be extended through mutual consultation.

This agreement is in English and Japanese versions. Both texts are equally valid.



Mary L. Walshok  
Vice Chancellor  
University of California, San Diego  
Dean  
UCSD Extension

02/03/05  
Date



Tohru Amano  
President  
Tokuyama College of  
Technology

02/03/05  
Date

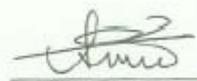
出典：協定書より抜粋

## 資料 5-1-②-3 フィティレイア・コミュニティ・ポリテクニクとの協定書

- i. To promote and develop the friendship between the two parties and to strengthen their cooperation under the spirit of mutual trust and respect, the Chief Executive of Whitireia Community Polytechnic and the President of Tokuyama College of Technology agree to develop academic exchange between the two parties. The exchange may include:
  - A. Visits of faculty members;
  - B. Visits of students;
  - C. Visits of staff members;
  - D. Exchange of publications and teaching materials;
  - E. Joint research projects; and
  - F. Other mutually beneficial projects which may be defined as required.
- ii. The terms of such mutual assistance and cooperation shall be discussed and agreed upon in writing by both parties prior to the initiation of the particular programs or activities, since any specific program shall be subject to mutual consent, availability of funds, and approval of the Chief Executive and the President.
- iii. Each party shall be prepared to develop necessary procedures to implement the intent of this agreement.
- iv. This agreement is effective from the date of signature and shall be valid for five years. At its expiration, the agreement may be modified and/or the period of validity may be extended through mutual consultation.

  
Deirdre Dale  
Chief Executive  
Whitireia Community Polytechnic

17 November 2005  
Date

  
Toru Amano  
President  
Tokuyama College of Technology

Oct. 19th, 2005  
Date

出典：協定書より抜粋

資料5-1-②-4 徳山大学との単位互換協定

徳山大学、徳山高専 第7回協力協定運営会議議事概要

日時 平成17年10月27日(木) 16:00~17:00

場所 徳山高専2階会議室

出席者	【徳山大学】学 長	杉 光 英 俊
	経済学部長	岡 野 啓 介
	福祉情報学部長	青 木 邁
	学生支援センター長	兼 重 宗 和 (欠席)
	図書・研究センター長	中 谷 孝 久
	エクステンションセンター長	安 齋 芳 高

	【徳山高専】校 長	天 野 徹 (座長)
	教務主事	森 野 数 博
	学生主事	上 俊 二
	総合企画室長	佐 賀 孝 徳
	テクノ・リフレッシュ教育センター長	原 隆
	事務部長	野 中 章 彦

陪席者 (徳山大学：総務部長 蔵田英孝、学生支援センター事務担当部長 北村武三  
総務課長 藤岡正史)

(徳山高専：学生課長 空 俊雄、総合企画室事務係長 貞野 修一郎)

次 第

1. 開会

2. 議案審議

(1) 協力案件について

① 単位互換について………【資料1】

② 「語学教育研究センター」について

③ 学園祭及びクラブ対抗駅伝等での交流について………【資料2】

出典：協力協定運営会議議事録

資料 5 - 1 - ② - 5 外部資格単位認定状況

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
<b>特別学修単位認定管理簿</b>											
1											
2	平成16年4月～										
3	所属学科	学籍番号	氏名	外部修得科目名又は資格取得名等	修得又は取得年月日	認定科目名	学年	単位	認定年度	出席番号	備考
4	機械電気			TOEIC(IP) 400～469	平成17年10月19日	一般特別演習	5	2	平成17		スコア405
5	機械電気			電気工事士2種	平成16年12月28日	専門特別演習	4	1	平成16		
6	機械電気			機械設計技術者3級	平成18年1月	専門特別演習	5	1	平成17		
7	機械電気			ボランティア活動	平成17年3月16日	特別活動演習	5	1	平成17		周南おもちゃ病院 受付業務等 (従事時間30時間)
8	機械電気			ボイラー技士2級	平成17年9月1日	専門特別演習	5	1	平成17		
9	機械電気			危険物取扱者乙種	平成17年12月13日	専門特別演習	5	1	平成17		
10	機械電気			TOEIC(IP) 400～469	平成17年10月19日	一般特別演習	5	2	平成17		スコア410
11	機械電気			CAD検定2級	平成17年7月13日	専門特別演習	5	1	平成17		
12	機械電気			TOEIC(IP) 350～399	平成17年8月5日	一般特別演習	5	1	平成17		スコア360
13	機械電気			危険物取扱者乙種	平成17年12月13日	専門特別演習	5	1	平成17		
14	機械電気			TOEIC(IP) 350～399	平成17年11月1日	一般特別演習	5	1	平成17		スコア365
15	機械電気			機械設計技術者3級	平成18年1月	専門特別演習	5	1	平成17		
16	機械電気			TOEIC(IP) 470～599	平成17年12月6日	一般特別演習	5	3	平成17		スコア485
17	機械電気			TOEIC(IP) 400～469	平成18年1月18日	一般特別演習	5	2	平成17		スコア425
18	機械電気			TOEIC(IP) 470～599	平成17年7月6日	一般特別演習	5	3	平成17		スコア535
19	機械電気			ボイラー技士2級	平成16年9月3日	専門特別演習	4	1	平成16		

出典：教務係資料

観点 5 - 2 - ①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

(a) 授業形態のバランス

本校の学習・教育目標は（A1）～（C2）と6項目あり、それを実現するため、次のような授業形態をとっている。その際、4枚にまとめられた系統図（資料 2 - 1 - ① - 2）をみれば、色分けされた（A1）～（C2）がどの学年においてどの分野で開設されているか鳥瞰することができ、カリキュラムに果たす役割を容易に理解することができる。

（A1）の「複合分野の基礎となる基本的素養」に関連する科目は、教養科目の全学年と専門学科の主として低学年において、修得する技術を構成する3～4分野すべてにおいて同様に開設されており、講義形式で行われている。

（A2）の「国際理解や技術者倫理とコミュニケーション能力」に関連する科目は、教養科目の全学年で開設されており、講義や演習形式で行われている。

（B1）の「情報技術をベースに、実体験を通しての表現力」に関連する科目は、どの学科も全学年で開設されており、多くが実験・演習の形式で行われていることが、系統図にも示されている。

（B2）の「自主性・自立性」に関連する科目は、工学セミナーと卒業研究が該当しており、実験・演習科目である。

(C1)の「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力」に関連する科目は、専門学科の主として高学年において、修得する技術を構成する3～4分野すべてにおいて同様に開設されており、講義形式で行われている。

(C2)の「課題を把握し解決する力」に関連する科目は、創造演習や校外実習などが該当しており、多くは演習科目である。

これらをまとめると、次のようになる。

- 学習・教育目標に適した授業形態がそれぞれとられている。
- 専門科目ではどの学科も、実験・演習形式で行っている科目の割合が約4割を占めている。
- 実験・演習形式で行っている科目は、どの学科も全学年でまんべんなく開設されている。

#### (b) 学習指導法の工夫

##### (A1) 複合分野の基礎となる基本的素養の涵養

- 専攻科生がTA（ティーチング・アシスタント）として1年生に数学、2年生に物理の演習を担当。初期段階でのつまずき防止と授業で学習したことを演習で定着させることを目的として、平成8年度より実施。学習者の視点により近いレベルでの指導は、学生の素朴な質問を促し、技術者教育の基礎としての数学、物理の基礎学力充実に貢献している（資料7-1-①-18, 19）。

##### (A2) コミュニケーション能力の向上

- 平成14年度より学生の英語学習支援のため、e-Learningを導入。初年度はTOEIC学習プログラム、次年度は科学技術英語学習プログラムを追加。学内のどの端末からでも利用可能。受講者は多い（資料7-1-②-8, 9）。
- 日本語コミュニケーションでは、実践・実作を通して、各自がコミュニケーション能力を向上させるための授業を実施（資料5-2-①-1）。

##### (B1) 情報技術をベースに、実体験を通しての表現力の涵養

- 機械電気工学科では、電気・電子・情報系の科目に使用するPIC演習ボードを製作（資料5-2-①-2）。
- 情報電子工学科では、低学年からのコンピュータ教育に利用するための教育用コンピュータを開発。また、教育用コンピュータを用いたコンピュータシステム実験を提案し、実践（資料5-2-①-3）。
- 平成17年度よりeラーニング推進支援室が設置され、eラーニングを推進中（資料5-2-①-4）。

#### (分析結果とその根拠理由)

- 学習・教育目標に適した授業形態がとられ、カリキュラムが編成されている。専門科目ではどの学科も、実験・演習形式で行っている科目の割合が約4割を占めており、また、実験・演習形式で行っている科目はどの学科も全学年でまんべんなく開設されており、特に実践力を身につけることに重点が置かれている準学士課程では、望ましい形になっている。
- 学習・教育目標(A1)(A2)(B1)に関し、学習指導上の工夫がなされている。

以上のことから、教育の目的に照らして授業形態のバランスは適切であり、学習指導法の工夫もなされている。

## 資料5-2-①-1 日本語コミュニケーションの授業

## 2. 本授業について

## 〈目的〉

日本語による記述力と、コミュニケーションの基礎を身につけることを目的としています。

## 〈授業の基本的スタイル〉

「スピーチ」「ツールに頼らないプレゼンテーション（基礎）」「グループディスカッション」「文章作成」とも、基礎的な知識を学習した上で、実践に移ります。

それぞれの実践が複数回用意されているので、スキルアップ度を各自で確認するとともに、他者（クラスメート、教師）からのアドバイスでも確認し、スパイラルに目標を達成できるように設定しています。ただし、文章作成の実践に関しては、教師による添削と評価で自身の書く力の進捗を確認していきます。

なお、文章作成の基礎は、3年次の国語総合Ⅱ（表現）で学習済みですので、基本的事項を復習して実作を3回実施します。

## 〈到達目標〉

目標は、実践・実作を通して、各自がコミュニケーション能力を向上させることです。

また、「日本語力」を高めるための五つの力を、意識して使えるようになることも目標としています。

## 3. 公開授業までの授業内容のあらまし

- ・ 本日の授業は、シラバスの10回目にあたります。
- ・ ほとんどの学生が、「日本語によるコミュニケーション」について意識するのは初めてです。そのため、以下の基本的なトレーニングから開始しディスカッションに至っています。
  - 1回 (4/5) コミュニケーション度チェック
  - 2回 (4/12) 視線に慣れるための、体感ゲーム&視線の交差  
スピーチ&アドバイスの実践 その1
  - 3回 (4/19) ボーカル・バラエティーとボイストレーニングの実践
  - 4回 (4/26) スピーチ&アドバイスの実践 その2
  - 5回 (5/10) プレゼンテーションについて、ミニプレゼンテーション（グループワーク）
  - 6回 (5/17) ミニプレゼンテーション（続き）、グループディスカッション導入
  - 7回 (5/24) グループディスカッション ① テーマ：人々が安心して暮らす事のできる街を作るにはどのようにすればよいか？！
  - 8回 (6/1) グループディスカッション ② テーマ：企業に求められる《リーダーシップ》とは
  - 9回 (6/7) グループディスカッション ③ テーマ：若い世代の「フリーター」急増についてどのように考えるか
- ・ グループディスカッションのテーマは、一週間前の授業で知らせます。その際、発言の準備ができるように「準備シート（学習シート）」を配布します。  
「準備シート（学習シート）」には、各自の思考の跡と発言の準備の書き込みはもろろんのこと、実践当日の他グループへのアドバイスと、自身の改善点が書き込めるようにしています。
- ・ ディスカッションのテーマは、社会的なものを選択しています。身近すぎるテーマは、井戸端会議的なディスカッションに陥りやすいためです。

※この授業で使用する用語・授業展開・資料は、すべて一般科目：一色誠子に帰属します。

2005年6月14日4時限目

( ) 学科4年( ) 番( )

(学習シート：日本語コミュニケーション)

～本日の授業～ グループディスカッション ④……【グループ・マッピング】あり

\*

〈授業の進め方〉

1. グループマッピング(5分程度)
2. 1グループ20分のディスカッションを実施。  
※ 2グループ同時進行のディスカッション形式：ディスカッション&ギャラリー
3. 本日のディスカッションの講評(10分) ※最後にまとめて実施する。

〈本日のグループ分け〉

A :  
B :  
C :  
D :

Aグループ ⇔ Cグループ Bグループ ⇔ Dグループ

〈本日のディスカッションで意識したいこと〉

全体的に見て、みなさんのディスカッションは、一回目のディスカッションと比較すると、随分と上達しています。最終回の今日は、初回に話した以下のことをもう一度意識してディスカッションをしてください。

- ① ディスカッションへの参加意識を持ちましょう。
- ② 発言をするときも聞くときも、常に表情はスイッチオン!
- ③ ディスカッションは、みんなで問題解決の一つの提案を作り上げるものだとすることを念頭に。
- ④ 自分の意見と反対の意見が出されても、それを否定されたと受けとっては損です。よりよい意見・提案のために、別の見方がされたのだと解釈をしましょう。そうすると、次に何を言うべきかが見えてきます。(参照：本日のQ&A)
- ⑤ 「コミュニケーションはキャッチボール、ドッジボールではありません!」

〈よくある質問〉

Q. 他の人の意見が強くて、発言をしても切られてしまうのでどうしてよいかわからない。

A. まず、自分自身の発言も一つの提案を作る要素だと思い、自信を持ってください。

「発言しても切られてしまうので…」これで黙ってしまっは、何も発展しません。次のような方法を試して、再度発言をしてください。

- ① 声を少し低めにして、ゆっくりとした口調で「先程の◎▲◇×という発言なのですが、……」と話し始める。
- ② 「ハイ!」と挙手してから発言する。
- ③ 「先程の提案を、もう一度させてください」と、流れをみつつ再チャレンジする。
- ④ 「発言を切られてしまった」原因は何かを、ディスカッションの流れのなかでつかむ。(ディスカッションの流れをある程度静観していると、原因は直ぐにわかります。)

出典：日本語コミュニケーション授業資料



## 資料 5 - 2 - ① - 3 教育用コンピュータの概要

## 教育用マイコンボードを用いた FPGA 設計の学生実験事例とその評価

重村 哲至\*, 守川 和夫, 力 規晃, 新田 貴之, 原田 耕治, 山田 健仁 (徳山高専),  
古川 達也 (佐賀大学)

Example and Evaluation of Experiments for FPGA Design using Educational Microcomputer  
Tetsuji SHIGEMURA, Kazuo MORIKAWA, Noriaki CHIKARA, Takayuki NITTA,  
Koji HARADA, Takehito YAMADA (Tokuyama College of Technology),  
Tatsuya FURUKAWA (Sage University)

## Abstract

We have developed a microcomputer board for computer education to students at a lower grade of technical colleges. The microcomputer board is able to implement a microprocessor or user's design circuits on FPGA, so that it is available for students to learn a machine language programming or HDL (hardware description language) design. This paper shows contents of an experiment class initiated in the year 2004 on FPGA design with the microcomputer board, and reports results of questionnaires about the class.

**キーワード:** FPGA, VHDL, HDL, 論理設計, 教育, 教育用コンピュータ  
(FPGA, VHDL, HDL, logic design, education, educational computer)

## 1. はじめに

計算機系学科における計算機初期教育で学生に計算機の原理を理解させることを目的に, 学習が容易な命令セットアーキテクチャを持ち, かつ, ランプやスイッチの ON/OFF で 2 進数を表現するコンソール・パネルと, 最小限の入出力装置を装備した教育用のマイクロコンピュータ (以下マイコン) を開発した<sup>[1],[2],[3]</sup>.

このマイコンは, VHS ビデオカセットケースに収まるコンパクトなもので, かつ安価なものである。学生が個人で所有し持ち運ぶことにより, 学校でも自宅でも機械語の演習が可能である。開発当初は, 本マイコンを高専の学生が入学時に購入し, 1 年次から 2 年次にかけて機械語学習のために使用することを想定した。

しかし, 3 年次以降, 使用する機会がないのでは全員に購入させるメリットを生かし切ることができない。全員が同じハードウェアを所有しているメリットを生かし, 3 年次以降も一人 1 台の演習環境として有効利用することが望ましい。そこで, このマイコンに予め FPGA の学習ボードとしての機能を組み込んだ。すなわち, CPU や周辺回路を実装し, 本マイコンボードの核となる FPGA の設計データを書き換えることを可能とした。このことにより学生は, 低学年で機械語の学習に使用したマイコンボードを, 高学年では FPGA の学習ボードとして使用できる。

本稿では, このマイコンボードを用いた HDL 演習環境を簡単に紹介した後, 実験科目での使用例と科目受講者のアンケート結果について報告する。

## 2. HDL 演習環境

今回実現した HDL 演習環境を簡単に紹介する。詳細は文献 4, 5 に報告済である。本演習環境は, マイコンボードと FPGA 設計環境をインストールした Windows PC から構成される。使用できる記述言語は VHDL である。

## 2.1 マイコンボード

マイコンボードの外観を図 1 に示す。マイコンの機能を実現するためにボードに実装されている FPGA を使用し, FPGA 設計演習が可能である。ジャンパーの設定により, 同じボードがマイコンにも FPGA 学習ボードにもなる。

使用する FPGA は, Xilinx 社 Spartan-2(XC2S30) である。学習ボードとして使用する場合は, 市販の Xilinx 対応 JTAG ダウンロードケーブルを用い PC と接続する。ボード上にはそのための JTAG コネクタが実装されている。

FPGA には, マイコンのコンソールパネルを構成する LED やスイッチが接続されており, これらを入出力として使用する回路を作成することができる。また, 拡張コネクタを使用しボード外部に回路を増設することも可能である。

## 2.2 FPGA 設計環境

図 2 に FPGA 開発システムの様子を示す。パソコン教室の 50 台の PC にダウンロード用のケーブルを増設し, マイコンボードと接続できるようにした。

これに, Xilinx 社の WebPACK ISE をインストールした。WebPACK は, Xilinx 社のホームページからダウンロードし, 無償で使用できる Windows 上で動作する FPGA 設計用統合環境である。この設計環境で, VHDL 入力, 論理合



図1 マイコンボード外観

Fig. 1. The microcomputer board.



図2 FPGA 設計環境

Fig. 2. The FPGA design environment.

成、配置配線、ダウンロードまでを行うことができる。

### 3. 実験科目での授業例

上記のマイコンボードと設計環境を1クラス分(50セット)準備し、徳山高専情報電子工学科4年生の実験科目「コンピュータシステム実験」で平成16年度、17年度の2年間、使用した。

#### 3.1 科目設計の背景

従来、論理回路を扱う実験テーマではハードウェアの制限により非常に限られた規模の回路を扱うことしかできず、数ビットのカウンター設計等をテーマとしてきた。そのため、論理回路の設計をマスターさせることは難しかった。一方で、企業等の現場ではHDLを用いた設計が主流になりつつあり、学校の授業や実験でもこれを取り入れる例が多くなってきている。そこで、本学科の実験科目でもHDLを用いた本格的な論理回路設計テーマの新設が望まれていた。

今回、FPGA学習環境の整備が可能になったことで、HDLを用いた論理回路設計を実験テーマとして取り入れることが可能になった。このテーマを取り入れた科目は新設の「コンピュータシステム実験」である。この実験科目は、コンピュータシステムに関するソフトウェアとハードウェアを融合したテーマを扱うために平成16年度より新設された。この前期15週(90分2コマ/週)をVHDL学習テーマとした。

#### 3.2 実験内容

実験項目の一覧を表1に示す。実験は半期で一つの目標を達成する大実験に近いものである。しかし、学生にFPGA、VHDLについての予備知識がないため、前半10回をこれらの学習を目的としたトレーニング的な内容とした。この間は毎回「教員による設計課題と関連するVHDL文法の説明」、「学生による課題のVHDL記述とFPGAへの実装」、「教員による動作確認」を行った。学生はグループではなく個人で課題を解決する。

後半5回は自由課題とし、それまでに習得した技術を利用してマイコンボードで実現可能なシステムを提案し実現する。

平成16年度の自由課題は3~4人の班を作り、班の学生で協力して行った。しかし、終了後のアンケートで「分担と成績評価の不公平」を指摘する記述が見られた。そこで、平成17年度は班を作らず個人で自由課題を行った。最後にプレゼンテーションを行う。

#### 4. 結果

##### 4.1 マイコンボードの使用結果

平成16年度、17年度の2回、半年にわたり40名以上の学生が自由にマイコンボードを使用してFPGAの設計ができる環境を提供した。マイコンボードはFPGA学習ボード専用ではないため、入出力ピンの設定ミス等によりチップを破壊する等のトラブルも予想されたが1台の故障もなく実験を終わることができた。

初めてボードを使用する際に、破壊する可能性があるので設定ミスに十分注意するよう説明したが、半年の間には恐らく設定ミスは何度も発生したはずである。しかし、短時間のうちにミスに気づく等して破壊に至らなかったものと考えられる。

この程度の使用なら、本格的なFPGA学習ボードを使用しなくてもこのボードで十分実用に耐える。むしろ、ボードの小ささやシンプルさ、クラスの数分の台数が揃うこ

出典：教育用コンピュータシステム資料

資料 5-2-①-4 eラーニング推進支援室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校 eラーニング推進支援室規則

（設置）

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、eラーニング推進支援室（以下「支援室」という。）を置く。

（目的）

第2条 支援室は、eラーニングの利用を促進することにより、本校の教育水準の向上を図ることを目的とする。

（業務）

第3条 支援室は、次の業務を行う。

- (1) eラーニングの利用形態及びコンテンツの調査、企画及び開発に関すること。
- (2) eラーニングシステムの導入及び運営に係る企画及び調整に関すること。
- (3) eラーニングの普及に関すること。
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な業務。

（組織）

第4条 支援室は、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) インストラクター 若干名
- (3) その他校長が任命する者

（室長）

第5条 室長は、本校の教員の中から校長が任命する。

- 2 室長は、支援室の業務を掌理する。
- 3 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。

（インストラクター）

出典：本校規則集

観点 5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

（観点に係る状況）

(a) シラバスの作成

- 準学士課程のシラバスは平成5年度に初版が発行され、平成15年度から準学士課程と専攻科課程を一体とした学科／専攻ごとの3分冊の構成とした。
- 学習・教育目標や養成しようとする技術者像，具体的到達目標や各学科／専攻で修得する技術など，本校の教育理念をシラバスの前半にまとめて示している。
- 学習・教育目標を達成し，各学科／専攻でそれぞれ得意とする複合技術を修得するため，それぞれの科目がどのように関係しているか明らかにすることをねらいとして，準学士課程1年次から専攻科課程2年次まで，7年間を通したカリキュラム系統図を作成した。
- 学科／専攻に共通する基礎科目に関しては，一般科目と専門科目の教員で構成する科目間調整会議で検討された結果を，各科目の系統図と講義内容として記載した。これは，学科／専攻に関係なく全員が学ぶ内容であり，使用する教科書も定めている。そのため，非常勤を含め担当者が変わっても，教える内容は変わらない。
- 各科目のシラバスは，それぞれの科目が果たす役割を十分認識した上で，統一された書式に必要事項を記入しており，見やすい形式に整えられている。
- 記入した内容は学習・教育レビュー室によりチェックを受け，どの科目も教育目的に合致し，必要な事項が記入されていることを確認している。
- シラバスの解説を付け，学生に内容を詳しく説明することで利用を促している。

- 各試験結果を記入する欄を設けたり、資格への道しるべやJ A B E Eに関する内容、授業時数や年間行事予定表など、役立ちそうな内容を付録として付け、学生に活用を促す工夫も行っている。
- これらのシラバスは、ウェブサイト上でも公開している。

(b)シラバスの活用

- 年度当初の学年ごとに行われるオリエンテーションにおいて、当日配布するシラバスを用いてその使い方について解説を行い、利用を促している（資料5-2-②-1）。
- 授業科目の第1回目には、担当教員がシラバスを用いてコースガイダンスを行う。
- 答案返却の際、シラバスを持参させ、問題解答のあと試験結果の書き込みを促し、現在の進捗状況について確認を行う。
- 学生は、さまざまな機会にシラバスを活用するよう指導を受けているが、必ずしも十分活用されている状況にはない（資料5-6-③-2）。
- 教員は、作成したシラバスを学習・教育レビュー室でチェックを受け、また、学生への説明も随時行うことになっていることから、アンケートはとっていないものの、活用されていると認識している。

(分析結果とその根拠理由)

- 学習・教育目標を始めとする本校の教育理念を実現するため、シラバスのあり方が検討され、種々の工夫がなされている。
- 学習・教育レビュー室でシラバスに関する種々のチェックが行われており、改善されてきている。
- 全学生に、毎年シラバスを配布し、シラバスの活用を促す種々の工夫や随時説明を行うなど啓蒙に努めているが、必ずしも十分活用されている状況にはない。これは、準学士課程に特有の現象で、ほとんどの科目が必修であることから科目を選択する必要がほとんどないこと、多くの科目で学習シートを毎回配っており、授業内容を改めて確認し直す必要性が薄いことなどに原因があるものと考えられ、学習を進める上で、実質的に支障は生じていない。

以上のことから、本校のシラバスは教育の理念に従って作成されており、教員には活用されているが、学生の活用は必ずしも十分でないものの、実質的に支障は生じていない。

資料 5 - 2 - ② - 1 シラバスの解説

# シラバスの解説

## 材料力学 (Materials and Mechanics)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当	
機械電気	必修	4年前	1	講義	森野 数博	
【授業の概要】 材料力学の目的は材料を正しく、すなわち安全でしかも経済的に使用することであり、そのためには、そこに作用する力と変形を的確に知る必要がある。4年次ではいくつかの基本的な問題に関して基礎力と応用力を養う。						
【授業の進め方】 【学修の進め方】 (専攻科) おおむね教科書に沿って講義を進めるが、いたずらに多くを教えるのではなく、それらの現象が共通した原理に支配されていることを示すとともに、物理的意味を把握できるようにする。学習シートは毎回用意するように努める。						
【授業計画】	【授業項目】	【内容】				
1回	ガイダンス、たわみ曲線 (基礎式)	材料力学の位置づけや目的を再確認。たわみの基礎式の導出過程を確実に理解し、曲げの全貌を把握する。				
2回	各回の授業項目を示しています。目次の役割を果たしており、全体の流れがわかります。	片持梁のたわみ曲線の求め方を理解する。				
3回		等断面梁のたわみ曲線の求め方を理解する。				
4回		剛性係数の求め方を理解する。				
5回		ラーメン	L形フレームを通し、曲げを受けるラーメンの取り扱い方を修得し、先端のたわみの求め方を理解する。			
6回	平等強さの梁	梁の最外層で曲げ応力が等しくなる形状の求め方、またその場合の最大たわみの求め方を確実に理解する。				
7回	中間試験	たわみの基礎方程式の導出、平等強さの梁となしうる形状とその最大たわみ、簡単なたわみ問題が解けるか確認する。				
8回	中間試験の解答、不静定梁 (一端固定他端支持梁)	中間試験の解答の後、授業アンケート実施。不静定梁について未知反力を求め、曲げの各種値を得る方法を理解する。				
9回	不静定梁 (両端固定梁)	両端固定梁について、せん断力、曲げモーメント、SFD、BMDとたわみの求め方を理解する。レポート。				
10回	ねじり (基礎式)	ねじりの基礎式の導出過程を学び、その過程と結果が曲げと類似していることを理解する。				
11回	ねじり (中実丸棒と中空丸棒の比較)	それぞれの試験で確認する内容を示しています。				
12回	ねじり (両端固定棒、動力伝達軸)	動力伝達軸において馬力やトルクや回転数の相互関係を理解し、ねじり応力との関係を熟知する。レポート。				
13回	ねじり (延性材料と脆性材料の破壊形態の比較)	延性材料をねじると軸に対し垂直に破壊するのに対し、脆性材料をねじるとらせん状に破壊する理由について理解する。				
14回	長柱の座屈 (Eulerの式、実験式)	曲げの式から Eulerの式を導出し、両端の拘束条件により座屈荷重にかかる定数の変化を理解し、実験式も把握する。				
	期末試験	不静定梁の基本的な問題、ねじりに関する代表的な4つの例題に関する応用問題、座屈の基本問題が解けるか確認する。				
15回	答案返却など	期末試験の解答の後、連続梁、せん断力、曲げ曲線について簡単にポイントを確認する。				
【到達目標】	曲げではたわみの基礎方程式の導出と平等強さの梁、たわみの式の理解をもって到達レベルを推測する。50%の得点をもって到達を目指す。					
【徳山高専学習・教育目標】	C1		【JABEE基準1(1)】 d-2 a			
【評価法】	最終評価は中間と期末の試験成績の平均 (90%) とレポート (10%) により行う。 最終評価点 = ((中間試験成績 + 期末試験成績) / 2) × 0.9 + レポート (10%)					
【テキスト】	中野 隆夫 材料力学 (養賢堂) 参考書: 図書館に各種あり					
【関連科目】	ここに記載された方法で、最終評価がなされます。 計算力学					
【成績欄】	前期中間試験	前期末試験	前期成績	後期中間試験	後期末試験	学年末成績
	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

授業でめざす目標や概要が要約されています。

この科目でめざす目標を達成するための授業の進め方を示しています。レポートや学習シートの使い方についても示しています。専攻科では、自学自習を含め授業の進め方を示しています。

授業を受けた学生が、この科目について最終的に到達すべき目標を示しています。

この科目が対応する「JABEEの認定基準」を示しています。

自分の成績の確認用に使ってください。試験欄は試験成績、成績欄は評価法による点数です。

この科目が対応する「徳山高専の学習・教育目標(A1)~(C2)」を示しています。

**観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

（観点に係る状況）

(a) 創造教育

- 高専の特徴は高校年齢段階から自由度の高い、かつレベルの高い専門教育を行えることにあ  
る。この特質を最大限に活かした教育として創造教育を提起し、平成7年から取り組みを進  
めてきている。
- 平成9年には高専における第1号の創造教育推進校に選ばれ、全国高専におけるパイオニア  
的な存在として活動を進めてきた。
- 機械電気工学科では、創造演習、創造製作、総合実地演習（2年次のインターンシップ）、  
自己提案型卒業研究を創造系の科目と位置づけて、学年ごとに学生が発想する時間を設け、  
これを途切れなく行わせることで、発想力の向上に努めている（資料5-2-③-1）。
- 情報電子工学科では、プログラミング（プログラミングコンテスト）を中心に位置づけ、学  
年ごとに創造演習、プログラミング演習、コンピュータ実験を途切れなく行わせることで、  
発想力の向上に努めている（資料5-2-③-1）。
- 土木建築工学科では、デザインコペティションを中心に据え、低学年での創造演習、高学年  
での実験・実習を行わせることで、発想力の向上に努めている（資料5-2-③-1）。
- 各学科の体系化を行うとともに、学科を越えて創造教育の理念の体系化を行っている（資料  
5-2-③-2）。
- 平成15年度からは知的財産権、ベンチャービジネスについても実践的に取り組む科目を開  
設し、発想を実用化するための方策も行っており、学生が学生時代に新たな価値づくりまで  
が可能となるカリキュラムとなっている。
- 全国レベルの各種コンクールにおいて準学士課程在籍の学生が大学生、大学院生に混じって  
入賞したり、特許を出願したりするなどの成果を納めている（資料5-2-③-3、A1-  
②-9）。
- 特許では、取得した例や地場産業振興センターのものづくり支援事業に選定され、商品化の  
ための試作を開始するなどの例もみられている（A1-②-10、11）。

(b) インターンシップ

- 全学において、4年次にインターンシップを実施している（資料5-2-③-4）。
- 機械電気工学科においては、準学士課程の2年次にも実施している。

（分析結果とその根拠理由）

- 創造教育は平成7年度から取り組みを始めた。
- その成果を対外的なコンクールに応募したり、創造教育の成果として生まれるアイデアを実  
用化する上で必要な特許の教育を組み込んだりした結果として、それぞれ成果がみられる。
- 創造教育の成果として、学生が新たな価値づくりを学校時代に達成可能なことが実証されて  
おり、優れた成果をあげていると判断できる。

以上のことから、創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用は十分行われている。

資料5-2-③-1 創造教育系統図

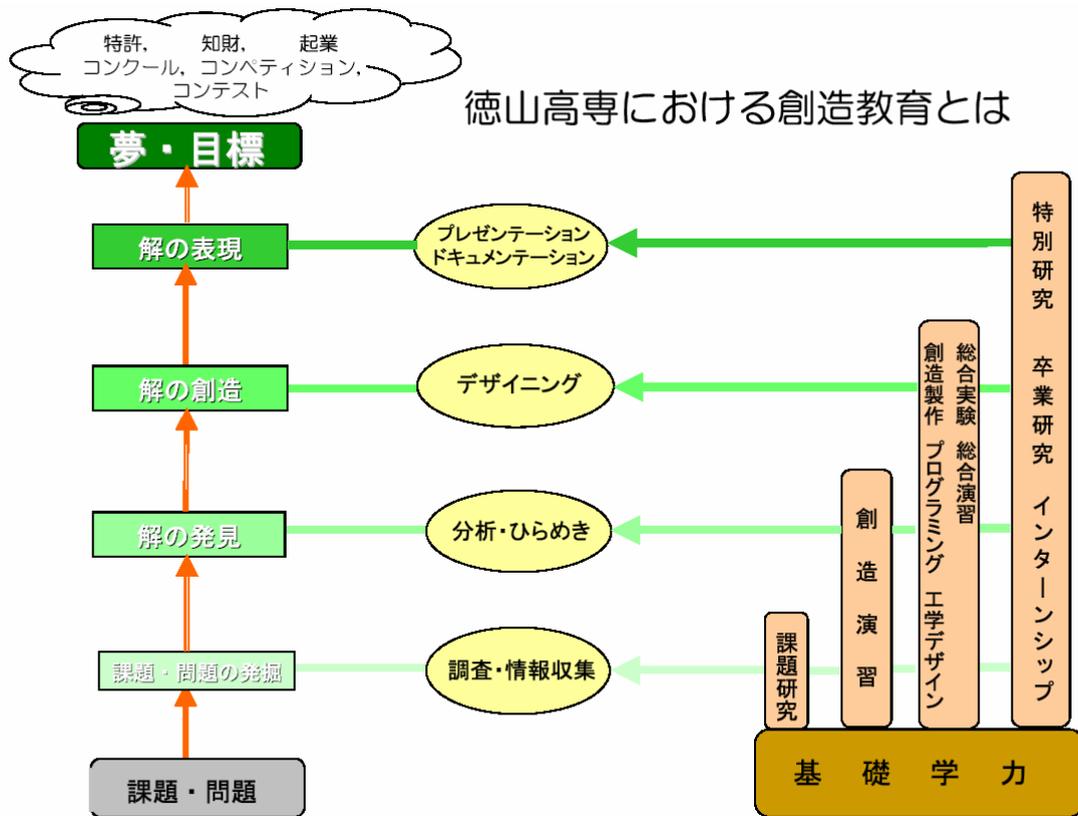
徳山高専創造系科目系統図 (H.18年度)



各科目名の色は本校学習教育目標のそれぞれに対応しています。  
 黄色：A1    青色：B1    ピンク色：C1    オレンジ色：C2  
 また、\*は選択科目を表しています。

出典：シラバス

資料 5-2-③-2 創造教育体系図



出典：教務係資料

資料 5-2-③-3 コンクール受賞状況，特許出願状況

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
先端技術大賞			特別賞(2)	特別賞(3)	特別賞(5)
理工系論文	努力賞(2)	努力賞(3)	努力賞(1)	文部科学大臣賞(2)	
エネルギー利用工夫	特別賞(2)	特別賞(2)			
学生特許申請		4件(1, 2, 3)	4件(2, 3, 4)	5件(2, 3, 4, 5)	5件 (1, 4, 5, MC2)
キャンパスベンチャーG		優秀賞(3)	奨励賞(3)	部門優秀賞(5)	部門優秀賞 (MC1)

出典：教務係資料より作表

## 資料5-2-③-4 インターンシップ実施状況

## インターンシップ実施状況

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	合計
機械電気工学科	2年	40	49	33	31	35	188
機械電気工学科	4年	0	0	0	2	8	10
情報電子工学科	4年	10	4	5	4	2	25
土木建築工学科	4年	24	32	34	29	31	150
小計		74	85	72	66	76	373
機械制御工学専攻	2年	10	3	9	6	10	38
情報電子工学専攻	2年	4	5	8	4	3	24
環境建設工学専攻	2年	11	7	12	14	14	58
小計		25	15	29	24	27	120
合計		99	100	101	90	103	493

出典：教務係資料

観点5-3-①：成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(a) 評価・認定の規定と学生への周知方法

- 成績評価や進級・卒業認定規定は教務規則として定められており、学生便覧、ウェブサイトの開示されている(資料5-3-①-1)。
- 学生には毎年学生便覧が配布され、新入生には入学時のオリエンテーションで、学生便覧をもとに、これらの評価や規定について説明がなされている。
- 各科目の成績評価法はシラバスに明記されており(資料5-3-①-2)、学生には授業開始時に、シラバスをもとに各科目の評価法について説明がなされている。

(b) 成績評価、進級認定、卒業認定

- 各科目の最終成績は、シラバスに記載された評価法により評価される(資料5-3-①-2)。
- 評価に用いた資料は、例えば定期試験の答案だと原則としてすべての試験について全員分、レポートだと代表的なものをファイルに保存し、第三者にも評価の状況がわかるよう、最近の3ヶ年分を学習資料室に保管している(資料9-1-④-6)。
- 再試験で評価を変更した場合も、その都度成績評価資料の中身を追加・変更している。
- 成績評価資料は、学習・教育レビュー室エグザミネーにより、シラバスに記載された評価法どおりに整えられているか、すべての科目についてチェックを受けている。
- 学生には、原則として試験が終了した翌週に答案が返却され、解答が示されることでチェックの機会が与えられ、まちがっている場合は変更している。このシステムは、後期末も変わらない(資料5-3-①-3)。
- 単位認定、進級認定は、学生便覧等に表示された規定に従い、全教員が出席する学年修了

認定会議で審議の上、校長が行う（禁帯出：修了認定会議議事録）。卒業認定も同様に、卒業認定会議で審議の上、校長が行う（禁帯出：卒業認定会議議事録）。

（分析結果とその根拠理由）

成績評価や進級・卒業認定規定は教務規則に明確に定められており、学生便覧やウェブサイトにも明記され、学生にも周知されている。各科目の最終成績はシラバスに記載された評価法で行われ、評価に用いた資料は、学習・教育レビュー室のレビューを受けた後、成績評価資料として学習資料室に保管されている。これらの成績をもとに、規定に従い、学年修了認定、卒業認定が当該認定会議において審議の上、決定される。

以上のことから、成績評価や進級・卒業認定規定が定められ、学生に周知されるとともに、規定に従い適切に実施されている。

#### 資料 5 - 3 - ① - 1 教務規則（課程の修了）（抜粋）

（履修）

第 6 条 各科目について、原則として 20 時間／単位以上の出席をもって履修したものと認定する。

2 履修と認定された科目について学年評価を行う。

（評価）

第 7 条 学期又は学年における学業成績は、その期間中の試験成績及び学習状況等を総合して評価する。

第 8 条 評価は、優・良・可・不可をもって、次の評点区分による。

優 80 点 - 100 点

良 60 点 - 79 点

可 50 点 - 59 点

不可 0 点 - 49 点

2 各科目毎に欠課時数が 6 時間／単位をこえる者の学年評価は原則として不可の評価とする。

第 9 条 やむを得ないと認められる理由により試験を受けられなかった者については、平常成績、出席状況及び他の学期の成績等を考慮して評価することができる。

第 10 条 答案を提出しなかった者、また停学中のため試験を受けることができなかった者の当該時間の試験成績は、0 点とする。

2 試験中不正行為をした者に対しては、当該時間以後の試験を受けさせず、またその試験期間の全科目の試験成績は、0 点とする。

（課程の修了）

第 11 条 各学年における課程の修了の認定は、修了認定会議において審議のうえ、校長が行う。

2 次の各号のすべてに該当する者は、原則として課程の修了を認める。

(1) 学則に定める当該学年の所定の科目をすべて履修している者。

(2) 各学年末における累積不可単位数が 10 単位以内の者。

ただし、第 5 学年については修得した単位数の合計が 167 単位以上（そのうち、一般科目については 75 単位以上、専門科目については 82 単位以上とする。）であること。

累積不可単位数とは、当該学年までに履修すべき単位数から当該学年までに修得した単位数を差し引いた単位数をいう。

(3) 学年評価における全科目の平均点が 50 点以上である者。

(4) 第 3 学年以下については、特別活動を履修した者。

(5) 第 5 学年については、卒業研究を修得した者。

(6) 欠席日数が原則として年間 25 日以内の者。ただし、遅刻及び早退 2 回を欠課 1 時間に、欠課 7 時間を欠席 1 日に換算して取り扱う。

3 学則に定める単位数をこえて修得した選択科目の単位数は、専門科目の不可単位数を補うことができる。

（留年）

第 12 条 学年の課程修了を認定されない者は、原学年に留まる。この場合において、原学年で修得した単位はすべて無効となり、原学年の課程の再履修を必要とする。ただし、特別に認められた科目については単位の修得を認め、再履修を免除することができるものとす

- る。  
 2 休学の場合を除き、引き続き2回原学年に留まることはできない。  
 (卒業)

第13条 卒業の認定は、卒業認定会議において審議のうえ、校長が行う。

- 2 第5学年までの各学年の課程を修了した者で、授業科目を167単位以上（一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする。）修得した者は、原則として卒業を認める。

出典：学生便覧

資料5-3-①-2 到達目標と成績評価法（シラバスから抜粋：熱力学Ⅰ）

【到達目標】	熱機関、冷凍機、暖房機など、熱エネルギーの移動によって動作する機関の性能評価を行うための基礎知識を有すること。またエネルギーと仕事というものは等価なものであるということ、本質的に理解できていること。		
	【徳山高専学習・教育目標】	CI	【JABEE基準1(1)】 d-2a
【評価法】	(前期中間試験+前期末試験+後期中間試験+学年末試験)/4を全体評価の90%とする。残りの10%については、本講義では学習シート内で演習を行うようにしており、その演習について全て正解していれば、総合評価に付加する。間違った演習があれば、全体評価の10%内の範囲で減点を行い、総合成績に付加する。 各試験、学習シートの評価の仕方は、授業中に説明する		

出典：シラバス

資料5-3-①-3 試験日程

8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科
1	夏季休業	2	2年前期授業終了	3	開校	4	開校	5	開校	6	開校	7	開校	8	開校
9	夏季休業	10	夏季休業	11	夏季休業	12	夏季休業	13	夏季休業	14	夏季休業	15	夏季休業	16	夏季休業
17	全国農業博覧会	18	9/1 専攻科臨時休業	19	9/1 専攻科臨時休業	20	9/1 専攻科臨時休業	21	9/1 専攻科臨時休業	22	9/1 専攻科臨時休業	23	9/1 専攻科臨時休業	24	9/1 専攻科臨時休業
25	5-6日 西日本地区	26	7/23 HR-授業なし	27	7/23 HR-授業なし	28	7/23 HR-授業なし	29	7/23 HR-授業なし	30	7/23 HR-授業なし	31	7/23 HR-授業なし	1	7/23 HR-授業なし
32	7-10日 競技会	33	8/1 前期末試験	34	8/1 前期末試験	35	8/1 前期末試験	36	8/1 前期末試験	37	8/1 前期末試験	38	8/1 前期末試験	39	8/1 前期末試験
45	特別研修日	46	特別研修日	47	特別研修日	48	特別研修日	49	特別研修日	50	特別研修日	51	特別研修日	52	特別研修日
59	短編授業	60	短編授業	61	短編授業	62	短編授業	63	短編授業	64	短編授業	65	短編授業	66	短編授業
73	成人の日 開校	74	成人の日 開校	75	成人の日 開校	76	成人の日 開校	77	成人の日 開校	78	成人の日 開校	79	成人の日 開校	80	成人の日 開校
87	短編 合同HR80~	88	短編 合同HR80~	89	短編 合同HR80~	90	短編 合同HR80~	91	短編 合同HR80~	92	短編 合同HR80~	93	短編 合同HR80~	94	短編 合同HR80~
101	短編授業	102	短編授業	103	短編授業	104	短編授業	105	短編授業	106	短編授業	107	短編授業	108	短編授業
115	特別研修日	116	特別研修日	117	特別研修日	118	特別研修日	119	特別研修日	120	特別研修日	121	特別研修日	122	特別研修日
129	短編授業	130	短編授業	131	短編授業	132	短編授業	133	短編授業	134	短編授業	135	短編授業	136	短編授業
143	成人の日 開校	144	成人の日 開校	145	成人の日 開校	146	成人の日 開校	147	成人の日 開校	148	成人の日 開校	149	成人の日 開校	150	成人の日 開校
157	短編 合同HR80~	158	短編 合同HR80~	159	短編 合同HR80~	160	短編 合同HR80~	161	短編 合同HR80~	162	短編 合同HR80~	163	短編 合同HR80~	164	短編 合同HR80~
171	短編授業	172	短編授業	173	短編授業	174	短編授業	175	短編授業	176	短編授業	177	短編授業	178	短編授業
185	特別研修日	186	特別研修日	187	特別研修日	188	特別研修日	189	特別研修日	190	特別研修日	191	特別研修日	192	特別研修日
199	短編授業	200	短編授業	201	短編授業	202	短編授業	203	短編授業	204	短編授業	205	短編授業	206	短編授業
217	成人の日 開校	218	成人の日 開校	219	成人の日 開校	220	成人の日 開校	221	成人の日 開校	222	成人の日 開校	223	成人の日 開校	224	成人の日 開校
231	短編 合同HR80~	232	短編 合同HR80~	233	短編 合同HR80~	234	短編 合同HR80~	235	短編 合同HR80~	236	短編 合同HR80~	237	短編 合同HR80~	238	短編 合同HR80~
251	短編授業	252	短編授業	253	短編授業	254	短編授業	255	短編授業	256	短編授業	257	短編授業	258	短編授業
259	特別研修日	260	特別研修日	261	特別研修日	262	特別研修日	263	特別研修日	264	特別研修日	265	特別研修日	266	特別研修日
277	短編授業	278	短編授業	279	短編授業	280	短編授業	281	短編授業	282	短編授業	283	短編授業	284	短編授業
291	成人の日 開校	292	成人の日 開校	293	成人の日 開校	294	成人の日 開校	295	成人の日 開校	296	成人の日 開校	297	成人の日 開校	298	成人の日 開校
305	短編 合同HR80~	306	短編 合同HR80~	307	短編 合同HR80~	308	短編 合同HR80~	309	短編 合同HR80~	310	短編 合同HR80~	311	短編 合同HR80~	312	短編 合同HR80~
321	短編授業	322	短編授業	323	短編授業	324	短編授業	325	短編授業	326	短編授業	327	短編授業	328	短編授業
339	特別研修日	340	特別研修日	341	特別研修日	342	特別研修日	343	特別研修日	344	特別研修日	345	特別研修日	346	特別研修日
353	短編授業	354	短編授業	355	短編授業	356	短編授業	357	短編授業	358	短編授業	359	短編授業	360	短編授業
367	成人の日 開校	368	成人の日 開校	369	成人の日 開校	370	成人の日 開校	371	成人の日 開校	372	成人の日 開校	373	成人の日 開校	374	成人の日 開校
381	短編 合同HR80~	382	短編 合同HR80~	383	短編 合同HR80~	384	短編 合同HR80~	385	短編 合同HR80~	386	短編 合同HR80~	387	短編 合同HR80~	388	短編 合同HR80~
395	短編授業	396	短編授業	397	短編授業	398	短編授業	399	短編授業	400	短編授業	401	短編授業	402	短編授業
409	特別研修日	410	特別研修日	411	特別研修日	412	特別研修日	413	特別研修日	414	特別研修日	415	特別研修日	416	特別研修日
427	短編授業	428	短編授業	429	短編授業	430	短編授業	431	短編授業	432	短編授業	433	短編授業	434	短編授業
441	成人の日 開校	442	成人の日 開校	443	成人の日 開校	444	成人の日 開校	445	成人の日 開校	446	成人の日 開校	447	成人の日 開校	448	成人の日 開校
459	短編 合同HR80~	460	短編 合同HR80~	461	短編 合同HR80~	462	短編 合同HR80~	463	短編 合同HR80~	464	短編 合同HR80~	465	短編 合同HR80~	466	短編 合同HR80~
471	短編授業	472	短編授業	473	短編授業	474	短編授業	475	短編授業	476	短編授業	477	短編授業	478	短編授業
489	特別研修日	490	特別研修日	491	特別研修日	492	特別研修日	493	特別研修日	494	特別研修日	495	特別研修日	496	特別研修日
507	短編授業	508	短編授業	509	短編授業	510	短編授業	511	短編授業	512	短編授業	513	短編授業	514	短編授業
521	成人の日 開校	522	成人の日 開校	523	成人の日 開校	524	成人の日 開校	525	成人の日 開校	526	成人の日 開校	527	成人の日 開校	528	成人の日 開校
539	短編 合同HR80~	540	短編 合同HR80~	541	短編 合同HR80~	542	短編 合同HR80~	543	短編 合同HR80~	544	短編 合同HR80~	545	短編 合同HR80~	546	短編 合同HR80~
551	短編授業	552	短編授業	553	短編授業	554	短編授業	555	短編授業	556	短編授業	557	短編授業	558	短編授業
569	特別研修日	570	特別研修日	571	特別研修日	572	特別研修日	573	特別研修日	574	特別研修日	575	特別研修日	576	特別研修日
587	短編授業	588	短編授業	589	短編授業	590	短編授業	591	短編授業	592	短編授業	593	短編授業	594	短編授業
591	成人の日 開校	592	成人の日 開校	593	成人の日 開校	594	成人の日 開校	595	成人の日 開校	596	成人の日 開校	597	成人の日 開校	598	成人の日 開校
609	短編 合同HR80~	610	短編 合同HR80~	611	短編 合同HR80~	612	短編 合同HR80~	613	短編 合同HR80~	614	短編 合同HR80~	615	短編 合同HR80~	616	短編 合同HR80~
621	短編授業	622	短編授業	623	短編授業	624	短編授業	625	短編授業	626	短編授業	627	短編授業	628	短編授業
639	特別研修日	640	特別研修日	641	特別研修日	642	特別研修日	643	特別研修日	644	特別研修日	645	特別研修日	646	特別研修日
657	短編授業	658	短編授業	659	短編授業	660	短編授業	661	短編授業	662	短編授業	663	短編授業	664	短編授業
671	成人の日 開校	672	成人の日 開校	673	成人の日 開校	674	成人の日 開校	675	成人の日 開校	676	成人の日 開校	677	成人の日 開校	678	成人の日 開校
689	短編 合同HR80~	690	短編 合同HR80~	691	短編 合同HR80~	692	短編 合同HR80~	693	短編 合同HR80~	694	短編 合同HR80~	695	短編 合同HR80~	696	短編 合同HR80~
691	短編授業	692	短編授業	693	短編授業	694	短編授業	695	短編授業	696	短編授業	697	短編授業	698	短編授業
709	特別研修日	710	特別研修日	711	特別研修日	712	特別研修日	713	特別研修日	714	特別研修日	715	特別研修日	716	特別研修日
727	短編授業	728	短編授業	729	短編授業	730	短編授業	731	短編授業	732	短編授業	733	短編授業	734	短編授業
741	成人の日 開校	742	成人の日 開校	743	成人の日 開校	744	成人の日 開校	745	成人の日 開校	746	成人の日 開校	747	成人の日 開校	748	成人の日 開校
759	短編 合同HR80~	760	短編 合同HR80~	761	短編 合同HR80~	762	短編 合同HR80~	763	短編 合同HR80~	764	短編 合同HR80~	765	短編 合同HR80~	766	短編 合同HR80~
771	短編授業	772	短編授業	773	短編授業	774	短編授業	775	短編授業	776	短編授業	777	短編授業	778	短編授業
789	特別研修日	790	特別研修日	791	特別研修日	792	特別研修日	793	特別研修日	794	特別研修日	795	特別研修日	796	特別研修日
807	短編授業	808	短編授業	809	短編授業	810	短編授業	811	短編授業	812	短編授業	813	短編授業	814	短編授業
811	成人の日 開校	812	成人の日 開校	813	成人の日 開校	814	成人の日 開校	815	成人の日 開校	816	成人の日 開校	817	成人の日 開校	818	成人の日 開校
829	短編 合同HR80~	830	短編 合同HR80~	831	短編 合同HR80~	832	短編 合同HR80~	833	短編 合同HR80~	834	短編 合同HR80~	835	短編 合同HR80~	836	短編 合同HR80~
841	短編授業	842	短編授業	843	短編授業	844	短編授業	845	短編授業	846	短編授業	847	短編授業	848	短編授業
859	特別研修日	860	特別研修日	861	特別研修日	862	特別研修日	863	特別研修日	864	特別研修日	865	特別研修日	866	特別研修日
877	短編授業	878	短編授業	879	短編授業	880	短編授業	881	短編授業	882	短編授業	883	短編授業	884	短編授業
891	成人の日 開校	892	成人の日 開校	893	成人の日 開校	894	成人の日 開校	895	成人の日 開校	896	成人の日 開校	897	成人の日 開校	898	成人の日 開校
909	短編 合同HR80~	910	短編 合同HR80~	911	短編 合同HR80~	912	短編 合同HR80~	913	短編 合同HR80~	914	短編 合同HR80~	915	短編 合同HR80~	916	短編 合同HR80~
921	短編授業	922	短編授業	923	短編授業	924	短編授業	925	短編授業	926	短編授業	927	短編授業	928	短編授業
939	特別研修日	940	特別研修日	941	特別研修日	942	特別研修日	943	特別研修日	944	特別研修日	945	特別研修日	946	特別研修日
957	短編授業	958	短編授業	959	短編授業	960	短編授業	961	短編授業	962	短編授業	963	短編授業	964	短編授業
961	成人の日 開校	962	成人の日 開校	963	成人の日 開校	964	成人の日 開校	965	成人の日 開校	966	成人の日 開校	967	成人の日 開校	968	成人の日 開校
979	短編 合同HR80~	980	短編 合同HR80~	981	短編 合同HR80~	982	短編 合同HR80~	983	短編 合同HR80~	984	短編 合同HR80~	985	短編 合同HR80~	986	短編 合同HR80~
991	短編授業	992	短編授業	993	短編授業	994	短編授業	995	短編授業	996	短編授業	997	短編授業	998	短編授業

(資料5-1-①-3)，年間30回(1回は1単位時間)の授業回数を確保していることから，設置基準で定められている90単位時間を満足している。

- ホームルームの実施にあたっては担任が中心になって運営するが，各担任に一任するのではなく，進路支援室や学生相談室が人間性を涵養する上で各学年にふさわしい活動を盛り込んでおり，ホームルーム運営に関しても全学的に取り組んでいる(資料5-4-①-1，2，7-2-④-5)。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の1～3年生では，特別教育活動としてホームルームを年間30単位時間行っており，そのなかで，進路支援室や学生相談室が年度当初に各学年にふさわしい諸活動を盛り込んでおり，人間性の涵養に全学的に取り組んでいる。

以上のことから，人間の素養の涵養に関する取り組みがなされている。

資料5-4-①-1 HR予定表

平成18年度 前期HR実施計画表

学年	1 年			2 年			3 年			備 考	
	1 組	2 組	3 組	1 組	2 組	3 組	M E	I E	C A		
	室長大應	秋吉康光	谷本圭司	池田光優	神田徳夫	重松恒美	藤満達朗	小林明伸	木村武馬		
4月	6	新入生オリエンテーション			クラス別HR(生活指導)			クラス別HR(生活指導)			
	13	クラス役員割り当て			HR実施 計画決定	面談調査	自己紹介	担任の話 作文	合宿研修 ガイダンス	担任企画	1年HR 終了後 心電図検査
	20	交通安全指導講話 (15:15~)									4~5年 含む
	27	進路支援室紹介(メディアホール)			担任講話	自己紹介	担任の話	担任の話 席替え	合宿研修	クラス企画	
5月	11	生活指導(メディアホール)			席替え	個人面談	個人面談	キャリアガイダンス③ 社会の求める人材 (進路支援室)			
	18	前期中間試験に向けての諸注意									
	25	前 期 中 間 試 験									
6月	1	特別時間割 (HRは実施しません)									
	8	セクシュアルハラスメント防止 講習会(学生相談室・メディアホール)			クラスマッチ1 グラウンド、第1、第2体育館			キャリアガイダンス④-1 進路適性検査とキャリアプランの作成 (進路支援室)			
	15	クラス企画 (アンケート、席替えなど)			講話③ 高専生活のすごし方 講師：専攻科生 (進路支援室)			奉仕活動			
	22	個人面談			席替え	クラス企画	担任の話 席替え	キャリアガイダンス④-2 進路適性検査とキャリアプランの作成 (進路支援室)			
	29	講話① 高専生活のすごし方 講師：4年生 (進路支援室)			学科別HR			工場見学	クラス企画	創作活動I	
7月	6	クラス企画			クラス企画(読書)	クラス企画	個人面談	担任の話 席替え	クラス企画	創作活動II	
	13	奉仕活動(ゴミ拾い)			ビデオ鑑賞1 (メディアホール)			学科対抗スポーツマッチ グラウンド、第1、第2体育館			
	20	夏休みに向けての心構え									終 業
9月	1	夏休みの総括と前期末試験に向けての諸注意									始 業
	7	前 期 末 試 験									
	21	クラス企画(席替えなど)			クラス企画 (ビデオ鑑賞・メディアホール)	前期を終 えて	担任の話 席替え	担任の話	クラス企画	担任企画	

※上記の計画は、日程を変更する場合があります。

出典：HR予定表

## 資料5-4-①-2 進路支援室によるHR支援

進路支援室初年度の活動（平成16年12月～平成18年3月）を振り返る（執筆中 H18.5.22）  
（アンケート結果の分析による報告）

徳山高専 学生課 専門員 野頭克己

## 序文

徳山高専のある山口県周南地方は山口県内では工業地域として位置付けられている。特に戦前に海軍の燃料省等の軍事施設もあり、出光徳山精油所、新日鐵光製鉄所はその跡地に建設されたものである。さらに東ソー、トクヤマの化学メーカーがあり、コンビナート群のまちである。山口県は人口150万人弱の県であるが、県庁所在地の山口市に主要産業が無く、県内に10万人から20万人の小都市が散在している。そのため、高専も宇部および大島（商船高専）と3箇所に分散し、新幹線の駅も県内5箇所に散在している。

（中略）

## アンケート対象学生数

本科1年生 126名、2年生 124名、3年生 124名、  
4年生 120名（うち就職 72名、進学 43名、未定 5名）  
5年生 115名（うち就職 75名、進学 40名）  
専攻科1年生 24名（うち就職 13名、進学 8名、未定 3名）  
専攻科2年生 20名（うち就職 10名、進学 10名）

## 本文

平成18年3月に実施したアンケートの結果を参考として、支援室の活動を振り返る。学年毎に解説する。

## アンケートⅠ（プログラムへの感想）

## 1. 低学年

## (1) 1年生

## ① 進路支援室（プログラム）の紹介（実施日 平成17年5月12日）

支援室スタッフにより、①本校の就職・進学状況と社会状況（就職環境）の説明を交えながら解説し、②高専生活（学ぶことの楽しさ等）の過ごし方のアドバイス、③支援プログラムの説明を行った。

アンケート結果；理解できた学生14%、に対して覚えてない学生が34%、一部理解できた学生が45%という結果であった。

かたどおりの説明で、浸透度はもう一つであるという反省もあり、18年度は講話方式をやめて、具体的な作業方式を取り入れることし、各自に履歴書を作成させ、今後の5年間で、空白の部分はどう埋めるかを考えさせた。（実施日 平成18年4月27日）

出典：進路支援室資料

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

## (a) 学生相談室の設置

- 主として学生のメンタル面での問題に対応するため、平成11年度に学生相談室を設けた。
- メンバーは教員4名と専任の看護師1名、および外部の専門カウンセラー2名から構成され、その成果は学生相談室報として2年に1度まとめられている（資料5-4-②-1, 2）。

(b) クラブ活動状況

- 教員には毎週木曜日をクラブ指導の日と定め、できる限りクラブ指導が行えるように配慮している。クラブ顧問の決定に際しては、学生、教員ともに希望を募り、マッチングを行うようにしている（資料5-4-②-3）。

(c) 高専夢広場

- 街中に開設している高専夢広場においては、イベントを通じ、学生と地域の人々との交流が図られ、人間性の涵養にも役立っている（資料5-4-②-4）。

(分析結果とその根拠理由)

- 学生相談室による学生の指導・支援が、メンタル面において十分になされている。
- クラブ顧問は学生とのマッチングにより決めており、人間性の涵養に、より効果を上げている。
- 高専夢広場で地域との連携を図り、人と人との交流から素養の涵養に努めている。

以上のことから、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られている。

資料5-4-②-1 学生相談室人員表

<p><b>Monday</b> 原田 徳彦 (はらだ・のりこ)</p> <p>年齢：39歳 趣味：旅行 特技：読書 所属：情報電子工学科 連絡：E-mail n-harada@tokuyama.ac.jp 教員室直通 TEL 0834-29-6310</p> <p>自己紹介： バスケットの顧問をしています。スポーツ部の経験の私にとって、「勝つ」という意味を「苦」と捉えるまでに時間がかかりました。将来の夢を自由に思い描く時間は、いろいろなことに疑問を持ち、悩む時期でもあります。その中にある学生と共に考え、これは教員として貴重な経験と考えています。私も高校時代にはいろいろ悩みましたが、すべてにおいて答えが出た訳ではありません。こんな私で良かったらぜひ読んでみて下さい。</p>	<p><b>徳本 逸男</b> (さくらもと・いつお)</p> <p>年齢：45歳 趣味：テニス、水泳 特技：資料を持たないこと 所属：機械電気工学科 住所：最近市街地になった泉町 連絡：E-mail : sakuramoto@tokuyama.ac.jp 教員室直通 : Tel : 0834-29-6277</p> <p>自己紹介： 機械電子系の顧問をしています。できるだけ時間を空けてクラブ活動に参加し、部員と一緒に練習することにはしていますが、たまには学生と組んで一般の大会に参加することもあります。顧問という部員の人一人という感じですが、いろいろと仕事がある中でも、実はこれが一番楽しかったりします。気分転換やストレス解消にもなり、やはり弊を無かすのが一番いいですね。学生の皆さんも、できれば運動部にも所属するのがベストですが、そうでなくても何らかのスポーツはして下さい。体だけでなく心の健康にも非常に良い効果をもたらします。</p>	<p><b>国重 徹 (くにしげ・とふる)</b></p> <p>年齢：44歳 趣味：ダイエツト、大食い、格闘技観戦、ドラム演奏、おしゃべり、人間観察 特技：英会話 公式の所属：一般科目(英語科)、バレーボール部、英語に親しむ同好会(いんぐりっしょふるーむの責任者) 非公式の所属：カブ同好会、カレー同好会、炒飯同好会 連絡：E-mail kunisige@tokuyama.ac.jp 教員室直通 TEL 0834-29-6253</p> <p>自己紹介： 新入生の皆さん、初めまして。上の趣味や非公式の所属からもわかるように、僕はダイエツトをしてほしいという思いがある一方で、おいしいものをたくさん食べて健康の増進を促したいという気持ちも持っています。カツ丼、カレー、炒飯のお店をばしょとして3種類くらいカツ丼、カレー、炒飯を食べ、味を比べるといってもいい(？)的な同好会活動も続けているおかげで、いろいろなダイエツトにチャレンジするわりには体重も体脂肪率もなかなか減りません。皆さんの中で、好きなだけ食べても太らない秘訣を知っている人がいたら是非教えてください。僕は、夜食を食べるともつと趣味の一つです。最初のうちは何度の罰金を取られました。のおかげで、この趣味だけは封印中です。また、僕は人とお話をすることも大好きなので、相談したいことがあるときも、特に相談事がなくても、気軽に後援室に遊びに来て下さい。食べる事、ダイエツト、音楽、格闘技、英会話、留学、恋愛、人生などいろいろな話を話しましょう。お互いに英会話コミュニケーションを取ってみたいような場合も大歓迎ですよ。それでは、皆さん、どうぞよろしくお話しします。</p>
<p><b>Thursday</b> 近 文彦 (ちか・ふみひこ)</p> <p>年齢：40歳 趣味：映画館で映画を観ること 特技：英語が理解できる 所属：医療法人はぶクリニック(心療内科) 日本心理臨床学会 日本臨床心理学会 EMERJ Network Japan 連絡：水曜日に保健室長の相談室にいます もしくは保健室の松尾先生へ手紙してください</p> <p>自己紹介： いつもは市内の心療内科で心理カウンセラーをしています。クリニックでは、自費でセッションですが、当校ではジャンパーやTシャツにジャズです。もっとフォーマルな服装をすればいいのですが、ネタタイを縫うとソワソワして落ち着かなくなってしまうので、ついTシャツを着てしまっています。疑問のところ、大人になりきれないというものでしょう・・・か？</p>	<p><b>福田 日南住 博</b> (ひなずみ・ひろし)</p> <p>年齢：60歳 趣味：音楽を聴くこと 特技：物を壊すこと(今までに時計、ラジオ、外数多くの物が壊れたこと) 所属：土木建築工学科 連絡：E-mail : hinazumi@tokuyama.ac.jp 教員室直通 : Tel : 0834-29-6335</p> <p>自己紹介： 今年度就任が学生相談室のメンバーの一員となりました。趣味の園に挙げたように、音楽を聴くのが好きです。ジャンルは特に無い雑食です。(とはいってもジャズやクラシックの最新音源のものに限ります)。その日の気分合った曲を聴きながら車を駆っているのも楽しくなります。しかし、最近の原油価格の高騰により、得とかならないものでしょうか。さて前職はこれまでにして、私は国重先生ほどのカウンセラー経験もなく、僕も、原田先生ほどの資力もない、となればどのような立場で君達と接すればいいの悩んでいます。先ずは肉体的な重のおっちゃんといったところから相談しようか。不慣れで質問を伺えない点が多々あると思いますが宜しくお付き合い下さい。</p>	<p><b>松尾 菜子(まつお・ようこ)</b></p> <p>年齢：26歳 特技：幼稚園くらいの子どもとすぐ仲良くなれる 趣味：ゆっくりご飯を食べること(趣味?) 所属：学生課学生生活・就職支援係(保健室直出) 連絡：E-mail matuo@tokuyama.ac.jp 保健室直通 TEL 0834-29-6340</p> <p>自己紹介： 「学生課学生生活・就職支援係の看護師です。午前中は学生課に、午後は保健室にいます。 「学生相談室」って、ちょっと行きづらいと思う人もいるかも知れませんが、私は「悩みを相談に行くところ」ではなく「話しを聞いてもらうところ」だと思っています。私の通っている高校には相談室はなかったのですが、話を聞いてくださる先生やゆっくり話せる先生がたたくさんいました。場所としての相談室はなくても、「私にとっての相談室」はいつでもあります。みなさんにも相談できる人を見つけて欲しいなと思います。私もみなさんと同じくらい悩みを抱えていると、いろいろ考えながら悩んで、・・・大変だったような気がします。でも大変と悪いながらも、いろいろな人いろいろな話を聞いていく中で「相談室の先生」になるという夢が生まれました。私にとって高校生という3年間、そしてその時に出会った人たちは宝物です。これからもこの出会いを大切に、そしてその時山重高の出会いを大切にしていきたいと思っています。みなさんにとって高専の5年間はかけがえのないものになっていくことを祈っています。 そしてこれからも、看護師として学生のみなさんに近い存在でいたいと思っています。いろいろお話ししましょうね。よろしくお話しします。</p>
<p><b>星山 馨香</b> (ほしやま・はるか)</p> <p>年齢：30歳 特技：最近ゲームが趣味です 趣味：いつでもタラタラとのんびり過ごすこと 所属：小野カウンセリング・ルームあんだんて</p> <p>連絡：水曜日に保健室長の相談室にいます もしくは保健室の松尾先生へ手紙してください</p> <p>自己紹介： 今年度から、月に2回ほどお邪魔することになりました。いつもは有料カウンセリングルームや児童施設、学習指導等で心理カウンセラーをしています。私は一つの職場にいてではなく、日替わりでいくつかの職場に行っています。でも、それが性に合っているようです。高専では卒業後は就職・進学と離れて、一人一人、いろいろな社会福祉の仕事があるように思っています。皆さん、それぞれ合った将来や現在の生活、気持ちなどを一緒に考え、話し合っていけるといいなと思っています。それ以外にもどうぞお気軽にお話しに来て下さいね。</p>		

出典：学生相談室案内

## 資料 5-4-②-2 学生相談室報目次

2001 Annual Report: TCT Student Counseling Center

## 目次

## はじめに

## 学生相談室の活動の方針と現状

1 学生相談室の役割と位置づけ .....	3
2 学生相談室プログラムについて .....	6
3 相談活動の体制 .....	8
4 学生相談の現状（件数等） .....	8
5 学生相談室案内 .....	9
6 学生相談室通信 .....	11

## 相談室活動報告

## 1 相談室プログラム実施報告

(1) 学生相談室ガイダンスと新入生アンケート及び個別面談 .....	19
(2) キャリア・ガイダンス	
機械電気工学科3年 .....	22
情報電子工学科3年 .....	23
土木建築工学科3年 .....	24
(3) 1年生マルチ検査-自己理解のために .....	26
(4) グループワークの実施 .....	28
(5) 保健室の役割 .....	29

## 2 研修報告

(1) 全国学生相談研修会-学生相談と精神医学を受講して(2001) .....	31
(2) 全国学生相談研修会報告-各高専の取り組みについて(2001) .....	33
(3) 学生相談室体制についての提案-学生相談研修会報告(2000) .....	36
(4) 学生相談研修会で学んだこと-本校での実践に向けて(2000) .....	45

3 研究報告 .....	52
--------------	----

## 調査・研究活動

## 1 新入生アンケート報告

--平成13年度入学学生の特徴と留意する点について .....	65
2 臨床現場から .....	73
3 求められる発達援助	
--最近の相談事例より .....	77

## 今後の展望

## 本年度の反省と課題

馬渡賢治 .....	83
国重 徹 .....	83
佐々木伸子 .....	84
大西 巖 .....	85
怒和千代子 .....	85
近 文彦 .....	85
福永由美 .....	86

◆編集後記 .....	87
-------------	----

出典：学生相談室報

資料5-4-②-3 クラブ顧問希望調査書

(別紙2)

### 顧問教員依頼希望書

学生主事殿

平成18年度 陸上 部・同好会 は学則を遵守し、課外活動を行うため、下記教員に顧問を依頼し、クラブ活動を行うことを希望いたします。

所属部： 陸上部

部長（キャプテン）氏名： [REDACTED]

学科，学年： [REDACTED]

希望顧問教員名 ・ 上 俊二

・ 小田 和広

・ 齊藤 一彦

・ 逆瀬川 栄一

出典：顧問教員依頼希望書一覧

## 資料 5 - 4 - ② - 4 高専夢広場活動資料

## 2004 年度

創造演習課題作品展示「こうだったらいいのにな・徳山の街作戦」

掲示期間：平成 17 年 2 月 18 日～3 月 6 日

土木建築工学科 3 年生が行っている授業「創造演習」の作品展示を行っています。徳山の街の景観問題を改善する 10 のアイデアが揃いました。

パソコンによるデジタルビデオ編集

・ビデオ撮影から編集や DVD 化の過程を体験する・

期間：平成 17 年 1 月 22 日～23 日

自分で撮影したビデオにタイトルや BGM をつけて自由に編集したい、と思ったことはありませんか？こうした要望に応えるための講座です。

創造演習課題・中間掲示「こうだったらいいのにな・徳山の街作戦」

掲示期間：平成 16 年 12 月 14 日～27 日

土木建築工学科 3 年生が行っている授業「創造演習」の中間段階の掲示を行っています。徳山の街の景観問題を改善する 10 のアイデアに対して、ご意見をお寄せください。

パソコン若葉相談室 in 久米

パソコンを使っていたら、ちょっとした疑問？や予期せぬトラブル！はつきものです。そこで、「今さら聞けない！」「どこに尋ねたらいいの？」といった“どおにかして～！”をサポートするため、『パソコン若葉相談室』が、年末企画として地元久米公民館にやってきます。

キャンドル・スタンド製作教室

開催日：2004 年 12 月 9 日（木） 13:00～17:00

食卓を飾ったり、お部屋のインテリアにキャンドル・スタンドはいかがでしょうか。はさみで銅板を切ったり、ハンダ付けと簡単にオリジナルスタンドが製作できます。

## 2003 年度以前

夢広場ができるまで（2002 年度）

2002 年 7 月 27 日、徳山高専を地域の人に知ってもらうための店「高専夢広場」がオープンしました。この店舗の設計と施行の一部は専攻科の 2 年生が中心となって行いました。この HP は自分の実力を試す絶好の機会と果敢にチャレンジした学生たちの活動の記録です。

夢広場 2002 での授業成果発表会

私たちのアイデアを買いませんか？ ー建築設計演習 2「ストリートファニチャー」課題発表会ー土木建築工学科 5 年「建築設計演習 2」の授業では、自分の作品（提案）に対する社会からの評価を得ることを目的に、発表会を開きました。

夢広場 2002

徳山商工会議所のまちづくり機関「TMO 徳山」が中心商店街の空洞化対策や商売人の育成のために、徳山市銀座旧サティ 2 階にチャレンジショップとくやま『街あい』をオープンしました。徳山高専もこの一角を借り受け、高専夢広場を開設しました。

学生オリジナルちらし

高専夢広場を PR するために学生が製作したオリジナルちらしです。

出典：高専夢広場ウェブサイト資料

### ＜専攻科課程＞

**観点5-5-①：** 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

本校の場合、準学士課程と専攻科課程が1：1に対応しており、それぞれ得意とする複合技術は、専攻科課程と準学士課程で共通である(資料1-1-①-5)。そのため、専攻科課程では準学士課程で修得した基礎知識を踏まえつつ、さらに発展的な内容を修得したり知識の総合化を図ることにより、専攻科でめざす技術者像(資料1-1-①-2)を実現することができる。すでに準学士課程から専攻科課程に至る7年間のカリキュラム系統図ができあがっており(資料2-1-①-2)、教育課程は準学士課程との連携を十分考慮したものとなっている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の場合、準学士課程と専攻科課程が1：1に対応しており、それぞれ得意とする複合技術は専攻科課程と準学士課程で共通である。そのため、カリキュラムも7年を見通して設計されている。

以上のことから、専攻科課程は準学士課程との連携を考慮した教育課程となっている。

**観点5-5-②：** 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置(例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。)され、教育課程の体系的性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

- 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れを教養科目、および学科/専攻ごとに7年間を通した形で作成し、計4枚の系統図にまとめた(資料2-1-①-2)。その際、それぞれ得意とする複合技術を修得する流れをわかりやすく示している。
- それぞれ得意とする複合技術は3～4つの分野で構成されており(資料1-1-①-5)、その分野ごとに学年進行にしたがって開設科目を定めている。その際、数学や物理など関連する共通科目や他の分野の専門科目の開設状況との整合性に留意している。
- 専攻科修了生のめざす技術者像と到達目標(資料1-1-①-2)を実現するため、特に専門科目については選択科目を広く開設し、必修科目は1年次の基礎的な教養科目と総合実験・総合演習ならびにインターンシップと特別研究に限定した(資料1-1-①-5)。
- 学習・教育目標(C1)の「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力」を身につけるため、複合技術を構成する分野ごとにそこでの内容を総合的にまとめ、理解する科目として、二重枠で囲った「総合科目」(資料5-5-②-1)を主として2年次後期に開設している(資料2-1-①-2)。
- (C1)と同じ趣旨から、それぞれ得意とする複合技術に関し、準学士課程を含めた7年間にわたるすべての学習・教育の成果をまとめ、何らかの形に結実させる科目として、2年次前期に「総合演習」(資料5-6-①-1)を開設している。

資料 5 - 5 - ② - 1 「総合科目」のシラバス (一例)

材料設計工学 (Materials for Design)						
専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当	
機械制御	選択	2年後	2	講義	森野 数博	
<b>【授業の概要】</b> 機械や構造物に使われる材料は、材質とともに形状も併せ決定することが肝要である。ここではすでに学んだ材料関連の一連の知識を総合化し、各種機械・機器を設計する上で必要な形状と材料選定の関わりについて理解する。						
<b>【学修の進め方】</b> 授業では提起された問題に対しモデル化する手法を学び、その知識を確実にするため、受講生が二つのケースについて具体例を選び、材料選定する手順について説明し、討論する。これまでに学んだ材料系の知識を再整理し、総合化することから、毎回、予習復習を確実に行う必要がある。学習シートは適宜配布する。						
【授業計画】	【授業項目】		【内 容】			
1回	オリエンテーション		授業の概要、進め方、内容、到達目標ならびに評価方法について説明する。			
2回	設計プロセス		三つの設計タイプに関する設計過程の概略を学び、材料選定との関わりを理解する。			
3回	各種工業材料とその性質のまとめ		機械設計で重要となる種々の材料特性について知識を整理する。			
4回	各種材料特性のチャート		材料特性を簡略でみやすい形にまとめた15種類のチャートの読みこなし方を理解する。			
5回	断面形状を考慮しない場合の材料選定/性能指標の導出手順		拘束条件を用い、膨大な材料の中から対象を絞り込む性能指標の求め方を理解する。			
6回	断面形状を考慮しない場合の材料選定/目的に応じた性能指標		代表的な5種類の設計目的に対し、性能指標の意味するところを理解し、把握する。			
7回	断面形状を考慮しない場合の材料選定/ケーススタディ (その1-1)		テキストに掲載されているケーススタディについて、その中から二つを選び、詳しく説明する。			
8回	断面形状を考慮しない場合の材料選定/ケーススタディ (その1-2)		残りのケーススタディの中から受講生がそれぞれひとつずつ選び、検討した結果について説明し、討論する。			
9回	種々の標準問題に対する近似解法 (その1)		種々の標準問題のモデル化手法を整理し、構成式ならびに近似式への理解を深める。			
10回	種々の標準問題に対する近似解法 (その2)		同 上			
11回	断面形状を考慮した場合の材料選定/形状因子		種々の負荷様式に対し、剛性支配と強度支配下での形状因子の求め方を理解する。			
12回	断面形状を考慮した場合の材料選定/形状を考慮した性能指標		断面形状と材料特性を考慮した最適な性能指標の意味するところを理解し、把握する。			
13回	断面形状を考慮した場合の材料選定/ケーススタディ (その2-1)		テキストに掲載されているケーススタディについて、その中から二つを選び、詳しく説明する。			
14回	断面形状を考慮した場合の材料選定/ケーススタディ (その2-2)		残りのケーススタディの中から受講生がそれぞれひとつずつ選び、検討した結果について説明し、討論する。			
15回	総括、授業アンケート		全体を概観し、知識を再整理する。			
【到達目標】	材料とその強さに関する基本的なことから本質的に理解し、本科から学んできた材料に関連する一連の知識を、具体例を用いた材料選定を通じ、総合的に身につけることを目標とする。					
【徳山高専学習・教育目標】		C 1		【JABEE 基準 1(1)】		d - 2 a
【評価法】	最終成績は、大きく次の2項目の合計で評価する。 1. 毎回の授業における質疑応答を中心とした理解度：20% (20点満点) 2. 2回のケーススタディ：80% その1：パワーポイント資料：40% (40点満点) プレゼンテーション (含質疑応答)：10% (10点満点) その2：パワーポイント資料：20% (20点満点) プレゼンテーション (含質疑応答)：10% (10点満点)					
【テキスト】	M.F.Ashby、金子・大塚訳：「機械設計のための材料選定」(内田老鶴圃)					
【関連科目】	本 科：材料学、材料力学I、材料力学II、弾塑性論、機械設計論I、機械設計論II 専攻科：弾性力学、材料強度学、生体機械力学					
【成績欄】	前期中間試験	前期末試験	前期成績	後期中間試験	後期末試験	学年末成績
	【  】	【  】	【  】	【  】	【  】	【  】

出典：シラバス

(分析結果とその根拠理由)

- カリキュラムの内容は、それぞれ得意とする複合技術の修得と、6つの学習・教育目標に沿って設計されており、具体的到達目標が達成できるよう工夫されている。
- 教養科目とそれぞれ得意とする複合技術ごとに計4枚の系統図を作成し、全体の流れと科目ごとの位置づけを横に並べたり色分けしたり工夫することにより、分かりやすく示している。

以上のことから、授業科目は本校の教育目的に沿って適切に配置されており、準学士課程との一貫性が確保されるとともに、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

**観点5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。**

(観点到に係る状況)

- (a) 他の教育施設における単位の履修方法について、規則が定められている（資料5-5-③-1, 2）。
- (b) 学生の多様なニーズに対応するために以下のことを行い、学外での教育機会を与えている。
- 徳山大学との協力協定に基づく単位互換制度の実施（資料5-1-②-4, 資料5-5-③-3, 資料B-1-①-11）
  - 長岡技術科学大学と本校との連携教育に基づく学生の派遣（資料B-1-①-12, 13）
  - ワーラゴン大学への長期インターンシップの派遣（資料5-6-②-2）
  - 海外語学研修の実施（資料7-1-④-7）
  - フィティレイア・コミュニティ・ポリテクニクとの協力協定に基づく語学研修の実施（資料5-1-②-3, 資料7-1-④-7）

(分析結果とその根拠理由)

- 学生の多様なニーズに対応するため、他の教育施設における単位の履修方法について諸規則が定められている。
- 他大学等と協力協定や連携を行い、積極的に単位互換や学生の派遣、長期インターンシップや語学研修への派遣を行うことで、教育の幅を広げ、効果を上げている。

以上のことから、本校では学生の多様なニーズを配慮し、それに対応している。

資料5-5-③-1 専攻科の授業科目の履修等に関する規程（抜粋）

徳山工業高等専門学校専攻科の  
授業科目の履修等に関する規程

(趣旨)

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第37条第3項及び第39条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定める。

(単位の計算方法)

(中略)

(成績の評価)

第8条 授業科目の評価は、原則として当該科目担当教員が、定期試験の成績及び出席状況等平素の学業成績を総合して行うものとする。

2 特別研究の評価は、特別研究論文を提出し、特別研究発表会で発表を行った者に対して行う。

3 前項の特別研究論文に関しては、原則として、学会又は協会における発表を前提とするものとする。

第9条 成績の評価は、優、良、可及び不可の評語をもってし、次の評点区分による。ただし、特別研究は評価区分を行わない。

評語	評点区分
優	100～80
良	79～70
可	69～60
不可	59～0

第10条 各授業科目とも欠課時数が授業時数の1/5を超えるものに対しては、評価は行わない。この場合において、遅刻及び早退は、3回をもって欠課1回とする。

(単位の認定)

第11条 第9条の規定に基づき、優、良及び可に評価された授業科目については、当該科目を修得したものととして、単位を認定する。

2 不可科目については、当該学期内に再試験を実施することができる。ただし、評点の最高は60点とする。

(他専攻の授業科目履修)

第12条 他の専攻で開設されている科目の履修を希望する学生は、あらかじめ指導教員の許可を得たうえで受講届(別紙様式第1号)を学生課へ提出しなければならない。これにより修得した単位は10単位を限度で当該専攻における単位として認定することができる。

出典：学生便覧

#### 資料5-5-③-2 他の教育機関において修得した単位の取り扱い規定(抜粋)

他の教育機関において修得した科目及び単位の取扱いについて

##### 1 科目及び単位の取扱い

専攻科に在籍する者が他の教育機関において修得した科目及び単位については、本取扱いの定めるところにより、「設計情報工学」プログラムの修得科目及び修得単位と見なすことができる。

##### 2 申請

1の取扱いを受けようとする者(以下「申請者」という。)は、様式1により、学校長に申請しなければならない。

##### 3 対象となる科目及び単位

対象となる科目及び単位は、本科4年に相当する学年以上の学年において修得したもののうち、「優」又は「良」の成績をもって修得したものとする。

##### 4 取扱いの手順

1の取扱いは、専攻科委員会の審議を経て、学校長が行う。

専攻科委員会は、審議に当たって、必要と認める場合には、委員以外の者の出席を求めて、意見を聴することができる。

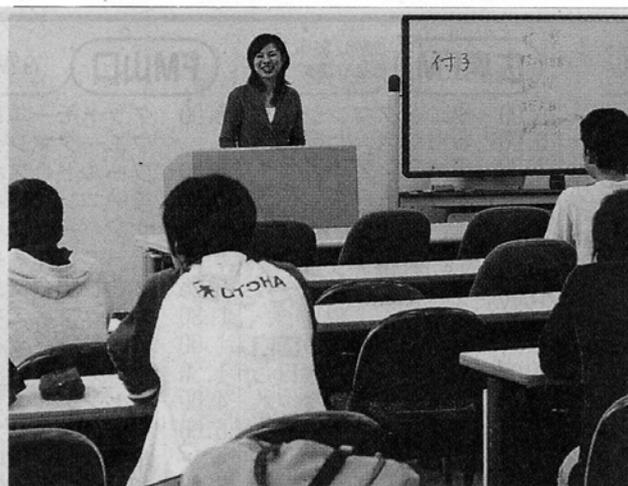
専攻科委員会は、審議に当たって、必要と認める場合には、申請者に対し、資料の提出、口頭若しくは筆記による試験の受験等を求めることができる。

##### 5 結果の通知

学校長は、1の取扱いを行った場合には、その旨を、また、1の取扱いを行わない場合にはその理由を、申請者に通知しなければならない。

出典：学生便覧

資料5-5-③-3 徳山大学との単位互換制度の新聞記事



徳山大と徳山高専の単位互換制度の対象となる「経営管理」の講義

# 単位互換制度 本格スタート

## 徳山大と徳山高専

周南市の徳山大と徳山高専は十月から、両校の学生が受講でき、履修単位として認める「単位互換制度」を始めた。十九日は高専で唯一の対象科目となる「経営管理」が本格的に始まり、両校の学生約十人が受けた。経営管理は、西京銀行（周南市）が講師を派遣し、企業の合併・買収（M&A）や人事戦略など十回で構成する。

この日は総務人事部の米田千里さん（三）が「社会人としてのマナーについて」をテーマに、ビジネスマナーを説明。米国の研究なども交えて、上手な話し方などを紹介した。徳山大四年の鶴田長成さん（三）は「将来、起業したいと考えて受講した」と意欲的だった。

単位互換は、徳山大と高専が一月に結んだ包括的な協力協定に基づく。徳山大は「中国語Ⅱ」や「福祉情報論Ⅰ」など十八講義を開放。高専は経営管理を設定した。徳山大からは三人が登録し、高専からは四講義に延べ十二人が受講する。

私立大と高専の包括協定は全国初で、学生の相互交流や起業家の育成支援などを目的に掲げる。高専の天野徹校長は「単位互換は学生に最も身近で役に立つ連携の一つ。学生の広い興味にこたえていく」と話している。

出典：中国新聞（平成17年10月20日）

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

(a) 授業形態のバランス

本校の学習・教育目標は（A1）～（C2）と6項目あり、それを実現するため、次のような授業形態をとっている。その際、4枚にまとめられた系統図（資料2-1-①-2）をみれば、色分けされた（A1）～（C2）がどの学年においてどの分野で開設されているか鳥瞰することができ、カリキュラムに果たす役割を容易に理解することができる。

（A1）の「複合分野の基礎となる基本的素養」に関連する科目は、1年次に教養科目の必修として物理科学、一般化学、生命科学が開設されており、数学は4科目が選択で開講され、講義形式

で行われている。

(A2)の「国際理解や技術者倫理とコミュニケーション能力」に関連する科目は、主として1年次に教養科目の必修として国際比較文化論、技術者倫理、国語と英語の科目が開設されており、重視されている。また英語は2年間にわたり開設され、より重点が置かれている。講義や演習形式で行われている。

(B1)の「情報技術をベースに、実体験を通しての表現力」に関連する科目は、どの専攻も1年次後期に総合実験とコンピュータ関連科目として開設されている。

(B2)の「自主性・自立性」に関連する科目は、準学士課程ですでに身につけたとして、特に科目を開設していない。

(C1)の「複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力」に関連する科目は、専門科目がほとんどそれに該当しており、専攻科の中核を担っている。総合科目や総合演習もこれに含まれており、講義形式が多いが、演習を取り入れている科目も見受けられる(資料5-5-②-1, 5-6-①-1)。

(C2)の「課題を把握し解決する力」に関連する科目は、インターンシップや特別研究などが該当し、専攻科の特徴を形づくる科目となっており、演習科目が多い。

これらをまとめると、次のようになる。

- 学習・教育目標を達成すべく、それらの科目が2年間にわたりバランスよく開設されている。
- 専門科目では、実験・演習形式で行っている科目はどの専攻もほぼ共通であり、必修となっており、その割合は約5割を占めている。
- 実験・演習形式で行っている科目は、どの学科も全学年でまんべんなく開設されている。

#### (c) 学習指導法の工夫

##### (A2) コミュニケーション能力の向上

- 平成14年度より、英語能力の向上をめざし、まず専攻科生と教員を対象にTOEIC学習用のeラーニングシステムを提供。利用した専攻科生が利用前に比べて平均80点、スコアアップしていることを確認している(資料7-1-②-8)。
- 少人数教育であり、どの科目もコミュニケーションをとりながら授業を進めることができ、好評。

授業アンケートでも、準学士課程に比べると満足度の高い科目が多い。

##### (B2) 自主性・自立性の向上

- 専攻科生が本科学生の指導の補助をするTAに携わることにより、さらに向上している。

##### (C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力

- 各専攻で少人数、対話・討論型の授業として総合演習を実施している(資料5-6-①-1)。

##### (C2) 課題を把握し解決する力

- 特別研究では密度の濃い個人指導を行っており、能力の向上に寄与している。

#### (分析結果とその根拠理由)

- 学習・教育目標に適した授業形態がとられ、2年間でバランスよくカリキュラムが編成されている。特に必修科目が効果的に開設されており、実験・演習科目の割合もおよそ5割と、

高度な実践力をもつ開発型能力を養うために、望ましい形になっている。

- 学習・教育目標（A 2）（B 2）（C 1）（C 2）に関し、学習指導上の工夫がなされている。

以上のことから、教育の目的に照らして授業形態のバランスは適切であり、学習指導法の工夫もなされている。

資料5-6-①-1 総合演習シラバス

機械制御工学総合演習(Practice of Mechanical and Control Engineering)						
専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当	
機械制御	必修	2年前	2	演習	伊藤 尚 森野敦博	
【授業の概要】 装置組込用のワンチップコンピュータPICを用いたメカトロニクス製品を、企画から設計、製作までの一連の流れを体験しながら開発し、機械制御工学の総合的な専門知識や技術を身につける。						
【学修の進め方】 一連の開発に必要なことから逐次講義し、開発過程は適宜全員の前で報告し、討議する。製品発表会は一般公開し、ホームページにもその内容を公開する。学習シートは、ポイントごとに配布する。						
【授業計画】						
おおむね次の流れにしたがい、PICで制御したメカトロニクス製品を開発する。						
1. 授業の概要と到達目標、評価法の説明						
2. 製品開発における一連の流れの説明（企画から製品完成・発表会まで）						
(1) 企画 ・立案（類似品の特許検索、市場調査、仕様・価格の対応表など） ・販売計画 (2) 提案書の作成 ・カタログ形式 ・プレゼンテーション (3) 設計・製造計画、工程管理 (4) 製造・製作 (5) 原価計算 (6) 製品発表会						
3. 提案製品についてのプレゼンテーション、討議を経て開発製品の決定						
4. 工程表の作成						
5. 設計						
6. 製作						
7. 取扱説明書やカタログの作成						
8. 製品発表（一般公開）						
【到達目標】	本科・専攻科を通じた7年間のメカトロニクス教育の集大成として、その知識・能力を証明するにふさわしい製品をつくることを目標とする。なおその際、実際に商品として市場に流通させることを想定し、それを加味する。					
	【徳山高専学習・教育目標】	B2, C1		【JABEE基準1(1)】	d-2c, e, g	
【評価法】	到達目標を評価の基準とし、開発したメカトロ製品について次のとおり評価する。 最終評価点=報告書(40%) + 製品評価(40%) + 発表評価(20%) ・報告書: 2人の授業担当で評価 ・製品評価: 教員(含外部の評価依頼者)(30点) + 受講学生(含自己評価)(10点) ・発表評価: 教員(含外部の評価依頼者)(10点) + 受講学生(含自己評価)(10点)					
【テキスト】	後関哲也:「PIC活用ガイドブック」(技術評論社) 随時プリント配布					
【関連科目】	本 科: 全科目 専攻科: 全科目					
【成績欄】	前期中間試験	前期末試験	前期成績	後期中間試験	後期末試験	学年末成績
	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }

情報電子工学専攻総合演習 (Practice of Computer Science and Electronics)						
専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当	
情報電子	必修	2年前	2	演習	神田徳夫 大橋正夫 山田健仁 杉村敦彦 奥本 幸 松野成悟	
【授業の概要】 情報電子工学に関する文献の調査、講読を各分野ごとに行い、特別研究に関連した理論、技術に関する見識を深める。						
【学修の進め方】 教員が提示したテーマの中から2つ選んで、教員の指導を受ける。テーマについての説明の後、調査させ、演習を行う。そしてレポートにまとめさせる。						
【授業計画】						
担当教員：テーマ 神田：「AND-OR二段論理合成システムの作成」 大橋：「熱分析 スズと鉛の相図の作成」 山田：「ネットワークを介した遠隔制御の基礎実験」 杉村：「動画処理によるオプティカルフローの検出」 複数枚の連続した画像から、移動する物体の速度を検出する。検出方法には、グラディエント法における空間的局所最適化法を用いる。 1. 動画処理によるオプティカルフロー検出の概説 2. グラディエント法の説明と基本式の導出 3. 微分フィルタの種類と局所領域の選択 5.8. 疑似画像によるシミュレーション 7.8. 検出精度の改良方法 奥本：「画像認識に関する実験」 松野：「財務指標を中心としたビジネスデータの分析手法に関する演習」						
【到達目標】	各テーマに対し調査をして演習の目的を理解すること。実験や演習を行うことにより、目的とする結果を得たり確認することにより、色々な経験をすること。					
	【徳山高専学習・教育目標】		B2,C1	【JABEE基準1(1)】	g,d-2c,e	
【評価法】	各担当教員がテーマに対する理解度、演習状況、レポートなどにより評価する。					
【テキスト】	各担当教員が必要な資料を提示する。					
【関連科目】	情報電子で学んだ全ての科目に渡る。					
【成績欄】	前期中間試験	前期末試験	前期成績	後期中間試験	後期末試験	学年末成績
	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }	{ }

環境建設工学専攻総合演習 (Practice of Environmental and Civil Engineering)							
専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当		
環境建設	必修	2年前	2	演習	重松和英 吉田健一		
【授業の概要】 土木系と建築系に分けて行う。土木系は、トラス橋の設計を行う。建築系は1級建築士製図試験レベルの公共建築物の設計製図を行う。設計条件の把握と設計への具体化の過程を演習をとおして学習する。							
【学習の進め方】 土木系：設計書の作成に CAD 等を用いる。 建築系：1級建築士製図試験レベルの公共建築物の設計製図を建築士試験の時間的制約条件をはずして質の高い設計を目指す。そのためエスキス検討会や完成図面の設計説明会を開く。							
【授業計画】							
土木系 第1回：オリエンテーション 第2回：設計条件と概略設計 第3回：床版の設計、縦げたの設計 第4回：横げたの設計 第5回：主橋の設計 U1 部材と U2 部材の設計 第6回：主橋の設計 L1 部材と L2 部材の設計 第7回：主橋の設計 端柱 D1 の設計 第8回：主橋の設計 端柱の部材断面 第9回：主橋の設計 端柱の風荷重に対する換算 第10回：主橋の設計 斜材部材の設計 第11回：製作そりの設計 第12回：主橋部材の接続 第13回：橋門の設計 第14回：支承の設計 第15回：橋構と対橋構の設計							
建築系 第1回：オリエンテーション 第2回：製図課題の把握 演習課題の説明と理解 第3回：建築関連法規の復習 設計に関連する建築関連法規を把握する 第4回：第1回エスキス検討会 エスキスの検討 第5回：第2回エスキス検討会 修正エスキス1の検討 第6回：第3回エスキス検討会 修正エスキス2の検討 第7回：第4回エスキス検討会 修正エスキス3の検討 第8回：第5回エスキス検討会 修正エスキス4の検討 エスキスの完成 第9回：設計演習 配置図の作成 第10回：設計演習 平面図の作成 第11回：設計演習 断面図の作成 第12回：設計演習 断面図の作成 第13回：設計演習 立面図の作成 第14回：設計説明会（前半） 第15回：設計説明会（後半） 完成図面の提出							
【到達目標】		土木系：CAD を用いた設計図書をそろえることを目標とする。 建築系：CAD を用いた建築確認申請の設計図書をそろえることを目標とする。					
【徳山高専学習・教育目標】		B2,C1	【JABEE 基準 1(1)】		g,d-2c,e		
【評価法】		土木系：提出された設計書をもとに総合評価する。 建築系：評価は、毎回のエスキス検討会における説明と受け答え、ならびに最終図面で行う。具体的にはエスキス検討会 50%、最終図面を 50% で評価する。					
【テキスト】		土木系：中井博ほか「橋梁工学」(森北出版) 建築系：建築申請 memo2008(新日本法規出版株式会社)					
【関連科目】		本 科：鋼橋造学 I、II、工学デザイン I、II、建築計画 I、II、建築設計演習 I~IV、CAD 基礎、CAD 応用、建築法規					
【成績欄】		前期中間試験	前期末試験	前期成績	後期中間試験	後期末試験	学年末成績
		[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]

出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/syllabus/syllabus.html>

観点 5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

(a) 長期インターンシップ

- ・「実践力」のある「開発型」技術者として大きく成長するためには、現実の課題に取り組む訓練を積むことがきわめて重要だとの認識から、1年次の前期に、必修科目として、約3ヶ月の長期インターンシップを行っている（資料5-6-②-1）。
- ・平成13年度に約4週間の日程で始めたが、平成15年度からこれを約3ヶ月（最低2ヶ月）に延長した。
- ・受け入れ先は多岐にわたっており、企業ばかりではなく、官公庁や大学、中学校、最近では海外へも出かけている（資料5-6-②-2, 3）。
- ・インターンシップ報告集を刊行し、報告会も学外で行っており、多数の方々の参加をいただき、好評を博している（資料5-6-②-4）。
- ・受け入れ先を始め、学生の満足度がきわめて高い。

(b) 総合演習

- ・「高度なものづくり」をなし得る能力を養うには、さまざまな知識と経験が必要であり、特に本校がめざしている複合技術分野ではその必要性が大きいとの認識から、2年次の前期に、必修科目として総合演習を開設している（資料2-1-①-2）。
- ・実施の内容は、各専攻でいろいろと工夫している（資料5-6-①-1）。
- ・機械制御工学専攻では、企画から設計・製作までの一連の流れを主体的に体験しながら、ワンチップコンピュータPICを用いたメカトロニクス製品をつくることを通じ、多岐にわたる専門知識や技術を駆使しつつ、それらを有機的に結びつける体験を通じてメカトロ技術を総合的に理解し、体得する。

（分析結果とその根拠理由）

- 長期インターンシップは平成13年度から約4週間の日程で始め、平成15年度からは必修科目として約3ヶ月に延長した。
- インターンシップは積極的に行われており、学生の満足度がきわめて高い。
- 総合演習を通じ、多岐にわたる知識や技術を有機的に結びつけ、それぞれ得意とする複合技術を総合的に理解し、体得している。

以上のことから、長期インターンシップの活用や知識の総合化をめざす工夫は十分行われている。

資料5-6-②-1 専攻科インターンシップ実施概要

専攻科インターンシップ実施概要

徳山工業高等専門学校

目 的

企業などでの長期にわたるさまざまな就業体験を通じ、現実の課題に取り組む訓練を積むことにより、高専本科までに身につけた知識を確かめるとともに、それまでに学んだことを生かしつつさらに発展させ、課題を把握し解

決する能力を身につけ、感性・創造性を養うことをめざす。また、社会が要求し期待する人物像を具体的に把握するなど、職業人としての技術者の心構えについても学ぶ。

#### 実施内容

対象学年：専攻科1年（機械制御工学専攻、情報電子工学専攻、環境建設工学専攻）

実施時期：5月12日(月)～8月8日(金)の3ヶ月の間に実施

実施期間：約3ヶ月を基本とする（最低2ヶ月は確保すること）

なお、7月中旬から約1ヶ月の海外研修を行う場合は、前半の2ヶ月と併せ3ヶ月のインターンシップとみなす  
科目の位置づけ：必修6単位

インターンシップ先：

- ・企業：徳山高専テクノ・アカデミアに加盟している企業をベースとし、地元企業を中心に
- ・官公庁・大学等：市役所、県庁、山口県産業技術センター、文科省関連、大学等
- ・中学校：情報技術の提供、技術教育の補助、授業の資料作成、課外活動の指導、等
- ・海外：語学研修も含む

担当：受け入れ先への打診や依頼、調整や学生指導は、主として各専攻の幹事が行う

なお、全体のとりまとめは学生担当幹事が行い、実施責任者は専攻科長とする

テーマ：受け入れ先から提示されたものをもとに、学生と受け入れ先でつめる

巡回指導：実習期間中は当該学生の所属する専攻の幹事ならびに特別研究担当教官が分担して、ひと月に1回程度巡回し、状況を把握するとともに、改善点があれば是正に努める

報告書：インターンシップ報告書と日誌を作成し、受け入れ先と学校に提出

受け入れ先からの評価：学生の実習状況につき、評価書（別紙参照）を学校に提出

評価法：本人の報告書と企業からの評価書をあわせて行う

報酬：原則として、無報酬

保険（参加学生は全員加入）

- ・学生自身の事故：「高等専門学校学生傷害保険」「日本体育・学校保険センター共済」
- ・実習企業の備品等の破損：「インターンシップ保険」

#### 日程

- ・1月上旬：実施要領の検討、学生へ内容説明、インターンシップ保険への加入手続き
- ・1月上旬：受け入れ先へ協力依頼の打診、協力依頼、（各種資料の作成）
- ・1月中旬～3月下旬：テーマの交渉、配属先調整、（受け入れ先と学生の事前打ち合わせ）
- ・4月上旬～中旬：配属先・テーマの最終決定、受け入れ先へ依頼状発送
- ・4月上旬～5月上旬：学生に対する各種ガイダンス、マナー講習会の実施
- ・5月中旬～8月上旬：インターンシップ実施、学生は終了後、指定日までに報告書提出
- ・8月下旬：受け入れ先からインターンシップ評価書受け取り
- ・9月下旬～10月上旬：報告集発行、全体報告会開催

出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/internship/>

### 資料5-6-②-2 オーストラリアのインターンシップレポート

#### インターンシップレポート

専攻科1年生では、6月上旬より8月下旬までの3ヶ月間、学生が企業において実習を経験するインターンシップが行われます。これは、実際の仕事を通して、課題を把握し解決する能力を身につけることを目的としている本校の特色あるカリキュラムの一つです。

学生が事前研修を受け、学校から企業に飛び出してはや一ヶ月、第1回は、オーストラリアWollongong大学で実習を行っている環境建設工学専攻1年[ ]君の報告です。

#### ----- インターンシップ近況報告

#### 実習先概要

実習場所：オーストラリアWollongong大学

実習期間：2005年6月1日～8月31日

#### 近況報告

下の写真はホームステイさせてもらっている家族の写真です。現在、この人たちと片言の英語で会話しながら楽しく生活しています。食事など未知の領域のものが多いため驚いてばかりです。



この日は、親戚一同が集まったのパーティでした。



実験直前の打ち合わせ中 (左・ルーク 右・英一郎)

本題の研究の方はというと、英一郎という日本人と中国人のルークとの共同研究です。内容は、コンクリートスラブに steel fiber と polypropylene fiber を混ぜ、挙動などを観察するというものです。Fiber を混ぜることで柔軟性が生まれ、引張力に強くなります。しかし、コンクリート自体の強度が若干低下します。これは、改善の必要ありです。

これらの特徴は実験によって実際に確認することができました。

実験は、前期末試験との兼ね合いもあり、2週間かけて行われました。その割には、良い結果に恵まれませんでしたが、実験中の挙動では理想的な違いが確認できましたが装置の故障が完全には直っていなかったみたいで意味不明な数値が記録されています。現在、データ整理に悪戦苦闘中です。



四隅をローラーで支持し、中心に集中荷重をかけます。 問題の測定用PCと測定中のIAN

BRIDGE教授

出典：本校ウェブサイト

<http://info.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/internship/hasimoto2005.html>

### 資料5-6-②-3 カナダのインターンシップレポート

#### インターンシップレポート

専攻科1年生では、5月中旬より8月中旬までの3ヶ月間、学生が企業において実習を経験するインターンシップが行われます。これは、実際の仕事を通して、課題を把握し解決する能力を身につけることを目的としている本校の特色あるカリキュラムの一つです。

第3回は、インターンシップを利用してカナダに語学留学している機械制御工学専攻1年の■■■■君の報告です。

#### インターンシップ実習概要

##### 実習概要

報告者：機械制御工学専攻1年 ■■■■

実習先、実習期間：

Pacific Language Institute (2004年5月16日～7月2日)

Novax Industry Corporation (2004年7月5日～8月16日)

##### 実習報告

専攻科の必修科目でもある3ヶ月のインターンシップを利用して語学留学をしようと決めたのは、去年の秋のおわりごろのことです。兼ねてから交流のあった専攻科の先輩や、英語科の国重教官のアドバイスをもとに、じっくりと計画を煮詰めていきました。バンクーバーは高層ビル群が林立する大都市にもかかわらず、海に面し、何本もの川が流れる美しい街です。いくつかの語学学校を調べてみた後に、企業研修プログラムを持つ学校PLI; Pacific Language Instituteに問い合わせ、勉強を6週間、企業研修を6週間の計12週間の日程で留学することに決めました。



アメリカのシアトルへ日帰り旅行したときのものです。  
ワシントン大学近郊のグリーン湖で撮影しました。

PLIは、非常に洗練された教育プログラムと実績をもつ学校で、リーディングや文法、ビジネス英語、TOEIC・TOEFL・IELTS対策コースなどさまざまなクラスを受講することができます。入学テストで得たランキングも考慮し（生徒の能力に応じて24段階のランキングが与えられます）、テレビ番組や映画を題材にリスニングや英単語を勉強するAOL; Advanced Oral Listening and Presentation と、英語コミュニケーションを中心に勉強するCS; Conversation Skillを受講しました。授業内容も面白く、楽しみながら語学力を伸ばすことができたように思います。また、PLIの授業は1クラス2時間の計4時間が基本なので、午後や夕方は別の語学学校に通ったり、友達と図書館に集まって勉強したりして過ごしました。他の国の生徒とも老若男女問わず仲良くなれたことも留学の大きな魅力です。休日は、海辺や公園でゆっくりと過ごしたり本を読んだり、小旅行に出かけたりと、私生活も充実しています。



PLIのクラスメートと撮ったものです。

リゾート地Tofinoへ



台湾人・韓国人・日本人の友達とバンクーバー島の

週末旅行に行ったときのものです。

7月上旬には6週間の勉強を終え、バンクーバー南東に位置するNovax Industry Corporationでの企業研修を始めました。Novaxは交通弱者用信号機や、交通規制が必要となる緊急時の信号機官制システムを設計・製造している会社です。新製品の点検とテストが主な仕事ですが、日本の関連企業のホームページの英訳や、製品のマニュアル作成なども行っています。工学系のみならず会計・在庫管理など幅広く仕事をさせてもらっているのが非常に良い勉強になりますが、うまく物事が伝えられず困ってしまうことも多く、まだまだ勉強と経験が必要だと痛感しています。



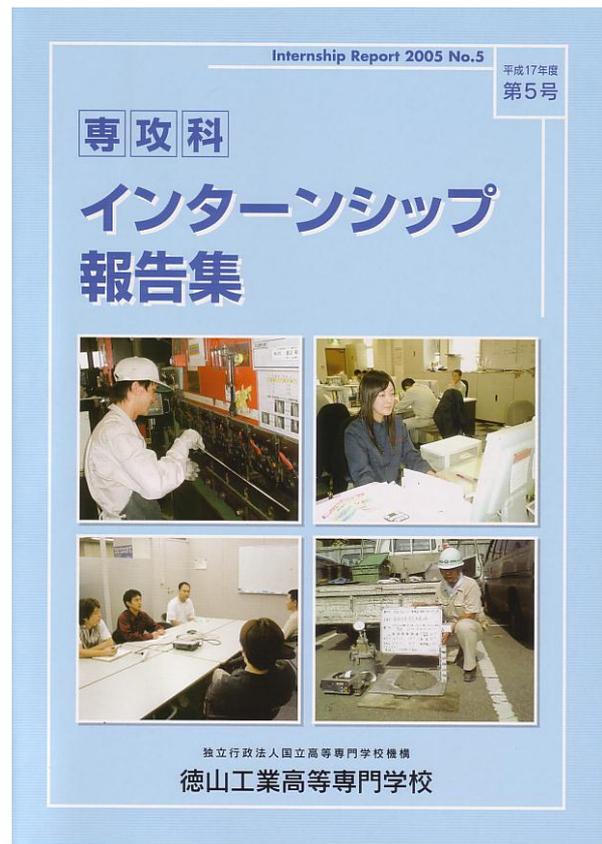
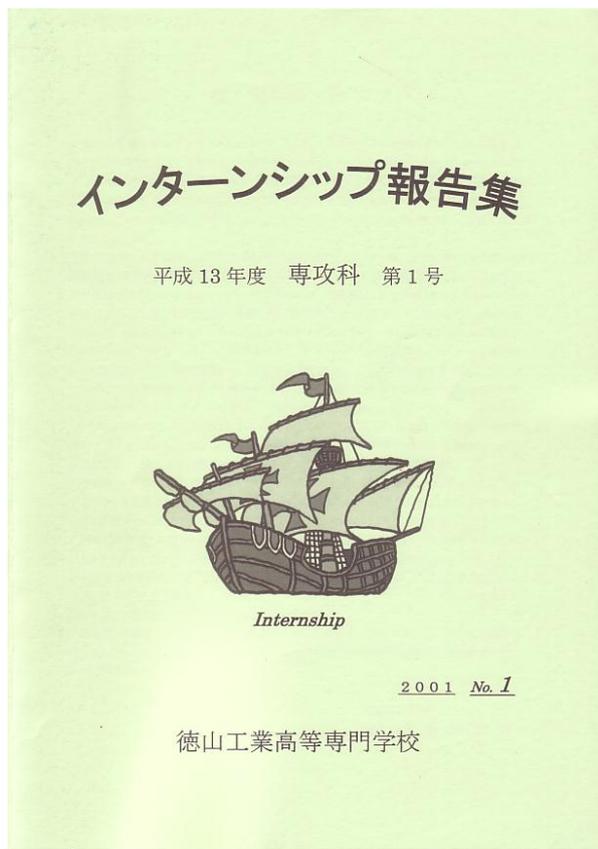
バンクーバーの美術館前でのストリート・ライブの写真です。  
週末は美術館前の広場でライブやパフォーマンスが常時行われていて、  
観光客で賑わっています。

帰国後はTOEIC（あるいはTOEFL）に挑戦しようと考えているので、遊びはもちろん勉強にも余念がありません。この留学を通じて多くのことを学べればと思います。

出典：本校ウェブサイト

<http://info.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/internship/akamatu2004.html>

資料5-6-②-4 専攻科インターンシップ報告集



出典：専攻科インターンシップ報告集

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

(a) シラバスの作成

- 専攻科課程のシラバスは平成10年度に初版が発行され、平成15年度から準学士課程と専攻科課程を一体とした学科/専攻ごとの3分冊の構成とした。
- 学習・教育目標や養成しようとする技術者像、各学科/専攻のカリキュラム系統図などの説明は準学士課程と同じなので、説明を省略する。
- 各科目のシラバスは、基本的には準学士課程のものと同じであるが、1単位の履修時間が45時間である学修単位であるため、準学士課程では「授業の進め方」としたところを「学修の進め方」と区別し、45時間の学修をどのように行うか、方針を記入するよう心がけている(資料5-6-③-1)。

(b) シラバスの活用

- 始業式に行われるオリエンテーションにおいて、当日配布するシラバスを用いてその使い方について解説を行い、利用を促している(資料1-2-①-8, 資料5-2-②-1)。
- 授業科目の第1回目には、担当教員がシラバスを用いてコースガイダンスを行う。

- 答案返却の際、シラバスを持参させ、問題解答のあと試験結果の書き込みを促し、現在の進捗状況について確認を行う。
- シラバスの活用状況については、平成17年度のアンケート結果が本校ウェブサイトに掲載されている。専攻科生は、準学士課程の学生に比べると利用度は増えている（資料5-6-③-2）。
- 教員は、作成したシラバスを学習・教育レビュー室でチェックを受け、また、学生への説明も随時行うことになっていることから、アンケートはとっていないものの、活用されていると認識している。

(分析結果とその根拠理由)

- 専攻科のシラバスには、「学修の進め方」の記入欄を設け、1単位45時間の学修単位に対応するよう努めている。
- 全学生に、毎年シラバスを配布し、シラバスの活用を促す種々の工夫や随時説明を行うなど啓蒙に努めており、シラバスの活用度は、準学士課程の学生と比べると利用度は増えている。

以上のことから、本校のシラバスは教育の理念に従って作成されており、教員に活用されるとともに、学生の活用もなされている。

資料5-6-③-1 シラバス例 (熱流体工学)

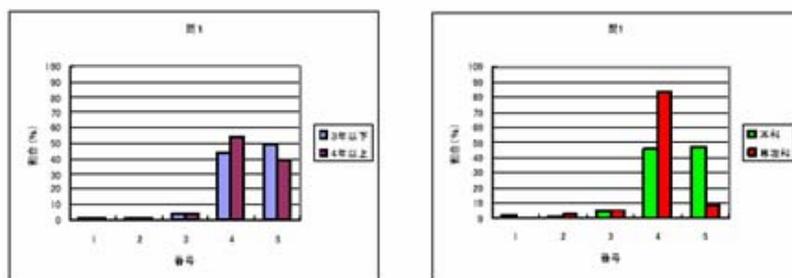
熱流体工学 (Dynamics of heat and fluid flow)					
専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当
機械制御	選択	2年前	2	講義	池田光優
<b>【授業の概要】</b> 本科5年次(他高専などから入学してきた場合でも学習しているものと見なす)に学習した伝熱工学は別名「熱流体工学」とも呼ばれており、流体力学と熱力学を両方足し合わせた学問となっている。そこで本講義では、これまでに学んだ流体力学を熱力学の知識を用いて、伝熱工学の中で、熱流体工学の範囲として最も考えやすい対流熱伝達について、数値解析が行えるようにすることを目的とする。					
<b>【学修の進め方】</b> 15回の講義回数を3期間に分け、それぞれの期間に、伝熱工学の復習、数値解析の復習(1-5回)、強制対流熱伝達の数値解析(6-10回)、自然対流熱伝達の数値解析(11-15回)を学習する。各講義は80-90分の講義を行い、その後演習を行う。演習は90-100分程度で行えるものを出题する。					
<b>【授業計画】</b>		<b>【授業項目】</b>		<b>【内容】</b>	
1回	数値計算法の復習(その1)	常微分方程式の数値積分について理解する。(学習シート1)			
2回	数値計算法の復習(その2)	空間差分法について理解する。(学習シート2)			
3回	伝熱工学の復習(その1)	熱伝導について理解する。(学習シート3)			
4回	伝熱工学の復習(その2)	対流熱伝達について理解する。(学習シート4)			
5回	伝熱工学の復習(その3)	輻射熱伝達について理解する。(学習シート5)			
6回	強制対流熱伝達の数値解析(その1)	強制対流熱伝達における流体の運動と熱移動について理解する。(学習シート6)			
7回	強制対流熱伝達の数値解析(その2)	強制対流熱伝達の支配方程式について流体力学的な立場と熱力学的な立場から理解する。(学習シート7)			
8回	強制対流熱伝達の数値解析(その3)	強制対流熱伝達に数値解析の課題設定と、解析プログラムの作成(学習シート8)			
9回	強制対流熱伝達の数値解析(その4)	解析プログラムの完成(学習シート9)			
10回	強制対流熱伝達の数値解析(その5)	作成したプログラムの発表(学習シート10)			
11回	自然対流熱伝達の数値解析(その1)	自然対流熱伝達における流体の運動と熱移動について理解する。(学習シート11)			
12回	自然対流熱伝達の数値解析(その2)	強制対流熱伝達の支配方程式について流体力学的な立場と熱力学的な立場から理解する。(学習シート12)			
13回	自然対流熱伝達の数値解析(その3)	強制対流熱伝達に数値解析の課題設定と、解析プログラムの作成(学習シート13)			
14回	自然対流熱伝達の数値解析(その4)	解析プログラムの完成(学習シート14)			
15回	自然対流熱伝達の数値解析(その5)	作成したプログラムの発表、その後全体の総括(学習シート15)			
<b>【到達目標】</b> 対流熱伝達を熱力学と流体力学を融合した現象として理解でき、数値解析が出来るようになる。またエネルギー分野における数値解析の手法の基本が理解できる。					
<b>【徳山高専学習・教育目標】</b>		C1	<b>【JABEE基準1(1)】</b>		d-2a
<b>【評価法】</b> 1-5回の講義の演習レポート評価(20%) 強制対流熱伝達の数値解析プログラムの成果物+プレゼンテーション評価(40%) 自然対流熱伝達の数値解析プログラムの成果物+プレゼンテーション評価(40%) で行う。 詳しい評価法は講義内で説明する。					
<b>【テキスト】</b> 教科書：中山 顕、桑原不二郎、許 国良、「熱流体力学」、共立出版 参考書：熱力学関連本、流体力学関連本、伝熱工学関連本、					
<b>【関連科目】</b> ME1 機械の基礎、ME3 水力学、ME3 工業英語、ME4 水力学、ME4 熱力学、ME5 熱力学、ME5 伝熱工学、MC1 流体制御工学					
<b>【成績欄】</b> 前期中間試験 前期末試験 前期成績 後期中間試験 後期末試験 学年末成績 【     】   【     】   【     】   【     】   【     】   【     】					

出典：本校シラバス

資料5-6-③-2 シラバスアンケート

問1:あなたがシラバスを見る頻度を教えてください。

1:毎時間前, 2:1日1回, 3:週1回, 4:定期試験前(年4回), 5:全く見ない,



出典:本校ウェブサイト

観点5-7-①: 専攻科で修学するにふさわしい研究指導(例えば, 技術職員などの教育的機能の活用, 複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。)が行われているか。

(観点到に係る状況)

- (a) 日誌等により指導教員とのコンタクトタイムを確認している(資料5-7-①-1)。
- (b) 専攻科設置以来, 専攻科の修了要件として学協会での発表を義務づけている(資料5-5-③-1)(資料5-7-①-2)。
- (c) 専攻科1年次修了時点で中間発表を行い, 研究の進捗状況を途中の段階でもチェックしている。
- (d) 研究成果は, 「特別研究論文集」としてまとめている(資料5-7-①-3)。
- (e) 専攻科設置以来, 特別研究の指導はその資格を満たした教員が対応し, テーマも適切である。

(分析結果とその根拠理由)

- コンタクトタイムの確認等によるきめの細かなチェックと, 学協会での発表を義務づけていることにより, 一定レベル以上の研究指導がなされ, 成果も得られている。
- 以上のことから, 専攻科にふさわしい研究指導が行われている。

資料5-7-①-1 コンタクトタイムノートの解説

コンタクトタイムノートの解説

■ コンタクトタイムとは

特別研究や卒業研究は, 時間割に組まれている時間帯に所定の研究室で行うことが原則です。しかしながら, 研究には, 継続的な測定を伴う実験や, 文献の調査, 大量のデータ整理等が必要な場合もあり, 研究室内や時間割の時間帯だけで行うことができないものがあります。

コンタクトタイムは, 教員と密接に関わり合いながら研究に従事した時間です。したがって, 時間割にある時間はもとより, それ以外の時間でも教員の指導や指示を受け, 報告を行った場合もそれに該当します。その際, 必ずしも教員がそばにいることに限定はされません。

なお, コンタクトタイムは, 学生の特別研究, 卒業研究の実質の実施時間を保証するものです。したがって, この時間数が, 所定の時間(研究従事時間&コンタクトタイム集計表参照)を超えていない場合には, 単位の修得が認定されません。

■ 研究従事時間とは

特別研究や卒業研究のために費やした時間すべてです。したがって, 時間割にある時間も含めて, それ以外の時



資料5-7-①-3 特別研究論文集目次

目 次	
	頁
<b>機械制御工学専攻</b>	
オンライン障害物認識，経路計画を考慮した自律型天井クレーンシステムの開発……………	3
荷重除去機構を備えた頸椎強度試験機の開発……………	13
比例法による界面き裂の応力拡大係数解析……………	21
ナノ構造界面の流動特性と伝熱特性に関する研究……………	27
混和性二成分燃料噴霧の火災挙動……………	33
人工膝関節用 UHMWPE の接触荷重と接触変位……………	41
<b>情報電子工学専攻</b>	
OS を実装可能な教育用コンピュータの設計・開発……………	51
データベースを利用した動画画像分析支援システムの検討……………	57
ネットワーク・プロトコルに関する演習環境の構築の試み……………	63
リネットニューラルネットワークを用いた細胞内反応システムにおけるロバストネス破綻部位予測……………	69
<b>環境建設工学専攻</b>	
地方都市における地区単位での住替え行動分析……………	77

大規模小売店舗立地法における届出状況と意見の対策に関する考察 —山口県を事例として—	85
街路空間における緑容率適用に関する基礎的研究	91
団粒化剤と固化材を併用したまさ土の地盤改良に関する研究	99
養場造成を目的としたポーラスコンクリートブロックの開発とその応用について	107
軸方向引張力を受ける高強度鉄筋コンクリート棒部材の破壊特性に関する研究	117
物体周りの流れによる洗掘現象とその制御に関する研究	127
中山間地区における新たな交通システムの構築	135
Structural Behavior of R/C Cylindrical Shell under Cyclic Loading	143
軸力とねじりを受ける鉄筋コンクリート棒部材の耐荷メカニズムに関する研究	149
道路橋の動ひずみ計測による走行車両重量調査	157
団粒化剤を用いた粘土の力学的性質	163
地方都市における駅周辺整備による中心市街地活性化効果の検討	173
<b>付録</b>	
専攻科生の研究テーマ一覧	181
専攻科生研究実績	185

出典：特別研究論文集

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

- (a) 専攻科の成績評価基準は学生便覧（資料5-5-③-1）に掲載されている。
- (b) 専攻科の修了要件は学生便覧に掲載されている（資料4-3-①-3）。修了は専攻科担当教員全員による「修了認定会議」で、校長により認定される。
- (c) 科目ごとの成績評価法はシラバスに掲載されている。
- (d) 成績により単位が認定される。成績は科目の担当教員により決定されるが、その根拠は成績評価資料として提出・保管される仕組みになっている。これは、準学士課程とまったく同じである。

## 資料 5 - 8 - ① - 1 専攻科に関する学則 (抜粋)

## 第 6 章 専攻科

(設 置)

第29条 本校に専攻科を置く。

(目 的)

第30条 専攻科は、工業高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた技術者に対し、さらに専門的な分野について精深な教授を行い、自ら新分野を開拓できる能力を有する実践力のある開発型技術者を養成することを目的とする。

(修業年限及び在学期間)

第31条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

(専攻及び入学定員)

第32条 専攻科の専攻及び入学定員は次のとおりとする。

専 攻	入学定員
機械制御工学専攻	4名
情報電子工学専攻	4名
環境建設工学専攻	4名

(教育課程)

第33条 専攻科の授業科目及びその単位数は、別表第3のとおりとする。

(入学資格)

第34条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができる者
- (4) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの

(入学者の選抜及び入学の許可)

第35条 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜の上、入学を許可する。

(休学の期間)

第36条 専攻科学生の休学期間は、通算して2年を超えることができない。

2 休学の期間は、第31条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

(修 了)

第37条 専攻科に2年以上在学し、別表第4に定める単位を修得した者には、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

3 第1項に規定する単位の修得については、別に定める。

(準用規定)

第38条 専攻科学生については、第3条から第6条、第12条、第14条の3から第15条、第22条、第24条から第27条の2、第40条から第52条の規程を準用する。この場合において、第14条の3第2項中「30単位」とあるのは「16単位」と第52条第3号中「第23条」とあるのは「第36条」と読み替えるものとする。

(その他)

第39条 本章に定めるもののほか、専攻科に関する必要事項は、別に定める。

出典：学生便覧

(分析結果とその根拠理由)

成績評価や修了認定規定は専攻科の授業科目の履修等に関する規定に明確に定められており、学生便覧やウェブサイトにも明記され、学生にも周知されている。各科目の最終成績はシラバスに記載された評価法で行われ、評価に用いた資料は、学習・教育レビュー室のレビューを受けた後、成績評価資料として学習資料室に保管されている。これらの成績をもとに、規定に従い、修了認定が当該認定会議において審議の上、決定される。

以上のことから、成績評価や修了認定規定が定められ、学生に周知されるとともに、規定に従い適切に実施されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 教育課程の体系性・一貫性を確保する努力が「科目間調整会議」等で行われ、教育課程の編成趣旨に沿ってシラバスが作成されている。

(改善を要する点)

- ・ 該当なし

## (3) 基準5の自己評価の概要

### <準学士課程>

教育課程は、それぞれ得意とする複合技術の修得と、6つの学習・教育目標を満足するよう設計されており、具体的到達目標が達成できるように工夫されている。教養科目とそれぞれの複合技術ごとに専攻科課程も含めた系統図が作成されており、全体の流れのなかで各科目の果たす役割を分かりやすく示している。専門科目では、どの学科も実験・演習形式で行っている科目の割合が約4割を占め、実践力を養う上で望ましい形になっている。学習指導上では、基本的素養の涵養やコミュニケーション能力の向上、実体験を通して表現力を養う科目などで工夫がみられる。シラバスは常日頃から検討がなされ、種々の工夫が盛り込まれており、毎年全学生に配布し、授業のなかで活用している。

成績評価や進級・卒業認定規定は明確に定められており、学生便覧に明記するとともに、学生に周知している。各科目の最終成績は、シラバスに記載された評価法により評価され、評価に用いた資料は第三者にもその状況がわかるように整理し、学習・教育レビュー室の点検を経た後、資料室に3ヶ年分を保管している。進級や卒業認定は定められた規則に基づき、当該認定会議において審議し、決定している。

学生指導の中心は学級担任であるが、クラブ顧問に加え、ホームルームの運営には進路支援室や学生相談室が大きく関与しており、各学年にふさわしい諸活動を年度当初に盛り込むなど、人間性の涵養に対し、全学的に取り組んでいる。

### <専攻科課程>

専攻科課程は準学士課程と1:1に対応しており、それぞれ得意とする複合技術は両者で共通であることから、カリキュラムも7年を見通して設計されている。学習・教育目標に対応する具体的到達目標をクリアするため、教養科目を充実するとともに、基礎学力、特に英語力を充実している。また、準学士課程で修得した基礎的科目を踏まえ、複合技術を構成する分野ごとに発展的な内容とした科目、あるいは個々の科目を総合化した科目を開設しており、実践力と結びついた知識の総合化をめざしている。さらに、高度な実践力をもつ開発型能力を養うため、約3ヶ月にわたる長期インターンシップを1年前期に必修科目として開設するとともに、特別研究を重視・充実している。

また、学生の多様なニーズに応えるため、他大学等と協力協定を結び、単位互換あるいはインターンシップや各種研修へ学生を積極的に派遣することで教育の幅を広げている。

成績評価や修了認定規定は明確に定められており、学生にも周知されている。成績の評価法や修了認定の方法は準学士課程とほぼ同じであり、厳密に行われている。

## 資料 5-6-①-2 学習シートを用いた教育改善の試み

## 学習シートを用いた教育改善の試み

三木 幸<sup>\*1</sup> 大西 厳<sup>\*2</sup> 一色 誠子<sup>\*3</sup>  
 佐賀 孝徳<sup>\*4</sup> 山岸 正<sup>\*5</sup>  
 (徳山工業高等専門学校)

## A Teaching Method Using the Interactive Check Sheet in Classes

Miyuki Miki Gen Onishi Seiko Isshiki  
 Takanori Saga Tadashi Yamagishi  
 (Tokuyama College of Technology)

This paper assesses a teaching method using the interactive check sheet. It is a handout which shows the objectives of a class. It usually has some quizzes regarding the content of the class. Students are asked to answer the quizzes during or after the class. Also, it has some space in which the students can give feedback on the class. When the students have any questions, they can write the questions there. With this kind of handout, teachers can check how well the students have understood the class. And at the same time, the students can check how well the teachers have taught the class. By checking the class interactively like this, teachers and the students can make the classes much better. That is why the sheet is called "Interactive Check Sheet."

A questionnaire was used to obtain both the teachers' and the students' opinions on the interactive check sheet. The results show that the sheet helps the students to understand classes better and that it helps the teachers to reflect on and improve their way of teaching.

KEYWORDS: interactive check sheet, teaching tool, feedback, communication, lecture, JABEE

## 1. まえがき

大学・高専においては教育改善および教育の質を高めることが重要視されるようになり<sup>1) 2)</sup>, 外部評価である JABEE の認定に関心が高まってきている。筆者らの徳山高専でも, 平成 14 年 4 月に技術者教育認定対策会議 (JABEE 対策会議) が設けられ, 教育目標やカリキュラム, 教育方法などについて再考・検討がなされている。この会議では, 検討すべき課題を細分化し, それぞれについて数名の教職員で構成される小委員会ですべて集中的に議論し, その内容を全体会議, さらに教官会議にかけるという方法で進められている。その中で,

筆者らの属する第 3 小委員会では, 「学生による学習到達度の自己点検システム」および「学生からの要望反映システム」に関する検討を行った。検討期間は, 平成 14 年 5 月末から 7 月中旬までの約 2 ヶ月であった。学生の要望を反映するシステムには, 京都工芸繊維大学の ACE プログラム<sup>4)</sup> や名古屋大学高等教育センターの「成長するティップス先生」<sup>5)</sup> などがあり, 学生への学習サポートを行っている。しかし, これらは教官側が学生の理解度をリアルタイムで把握できないため, その結果を翌週の授業に反映させることが難しい。また, 授業中に理解できなかったことを再度ウェブサイト上に記入しなければならず, 学生の負担も大きい。

筆者らは、学生と教官がリアルタイムで学習到達度を確認し、さらに学生の要望を翌週の授業以降に反映させるための教育ツール「学習シート」を提案した。学習シートを高等教育に取り入れた例は、東京学芸大学の報告<sup>3)</sup>などがあり、この報告では、試験前の復習のために学習シートを活用している。しかし授業ごとあるいは単元ごとに学生とコミュニケーションを取るために活用している事例はあまり見受けられない。本論文では、平成14年度後期に複数の教官が実施した学習シートを用いた教育改善の取り組みとその評価について述べる。この取り組みは、平成14年度 JABEE 試行審査において、独自の教育改善方法として高い評価を得た。

## 2. 教育改善

### 2. 1 背景

JABEE の「教育方法」の点検項目・点検基準に以下の2つがある。

- ・ 授業等での学生の理解を助け、勉学意欲を増進し、学生の要望にも対応するシステムがあり、その仕組みが開示され、実施されているか。
- ・ 学生自身にも、プログラムの学習・教育目標に対する自分自身の達成度を継続的に点検させ、その学習に反映させているか。

これらの項目を受けて、筆者らは次の2つの課題について検討した。

- (1) 学生による学習達成度の自己点検が行なえるシステム
- (2) 学生からの要望反映システム

これらのシステムに対応するものとして、これまで、徳山高専ではシラバスと定期試験を実施してきた。シラバスは、全科目で授業目的、概要、1回ごとの授業内容、評価方法を記載し、冊子にして全学生に配布している。シラバスは最初の授業において、学生達に年間計画などを説明するときに用いるもので、年間契約書(科目の契約)としての役割を果たしている。また、定期試験は、学生の到達度を評価する手段であるが、学生が自己点検を行なう機能は弱い。さらに学生が授業中に理解できなかった内容をそのまま放置していたために、定期試験の内容が全く理解できないというケースも多い。

筆者らは、課題(1)の自己点検には、「大きな自己点検」と「小さな自己点検」の2種類があると考え、年4回実施する定期試験を「大きな自己点検」と呼ぶこ

とにする。大きな自己点検は、現段階のところでもある程度行なうことができていると考えられる。しかし、毎回の授業ごとに実施する「小さな自己点検」については、ほとんど行なっていないのが実状である。そこで小さな自己点検が授業担当教官と学生の双方向からできるシステムとして、「学習シート」の導入を提案した。ここでは「学習シート」を、毎回の授業で教官と学生の間で交わす契約書と位置づける。小さな自己点検が日頃から行なえば、大きな自己点検でつまづくことはないといえる。

課題(2)については、これまで年1回、年度末に全科目について、学生を対象に授業アンケートを実施している。しかしながら、これは、次年度の授業の参考にはなるが、アンケートに答えてくれた学生に直接反映できないという欠点がある。学習シートはこの欠点を解決するものであり、学生の要望を次回の授業にすぐに反映させることができる。

### 2. 2 教育改善の目的

筆者らは、授業に関して以下の点を改善すべきだと考え、学習シートの導入を提案した。

- ・ 教官の頭の中にある学習目標や内容を学生と相互理解し、共有化する。
- ・ 常に学生のニーズを反映した授業を展開する。
- ・ 学生に日常的に理解度を確認させる。また、その理解度を教官も確認する。

担当教官が学生とコミュニケーションをとりながら学習理解度を点検していくことにより、リアルタイムでの学習アドバイスなどができれば、今までの教育をさらに充実させることができる。

### 2. 3 「学習シート」の定義

学習シートのフォーマットは特に決めず、機能のみを以下のように定義する。これらの機能をもつものは、その形式や頻度によらず、すべて「学習シート」と定義する。

- 機能1：学習目標を学生に認識させる
- 機能2：学生および教官が理解度をチェックできる
- 機能3：要望を吸収・反映できる
- 機能4：学習履歴として残すことができる

学習シートの形式は科目の特徴や内容によって大きく変わると考えられるため、特に形式にとらわれる必要はない。「学習シート」を作成するときの指標として、

上記4つの機能は最低限必要な項目である。その具体的な内容は、その日の授業で学習することおよび獲得目標の記述、理解度をはかるチェック項目、質問、要望欄の設置などが挙げられる。

これらのことから、学習シートは「小さな自己点検」、小テスト、レポート、プリアンケートの役割をはたし、学生と教官の双方向の対話を実現可能にするといえる。さらに科目における学生の学習歴（記録）の役割を果たすため、必ずファイルなどに保存するように指導する必要がある。

付録に学習シートの一例を示す。これらはE-mailを使って理解度をチェックしている例、演習問題を与えレポートとして提出する例である。使う時期は、毎授業ごと、単元ごと、演習ごとなど各授業の特徴に合わせて様々である。この学習シートにおいて、各教官は授業におけるノウハウや感性・創造性を大いに発揮させる必要がある。

### 3. 評価

学習シートに関する提案を、7月26日に開かれた技術者認定対策会議で報告し、後期から試行的に導入する旨が決定された。さらに、8月28日の教官会議席上で、試行にあたっての説明を行い、導入に至った。

#### 3. 1 アンケート結果

学習シートによる授業を評価するために、後期末に学生と教官にアンケートを実施した。26科目921名の学生アンケートの結果を図1に、21名の教官アンケートの結果を図2に示す。7割の学生が「学習シートは役立った」と回答しており、学習シート中において「授業内容のまとめ欄」と「理解度確認問題の欄」が役立ったと答えている。図1(c)より学生は授業の復習と授業内容を確認するツールとして学習シートを活用している。また、「学習シートが役立たない」と答えた3割の学生のうち約50%が、該当授業はおもしろく、先生は教え方を工夫していると回答していることから、学習シート以外の授業の工夫が既になされていること

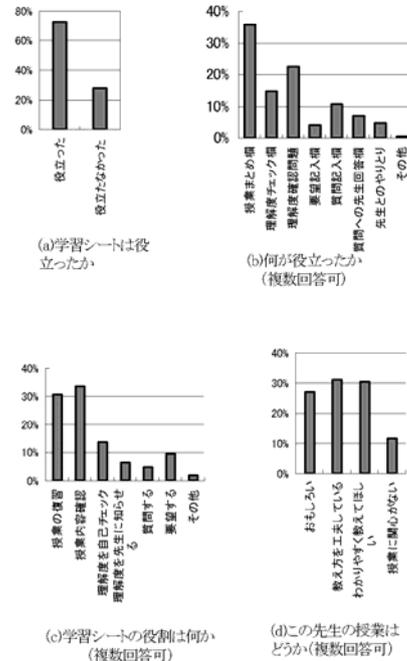


図1 学生アンケートの結果

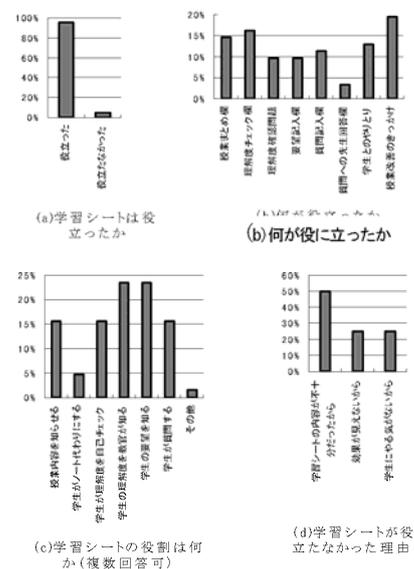


図2 教官アンケートの結果

が推察される。教官においては、95%が学習シートが「役立った」と答えており、「学生とのやりとりが増えた」という回答と「授業改善のきっかけになった」という回答が合計で約3割あった。学習シートの役割については、学生の理解度や要望を知るツールとする回答が多く、学習シートの有効性が確認できた。徳山高専では、平成15年度より全科目で学習シートを実施するが、今回の試行でも4割の教官が学習シートを作成することが「負担である」と答えている。しかし、その中で「楽ではないが2～3年後によい結果がでることを励みに楽しんで作りたい」、「自分の授業スタイルを決めて、その中で学習シートを活用したい」などの前向きな意見があった。全科目で実施すると学生の負担が増えるという意見もあり、今後継続的に調査する必要がある。

教育には唯一最善という方法はないといわれており、学習シートにもあてはまる。重要なことは、授業に対する教官の姿勢であり、今後、学習シートはより進化していくと期待される。

### 3. 2 試行教官による検討会議

導入して4ヶ月後の1月24日に、23名の試行教官による検討会議を開いた。以下に学習シート導入による教育（授業）改善の効果として挙げられた意見を記す。

- ・ 授業計画・準備が明確に行なえる。
  - ・ 質問（わからない箇所）に対しフォローがすぐにできる。
- ・ 次週の授業計画が立てやすい。（授業内容の確認・反省）
- ・ テストの平均点が上がった。
- ・ 質問に対するコメントで学生のやる気が高まっている。
- ・ 学生の1人1人の顔（状態）が把握できるようになった。
- ・ 質問にくる学生が増えた。（学習シートの携帯）
- ・ 学生の理解の助けになっている。
- ・ 課題（レポート）の学習シート化で、採点しやすくなった。

これらの意見から、学習シートによって学生と教官による理解度チェックができていないこと、また学習シートが学生の理解を助け、学習意欲を増進させ、さらに学生からの要望を反映するシステムとして機能していることが確認できる。また、検討事項およびそれらに対する改善策として出た意見は以下の通りである。

【学習シートを紛失したり、記入しない学生がいる。】  
あらかじめ学習シートに穴を明け、ファイルしやすい環境を提供する。

【毎回の応答が困難である。】

大切なのは、「長い期間をとおして継続的に」行なうことであり、2～3週あるいは単元ごとでもよい。

【学生が学習シートのみで頼る】  
学習シートや授業内容に工夫をする。学習シートは授業の理解をサポートするものであり、学生を甘やかすものではない。

【学生がノートを取らなくなる。】

学習シートをノート代わりにするのもひとつの方法である。学習シートにはキーワードを記載し、ノートにその説明をとらせたり、演習問題を板書し、学習シートにその問題と解答を書かせたりする。

【学生の理解度アンケートが「どちらでもない」にかたよる。】

4段階評価や「○」、「×」評価などを採用する方法がある。

【単元によっては時間が不足し、アンケートが実施できない。】

アンケートにこだわる必要はなく、授業ごとに学習シートの形態を変える方法もある。

【3クラス同時開講科目（特に一般科）では授業進度が異なりその度に学習シートを作り直すのは、負担である。】

はじめに2～3週分、あるいはその単元で用いる学習シートを配る方法もある。この方法は、学生が予習をしやすくなるという利点もある

これらの意見から、学習シートは試行の段階であり、まだまだ改善の余地があることがわかるが、それらは教官の工夫次第で対応できると思われる。

### 4. むすび

学習シートを各授業に導入し、学生と教官へのアンケートおよび教官による検討会議の結果から、学生と教官による理解度チェックができていないこと、また学習シートが学生の理解を助け、学習意欲を増進させ、さらに学生からの要望を反映するシステムとしての役割を果たしていることを確認した。

学習シートは、授業ごとに、学生・教官双方が小さな自己点検を行なうツールである。学生が授業の中で、感性・創造性を発揮することが求められるならば、教官も、各授業や学習シートにおいて感性・創造性を発揮しなければならない。教官は学生の自由な発想を大切に、学習シートの形式や使い方も工夫し、その日の授業の目的にあったフォーマットを創り出すことが

重要である。

学習シート導入による教育改善の動きは、各教官個人の努力と工夫にとどまるわけではない。教育改善の方策、教授法の工夫などを日常的に検討・提案をしていくことができる「学習・教育に関するFD」へと広がる可能性を持っている。徳山高専では「学習・教育レビュー室」も設置され、その動きが進行しつつある。

今後の課題として、具体的な学習シートの種類と学習効果の関係を明らかにすることや、組織的な実践の評価があげられる。

### 謝 辞

学習シートの試行にあたり、検討会議やアンケート調査にご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。

### 参考文献

- (1) 坪井泰士, 錦織浩文: 多角的視点を生かす授業改善システム—国語科の実践をふまえて—, 高専教育, 第26号, pp.471-476 (2003)
- (2) 丸山伸夫, 中島正弘, 宮田千加良, 岡林巧: 学生の学力向上の可能性と授業の改善について, 高専教育, 第26号, pp.513-518 (2003)
- (3) 東京学芸大学,  
<http://www.niad.ac.jp/hyouka/theme/kyouyou/houkoku/RH12T10024.pdf>
- (4) 京都工芸繊維大学「ACEプログラム」ホームページ  
<http://www.poly.kit.ac.jp/aceprj/acemain.htm>
- (5) 名古屋大学高等教育センター「成長するティップス先生」ホームページ  
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp>

## 付録 学習シートの例

Subject: 学習シート(17)

情報処理 土木建築工学科3年 第17回

<<<本日の学習目標>>>

エレベータ階段等を作図し一般平面図を完成する

1. エレベータ設置
2. 階段ドア
3. 階段手すり壁
4. 階段踏面
5. 廊下
6. ベランダ
7. 仕切り板
8. 共用室名

<<<理解度チェック>>>: Yes/Noの該当しないものを消してください

1. 「複線」処理は行えるか(Yes/)
  2. 「中心線」はひけるか(Yes/)
  3. レイヤー処理はできるか(Yes/)
  4. 設備(エレベータ)は描けるか(Yes/)
  5. 「コーナー処理」はできるか(Yes/)
  6. 「分割」の処理はできるか(Yes/)
  7. 「文字」の書き込みはできるか(Yes/)
- 以上

○質問があれば自由に書いてください

○授業の要望があれば自由に書いてください  
伸縮がわかりにくい

○JW\_CAD演習

・ Pp151までをheimennという名前で保存する

・ 締め切り10月30日(水)17:00とします

※このメールにファイルを添付して送ってください

=====

Dr. Professor Takashi Hara (t-hara@tokuyama.ac.jp)

3538 Kume-Takajo Tokuyama 745-8585, JAPAN

Tokuyama College of Technology

Phone/Fax.+81-834-29-6325

=====

付図1 理解度をチェックする学習シートの例

プログラミング基礎 第1週(後期)

2002.10.15 2限目

ME2年 番

今日の学習目標

1. 前期末テストの内容を理解する.
  - a. 無限ループとその抜け方
  - b. if-else 文と switch-case 文を理解する
  - c. 配列を使った並び替え(ソート)および最大(最小値)の検索
  - d. 2次元配列を用いた行列の足し算を理解する.

理解度チェック

次のチェックリストにおいて、よくわかった項目にはaを、だいたい理解できた項目にはbを、理解できなかった項目にはcを記入しなさい。

1. 無限ループとその脱出方法は理解できているか? ( a )
2. if-else 文と switch-case 文を理解できたか? ( a )
3. 配列を使った並び替え(ソート)や最大(最小値)の検索ができるか? ( a )
4. 2次元配列が理解できているか? ( a )
5. 次の7つの数字を1次元配列に格納し、80点以上の数字だけを大きい順に並び換えるプログラムをつくりなさい。(E-mailで来週の授業までに提出) テスト問題. 問4参照  

```
int ten[7] = {85, 68, 75, 90, 100, 78, 88};
```

出力結果

```
ten[0] = 100
ten[1] = 90
ten[2] = 88
ten[3] = 85
```

6.

次のプログラムの空欄を埋め、右の図に示すような出力結果が得られるようにしなさい。ただし配列変数はchar型、出力形式%eを使うものとする。

```
#include<stdio.h>
int main(void)
{
    int i, j;

    char moji[4][7] = {{'O','O','N','I','S','H','I'},
                      {'O','D','A'},
                      {'I','K','E','D','A'},
                      {'H','A','R','I','M','A'}};

    for(i=0;i<4;i++){
        printf("%7s", "");
        for(j=0;j<7;j++){
            printf("%c", moji[i][j]);
        }
        printf("\n");
    }

    printf("\n");

    getchar();
    getchar();
    return(0);
}
```

```
OONISHI
ODA
IKEDA
HARIMA

OOIH
ODKA
NAER
ISDI
SAM
I
```

質問などがあれば自由に記入しなさい。  
 基本的な質問なんじが...  
 o hako[3] = {50,60,70}; というか  
 あるとしたらこれは hako[] = {50,60,70}  
 というのにはできるんじゃないか? できます。  
 授業について要望があれば書きなさい。卒業の事  
 今の授業じよいと思いまっ!! が自動的に  
 方法? 決まらず。  
 了解。

授業担当教官 大西 巖

E-mail : oonisi@tokuyama.ac.jp

Tel : 0834-29-6275

付図2 演習問題を付加し、レポートを提出する学習シートの例

出典：高専教育

## 基準6 基準6 教育の成果

## (1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到係る状況）

## 準学士課程

- ・平成18年5月に、6項目の学習・教育目標に対し、具体的到達目標を定めた（資料1-1-①-3）。
- ・具体的到達目標の大部分は従来から行ってきたことを明文化したもので、主として単位の修得をもって目的の達成度を評価している。
- ・目標（A2）に関しては各学年に所属する学生の60%以上が達成することをめざした到達目標を定め、より具体性をもたせるとともに、全員が外部試験を受ける機会を定めた（資料1-1-①-4）。
- ・準学士課程卒業時に、本校の教育目標である3項目、ならびに総合的に実力がついたか判断するひとつの材料として、「学習・教育レビュー室」により、卒業生に対する学習達成度評価アンケートを実施した（資料6-1-④-1）。
- ・本校準学士課程卒業生に対する仕事の満足度（勤務成績）について、企業アンケートを実施している（資料6-1-⑤-3）。

## 専攻科課程

- ・平成18年5月に、6項目の学習・教育目標に対し、具体的到達目標を定めた（資料1-1-①-3）。
- ・専攻科生は全員がJABEE対象者であり、「設計情報工学」プログラム修了要件を併せて定めている（資料5-7-①-2）。
- ・具体的到達目標の大部分は平成17年5月に定め、実質的には従来から行ってきたことを明文化したもので、単位の修得と併せ、すべての学習・教育目標に対し、具体的到達目標に外部評価を取り入れている点で客観性をもっている（資料1-1-①-3）（資料5-7-①-2）。
- ・目標（A2）に関しては各学年に所属する学生の60%以上が達成することをめざした到達目標を定め、より具体性をもたせるとともに、全員が外部試験を受ける機会を専攻科生についても定めた（資料1-1-①-4）。
- ・専攻科課程修了時に、本校の教育目標である3項目、ならびに総合的に実力がついたか判断するひとつの材料として、「学習・教育レビュー室」により、修了生に対する学習達成度評価アンケートを実施した（資料6-1-④-1）。
- ・本校専攻科課程修了生に対する仕事の満足度（勤務成績）について、企業アンケートを実施している（資料6-1-⑤-3）。

（分析結果とその根拠理由）

- 準学士課程では、6項目の学習・教育目標について定めた卒業時の具体的到達目標が主体であるが、主として修得単位で判断しており、方向性は定まったものの、具体性にはやや欠け

る。また、卒業時の学習達成度評価アンケートならびに卒業生に対する企業アンケートにより、状況を判断することは可能である。

- 専攻科課程では、6項目の学習・教育目標について定めた修了時の具体的到達目標が明確に定められている。アンケートおよび単位修得状況に外部資格が加わっていることで、評価法および評価基準が明確である。
- 以上のことから、教育目的に沿った形で卒業時や修了時に到達すべき目標は定められており、その達成状況を把握・評価するための適切な取り組みが行われている。

**観点 6-1-②：** 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

#### 準学士課程

1. 単位修得、進級、卒業時の成績評価等は適切になされている。
2. 資格取得については、資格の取得を奨励のため資格取得による単位の認定を行っており、学科ごとに外部資格の取得を奨励している（資料 6-1-②-1）。
3. 卒業論文は、各学科で論文集を発行している（資料 6-1-②-2、資料 6-1-②-3、資料 6-1-②-4）。

#### 専攻科課程

- (a) 単位修得、修了時の成績評価等は、J A B E E に対応した基準も含め、適切になされている。
- (b) 資格取得については、専攻科では修了要件として、TOEICスコア 400、情報関連等外部資格、学士の取得を取り入れている（資料 5-7-①-2）。
- (c) 学協会での論文発表を義務づけている（資料 5-7-①-2）。
- (d) 特別研究では、論文集を刊行している（資料 5-7-①-3）。

#### 資料 6-1-②-1 資格取得の単位認定に関する規則及び認められる資格取得名

外部修得単位及び資格取得等による学修に係る  
単位修得の認定に関する規則

（趣 旨）

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第14条の2及び第14条の3の規定に基づき、外部修得単位及び資格取得による学修、ボランティア活動による学修、スポーツ又は文化に関する分野における活動で顕著な成果をあげたものの学修（以下「特別学修」という。）に係る単位修得の認定に関し、必要な事項を定める。

（特別学修）

第2条 教育上有益と認める特別学修は別表「特別学修による単位の認定について」（以下「別表」という。）のとおりとする。

（特別学修の単位認定申請手続）

第3条 前条に規定する特別学修のいずれかに合格又は該当し、単位の認定を受けようとする者は、特別学修単位認定申請書（別紙様式1）及び証明書類を校長に提出するものとする。ただし、別表で定める資格に2以上の級区分等がある場合、上位の資格の単位修得後は、当該資格の下位の資格の単位認定申請はできないものとする。

2 前項の申請は、原則として修得又は資格取得認定等の年の12月末までに行うものとする。（特別学修の認定）

第4条 前条の規定による単位認定申請があった場合、校長は教務委員会の議に基づき、本校における授業科目等の履修とみなし、特別学修の認定を行う。

- (1) 大学等の学修による外部修得単位に係る認定単位数は、当該大学等が認定した単位数とし、認定科目は当該大学等が認定した授業科目とする。
- (2) 資格取得に係る認定単位数及び認定科目は別表に記載のとおりとする。
- (3) ボランティア活動に係る認定単位数は1単位を上限とし、認定科目は別表に記載のとおりとする。認定に関する事項については別に定める。
- (4) スポーツ又は文化に関する分野における活動で顕著な成果をあげたものの学修に対する単位数は1単位を上限とし、認定科目は別表に記載のとおりとする。認定に係る事項については別に定める。
- (5) 特別学修の認定科目については、本校開設授業科目との科目振替は行わない。

(特別学修の単位の取扱)

第5条 前条の規定により認定された特別学修の単位の取り扱いについては、次のとおりとする。

- (1) 進級認定及び卒業認定に算入できる特別学修の単位は、30単位を上限とする。
- (2) 特別学修の単位は、一般科目の選択科目単位又は専門科目の選択科目単位として取り扱う。
- (3) 認定された特別学修の単位は、特例措置として、原学年に留められた者も単位として認める。

(成績評価)

第6条 認定された特別学修に係る成績の評価は、「認定」とする。

(指導要録等の記載)

第7条 第4条の規定により特別学修を認定された場合、指導要録等の授業科目欄の記載については、特別学修認定科目を記載し、成績評価欄には、「認」と記載する。

(その他)

第8条 この規則によりがたい場合は、その都度教務委員会の議を経て、校長が定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

※以下は別表の一部を抜粋

別表 特別学修による単位の認定について

認められる外部修得科目名 又は資格取得名等		認定科目名 (開設外科目)	認定 単位数	一 般 科 目	機 械 電 気	情 報 電 子	土 木 建 築	備 考	
実用英語耐性検定(英検)	準2級	一般特別演習	1	○				上位級の 単位のみ 認定	
	2級		2	○					
	準1級		3	○					
	1級		4	○					
工業英語能力検定 (工業英検)	3級			2	○				上位級の 単位のみ 認定
	2級			3	○				
	1級			4	○				
TOEIC	350~399			1	○				上位級の 単位のみ 認定
	400~439			2	○				
	470~509			3	○				
	600~729			4	○				
	730点以上			5	○				
日本語漢字能力検定	準1級			1	○				
	1級			1	○				
日本語文章能力検定	準2級			1	○				
	2級		1	○					
実用数学技能検定(数検)	準2級		1	○					
	2級		1	○					
	準1級		1	○					
	1級		1	○					
CAD検定	2級	専門特別演習	1		○				
	1級		1		○				
ボイラー技士	2級			1		○			
	3級			1		○			
機械設計技術者	2級			1		○			
	1級			1		○			
情報処理技術者試験									
基本情報技術者				1		○	○		
ソフトウェア開発技術者				1		○	○		
初級システムアドミニストレータ				1		○	○		
上級システムアドミニストレータ				1		○	○		
テクニカルエンジニア-ネットワーク				1		○			
テクニカルエンジニア-データベース			1		○				
アプリケーションエンジニア			1		○	○			
情報セキュリティアドミニストレータ			1			○			

出典：本校規則集

資料 6-1-②-2 平成 17 年度機械電気工学科卒業論文集の目次（抜粋）

目 次		頁
<b>材 料 系</b>		
球状黒鉛鋳鉄の高温疲労強度特性		3
アルミニウム合金の腐食疲労強度特性		9
球状黒鉛鋳鉄の腐食疲労強度特性		13
貫通穴を有する球状黒鉛鋳鉄の疲労強度特性		17
軸受鋼の引張圧縮による疲労特性		23
ラジカル窒化した SNCM439 の疲労特性に及ぼす各種コーティングの影響		27
F R P リサイクル用ケミカル反応容器の検討		33
アルミニウム合金の高応力下における低サイクル疲労挙動の検討		41
Inconel718 の最適切削条件の検討		47
Ni 基超合金 Inconel718 の中高温における軸荷重下での疲労特性		53
高分子材料の各種機械的性質の検討		59
風力エネルギー利用啓発のための基礎研究		63
PIC を用いたメカトロニクス教材の開発		73

出典：平成 17 年度機械電気工学科卒業論文集

資料 6-1-②-3 平成 17 年度情報電子工学科卒業論文集の目次（抜粋）

目 次		頁
<b>情報・通信システム</b>		
Web を利用した就職・進学支援システムの開発		1
UNIX 上で動作する教育用オペレーティングシステムの開発		9
定期試験時間割作成システムの開発		15
授業時間割作成システムの開発		23
自己組織化マップを用いた顔画像認証システム		29
FPGA を用いたニューラルネットワークのハードウェア化		35
ヘシアン行列を用いた効率的学習法に関する考察		39
脳波インタフェースに関する考察		47
順序最小完全ハッシュ法について		53

出典：平成 17 年度情報電子工学科卒業論文集

## 資料 6-1-②-4 平成 16 年度土木建築工学科卒業論文集の目次 (抜粋)

目 次	
卒業論文集	
山口県内の近代土木遺産の保存・活用に関する研究 .....	1
馬蹄形渦の制御に関する研究 .....	7
旧徳山市の市街地形成に関する一考察 .....	13
S C P 工法における砂杭の造成メカニズムに関する研究 .....	19
有限要素法を用いたアルミニウム合金数値解析 .....	25
開水路乱流の底壁面近傍における乱れの生成過程 .....	31
廃材を用いた緑化基盤材と防草材の開発に関する研究 .....	39
団粒化剤を用いた粘土の力学的性質 .....	49
「ふるさとの道整備事業」の評価と課題に関する研究 .....	57
複雑な形状を有する薄肉断面部材の座屈強度 .....	65

出典：平成 16 年度土木建築工学科卒業論文集

(分析結果とその根拠理由) 教育の実績・効果が上がっている。

- 本科・専攻科とも、留年・退学者は少なく、また、概ね全員が就職・進学できている。
- 卒業論文集や特別研究論文集も、高専の卒業研究・制作および特別研究の報告としては一定の水準に達している。

**観点 6-1-③：** 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

## 進学士課程

- 求人倍率は例年高倍率で、就職率は例年ほぼ 100% である (資料 6-1-③-1)。
- 進路状況を資料 (資料 6-1-③-2) に示す。
- 就職先は、それぞれの教育を受けた関連分野にほとんど進んでいる (資料 6-1-③-3)。
- 卒業生に対する仕事の満足度 (勤務成績) について、62% の企業が満足していると回答している (資料 6-1-⑤-3)。

## 専攻科課程

- 就職は自由応募が増えているが、就職希望者の就職率は例年ほぼ 100% である。
- 進路状況を資料 (資料 6-1-③-2) に示す。
- 修了生に対する仕事の満足度 (勤務成績) について、63% の企業が満足していると回答している (資料 6-1-⑤-3)。

資料 6-1-③-1 求人倍率の推移

学科	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
機械電気工学科	11.7	13.1	12.1	11.6
情報電子工学科	11.0	11.6	14.9	12.8
土木建築工学科	6.8	6.6	5.4	5.4

出典：学校要覧より集計

資料 6-1-③-2 平成16年度進路状況

平成16年度 進路状況

徳山工業高等専門学校 (平成17年 3月)

学科名	機械電気工学科			休学1	情報電子工学科			休学1	土木建築工学科			休学1
	男子	女子	合計		男子	女子	合計		男子	女子	合計	
学生数	39	1	40		22	13	35		22	17	39	
就職希望学生	25	1	26		8	11	19		10	12	22	
進学希望学生	14	0	14		14	2	16		12	5	17	
就職先一覧	東ソー(株) 西川化成(株) 日東電工(株) (株)三井ハイテック (株)イクス (株)日本ゼオン(株) (株)カンセツ 広島エルピーダメモリ(株) (株)IHエアロスペースエンジニアリング 日本精工(株) 三菱重工業(株) (株)NSデザイン (株)トクヤマ 東レ(株) 明治乳業(株) コベルコ建機(株) テクモ(株) 東洋製罐(株) 大阪ガス(株) 東洋鋼板(株) (株)カネカ (株)ジャパンアウトソーシング (株)森精機製作所 東陽機器(株) 帝人ファーマ(株) NOK(株)				中国電力(株) 国際ソフトウェア(株) (株)富士通九州システムエンジニアリング 東ソー(株)南陽工場 2名 富士通サポート&サービス(株) 関西電力(株) (株)ハタシ 京セラ(株)滋賀蒲生工場 NECフィールディング(株) オリジナルシステムズ(株) NHK広島放送局 TDCソフトウェアエンジニアリング (株)宇部情報システム フジオーネ・テック・ソリューションズ(株) 東京コンピュータサービス(株) 新川電機(株) 山口セキスイハイム(株) ヤフー(株)				前田道路(株) 東ソー(株) 2名 (株)ジョー・コーポレーション 2名 (株)トクヤマ エルクホームズ(株) 東京ガス(株) 大林道路(株) (株)一建設 五洋建設(株) 大成ロテック(株) セキスイハイム中国(株) 産機設計(有) 山崎建設(株) 新興プランテック(株) チューケン(株) 国土交通省 2名 山口県 大阪市役所			
進学先一覧	東京工業大学 徳山高専専攻科 10名 九州工業大学 岡山大学 豊橋技術科学大学 2名				岡山大学 2名 広島大学 3名 山口大学 静岡大学 宇都宮大学 室蘭工業大学 豊橋技術科学大学 2名 パンタンデザイン研究所 徳山高専専攻科 3名 徳山高専研究生				鹿児島大学 山口大学 徳山高専専攻科 13名 徳山高専研究生			
専攻科	機械制御工学専攻				情報電子工学専攻				環境建設工学専攻			
専攻科名	男子	女子	合計		男子	女子	合計		男子	女子	合計	
学生数	8	0	8		4	1	5		9	3	12	
就職希望学生	7	0	7		0	1	1		4	3	7	
進学希望学生	1	0	1		4	0	4		5	0	5	
就職先一覧	(有)モリワキエンジニアリング 鋼板工業(株) 矢崎総業(株) 日新製鋼(株) 東洋自動機(株) 日本ポリウレタン工業(株) (株)インフォコム西日本				鋼板工業(株)				大和工務リース(株) ●エルクホームズ(株) (株)建設技術研究所 ●(株)徳山ビルサービス ●(有)和建築設計事務所 (株)ウッドワン 東亜建設工業(株)			
進学先一覧	山口大学大学院 豊橋技術科学大学大学院				北陸先端科学技術大学院大学 3名 早稲田大学大学院 九州工業大学大学院				大阪大学大学院 長岡技術科学大学大学院 豊橋技術科学大学大学院2名 徳山高専研究生			

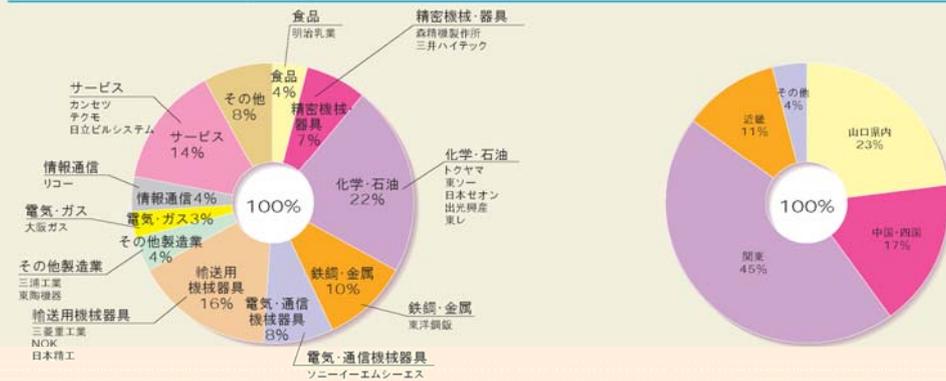
出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/support/sinro.html>

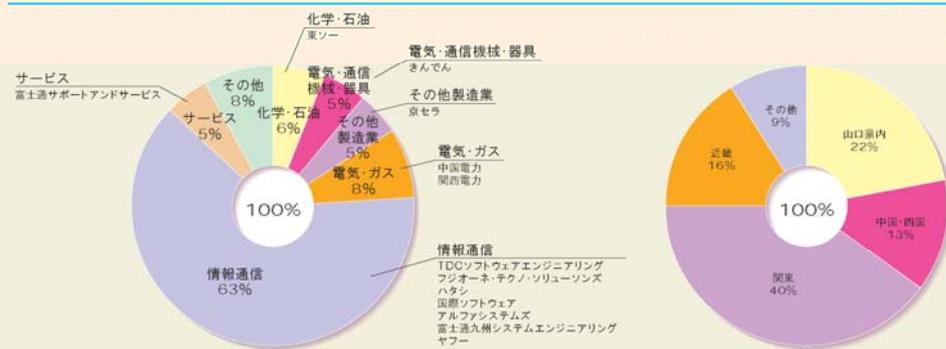
資料 6 - 1 - ③ - 3 就職先の分野

(4) 最近3か年の就職先 Employment Situation (these 3 years)

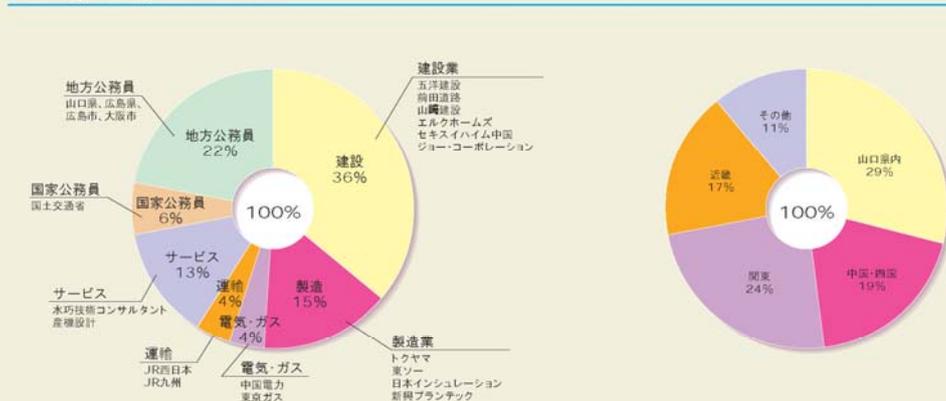
機械電気工学科  
Mechanical and Electrical Engineering



情報電子工学科  
Computer Science and Electronic Engineering



土木建築工学科  
Civil Engineering and Architecture



(分析結果とその根拠理由)

例年求人倍率が高く、ほぼ全員が就職・進学できており、アンケートの結果からも教育の実績・効果が上がっていると考えられる。また、就職先は、それぞれの教育を受けた関連分野にほとんど進んでいる。

以上のことから、教育の目的において意図している進路に進んでおり、教育の成果や効果が上がっている。

**観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。**

(観点に係る状況)

- (a) 平成16年度より、「学習・教育レビュー室」により「学習達成度評価」が組織的・体系的に行われる体制が整備されており(資料2-2-①-7)、平成17年度の準学士課程卒業者と専攻科課程修了者に対し、本校の教育目標である3項目、ならびに総合的な学習達成度についてアンケートが行われたその結果は次のとおりである(資料6-1-④-1)。

**準学士課程**

- ・準学士課程卒業時に、本校の教育目標である3項目、ならびに総合的に実力がついたかとの問いに対し、82%の卒業生が「十分な実力がついた」、「実力がついた」と答えており、教育の成果が上がっていると判断できる。
- ・「十分な実力がついた」、「実力がついた」と答えた割合を教育目標別にみると、  
「実践力のある」：80% 「開発型」：74%  
が高い割合を占め、教育効果が十分上がっていると考えられるのに対し、「世界に通用する」は56%で、これは英語を意識し回答しているものと考えられ、英語力に自信をつけるまでの実力はついていない様子が窺える。

**専攻科課程**

- ・専攻科課程修了時に、本校の教育目標である3項目、ならびに総合的に実力がついたかとの問いに対し、73%の卒業生が「十分な実力がついた」、「実力がついた」と答えており、教育の成果が上がっていると判断できる。
- ・「十分な実力がついた」、「実力がついた」と答えた割合を目標別にみると、  
「実践力のある」：80% 「開発型」：73%  
が高い割合を占め、教育効果が十分上がっていると考えられるのに対し、「世界に通用する」は60%で、これは英語を意識し回答していることが考えられ、修了生全員がTOEICスコア400をクリアし、ある程度の力は身につけてきたものの、英語力はこれでは不十分であるとさらに自覚が深まった様子が窺える。

- (b) 本校の6項目の学習・教育目標に対し、具体的到達目標を平成18年5月に定めた(資料1-1-①-3)。評価は正確にはこれからであるが、準学士課程では基本的に、それに関連した単位を修得することで最低限目標が達成できると判断しているが、英語力に関しては新たな基準が設けられたこともあり、これからいくぶん具体性をもって教育の成果が判断できるものと期待できる。

専攻科課程では従来の基準と変わらない。この基準を修了生に適用し始めた平成15年度以

降、修了予定者の総計が62名に対し56名が修了し、6名が未修了となった。その内訳は5名がTOEICのスコア不足、1名が学士の不合格が原因で、いずれも「世界に通用する」項目が不十分であった。しかしながらその割合は約10%であり、本校の意図する教育の成果は、ほぼ上がっていると考えられる。

(分析結果とその根拠理由)

- 卒業生および修了生に対し、学習の到達度に関する意見聴取の取組が行われている。
- アンケートの結果から、準学士課程卒業生と専攻科課程修了者の教育目標に対する到達度の意識はほとんど同じであり、「実践力」と「開発力」の実力がついたと回答している者が70%を超えており、十分に教育の成果や効果が上がっていると判断できる。
- 英語力を意識してか「世界に通用する」実力がついたと回答する者は60%程度と低めにとどまっており、それぞれのレベルで自信をもつまでの実力は身につけていないことが窺える。
- 専攻科課程では約10%の学生が「世界に通用する」能力不足が原因で未修了となっているものの、ほぼ意図する教育の成果が上がっていると判断できる。

以上のことから、学生の行う学習到達度から判断して、特に「実践力」と「開発力」に対し、十分に教育の成果や効果が上がっている。

#### 資料6-1-④-1 平成17年度学習達成度評価アンケート

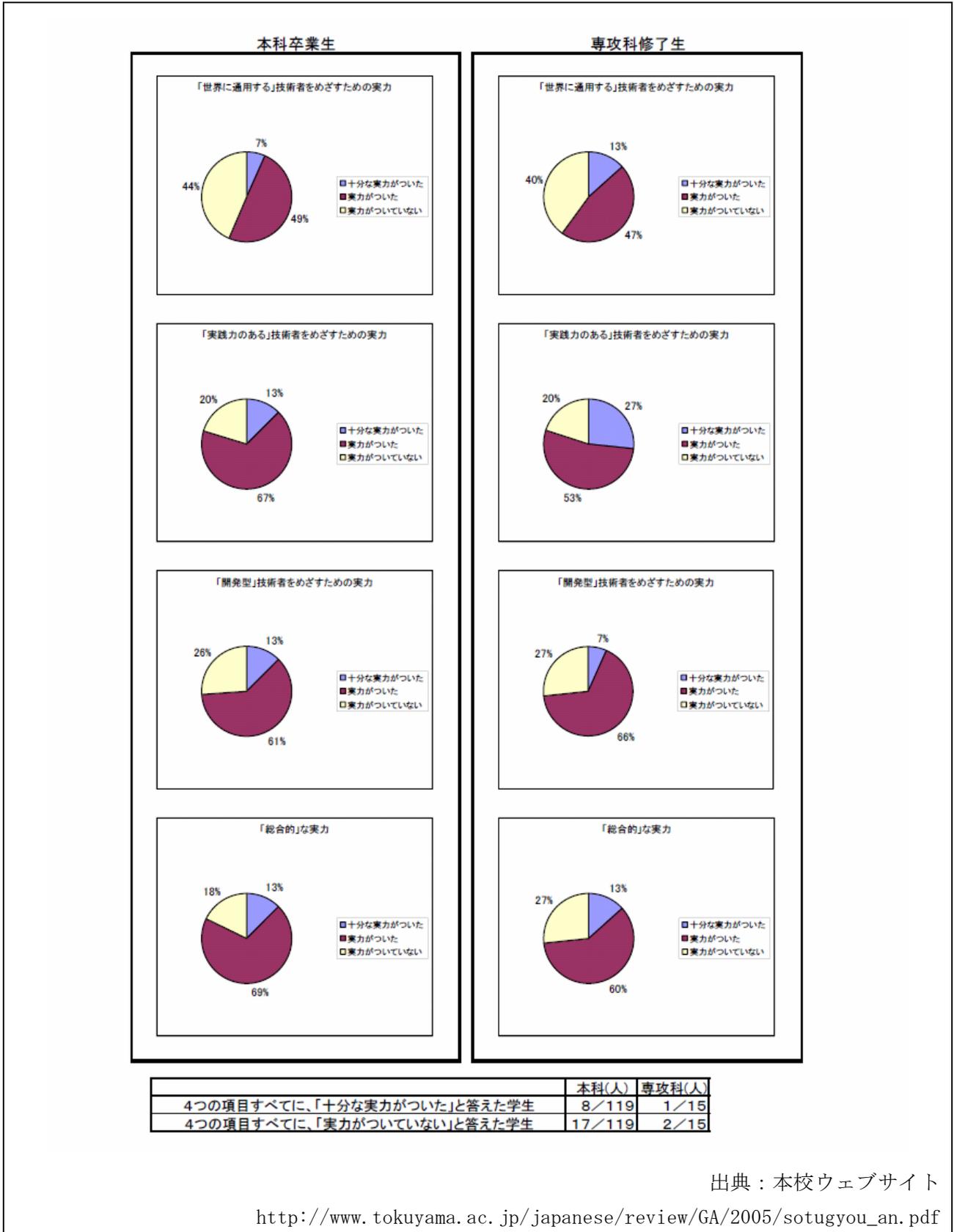
学習・教育レビュー室では、卒業生および修了生に対し、学生自身の学習達成度評価アンケートを実施いたしました。以下に、実施アンケート項目を示します。

徳山高専では、多くの事を学んだと思います。皆さんが卒業（修了）するにあたり、徳山高専で用意したカリキュラムで、以下の期待した実力がついたと思いますか。

1. 「世界に通用する」技術者をめざすための、実力がついたと思いますか。
  1. 十分な実力がついた。
  2. 実力がついた。
  3. 実力がついていない。
2. 「実践力のある」技術者をめざすための、実力がついたと思いますか。
  1. 十分な実力がついた。
  2. 実力がついた。
  3. 実力がついていない。
3. 「開発型」技術者をめざすための、実力がついたと思いますか。
  1. 十分な実力がついた。
  2. 実力がついた。
  3. 実力がついていない。
4. 総合的に、期待した実力がついたと思いますか。
  1. 十分な実力がついた。
  2. 実力がついた。
  3. 実力がついていない。

本科学生119名、専攻科学生15名から、回答を頂きました。ありがとうございます。

質問項目1については、英語を意識し回答をした学生が多いのか、「十分な実力がついた」「実力がついた」と答えた割合が、他の項目よりも少なくなっています。しかし、約60%の学生は、「十分な実力がついた」「実力がついた」と考えているようです。



観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。

また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

平成14年度の修了生・卒業生・企業の3者を対象としたアンケートを行った。その結果は次のとおりである。

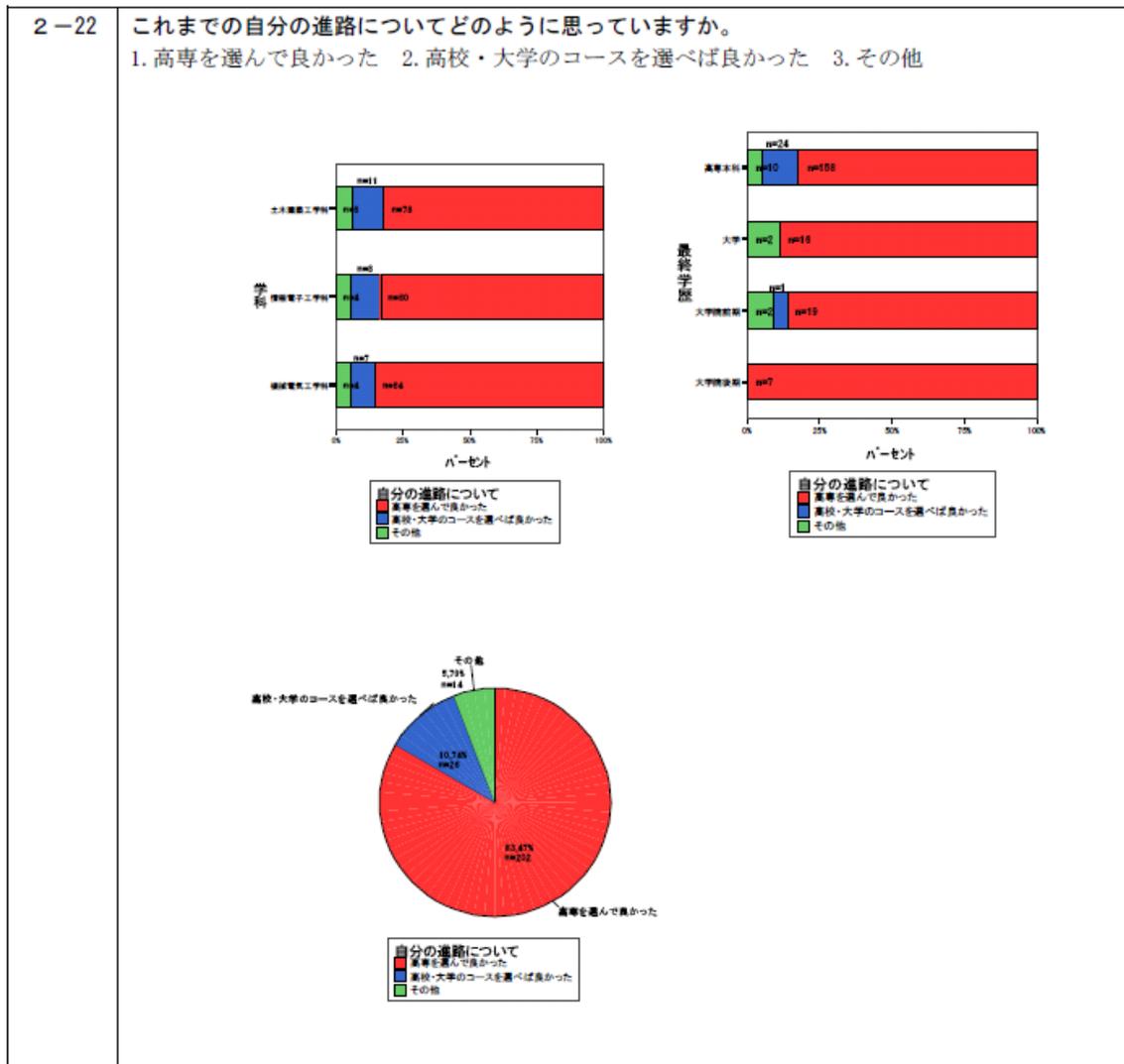
進学士課程

- ・進学士課程卒業生の84%が高専を選んだことに満足している(資料6-1-⑤-1)。
- ・企業からの評価においても、卒業生については62%の企業が「非常に満足」, 「満足」と回答し, 「普通」の回答が約30%である(資料6-1-⑤-3)。

専攻科課程

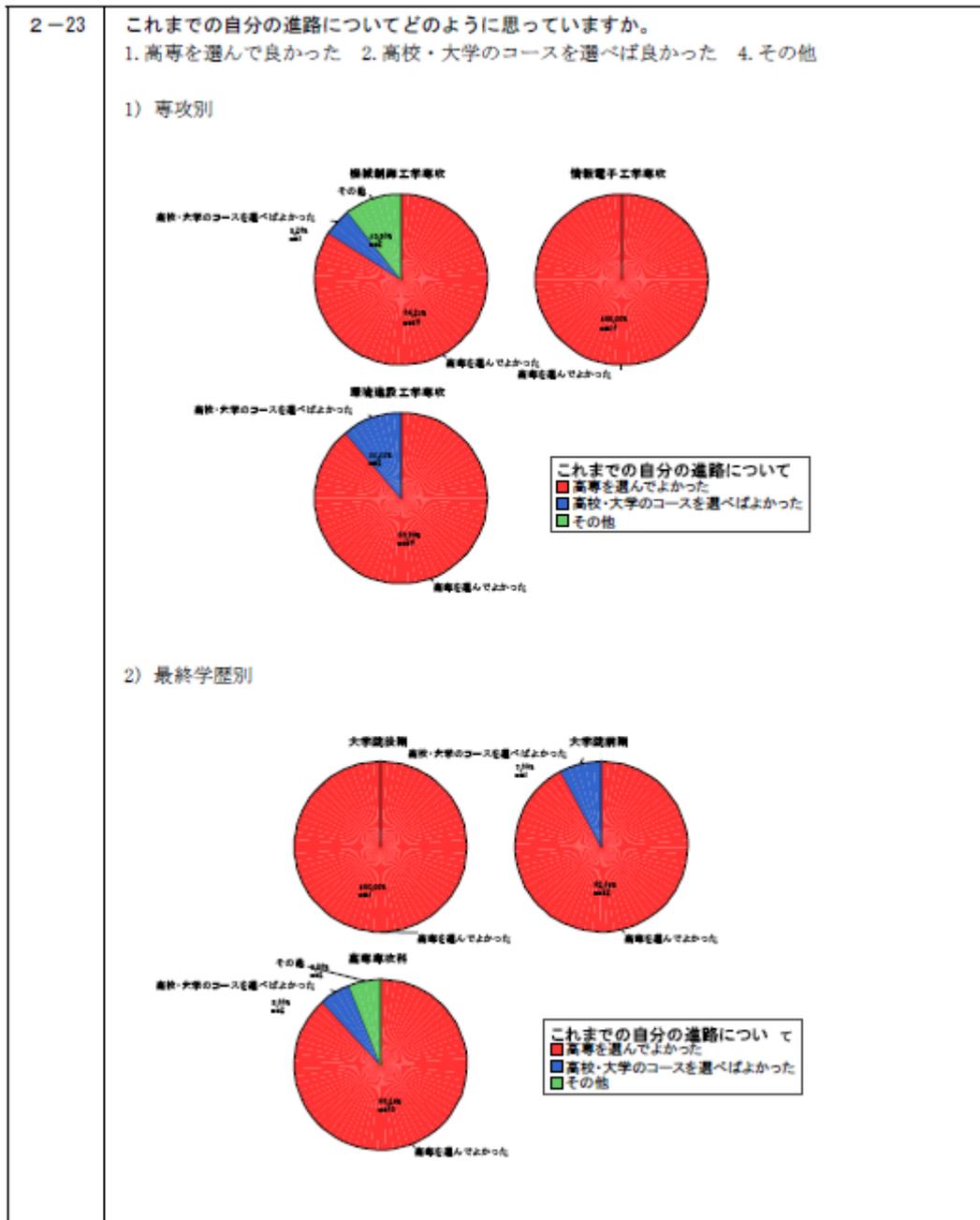
- ・専攻科修了生の90%が高専を選んだことに満足している(資料6-1-⑤-2)。
- ・企業からの評価においても、修了生については63%の企業が「非常に満足」, 「満足」と回答し, 「普通」の回答が約30%である(資料6-1-⑤-3)。

資料6-1-⑤-1 徳山高専を選んだことの満足度(進学士課程卒業生)



出典：平成14年度専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

資料 6-1-⑤-2 徳山高専を選んだことの満足度（専攻科修了生）



出典：平成 14 年度専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

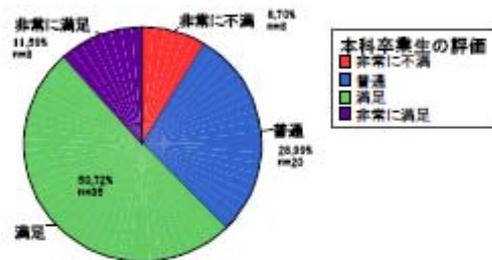
資料 6-1-⑤-3 徳山高専の本科卒業生および専攻科修了生の仕事に対する企業の評価

2. 徳山高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生に対し、平均的な仕事に対する評価（勤務成績）について、選択肢からお選び下さい。

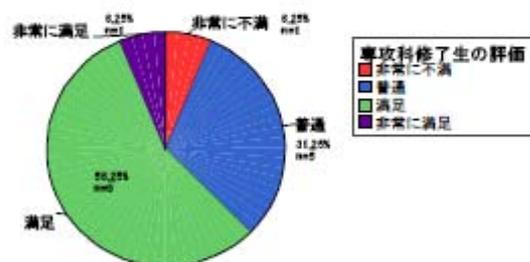
①非常に不満 ②不満 ③普通 ④満足 ⑤非常に満足

(徳山高専から学生を採用している企業の回答です。)

質問 2-1 徳山高専の本科卒業生



質問 2-2 徳山高専の専攻科修了生



また、コメントがあれば下欄にお書き下さい。

- ・個性がありおもしろい人材である。
- ・中堅技術者として活躍中
- ・4 といっても、5 に近いレベルにあります
- ・採用人数 2 名中、非常に満足は 1 名で、後 1 名は途中退社。
- ・やや不満
- ・これまで入局しております貴校卒業生の職場での活躍ぶりに喜んでおります。

出典：平成 14 年度専攻科修了生・本科卒業生・企業対象アンケート報告書

(分析結果とその根拠理由)

- 卒業生・修了生や企業について、意見の聴取が不定期ながら行われている。
- アンケートの結果、卒業生および修了生については高専を選んだことに満足しており、実力がついたと考えている。
- 企業からの評価も良好であるといえる。

以上のことから、卒業生や修了生が在学時に身につけた資質・能力の聴取に対する取組を実施しており、教育の成果や効果が上がっている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

「学習・教育レビュー室」により、卒業生・修了生の学習達成度評価アンケートが組織的・体系的に行われている。

(改善を要する点)

該当なし

## (3) 基準6の自己評価の概要

準学士課程卒業時と専攻科課程修了時に学生が身につける学力や資質・能力につき、平成18年5月、学習・教育目標に沿って具体的に到達目標を定めた。準学士課程では主として修得単位で判断しており、方向性は定まったものの、具体性にはやや欠けるため、単位修得状況やアンケートならびに就職・進学状況が目標の達成状況を把握・評価する手段となる。専攻科課程ではこれにいくつかの外部評価が加わるため、評価方法および評価基準が明確であり、教育目標の達成状況を把握・評価するために適切な取り組みが行われている。

成績不振による留年・退学者は準学士課程で約2%、専攻科課程では約10%と比較的低い水準にある。ちなみに、専攻科課程では1名を除く全員がTOEICのスコア不足が原因であった。専攻科の修了要件はいくぶん高めに設定してあるが、特に本校では特別研究を重視・充実しており、専攻科設置以来、修了生全員が学協会で発表を行うなど、高いレベルにある。

卒業生および修了生に対し、教育目標の到達度に関する意見聴取の取り組みが行われている。アンケートの結果から、両者の傾向はほとんど変わらず、「実践力」と「開発力」については73～80%の者が実力がついたと回答しており、十分に教育の成果や効果が上がっていると判断できる。一方、「世界に通用する」実力がついたと回答した者は60%程度にとどまっており、先の結果とも符合しており、それぞれのレベルで自信をもつまでの実力は身につけていないことが窺える。就職状況や進学状況も順調で、就職先や進学先はそれぞれの教育を受けた関連分野にほとんど進んでおり、十分に教育の成果や効果が上がっている。

## 基準7 学生支援等

## (1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

## (a) 学習を進める上でのガイダンスについて

- ・ 準学士課程入学者に対する入学前の修学指導を始めとして、全学生に学年別・学科別・クラス別という複数のオリエンテーションを行い、学習・教育目標の周知及び自主的学習への方向付けを促進している（資料7-1-①-1，資料7-1-①-2）。
- ・ オリエンテーションの欠席者に対しては後日改めて呼び出して実施することにより、ガイダンスを徹底している（資料7-1-①-3）。

## (b) 学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制について

- ・ 準学士課程はクラス担任が（1・2年次は学級担任と学科担当の副担任の2人体制）、専攻科課程は専攻別担任が学生の修学上の相談・助言の中心を担っている（資料7-1-①-4）。
- ・ 相談・助言の方法としては、クラス全体に対する指導だけでなく面談による個人指導も行っている（資料7-1-①-5）。
- ・ この個人面談の基礎資料として、定期試験ごとに教科担当の教員から提出される指導連絡表を活用している（資料7-1-①-6）。

## (c) 「学習シート」やオフィスアワーについて

- ・ 各授業で「学習シート」を用い、学生の質問に答えたり授業の進め方に対するフィードバックに役立てたりしている（資料7-1-①-7）。
- ・ オフィスアワーを設定し、各教員室の前に表示している。また、ウェブ上にも公開することで、学生に周知している（資料9-1-②-5）。
- ・ オフィスアワー以外の時間でも学生の相談や質問を受け付け、助言・指導を行っている（資料7-1-①-8）。

## (d) 学生相談室の相談・助言体制について

- ・ 学生相談室では、準学士課程の新生入生に対して「新生アンケート」を実施し、修学上の相談も受け付けている（メールによる相談も含む）（資料7-1-①-9）。
- ・ 学生相談室では、「新生アンケート」に基づき、勉強意欲が低い学生や勉強に関する相談のある学生を手紙で呼び出し、面談をしたり、「コミュニティワーク」により該当教科担当の教員と学生の橋渡し役となったりして、学生の不適応予防に努めている（資料7-1-①-10，資料7-1-①-11，資料7-1-①-12，資料7-1-①-13）。
- ・ 学生相談室では、新生だけでなく全学生からも修学上の相談を受け付けている。また、そのことを学生相談室案内及び学生便覧で周知している（資料7-1-①-14，資料7-1-①-15，資料7-1-①-16）。

## (e) ティーチング・アシスタントによるサポート体制について

- ・ 専攻科のティーチング・アシスタント（以下TA）が準学士課程1年生に対しては数学演習、2年生に対しては物理演習を担当し、学生の数学・物理の質問に答えることにより自主的学習をサポートしている（資料7-1-①-17，資料7-1-①-18，資料7-1-①-19）。

(f)徳山高専ウェブサイトを通しての相談・助言体制について

- ・本校ウェブサイト上に「私たちがお答えします」のバナーを設置し、そこから修学上の相談・質問を受け付けている。また、相談があった場合は、2週間以内に答えている（資料7-1-①-20，資料7-1-①-21）。

(分析結果とその根拠理由)

- ・全学生に対して学年別，学科別，クラス別という複数の修学上のオリエンテーションをに整備・実施している。
- ・学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制（メールによるものも含む）も担任を中心に全教員及び専攻科生TAにより整備され，機能している。
- ・学生相談室が，修学上の相談のある学生と直接面談をするだけでなく，該当教科担当の教員と学生の橋渡し役となる（コミュニティワークを実施する）ことにより，相談・助言のネットワークを構築している。

以上のことから，学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されている。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

## 資料 7 - 1 - ① - 1 修学指導で配布した資料 (一部)

TOEIC について

別紙 (表面)

大学や企業が最も重要視している英語の検定試験は TOEIC です。そこで、徳山高専でも、実用英検・工業英検はもちろんですが、それだけでなく、TOEIC にも力を入れています。

TOEIC とは、Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、世界約 60 ヶ国で実施されています。テスト結果は合格ではなく、10 点から 990 点までのスコアで評価されます。テストは英文のみで構成されています。実用英検・工業英検に見られるような受験級の区分はありません。

平成 18 年度は、9 月 20 日の午後に 4 年生 5 年生全員が TOEIC IP テスト (IP テストとは、徳山高専で実施する徳山高専の学生だけが受験する TOEIC テストです。一般の人が誰でも受験できる、公開された TOEIC テストは SP テストと呼ばれます) を受験することが決定しました。

新入生は、4 年生 5 年生とは異なり、まだ TOEIC 試験を全員受験することはありませんが、希望者はもちろん受験することができます (IP テストは年に 4 回実施しますが、その都度案内をします)。

TOEIC については、以下の役に立つサイトを検索して、よく調べ、各自で問題集や単語・熟語集を購入し、少しずつ準備を進めておいてください (質問等があれば、いつでも国重まで来てください)。特に、専攻科に進学を考えている人は、専攻科の修了要件の一つとして TOEIC スコア 400 点以上と決められていますから、要注意です。これがクリアできない場合は、本当に専攻科を修了することができません。

☆役に立つサイト：

◎TOEIC テストとは？ <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/index.html>

◎初めて TOEIC テストを受ける人へ <http://www.alc.co.jp/eng/toEIC/first/index.html>

**【重要】**

新入生は、4 年生 5 年生とは異なり、まだ TOEIC 試験を全員受験することはありません、と上に書きましたが、その代わり、平成 18 年度より、TOEIC 換算の仕組みが確立している TOEIC によく似た英語能力検定テスト ACE (桐原書店) を、本科生全員 (君たち新入生も含めて) が年 1 回受験することになっています。

ACE とは、Assessment of Communicative English の略称で、TOEIC と同様、スコア (0 点～900 点) で評価されます。自分の英語力がどのくらいあるかを試すための実力試験ですので、毎日しっかり英語を勉強することが必要です。

実施時期は後期中間試験の第 1 日第 1 限目 (平成 18 年度は 11 月 30 日 (木) です) とします。

このテストについて詳しく知りたい人は、以下のサイトを参照してください。

◎ACE について <http://www.kirihara-kyoiku.net/BACE-ACE/index.html>

出典：英語科資料

資料7-1-①-2 オリエンテーションで配布した資料(一部)

The materials include:

- 1. 平成18年度新入生オリエンテーション 教育方針並びに教務関連について
- 2. 徳山高等の 学習・教育目標
- 3. 本科と専攻科で 養成しようとする技術者像
- 4. 本科と専攻科で 養成しようとする技術者像
- 5. 本科と専攻科で 養成しようとする技術者像
- 6. 機械電気工学科「エンジニア」の養成目標
- 7. 情報電子工学科「ITエンジニア」の養成目標
- 8. 土木環境工学科「土木・環境」の養成目標
- 9. 専攻科の 具体的到達目標
- 10. 英語 学年ごとの到達目標
- 11. 日本技術者英検受検機 徳山高等は JABEE 認定校
- 12. 日本技術者英検受検機 徳山高等は JABEE 認定校

出典：教務係資料

資料7-1-①-3 欠席者の扱いについての教務主事から学級担任へのメール

平成18年4月17日  
学級担任各位  
教務主事

4月5日始業式のオリエンテーション欠席者に対して、下記のとおり再度説明を行いますので、学生に周知願います。  
なお、当日は学生便宜・シラバス・筆記用具を持参するよう併せてご指導願います。

記

日時：平成18年4月25日(火) 17時15分から  
場所：中講義室 (教務主事より説明)

当日の欠席者は下記のとおりです。

2年生 CA2-3 [REDACTED]  
3年生 欠席なし  
4年生 ME4 [REDACTED]  
4年生 1 E4 [REDACTED]  
4年生 1 E4 [REDACTED]  
4年生 1 E4 [REDACTED]  
4年生 CA4 [REDACTED]  
4年生 CA4 [REDACTED]  
5年生 ME5 [REDACTED]  
5年生 1 E5 [REDACTED]  
5年生 1 E5 [REDACTED]  
5年生 1 E5 [REDACTED]  
5年生 CA5 [REDACTED]  
5年生 CA5 [REDACTED]

出典：教務主事から学級担任へのメール

資料7-1-①-4 HR担任一覧表

学級担任一覧表

		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
1年学級担任	1組	☆ 桂 哲男	☆ 吉田 輝	☆ 吉田 輝	☆ 吉田 輝	室長大應
	2組	谷本圭司	原田幸雄	長戸喜隆	桂 哲男	☆ 秋吉康光
	3組	長廣恭子	長廣恭子	長廣恭子	長廣恭子	谷本圭司
副担任(機械電気)		小田和広	門脇重道	張間貴史	張間貴史	森崎哲也
	(情報電子)	神田徳夫	杉村敦彦	三木 幸	重村哲至	小林明伸
	(土木建築)	佐賀孝徳	佐々木伸子	佐々木伸子	桑嶋啓治	桑嶋啓治
2年学級担任	1組	藤満達朗	池田光優	池田光優	藤満達朗	池田光優
	2組	三木 幸	義永常宏	☆ 重安邦之	☆ 守川和夫	☆ 神田徳夫
	3組	☆ 木村武馬	☆ 日南住 博	日南住 博	木村武馬	重松恒美
副担任(機械電気)		前園一郎	池田光優	石田浩一	逆瀬川栄一	逆瀬川栄一
	(情報電子)	三木 幸	馬渡賢治	杉村敦彦	杉村敦彦	神田徳夫
	(土木建築)	上 俊二	桑嶋啓治	桑嶋啓治	木村武馬	大成博文
機械電気工学科	3年	石田浩一	藤満達朗	門脇重道	◎ 池田光優	◎ 藤満達朗
	4年	◎ 櫻本逸男	◎ 小田和広	守川和夫	門脇重道	兼重明宏
	5年	門脇重道	櫻本逸男	木村武馬	兼重明宏	◎ 門脇重道
情報電子工学科	3年	◎ 杉村敦彦	◎ 重村哲至	兼重明宏	神田徳夫	小林明伸
	4年	守川和夫	神田徳夫	池田信彦	奥本 幸	杉村敦彦
	5年	江口賢和	守川和夫	渡辺勝利	池田信彦	奥本 幸
土木建築工学科	3年	熊野 稔	木村武馬	小田和広	重松恒美	木村武馬
	4年	佐賀孝徳	上 俊二	神田徳夫	◎ 藤原東雄	◎ 佐賀孝徳
	5年	◎ 工藤洋三	◎ 工藤洋三	重松恒美	◎ 渡辺勝利	藤原東雄

☆ 学年主任 ◎ 担任代表

出典：教務係資料

資料7-1-①-5 クラス個人面談の割り振り表

※学生名の箇所はモザイクがかけてある。

個人面談 予定 ( 3休み )			
No.	氏 名	日 日	注
		4 27	(木)
		5 1	(月)
		2	(火)
		8	(月)
		9	(火)
		10	(水)
		11	(木)
		15	(月)
		16	(火)
		17	(水)
		18	(木)
		20	(土)
		22	(月)
		23	(火)
		24	(水)
		6 1	(木)
		5	(月)
		6	(火)
		7	(水)
		8	(木)
		10	(土)
		12	(月)

出典：学級担任資料

資料 7-1-①-6 学習指導連絡表のサンプル

※学生個人名は黒塗りにしてある。

学 習 指 導 連 絡 票

平成17年度 第 1 回

学 年	1年、3年、 5年、 専攻科2年	学 科	1組、2組、 3組、選択	教科名	基礎英語 R、 総合英語 IW、 英語学概論、総合英語	担当者	国重 徹
授業実施日数 (     /     ~     /     ) (     曜日 ・ 時限)     日×     時間							
<p>1. クラス全般について</p> <p>(1) 授業態度 (雰囲気、意欲など) について          よい、概ねよい、あまりよくない (     )、悪い (     )          ※ただし、気を抜くと私語が多くなる傾向にあります。</p> <p>(2) その他 (清掃、黒板消しなど)          いつもできている、ほとんどいつもできている、時々できていない、できていないことが多い、ほとんどできていない、全くできていない</p>							
<p>2. 個人について</p> <p>(1) 授業中の態度が目につく学生 (教科書が無、ノートを執らない、無駄話をする、居眠りをするなど)          特になし</p> <p>(2) レポート、製図、小試験などについて (提出しない、遅れる、成績が芳しくない)          特になし</p> <p>(3) 特に指導の必要があると思われる学生          前期中間試験欠点者 (得点)          欠点者はいませんが、得点の低かった者は以下の通りです。          ■ (59)、■ (57)、■ (56)、■ (50)、■ (53)、■ (56)、■ (54)</p>							

出典：教務係資料

資料7-1-①-7 「学習シート」の学生と教員とのやり取りを示すサンプル  
 ※学生名や学科、番号はモザイクがかけてある。

2006年6月1日7・8時限目 (実施/特別時間割/場所変更: 管理棟2階会議室)  
 ( ) 学科4年 ( ) 番 ( )

〈学習シート: 日本語コミュニケーション〉  
 ~グループ・ディスカッション準備メモ~

【テーマ】 人々が、安心して暮すことのできる街を作るには、どのようにすればよいか？！

【発言の為の、個人メモ】 (個人用マッピング) ←授業前までに済ませておくこと

無差別に犯罪が起きる。  
 → いっ自分が巻き込まれるかもしれない。  
 警察の対応が遅くて、辛いところ  
 ときがある。

昔に比べて、無差別な犯罪が  
 増えている気がする。そのため、このま  
 の状態を放っておくと、ますますこのよ  
 うな犯罪が増え、安心して、街に歩けたり  
 買い物に行けることが出来なくなるのでは  
 ないか。

今は、家の前でも、犯罪に巻き込まれ  
 てる場合もある。

子供を巻き込んだ犯罪の増加

・被害者保護要因 → 周りの環境を整える。(施設、建物の強化)

犯罪が起きる前に、くいとめることが  
 必要。

・教育現場で、児童に防犯知識を  
 身につけさせる。

・地域でも、犯罪に対する理  
 由を深めてもらうための呼びかけをする。  
 → 回覧板、新聞  
 → あるいは比較的容易に実行が可能だ  
 と思う。

・法律などの見直し  
 → 犯罪者の減少を見込める。

利用のコミュニティー、お互い且か合うことで、安心して暮す街つくりには、地域での活動に  
 参加する。

【個人の改善点 (次回への課題)】

- 意見をもっと吐き出す。
- キャッチボールをする。投げたボールをちゃんと投げ返す。
- 発言内容を失いながら、後から説明を加える。(考えながら意見を言う。)
- 周りの意見をもっと聞いておく。

【他グループへの、改善提案】

- ディスカッションになっている。
- キャッチボールが上手い。みんな意見がまとまっている。
- キャッチボールが上手い。みんな意見がまとまっている。

※ 自己評価は、【A (良い)・B (努力が必要)・C (改善工夫が必要)】でつける。

	ディスカッション				ギャラリー	ディスカッショ ンの準備状況
	態度&マナー	有効的な発言	キャッチボール	スイッチオンの表情	態度&マナー	
自己評価	A	B	B	A	A	A
教師評価	A	B	B	A	A	A

~グループ・ディスカッションについて質問があれば、記入してください~  
 自分が準備しているメモと違う方向の意見で発言した人に文責して、その場で考えを  
 言うことが出来たのかなどです。

授業担当: 一色 ☆ e-mail: jssiki@tokuyama.ac.jp

準備の時、いろいろな情報を持っていると、対応も変わってきます。  
 また、一度の発言で片をつけておくと、キャッチボールがやりやすくなります。

出典: 国語科 (一色教員) 学習シート

資料7-1-①-8 オフィスアワー以外の時間に学生に助言・指導していることを示す資料  
 ※学生名は黒塗りにしてある。

No. 1

2006年度「履歴書・エントリーシート」「大学・大学院編入学」等に関する指導記録

(2006年度より予約制を採用／一部予約外の質問もあり)

2006年1月～

月 日	氏 名 ( 学 科 )	指 導 時 間	備 考
1月26日	■ (IE)	17:00～17:50	B
27日	■ (IE)	16:10～17:15	B
2月14日	■ (IE)	13:30～14:00	D
17日	■ (専攻科)	10:30～11:10	A
22日	■ (IE)	17:00～17:20	B
23日	■ (ME)	11:00～12:10	A
	■ (CA)	13:00～14:00	A
24日	■ (CA)	13:00～14:00	A
28日	■ (ME)	13:00～14:00	A
3月 1日	■ (ME)	11:00～12:00	A
※ 3月13日～20日、27日～31日 この間 一色不在			
4月 3日	■ (専攻科)	11:00～12:00	A
(月)	■ (IE)	12:30～13:20	A
	■ (ME)	14:00～14:40	A
	■ (ME)	15:00～16:00	A
4日	■ (IE)	13:00～13:40	A
(火)	■ (ME)	14:00～15:00	A
5日	■ (IE)	12:30～13:10	A
(水)	■ (専攻科)	15:00～15:40	A
	■ (IE)	16:00～16:30	A
6日	■ (専攻科)	10:45～11:20	A
(木)	■ (ME)	12:30～13:00	A
	■ (IE)	17:30～18:30	A
	■ (ME)	18:50～19:20	A
7日	■ (ME)	17:00～17:40	A
(金)			
10日	■ (ME)	12:50～13:15	A
(月)	■ (ME)	17:15～18:00	A
	■ (IE)	18:00～18:30	A
11日	■ (ME)	17:00～17:30	A
(火)			
13日	■ (ME)	16:30～17:10	A
(木)	■ (IE)	17:20～17:55	A
	■ (ME)	18:00～18:10	A
	■ (ME)	18:10～18:40	A
14日	■ (ME)	10:30～10:40	A
(金)	■ (IE)	17:10～18:00	A

【備考欄】：記号説明／A (履歴書・エントリーシート) B (就職活動を前提としたインターンシップ申し込み書)

C (添え書き・手紙類) D (大学編入試小論文・志願書等) E (就職試験小論文)

F (グループ・ディスカッション) / 予約外の質問は、それぞれに (外) と表示

出典：国語科 (一色教員) 資料

資料7-1-①-9 新入生アンケート

平成18年度新入生対象 学生相談室アンケート

このアンケートはあなた方に入学時の状況などをお聞きするものです。今後あなた方が心身共に快適な学生生活を送ることができるようサポートする際の参考資料にするものです。答えたことがあなた方の成績や評価に影響を与えることは決してありませんから、ありのままを答えて下さい。あなた方の答えやプライバシーは、学生相談室が責任を持ってその秘密を守ります。

なお、このアンケートに答えていて私たち学生相談員、看護師さん、カウンセラーと話してみたくなくなった人はどうぞ遠慮なく学生相談室に来て下さい。学生相談室は、保健室の奥にあります。面接の予約者が不在のときには、いつでもすぐに相談をすることができますし、日時を予約していただいて後日改めて会うこともできます。お気軽にどうぞ。

また、私たち学生相談員の教官室や看護師さんのいる保健室に直接相談をしに来ていただいても、もちろんかまいません。

徳山工業高等専門学校学生相談室  
(管理棟1階保健室奥)

次の各質問に対して、答えの中から当てはまるものを選んで回答用紙の記号を○で囲んで下さい。その他は、それぞれの指示に従って回答して下さい。

1. あなたは自宅から通学していますか、それとも寮生ですか。・・・(a) 自宅通学生 (b) 寮生
2. あなたは中学校時代にクラブ活動に参加していましたか。・・・(a) はい (b) いいえ
3. あなたが徳山高専に進学を決定したのはいつですか。  
(a) 小学生の頃 (b) 中学1年生の頃 (c) 中学2年生の頃 (d) 中学3年生の頃
4. 徳山高専はあなたが第一に志望した学校ですか。・・・(a) はい (b) いいえ
5. あなたは徳山高専の本当に入りたかった学科に入れましたか。・・・(a) はい (b) いいえ
6. あなたが徳山高専に入学した動機は何ですか、次の該当するものすべての記号(回答用紙内)を○で囲んで下さい。  
(a) 入学しやすい (b) いいところに就職できる (c) 通学の便がいい (d) 経済的な理由  
(e) 先生や親にすすめられた (f) 自由な校風だから (g) 先輩・知人がいる (h) 兄弟がいる  
(i) 自分の志望に合っている (j) 他に入学するところがなかったから (k) 何となく  
(l) その他 (回答用紙の記入欄に具体的に書いて下さい)
7. あなたは中学校時代に満足いく学校生活が送れたと思いますか。  
(a) とても満足している (b) 一応満足している (c) あまり満足していない (d) 全く満足していない
8. あなたは徳山高専に入学できて満足していますか。  
(a) とても満足している (b) 一応満足している (c) あまり満足していない (d) 全く満足していない
9. あなたが徳山高専に入学した目的は何ですか、次の該当するものすべての記号(回答用紙内)を○で囲んで下さい。  
(a) 専門的な学問・技術を身につけるため (b) 教養を高め人間的に成長するため  
(c) 先生や友人と交流するため (d) いいところに就職するため (e) 学生生活をエンジョイするため  
(f) 専攻科や他の大学に進学するため (g) 何とはなしに (h) その他 (回答用紙の記入欄に具体的に書いて下さい)
10. 現在、あなたの勉強への意欲は次のどれですか。  
(a) 十分意欲がある (b) 一応意欲がある (c) あまりない (d) 全くない
11. あなたは徳山高専での勉強についていけるかどうか不安ですか。  
(a) とても不安である (b) 少し不安である (c) あまり不安ではない (d) 全く不安ではない
12. 周りの新入生が自分より勉強面で優れているように思いますか。  
(a) 強くそう思う (b) 少しそう思う (c) あまりそうは思わない (d) 全くそうは思わない
13. 自分には徳山高専で友人ができないのではないかと心配ですか。  
(a) とても心配である (b) 少し心配である (c) あまり心配ではない (d) 全く心配ではない
14. あなたは徳山高専での学生生活がどのくらい楽しみですか。  
(a) とても楽しみである (b) 少し楽しみである (c) あまり楽しみではない (d) 全く楽しみではない
15. あなたは自分が将来どんな職業につき、どんな人になりたいか、すでに心の中で決めていますか。  
(a) はい (b) いいえ
16. あなたは中学時代に個人的に打ち明け話をしたり、相談に乗ってもらえるような同性の親友がいましたか。  
(a) はい (b) いいえ
17. あなたは徳山高専に知り合いの人がいますか。・・・(a) はい (b) いいえ

18. あなたは徳山高専に個人的に打ち明け話をしたり、相談に乗ってもらえるような同性の親友がいますか。  
 (a)はい (b)いいえ

19. あなたはある程度親しくつき合っている異性の友人がいますか。・・・・・・ (a)はい (b)いいえ

20. 今までに、反抗して親を手こずらせたことがありますか。・・・・・・ (a)はい (b)いいえ

21. 今までに、失敗や挫折をしてすごく悩んだことがありますか。・・・・・・ (a)はい (b)いいえ

22. 学生相談室で相談できるとしたら、あなたは次のどのような内容について相談してみたいですか。該当するものすべての記号 **(回答用紙内)** を○で囲んで下さい。

- (a) 勉強のこと (b) 今まで知らなかった人たちとの出会いに関する事 (c) 家庭のこと
- (d) 自分の性格のこと (e) 心の健康に関する事 (f) 体の健康に関する事 (g) 性に関する事
- (h) 友人関係のこと (i) 恋愛に関する事 (j) 徳山高専が自分に合っているかどうかに関する事
- (k) 進学のこと (l) 就職のこと (m) その他 **(回答用紙)** の記入欄に具体的に書いて下さい

23. 前問で挙げてある項目の中で、「今すぐ」あなたが相談をしたい事柄があれば、その記号をすべて○で囲み、具体的に詳しくその相談内容を **回答用紙** の記入欄に自由に書いてみて下さい。

★相談を希望する人は、ここで **回答用紙** の記入欄にあなたへの連絡方法（携帯電話の番号、携帯電話のメールアドレスなど）を書いておいてもらえるとスタッフから連絡をします。

※以下の質問には、寮生の人だけ答えて下さい。

24. 寮生活全般に関して不安を感じていますか。  
 (a) とても不安である (b) 少し不安である (c) あまり不安ではない (d) 全く不安ではない

25. 家族から離れて一人で生活するので寂しく思いますか。  
 (a) とても寂しい (b) 少し寂しい (c) あまり寂しくない (d) 全く寂しくない

26. 寮を出て自宅から通学したいですか。  
 (a) 是非自宅通学したい (b) 少し自宅通学したい (c) あまり自宅通学したくない (d) 全く自宅通学したくない

27. 現在、あなたは寮生活に関して学生相談室で相談をしたいような事柄や悩みがありますか。  
 (a)はい (b)いいえ

28. (27. で、「はい」と答えられた方へ) それはどのような事柄や悩みですか、次の該当するものすべての記号 **(回答用紙内)** を○で囲んで下さい。

- (a) 一人暮らしについて (b) 寮の施設・設備について (c) 先輩との関係について
- (d) その他 **(回答用紙)** の記入欄に具体的に書いて下さい

29. 寮生活に関する質問や悩み、訴えたいこと、「今」何となく考えていることなど何でもかまいません。**回答用紙** の記入欄に自由に書いて下さい。

どうも有り難うございました。皆さんが、有意義で充実した高専生活を送られるよう願っております。

出典：学生相談室資料



資料7-1-①-11 面談学生一覧（自主的学習に関する相談内容の部分は黄色）

※学生氏名の部分は空白にしてある。

面談担当	氏名	性別	学科	学年	クラス	相談内容	連絡先(備考)
桜本		男	ME	1	1	相談あり、スキ一部がない	寮生
桜本		男	ME	1	1	学生生活=あまり楽しみでない	通学生
桜本		男	ME	1	1	第一志望でない、入学できてあまり満足していない	通学生
桜本		男	ME	1	1	相談あり=話をする友達がいない	通学生
桜本		男	ME	1	1	第一志望でない	通学生
桜本		男	ME	1	2	第一志望でない	通学生
桜本		男	ME	1	2	第一志望でない	通学生
桜本		男	ME	3		留学生	寮生
桜本		男	ME	4		編入生	寮生
桜本		男	ME	4		編入生	通学生
桜本		男	ME	4		編入生	通学生
国重		男	CA	1	2	第一志望でない、第一志望学科でない、学生生活=全く楽しみでない	通学生
国重		男	CA	1	2	学生生活=あまり楽しみでない	通学生
国重		男	CA	1	3	勉強意欲=全くない	通学生
国重		男	CA	1	3	第一志望でない	通学生
国重		男	CA	1	1	第一志望でない	通学生
国重		男	ME	1	1		寮生
国重		男	ME	1	2		寮生
国重		男	ME	1	3		寮生
国重		男	ME	1	3		寮生
国重		男	ME	1	2		寮生
原田		男	IE	1	1	第一志望でない、勉強意欲=全くない、学生生活=全く楽しみでない	通学生
原田		男	IE	1	1	学生生活=あまり楽しみでない	通学生
原田		男	IE	1	2	学生生活=あまり楽しみでない	通学生
原田		男	CA	1	2		寮生
原田		男	CA	1	3		寮生
原田		男	CA	1	3		寮生
原田		男	IE	1	1		寮生
原田		男	IE	1	2		寮生
原田		男	IE	1	2		寮生
原田		男	IE	1	3		寮生
日南住		男	CA	1	3	第一志望でない、第一志望学科でない	寮生
日南住		男	CA	1	1	第一志望でない	寮生
日南住		男	CA	1	1	第一志望でない	通学生
日南住		男	CA	1	1	高専生活が余り楽しみではない	寮生
日南住		男	CA	1	1		寮生
日南住		男	CA	1	1		寮生

出典：学生相談室資料

資料7-1-①-12 新入生を呼び出す手紙（自主的学習に関する相談のある学生に対して）

※学習に関する相談内容に触れている部分は黄色でハイライトしてある。

※学生名は消してある。

〇〇君へ、

私は学生相談室員の国重（一般科目：英語担当）です。突然のお手紙でびっくりしたかも知れませんが、お許し下さい。先日は学生相談室が実施したアンケートに答えて下さり有り難うございました。

〇〇君は、「今すぐ」相談をしたい事柄の欄に「勉強のペースや勉強方法」について相談したいという趣旨の内容を書いて下さいましたね。

そこで、もしよかったら〇〇君の話をもう少しお聞きして、できる限りいろいろと相談にのりたいと思い、この手紙を書きました。

〇〇君が少しでも快適に学生生活を送ることができるよう、私達はサポートしていきたいので、もしよかったら下に示した日時に私の部屋（管理棟2階、西から2番目の北側の部屋です。工業英検の案内がドアに貼ってあります）に一度話をしに来ませんか？秘密は厳守します。

もちろんこれは強制的な「呼び出し」ではありませんから、無理にとは言いませんし、もし下の日時で都合がつかなければ、変更することもできます。変更をしたいときは、電話(0834-29-6253)か、直接私の部屋に来て都合のいい日程を教えてください。メールでの連絡もOKです。アドレスは、kunisige@tokuyama.ac.jpです。

日時：5月6日（木） 12：20～（昼食を食べた後です）

場所：国重 教官室（管理棟2階）

〇〇君が気持ちよく充実した学生生活を送ることができるよう祈っております。

国重 徹

出典：学生相談室資料

資料 7-1-①-13 学生相談室報のコミュニティワークの説明の箇所

II. 特集：学生相談室のコミュニティワーク

1. はじめに

学生は、単一の関係の中だけではなく、クラス担任との関係、親子の関係、クラスメートとの関係、教科担任との関係、クラブ活動のメンバーとの関係など、様々な係わりの中で生活をしている。従って、学生相談室と学生との間だけで悩みが解消するというケースはまれである。一般的な言い方をすると、一つの側面だけから学生の悩みを捉え、支援をしたとしても本質的な解決に至らないことが多い。では、どうすれば学生の悩みの本質的な解消に近づけるための支援ができるのであろうか?この問いに対する答えは、ずばり、コミュニティワークに基づく、協働による援助にある。

「協働による援助」とは、一つの目的を達成するために、各部署やメンバーが補完・協力し合って援助することであり、「コミュニティワーク」は、いわばその下地作りのことである。

現在本校では、学生が属する様々な場・層の人々や、学生が係わりを持つ異なる部署の連携を構築・促進し（＝コミュニティワーク）、複数の関係者もしくは部署が補完・協力して（＝協働）援助を提供することを学生相談室が学生相談活動を行う際の基本的なアプローチとしている。

このアプローチは、「学生相談室がコーディネータの役割を担い、必要に応じてそれぞれの相談内容を検討し、分析内容に基づいて、相談関係者の連携を図り、協力してより良い解決を見出すようにする」という、本校で相談室が開設された当初の方針が発展・進化したものであり、両者の中心にある考え方は同じである。

当然のことであるが、学生サポートのために学生相談室だけが動いているわけではないし、逆に、ある学生の悩みに対する対応を、例えば、クラス担任だけが抱え込む必要もないのである。学生相談・学生援助は、様々な場面で学生と係わりを持つ、多様な教職員の力を結集させることによって成功させればよいわけである。

学生相談室開設5年目にして、このコミュニティワークに基づく、協働による援助が、具体的な形として見え始めたので、本相談室報の中心テーマとして紹介させていただきたい。

出典：学生相談室報 Vol. 2, p. 13

資料 7-1-①-14 相談件数

※学習に関する箇所は黄色でハイライトしてある。

平成17（2005）年度 相談件数（全員分）

相談内容	面接回数							小計	相談室からの働きかけ	相談件数 * 1	人数 * 2
	勉強	進路	家庭	対人	心身	その他					
学生	111	97	19	204	35	78	544	53	519	156	
教員	12	14	3	22	23	44	118	14	121	27	
保護者	2	2	3	0	0	3	10	2	13	3	
小計	125	113	25	226	58	125	672	69	653	186	

平成16（2004）年度 相談件数

相談内容	面接回数							小計	相談室からの働きかけ	相談件数 * 1	人数 * 2
	勉強	進路	家庭	対人	心身	その他					
学生	89	91	15	170	53	65	483	51	534	173	
教員	8	4	1	30	34	7	84	12	96	31	
保護者	2	2	0	0	0	2	6	2	8	3	
小計	99	97	16	200	87	74	573	65	638	207	

\* 1 相談件数とは、面接回数の和（小計）と学生相談室側からの働きかけ件数の合計

\* 2 人数とは、面接回数の多少に関係なく学生相談室を利用した人が何人いるかを意味する

出典：学生相談室資料

資料 7-1-①-15 学生相談室案内の該当箇所（抜粋）



**学生相談室の利用について**

相談室には、下記の時間帯にスタッフがいますので気軽に利用して下さい。しかし、利用は相談室に直接来訪するだけではありません。保健室内にある学生相談室はいわば核となる部分で、実際の相談は相談室を使うこともあれば、スタッフの研究室を使うこともあります。相談する時間も部活動や用事などで都合がつかない時は、あらかじめ日にちと時間を連絡しておけば下記以外の時間でも支障なく利用できます。廊下で出会ったときでも、メールや直通電話でも一言声を掛けて下さい。また、会って話すのはちょっと、と言う人はメールで相談する方法もあります。

相談内容は人間関係、勉強、進路、セクハラ、家庭、恋愛、性、大食い、ダイエット、格闘技等々なんでも構いません。

**学生相談室の場所 管理棟 1階 保健室内**  
(保健室は講義室の前にあります)

**相談担当 (担当曜日以外でも予約することができます)**

月曜日	藤田 徳彦 (昼休み、16:15~17:15)
火曜日	榎本 逸男 (昼休み、16:15~17:15)
水曜日	国重 徹 (昼休み、16:15~17:15)
木曜日	近 文彦、黒山 善香 (14:00~18:00)
金曜日	日南佳 博 (昼休み、16:15~17:15)

誰に相談して良いかわからない人は、保健室の松尾先生に尋ねて下さい。

2006年4月  
編集・発行 徳山工業高等専門学校 学生相談室

出典：学生相談室案内

資料 7-1-①-16 学生便覧の該当箇所

※学生相談室が学生の自主的学習を進める上での相談も受け付けていることが分かる箇所は黄色でハイライトしてある。

2. 学生相談室

私たちは毎日の生活の中で、いろいろなことについて悩み、不安を持って暮らしています。**勉学のこと**、就職・進学のこと、友人・家族との人間関係、異性との問題、生きる目的など…自分で解決することも大切ですが、誰かに話しをするだけで解決の糸口が見つかることも多いものです。あるいは一つのアドバイスが氷を溶かすきっかけになることもあります。悩みごとや困ったことがあるときは、気軽に学生相談室を訪ねてみてください。

学生相談室は、図書館棟 1階「保健室」の中にあります。担当の先生方が皆さんの気持ちを親身になって聞き、相談内容については秘密を厳守しています。

相談室開設時間は次のとおりです。

毎週 月・火・水・金 昼休み及び放課後  
また、毎週木曜日の午後には、専門のカウンセラーが相談に応じています。

出典：学生便覧

資料 7 - 1 - ① - 17 授業時間割 (抜粋)

徳山工業高等専門学校				
金 曜 日				
	1・2	3・4	5・6	7・8
一年一組	化学 I 化学 大橋	技術発展史論 CAD 門部	基礎英語R 基礎英語W 国重	数学 I B 長廣
一年二組	国語総合 I 一色	基礎コンピュータ工学 重村、力、新田	基礎英語W 田中教	歴史 柏倉
一年三組	歴史 柏倉	測量学 佐賀	数学 I B 長廣	基礎英語W 田中教
二年一組	体 育 齊藤 山本 和田	数学 II B 日南住	総合英語 I R 中光	物理演習
二年二組		総合英語 I R 中光	歴史 渡邊基	
二年三組		歴史 渡邊基	倫理 吉田	
三年		電子回路 I	工業力学	

出典：教務係資料

## 資料 7-1-①-18 専攻科 T A を示す資料

※学生名は黒塗りがしてある。

## 平成 18 年度専攻科生ティーチングアシスタントの実施について

## (実施の理由)

数学及び物理の 2 科目は、専門科目の基礎となる極めて重要な科目であり、学生には授業内容の十分な理解が要求される。理解の手段としては、正規の授業及び学生個々の自習によることが通常である。しかしながら、授業では時間的制約があり、自習においては問題等を考えていくときに、そばに助言、指導するものがいれば、飛躍的に理解度が深まるのは当然のことである。

以上のことから、本科 1 年生に数学及び本科 2 年生に物理の演習を課し、専攻科生にティーチング・アシスタント（以下 T A と称する）として、助言、指導等に当たらせ、基礎学力の向上を計るものである。

## (実施の内容)

1. 本科 1 年生全員に数学の演習を課し、各クラス 2 名の T A を配置する。  
本科 2 年生全員に物理の演習を課し、各クラス 1 名の T A を配置する。
2. T A は指導教員の指導のもと、
  - ア. 演習問題の準備
  - イ. 学生への助言、指導
  - ウ. 演習問題の採点、集計及び指導教員への報告を行う。

## (T A の勤務態様)

1. 任 期 [数学] 平成 18 年 4 月 14 日から平成 19 年 2 月 2 日まで  
[物理] 平成 18 年 4 月 14 日から平成 19 年 2 月 2 日まで
2. 勤務時間 [数学] 16:10～17:10 の 1 時間  
[物理] 15:10～16:10 の 1 時間
3. 勤 務 日 [数学] 1 年生担当 毎週金曜日 8 時限  
[物理] 2 年生担当 毎週金曜日 7 時限  
行事・後期授業時間割等の都合により変更することがある。

## (経 費)

学校負担

(平成 18 年度 T A 採用予定者)

クラス	数 学 担 当	
1-1	機械制御工学専攻 2 年 ■■■■■	環境建設工学専攻 2 年 ■■■■■
1-2	機械制御工学専攻 2 年 ■■■■■	環境建設工学専攻 2 年 ■■■■■
1-3	機械制御工学専攻 2 年 ■■■■■	機械制御工学専攻 2 年 ■■■■■
クラス	物 理 担 当	
2-1	環境建設工学専攻 2 年 ■■■■■	
2-2	機械制御工学専攻 2 年 ■■■■■	
2-3	環境建設工学専攻 2 年 ■■■■■	

出典：教務係資料

資料 7-1-①-19 専攻科 TA を実施していることを示す資料 (TA 日誌)

※学生名にはモザイクがかけてある。

教務主事	学生課長	専門員	教務係長	
				
平成 18 年 4 月 28 日 全 日				
TA 氏名	[モザイク]		[モザイク]	
時 間	16 時 15 分 ~ 17 時 05 分		16 時 15 分 ~ 17 時 05 分	
クラス名	1 年	1 組	クラス人数	42 / 44 人
指導状況	因数分解の2行因数の問題を解かせました。因数分解の問題は難しく ほとんど全員の問題を解くことができませんでした。速算からもう少し問題 を考えます。			
連絡事項				

教務主事	学生課長	専門員	教務係長	
				
平成 18 年 7 月 12 日 全 日				
TA 氏名	[モザイク]		[モザイク]	
時 間	16 時 15 分 ~ 17 時 05 分		16 時 15 分 ~ 17 時 05 分	
クラス名	1 年	1 組	クラス人数	42 / 44 人
指導状況	最大公約数、最小公倍数、因数定理を中心とした問題を解いて ました。英語のプリントを基に、苦手なところから範囲を個人 別に教えました。			
連絡事項	Nc [モザイク] への開始直後から帰って来ましたが 行ったこと注意。			

資料：教務係資料

資料7-1-①-20 徳山高専ウェブサイト上の「私たちがお答えします」のページ

学校案内 Information  
Copyright 2002 Tokuyama College of Technology(Japan). All Rights Reserved.  
徳山工業高等専門学校

私たちがお答えします

担当者の写真をクリックしてください。問合せフォームが出てきます。

	学校全体について 徳山高専校長 天野 徹		カリキュラムについて 教務主事 森野 数博
	学生生活について 学生主事 上 俊二		学寮に関して 寮務主事 池田 信彦
	専攻科に関して 専攻科長 大橋 正夫		技術相談に関して テクノセンター長 原 隆
	企画・運営に関して 総合企画室長 百田 正広		学生相談に関して 学生相談室長 櫻本 逸男
	入試に関して 学生課長 空 敏雄		公開講座等の依頼 庶務課長 近藤 尚美

出典：徳山高専ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/what\\_is/inquiry.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/what_is/inquiry.html)

資料 7-1-①-21 「私たちがお答えします」の利用例  
 ※学生名やメールアドレスは黒塗りにしてある。

—Original Message—

From: [redacted] ne.jp [mailto:[redacted] ne.jp]

Sent: Sunday, November 07, 2004 7:22 PM

To: oonari@post.tu.tokuyama.ac.jp

Cc: proffice@post.tu.tokuyama.ac.jp

Subject: ホームページからの質問です。回答をお願いします。

質問題名: 進路・就職について

質問の内容:

初めまして。私は中学2年の女子です。

いきなり本題になりますが、土木建築工学科に入ると、将来『建築再生プロデューサー』にはなれるのでしょうか？

お答えをお願いします。

名前: [redacted]

\*\*\*このメールへの返事お到着後2週間以内に以下へお願いします\*\*\*

回答方法

その1: このメールへの返信を用いて回答が行えます。

\*\*\*\*\*

受信日時: 2004/11/7 19:21:43秒

ブラウザ: Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 5.5; Windows 98; Win 9x 4.90;

i-NavFourF)

[redacted] さま

下記のメールをありがとうございました。土木建築工学科は、4年生で土木コースと建築コースに分かれます。この建築コースを終了しますと、将来建築士の受験資格が与えられます。建築士になると、ご指摘の建築再生プロデューサーの仕事も可能になります。テレビに出る（ビフォーアフターなど）の皆さんは、みな1級建築士のみなさんです。

したがって、「なれる」というのが結論です。建築の勉強をされて、立派な建築士を目指されるのもよい目標といえます。そのような学生が本学科にはたくさんいます。

また、質問がありましたら、遠慮なくどうぞ。

Prof. H. OONARI (大成博文)

Tokuyama College of Technology

3538 Kume Takajo Tokuyama Japan 745-8585

TEL/FAX:81-834-29-6323

E-mail:oonari@tokuyama.ac.jp

出典：広報メディア委員会資料

観点 7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び  
 厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、  
 効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

(a) 自主的学習環境

- ・ 自主的学習や補習の場としてHR教室、図書館、情報処理センター、製図室（機械電気工学科・

土木建築工学科），電算機室（情報電子工学科），専攻科学生研究室が整備され，効果的に利用されている（資料7-1-②-1，資料7-1-②-2，資料7-1-②-3，資料7-1-②-4，資料7-1-②-5，資料7-1-②-6）。

- ・特に，図書館は平日には20時まで開館し，土・日曜日も9時から13時まで開館することにより，自主学習の場として機能している（資料7-1-②-7）。
- ・2種類の英語e-learningソフト，TOEIC学習ソフト（平成14年度より）及び科学技術英語学習ソフト（平成15年度より）が整備され，効果的に利用されている（資料7-1-②-8，資料7-1-②-9）。
- ・学生談話室が改装・整備され，自主的学習の場として効果的に利用されている（資料7-1-②-10）。

(b) 厚生施設，コミュニケーションスペース等

- ・福利厚生センター，合宿研修所が整備され，部活動の合宿で利用されている（資料7-1-②-11，資料7-1-②-12，資料7-1-②-13）。
- ・改装した学生談話室は，コミュニケーションスペースとしても利用されている。
- ・専攻科学生研究室は，コミュニケーションスペースとしても利用されている。

(c) 今後の予定

- ・全施設・設備の効果的な利用をさらに継続・促進するため，「総合企画室」内の効率化ワーキンググループに利用状況の評価・レビューを依頼することが「将来計画委員会」で検討されている（資料7-1-②-14）。

(分析結果とその根拠理由)

- ・各種自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

以上のことから，自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

資料 7-1-②-1 HR 教室が自主的学習や補習の場として効果的に利用されていることを示す資料（教室で実施している数学の補習の出欠表の一部）

※学生名の部分は空白にしてある。

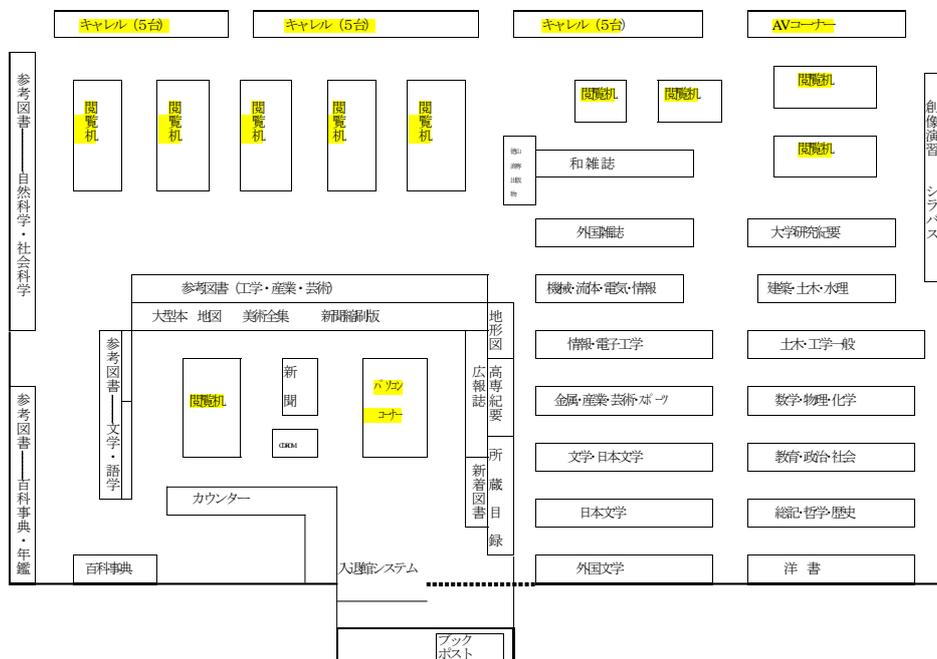
(平成17年度入学) 補習  
平成17年度 1年2組  
学級担任 桂 哲男

番 号	氏 名	10/11/12/13				14/15/16/17				18/19/20/21			
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1													
2													
3													
(4)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5													
(6)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(7)													
8													
(9)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10													
(11)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12													
13													
14													
(15)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(16)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(17)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18													
19													
20													
(21)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(22)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(23)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

出典：数学科(長廣教員)資料

資料 7-1-②-2 図書館のレイアウト図

※自主的学習用の設備を示す部分は黄色でハイライトしてある。



出典：図書係資料

資料 7-1-②-3 情報処理センター設備説明資料, 利用案内, 利用状況

(1) 情報処理センター計算機システム一覧 (徳山高専ウェブサイト上の資料)

	機種	OS	台数
サーバ室	HP NetServLC2	Windows NT Server	2台
	HP NetServLC2	PC-UNIX	1台
	HP netserver lp2000r	PC-UNIX	1台
	HP netserver lp1000r	PC-UNIX	4台
	DELL PowerEdge	Windows NT Server	5台
	HP vectra	Windows 2000	1台
	FMV	PC-UNIX	4台
	COMPAQ PROLIANT DL380	Windows 2000 Server	1台
	SUN PanaStation SS-UB150	Solaris	1台
	フリーウェイ Vip VAN-WSS1000D	Windows 2000 Server	1台
第1パソコン室	日商エレクトロニクス NEPC	PC-UNIX/ Windows XP	51台
第2パソコン室	日商エレクトロニクス NEPC	PC-UNIX/ Windows XP	46台

出典：徳山高専ウェブサイト

URL <http://www.tokuyama.ac.jp/home/~center/den03.html>

(2) 利用案内 (徳山高専ウェブサイト上の資料)

情報処理センターには、情報処理教育のために学生が自由に利用できるネットワーク端末(パソコン)が第1パソコン室、第2パソコン室に用意されています。また、インターネットを利用して電子メールや世界中のホームページを見たりすることができます。

**利用時間**

平日	8:40~19:00
定期試験1週間前	8:40~18:00
定期試験中	8:40~17:00
春・夏・冬休み	9:00~17:00

**利用手続き**  
 授業で情報処理センターを使用する場合は手続きの必要はありません。情報処理センターのホームページに掲載されている時間割以外の空いている時は、利用時間内であれば自由に利用できます。

出典：本校ウェブサイト

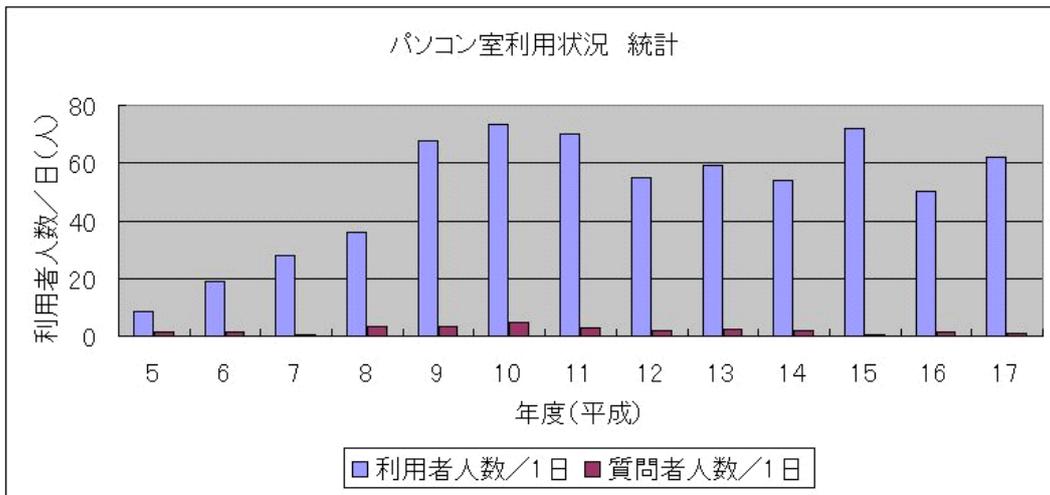
<http://www.tokuyama.ac.jp/home/~center/home.html>

(3) 情報処理センター利用状況 (プログラム相談員利用状況統計)

2005年度までのプログラム相談員利用状況

プログラム相談員 利用状況 統計

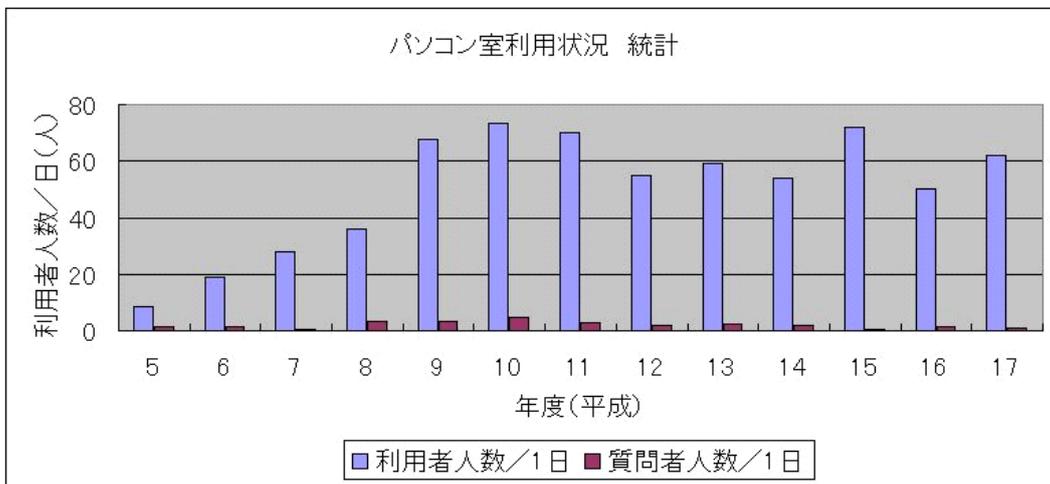
年度(平成)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
年間利用者数	587	2399	4025	4920	10294	11094	10677	8427	9123	8288	11305	8249	8227
年間質問者数	103	170	107	428	511	675	431	256	388	281	71	174	130
利用者人数/1日	8.4	18.9	28	36.2	67.7	73.5	70.2	55.1	59	54	72	50	62
質問者人数/1日	1.5	1.3	0.7	3.1	3.4	4.5	2.8	1.7	2.5	1.8	0.5	1.2	1



2005年度までのプログラム相談員利用状況

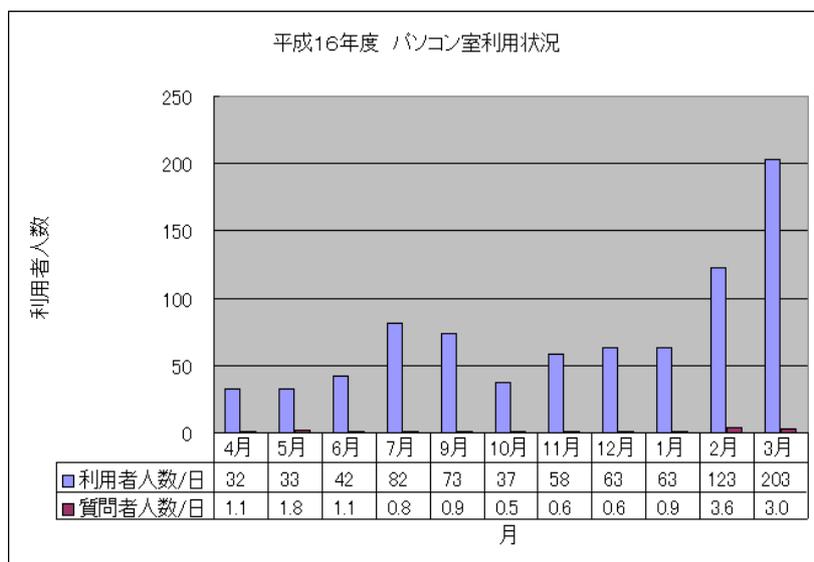
プログラム相談員 利用状況 統計

年度(平成)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
年間利用者数	587	2399	4025	4920	10294	11094	10677	8427	9123	8288	11305	8249	8227
年間質問者数	103	170	107	428	511	675	431	256	388	281	71	174	130
利用者人数/1日	8.4	18.9	28	36.2	67.7	73.5	70.2	55.1	59	54	72	50	62
質問者人数/1日	1.5	1.3	0.7	3.1	3.4	4.5	2.8	1.7	2.5	1.8	0.5	1.2	1



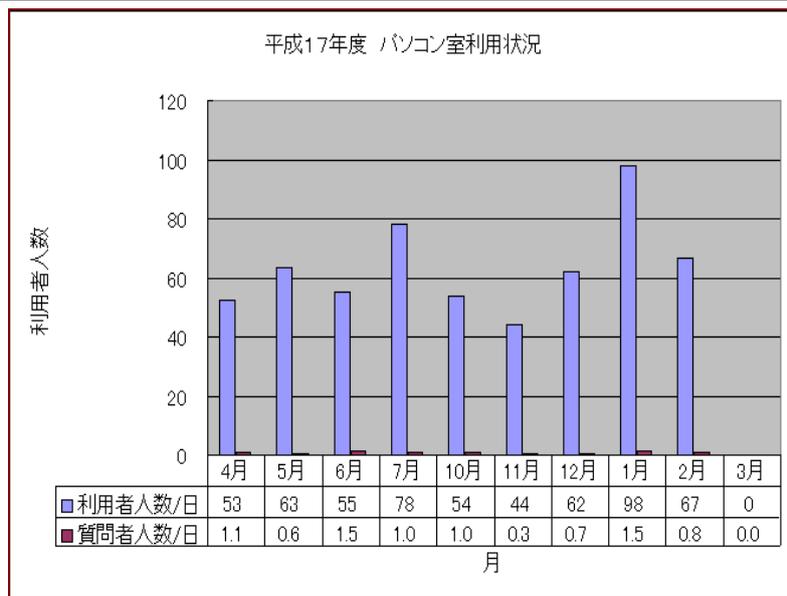
### 平成16年度 プログラム相談員勤務報告

月	勤務日数	利用者人数	質問者人数	利用者人数/日	質問者人数/日
4月	17	548	18	32	1.1
5月	17	559	31	33	1.8
6月	16	678	17	42	1.1
7月	10	817	8	82	0.8
9月	8	587	7	73	0.9
10月	17	635	9	37	0.5
11月	17	993	11	58	0.6
12月	10	629	6	63	0.6
1月	14	881	13	63	0.9
2月	14	1719	51	123	3.6
3月	1	203	3	203	3.0
合計	141	8249	174	59	1.2



### 平成17年度 プログラム相談員勤務報告

月	勤務日数	利用者人数	質問者人数	利用者人数/日	質問者人数/日
4月	18	945	20	53	1.1
5月	14	887	9	63	0.6
6月	22	1214	32	55	1.5
7月	12	937	12	78	1.0
10月	17	916	17	54	1.0
11月	15	659	5	44	0.3
12月	15	934	10	62	0.7
1月	15	1468	22	98	1.5
2月	4	267	3	67	0.8
3月	0	0	0	0	0.0
合計	132	8227	130	62	1.0



出典：情報処理センター資料

資料 7 - 1 - ② - 4 機械電気工学科製図室利用状況を示す写真



出典：機械電気工学科資料

資料7-1-②-5 2004年1月～2005年3月31日の情報電子工学科電算機室時間外利用者人数 (UNIX利用)

2004年1月～2005年3月31日のIE電算機室時間外利用者人数(UNIX利用)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	合計
2004年	1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9	24	27	11	12	21	12	4	5	50	9	12	16	4	217
	2月	0	38	32	10	17	30	12	10	25	35	0	16	29	9	5	16	31	23	13	25	10	4	19	51	16	8	17	1	1		503	
	3月	5	5	14	26	5	2	5	6	8	12	14	1	4	0	2	1	3	0	2	0	1	0	0	0	0	3	2	0	0	0	121	
	4月	0	0	2	0	1	4	6	5	3	2	1	1	1	9	4	4	0	0	4	1	9	4	11	0	0	14	4	52	0	4	146	
	5月	0	0	0	0	0	8	21	4	3	29	33	22	26	23	1	0	11	11	72	51	16	7	33	40	33	48	7	9	4	6	20	538
	6月	13	4	5	2	0	6	0	5	0	9	0	0	0	24	18	5	12	11	1	2	1	21	23	34	19	2	0	19	22	13		271
	7月	23	10	23	0	14	8	8	2	7	1	6	13	4	18	5	1	0	1	0	1	2	2	0	12	0	2	3	1	6	3	1	177
	8月	0	4	1	2	2	9	5	5	2	5	2	8	3	2	2	6	9	5	3	8	2	4	3	3	7	5	1	9	2	0	4	123
	9月	11	9	10	16	8	26	0	0	9	10	2	5	6	2	7	1	3	1	2	4	0	1	0	0	5	0	13	15	18	18		202
	10月	14	6	0	2	0	2	1	7	2	7	10	15	7	12	2	4	9	20	11	14	27	37	2	0	4	2	5	7	2	3	0	234
	11月	18	6	20	30	17	10	11	0	0	0	0	0	0	16	28	8	3	10	27	21	0	35	20	18	19	10	37	7	28		399	
	12月	5	16	20	35	13	26	36	32	14	6	22	38	20	32	37	34	5	6	20	24	28	12	9	37	17	17	18	0	0	0	0	579
2005年	1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	20	13	6	8	0	0	30	23	29	7	20	10	7	53	5	20	9	12	16	4	3	305
	2月	2	30	16	2	20	10	30	27	31	2	16	7	3	20	7	10	26	20	13	25	10	4	19	0	0	0	0	0			350	
	3月	0	0	1	6	1	1	6	9	9	9	4	8	7	5	9	4	2	1	9	0	0	4	7	0	9	0	7	6	0	4	9	137
	4月	0	0	0	0	3	7	7	5	9	6	2	6	7	4	17	8	9	7	15	15	11	17	5	5	25	10	19	1	8	10		238
	5月	0	0	0	0	0	15	0	4	15	11	17	16	7	23	1	3	17	1	18	17	16	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	188
	6月	2	4	3	2	0	12	17	17	6	8	0	0	9	25	9	5	2	11	1	0	6	7	4	4	19	2	0	13	9	24		221
	7月	0	10	7	5	19	22	8	5	7	1	10	17	0	18	17	1	0	1	17	22	19	2	0	12	29	25	3	22	2	3	1	305
	8月	15	19	15	11	17	9	5	2	13	19	12	4	3	2	18	12	18	6	16	8	2	25	24	21	5	20	1	9	15	28	19	393
	9月	0	0	0	0	0	0	0	11	10	2	0	15	4	22	5	3	1	5	6	21	28	25	0	5	0	0	0	0	0	0	0	163
	10月	14	6	5	19	24	15	5	7	0	0	21	25	11	2	0	0	13	7	7	1	13	0	0	29	6	26	26	14	0	0	0	296
	11月	24	23	15	5	8	4	26	26	11	6	9	3	0	20	5	19	28	24	10	6	12	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	288
	12月	16	18	0	0	15	18	9	15	4	0	0	26	4	20	28	5	0	0	4	29	21	20	13	19	6	28	2	0	0	0	0	320
2006年	1月	0	0	0	0	0	0	5	7	0	8	37	0	0	0	0	38	23	19	38	31	0	0	38	22	3	30	23	0	0	9	8	339
	2月	7	9	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	27	0	0	0	0	9	29	35	18	17	0	0	0	0	0		189	
	3月	0	5	4	0	0	6	14	1	6	0	0	0	0	8	5	1	0	11	0	0	11	0	7	1	5	0	0	1	5	7	4	5

出典：情報電子工学科電算機室資料

資料 7-1-②-6 学生研究室利用状況を示す資料（専攻科学生研究室の写真）



出典：専攻科資料

資料 7-1-②-7 図書館の利用について（抜粋）

## 6. 図書館の利用について

図書館を利用するには、次のようなきまりがあります。これらをよく理解して学習に活用し、また読書の楽しみを十分に味わってください。

利用についてわからないことや希望があれば、カウンターに遠慮なく申し出てください。

### 1. 開館時間

平日 9:00～20:00

土・日曜日 9:00～13:00

ただし、春季、夏季、冬季及び学年末の休業期間中は

平日 9:00～17:00

土・日曜日 休館

### 2. 休館日

国民の祝日

年末年始（12月28日から翌年1月4日まで）

その他、校内行事及び業務上必要な日（前もって掲示します）

### 3. 入館と退館

図書館に入館するときは、**学生証が必要**です。

入館ゲートに**学生証を提示し、ゲートのバーを押して入ります。**

カバンやコート等はそのまま持って入ってください。

退館のときは、出口ゲートのバーを押して出ます。この時、貸出手続の済んでいない図

出典：図書館利用案内

## 資料7-1-②-8 e-learning ソフト導入を示す資料

(1)

徳山高専におけるイントラネットを活用した英語自習学習ソフトの  
概要・導入・これまでの成果・今後の展望について

## 英語自習学習ソフトの概要

徳山高専では、株式会社アルク教育社が開発したALC NetAcademyという、LAN環境で利用できるネットワーク型の英語学習システムを導入し、全学生がいつでも自由に英語の学習を行えるようになりました。

これは、本校の学習・教育目標であります「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」の、特に「世界に通用する」という部分の達成に必要な、英語によるコミュニケーション能力の育成のために導入したものです。

この学習システムでは、学習教材の置かれた教育用サーバーからイントラネットを通じて学習者に教材が提供されます。学習者はネットワークにつながった各コンピュータのwwwブラウザ上で学習を行います。

文字・音声・画像を同時に扱うという、コンピュータのマルチメディア機能と双方向性が生かされているので、学生は効果的な英語の自習学習が可能になりました。

また、ソフトの管理者（英語科の教員）は、学習者の学習履歴や進捗、理解度テストの成績などを随時把握することができます。

## 導入

現在、徳山高専では、ALC NetAcademyの2コースが導入されています。

まず、平成14年5月より、「初級・中級者のためのTOEICテストスコアアップコース」というTOEICテストのための基礎力強化を目的とした自習学習ソフトが導入されました。

そして、平成15年4月より、「IT時代の技術英語<基礎>コース」という基本的な科学技術ライティングや工業英検のための基礎力を身につけることを目的とした自習学習ソフトが導入されました。

平成14年度には、「初級・中級者のためのTOEICテストスコアアップコース」について専攻科生全員と希望する教職員(計75人)を受講者登録しましたが、平成15年5月7日には、「初級・中級者のためのTOEICテストスコアアップコース」、「IT時代の技術英語<基礎>コース」のどちらのソフトについても、専攻科および本科の学生全員と希望する教職員(計719人)の登録を完了しました。

現在、誰でも情報処理センターのコンピュータからログインして自習学習をすることができます。



情報処理センターで自習学習ソフトを利用して英語の学習をしている専攻科1年生  
(平成15年4月22日撮影)

## これまでの成果

ここでは、平成14年度に導入した「初級・中級者のためのTOEICテストスコアアップコース」のこれまでの成果の一端を示します。

まずは、平成14年度の専攻科2年生について例示します。

徳山高専では、TOEIC（本試験もしくはIPテストのいずれか）で400点以上を取得することが修了要件の1つとして専攻科生に課せられています。特に、専攻科2年生は、本校で実施されるIPテストの受験が義務づけられています。

そこで、平成14年度の専攻科2年生について、本学習ソフト導入後の学習進捗状況（実質的な学習効果が現れると思われる進捗率50%をグループ分けの境界としました）と、導入の約半年後（平成14年9月4日）に実施されたTOEIC IPテストの結果とを比較してみました。

- ・ 専攻科2年生（平成14年度）の学生数 25人
- ・ IPテスト（平成14年9月4日実施）の受験者数 24人
- ・ 受験者のうち学習ソフトの進捗率が50%以上の学生 6人・・・①
- ・ 受験者のうち学習ソフトの進捗率が50%未満の学生 18人・・・②

・ IPテスト受験者24人のうち、①のグループの平均点＝453.3点

・ IPテスト受験者24人のうち、②のグループの平均点＝372.8点

※平均点の差＝80.5点

本学習ソフトの効果以外の要因もありますし、各グループの人数が少ないので、一概には言えませんが、進捗率50%以上の

学習者の平均点が50%未満の学習者の平均点より80.5点も高かったという事実が得られました。

次に、平成15年度の専攻科2年生（15名）に関するデータを示します。

平成15年度の専攻科2年生は、平成14年5月から約1年間本学習ソフトを利用してきたわけですが、彼らとそのソフトを利用し始める前の平成14年4月17日に初めて一斉に受験したTOEICテストの結果の平均点は、384点でした。それに対して、ソフトの利用を開始して半年後以降に受験したTOEICテストの結果の平均点は、454点という、利用以前と比較してかなり高いものになりました。もちろん、他の要因が関係している可能性もありますが、ソフト利用前と利用後で平均点が70点も上昇したという事実は、特筆すべきです。

以上のことから、今後本ソフトによる学習を本格的に推進すれば、学生・教職員の英語力が向上すると予想できます。

今後の展望

本ソフトの導入は、教育環境の改善という点で大変意義深いと信じております。

今後は、「本科（5年次）卒業までにTOEICスコア400（同等レベルの実用英検、工業英検）を取得し、専攻科修了までにTOEICスコア500を取得する」ことを目標に、本英語自習学習ソフトの利用をさらに強力で推進する予定です。

出典：英語科資料

(2)

イントラネットを活用した英語自習学習ソフトについて（お知らせ）

2003年5月13日

学生の皆さんへ、

ネットワーク英語学習ソフト利用のための本科生の皆さんの登録が、教務係の石田さんや総合企画室の協力と尽力のおかげで終了しました。

皆さんのメールに、alctoeicという送信者から、登録終了の案内がすでに送られていて、そのメールには、皆さんがそのソフトにログインするためのアカウント名とパスワード名が書いてありますので、確認してください。

情報処理センターのパソコン（図書館のパソコンなど、他のパソコンは使えません）を利用して、その案内メールの中に書いてある<http://ippanka.tu.tokuyama.ac.jp/n-acad/bin/le/wletop.asp>

をクリックして直接英語学習ソフトのページに飛び、そこから「ログインする」をクリックした後、アカウントとパスワードを入力して、ログインすることもできますし、本校のホームページを立ち上げ、「リンク集」の下の方にある、「TOEIC学習ソフト（学内限定）」というところをクリックし、「ログインする」をクリックした後、アカウントとパスワードを入力してログインすることもできます。

ログインすれば、「初級・中級者のためのTOEICテストスコアアップコース」と「IT時代の技術英語＜基礎＞コース」の両方を学習することができるようになっております。（情報電子工学科の神田先生、土木建築工学科の桑島先生、英語科の長戸先生、情報処理センターの鳥居さん、林さんの協力と尽力により、情報処理センター内のパソコンでネットワーク英語学習ソフトを利用することが可能になりました。）

☆英語学習ソフトを利用する際には、以下の点に注意してください。

①本科の学生の皆さんがこのソフトを使って英語学習をするために利用できるのは、情報処理センターのパソコンだけです。

②パスワードは学習者側から変更することができますので、変更が必要な人は、ログインをクリックし、メールに送られてきたアカウントとパスワードを入力した後、新しく表示されるページにある「パスワードを変更する」という箇所から入り、変更をしてください。（変更したパスワード等を忘れないように注意しましょう。）

③情報処理センターの端末で学習をする場合には、イヤホンを各自で持参し、パソコン本体の後ろ側の差込口に端子を差し込んでから利用しないと、音声がかえみませんので、注意してください。また、極端に音量が大きい場合がありますので、耳に注意してください。

多くの方々の協力で、素晴らしい環境が整いました。この英語学習ソフトをどんどん活用して、英語力アップを目指しましょう。

分からない点がありましたら、国重まで質問に来てください。

英語科 国重 徹

出典：英語科から全学生・教職員への案内

資料 7-1-②-9 e-learning ソフト利用状況を示す資料 (学習進捗率)

※学生個人名及びアカウント名は、黒塗りにしてある。

講座名: **リスニング力強化コース (初級・中級)**

専攻科2年

所属1	氏名	アカウント	受講期限	受講開始日	最終受講日	受講回数	受講教材数	進捗率 (全20)
CA00			2011/5/6	2005/1/18	2006/2/27	34	10	50%
CA00			2011/5/6			0	0	0%
CA00			2011/5/6			0	0	0%
CA00			2011/5/6	2005/5/13	2005/5/13	2	0	0%
CA00			2011/5/6	2005/4/3	2005/5/7	27	4	20%
CA00			2011/5/6	2005/4/8	2005/4/14	8	1	5%
CA00			2011/5/6			1	0	0%
CA00			2011/5/6			8	0	0%
CA00			2011/5/6			0	0	0%
CA00			2011/5/6			0	0	0%
CA00			2011/5/6			0	0	0%
CA00			2011/5/6	2005/4/6	2005/4/6	2	0	0%
CA00			2011/5/6	2005/10/8	2005/10/8	24	0	0%
IE00			2011/5/6			0	0	0%
IE00			2011/5/6			0	0	0%
IE00			2011/5/6			1	0	0%
ME00			2011/5/6	2005/4/6	2006/4/7	27	10	50%
ME00			2011/5/6	2004/7/7	2006/2/28	13	10	50%
ME00			2011/5/6	2005/6/1	2005/6/1	3	1	5%
ME00			2011/5/6	2005/5/9	2006/5/11	13	9	45%
ME00			2011/5/6	2006/2/15	2006/2/24	3	0	0%
ME00			2011/5/6	2005/4/21	2005/4/21	3	2	10%
ME00			2011/5/6	2005/4/6	2005/10/4	27	10	50%
ME00			2011/5/6			0	0	0%
ME00			2011/5/6			0	0	0%
ME00			2011/5/6	2005/5/10	2005/11/4	12	10	50%

講座名: **技術英語 基礎コース**

専攻科2年

所属1	氏名	アカウント	受講期限	受講開始日	最終受講日	学習ポイント合計	受講回数	受講教材数	進捗率 (全32)
CA00			2011/5/6	2005/5/10	2005/5/12	452	17	9	28%
CA00			2011/5/6			-	0	0	0%
CA00			2011/5/6			-	0	0	0%
CA00			2011/5/6	2005/5/31	2005/5/31	255	11	9	28%
CA00			2011/5/6	2005/4/1	2005/5/27	528	12	8	25%
CA00			2011/5/6	2005/4/8	2005/5/31	753	18	9	28%
CA00			2011/5/6			-	0	0	0%
CA00			2011/5/6	2005/5/10	2005/5/12	471	17	9	28%
CA00			2011/5/6	2005/5/31	2005/5/31	280	9	8	25%
CA00			2011/5/6	2004/10/7	2005/5/18	461	10	8	25%
CA00			2011/5/6	2005/4/6	2005/6/1	35	7	1	0%
CA00			2011/5/6	2004/10/7	2005/4/5	365	31	16	50%
CA00			2011/5/6	2005/5/12	2005/10/8	693	26	8	25%
IE00			2011/5/6			-	0	0	0%
IE00			2011/5/6	2005/8/29	2005/10/14	300	11	8	25%
IE00			2011/5/6	2005/5/23	2005/8/29	331	10	8	25%
ME00			2011/5/6	2005/4/15	2005/5/13	581	21	16	50%
ME00			2011/5/6	2005/5/9	2006/2/9	418	18	8	25%
ME00			2011/5/6	2005/5/9	2005/7/30	464	19	9	28%
ME00			2011/5/6	2005/5/9	2005/8/26	406	12	9	25%
ME00			2011/5/6	2005/4/6	2005/4/12	652	12	9	28%
ME00			2011/5/6	2005/5/13	2005/5/13	480	12	8	25%
ME00			2011/5/6	2005/5/6	2005/5/13	320	9	8	25%
ME00			2011/5/6	2005/5/27	2005/5/27	350	10	9	28%
ME00			2011/5/6	2005/4/22	2005/4/22	417	11	9	28%
ME00			2011/5/6	2005/4/6	2005/5/10	346	19	9	25%

受講者数

単位:人	TOEICコース	科学英語コース
平成17年度の受講者数	140	140
平成16年度の受講者数	135	135
平成15年度の受講者数	313	346
平成14年度の受講者数	33	未導入

出典: 英語科資料

資料7-1-②-10 改装された学生談話室の写真



出典：学生課資料

資料7-1-②-11 福利厚生センターの写真



出典：学生課資料

資料7-1-②-12 合宿研修所の写真



出典：学生課資料

資料7-1-②-13 福利厚生センター及び合宿研修所の利用状況を示す資料

		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	
		平成17年度夏季休業合宿練習計画表																										別紙1	
3	クラブ名	卓球	ハンド	陸上	サッカー		バレー	バスケット	水泳	宿泊学生数		宿直教員																	
4	顧問教員	原田 幸雄	池田 光優	小田 和広	藤田 重隆		佐賀 孝徳	原田 徳彦	杉村 敦彦	宿直学生数		宿直教員																	
5		桂 哲男	重村 哲至	逆瀬川 栄一	守川 和夫		国重 徹		桑嶋 啓治																				
6		長戸 喜隆	河村 進一	斎藤 一彦	斎藤 貴史				伊藤 尚																				
7			上 俊二	新田 貴之				大成 博文																					
8										合宿	福利	合宿																	
9	責任者氏名									研修	厚生	研修																	
10										施設	センター	施設																	
11	参加学生数	16名		10名		23名		12名		10名		26名		1名		7名													
12	練習場所	第1体育館		ハンドコート		陸上グラウンド		サッカーグラウンド		第2体育館		第2体育館		プール															
13	利用期間	7/22~8/3		7/21~29		8/16~19		7/22~25		7/22~30		7/22~30		7/22~25															
14		8/22~8/26								8/2~8/5																			
15	利用施設	合宿		研修		施設		福利厚生		センター																			
16	7月21日 木			10																10		0		10		池田光			
17	22日 金			5		10				12		10		26		1		6		27		43		70		藤田		伊藤	
18	23日 土	16		研修室		10		研修室		12		10		26		1		7		38		44		82		重村		守川	
19	24日 日	16		①		10		②		12		10		26		1		7		38		44		82		原田幸		大成	
20	25日 月	16		10		10								26		1				26		27		53		河村		原田徳	
21	26日 火	研修室		16		10								26		1				26		27		53		桂		佐賀	
22	27日 水	③④		16		10		ハンドメント部				大研修室		26		1				26		27		53		池田光		原田徳	
23	28日 木	16		10				義永 常宏				26		1						26		27		53		重村		国重	
24	29日 金	16						江口 啓和				26		1						16		27		43		長戸		佐賀	
25	30日 土	16																		16		0		16		原田幸			
26	31日 日	16						6名												22		0		22		桂			
27	8月1日 月	16						第1体育館												16		0		16		長戸			
28	2日 火	16						8/3~5						26						16		28		42		原田幸		国重	
29	3日 水									6				大研修室		26				6		28		32		義永		佐賀	
30	4日 木							①		6				作法室		13				6		13		19		江口		国重	

出典：学生係資料

資料7-1-②-14 利用状況の評価・レビューする部署として効率化ワーキンググループに依頼する予定であることを示す将来計画委員会の議事録（抜粋）

平成18年度第1回将来計画委員会議事録

1. 日時 平成18年4月26日（水） 17:15~17:45
2. 場所 管理棟2階会議室
3. 出席者等 国重委員長、原田（幸）、門脇、池田、山田（健）、奥本、大成、森下、鈴木、大坪、重松（欠）、（兼本）、（河上）
4. 配付資料
  - ・資料1 年次計画表1
  - ・資料2-1 「大学の活力ある発展と施設運営コストの最適化 地の拠点-大学の施設マネジメント」について（通知）
    - 2 大学施設の管理運営をとりまく状況
    - 3 施設の点検・評価に関する取組状況
5. 議事
  - (2) 現有施設の効果的な活用方策について
    - 施設の活用状況の評価・レビューを効率化WGに依頼し、その結果を基に効果的な活用方策を委員会で検討する。

出典：将来計画委員会議事録

観点7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

- ・授業についての学習支援に関する学生のニーズは、各教科担当の教員が「学習シート」を活用

することにより、適切に把握している（資料 7-1-③-1）。

- 毎年英語科では、新入生全員を対象とした英語に関するアンケートを実施し、取得希望の英語の資格や、留学希望の有無などを調べることにより、学習支援に関する学生のニーズを適切に把握している（資料 7-1-③-2）。
- 専門分野の資格試験や検定試験受講のニーズについても各学科で資格試験受験者数調査などにより把握している（資料 7-1-③-3）。

(分析結果とその根拠理由)

- 学習支援に関する学生のニーズを、「学習シート」やアンケート調査によって適切に把握している。

以上のことから、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されている。

資料 7-1-③-1 「学習シート」の学生のニーズと教員の回答が記載されたサンプル  
 ※学生名や番号は黒塗りにしてある。また、学生のニーズと教員の回答の部分は、黄色でハイライトしてある。

複素数・ベクトル 第1回学習シート 2005/04/18

1E2年 [ ]番 氏名 [ ]

今日の学習項目  
 1. 三角関数の復習。

理解度チェック

1. 今日の授業は1年次の復習でした。ここまでで、理解しにくいところや質問があれば以下に具体的に記入してください。

板書すると大事な所は"赤"とか"黄色"

板書すると大事な所は"赤"とか"黄色" ⇒ あり72(7-、  
 ない72(7-)

板書すると大事な所は"赤"とか"黄色"

板書すると大事な所は"赤"とか"黄色"

2. 教科書 p.61 練習問題 3.2 をすべて解いてください。

(1)  $\cos \theta = \frac{1}{2}$   $\theta = 60^\circ$  (2)  $\sin \theta = 0.87 \approx \frac{\sqrt{3}}{2}$   $\theta = 60^\circ$  (3)  $\tan \theta = 1$   $\theta = 45^\circ$  (4)  $\cos \theta = 0.7 \approx \frac{1}{\sqrt{2}}$   $\theta = 45^\circ$

3. 教科書 p.65 練習問題 3.7 を解いてください。途中の式も書いてください。

2

複素数・ベクトル 第1回学習シート

2005/04/18

I E 2 年 番 氏名

今日の学習項目

1. 三角関数の復習。

理解度チェック



1. 今日の授業は1年次の復習でした。ここまでで、理解しにくいところや質問があれば以下に具体的に記入してください。

公式を覚えても、いつどんなときに使うのか分からない  
三角比は何に使うのかも分からない

7月01日と4月18日との差は約3ヶ月  
算術的処理しているのか分かるように  
なすには、通信(TV, 3G, 携帯電話等)では  
電波(信号)を利用している。  
= 電波(信号)は  
三角関数を用いて表わす可  
な複雑な電波の様子を  
簡単な信号の和や積で  
表わせばOK 表わす可  
電波を数字で表現すれば  
三角関数を用いて表わす可  
= 電波(信号)は  
三角比を用いて表わす可  
算術的処理は復習  
2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

2. 教科書 p.61 練習問題 3.2 をすべて解いてください。

(1)  $\cos \theta = 0.5 \Rightarrow \theta = 60^\circ$   
 (2)  $\sin \theta = 0.87 \Rightarrow \theta = 60^\circ$   
 (3)  $\tan \theta = 1 \Rightarrow \theta = 45^\circ$

3. 教科書 p.65 練習問題 3.7 を解いてください。途中の式も書いてください。

$\tan 60^\circ = \sqrt{3} = \frac{20+x}{x}$   
 $20+x = \sqrt{3}x$   
 $20 = (\sqrt{3}-1)x$   
 $x = \frac{20}{\sqrt{3}-1} = \frac{20}{0.73} = 27.3 \dots$

4. 教科書 p.73 練習問題 3.14 を解いてください。(頂角 B, C → 頂角 A, B へ訂正)

$a^2 = b^2 + c^2$   
 $a^2 = 49 + 36 = 85$   
 $a = \sqrt{85}$

$\frac{6}{\sin 40} = \frac{7}{\sin B} = \frac{6}{\sin A}$   
 $6 \cdot \sin B = 7 \sin 40$   
 $\sin B = \frac{7 \sin 40}{6}$

$\frac{6}{\sin 40} = \frac{6}{\sin A}$   
 $\sin 40 = \sin A$   
 $A = 40$

5. 教科書 p.77 練習問題 3.19 をすべて解いてください。

(1)  $\sin(\alpha - \beta) = \sin \alpha \cos \beta - \cos \alpha \sin \beta$   
 $= \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{1}{2} - \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2}$   
 $= \frac{1}{2\sqrt{2}} - \frac{\sqrt{3}}{2\sqrt{2}} = \frac{1-\sqrt{3}}{2\sqrt{2}}$

(2)  $\cos(\alpha + \beta) = \cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta$   
 $= \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{1}{2} - \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2}$   
 $= \frac{1}{2\sqrt{2}} - \frac{\sqrt{3}}{2\sqrt{2}} = \frac{1-\sqrt{3}}{2\sqrt{2}}$

(3)  $\tan(\alpha + \beta) = \frac{\sin \alpha + \sin \beta}{1 - \sin \alpha \sin \beta} = \frac{1 + \sqrt{3}}{1 - 1 \cdot \sqrt{3}} = \frac{1 + \sqrt{3}}{1 - \sqrt{3}}$

授業担当教官 百田正広  
 Email: momota@tokuyama.ac.jp

出典：情報電子工学科 (百田教員) 資料

資料7-1-③-2 英語科の新入生を対象としたアンケート

※学生名にはモザイクがかけてある。

1年 [モザイク]

① 自己紹介

私は 中学から バスケをやっていて  
 高専に入っても 続けています。  
 光市の大和中学校 出身です。  
 英語は 大好きだけど、苦手です↓  
 でも 得意分野 にしていきたい

② リスニング が 長女問題

③ 英作 文章を書くのが 苦手

④ 工業英検 4級  
 実用英検 準2級 にチャレンジしたい  
 TOEIC もやってみたい 400以上!

⑤ 実用英検 3級

⑥ 無し.

⑦ 無し.

⑧ 短期留学を 1・2週間 カナダ、アメリカ、に行ってみたい

⑨ 高専に入って 勉強とか 難しいけど、学校が楽しい  
 ので 頑張ろうと思います。  
 オススメ お店 → 紅屋 (ハンバーガー), 紅蘭 (ラーメン)  
 美味しい!  
 ダイエット法 → 炭水化物を減す(抜く)  
 筋トレ, ストレッチ

出典：一般科目資料

資料7-1-③-3 専門分野の資格試験や検定試験受講のニーズを把握していることが分かる資料（各種資格試験受験者数一覧）

情報処理技術者試験受験者数

	H.17 春	H.17 秋	H.18 春
基本情報技術者	50	64	45
初級アドミニストレータ	1	1	1
ソフトウェア開発技術者	8	15	10
テクニカルエンジニア (ネットワーク NW)		4	
情報セキュリティ アドミニストレータ(SS)		1	
テクニカルエンジニア (エンベデッドシステム ES)			1

電気通信工事担任者試験受験者数

	H.17 春	H.17 秋	H.18 春
デジタル第1種	18	1	
アナログ・デジタル総合種	2		
DD 第3種		1	
DD 第1種		6	10
AI 第3種		1	
AI・DD 総合種		1	

出典：情報電子工学科資料

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

- ・工業英検，実用英検，TOEICテストのための補習や，専門関係の検定試験のための補習を実施し，合格率向上に貢献している（資料7-1-④-1，資料7-1-④-2，資料7-1-④-3）。
- ・図書館に資格取得関係の資料や試験問題を一括して集めたコーナーを用意している（資料7-1-④-4）。
- ・合格者へのインセンティブとして各種資格取得による単位修得の認定制度を導入している（資料6-1-②-1）。また，経済的支援の一環として合格者に対する受験料免除制度を導入している（資料5-1-②-5，資料7-1-④-5，資料7-1-④-6）。

- ・毎年実施する海外語学研修では、参加者に対して経済的な支援を行うだけでなく、研修修了者には「インターンシップ」科目の単位を認定している（資料7-1-④-7，資料7-1-④-8）。
- ・カリフォルニア大学サンディエゴ校（以下UCSD）及びフィティレア・ポリテクニクと学術交流協定を結ぶことにより，海外留学の機会を増やした（資料5-1-②-2，資料5-1-②-3）。
- ・徳山高専夢広場において，サテライト委員会の主催で「いんぐりっしゅ☆る～む」を毎週金曜日の17時30分より1時間開催している。これは，徳山高専の学生，教職員，市民が自由に参加できる英会話の活動であり，英語に関する資格試験や検定試験，外国留学のための支援体制の一つとして機能している（資料7-1-④-9）。

(分析結果とその根拠理由)

- ・各種資格試験や検定試験受講及び海外留学のための支援体制が十分整備され，機能している。  
以上のことから，資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能している。

資料7-1-④-1 各検定試験の補習案内，教材，受講者数などの資料

(1) 補習案内

## 2006年度1回目の工業英検

(5月28日(日)実施) 受験者へ

◎先日締め切られました工業英検の受験者数は、以下の通りになりました。

4級=36名(うち外部受験者5名)

3級=3名(うち外部受験者2名)

2級=2名(うち外部受験者1名) 合計41名

**◎工業英検対策の補習(約30分程度)についてお知らせします。**

☆4級(担当 国重)

◎日にち:5月20日(土) ※水曜日課の日です

◎時間:1回目(1年生用)16:15~ 2回目(2年生用)17:15~

◎場所:メディアホール

※持参するもの:英和・和英辞書、筆記用具(当日都合でどうしても参加できない人は、補習会場まで行き、プリントをもらって学習してください)

※2、3級については、国重が個別対応をしますので、受験者は研究室に来てください。

**◎5月28日(日)検定試験当日の試験場、集合時間をお知らせします。**

4級

メディアホール

集合時間:9時20分までに(試験時間60分)

## (2) 補習教材

2006年度 (春) 工業英検4級補習 (国重)

◎どんな問題が出題されるか?編

4級は全て記号問題。200点満点で、大体6割以上できていれば、合格。

I 英文の日本語訳として正しいものを選ぶ問題。(1問10点×7問=70点) ※配点が高いので、この問題を全問正解するとたいてい合格します。分かりにくい時は、おかしな箇所のある和訳を消去法で除外するとよい

例題: Most modern aircraft use jet engines in one form or another.

1. 最新鋭の航空機は、ジェットエンジンをさまざまな形で利用している。
2. 現代の航空機のは大半は、さまざまな形式のジェットエンジンを利用している。
3. 最新鋭の航空機が利用しているのは、特殊な形式のジェットエンジンである。
4. 現代の航空機は、1ないし2基のジェットエンジンを利用している。

II 工業英単語の和訳選び。(1問2点×15問=30点) ※しっかり単語を覚えておこう。

例題: (a) figure 1.事実 2.図 3.画面

(b) waste 1.待機 2.腰部 3.廃棄物

(c) construct 1. 建設する 2.舗装する 3.計画する

III 途中でけられた英文を結びつける問題。(1問3点×5問=15点) ※SVOなどの構文を意識して解く。

例題: (a) When you bend rubber between your fingers 1. are of our own making.

(b) The environmental problems we face 2. because it reflects the sun's light.

(c) The moon shines 3. it changes shape.

IV ( )内に適語を入れる問題。(1問3点×5問=15点)

例題: (a) Wavelength is the distance ( ) the tops of two waves. 1. population

(b) The ( ) of lions and elephants is rapidly decreasing. 2. survive

(c) Some desert animals can ( ) intense summer heat and dryness. 3. between

V 適語を選ぶ問題。(1問4点×5問=20点) ※文法の知識を総動員して解く。

例題: (a) Many rockets use a liquid fuel, (1. so 2. such 3. as long) as kerosene or alcohol.

(b) Rain forests (1. away 2. among 3. along) the equator are getting smaller and smaller.

VI 日本語のヒントを頼りに英文の( )内に適語を入れる問題。(1問4点×5問=20点)

例題: (a) Move the screw six centimeters ( ) the right. ネジを右へ6cm移動させなさい。

(b) Never ( ) water on an organic solvent fire. 有機溶剤の火災には水を使用してはならない。

(c) Short radio waves have ( ) frequencies than long waves. 短波は長波より周波数が…。

1. leave 2. equal 3. for 4. throw 5. same 6. lower 7. using 8. remove 9. to 10. higher

VII 工業単語の英訳選び。(1問2点×15問=30点) ※書けないまでも、見たら言えるレベルまで覚えよう。

例題: (a)掘る 1.dig 2. deep 3. drain

(b)連鎖 1.chain 2. change 3. block

(c)含む 1. contend 2. contain 3. content

(3) 受講者数を示すものは訪問調査時に名簿の実物を提示予定。

出典: 英語科資料

資料 7-1-④-2 各検定試験の受験者と合格者などの実績を示す資料

平成15年度英語検定資格取得者数			
検定試験の種類	合格者数	受験者数	合格率等
実用英検2級	4名	16名	25%
実用英検準2級	17名	35名	48.6%
工業英検2級	1名	5名	20%
工業英検3級	11名	41名	26.8%
工業英検4級	80名	121名	66.1%
TOEICIPテスト470点以上	12名	149名	8.1%
TOEICIPテスト400点以上	23名	149名	15.4%

平成16年度英語検定資格取得者数			
検定試験の種類	合格者数	受験者数	合格率等
実用英検2級	4名	24名	16.6%
実用英検準2級	28名	55名	50.9%
工業英検2級	0名	1名	0%
工業英検3級	9名	34名	26.5%
工業英検4級	85名	142名	59.9%
TOEICIPテスト470点以上	25名	177名	14.1%
TOEICIPテスト400点以上	29名	177名	16.4%

平成17年度英語検定資格取得者数			
検定試験の種類	合格者数	受験者数	合格率等
実用英検2級	5名	40名	13%
実用英検準2級	35名	80名	43.8%
工業英検2級	1名	2名	50%
工業英検3級	4名	26名	15.4%
工業英検4級	69名	99名	69.7%
TOEICIPテスト470点以上	33名	261名	12.6%
TOEICIPテスト400点以上	46名	261名	17.6%

出典：英語科資料

資料 7-1-④-3 学科別各検定試験の補習案内、教材、受講者数などのサンプル

(1) 情報電子工学科による基本情報技術者試験のための勉強会案内

基本情報技術者試験のための

## 勉強会

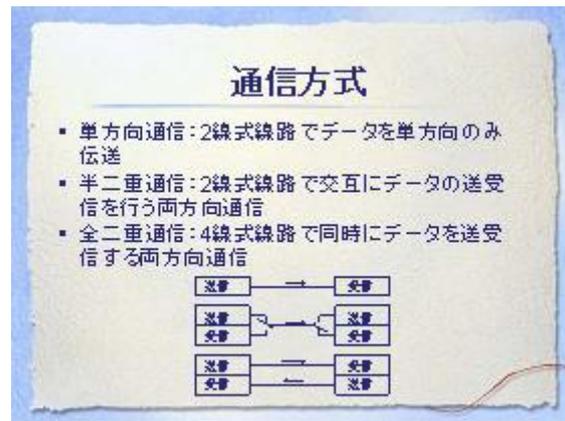
実施計画

- 形態  
各回の分野について、テキストに沿って事前に自習し、理解できない箇所等を勉強会で解決する
- テキスト  
三輪幸市著「基本情報技術者スーパー合格本 2005 秋(ROM 付)」(秀和システム)
- 日程

日時	場所	分野	ページ	担当
6/30(木) 15:30-16:30	合併教室	第1部 コンピュータの科学基礎	pp. 1-98	力山本
7/7(木) 15:30-16:30	合併教室	第2部 コンピュータシステム	pp. 99-221	江口

出典：情報電子工学科資料

(2) 情報電子工学科による電気通信工事担任者資格春期実力養成講座の教材サンプル



出典：情報電子工学科資料

(3) 情報電子工学科による電気通信工事担任者資格春期実力養成講座参加者出席簿

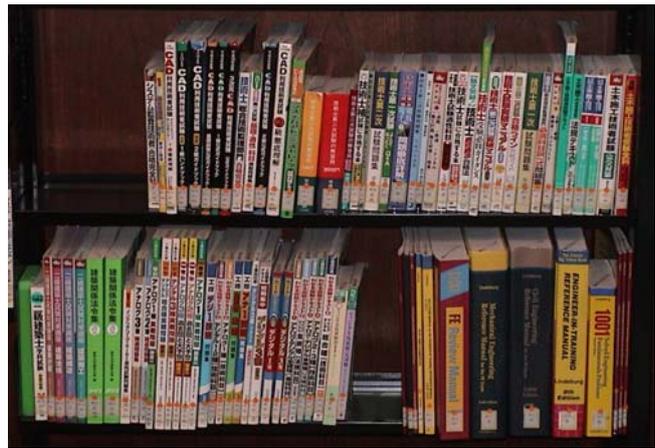
**電気通信工事担任者資格 春期実力養成講座 参加者 出席簿**

2006年

		3月15日	3月16日	3月17日	3月20日	3月22日
		論理回路	電子回路	電気回路	伝送理論	通信工学
IE3		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○
IE4		○	○	○	○	○

出典：情報電子工学科資料

資料 7-1-④-4 図書館内の資格取得関係のコーナーの写真



出典：図書館内の写真

資料 7-1-④-5 受験料免除の規則

**資格取得奨励制度要項**

平成15年7月5日  
徳山高専後援会

1. 趣旨

外部資格の取得に挑戦することは、学生が自ら目標を定めて学習する契機になるとともに、自らの学力を客観的に確認できるという意味においても有意義である。もちろん、社会に出てから、取得した資格が役立つことも大いに期待される。

このような資格取得の意義に鑑み、その促進を図るため、資格取得者に対する報奨金制度を設ける。

2. 対象となる資格及び報奨金の額

(1) 下記の資格については、その資格の受験料の全額に相当する額  
 実用英語検定 2 級以上  
 工業英語検定 2 級以上  
 TOEIC 470 点以上 (IP を含む) (1 回に限る)  
 実用数学技能検定 1 級  
 日本漢字能力検定 1 級  
 日本語文章能力検定 2 級以上  
 情報処理技術者 (基本情報技術者及び初級システムアドミニストレータを除く。)  
 電気通信工事担任者 (アナログ・デジタル各 1 種又は総合種)  
 デジタル技術検定 1 級  
 測量士  
 二級建築士  
 その他上記と同等以上と認められる資格 (ただし、徳山高専の学習・教育目標と関連を有するものに限る。)

(2) 下記の資格については、その資格の受験料の半額に相当する額  
 実用英語検定準 2 級  
 工業英語検定 3 級  
 TOEIC 400 点以上 470 点未満 (IP を含む) (1 回に限る)  
 実用数学技能検定準 1 級  
 日本漢字能力検定準 1 級  
 日本語文章能力検定準 2 級  
 基本情報技術者  
 初級システムアドミニストレータ  
 電気通信工事担任者試験 (アナログ・デジタル各 2 種)  
 デジタル技術検定 2 級  
 CAD 利用技術者検定 2 級以上  
 土木施工技術者  
 福祉住環境コーディネータ 2 級以上  
 その他上記と同等と認められる資格 (ただし、徳山高専の学習・教育目標と関連を有するものに限る。)

3. 報償金の交付手続き等

- (1) 上記に該当する資格を平成 15 年 4 月 1 日以降に取得した学生は、徳山高専後援会事務局に所定の様式をもって、報奨金の交付を申請できるものとする。
- (2) 徳山高専後援会事務局は、審査の上、徳山高専後援会長の了承を得て、報奨金を交付する。
- (3) 上記 (1) の申請は、随時行えるものとし、異なる資格であれば、申請回数に制限は設けない。

4. その他

2 項、3 項について、この要項によりがたい事由が生じた場合は、徳山高専後援会事務局は徳山高専後援会長と協議の上、実施するものとする。

出典：教務係資料

資料 7-1-④-6 受験料免除を行った実績を示す資料

※学生名は黒塗りにしてある。

資格取得奨励制度：申請者一覧

(平成 18 年度 2 月末日現在)

学科	学年	氏名	取得資格名	取得日	備考	受験料(円)	区分 全額・半額	金額(円)	支払金額 (円)	受領印
機械電気工学	3		TOEIC (470 以上)	H18.1.18	スコア 595	4,500	全額	4,500	4,500	
機械電気工学	4		機械設計技術者試験 3 級	H18.1		8,000	全額	8,000	8,000	
機械電気工学	4		TOEIC (400 以上 470 未満)	H18.1.18	スコア 405	4,500	半額	2,250	2,250	
機械電気工学	4		CAD 利用技術者試験 2 級	H17.7.13		5,000	半額	2,500	2,500	
機械電気工学	4		機械設計技術者試験 3 級	H18.1		8,000	全額	8,000	8,000	
機械電気工学	4		機械設計技術者試験 3 級	H18.1		8,000	全額	8,000	8,000	
機械電気工学	4		CAD 利用技術者試験 2 級	H17.7.13		5,000	半額	2,500	2,500	
機械電気工学	4		CAD 利用技術者試験 2 級	H17.7.13		5,000	半額	2,500	2,500	
機械電気工学	4		TOEIC (470 以上)	H18.1.18	スコア 475	4,300	全額	4,300	4,300	
機械電気工学	5		機械設計技術者試験 3 級	H18.1		8,000	全額	8,000	8,000	
機械電気工学	5		TOEIC (400 以上 470 未満)	H17.10.19	スコア 405	4,000	半額	2,000	2,000	
機械電気工学	5		TOEIC (400 以上 470 未満)	H18.1.18	スコア 425	4,500	半額	2,250	2,250	
機械電気工学	5		TOEIC (470 以上)	H18.1.15	スコア 500	4,200	全額	4,200	4,200	
機械電気工学	5		機械設計技術者試験 3 級	H18.1		8,000	全額	8,000	8,000	
情報電子工学	2		TOEIC (470 以上)	H18.1.18	スコア 480	4,500	全額	4,500	4,500	
情報電子工学	2		実用英語検定準 2 級	H17 年第 2 回		3,600	半額	1,800	1,800	
情報電子工学	3		TOEIC (400 以上 470 未満)	H18.1.18	スコア 455	4,500	半額	2,250	2,250	
情報電子工学	3		TOEIC (470 以上)	H18.1.18	スコア 580	4,500	全額	4,500	4,500	
情報電子工学	3		TOEIC (400 以上 470 未満)	H18.1.18	スコア 400	4,500	半額	2,250	2,250	
情報電子工学	4		TOEIC (470 以上)	H18.1.18	スコア 545	4,500	全額	4,500	4,500	
情報電子工学	4		TOEIC (400 以上 470 未満)	H18.1.18	スコア 425	4,500	半額	2,250	2,250	
情報電子工学	4		TOEIC (470 以上)	H18.1.18	スコア 495	4,200	全額	4,200	4,200	

出典：教務係資料

## 資料 7-1-④-7 海外語学研修募集要項

平成 18 年度徳山工業高等専門学校海外研修奨学生募集要項

## 1 趣旨

徳山工業高等専門学校海外研修奨学金取扱要領に基づき、本校の学生がコミュニケーション能力の向上及び国際理解を深めるため海外研修を行う場合において、その旅行費用の一部を補助する。

## 2 応募資格

次の各号に該当する者とする。

(1) 徳山工業高等専門学校の本科 3 年生、4 年生、5 年生及び専攻科 1 年生、2 年生に在学し、心身ともに健全であり、学業成績が優秀な者(外国人留学生を除く。)

(2) 語学力の向上及び国際的教養を体得することに高い関心がある者

## 3 採用人員

10 名程度

## 4 支給金額

海外研修奨学金は、1 人当たり 10 万円程度とする。

(旅行費用及びその他諸経費については別紙参照)

## 5 研修先及び研修方法

ニュージーランド国フィティレイア ポリテクニク オークランド校に通学し、

基本的にホームステイをしながら、午前中は英語研修を行い、午後は体験学習や見学会等を研修プログラムに基づき実施する。

(研修プログラム等については別紙参照)

## 6 研修期間

平成 18 年 7 月 23 日(日)～8 月 20 日(日) (29 日間)

## 7 応募の受付

受付期間

平成 18 年 4 月 20 日(木)～5 月 8 日(月) [8:30～17:15]

希望者は、海外研修奨学金申請書及び海外研修計画調書を、学生課教務係に提出する。(申請書等は、学生課教務係で受領すること。)

## 8 選考及び結果通知等

(1) 選考は、教務委員会が行い、校長が決定する。

(2) 選考結果は、平成 18 年 5 月 12 日(金)までに当該者に通知するとともに、別途、決定通知書を交付する。

(3) 海外研修奨学生として決定した者は、決定通知から 7 日以内に「誓約書」を校長に提出する。

## 9 留意事項

(1) この制度は、海外研修を行う者に対して、その経費の一部を補助するものであり、万一、研修中に事故が生じたときのことを考慮し、各自必ず海外旅行傷害保険に加入する。

(2) 海外研修奨学生には、パスポートの取得方法やホームステイにおける注意事項等について、出発までに説明会を開催する。

(3) 海外研修終了後、校長あてに海外研修報告書を提出する。また、海外研修報告会を実施することとなった場合には、研修成果の発表を行う。

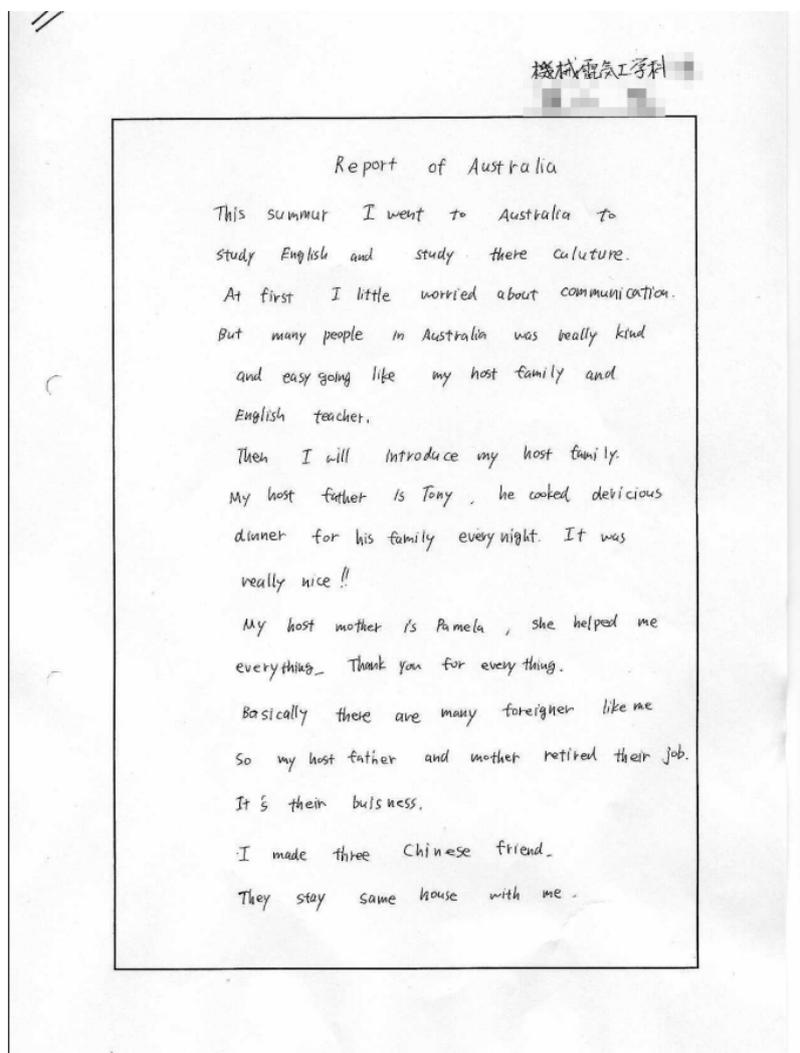
(4) 海外研修奨学生は、この海外研修を「インターンシップ」科目として申請することができる。

◎ 海外研修の詳細については、学生課にお問い合わせください。

出典：教務係資料

## 資料7-1-④-8 海外語学研修に行った学生の報告書

※学生名, 学年にはモザイクがかけてある。



出典：教務係資料

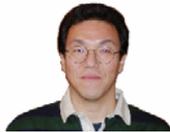
資料 7-1-④-9 いんぐりっしゅ☆る～むの実施を示す資料

(1) 徳山高専ウェブサイト上の案内

Welcome to Tokuyama College of Technology

**高専夢広場**  
徳山工業高等専門学校サテライト

**いんぐりっしゅ☆る～む**

「いんぐりっしゅ☆る～む」とは、とにかく気楽に英語に親しみながら、英語力、英語コミュニケーション能力を高め、可能な限り真実化理解を深めるためのスペースです。担当は、徳山高専の天野 徹校長先生と、英語科の山室です。バブラスな音コンで、このスペースを活性化させようと思っています。校長先生に面白いことはたくさんあるけれど日本語では言いにくいねと悩んでいる人、英語を使って面白いことを校長先生に伝えてみませんか？

コーヒーでも飲みながら、気楽に英語で何かを話してみたい人はどんだん来てください。持参するものはいりませんし、もちろん無料です。

皆さんと「いんぐりっしゅ☆る～む」でお会いできるのを楽しみにしております。

徳山高専 英語科 山室 徹

1. 期 日	毎週金曜日 17:30～(約1時間)
2. 場 所	高専夢広場
3. 対 象	どなたでも
4. 材料費	なし
5. 持参品	なし
6. 申込方法	申し込みの必要はありません。 〒746-8686 周南市久米高橋3638

徳山工業高等専門学校 英語科 山室 徹

(2) 徳山高専ウェブサイト上の報告

HotMail 無料ウェブメール Microsoft Product News Today's Links Web Gallery Windows Windows Media Windows Update

徳山工業高等専門学校サテライト **高専夢広場** <http://www.tokuyama.ac.jp/yumehiroba/>

Welcome to **高専夢広場** Tokuyama College of Technology

**夢広場NOW**

100回を迎えた「いんぐりっしゅ☆る～む」(サテライトレポート) **New!**

一昨年の2月に「ふれあいパーク・樹あい」=徳山高専夢広場」で始まった「いんぐりっしゅ☆る～む」がつい100回を迎えました。記念すべきこの集い、約60名が参加しました。特に試験体制に入った多くの学生が参加、学外からも多数の参加がありました。この日は40個のケーキと、天野校長からの「サプライズ・ギフト」もあり、参加者一同楽しいひとときを過ごしました。



村重 / May 24th, 2006 15:33 / [ comment(0) ] [ TrackBack(0) ]

**パソコン若業相談室 (企画情報)**

5月の開催予定です！

- 3日(水) 17:30～18:50
- 10日(水) 17:30～18:50
- 17日(水) 17:30～18:50
- 24日(水) 17:30～18:50
- 31日(水) 17:30～18:50

相談室が開催されている間は担当者が待機し、質問に答えたい操作をお助けします。ぜひ気軽にお立ち寄りください。

村重 / May 2nd, 2006 16:00 / [ comment(0) ] [ TrackBack(0) ]

**2006年5月のいんぐりっしゅ☆る～むのご案内 (企画情報)**

Hello, hello, hello, everybody! 花粉の量も減り、気温も少しずつ上がって、いい季節になってきましたね。花もたくさん咲いています。みなさん、お元気ですか？ さあ、5月も英会話を楽しみましょう。

英会話科、たいはいは、是非高専夢広場の「いんぐりっしゅ☆る～む」に来てください。本誌刊、お待ちします。

出典：本校ウェブサイト

(1) <http://www.tokuyama.ac.jp/yumehiroba/e-room.html>

(2) <a href="http://www.tokuyama.ac.jp/yumehiroba/">http://www.tokuyama.ac.jp/yumehiroba/</a>
---

観点7-1-⑤： 特別な学習支援が必要な者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。

（観点に係る状況）

(a) 留学生に対する支援

- ・学級担任の他、留学生担当教員及び学生のチューターを配置し、授業で分かりにくい箇所を教えたり、補習を実施したりしている（資料7-1-⑤-1、資料7-1-⑤-2）。
- ・特別カリキュラム・特別クラス編成の授業を展開している。特別カリキュラムでは、出身国で履修できなかった科目のうち、徳山高専の教育目標上履修が必要な科目を履修できるだけでなく、日本語及び日本という異文化に対する理解を深め、日本によりよく適応するための「日本語」、「日本事情」を履修できる（資料7-1-⑤-3）。

(b) 編入学生に対する支援

- ・編入学前の学校の教育目標と徳山高専の教育目標のギャップを埋めるため、修学指導を実施している。修学指導では、編入学までに何を学習しておく必要があるかを説明し、数学と英語は課題を課している。また、編入学生が徳山高専にスムーズに適応できるよう、補習を実施している（資料7-1-⑤-4、資料7-1-⑤-5、資料7-1-⑤-6、資料7-1-⑤-7）。

(c) 社会人学生に対する支援

- ・現在受け入れている社会人学生は全て徳山高専を卒業後すぐに企業から専攻科生として入学した者なので、特に支援は行っていないが、今後その他の社会人学生が入学する際には、留学生、編入学生と同様の学習支援を実施する。

(d) 障害のある学生に対する支援

- ・平素の学習に支障が出ないように、学内のバリアフリー化を実施した（資料7-1-⑤-8）。
- ・特に必要のある場合、障害のある入学生に対して、学生本人、学級担任、学生の所属する学科の教員、教科担当の教員、学生課の事務職員、中学校の教員、保護者を交えて入学前の特別打ち合わせ会を実施している。平成18年3月には、聴力に障害のある新入学生に対して、入学前特別打ち合わせ会を実施した。また、入学後も、障害のある学生が自立できるよう、担任を中心に支援を行っている（資料7-1-⑤-9）。

（分析結果とその根拠理由）

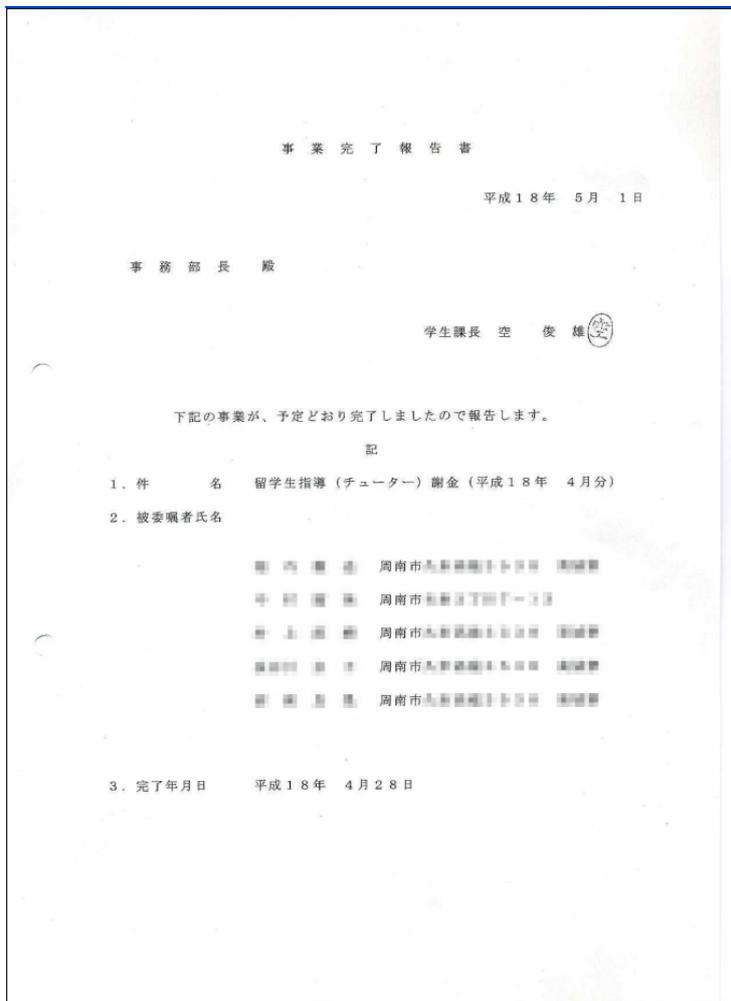
- ・特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制が整備され、適切に実施されている。
- ・事前指導や補習を行い、徳山高専入学前の学校の教育目標と徳山高専の教育目標のギャップを埋め、スムーズに新しい環境に適応できるようにしている。

以上のことから、特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制が整備され、機能している。

資料7-1-⑤-1 留学生指導教員やチューターの配置が分かる資料

(1) 留学生指導事業完了報告書

※学生個人名や住所にはモザイクがかけてある。



出典：学生課資料

(2) 留学生指導報告書

※学生個人名にはモザイクがかけてある。

指導報告書

平成18年 5月 7日

徳山工業高等専門学校長 殿

チューター氏名 佐賀孝徳 工学部 3年

指導教員氏名確認印 佐賀孝徳

平成18年4月は下記のとおり指導したので、報告します。

記

留学生名	学部	学科	年	氏名	指導時間
月	日(曜)	時 間		内 容	
4月	11日(火)	5時00分	~	6時00分	1 コミュニケーション
4月	12日(水)	5時00分	~	6時00分	1 " 夏遊形の任意探し
4月	18日(火)	5時00分	~	6時00分	1 工学実験2コミュニケーション
4月	19日(水)	4時00分	~	6時00分	2 遊形の家探し
4月	27日(木)	3時00分	~	6時00分	3 コミュニケーション
4月	28日(金)	5時00分	~	6時00分	1 "
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
日数計	6日	時間数計	9 時間		

出典：学生課資料

資料7-1-⑤-2 留学生担当教員及びチューターの指導の実際を示す資料

指導報告書

平成18年 5月 |日

徳山工業高等専門学校長 殿

チューター氏名 藤満達朗 工学部 3年

指導教員氏名確認印 藤満達朗

平成18年4月は下記のとおり指導したので、報告します。

記

留学生名	学部	学科	年	氏名	指導時間
月	日(曜)	時 間		内 容	
4月	5日(水)	8時20分	~	8時50分	2.5 学校生活の手伝い
4月	9日(日)	20時00分	~	21時00分	1 勉強を教えた
4月	10日(月)	21時30分	~	22時30分	1 課題の手伝い
4月	11日(火)	21時30分	~	22時00分	0.5 日本語を教えた
4月	14日(金)	20時00分	~	21時00分	1 課題の手伝い
4月	17日(月)	21時30分	~	22時30分	1 勉強を教えた
4月	18日(水)	21時30分	~	22時30分	1 課題の手伝い
4月	20日(木)	21時00分	~	21時30分	0.5 日本語を教えた
4月	23日(日)	22時00分	~	22時30分	0.5 勉強を教えた
4月	24日(月)	21時30分	~	22時30分	1 課題の手伝い
4月	28日(金)	21時30分	~	22時30分	1 勉強を教えた
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
月	日( )	時	分	時	分
日数計	17日	時間数計	9 時間		

出典：学生課資料

資料7-1-⑤-3 留学生に対する特別カリキュラム表，特別クラス編成状況を示す資料

(1) 留学生特別カリキュラム表

※留学生名の箇所は黒塗りにしてある。

情報電子留学生用カリキュラム 平成18年4月

科 目 名	3年単位	4年単位	5年単位	合 計
数学ⅠA	2			
数学ⅠB	2			
基礎物理Ⅰ	2			
体育	2	2 ●		
微分積分学		1 ●		
微分方程式		1 ●		
ベクトル解析		1 ●		
力学		1 ●		
日本語コミュニケーション		1 ●		
中国文学		1 ●		
韓国文学		1 ●		
中国語		2 ●		
日本語	4	2 ●		
日本語講	2			
特別演習	2			
留学生単位数	(10)	(12)		
留学生単位数	16	13		
新機算学	2			
数値計算	1			
フーリエ・ラプラス変換	1			
線形	1			
計測工学	2			
アプロク理論	2			
ディジタル回路	2			
電子工学基礎	4			
コンピュータシステム概論	1			
アルゴリズムとデータ構造	2			
システムアロウツミソウⅠ	1			
フーリエ・ラプラス変換		0		
新機物理		2 ●		
新機数学		2 ●		
新機通信工学		2 ●		
ディジタル回路高期		2 ●		
システムプログラミングⅠ		1 ●		
コンピュータアーキテクチャ		2 ●		
ソフトウェア工学		2 ●		
データベース		2 ●		
コンピュータシステム実習		3 ●		
オペレーティングシステムⅠ		1 ●		
ネットワークアーキテクチャⅠ		1 ●		
特別演習		1 ●		
工学セミナー		1 ●		
留学生ハードウェア演習	2			
留学生ソフトウェア演習	2			
留学生単位数	(10)	(22)		
留学生単位数	23	22		
留学生単位数合計	(33)	(34)		
留学生単位数合計	33	35		

( ) 書きは、一般学生の留学生単位数。 ●印は、現在履修中。

出典：教務係資料

(2) 特別クラス編成の分かる授業時間割

※留学生に対する特別授業の箇所は黄色でハイライトしてある。

平成18年度 前期授業時間割										徳山工業高等専門学校										
1学期					2学期					3学期					4学期					
月	日	授業科目	担当	備考	月	日	授業科目	担当	備考	月	日	授業科目	担当	備考	月	日	授業科目	担当	備考	
1	10	基礎設計特設1	佐藤		1	10	歴史	佐藤		1	10	化学1	佐藤		1	10	化学1	佐藤		
1	11	基礎設計特設1	佐藤		1	11	歴史	佐藤		1	11	化学1	佐藤		1	11	化学1	佐藤		1
1	12	基礎設計特設1	佐藤		1	12	歴史	佐藤		1	12	化学1	佐藤		1	12	化学1	佐藤		1
1	13	基礎設計特設1	佐藤		1	13	歴史	佐藤		1	13	化学1	佐藤		1	13	化学1	佐藤		1
1	14	基礎設計特設1	佐藤		1	14	歴史	佐藤		1	14	化学1	佐藤		1	14	化学1	佐藤		1
1	15	基礎設計特設1	佐藤		1	15	歴史	佐藤		1	15	化学1	佐藤		1	15	化学1	佐藤		1
1	16	基礎設計特設1	佐藤		1	16	歴史	佐藤		1	16	化学1	佐藤		1	16	化学1	佐藤		1
1	17	基礎設計特設1	佐藤		1	17	歴史	佐藤		1	17	化学1	佐藤		1	17	化学1	佐藤		1
1	18	基礎設計特設1	佐藤		1	18	歴史	佐藤		1	18	化学1	佐藤		1	18	化学1	佐藤		1
1	19	基礎設計特設1	佐藤		1	19	歴史	佐藤		1	19	化学1	佐藤		1	19	化学1	佐藤		1
1	20	基礎設計特設1	佐藤		1	20	歴史	佐藤		1	20	化学1	佐藤		1	20	化学1	佐藤		1
1	21	基礎設計特設1	佐藤		1	21	歴史	佐藤		1	21	化学1	佐藤		1	21	化学1	佐藤		1
1	22	基礎設計特設1	佐藤		1	22	歴史	佐藤		1	22	化学1	佐藤		1	22	化学1	佐藤		1
1	23	基礎設計特設1	佐藤		1	23	歴史	佐藤		1	23	化学1	佐藤		1	23	化学1	佐藤		1
1	24	基礎設計特設1	佐藤		1	24	歴史	佐藤		1	24	化学1	佐藤		1	24	化学1	佐藤		1
1	25	基礎設計特設1	佐藤		1	25	歴史	佐藤		1	25	化学1	佐藤		1	25	化学1	佐藤		1
1	26	基礎設計特設1	佐藤		1	26	歴史	佐藤		1	26	化学1	佐藤		1	26	化学1	佐藤		1
1	27	基礎設計特設1	佐藤		1	27	歴史	佐藤		1	27	化学1	佐藤		1	27	化学1	佐藤		1
1	28	基礎設計特設1	佐藤		1	28	歴史	佐藤		1	28	化学1	佐藤		1	28	化学1	佐藤		1
1	29	基礎設計特設1	佐藤		1	29	歴史	佐藤		1	29	化学1	佐藤		1	29	化学1	佐藤		1
1	30	基礎設計特設1	佐藤		1	30	歴史	佐藤		1	30	化学1	佐藤		1	30	化学1	佐藤		1
1	31	基礎設計特設1	佐藤		1	31	歴史	佐藤		1	31	化学1	佐藤		1	31	化学1	佐藤		1

出典：教務係資料

資料7-1-⑤-4 編入学生に対する修学指導の実施案内及び要領

平成18年2月13日  
関係各位

機械電気工学科4年次編入生オリエンテーション

徳山工業高等専門学校  
機械電気工学科4年生担任

前略 下記の通り、平成18年度機械電気工学科4年編入学生のオリエンテーションを行います。なお、参加されない場合は、下記連絡先に連絡を下さい。よろしくお願ひします。

草々

記

1. 目的 履修についてのオリエンテーションを行い、入学準備を行う。
2. 日時 平成18年3月9日(木) 10時から15時まで
3. 場所 徳山工業高等専門学校  
集合場所：小会議室 研修場所：専攻科棟講義室3
4. オリエンテーション内容  
10:00 集合 学科主任、新学級担任の話  
午前 学校生活について説明(カリキュラム等の説明)  
\*\*\*\*\*昼食(入寮希望者は学寮見学\*\*\*\*\*)  
13:00  
午後 各授業担当者の説明・補講  
15:00 終了・解散(予定)
5. 資料(当日渡します)  
・学生便覧  
・平成17年度シラバス  
・各科目資料(別紙資料による)
6. 持参するもの

・筆記用具  
 ・機械製図の教科書  
 ・教科書代金 別紙資料教科書 10冊  
 合計 21,889円

#### 7. その他

- ・オリエンテーションは自由参加ですが、可能な範囲で参加して下さい
- ・オリエンテーション参加についての事故は参加者の自己責任とします
- ・昼食を各自で用意下さい（学外でとって結構です）

#### 8. 連絡先（担当者）

〒745-8585 周南市久米高城3538

徳山工業高等専門学校機械電気工学科 兼重 明宏

Tel (Fax) : 0834-29-6282(ダイヤルイン) E-mail : kanesige@tokuyama.ac.jp

不明な点がありましたら、ご連絡下さい。

以上

出典：機械電気工学科資料

### 資料 7-1-⑤-5 修学指導の際に配布した資料（抜粋）

#### 編入学をされる皆さんへ：英語の実力をつけるために（英語科）

March 9, 2006 英語科 国重

徳山高専への編入学おめでとうございます。新年度を迎えるに当たり、英語科から皆さんへお願いしたいことがありますので、お読み下さい。

英語の実力をつけるためには、当たり前のことですが、スポーツと同じで日々の努力が欠かせません。長い春休み中も、毎日英語の力を伸ばす努力をしましょう。春休み中に英語から遠ざかると英語力が落ちますから、毎日最低でも1時間（できれば2時間）は英語の勉強を継続しましょう。また、平素の授業の予習・復習はもちろんですが、徳山高専で推奨している実用英検、工業英検、TOEIC等の資格試験を受験することを決め、自分で目標を立て、それに向かって勉強することも大切です。

平成18年度は、9月20日に4,5年生全員がTOEIC IPテストを受験することが決まっています。

大学受験を目標にしている高校生と高専生の決定的な違いは、自宅における英語学習の時間の差です。英語力は、授業の時間だけでは決してものになりません。苦しいプロセスですが、こつこつと毎日、家で努力していくことが英語力をつける最善の方法です。高専を卒業して、就職する人も、進学する人も、必ず英語は必要になります。皆さんは、高い潜在能力を持っているのですから、努力すればきっとそれだけ実力がつくはずで、Slow and steady wins the race. さあ、頑張りましょう。

具体的には、次に挙げる5つの項目を確実にやっておきましょう。

#### (1) 発音記号を読めるようにしておくこと。

※発音記号が読めないと、正しい音で英語を発音したり、英語を音声で理解したりすることができません。本日配布したプリントでしっかり練習をして、覚えましょう。また、高校のテキストを何度も音読して、発音の練習をしてください。

#### (2) 中学校及び高校で学習した単語・熟語を確実に覚えておくこと。

※基本的な語彙力がないと、授業についていくことができません。本日配布したプリント（中学校レベルの重要単語・熟語がリストしてあります）を活用して、書けるようになるまで確実に覚えておきましょう。また、高校で使ったテキストに出てきた重要な単語や熟語も例文と共に覚えるようにしておきましょう。

#### (3) 筆記体を書いたり読んだりすることができるようにしておくこと。

※高専の英語の授業では、筆記体で板書することがあります。筆記体を読めないと授業についていけませんから、本日配布したプリントをよく見てしっかりマスターしておいて下さい。また、筆記体を使うと英語を書くスピードも格段にアップしますから、英語の実力もつきやすくなります。その意味でも、単語や英文を書いて覚えるときにも、筆記体を使えるようにしておきましょう。

#### (4) 辞書に慣れ親しみ、引く習慣を身につけておくこと。

※高専で使用する英語の教科書には、単語の意味などが書かれていません。分からない単語や熟語は、自ら辞書を

調べることによって、理解しなくてはならないのです。英語力をつけるためには、何万回も、何十万回も辞書を調べなくてはなりません。逆に、辞書は引けば引くほど、英語力アップにつながると言っても過言ではありません。辞書を持っていない場合は、新たに英和・和英辞書を購入し、辞書にしっかり親しみ、いろいろな単語を調べる習慣を身につけておいて下さい。

ちなみに、君達と同学年の学生が購入している辞書は、フェイバリット英和辞典（東京書籍）、グランドセンチュリー和英辞典（三省堂）です。電子辞書については、5月の連休前後に別途案内します。

**(5) 4年で使用する英語のテキストの予習をしっかりとしておくこと。**

※高専での英語の授業は、すべて予習をしていることを前提に行われます。逆に、予習をしていないと、授業についていくことはできません。教科書を購入したら、できるだけたくさん予習をしておきましょう。やり方としては、本文を数回音読し、だいたいの意味をつかむようにします（細かく日本語に訳したりするよりも、大意をつかむようにしましょう）。その中で、分からない英語表現が出てきたら、しっかり辞書で調べ、意味や用法を書き留めておきましょう。単語がその英文の中ではどの意味で使われているのか、また、その単語の品詞は何かなどを考えながら調べてメモっていくと力がつきます。

出典：英語科資料

資料7-1-⑤-6 数学の課題レポート指導の記録を示す資料

※学生名にはモザイクがかけてある。

編入学生用 補習レポート (数学)

ME4 XXXXXXXXXX No. 1

DATE . . .

---

P116 III  $y=6-x^2$  と  $y=x$  の交点は

(1)  $x=6-x^2$   $-x^2-x+6=0$   $x^2+x-6=0$   $(x+3)(x-2)=0$   
 $x=2, -3$

$$\int_{-3}^2 (6-x^2)-(x) dx = \int_{-3}^2 (-x^2-x+6) dx = \left[-\frac{1}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 + 6x\right]_{-3}^2$$

$$= \left(-\frac{8}{3} - 2 + 12\right) - \left(-9 - \frac{9}{2} - 18\right) = \frac{22}{3} + \frac{27}{2} = \frac{44}{6} + \frac{81}{6} = \frac{125}{6}$$

$y=x^2-2x$  と  $y=-x^2-2x+2$  の交点は

(2)  $x^2-2x = -x^2-2x+2$   $2x^2-2=0$   $2(x^2-1)=0$   $x=\pm 1$

$$\int_{-1}^1 (x^2-2x+2) - (x^2-2x) dx = \int_{-1}^1 (-2x^2+2) dx = 2 \int_{-1}^1 (-x^2+1) dx$$

$$= 2 \left[-\frac{1}{3}x^3 + x\right]_{-1}^1 = 2 \left(\frac{2}{3}\right) = \frac{4}{3}$$

$y=x^2$  と  $y=-x^2+2x$  の交点は

(3)  $x^2 = -x^2+2x$   $x^2+x^2-2x=0$   $x(x^2+x-2)=0$   $x(x+2)(x-1)$   
 $x=0, 1, -2$

$$\int_{-2}^0 (x^2+x^2-2x) dx = \left[\frac{1}{4}x^4 + \frac{1}{3}x^3 - x^2\right]_{-2}^0 = -(4 + \frac{8}{3} - 4) = -\frac{8}{3}$$

$$\int_0^1 (x^2+2x-x^2) dx = \left[\frac{1}{4}x^4 + \frac{1}{3}x^3 + x^2\right]_0^1 = \frac{1}{4} + \frac{1}{3} + 1$$

$$= -\frac{3}{12} - \frac{4}{12} + \frac{12}{12} = \frac{5}{12}$$

ゆえに  $\frac{5}{12} + \frac{8}{3} = \frac{5}{12} + \frac{32}{12} = \frac{37}{12}$

7mm×34行

出典：数学科資料

## 資料7-1-⑤-7 編入学生に対する補習実施予定・計画を示す資料（オリエンテーション用別紙資料）

※該当箇所は黄色でハイライトしてある。

（別紙資料）

1. 履修科目一覧（オリエンテーション当日配布）
2. 購入教科書（オリエンテーション当日現金を（釣り銭の要らないよう）持参し、購入して下さい）
 

・材料力学：中原一郎、実践材料力学（養賢堂）	3,780円
・電気回路：早川義晴、 電気回路（1）直流・交流回路編（コロナ社）	2,415円
・電子回路：伊東規之、デジタル回路（日本理工出版会）	2,730円
・材料学：改訂 機械材料学（日本材料学会）	3,150円
・C言語によるP I Cプログラミング入門	2,814円
・設計製 図Ⅱ：3次元CADから始める製図・デザイン初版（森北出版）	2,100円
・微分積分学：新訂微積分Ⅰ（大日本図書）	1,600円
・新訂微積分Ⅰ問題集（大日本図書）	800円
・新訂微積分Ⅱ（大日本図書）	1,700円
・新訂微積分Ⅱ問題集（大日本図書）	800円
合計	21,889円

\*その他の必要な教科書については、各自書店で購入して下さい（購入する教科書は指示します）

\*4年次より開講される教科書は入学後、購入することになります（学校で斡旋します）

### 3. 補講授業及び履修ガイダンス（予定）

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| (1) 材料力学（担当教員：森野）      | 11時00分～ |
| (2) 電気回路・電子回路（担当教員：櫻本） | 11時25分～ |
| (3) 材料学（担当教員：藤満）       | 12時00分～ |
| (4) 設計製図（担当教員：池田）      | 13時35分～ |
| (5) プログラミング基礎（担当教員：森崎） | 14時00分～ |
| (6) P I C関連補講（担当教員：伊藤） | 14時25分～ |

4. 入学前の準備（未定）  
当日連絡します。

出典：機械電気工学科資料

資料7-1-⑤-8 バリアフリー化を示す写真，図面

(1) 身障者用駐車場



(2) 学生昇降口スロープ



(3) 教室入り口自動ドア



(4) 身障者用トイレ



(5) エレベーター



(6) 体育館入りロスロープ



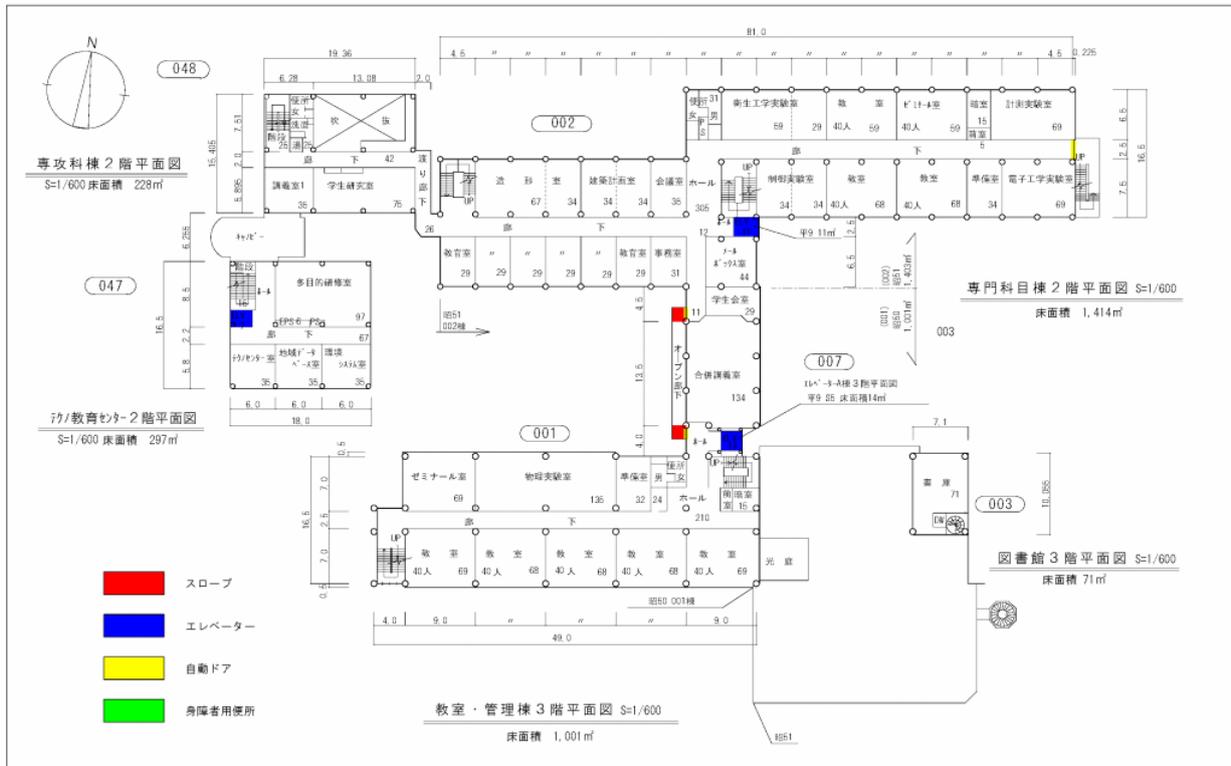
(7) 陸上競技場入りロスロープ



(8) プール入りロスロープ



(9) バリアフリー化のための身障者用施設、設備を示す図面



出典：施設係資料（写真及び図面）

資料7-1-⑤-9 事前打ち合わせ会の実施要領

※学生名、出身中学名は削除してある。

合格後相談日程表

目的:この相談会は、入学後の必要なサポートを行うために、共通の理解を得るために実施します。

日時	平成18年3月8日(水) 10時30分 (学年修了認定会議終了後)
場所	管理棟2階 会議室
出席者	入学予定学生 入学予定学生 保護者 中学校 担任教諭
本校	一般科目・機械電気工学科教員 教務主事・学生課長・教務係長

(質疑応答の内容)

10時30分	一般科目を主に面談 入学生 保護者 担任教諭 教務主事 一般教員 一般教員 一般教員 一般教員 室長大應 学生課長 教務係長	教務主事挨拶:出席者紹介 本人と保護者:聞こえの程度について、通常の聞こえ、理解度、向きなど 担任教諭:学校での状況について、通学、体育、クラブ活動、同級生のサポート 一般科目:伝えておきたいこと。英語、化学・物理実験、体育実技など
11時00分	機械電気を主に面談 入学生 保護者 担任教諭 ME教員 ME教員 ME教員 ME教員 森崎哲也 学生課長 教務係長	機械電気:伝えておきたいこと。実習など
11時30分	保護者との質疑 保護者 室長大應 森崎哲也 参加希望の教員 学生課長 教務係長	入学生と担任教諭は機械電気の面談終了後、実習工場で実習に関する面談を行う。(誘導:教務係員) 0. 保護者から入学後特に要望したいことを伺う 1. 卒業後の進路について(学生課) 2. 授業中の配慮について(本校の試験について)(学生課) 3. FM補聴器の使用について(学生課) 4. 入学式・合同HR・新入生合宿研修等 学年全体の行事について 5. その他 支援を行う目的で、関係する教職員・学生に名前と傷害の程度について知らせることについて差し支えないか確認(学生課)

出典：教務係資料

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

(a) 課外活動

全教員が体育系17、文科系14のクラブ・同好会の顧問を担当している。また、顧問担当を決める際に、学生主事主導で、アンケート調査を行い、学生の要望、教員の希望を反映する形になるようにしている(資料7-1-⑥-1)。

隔週1回、クラブ活動の日を設定し、クラブ指導の活性化を図っている。また、各教員がクラブ活動支援をレビュー・改善する目的で、「自己評価委員会」が作成する年間職務の自己評価の中でクラブ活動支援について自己評価を行っている。そのため土、日曜日も含めてクラブ活動が活発に行われている(資料7-1-⑥-2、資料7-1-⑥-3、資料7-1-⑥-4)。

クラブ顧問会議を開催し、クラブ活動支援のための方策を議論している。例えば、この会議を経て対外試合遠征時に学生の旅費を軽減する目的でレンタカーの使用(使用料や高速道路料金の一部は学校負担)が可能になった(資料7-1-⑥-5、資料7-1-⑥-6)。

クラブ活動外部コーチ採用制度を導入している(資料7-1-⑥-7)。

クラブ活動で顕著な成績を収めた学生に対して、表彰したり単位を認定したりしている(資料7-1-⑥-8、資料6-1-②-1、資料7-1-⑥-9)。

クラブリーダーを育成し、クラブ活動をさらに活性化させるため、クラブリーダー研修会を年1回実施している(資料7-1-⑥-10)。

(b) 学生会活動

・学生主事室と学生課学生係が中心となり、学生会の指導・支援を行っている。また、その学生会活動の場として学生会室を整備している(資料7-1-⑥-11、資料7-1-⑥-12)。

(c) ボランティア活動

・地域でのボランティア活動を主目的とするインターアクトクラブを設置し、学生がボランティア活動に参加できるよう支援している(資料7-1-⑥-13)。

・徳山高専夢広場での企画・運営を行うサテライト運営委員会の委員として学生も参加できる制度が整っており、その企画の中で学生がボランティア活動(例：パソコン若葉相談室)をすることができるよう支援している(資料7-1-⑥-14、資料7-1-⑥-15)。

・「周南おもちゃ病院」において学生がボランティア活動をすることができるよう、テクノセンターが地域共同連携業務の一環として支援している(資料7-1-⑥-16)。

・学生のボランティア活動に対して、単位認定を行っている(資料7-1-⑥-17、資料7-1-⑥-18)。

(分析結果とその根拠理由)

・課外活動に対する整った支援体制が十分機能している。

以上のことから、学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能している。

## 資料7-1-⑥-1 クラブ顧問

## (1) クラブ顧問担当一覧表

## 平成18年度クラブ顧問教員一覧

平成18年5月17日

局名	番号	ク ラ ブ 名	顧問教員氏名			
			連絡・代表顧問			
体 育 局	1	陸上部	齊藤 一彦	逆瀬川 栄一	小田 和広	上 俊二
	2	バスケットボール部 (男子) (女子)	原田 徳彦 山田 健仁	日南住 博 太田 明子	松野 成悟	
	3	バレーボール部	佐賀 孝徳	国重 徹	奥本 幸	
	4	ソフトテニス部	石田 浩一	原田 耕治	熊野 稔	森 徹
	5	卓球部	原田 幸雄	桂 哲男	加田謙一郎	
	6	剣道部	兼重 明宏	柏倉 知秀	藤満 達朗	大成 博文
	7	水泳部	杉村 敦彦	桑嶋 啓治	伊藤 尚	
	8	硬式野球部	橋本 堅一	田村 隆弘	桑嶋 啓治	重松 恒美 島袋 淳
	9	サッカー部	藤田 重隆	守川 和夫	張間 貴史	新田 貴之
	10	バドミントン部	義永 常宏	江口 賢和		
	11	ハンドボール部	池田 光優	重村 哲至		
	12	テニス部	池田 信彦	櫻本 逸男	百田 正広	
	13	アーチェリー部	室長 大應	吉田 輝	天内 和人	
	14	空手部	渡辺 勝利	原 隆	藤本 浩	
	15	女子バレーボール同好会	天野 徹	飛車 来人		
	16	フットボール同好会	天野 徹			
	17	スキー・スノーボード同好会	天内 和人			

文 化 局	1	美術部	長廣 恭子	佐々木 伸子		
	2	音楽部	古田 健一	天内 和人		
	3	写真部	大橋 正夫	工藤 洋三		
	4	吹奏楽部	小林 明伸	古田 健一	森崎 哲也	藤原 東雄
	5	文芸部	秋吉 康光	一色 誠子		
	6	メカトロシステム部	藤本 浩	森崎 哲也	兼重 明宏	
	7	現代文化研究同好会	門脇 重道			
	8	英語に親しむ同好会(ELA)	国重 徹	桂 哲男	熊野 稔	
	9	ニューメディア同好会	力 規晃	神田 徳夫	谷本 圭司	
	10	囲碁同好会	門脇 重道			
	11	茶道同好会	奥本 幸			
	12	伝統文化に親しむ同好会	長廣 恭子	木村 武馬		
	13	インターアクト同好会	張間 貴史	藤田 重隆	新田 貴之	重安 邦之
	14	模型同好会	石田 浩一			

出典：学生係資料

## (2) 担当顧問を決める際に、教員・学生の希望が反映されていることが分かる資料

クラブ顧問委嘱方法のスケジュール

以下のスケジュールで委嘱を行う。

- (1) 学生への周知・部長の招集、方法の説明、顧問教員依頼希望書(別紙2)の配布  
(学生主事室)：2月

- (2) 別紙 2 を回収し、学生主事室において「学生が希望する顧問教員一覧」(別紙 3) をまとめる。: 随時
- (3) クラブ顧問代表者に (1) で学生から集めた結果と共に配布し、メールにより教員希望調査(別紙 1) を行い、「教員が希望するクラブ一覧」(別紙 5) にまとめる(学生主事室) : 3月初旬
- (4) 別紙 3, 別紙 5 の双方の希望一覧表をもとに学生主事が調整し決定 : 3月中旬
- (5) 学校長の委嘱 : 4月

(別紙 2)  
顧問教員依頼希望書

学生主事 殿

平成 年度 部・同好会 は学則を遵守し、課外活動を行うため、下記教員に顧問を依頼し、クラブ活動を行いことを希望いたします。

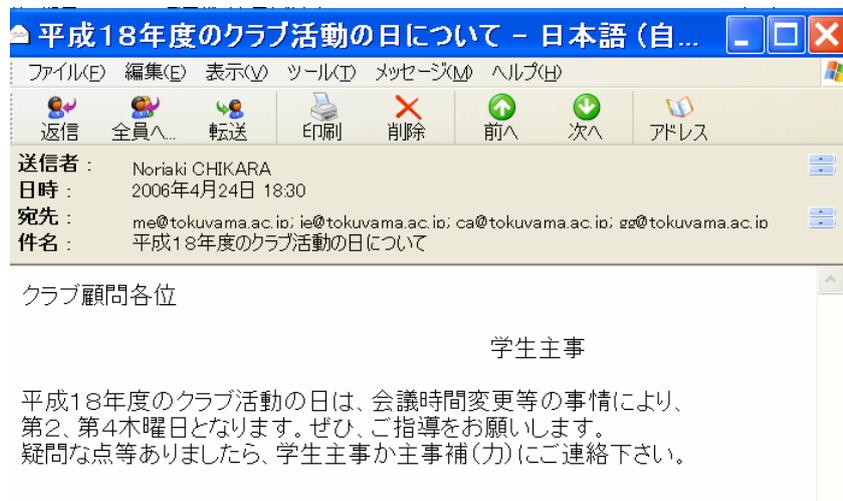
所属部 :  
部長 (キャプテン) 氏名 :  
学科, 学年 :

希望顧問教員名 .

備考

出典 : 学生係資料

資料 7-1-⑥-2 クラブ活動の日を全教員に伝えるメール



出典 : 全教員に送信されたメール

資料 7-1-⑥-3 平成 17 年度土、日、祝日におけるクラブ活動指導実績一覧表

平成 17 年度 クラブ活動指導回数（土、日、祝日）

クラブ名	指導者氏名	校内指導	校外指導	合計
陸上	上 俊二	21	27	48
	小田 和広	0	17	17
	齊藤 一彦	5	14	19
	逆瀬川栄一	2	11	13
バスケットボール	山田 健仁	11	3	14
	原田 徳彦	22	14	36
	日南住 博	1	0	1
バレーボール	佐賀 孝徳	57	25	82
	国重 徹	8	9	17
	奥本 幸	0	3	3
ソフトテニス	石田 浩一	1	0	1
卓球	原田 幸雄	50	37	87
	桂 哲男	4	14	18
	長戸 喜隆	0	16	16
剣道	兼重 明宏	28	17	45
	藤満 達朗	1	2	3
	柏倉 知秀	0	8	8
水泳	杉村 敦彦	7	3	10
	桑嶋 啓治	3	3	6
野球	田村 隆弘	65	21	86
	河村 進一	0	3	3
	桑嶋 啓治	17	5	22
	鳥袋 淳	71	11	82
サッカー	守川 和夫	18	10	28
	藤田 重隆	33	8	41
バドミントン	江口 賢和	1	1	2
	義永 常弘	6	0	6
テニス	池田 信彦	8	3	11
	百田 正広	3	1	4
	櫻本 逸男	30	4	34
ハンドボール	重村 哲至	0	6	6
	池田 光優	2	8	10
アーチェリー	室長 大應	2	0	2
	吉田 輝	0	2	2
空手	渡辺 勝利	0	3	3
	藤本 浩	0	9	9
美術	天内 和人	0	2	2
ロボットシステム	藤本 浩	13	0	13
インターアクト	張間 貴史	1	2	3

出典：学生係資料

資料 7-1-⑥-4 年間職務の自己評価 5 年間で振り返って（抜粋）

4. クラブ活動の指導

平成 16 年度に新設された評価項目である。平成 15 年度までは、「校務・クラブ活動」として上記 3. 校務と同軸で評価されてきた。評価点は、10 点（主導的に指導）、5 点（補助的に指導）、1 点（一時的に指導）、0 点（指導していない）に努力内訳を乗ずる方法で算出した。

その結果、クラブ指導の評価点は教員によるばらつきが特に大きいことが、評価を分離したことにより明確になった。これにより各教員のプロフィールがより鮮明になったと考えられる。まだ、1 度しか実施されていないので、年間職務の自己評価において、校務と分離して評価する効果は確認できていない。今後の推移を見守る必要がある。

なお、上述のように、教育活動が複雑・高度化し、業務遂行時間も増大傾向にある一方、クラブ活動の指導時間が減少してきているのは本校の実情であろう。

出典：自己評価委員会資料

資料 7-1-⑥-5 クラブ活動におけるレンタカーの使用要領

平成 18 年 5 月 8 日

各クラブ活動におけるレンタカーの使用要領

1. クラブ遠征などに使用できるレンタカーは、本校と契約した営業所のワゴン車（8人又は10人乗り）とし、運転者は本校教員に限定する。
2. レンタカーの使用回数および経費について
  - 1) 使用回数は全クラブ（28クラブ）で年間延べ60回程度とし、その経費は公費負担とする。
  - 2) 回数は1日12時間（原則午前8時から午後8時まで）を1回とし、遠征等で2日（一泊二日）使用する場合は、36時間として2回にカウントする。また、この利用時間を超えて追加料金が必要となった際は、差額分を使用クラブの自己負担とし、学生係で清算するものとする。
  - 3) 使用を希望するクラブは、年度末に次年度の年間使用予定表を学生係に提出する。提出された各クラブの年間使用予定をもとに検討後、各クラブにおける年間使用回数を決定する。
  - 4) レンタカーを使用した場合、顧問教員旅費相当分のうち運賃分は支出しないが、燃料費、高速道利用料金などに係る費用は、後援会費（クラブ指導費）から負担する。ただし、高速道利用に関しては、美祢I.C以西もしくは、大竹I.C以東に遠征する場合にのみ適用する。
  - 5) レンタカーの年間使用回数表は学生係で管理する。
3. 鍵の受渡し等
  - 1) 鍵の受渡し場所は、学生係（ただし、勤務時間外及び休日の場合は宿直室警備員）とする。
  - 2) 車両の受取り及び返却場所は、情報処理センター前の駐車場とする。
4. レンタカー使用時の注意事項
  - 1) 使用する際は、以下の書類を使用予定日の1ヶ月前までに学生係に提出すること。  
レンタカー使用届（別紙）、運転者の免許証のコピー、部活動指導業務従事計画書、旅行命令・依頼簿（備考欄に「レンタカー使用」と明記すること）
  - 2) 当日やむを得ない事情により使用時間を超過する場合は、事前にレンタカー営業所へ連絡すること。
  - 3) 万一、事故が発生した場合は、現場での必要な処置を講じた後、直ちにレンタカー営業所へ連絡するとともに、事故発生時の本校連絡網（別紙参照）に従い連絡を行うこと。
  - 4) 事故（自損事故も含む）の補償については、公用車と同様の取り扱いとする。
  - 5) レンタカー返却の際は、必ず燃料を満タンにすること。
  - 6) 燃料費、高速道利用料金等の領収書を必ず学生係に提出すること。
  - 7) 事故を未然に防ぐためにも、無理な計画は立てないようにし、法定速度を遵守するようにすること。

出典：学生主事室資料

資料7-1-⑥-6 レンタカーの使用計画及び使用実績一覧表

(1) 平成18年度の使用計画一覧表

平成18年度クラブレンタカー利用予定回数

局名	番号	クラブ名	要望			使用可能回数
			8人乗り	10人乗り	予定使用回数	
体育局	1	陸上部	18	18	36	6
	2	バスケットボール部(男子)	0	0	0	0
			0	0	0	0
	3	バレーボール部	2	29	31	6
	4	ソフトテニス部	0	0	0	0
	5	卓球部	13	22	35	6
	6	剣道部	4	4	8	6
	7	水泳部	0	2	2	2
	8	硬式野球部	0	2	2	2
	9	サッカー部	0	10	10	6
	10	バドミントン部	0	0	0	0
	11	ハンドボール部	8	8	16	6
	12	テニス部	1	5	6	6
	13	アーチェリー部	0	4	4	4
	14	空手部	2	0	2	2
15	女子バレーボール同好会	0	0	0	0	

文化局	1	美術部	0	0	0	0
	2	音楽部	0	0	0	0
	3	写真部	0	0	0	0
	4	吹奏楽部	0	0	0	0
	5	文芸部	0	0	0	0
	6	メカトロシステム部	0	0	0	0
	7	現代文化研究同好会	0	0	0	0
	8	英語に親しむ同好会(ELA)	0	0	0	0
	9	ニューメディア同好会	0	0	0	0
	10	囲碁同好会	0	0	0	0
	11	茶道同好会	0	0	0	0
	12	伝統文化に親しむ同好会	0	0	0	0
	13	インターアクト同好会	0	2	2	2

154

合計利用回数 54

予備 6

\* 予備を6回とし、全クラブで54回の使用  
 \* 利用予定回数は最大6回とする  
 \* 利用予定回数が6回以下はそのまま

出典：学生係資料

## (2) 平成17年度の使用実績一覧表

## 平成17年度クラブレンタカー利用実績

局名	番号	クラブ名	8人乗り	10人乗り	合計	利用回数
体育局	1	陸上部	5	9	14	14
	2	バスケットボール部 (男子) (女子)	0	0	0	0
			0	0	0	0
	3	バレーボール部	5	6	11	11
	4	ソフトテニス部	0	0	0	0
	5	卓球部	11	4	15	15
	6	剣道部	2	0	2	2
	7	水泳部	0	0	0	0
	8	硬式野球部	0	3	3	3
	9	サッカー部	0	2	2	2
	10	バドミントン部	6	0	6	6
	11	ハンドボール部	4	0	4	4
	12	テニス部	0	2	2	2
	13	アーチェリー部	2	0	2	2
	14	空手部	0	0	0	0
15	女子バレーボール同好会	0	0	0	0	

文化局	1	美術部	2	0	2	2
	2	音楽部	0	0	0	0
	3	写真部	0	0	0	0
	4	吹奏楽部	0	0	0	0
	5	文芸部	0	0	0	0
	6	メカトロシステム部	0	0	0	0
	7	現代文化研究同好会	0	0	0	0
	8	英語に親しむ同好会(ELA)	0	0	0	0
	9	ニューメディア同好会	0	0	0	0
	10	囲碁同好会	0	0	0	0
	11	茶道同好会	0	0	0	0
	12	伝統文化に親しむ同好会	0	0	0	0
	13	インターアクト同好会	0	2	2	2

合計利用回数 65

出典：学生係資料

資料7-1-⑥-7 外部コーチ制度関係の資料

(1) 外部コーチ委嘱伺の例

校 長	事務部長	学生主事	学生課長	学生係長	学生係	顧問教官
/	/					

決 裁 平成17年 4月 日

クラブ名 バレーボール部男子  
顧問教官 佐賀 孝徳 印

コ ー チ 委 嘱 伺

このことについて、下記のとおり委嘱してよいか伺います。

記

指導期間	自：平成17年 4月 1日 至：平成18年 3月31日	1ヶ月 6回、合計 72回
実施内容	バレーボールの技術指導 トレーニング指導等	
委 嘱 者	住 所 電話番号 氏 名 生年月日 勤務先 電話番号	
謝金予定額	50000円	
略 歴		
備 考		

(2) コーチ委嘱完了報告書の例

校 長	事務部長	学生主事	学生課長	学生係長	学生係	顧問教官
-----	------	------	------	------	-----	------

平成18年 3月31日

コーチ委嘱完了報告書

平成17年 4月 1日付けにて決議されましたコーチ委嘱について、下記のとおり完了しましたので報告します。

クラブ名 バレーボール部男子  
顧問教官 佐賀 孝徳 印

1. 委嘱者住所・氏名 

2. 実施日時  
(実施した時間等できるだけ、具体的に記入してください。)  
原則的に毎週土、日曜日の午前9時から午後4時まで  
試合が近い時などは、延長して、午前8時から午後6時くらいまで

3. 実施内容  
(できるだけ、具体的に指導内容等を記入してください。)  
バレーボールの技術指導(レシーブ、トス、スパイク、サーブ、ボールのつなぎ方、サーブ、ブロック、試合運び)全般、及び、メンタル面の指導、トレーニングなど。

4. 完了年月日  
平成 18年 3月 31日  
コーチ氏名  印

5. 謝金振込み先

出典：学生係資料

資料 7-1-⑥-8 表彰制度の規則(抜粋)

※クラブ活動に関する箇所は黄色でハイライトしてある。

徳山工業高等専門学校内規第 1 号

徳山工業高等専門学校学生の表彰に関する内規を次のように制定する。

平成 6 年 2 月 2 4 日

徳山工業高等専門学校長

徳山工業高等専門学校学生の表彰に関する内規

(趣旨)

第 1 条 徳山工業高等専門学校学則第 5 0 条の規定に基づく学生の表彰については、この内規の定めるところによる。

(表彰対象者)

第 2 条 表彰は、次の各号の一に該当する者について行う。

(1) 出席状況が良好で、勉学に励んだ者

(2) 課外活動で卓越した技能を発揮し、本校の声価を高めた者

(3) 学校若しくは学寮又は課外活動等においてその功績が著しく、他の学生の模範となった者

(4) 社会的に顕著な功績があり、その他学生の模範として推奨できる善行のあった者

(5) その他、校長が必要と認めた者

2 表彰の種別は別表に定めるとおりとし、表彰の基準は別に定める。

(表彰の推薦)

第 2 条 学級担任又は指導教官は、前条第 1 項第 2 号及び第 3 号の表彰に該当すると認める者があった場合は、関係各主事を経て、表彰者推薦書(様式 1)により推薦することができる。

(受賞者の決定)

第 3 条 受賞者の決定は、第 2 条第 1 項第 1 号にあつては教務委員会で、また同条第 1 項第 2 号、第 3 号及び第 4 号にあつては、厚生補導委員会等の議を経て、校長が決定する。

(表彰の期日)

第 5 条 表彰の期日は、別に決める。

(表彰の方法)

第 6 条 表彰は、表彰状を授与して行う。

2 前項の表彰状授与にあわせて、記念品を授与することができる。

(事務)

第 7 条 学生の表彰に関する事務は、第 4 条に定める委員会の事務を担当する係が所掌し、学生課学生係が統括する。

出典：徳山工業高等専門学校学生の表彰に関する内規

資料7-1-⑥-9 単位認定制度が機能していることを示す資料（認定者一覧）

※学生の氏名や番号などは黒塗りにしてある。

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
<b>特別学修単位認定管理簿</b>										
平成16年4月～										
所属学科	学籍番号	氏名	外部修得科目名又は資格取得名等	修得又は取得年月日	認定科目名	学年	単位数	認定年度	出席番号	備考
情報電子			スポーツに関する分野における活動で顕著な成果をあげたもの	平成16年 8月 8日	特別活動演習	4	1	平成16		全国高専体育大会バレーボール競技優勝
土木建築			スポーツに関する分野における活動で顕著な成果をあげたもの	平成16年 8月 8日	特別活動演習	4	1	平成16		全国高専体育大会バレーボール競技優勝
土木建築			スポーツに関する分野における活動で顕著な成果をあげたもの	平成16年 8月 8日	特別活動演習	4	1	平成16		全国高専体育大会バレーボール競技優勝
土木建築			スポーツに関する分野における活動で顕著な成果をあげたもの	平成16年 8月 8日	特別活動演習	4	1	平成16		全国高専体育大会バレーボール競技優勝
機械電気			スポーツに関する分野における活動で顕著な成果をあげたもの	平成16年 8月 8日	特別活動演習	3	1	平成16		全国高専体育大会バレーボール競技優勝
機械電気			スポーツに関する分野における活動で顕著な成果をあげたもの	平成16年 8月 8日	特別活動演習	2	1	平成16		全国高専体育大会バレーボール競技優勝
機械電気			スポーツに関する分野における活動で顕著な成果をあげたもの	平成16年 8月 8日	特別活動演習	2	1	平成16		全国高専体育大会バレーボール競技優勝
土木建築			スポーツに関する分野における活動で顕著な成果をあげたもの	平成16年 8月 8日	特別活動演習	2	1	平成16		全国高専体育大会バレーボール競技優勝

出典：学生課資料

資料7-1-⑥-10 クラブリーダー研修会実施要領

平成17年度クラブリーダー研修会要項

目的：スポーツにおける栄養、水分補給、ツボ等について講演を受けることにより、各クラブの部員の体力及び競技力のレベルアップ並びにクラブ活動の活性化を図る。

内容：講演「栄養、水分補給、ツボ等の提示について」

講師：針灸治療師 [黒塗り] 氏

日時：平成17年12月17日（土）13：30から2時間程度

場所：メディアホール

参加者：各クラブの希望者および顧問

その他：参加者への周知は、別紙1による。

講師への依頼は、別紙2による。

出典：学生係資料

資料7-1-⑥-11 学生会会則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学生会会則

第1章 総 則

（趣 旨）

第1条 この会則は、徳山工業高等専門学校学生準則第19条に基づき、徳山工業高等専門学校学生会（以下「学生会」という。）に関し必要な事項を定める。

（組 織）

第2条 学生会は、次に掲げる徳山工業高等専門学校に在学する学生（以下「会員」という。）で組織する。

- (1) 本科会員 本科の1年生から5年生
- (2) 専攻会員 専攻科の1年生から2年生

(目 的)

第3条 学生会は、学校の指導のもとに、学生の自発的な活動を通して、その人間形成を助長し、次に掲げる事項を目標としてその達成に努めることを目的とする。

(1) 学生生活を楽しく豊かで規律正しいものにし、良い校風をつくる態度を養う。

(2) 健全な趣味や豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。

(3) 心身の健康を助長し、余暇を活用する態度を養う。

(4) 学校生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに集団生活において協力し、民主的に行動する態度を養う。

(5) 学校生活において自治的能力を養うとともに、公民としての生活を向上させる。

(遵 守)

第4条 学生会の活動を行うにあたっては、学生準則第19条第2項に定める遵守事項に違反することなく会を運営する。

## 第2章 機 関

(機 関)

第5条 学生会を運営するために、次の各号に掲げる機関をおく。

(1) 評議委員会

(2) 執行委員会

(3) 会計監査委員会

(4) 選挙管理委員会

(構 成)

第6条 学生会は、次の役員により運営する。

(1) 会長

(2) 副会長

(3) 評議委員

(4) 執行委員

(5) 会計監査委員

(6) 選挙監理委員

(任 期)

第7条 役員の任期は、毎年4月当初に始まり、翌年3月末日に終わるものとする。

2 役員に欠員を生じた場合は、役員ごとに補充を行う。なお、役員の任期は、前任者の残余期間とする。

出典：学生便覧

### 資料7-1-⑥-12 学生主事室と学生課学生係が学生会の指導・支援を行ったことが分かる資料

#### 平成18年度 学生会リーダー研修会要領

- |        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 1. 目 的 | 学生会活動のリーダーとしての意識の高揚と学生会役員相互の交流を図る |
| 2. 内 容 | 学生会長の司会により本年度学生会の方針・計画などについて話し合う  |
| 3. 日 時 | 平成18年4月21日(金) 17:15～              |
| 4. 場 所 | メディアホール                           |
| 5. 参加者 | 学生主事、学生主事補、学生係長、学生会(別紙2参照)        |

出典：学生係資料

資料 7-1-⑥-13 インターアクトクラブの活動報告書

活動報告書

インターアクトクラブ名 徳山高専

発表者名 〇〇 〇〇

タイトル 2004～2005年度徳山高専インターアクトクラブの主な活動

2004～2005年度の主な活動は以下のとおりです。

- 8月 ・フレンドシップキャンプ
  - 障害をもつ子供たちと出来ない子供たちとの交流キャンプのお手伝い。
  - ・さんさんクラブ
    - 障害をもつ子供たちが外出したり活動するときのサポートをするボランティア。
    - 食事や水泳のお手伝いをしました。
  - ・バスツアー
    - 障害をもつ人たちと一緒にスペースワールドへ行きました。
- 10月 ・芋掘り
  - 徳山ロータリークラブメンバーと鼓ヶ浦整肢学園の子供たちと芋掘りをしました。
- 11月 ・高専祭（バザー・献血）
  - バザーの品物はロータリークラブメンバーと本校教職員の提供。
- 1月 ・書き損じハガキの回収
  - 徳山ロータリークラブメンバー・本校教職員・学生に協力してもらいました。
- [その他]
  - ・2ヶ月に1回の例会
    - 徳山ロータリークラブの方に出席してもらいます。
  - ・徳山ロータリークラブ例会に出席
    - 活動報告をします。

出典：第 28 回インターアクト次年度指導者研修会プログラム（2005 年 6 月開催）

資料 7-1-⑥-14 徳山工業高等専門学校サテライト運営要項（抜粋）

徳山工業高等専門学校サテライト運営要項

平成 15 年 12 月 16 日

（目的）

1 徳山工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教育、研究、産学連携、文化活動等に関する情報の発信及び地域との交流拠点として活用するとともに、周南市中 心街の活性化に貢献するため、徳山工業高等専門学校サテライト(以下「サテライト」という。)を、周南市銀座 2 丁目 9 (TMO 徳山「ふれあいパーク街あい」内)に設置する。

（名称）

2 サテライトの名称は、「徳山高専夢広場」とする。

（サテライト運営委員会）

3 サテライトの管理・運営を円滑に行うため、次の各号に掲げる委員をもって組織する、サテライト運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

- (1) 運営委員長
- (2) 運営副委員長 2 名
- (3) 運営委員 若干名

（委員以外の者の出席）

4 運営委員長が必要と認める場合は、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

（委員会の業務）

5 委員会は、次の業務を行う。

- (1) サテライトの運営方針の立案に関すること。
- (2) サテライトの利用に関する企画、立案及び推進に関すること。
- (3) 本校内及び外部団体等との連絡調整に関すること。

(4) その他サテライトの運営に関し必要な業務。

(運営委員長)

6 運営委員長(以下「委員長」という。)は、本校の教授又は助教授の中から校長が指名する。

- (1) 委員長は、委員会の業務を掌理する。
- (2) 委員長の任期は、1年とし再任を妨げない。

(運営副委員長)

7 運営副委員長(以下「副委員長」という。)は、本校の学生及び教職員の中から各1名を校長が指名する。

- (1) 副委員長は、委員長の業務を補佐する。
- (2) 副委員長の任期は、1年とし再任を妨げない。

(運営委員)

8 運営委員は、本校の学生及び教職員の中から校長が指名する。

- (1) 運営委員は、委員会の業務に従事する。
- (2) 運営委員の任期は、1年とし再任を妨げない。

(雑則)

9 この要項に定めるもののほか、サテライトの運営に関し必要な事項は、別に定める。

出典：徳山高専規則集

資料7-1-⑥-15 パソコン若葉相談室を学生ボランティアで行っていることが分かる資料

(1) サテライト運営委員会議事録(パソコン若葉相談室を学生ボランティアで行うことが決定した資料)

※該当部分は黄色でハイライトしてある。

平成18年度第1回サテライト運営委員会議事録

日 時：平成18年4月17日(月) 17:15～

場 所：管理棟2F会議室

欠席者(委員)：会計課 大島

議 事

1. 昨年度のサテライト運営委員会の活動について  
 工産運営委員長から、資料により昨年度の夢広場イベントについて説明があった。  
 昨年度の銜あし利用状況について説明があった。
2. サテライト運営委員会の今年度の企画について  
 工産運営委員長から、資料により今年度の夢広場イベントについて説明があった。
  - ・ 夏休みに行う自由研究相談室には各学科の学生が相談員として参加する。
  - ・ パソコン若葉相談室の相談員は、学生が主体として開催することとするため、本科学生全員に募集をかける。また、ボランティアとして、特別学修認定の申請を行う。

出典：サテライト運営委員会資料

(2) パソコン若葉相談室でのボランティア活動に対して単位認定の申請を行うことを示す資料

平成18年度徳山高専夢広場「パソコン若葉相談室」への  
 学生ボランティア参加について

平成18年度に開催する徳山高専夢広場「パソコン若葉相談室」相談員として参加した学生について、本校「外部修得単位及び資格取得等による学習に係る単位修得の認定に関する規則」第4条第3号及び「ボランティア活動の認定取扱要領」により特別学修の申請を行う。

活動内容：夢広場に訪れた一般市民を対象として、パソコンに関する相談に対応する。

活動時間：通常開催＝毎週水曜日 17：30～19：00（1.5H）

特別開催＝年2回の特別相談室を開催（1回 4H）

年間を通して、通常開催18回以上かつ特別開催1回以上参加した者について認定。

その他：全回に本校教職員が付き添う。

ボランティア活動証明書は、年間の参加状況をTMO徳山の街あいスタッフが日誌に記録し、TMO徳山代表者が確認のうえ作成する。

出典：サテライト運営委員会資料

資料7-1-⑥-16 周南おもちゃ病院の実績を示す資料

※学生名は黒塗りにしてある。

		平成17年度おもちゃ病院参加実績																																	
		4月		5月		7月		7月		7月		8月		9月		10月		10月		11月		11月		12月		12月		1月		2月		3月			
		17日		15日		19日		17日		30日		31日		21日		18日		19日		16日		6日		13日		4日		10日		18日		19日			
イベント名		おもちゃ病院		おもちゃ病院		おもちゃ病院		おもちゃ病院		ルームスクール		ルームスクール		おもちゃ病院		おもちゃ病院		いでん祭		ものづくり		おもちゃ病院		ボランティア		ものづくり		元気こども		ものづくり		おもちゃ病院		おもちゃ病院	
クラス		名前																																	
7	ME5																																		
8	ME5																																		
9	ME5																																		
10	IE5																																		
11	IE4																																		
12	IE4																																		
13	IE4																																		
14	IE4																																		
15	ME2																																		
16	ME2																																		
17	CA2																																		
18	CA2																																		
19	IE2																																		
20	CA2																																		
21																																			
22	専攻科																																		
23	専攻科																																		
24	専攻科																																		
25																																			
26																																			
27																																			
28																																			
29																																			
30																																			

出典：地域連携推進係資料

資料7-1-⑥-17 ボランティア活動の単位認定規則（抜粋）

ボランティア活動の認定取扱要領

制定平成16年4月1日

（趣旨）

第1条 徳山工業高等専門学校の外部修得単位及び資格取得等による学修に係る単位修得の認定に関する規則第4条第3号により別に定めるとあるのは本要領による。

（ボランティアの機関・活動）

第2条 学生のボランティアの機関は、公的機関やそれと同等の信頼ができる団体等の受け入れや仲介のある活動のほか次に掲げるものとする。

- (1) 環境保全に関するもの
- (2) 災害における救助及び復旧活動等に関するもの
- (3) 身障者・老人などの介護に関するもの
- (4) 国際交流に関するもの
- (5) 地方公共団体等が主催する体育・文化などの行事に関するもの
- (6) その他校長が特に認めたもの

（ボランティアの時期）

第3条 時期は授業時間外とする。ただし、校長が特に認めた場合はこの限りではない。

（単位認定の手続き）

第4条 ボランティアに従事する学生は、実施する日の15日前までにボランティア活動許可願（1号様式）を学級担任を経て校長に提出し、許可を得なければならない。

- 2 校長は、許可した学生にボランティア活動日誌（3号様式）を交付するものとする。

(単位認定)

第5条 ボランティアに従事した学生が単位認定を希望する場合は、次の書類等を学級担任を経て教務係へ提出するものとする。

- (1) ボランティア活動証明書 (2号様式)
  - (2) ボランティア活動日誌 (3号様式)
  - (3) ボランティア活動報告書 (4号様式)
- 2 単位修得の認定は1単位とし、従事時間は30時間以上とする。

出典：学生便覧

資料7-1-⑥-18 ボランティア活動の単位認定制度が機能していることを示す資料 (認定者一覧)

※学生の名前や番号は黒塗りにしてある。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	<b>特別学修単位認定管理簿</b>										
2	平成16年4月～										
3	所属学科	学籍番号	氏名	外部修得科目名又は資格取得名等	修得又は取得年月日	認定科目名	学年	単位	認定年度	出席番号	備考
4	機械電気			ボランティア活動	平成17年 3月16日	特別活動演習	5	1	平成17		周南おもちゃ病院 受付業務等 (従事時間30時間)
5	機械電気			ボランティア活動	平成18年 2月18日	特別活動演習	4	1	平成17		鼓ヶ浦整枝学園 障害児の余暇活動支援等 (従事時間80時間)
6	土木建築			ボランティア活動	平成16年 8月27日	特別活動演習	3	1	平成16		(活動の名称)障害学 童休日リフレッシュ事業 (活動場所) 鼓ヶ浦整枝学園
7	機械電気			ボランティア活動	平成17年 6月19日	特別活動演習	2	1	平成17		周南おもちゃ病院 受付業務等 (従事時間41時間)

出典：学生課資料

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

(a) 生活面

- ・ 学生主事・主事補と学生課学生係が学生の指導・相談・助言を行う部署の中心として機能している。
- ・ 学級担任制を整備し、学級担任はクラスの学生の指導・相談・助言を行う中心として機能している。
- ・ 学生相談室を整備し、そのことを全学生に対して学生相談室案内及び学生便覧で通知することにより、相談・助言を行う体制を整えている。また、学生相談室プログラムを実施することにより、学生に対する相談・助言を行う部署として機能している。さらに、学生相談室はコミュニティワークを実施し、学生の生活面に関して、協働によるサポート（相談のある学生に関係する複数の部署が連携する形態の支援）を行っている（資料7-2-①-1，資料7-2-①-2，資料7-2-①-3，資料7-2-①-4）。
- ・ 学生相談室では、学生相談室プログラムの一環として、毎年準学士課程新入生に対してセクシャル・ハラスメント防止講習会を行っている。また、相談事例が出た場合にはコミュニティワ

ークを実施して対応している（資料7-2-①-5，資料7-2-①-6）。

- ・セクシャル・ハラスメント防止委員会を設置し，セクシャル・ハラスメント防止の啓蒙のため研修会を行い，実態把握のため学生・教職員に対してアンケートを実施している（資料7-2-①-7）。
- ・特に学生の心身に係る指導・相談・助言の場として保健室が機能している（資料7-2-①-8，資料7-2-①-9）。

(b)経済面

- ・経済的理由により修学が困難な学生に対しては，奨学金（日本学生支援機構，山口県奨学金，各市町村奨学金制度）の斡旋，入学料の免除（全額または半額）及び徴収猶予，授業料の免除（全額または半額），寄宿料免除の制度を整備している。また，そのことを全学生に学生便覧で案内したり，特に準学士課程新入生とその保護者に対しては入学前の修学指導でも案内したりすることにより，これらの制度を機能させている（資料7-2-①-10，資料7-2-①-11，資料7-2-①-12）。
- ・各種資格取得者に対して受験料免除の制度を導入している。
- ・徳山高専が行う海外語学研修では，補助金を出すことにより，参加者が研修に参加しやすくなるよう経済的に支援している（資料7-2-①-13）。

(分析結果とその根拠理由)

- ・学生の生活に係わる指導・相談・助言を行う体制が一面的ではなく，学生相談室のコミュニティワークによって多面的に機能しており，学生支援のネットワークが形成されている。
- ・経済面に係る支援体制も充実しており，支援実績も十分上がっている。

以上のことから，学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

資料7-2-①-1 学生相談室規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校学生相談室規則

(設置)

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学生相談室（以下「相談室」という）を置く。

(目的)

第2条 相談室は，学生の抱える悩みについて相談に応じ，適切な助言を行い，もって学生の健全な育成を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 相談室は，次の業務を行う。

- (1) 学生の抱える悩みに関する相談及び助言
- (2) 悩みを抱える学生を持つ学級担任への支援
- (3) 相談助言に関する調査研究
- (4) その他前条の目的達成に必要な事項

(構成)

第4条 相談室に次の職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 相談員 若干名
- (3) 健康相談員

(室長)

第5条 室長は，教授又は助教授の中から校長が任命する。

- 2 室長は，相談室の業務を掌理する。
- 3 室長の任期は2年とし，再任を妨げない。

(相談員)  
 第6条 相談員は、原則として教授、助教授又は講師の中から、校長が任命する。  
 2 相談員は、相談室の業務に従事する。  
 3 相談員の任期は2年とし、再任を妨げない。  
 (健康相談員)  
 第7条 健康相談員は、本校の看護師をもって充てる。  
 2 健康相談員は、相談員とともに学生の健康に関する相談業務に従事する。  
 (カウンセラーの協力)  
 第8条 室長は、業務の遂行にあたり、本校非常勤カウンセラーの協力を得ることができる。  
 (秘密保持)  
 第9条 相談室の職員は、その職務上知り得た個人的情報をみだりに他に漏らしてはならない。  
 (事務)  
 第10条 相談室に関する事務は、学生課において処理する。

出典：本校規則集

資料7-2-①-2 学生相談室の概要を示す資料 (抜粋)

1. 学生相談室の活動の方針と現状

相談室長 国重 徹

1. 学生相談室の方針  
 開設後5年が過ぎた学生相談室は、現在次の2つの方針に基づいて諸活動を行っている。  
 (1) 学生のさまざまな悩みの相談にのり、助言や場合によっては行動指示をすることによって少しでも問題解決に近づくこと  
 (2) すべての学生に対して発達に必要な援助を行うこと  
 学生相談室発足当時は、学生の問題発生を契機に個々の学生に対して行う相談活動が主であったが、問題が深刻になってからの相談の場合は相談活動の効果が少なく、留年や退学につながるケースが多々発生した。そこで、2001年度(平成13年度)からは、(2)の方針に基づき、学生相談室が多くの学生の発達援助を積極的に行う発達援助活動を導入することにした。徳山高専の学生相談室では、この発達援助活動を「学生相談室プログラム」と名付けた。このプログラムのねらいは、学生が少しでも自分自身を見つめる機会を増やし、心の発達に対する意識を高めることにある。また、副次的な効果として、学生相談室が学生にとってさらに身近なものになり、学生にとって敷居の低い学生相談室になっていくことも期待している。  
 この2つの方針は、いわば学生相談室の両輪であり、たがいに補完する位置付けにある。

2. 相談活動の流れと学生相談室の役割 (位置づけ)  
 次頁の図は、相談活動の流れを示している。学生からの相談依頼や、特定の学生に関する教官からの相談依頼があれば、まず相談員が相談にのる。最初の相談内容からは心の問題がどの程度深刻であるかを見極めることは難しく、一方では最悪のケースも想定する必要があることから、相談員の個人的判断に頼ることは危険である。そこで、相談内容の問題分析と対応の検討を学生相談室で行うようにしている。  
 検討はこれまでの事例などを参照しながら慎重に行うが、身体症状つまり不眠、拒食、自傷行為などが現れているかどうかを重要な判断基準にしている。もし、身体症状が現れている場合は、相談員の対応は困難であると判断し、専門カウンセラーに対応を依頼する。また、問題が深刻でも問題の性質から相談員が対応した方が良いと判断した場合は、専門カウンセラーに指導を受けながら学生相談を行う場合もある。もちろん、学生が直接専門カウンセラーに相談に行くことがある。この場合、専門のカウンセリングが良いか、相談員の対応の方が良いかの判断を専門カウンセラーに委ねている。  
 次に、健康状態に問題がない場合は、悩みの原因が学内問題(いじめ、セクハラ、アカハラ等)か、あるいは個人の内面的諸問題を重要な判断基準にしている。前者の場合は、教官とのトラブルの場合が多く、本人の承諾を得て関係

相談室の位置づけ

相談活動の流れ

学生相談室との連携作業

3

4

出典：学生相談室報

資料7-2-①-3 学生相談プログラム

平成18年度学生相談室プログラム(新入生対象)の日程

4月6日(木) 新入生に対する学生相談室のガイダンス, 新入生アンケート実施

場所: メディアホール 対象: 新入生全員 時間: 13:15~14:05 (50分)

※12:30より昼休みなので、13:00に集合してセッティング・準備をしましょう。

役割分担 (敬称略)

◎ 司会進行（桜本），パワポのセッティングや操作（原田）

1. 相談室長より皆さんへ（桜本）
2. スタッフ紹介（パワポに合わせ，原田，桜本，国重，近・星山，日南住，松尾の順番に紹介）  
近先生，星山先生の代理紹介（桜本）
3. ちょっと休憩＝心理ゲーム（原田）
4. 相談活動内容の紹介（桜本）セクハラのことや，相談件数等も口頭にて言う
5. 利用案内（松尾）
6. 新入生アンケート（説明＝国重，配布や回収等＝全員）

※授業がある先生方も自習もしくは，変更により参加してください。

4月6日（木）14：15～：近先生（外部カウンセラー）とスタッフの顔合わせ（於：学生相談室）クラスHR後（だいたい16：15前後頃），2年の新担任（池田光，神田，重松先生）と近先生とスタッフの顔合わせ（於：学生相談室）。※担任の先生方には，桜本先生が連絡。

〃 14：30～ 臨時学生相談室会議，アンケート吟味，相談に誘う学生決定

4月中旬頃～約2週間程度：手紙による新入生へのコンタクト（寮生全員）及び個人面談アンケート集計及び学級担任等への報告

4月13日（木）15：15～クラスHR（1年，2年，3年全クラス）で星山先生の自己紹介およびカウンセリング案内。

※担任の先生方へは桜本先生が連絡。

〃 16：15～：星山先生（外部カウンセラー）と，スタッフ及び1年～3年までのクラス担任で希望する先生方の顔合わせ（於：学生相談室）。※担任の先生方には，桜本先生が連絡。また，この時間帯は運営委員会が入っているので，原田先生，日南住先生，松尾さんの3人で対応をお願いいたします（原田先生に司会進行をお願い済みです）。

5月11日（木）15：15～クラスHR（1年全クラス）で近先生の自己紹介およびカウンセリング案内。

※担任の先生方へは桜本先生が連絡。

6月8日（木）4限目：セクシュアル・ハラスメント防止講習会 於：メディアホール

10月12日（木）4限目：1年全クラスのHRでシグマ検査実施（学生相談室員が実施）

10月下旬頃：シグマ検査実施後，相談希望のある学生に対する個人面談実施

10月末頃：1年の各クラス担任と学生相談室員の話し合い（シグマ検査の結果を踏まえて）

10月末頃：必要に応じて1年の各学科担任と学生相談室員の話し合い（シグマ検査の結果を踏まえて）

11月16日（木）4限目：1年全クラスのHRでシグマ検査の結果（学生用）返却及び説明

出典：学生相談室資料

資料 7-2-①-4 コミュニティワークによる対応事例

(1) 学年担任団とのコミュニティワーク

	<p>クラスで発生した「いじめ」とみられる問題に学年担任団の連携で取り組んだ事例</p> <p>&lt;問題&gt; あるクラスの中で、いじめとみられる問題の訴えが学生よりあった。学生は恐怖感を感じており、修学に支障をきたしていた。</p> <p>&lt;対応&gt; 学生のケアが必要なことから担任から相談室への連絡があった。その後、加害側が複数のクラスにまたがる可能性があるため、同じ学年の担任が集まってもらい対応策の検討を行った。 この検討の中で、加害側の学生たちのいじめへの意識が低く、いじめ(ハラスメント)と捉えていない状況が予想された。 そこで、訴えている学生を保護しつつ、事実関係を確認するために、クラスを特定せず同じ学年全クラスにアンケート調査を行った。</p> <p>&lt;コミュニティワークの効果&gt; 担任団が連携してクラスを特定せずにアンケートを実施することで、一クラスという狭い範囲の人間関係で詮索行動を取らさないですんだ。 アンケートの実施により、どういう行動がいじめとなるかといった情報が学生に提供でき、問題への理解と意識を高めることができた。 学年全体で取り組んだことが保護者にとっては学校への信頼感につながった。</p> <p>&lt;連携のパターン&gt;</p>
--	--

出典：学生相談室報

資料 7-2-①-5 セクシャル・ハラスメント防止講習会のレジメ

「セクシュアル・ハラスメント」について考えよう!

2005年 5月19日(木)

学 生 相 談 室

1. あなたの性別は? 男 ・ 女

2. 「セクシュアル・ハラスメント」(セクハラ)という言葉について、知っていることを書いてください。またこの言葉を聞いてどんな場面を想像しますか? 人・場所・場面などを具体的に書いてください。

3. あなたはどう思いますか? あてはまるものに○をつけてください。

( ) ①セクシュアル・ハラスメントは、ふざけているだけだ。

( ) ②学校で大人からセクシュアル、

( ) ⑥女子がミニスカートやびったりした服を着ていれば、それはセクシュアル・ハラスメントを招くことになる

「セクシュアル・ハラスメント」が起こってしまったら～覚えておいて欲しいこと～

もし被害にあってしまったら…（どうすればいいの？）

- そういうことをされたり言われるのは嫌だということを、相手にはっきり伝えましょう。
- セクシュアル・ハラスメントの事実について、日時・場所・具体的なやりとり、周囲の状況・会話や電話の内容などを記録しておきましょう。またメールや手紙は残しておきましょう。
- 被害にあうと、人は追いつめられた気持ちになり、どうしてよいか分からなくなったり、自分はひとりぼっちだと感じたり、絶望や恐怖を感じる場合があります。被害を受けた時、このような気持ちになるのは、当然の反応です。自分が悪いと思うのはやめましょう。
- ひとりで悩んだり自分を責めたりしないで、相談員や信頼できる人に話しましょう。

◆セクシュアル・ハラスメントが起きた時の状況を説明する際に、セクシュアル・ハラスメントを受けた人の話と加害者の話が異なってもかまいません。セクシュアル・ハラスメントは主観的なもので、ある行為がセクシュアル・ハラスメントだと決めるのは行為を受けた側の人です。他の人と意見が一致する必要はありません。

もし友達に相談されたら？

「たいしたことではない」と受け流さずに、しっかりと話を聞いて、相談をすすめてください。

★徳山高専では…

学生のみなさんの相談窓口は学生相談室で、学生相談室スタッフが相談に応じています。プラバシーは絶対に守られますので、安心して相談に来てください。

学生相談室スタッフ名簿(平成17年度)

所 属	氏 名	連 絡 先	場 所
一般科目 (学生相談室長)	くにしげ とおる 国重 徹	0834-29-6253 kunisige@tokuyama.ac.jp	管理棟 2階
機械電気工学科	さかせがわ えいいち 逆瀬川 栄一	0834-29-6275 sakasegawa@tokuyama.ac.jp	専門棟 2階
情報電子工学科	はらだ のりひこ 原田 徳彦	0834-29-6310 n-harada@tokuyama.ac.jp	専門棟 4階
土木建築工学科	ささき しんこ 佐々木 伸子	0834-29-6329 sasaki@tokuyama.ac.jp	専門棟 2階
学生課看護師	まつお ようこ 松尾 葉子	0834-29-6340 matuo@tokuyama.ac.jp	管理棟 1階 (保健室)
非常勤 カウンセラー	ちか ふみひこ 近 文彦	* 毎週木曜日 14時～18時 カウンセリングの予約は松尾まで	保健室内 学生相談室

出典：学生相談室資料

資料 7-2-①-6 セクシャル・ハラスメントのコミュニティワークによる対応事例

(5)セクハラ防止委員会とのコミュニティワーク

セクハラとみられる相談を受け、再発防止策の必要性があると捉えて、学校組織と連携して取り組んだ事例
<p>&lt;問題&gt;</p> <p>学生相談室においてセクシャルハラスメントとみられる被害を受けた学生のケアをする中で、周囲の無関心、無理解が被害を大きくしている構造を認識した。</p>
<p>&lt;対応&gt;</p> <p>被害者の了承の下、本校のセクハラ防止委員会に対して、本校ではセクハラに関する知識や情報が十分に周知できていないことを指摘し、情報提供や意識啓発の必要性を提示した。</p>
<p>&lt;効果&gt;</p> <p>セクハラ問題への意識啓発として研修を行う体制が整備できた。セクハラ防止委員会に学生相談室スタッフが委員として所属する。当該年では学生相談室によるセクハラ研修を全学年に対して実施し、次年度以降は毎年1年生で実施することになった。</p>
<p>&lt;連携のパターン&gt;</p>

出典：学生相談室報

資料 7-2-①-7 セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則

制 定 平成14年9月10日

(趣旨)

第1条 この規則は、徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における職員の職務能率の発揮及び就労上の適正な環境並びに学生等の修学上の適正な環境を確保するため、セクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に、適切に対応するための措置に関し必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) セクシュアル・ハラスメントとは、職員が他の職員、学生等及び関係者を不快にさせる性的な言動並びに学生等及び関係者が職員を不快にさせる性的な言動をいう。

(2) セクシュアル・ハラスメントに起因する問題とは、セクシュアル・ハラスメントのため、職員の就労上又は学生等の修学上の環境が害されること及びセクシュアル・ハラスメントへの対応に起因し、職員が就労上又は学生等が修学上の不利益を受けること。

(職員及び学生等の責務)

第3条 本校の職員及び学生等は、この規則に従い、セクシュアル・ハラスメントを行わないよう注意しなければならない。

(監督者の責務)

第4条 職員又は学生等を監督する地位にある者（以下「監督者」という。）は、就労上又は修学上の適正な環境を確保するため、次の各号に掲げる事項に注意しセクシュアル・ハラスメントの防止及び排除に努めるとともに、セクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合には、迅速かつ適切に対処しなければならない。

(1) 日常の指導等にセクシュアル・ハラスメントに関し、職員及び学生等の注意を喚起し、セクシュアル・ハラスメントに関する認識を深めさせること。

(2) 職員及び学生等の言動に十分注意を払うことにより、セクシュアル・ハラスメント又はセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が職場に発生しないよう配慮すること。

(校長の責務)

第5条 校長は、本校の職員及び学生等に対し、この規則の周知徹底を図らなければならない。

2 校長は、セクシュアル・ハラスメントの防止等のため、本校の職員及び学生等に対し、パンフレットの配

布、ポスターの掲示、意識調査等により啓発活動を行うよう努めるものとする。

3 校長は、セクシュアル・ハラスメントの防止等を図るため、本校の職員に対し必要な研修を実施するものとする。

4 校長は、新たに職員となった者に対して、セクシュアル・ハラスメントに関する基本的な事項について理解させるとともに、新たに監督者となった職員に対しては、セクシュアル・ハラスメントの防止等に関し、その求められる役割について理解させるため、研修を実施しなければならない。

(防止委員会の設置)

第6条 本校に、セクシュアル・ハラスメントの防止等に関し適切な対策を講じるため、セクシュアル・ハラスメント防止委員会（以下「防止委員会」という。）を置く。

(防止委員会の任務)

第7条 防止委員会は、セクシュアル・ハラスメントに関する次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 防止及び排除に関すること。
- (2) 苦情相談体制に関すること。
- (3) 事実関係の調査に関すること。
- (4) 加害者に関する指導等に関すること。
- (5) 被害者に関するカウンセリングに関すること。

(防止委員会の構成)

第8条 防止委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事，学生主事及び寮務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 事務部長
- (5) 庶務課長
- (6) 学生課長
- (7) その他校長が必要と認めた者

2 前項第7号の委員は、男・女両性の意見が反映できるよう配慮する。

3 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 防止委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

5 委員長に事故あるときは、委員長の指名する委員がその職務を代行する。

出典：本校規則集

資料7-2-①-8 保健室の写真





出典：保健室資料

## 資料 7-2-①-9 保健室での相談・対応事例

保健室での相談・対応事例（平成17年度特徴的であったもの）

- ・ 外科的理由（けが）で来室した学生で、その背後に友人からの嫌がらせがあることが分かり、その後、学生相談室についでないだ。
- ・ 内科的理由（倦怠感、頭痛、腹痛、睡眠不足等）で来室した学生の中にも、相談的要素の大きいもの（家庭内の問題、進路の問題、対人関係の問題等）が数件あり、うち1名に関しては、非常勤カウンセラー及び学校医との連携を図った。（非常勤カウンセラーによるカウンセリング及び学校医による投薬。）
- ・ 喫煙をやめたいという相談があり、周南市保健センターの保健師にアドバイスをもらい対応した事例があった。（途中で来室しなくなり、禁煙には至らなかった。）
- ・ 慢性疾患を持ちながらも、病気に対する自覚が乏しい学生（寮生）がおり、学生相談室、寮務主事、非常勤カウンセラー等と連携を図りながら対応した。服薬管理ができておらず、また生活リズムにも変調をきたし、進路等にも悩みを抱えていたため、複数回に渡る対応を要した。（数年前より継続）
- ・ 性に関する相談（妊娠・避妊・性感染症等）が目立つ。性に関する相談は1回の時間もかかり、緊急性があるため、短期間で複数回に渡るという特徴がある。
- ・ 20歳以上の学生の性に関する問題について、守秘義務と保護者への連絡との兼ね合いで悩むケースが生じた。学生相談室との連携の結果、自己管理が十分でない状況であると判断し、まずは本人の身体を第一に考え、病院受診させた。
- ・ 対人関係の問題を抱える学生（寮生）の保護者からの相談があった。
- ・
- ・ 保険の手続きで来校した保護者より、進路・成績・生活面についての相談（報告）があった。

出典：保健室資料

## 資料 7-2-①-10 授業料・寄宿料の免除及び授業料の徴収猶予に関する規則（抜粋）

**徳山工業高等専門学校授業料・寄宿料の免除及び授業料の  
徴収猶予に関する規則**

第1章 総則

（趣旨）

第1条 本校学則第36条号の規定により、授業料及び寄宿料の免除並びに授業料の徴収猶予（以下「授業料等の免除・徴収猶予」という。）については、法令の定めによるもののほか、この規則の定めるところによる。

第2章 授業料の免除

（免除の範囲）

第2条 授業の免除は、次の各号の一に該当する場合に行うことができる。

- (1) 経済的理由のため授業料の納付が困難であり、かつ、学習優秀と認められる場合
- (2) 学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が授業料の各期ごとの納期前6月以内（新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は、入学前1年以内）に死亡した場合、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められた場合
- (3) 死亡又は行方不明のための学生の学籍を除いた場合
- (4) 授業料の未納を理由として学生に退学を命じた場合

(5) 授業料の徴収猶予を許可した場合には、授業料を免除する。

第3条 学生の休学を許可した場合には、授業料を免除する。

(免除額)

第4条 第2条第1号の規定による授業料の免除の額は、各期に納付すべき授業料について全学又は半額とする。

2 第2条第2号の規定による授業料の免除額は、災害発生期の翌期に納付すべき授業料について全学又は半額とする。ただし、災害発生時期が当該期の授業料の納期以前の場合は、当期の授業料についても免除を行うことがある。

3 第2条第3号及び第4号の規定による授業料の免除の額は、未納額とする。

4 第2条第5号の規定による授業料の免除の額は、月割計算により退学の翌月以降に納付すべき授業料の全学とする。

5 第3条の規定による授業料の免除の額は、休学当月の翌月（休学を月の初日から許可した場合はその月）から復学当月の前月までの月割計算による全額とする。

第5条 前条第1項及び第2項に定める免除額の総額は、文部省から指示された額の範囲を超えないものとする。

(中略)

#### 第4章 寄宿料の免除

(免除の範囲)

第10条 寄宿料の免除は、次の各号の一に該当する場合に行うことができる。

(1) 学生又は学生の学資を主として負担している者風水害等の災害を受け、寄宿料の納付が困難と認められた場合

(2) 死亡又は行方不明のための学生の学籍を除いた場合

(3) 授業料の未納を理由として学生に退学を命じた場合

(免除額)

第11条 前条第1号の規定による寄宿料の免除の額は、災害の発生した日の属する月の翌月から起算して6日間の範囲内において校長が必要と認める期間に納付すべき寄宿料の全学とする。

2 前条第2号及び第3号の規定による寄宿料の免除の額は、未納額とする。

出典：本校規則集

#### 資料7-2-①-11 授業料や寄宿料の免除についての学生便覧の該当箇所

(授業料等の免除及び徴収猶予)

第47条 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は風水害等の災害を受けた場合、その他やむを得ない事由により、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には、入学料の全額若しくは半額を免除することがある。

2 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、又は休学、死亡その他やむを得ない事情があると認められる場合には、授業料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を猶予することがある。

3 風水害等の災害を受けたことにより、寄宿料の納付が困難であると認められる場合には、寄宿料の全額を免除することがある。

4 前3項に関し必要な事項は別に定める。

(寄宿料等)

第8条 寄宿料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則の定めるところによる。

2 寄宿料は、学寮に入寮した日の属する月から退寮する日の属する月まで毎月末日までにその月の分を納付しなければならない。ただし、休業期間中の分は、休業期間前の別の定める日までに納付するものとする。

3 寮生の生活上必要な経費で各人の負担すべきものは、別に定めるところにより納付するものとする。

4 寮生又は寮生の学資を主として負担している者が災害を受け、納付困難と認められる場合は、別に定めるところにより寄宿料を免除することがある。

5 寄宿料および第3項の経費を納付しない者は、退寮させることがある。

出典：学生便覧

資料 7-2-①-12 授業料免除等の利用実績

※関連のない項目は空白にしてある。

別紙 7

授業料免除実施状況(学内実施分)

高専番号	
高専名	高等専門学校
担当者名	
職名	
TEL	- -
E-mail	

年度	前期	後期	※シートを削除しないでください。
18	1		

免除申請者数(人)	日本人	私費留学生	合計
	69	0	69

日本人 全額免除済	実施人数(人)	家計評価額の 最高額(万円)
	33	

日本人 半額免除済	実施人数(人)	家計評価額の 最高額(万円)
	6	

私費留学生 全額免除済	実施人数(人)	家計評価額の 最高額(万円)
	0	

私費留学生 半額免除済	実施人数(人)	家計評価額の 最高額(万円)
	0	

出典：学生課資料

資料 7-2-①-13 徳山工業高等専門学校海外研修奨学金取扱要領(抜粋)

※該当箇所は黄色でハイライトしてある。

徳山工業高等専門学校海外研修奨学金取扱要領

(目的)

第1条 この要領は、徳山工業高等専門学校の学生が、コミュニケーション能力の向上及び国際理解を深めるために行う海外研修を援助するための、「徳山工業高等専門学校海外研修奨学金」(以下「海外研修奨学金」という。)の適正な運用について、必要な事項を定めることを目的とする。

(奨学資金)

第2条 海外研修奨学金の資金は、徳山工業高等専門学校後援会からの寄附金をもって充てるものとする。

(資格)

第3条 海外研修奨学金を受ける者(以下「海外研修奨学生」という。)の資格は、本科3年生、4年生、5年生及び専攻科1年生、2年生に在学し、学業、人物ともに優れ、かつ語学力の向上及び国際的教養を体得することに高い関心がある者とする。

(海外研修奨学金の額)

第4条 海外研修奨学金は、海外研修奨学生1人当たり10万円程度とする。

出典：学生課資料

観点7-2-②： 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）  
がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

(a) 留学生に対する支援

- ・学級担任以外に、留学生担当教員及び学生のチューター（留学生1人つき1名）を配置し、生活面の支援を行っている。
- ・留学生が学校生活の支援の一つとして、学校の施設や室名には英語の表記が付けられている（資料7-2-②-1）。
- ・留学生の生活の場である学寮では、留学生専用フロア、留学生談話室（パソコン2台設置）、留学生専用シャワー室、イスラム教徒に配慮した補食室が整備してある。また、学寮のスタッフが留学生の生活面の支援を行っている（資料7-2-②-2）。

(b) 障害のある学生に対する支援

- ・学内での生活に支障が出ないように、バリアフリー化（エレベーター、身障者用トイレ、自動ドア設置教室、車椅子用スロープ）を実施した。
- ・特に必要のある場合、障害のある入学生に対して、学生本人、学級担任、学生の所属する学科の教員、教科担当の教員、学生課の事務職員、中学校の教員、保護者を交えて入学前の特別打ち合わせ会が整備され、機能している。平成18年3月には、聴力に障害のある新入学生に対して、入学前特別打ち合わせ会を実施した。

（分析結果とその根拠理由）

- ・留学生に対しては、施設面はもちろん、留学生担当教員、学生のチューター、ホストファミリーの複数のサポートネットワークが形成され十分機能している。
- ・障害のある学生に対しても、施設のバリアフリー化が実施されているだけでなく、係わりのある複数の部署の教職員が、入学前の特別打ち合わせ会を通して情報をシェアし、サポートネットワークを形成し、生活面の支援を行っている。

以上のことから、特別な支援が必要な者に対する生活面での支援が適切に行われている。

資料7-2-②-1 室名の英語表記を示す写真



出典：自己評価委員会資料

資料7-2-②-2 学寮における留学生の生活支援を示す写真

(1) 留学生専用フロア



(2) 留学生談話室



(3) 留学生専用シャワー室



(4) イスラム教徒に配慮した補食室



出典：寮務主事室資料

観点 7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

(a)生活面

- ・ 学生寮を整備し、寮務主事、寮務主事補 4 名、寮務係長、寮母（非常勤）を中心に、寮生の指導を行っている（資料 7-2-③-1，資料 7-2-③-2，資料 7-2-③-3，資料 7-2-③-4）。
- ・ 学寮運営委員会を組織し、学生寮の運営改善を図っている（資料 7-2-③-5）。
- ・ 寮生自らが日常の清掃や閉寮時の大掃除を行い、生活環境の美化に努めている。また、寮務主

事を中心とするスタッフや宿直・日直の教員が清掃状況をチェックして指導している（資料7-2-③-6）。

- ・寮務主事を中心とするスタッフの指導の下、寮生会を組織し、寮生活と行事の企画・運営を担わせている（資料7-2-③-7，資料7-2-③-8，資料7-2-③-9）。
- ・寮生活を充実させるため、寮生会が新入寮生歓迎マッチ（それに続くバーベキューパーティ）、とおのやま登山、学寮見学旅行、予餞会を企画・運営している（資料7-2-③-10，資料7-2-③-11，資料7-2-③-12，資料7-2-③-13）。
- ・寮務主事を中心とするスタッフの指導の下、寮生リーダー研修会（年2回）、寮生総会（年2回）、寮生合同アSEMBリ（月1回程度）を開催し、よりよい寮生活の実現を目指している（資料7-2-③-14，資料7-2-③-15，資料7-2-③-16）。

(b) 勉学面

- ・寮生生活時間割の中に自習時間が設定されており、その間宿直の教員の巡回指導がある。また、集中して勉強ができるよう、自習室を貸し出している（資料7-2-③-17，資料7-2-③-18，資料7-2-③-19）。
- ・定期試験前には、勉強会を行っている。また、勉強会中に寮生同士で質問したり教えたりできるよう、学習相談員制度を実施している（資料7-2-③-20，資料7-2-③-21，資料7-2-③-22）。

(分析結果とその根拠理由)

- ・寮務主事を中心とするスタッフ及び寮生会が協力して、生活面においても勉学の面においても寮を有効な場としている。

以上のことから、学生寮が学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。

資料7-2-③-1 学生寮の設置状況（料金体系を含む）、入寮状況、施設・設備の整備状況

(1) 徳山高専学生寮の写真



(2) 料金体系や入寮状況、施設・設備の整備状況

### ☆ 諸経費

- ・入寮費 1,000 円 (入寮時)
- ・寄宿料 700 円 (月額)
- ・寮費 6,500 円 (月額)
- ・食費 約 30,000 円 (月額)
- ・寮生会費 1,500 円 (年額)

### ☆ 入寮状況

○ 学生寮の収容定員・現員と充足率 (4月1日現在)

	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
収容定員	204	204	144	144	144
現員	79	82	71	91	106
充足率	39%	40%	49%	63%	74%

	17年度	18年度
収容定員	144	144
現員	118	114
充足率	82%	79%

※平成14年度より、定員144名(男子120,女子24)へ改定

### ☆ 施設・設備の整備状況等

- ・談話室 (テレビ・ビデオ)
- ・サンルーム (卓球台)
- ・浴室 (高学年・低学年・女子)
- ・洗濯・物干場 (洗濯機・乾燥機)
- ・補食室 (ガスコンロ・湯沸器等)
- ・食堂 (パソコン、テレビ、DVD) エアコン

出典：寮務主事室資料

## 資料7-2-③-2 学生寮の管理組織に係る規定 (抜粋)

### 徳山工業高等専門学校学寮運営委員会規則

#### (設置)

第1条 この規則は、徳山工業高等専門学校学寮規則第6条第2項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。

#### (任務)

第2条 委員会は、校長の命を受け、学寮に関する次の事項を審議する。

- (1) 入寮及び退寮に関すること。
- (2) 寮生の福祉増進に関すること。
- (3) 寮生の規律保持に関すること。
- (4) 寮生の指導に関すること。
- (5) 学寮の防災に関すること。
- (6) 寮生の安全に関すること。
- (7) 学寮の給食業務に関すること。
- (8) その他学寮に関すること。

#### (構成)

第3条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 寮務主事
- (2) 寮務主事補

- (3) 女子寮担当教員
- (4) 1年・2年の学級担任から1名
- (5) 3年から5年の学級担任から1名
- (6) 学生課長

(任命及び任期)

第4条 前条に定める委員のうち、第5号による委員の任命及び任期は、次のとおりとする。

- (1) 委員は校長が任命する。
- (2) 委員の任務は1年とする。ただし、補欠を生じ任命された委員の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。

(運営)

第6条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

第7条 委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告し、承認を受けなければならない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会において必要があると認めた場合には、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、学生課寮務係において処理する。

出典：学寮運営委員会規則

### 資料7-2-③-3 徳山工業高等専門学校学寮規則（抜粋）

#### 徳山工業高等専門学校学寮規則

(目的)

第1条 この規則は、学則第53条第2項の規定に基づき、学寮の管理及び運営等について定めることを目的とする。

第2条 学生の修学に便宜を供与し、かつ、その人間形成を助長して、教育目標の達成に資することを目的とする。

(寮生活の基本)

第3条 学寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は、この規則及びこの規則に基づいて定められた諸規則を守り、相互に敬愛啓発して自己及び共同生活の向上充実に務めなければならない。

(所管)

第4条 学寮の管理運営に関する事項は、校長の命を受けて、寮務主事が処理する。

(女子寮相当教員)

第5条 女子寮の運営等に関し、寮務主事補の業務を分掌させるため、女子寮担当教員を置き、校長が任命する。

- 2 女子寮担当教員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第6条 学寮の管理運営に関する事項を調整審議するため、学寮運営委員会を置く。

- 2 学寮運営委員会の組織及び運営に必要な事項は、別に定める。

出典：本校規則集

資料 7-2-③-4 寮生心得 (抜粋)

**寮 生 心 得**

寮生は学寮規則を遵守するほか、次の各項によって秩序ある生活をしなければならぬ。

**1. 日 課**

(1) 日課時間

日課時間は共同生活の基本となるべきものであるため、寮生はつぎの時間表によって行動すること。

区 分	時 間	
	平 日	休 業 日
起 床	※7:00	※8:00
朝 点 呼	※7:10	※8:10
清 掃	7:10~7:40	
朝 食	7:40~8:20	8:10~8:40
登校終了	※8:30	
昼 食	12:30~※13:00	12:00~13:00
夕 食	17:30~19:00	
入 浴	17:00~20:30	
門 限	女子	19:30
	男子	21:00
夜 点 呼	女子	※19:30
	男子	※21:00
自習時間	20:00~22:50	
消 灯	※23:00	

(※印はチャイム放送)

(2) 延滞について

試験勉強のために延滞する場合は、試験開始2週間前から午前1時まで、試験中は午前2時まで延滞ができる。

**2. 学寮を勉強のできる場とするために**

(1) 自習時間について

- ア 自習時間中は静粛にし、みんなが勉強できる雰囲気を作るためつぎのことを厳守すること。
- ア 必要あってラジオを聞くときはイヤホンを使用すること。

出典：学生便覧

資料 7-2-③-5 学寮運営委員会規則 (抜粋)

(1) 学寮運営委員会規則

徳山工業高等専門学校学寮運営委員会規則

(設置)

第1条 この規則は、徳山工業高等専門学校学寮規則第6条第2項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 委員会は、校長の命を受け、学寮に関する次の事項を審議する。

- (1) 入寮及び退寮に関すること。
- (2) 寮生の福祉増進に関すること。
- (3) 寮生の規律保持に関すること。
- (4) 寮生の指導に関すること。
- (5) 学寮の防災に関すること。
- (6) 寮生の安全に関すること。
- (7) 学寮の給食業務に関すること。
- (8) その他学寮に関すること。

(構成)

第3条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 寮務主事
- (2) 寮務主事補

- (3) 女子寮担当教員
- (4) 1年・2年の学級担任から1名
- (5) 3年から5年の学級担任から1名
- (6) 学生課長

(任命及び任期)

第4条 前条に定める委員のうち、第5号による委員の任命及び任期は、次のとおりとする。

- (1) 委員は校長が任命する。
- (2) 委員の任務は1年とする。ただし、補欠を生じ任命された委員の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を行う。

(運営)

第6条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

第7条 委員長は、委員会で審議した事項を校長に報告し、承認を受けなければならない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会において必要があると認めた場合には、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、学生課寮務係において処理する。

出典：本校規則集

## (2) 議事録

18.2.14.

平成17年度 第3回学寮運営委員会議事録

1. 寮生の特別指導について

(1) 特別指導となる行為

玄関および居室鍵の寮外無断持ち出し

2月8日(水) 鍵の寮外無断持ち出しを行い、昼食時、日直の張間主事補に指導された。事情聴取においても反省の姿勢が見られていない。

該当寮生は、鍵の管理に極めてルーズであり、これまでしばしば注意を受けていたが、昨年末、玄関および居室鍵を寮外に無断で持ち出して紛失し、保護者同伴で、主事嚴重注意、鍵取り替えの経費の全額弁済、再入寮保留の指導を受け、鍵の管理を厳しく行うことを保護者共々確約している。

(2) 対象者

CA3 ○○○○

(3) 指導内容

停寮5日(2月16日～19日)、始末書の提出

(4) 言い渡し期日

平成18年2月16日(木) 16時10分 学寮会議室

(5) 立会人

寮務主事補、保護者、担任、学生課長

2. 再入寮生について

在寮生の再入寮申請に基づき、該当者に寮務主事補による面接審査を実施。

申請者全員、入寮許可が適当であると判断した。

3. 閉寮について

2月23日(木) 1～4年生全員および5年生の希望者

9時～12時

2月27日(火) 5年生

14時～16時(16時完全閉寮)

なお、2月23日～26日については、5年生に掃除当番などの環境整備を担当させる。

4. その他

出典：平成17年度 第3回学寮運営委員会議事録

資料 7-2-③-6 清掃終了確認表 (チェックされたもの)

※名前の部分はモザイクがかけてある。

**清掃終了確認表**  
平成18年2月

場 所	部屋番号 担当者名	日 程															再清掃 回数	
		1 水	2 木	3 金	4 土	5 日	6 月	7 火	8 水	9 木	10 金	11 土	12 日	13 月	14 火	15 水		
1 階	玄関・中央廊下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	風呂・脱衣所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	便所・洗面所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2階への階段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2 階	廊下・談話室	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	補食室・洗面所・便所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	3階への階段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 階	廊下・談話室(4)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	補食室・洗面所・便所(4)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	洗面所・便所(4)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	4階への階段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4 階	廊下・サンルーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	補食室・洗面所・便所(4)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	談話室・洗面所・便所(4)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	屋上への階段	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

出典：寮務主事室資料

資料 7-2-③-7 寮生会会則 (抜粋)

徳山工業高等専門学校寮生会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は徳山工業高等専門学校寮生会と称する。

(目 的)

第2条 本会は学寮規則第8条の規定により、寮務主事の指導監督のもとに規律ある共同生活を営み、自主的な寮生活を送り、寮生相互の親和をはかり、健全な学習環境を作ること

を目的とする。

(構 成)

第3条 本会の会員は、徳山工業高等専門学校寮生全員をもって構成する。

(運営機関)

第4条 第2条の目的達成のため、本会につぎの機関をおく。

- (1) 寮生総会
- (2) 寮議会
- (3) 役員会
- (4) 階室会
- (5) 監査委員会
- (6) 選挙管理委員会

第2章 寮 生 総 会

(地 位)

第5条 寮生総会 (以下「総会」という) は、本会の最高議決機関とし、寮生会長がこれを

召集する。

(定期総会)

第6条 定期総会は年2回とし、4月および10月に開催するものとする。(臨時総会)

第7条 臨時総会は、つぎの場合開催することができる。

- (1) 会員の3分の1以上の要求があったとき。
- (2) 寮議会が必要と認めたとき。
- (3) 役員会が必要と認めたとき。

(総会の召集)

第8条 総会の召集は、原則として5日前までに寮生会長が日時・場所・議題を掲示によって行わなければならない。

(総会の議決事項)

第9条 総会において議決を要する事項はつぎのとおりである。

- (1) 会則の制定および改廃。
- (2) 予算・決算の承認および当期の活動報告、次期の活動計画。
- (3) 監査委員会のため報告
- (4) その他の承認事項および寮生会運営上の重要事項。

出典：学生便覧

資料7-2-③-8 寮生会役員一覧

※名前の部分は黒塗りにしてある。

平成17年度 寮生会役員一覧

執行部			
寮生会長	■■■■■	盗難防止会計部長	■■■■■
寮生副会長	■■■■■	企画部長	■■■■■
	■■■■■		■■■■■
内務部長	■■■■■		留学生代表
女子寮内務美化部長	■■■■■	指導寮生長	■■■■■
美化・厚生部長	■■■■■	書記	■■■■■
体育部長	■■■■■		
文化・広報部長	■■■■■	選挙管理委員長	■■■■■

フロアー会		
	階長	副階長
1階	■■■■■	■■■■■
2階	■■■■■	■■■■■
3階	■■■■■	■■■■■
4階	■■■■■	■■■■■

副階長は従来の仕事に加え、指導寮生長と共に勉強会運営委員となる。

出典：寮務主事室資料

資料7-2-③-9 高城寮行事予定表

平成18年度 高城寮行事予定

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
4	4	火	入寮式 14:00	10	1	日	開寮 8:30 部屋替え 後期寮生リーダー研修会 (寮食堂 20:00)
			開寮 8:30 部屋替え 前期寮生リーダー研修会 (寮食堂 20:00)				2
	5	水	始業		5	木	
	6	木	校長講話・新入寮生対面式 寮生総会 20:00	11	3	金	寮生保護者会(個人面談)
				12	21	木	予餞会(夕食 17:30)
					22	金	大掃除・閉寮 17:00
15	土	新入寮生歓迎寮生マッチ 9:00 (昼食 焼肉)	8	月	開寮 8:30		
5	2	火	大掃除・閉寮 17:00	1	11	木	寮生会長・副会長選挙
	7	日	開寮 8:30		18	木	役員引継会 20:00
	11	木	高城寮避難訓練 16:10	2	15	木	卒寮式
	13	土	とおの山登山		23	金	大掃除・仮閉寮 12:00
6	24	土	寮生保護者会	28	水	閉寮 17:00	
7	20	木	大掃除・閉寮 17:00	※備考 ・勉強会 ・教養講座 ・他高専寮訪問 ・留学生の夕べ(1/14) ・寮祭(研修旅行) 5, 10, 3月 学寮日より			
8	31	木	開寮 8:30				
9	22	金	大掃除・閉寮 12:00				

出典：寮務主事室資料

資料7-2-③-10 新入寮生歓迎マッチ実施要領

※学生名の箇所は黒塗りにしてある。

平成18年度 新入生歓迎寮生マッチ

平成18年4月15日

9:00 第2体育館集合

**開会式** 司会

1. 開会宣言
2. 寮務主事挨拶
3. 競技説明
4. 選手宣誓
5. ラジオ体操

■■■■■  
■■■■■  
池田先生  
■■■■■  
■■■■■

(準備) 2年生

9:30～11:20 各種競技スタート

11:30～12:20 団体戦

12:30 寮前集合

**閉会式** 司会

1. 成績発表
2. 寮務主事挨拶
3. 総括
4. 閉会宣言

■■■■■  
■■■■■  
池田先生  
■■■■■

(後片付け) 1年生

4/14 中に集金

4/14 16:00～ バーベキュー道具準備 (2年生)

4/14 18:00～ 買い出し (天内・張間、車2台)

出典：寮務主事室資料



場 所：高城寮食堂

企画  
進行

- ・ 食堂集合 17:00
- ・ 開会式 17:00～17:10
- ・ すもう大会（男子） 17:15～18:00
- ・ 食事 18:05～
- ・ 山手線ゲーム（女子） 18:30～19:00
- ・ 対抗リレー（男子・女子） 19:05～19:30
- ・ 出し物 19:35～20:00
- ・ 記念品贈呈および5年生あいさつ 20:05～20:50
- ・ 閉会式 20:50～21:00
- ・ 記念撮影・後片付け 21:00～

購入品：記念品，菓子，ジュース，クオカード等  
予餞会費用80,000から購入

出典：寮務主事室資料

資料7-2-③-14 寮生リーダー研修会実施に関する資料（リーダー研修会実施要領）

平成17年度前期寮生リーダー研修会

メインテーマ

「青春」

日 時：平成17年4月3日（日）16:20集合  
16:30開始

場 所：高城寮食堂

参 加 者：教 職 員 .....5名.....  
寮生会役員 .....1.5名.....  
階長・副階長 .....8名.....（7名）  
計 .....のべ2.8名，実質27名

徳山工業高等専門学校 高城寮

研 修 会 実 施 要 領

1. 目 的：寮生のリーダーとしての自覚を高め，寮生会活動の活性化を図る。  
役員相互の認識を統一し，協力意識を高める。

2. 日 程：

16:30 開 会

寮務主事あいさつ  
寮生会長あいさつ  
全体会議

17:50 総括

寮生副会長あいさつ

17:55 閉会，あと片付け

出典：寮務主事室資料

資料7-2-③-15 寮生総会実施に関する資料（寮生総会実施要領）

平成17年度寮生総会

日時：平成17年10月6日（木）20:00～

場所：寮食堂

1. 寮生会長あいさつ
2. 寮務主事講話
3. 寮生会からの報告
  - ・ 前期の反省

- ・後期に向けての目標
- ・各局長の抱負
- ・リーダー研修会での報告事項
- ・後期行事説明

4. その他

出典：寮務主事室資料

資料7-2-③-16 寮生合同アゼンブリ実施に関する資料（アゼンブリ実施要領）

第七回アゼンブリ資料

日時：平成18年2月16日（木）

場所：高城寮食堂

時間：20：00～

項目

1. 寮生会長あいさつ（寮生会長 XXXXXXXXXX）
2. 室長寮務主事最終講話
3. 学習指導員，指導謝金
4. 連絡事項

2/23（木）の仮閉寮，2/27（月）の閉寮について

仮閉寮：公共場所の清掃，部屋の掃除，点検（23日9：00～12：00）

注：2/23（木）の朝食まで食事あり。仮閉寮後も寮に滞在する五年生は，滞在期間を記入し，担当教員の許可を得る

事。

以下の荷物置き場は，22日夕食までに清掃を終える事。

荷物置き場：原則持ち帰る事

二階：談話室，自習室

三階：談話室，休養室

四階：談話室

女子寮：談話室

点検時間

23日 9：00～12：00

27日 14：00～16：00

入寮式

日時：4月4日（火）14：00～，場所：寮食堂

リーダー研修会

日時：4月4日（火）20：00～，場所：寮食堂

4/4（火）開寮日は，夕食があります。夕食の時間までに帰寮する事

出典：寮務主事室資料

資料 7-2-③-17 寮生時間割表

高城寮日課表  
(試行)

		平日	休業日
起 床		7:00	
朝 点 呼		7:10	8:10
掃 除		7:10~7:40	
朝 食		7:40~8:20	8:10~8:40
登 校 完 了		8:30	
昼 食		12:30~13:00	12:00~13:00
夕 食		18:00~19:30	
入 浴		17:00~22:00	
門限・夜点呼		男子 21:30 女子 20:00	男子22:00 女子20:00
自 習 時 間		20:00~21:30 22:00~23:30	
消 灯		23:30	

(2006.4.1)

出典：寮務主事室資料

資料 7-2-③-18 自習室使用簿

※名前及び号室にはモザイクがかけてある。

自 習 室 使 用 簿

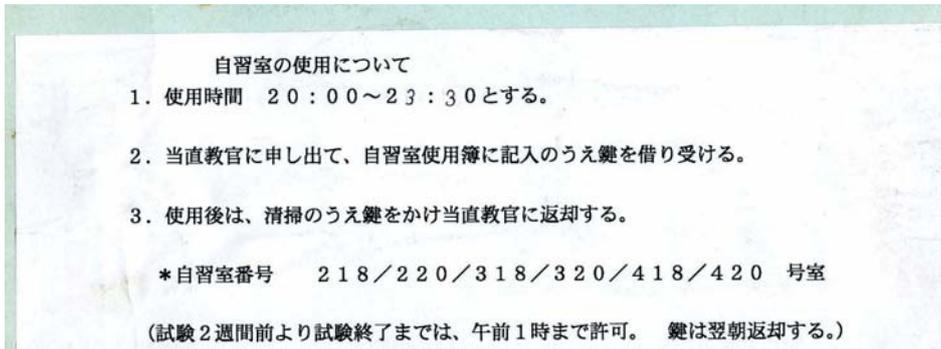
月 日	学科学年	号 室	氏 名	使用部屋番号	使 用 時 間	鍵返却印	備 考
6/24	IE4	412	田中	420	~	返却	
6/27	IE4	412	田中	420	~	返却	
6/29	IE4	412	田中	420	~	返却	
7/1	IE4	412	田中	420	~	返却	
7/5	IE4	412	田中	418	~	返却	
7/9	IE4	412	田中	420	~	返却	
7/12	IE4	412	田中	420	~	返却	
7/14	CA4	412	田中	420	~	返却	
7/18	CA4	412	田中	420	~	返却	
7/19	IE4	412	田中	420	~	返却	
7/1	IE4	412	田中	420	~	返却	
7/1	IE4	412	田中	420	~	返却	

\*自習室 2階 = 218・220号室 / 3階 = 318・320号室 / 4階 = 418・420号室

◎ 鍵は使用后必ず返却すること！

出典：寮務主事室資料

資料7-2-③-19 自習室使用規定



出典：寮務主事室資料

資料7-2-③-20 勉強会実施に関する資料

(1) 勉強会実施要領

※参加者が分かる部分は緑色，学習相談員制度を取っていることが分かる部分は黄色，教員（寮務主事・主事補）も協力して実施していることが分かる部分はピンク色でハイライトしてある。ただし，学生の個人名は，黒塗りにしてある。

高城寮勉強会要領

5月25日から中間試験が開始されます。勉強会の期間は，優秀な先輩（学習相談員）が常駐しますので，この機会に，先輩方に勉強のコツを伝授してもらいましょう！

日時：4月24日～27日，5月8日～11日，5月15日～18日  
20：00～21：30（女子は点呼後すぐに開始，男子は点呼までに終了）

場所：男子寮生は，食堂。女子寮生は，作法室。

参加者：自主参加者と指名参加者で構成（以下，敬称略）

1年生：全員参加  
2年生：  
3年生：(ME), (CA), (CA)

上記の参加連絡等を頂いた寮生以外でも，まだ，席は十分に空いておりますので，更なる自主参加者を募集中です！（余白に名前を書き入れて下さい）

但し，当然のことながら「寮生限定」ですので，寮外生の参加は，不可です。

（4年生，5年生は，完全に任意の参加になります）

学習相談員：月曜日：(ME), (IE), (CA)  
火曜日：(ME), (IE), (CA)  
水曜日：(ME), (IE), (CA)  
木曜日：(ME), (IE), (CA)

参加者の皆様へ：勉強道具は，各自持参してください。（基本は，自習です。）

自習して，分からない所をはっきりさせてから，学習相談員の人に質問して下さい。もし，分からないところが分からない場合は，学習相談員で対応できないことがあります。その時は，主事補の教員に相談して下さい。

以下，余白。追加の参加希望者は，下にご記名下さい。

(2) 勉強会案内 ※担当教員（寮務主事・主事補）の協力が分かるもの

※学生の名前は黒塗りにしてある。

## 勉強会について

後期末試験 [2月7日(火)～2月14日(火)]が始まります。そこで、後期末試験に向けて勉強会を下記のように行います。下記参加者は良い点がとれるようにしっかりと勉強しましょう。

- 参加者：1年生 [redacted]  
 [redacted]  
 [redacted]  
 2年生 [redacted]  
 [redacted]  
 3年生 [redacted]  
 [redacted]

- ◆期間：平成18年1月10日(火)より平成18年1月31日(火)まで  
 (但し、金・土・日曜日及び寮の行事と重なる日は実施しない)
- ◆時間：20:00(女子は点呼後すぐ)～21:30
- ◆場所：男子=食堂、女子=女子寮2階談話室
- ◆指導担当学生：指導寮生長 ([redacted])  
 勉強会指導 ([redacted])  
 女子寮担当 ([redacted])

担当学生の割り当て	担当教員の割り当て
1/10(火) [redacted]	1/10(火) 力
1/11(水) [redacted]	1/11(水) 張間
1/16(月) [redacted]	1/16(月) 室長
1/17(火) [redacted]	1/17(火) 力
1/18(水) [redacted]	1/18(水) 桑嶋
1/23(月) [redacted]	1/23(月) 柏倉
1/24(火) [redacted]	1/24(火) 力
1/25(水) [redacted]	1/25(水) 桑嶋
1/26(木) [redacted]	1/26(木) 室長(宿直)
1/30(月) [redacted]	1/30(月) 柏倉
1/31(火) [redacted]	1/31(火) 張間

学習相談員の割り当て(1/10～1/31の月曜日～木曜日)

月	火	水	木
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]

### (3) 勉強会点呼簿

※学生名の箇所は、モザイクがかけてある。

高城寮勉強会点呼簿(前期中間試験前)

	4月				5月							
	24 月	25 火	26 水	27 木	8 月	9 火	10 水	11 木	15 月	16 火	17 水	18 木
ME1	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
IE1	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
CA1	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
CA2	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ME3	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
CA3	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
追加参加者												

(女子寮)

出典：寮務主事室資料

資料 7-2-③-21 学習相談員制度実施要領, 相談員一覧, 学習相談員報告日誌様式

(1) 学習相談員制度実施要領, 相談員一覧

※相談員名簿の箇所は黄色でハイライトしてある。学生の個人名は黒塗りにしてある。

平成18年度 高城寮勉強会要領

期間：試験前1ヶ月～1週間前 20:00～21:30

4月・5月期は, 4月24日～27日, 5月8日～11日, 5月15日～18日

対象者：1年生 平均点XX点以下 (前期中間は, 1年生は, 全員参加)

2年生と3年生 平均点XX点以下

上記ルールで、学生のリストアップを新田が担当する

学習相談員： (CA, 勉強会代表：指導寮生長)  
 (CA), (ME), (ME), (IE), (IE)  
 1日に各学科1名ずつ(計3名担当)

女子寮生は、作法室で行う(女子寮担当は無し。教員が出欠確認)

学習相談員の業務内容：出欠確認、不在時の呼出、学習指導、日誌記載、食堂解錠・施錠  
 質問がない時は、自分の学習を行っていても良い。

寮生会の輪番：今年度から廃止。(学習相談員が、寮生会の輪番に相当)

担当教員：主事・主事補が輪番(1日あたり一人が担当)

掲示物担当：参加者のリストを掲示(新田作成、4月20日を目処に掲示)  
 食堂入口のホワイトボードと女子寮に掲示  
 掲示内容は、昨年同様に、寮生vs通生の比較を行う。

学習相談員謝金：6名で担当の場合、一人当たり、5,000円/年の見込み  
 (寮生会費から年度末に支出)

次回会合：議事か無ければ、特に予定しない。  
 4月24日からよろしく願い申し上げます。

(2) 学習相談員報告日誌様式

学習  
 相談  
 員一  
 報告  
 日誌

日時	平成 年 月 日
当番1	( ): 記入者
当番2	( )
当番3	( )
参加者数	人
質問者数	人
質問内容	
蛍光灯の確認	確認 ・ 未確認
エアコンの確認	確認 ・ 未確認

出典：寮務主事室資料

資料7-2-③-22 勉強会の成果の一部（寮生と通学生の成績の比較）

## 平成17年度後期中間試験平均点比較

	ME1	ME2	ME3	ME4	ME5
寮生	72.5	73.4	61.7	59.2	70.1
通生	76.9	72.8	65.8	65.1	76.1

	IE1	IE2	IE3	IE4	IE5
寮生	73.2	70.8	72.0	70.0	71.1
通生	76.8	73.9	68.7	71.3	73.9

	CA1	CA2	CA3	CA4	CA5
寮生	69.7	68.6	73.0	72.2	74.7
通生	71.3	73.2	65.8	70.8	70.0

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生
寮生	71.8	70.4	69.5	67.1	71.8
通生	75.0	73.3	66.6	69.0	73.5

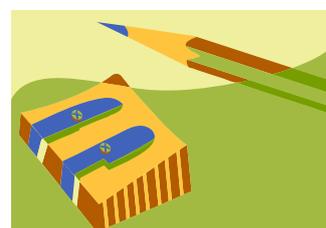
	ME	IE	CA
寮生	67.0	71.5	71.2
通生	71.4	73.1	70.2

	全体
寮生	70.2
通生	71.5

全体の平均で寮生が通生を下回っています。後期末試験は頑張りましょう。

目標をしっかりと持って、勉学・部活動に取り組んでいる人が成果を挙げています。

寮の環境(学校に近い、身近に先輩がいる など)を活かして、一流の技術者を目指し、勉学に励みましょう。



20:00~21:30、22:00~23:30は自習時間です。  
目標を定め、しっかりと学問に取り組みましょう。

出典：寮務主事室資料

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

- ・中期計画に基づき、これまで学科単位・クラス担任中心で行われていた進路指導を、全学科共通にサポートする進路支援室を設置し（平成16年10月）、進路支援プログラムの実施を通して機能している。また、進路支援室については、本校のウェブサイト上にバナーがあり、学内外から進路支援室の全てにアクセスできるようになっている（資料7-2-④-1、資料7-2-④-2、資料7-2-④-3、資料7-2-④-4）。
- ・進路支援室や進路支援プログラムの内容を学生に周知徹底するため、新入生に対しては4月に進路支援室紹介を、4年生に対しては4月と9月に講座やプログラムのガイダンスを、また専攻科1年生に対しては、9月にプログラムのガイダンスを実施している（資料7-2-④-5、資料7-2-④-6）。
- ・進路支援プログラムを継続的にレビュー・評価するために、進路支援室会議を月1回、年間の進路支援プログラムをレビュー・評価し、次年度のためによりよいプログラムを策定するための進路支援プログラム策定会議を年2回開催している（資料7-2-④-7、資料7-2-④-8）。

- ・進路支援プログラムに組み込まれている各種講座を受講した学生に対して、その満足度をアンケート調査し、その結果を、プログラムのレビュー・評価に生かしている（資料 7-2-④-9）。
- ・学生の進路状況の情報を学科間でシェアし、学科と進路支援室の連携強化を図るために、就職・進学懇談会及び進路支援懇談会を各年 1 回開催している（資料 7-2-④-10）。
- ・準学士課程 1 年から 4 年までの学生の保護者に対して、進路ガイダンスを実施している（資料 7-2-④-11）。
- ・最新の求人・編入学情報をインターネットで検索することができるよう、進路支援室のウェブサイト上に進路情報データベースが整備されている。これにより、学科ごとの情報を全学科でシェアすることが可能になった（資料 7-2-④-12）。
- ・学生が進路に関する情報を検索したり、閲覧したりすることのできるキャリアサポートブースが整備され、機能している（資料 7-2-④-13）。
- ・進路支援室の設置により、各学科とも 4・5 年生及び専攻科の担任及び学科主任を中心に行ってきた進路指導が進路支援室と協力した形の進路指導へと充実した（資料 7-2-④-14）。
- ・学生相談室は、進路適性検査の結果により、学生が自己理解をさらに進めたい場合や、悩みが出てきた場合に、自己理解の補助となる性格検査を実施したり、悩みについて相談に乗ったりすることにより進路支援室をサポートし、進路支援室と共に学生サポートの両輪を形成している（資料 7-2-④-15, 資料 7-2-④-16）。

(分析結果とその根拠理由)

- ・従来の学科ごとの進路指導に、平成 16 年 10 月に設置された進路支援室による全学科・全学年対象のサポートが加わることにより、進路に関する質の高いサポートが提供できている。
- ・進路支援プログラムについてのアンケート結果から、プログラムに組み込まれている各種講座を受講した学生が高い満足度を持っていることが分かる。

以上のことから、就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能している。

#### 資料 7-2-④-1 進路支援室規則（抜粋）

##### 進路支援室規則

##### 徳山工業高等専門学校進路支援室規則

##### (設置)

第 1 条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に進路支援室を置く。

##### (目的)

第 2 条 進路支援室は、低学年から専攻科まで一貫した進路支援プログラムに基づく継続的な進路支援を行うことにより、本校学生の就職及び進学に関するサポート体制の充実・強化を図ることを目的とする。

##### (業務)

第 3 条 進路支援室は、次の業務を行う。

- (1) 進路支援プログラムの作成及びこれに基づく活動に関すること。
- (2) 進学及び就職に関するデータベースの作成及び管理に関すること。
- (3) キャリアサポートブースの運用に関すること。
- (4) 卒業生の状況把握・支援及び卒業生との連携に関すること。
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務。

##### (組織)

第 4 条 進路支援室は、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) キャリアアドバイザー 若干名
- (3) 事務主査
- (4) その他校長が任命する者

(室長)

第5条 室長は、本校の教員の中から校長が任命する。

- 2 室長は、進路支援室の業務を掌理する。
- 3 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(キャリアアドバイザー)

第6条 キャリアアドバイザーは、本校の教員の中から校長が任命する。

- 2 キャリアアドバイザーの任期は2年とし、再任を妨げない。

(事務主査)

第7条 事務主査は、本校の事務系職員の中から校長が任命する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、進路支援室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

出典：本校規則集

資料 7-2-④-2 平成 18 年度進路支援室プログラムの表

進路支援プログラム

進路支援室 (2006.3.30)

- このプログラムは、学生への進路支援活動の目標と具体的な活動項目を、学年毎に示すものです。学生が、有意義な学生生活を送るための動機付けを行い、本校の教育目標を達成して、的確な進路を見いだすことを支援するもので、教員の相互理解と協力のもとに計画・実施します。
- 色つき項目：進路支援室及び学生相談室で計画実施する項目で、 は、クラス全員を対象とした企画、 は、進路支援室の企画です。
- 色無し項目：進路支援室以外で行う指導項目です。

学年	本 科					専 攻 科		会議等
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	1 年 生	2 年 生	
目標	高専生活の過ごし方をアドバイス・学びの楽しさを育む	キャリアガイダンス・将来の夢を見つける	キャリアガイダンス・高専生活を振り返り、将来を考える	キャリアアップ・進路セミナー、進路を具体的に選択する	進路確定・高専生活のまとめと船出の準備	キャリアアップ・進路セミナー、進路を具体的に選択する	進路確定・専攻科生活のまとめと船出の準備	
4 月	新入生オリエンテーション (教務、学生) (4/27) (HR) 進路支援室紹介	クラス別 HR における生活指導 (担任)	クラス別 HR における生活指導 (5/11) (HR) キャリア・ガイダンス③「社会の求める人材」	キャリアガイダンス⑤/就職活動の流れ/編入学受験について/インターンシップ各種講座ガイダンス (学科別)	進路ガイダンス (学科別) 希 1/個人面接対策	進路ガイダンス (専攻科) 希 1/個人面接対策	進路ガイダンス (専攻科) 希 1/個人面接対策	進路支援室会議
5 月				インターンシップ準備 (実習先の検討・依頼)		インターンシップ事前教育「マナー講習」 (専攻科)		進路支援室会議
6 月	(6/29) (HR) 講話①「高専生活の過ごし方 (4 年生のアドバイス)」	(6/15) (HR) 講話③「高専生活の過ごし方 (専攻科生のアドバイス)」	(6/8, 6/22) (HR) キャリア・ガイダンス④ 進路適性検査とキャリアプランの作成					進路支援室会議
7 月				希 2/インターンシップ事前教育「マナー講習」				進路支援室会議/就職・進学懇談会
8 月				進路の選択 (4 年前半)				進路支援室会議
9 月			インターンシップ報告会 (上級生の報告を聞く)	希 3/インターンシップ報告会		(9/試験明け) 進路支援プログラムガイダンス		進路支援室会議
10 月	(10/5) (HR) 講話②「本校顧問による講話」	(10/19, 11/16, 12/14) (HR) キャリア・ガイダンス② (職業興味検査と職業情報検索)	(10/19) (HR) 講話⑤「社会で活躍している卒業生の講話」	希 4/就職総合テスト (SPI) & 自己分析セミナー		インターンシップ報告会 (専攻科) 希 4/就職総合テスト (SPI) & 自己分析セミナー		進路支援室会議
11 月				希 5/自己 PR 講座		希 5/自己 PR 講座		進路支援室会議
12 月				希 6/履歴書・エントリーシート作成講座	講話⑥ 進路支援講演会「卒業生のキャリア体験談」	希 6/履歴書・エントリーシート作成講座	講話⑥ 進路支援講演会「卒業生のキャリア体験談」	進路支援室会議/進路支援プログラム策定会議
1 月		(1/18) (HR) 講話④「公共職業安定所からの講話」		希 1/個人面接対策	希 8/手紙書き講座	希 1/個人面接対策	希 9/電話かけ方講座	進路支援室会議/進路支援プログラム策定会議/進路支援懇談会
2 月				希 7/面接でのディスカッション対策講座		希 7/面接でのディスカッション対策講座		進路支援室会議
3 月			編入生オリエンテーション					進路支援室会議

※TOEICについては、eラーニングによる学習環境や個別指導もあり、本プログラムに掲載していません。  
 ※資格取得セミナーについては、随時行われるものが多いため、本プログラムには掲載していません。  
 ※大学合同説明会の計画をしています。  
 ※企業合同説明会の計画をしています。

出典：進路支援室資料

## 資料7-2-④-3 プログラムの実施状況を示す資料

## (1) 4年生と専攻科1年生を対象とした平成17年度後期のプログラムスケジュール

## 進路支援室の活動(平成17年度後期進路支援プログラム)

2005.10.11

進路支援室

4年生と専攻科1年生を対象とした本年度後期のプログラムは以下のような予定になっています。  
なお、日時等の変更については、キャリアサポートブースに掲示します。

日	曜	対象	プログラム内容	担当	場所
10/11	火	4年生・専攻1年	進路支援プログラムガイダンス	野頭	メディア
10/18	火	4年生・専攻1年	SPI検査	佐々木	メディア
10/21	金	CA4	インターンシップ報告会	佐々木	テクノ多目的
11/8	火	4年生・専攻1年	自己分析セミナー	佐々木	メディア
11/22	火	4年生・専攻1年	自己PR講座	佐々木	中講義室
12/7	水	4年生・専攻1年	履歴書の書き方講座	一色	メディア
12/10	土	4年生・専攻1年	講話(卒業生)	守川	メディア
12/14	水	4年生・専攻1年	エントリーシート書き方講座①	一色	メディア
12/21	水	4年生・専攻1年	エントリーシート書き方講座②	一色	メディア
1/11	水	4年生・専攻1年	就職に係わる電話のかけ方講座	一色	メディア
1/25	水	4年生・専攻1年	就職関連書類送付に係わる添え状の書き方講座	一色	メディア
1月～		4年生・専攻1年	一般面接リハーサル	野頭	適宜

出典：進路支援室資料

(2) 平成17年度後期のプログラム申し込み一覧表 (抜粋)

出席番号	sp 1	sp 2	自己PR	履歴書	エントリー①	エントリー②	添削	電話	添え状	一般面接	集団	
				12月7日	12月14日	12月21日		1月11日	1月25日			
1		1	1	1	1	1			1			
2		1	1	1	1	1			1	1	1	
3		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
5		1	1									
6		1	1									
7		1	1									
8		1	1									
9		1	1									
10		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
11		1	1									
12		1	1									
13		1	1									
14		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
15		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
16		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
17		1	1									
18		1	1									
19		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
20		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
21		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
22		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
24		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
25				1	1	1	1	1	1	1	1	
26		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
28		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
29		1	1									
30		1	1									
31		1	1									
32		1	1									
33		1	1									
34		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
35		1	1									
36		1	1									
37		1	1									
38		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
39		1	1									
40		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
42		1	1									
43		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
ME		8	31	28	20	20	20	17	19	20	16	7
1		1	1									
5		1	1									
6		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11		1	1									
12		1	1									
15		1	1									
16		1	1									
19		1	1									
22		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
23		1	1									
24		1	1									
25		1	1									
26		1	1									
27		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
30		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
31		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
32		1	1									
33		1	1									
34		1	1									
35		1	1									
36		1	1									
38		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
40		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
IE		27	0	24	7	8	8	8	8	8	8	7

出典：進路支援室資料

(3) 配布資料 (一部)

<p>6. 評定ポイント ①志望の動機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務の理解度、意欲、組織への適応性</li> </ul>	<p>②自己PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【長所と短所の理解(性格)】</li> <li>・ 【能力】</li> <li>・ 志望動機と関連するが、10年後の自分像も考えておいた方がよい。【価値観】</li> <li>・ (学生生活、就職後に目指すモノ)</li> <li>・ 学生生活を振り返ってまとめておくように。クラブ活動その他、学業以外の面でもよい。</li> <li>・ 高専の卒業生であること</li> </ul>
<p>8. 面接チェックリスト(参考)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①服装(基本です) 正しい服装 身繕い 清潔さ</li> <li>②態度(活気)(あまりにリラックスしすぎてもいけません)</li> <li>③表現力(自然体が基本です)</li> <li>④聞く態度</li> <li>⑤話し方</li> </ol>	<p>質問される、質問する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 即答出来ない場合の対応 (質問の内容がわからないのか、どう答えるのか迷うのか、一応黙る場合は了解を得る(内容を確認して、相手が何を求めているのかを確認する。相手もわざと意地悪な質問をしているかも知れない。)</li> </ul>

出典：進路支援室資料

資料 7-2-④-4 進路支援室ウェブページ

出典：本校ウェブサイト

http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/support/

資料7-2-④-5 平成18年度進路支援室プログラムの表 (抜粋)

※該当箇所は黄色でハイライトしてある。

学年	本 科					専 攻 科		会議等
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	1 年 生	2 年 生	
目標	高専生活の過ごし方をアドバイス・学びの楽しさを育む	キャリアガイダンス・将来の夢を見つける	キャリアガイダンス・高専生活を振り返り、将来を考える	キャリアアップ・進路セミナー、進路を具体的に選択する	進路確定・高専生活のまとめと船出の準備	キャリアアップ・進路セミナー、進路を具体的に選択する	進路確定・専攻科生活のまとめと船出の準備	
4月	新入生オリエンテーション(教務, 学生) (4/27) (HR) 進路支援室紹介	クラス別HRにおける生活指導(担任)	クラス別HRにおける生活指導 (5/11) (HR) キャリア・ガイダンス③「社会の求める人材」	キャリアガイダンス⑤(就職活動の流れ) 編入学受験の流れ 情報検索について インターンシップ 各種講座ガイダンス(学科別)	進路ガイダンス(学科別) 希1/個人面接対策	進路ガイダンス(専攻科)	進路ガイダンス(専攻科)	進路支援室会議
5月				インターンシップ準備(実習先の検討・依頼)		インターンシップ事前教育「マナー講習」(専攻科)		進路支援室会議
6月	(6/29) (HR) 講話①「高専生活の過ごし方(4年生のアドバイス)」	(6/15) (HR) 講話③「高専生活の過ごし方(専攻科生のアドバイス)」	(6/8, 6/22) (HR) キャリア・ガイダンス④ 進路適性検査とキャリアプランの作成					進路支援室会議
	(保護者会) 保護者対象の進路ガイダンス							
7月				希2/インターンシップ事前教育「マナー講習」				進路支援室会議/就職・進学懇談会
8月				進路の選択(4年前半)				進路支援室会議
9月			インターンシップ報告会(上級生の報告を聞く)	希3/インターンシップ報告会				
				(9/試験明け) 進路支援プログラムガイダンス		(9/試験明け) 進路支援プログラムガイダンス		進路支援室会議

出典：進路支援室資料

資料7-2-④-6 進路支援プログラムガイダンスの実施状況を示す資料 (ガイダンス資料抜粋)

2005年度進路支援プログラムガイダンス

2005年10月11日(火)  
メディアホール  
対象 4年生 専攻科1年生

1. 現実を生きること

- 自分の力にあった生き方をする事...もちろん夢やチャレンジは、人生のエッセンス
- 高専で学んだことは、自分自身を生かす財産
- 新卒正社員のチャンスを無駄にする手はない。(企業は、フリーターの時間を評価しない)

3. 進路支援室の活動と進路支援プログラムについて

- (1)進路支援プログラム(希望者対象プログラム)
- (2)進路支援データベース(ホームページ)
- (3)キャリアサポートブース

4. 進路支援セミナーの流れ

- (1)SPI(職務適性・職務遂行能力を測定する心理テスト)セミナー  
↓自己分析セミナー・自己PRセミナー
- (3)履歴書・エントリーシート作成講座  
↓電話のかけ方・添え状の書き方講座
- (4)面接対策講座

(1)SPIセミナー

- 1)講座の内容(職務適性・職務遂行能力を測定する心理テスト)
- 2)自己分析セミナー
- 3)自己PRセミナー

担当:佐々木(進路支援アドバイザー)

履歴書・エントリーシート(自己紹介書)作成講座ガイダンス

- 1)講座の内容
- 2)履歴書・エントリーシート作成講座について
- 3)就職に係わる電話のかけ方講座
- 4)関連書類送付に係わる添え状の書き方講座

担当:一色(進路支援アドバイザー)

個人面接対策ガイドンス

- 1)個人面接試験対策
- 2)模擬個人面接の申込方法について

担当：野頭(進路支援室事務主査)

おわりに

これまでの人生(高専で学んだ時間等)を最大限効果的に、  
 これからの人生(就職や進学)に繋ぐために、  
 今からの準備(進路支援プログラム)を万全にしておきましょう

進路支援室は、応援します！

出典：進路支援室資料

資料7-2-④-7 進路支援室会議の実施が分かる資料及び議事録

(1) 平成18年度進路支援室プログラムの表(抜粋)

※進路支援室会議実施予定箇所は黄色でハイライトしてある。

学年	本科					専攻科		会議等
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	1年生	2年生	
目標	高専生活の過ごし方をアドバイス・学びの楽しさを育む	キャリアガイダンス・将来の夢を見つめる	キャリアガイダンス・高専生活振り返り・将来を考える	キャリアアップ・進路セミナー、進路を具体的に選択する	進路確定・高専生活のまとめと船出の準備	キャリアアップ・進路セミナー、進路を具体的に選択する	進路確定・専攻科生活のまとめと船出の準備	
4月	新入生オリエンテーション(教務・学生) (4/27)(HR)進路支援室紹介	クラス別HRにおける生活指導(担任)	クラス別HRにおける生活指導(担任) (5/11)(HR)キャリア・ガイダンス③「社会の求める人材」	キャリアガイダンス⑥「就職活動の流れ」情報検索についてインターンシップ各種講座ガイダンス(学科別)	進路ガイダンス(学科別) 希1/個人面接対策	進路ガイダンス(専攻科) 希1/個人面接対策	進路ガイダンス(専攻科)	進路支援室会議
5月				インターンシップ準備(実習先の検討・依頼)		インターンシップ事前教育「マナー講習」(専攻科)		進路支援室会議
6月	(6/29)(HR)講話1「高専生活の過ごし方(4年生のアドバイス)」	(6/15)(HR)講話3「高専生活の過ごし方(専攻科生のアドバイス)」	(6/8,6/22)(HR)キャリア・ガイダンス④「進路適性検査とキャリアプランの作成」					進路支援室会議
7月				インターンシップ事前教育「マナー講習」				進路支援室会議、就職・進学相談会
8月				進路の選択(4年前半で)				進路支援室会議
9月			インターンシップ報告会(上級生の報告を聞く)	希3/インターンシップ報告会				進路支援室会議
10月	(10/5)(HR)講話2「本校顧問による講話」	(10/19,11/16,12/14)(HR)キャリア・ガイダンス②「職業興味検査と職業情報検索」	(10/19)(HR)講話5「社会で活躍している卒業生の講話」	希4/就職総合テスト(SP1)&自己分析セミナー		インターンシップ報告会(専攻科)	希4/就職総合テスト(SP1)&自己分析セミナー	進路支援室会議
11月				希5/自己PR講座			希5/自己PR講座	進路支援室会議
12月				希6/履歴書・エントリーシート作成講座	講話6進路支援講演会「卒業生のキャリア体験談」		希6/履歴書・エントリーシート作成講座	進路支援室会議/進路支援プログラム策定会議
1月		(1/18)(HR)講話4「公共職業安定所からの講話」		希8/手紙の書き方講座	希9/電話のかけ方講座		希8/手紙の書き方講座 希9/電話のかけ方講座	進路支援室会議/進路支援プログラム策定会議、進路支援室報告会

出典：進路支援室資料

(2) 議事録のサンプル

平成17年度第16回 進路支援室会議議事録

日時：平成18年3月7日(木) 12:30~  
 場所：管理棟1階小議室

参加者：守川 兼重 一色 佐々木 田村 野頭

○議題：

1. 平成17年度進路支援懇談会（3/15）について
  - (1) 内容・進行について以下のことを決めた。
    - 1) 1年間の活動報告（表にする）
    - 2) アンケート結果の概要
    - 3) 来年度進路支援プログラム
    - 4) その他（就職情報）
  - 2) その他  
来年度の新4・5年対象の懇談会を春休み中に実施する。
2. アンケートの集計について
  - (1) 来年度実施の留意点として、個人を特定した調査ではないことを明記する。
  - (2) 学年別だけ無く、学科別の統計も集計する。
3. 現代GPへの応募について
  - (1) 本校の教育における特色を生かした形での申請とする。
  - (2) これについて、臨時的打ち合わせを行う。日程は後日調整。
4. その他（次回会議等）

出典：進路支援室資料

資料7-2-④-8 進路支援プログラム策定会議の実施が分かる資料及び議事録

(1) 平成18年度進路支援室プログラムの表（抜粋）

※進路支援プログラム策定会議予定箇所は黄色及び太字でハイライトしてある。

12月			希6 履歴書・エントリーシート作成講座	講話⑥ 進路支援講演会「卒業生のキャリア体験談」		希6 履歴書・エントリーシート作成講座	講話⑥ 進路支援講演会「卒業生のキャリア体験談」	進路支援室会議/進路支援プログラム策定会議	
1月	(1/18)(HR)講話④ 「公共職業安定所からの講話」		希1 個人面接対策	希8 手紙書き方講座	希9 電話かけ方講座	希1 個人面接対策	希8 手紙書き方講座	希9 電話かけ方講座	進路支援室会議/進路支援プログラム策定会議/進路支援懇談会
2月			希7 面接でのディスカッション			希7 面接でのディスカッション			進路支援室会議
-		編入生オリエンテーション							

出典：進路支援室資料

(2) 議事録のサンプル

H17第1回 進路支援プログラム策定会議議事録

日時：平成16年12月15日（木）16：10～17：10

場所：管理棟2階会議室

参加予定者：進路支援室関係者（一色、田村、守川、空課長）

学年担任代表（1年 吉田、2年 木村、3年 池田光、4年 藤原、5年 渡辺）

専攻科（原田）、教務主事補（欠席）、学生主事補（藤本）

学生相談室（原田） 以上12名

報告事項：

1. 平成18年度卒業生に対する求人状況について

田村室長より、18年度卒業生の求人が始まったことの説明があった。また、求人票については、できるだけ

アルタイムでホームページに掲載するよう作業を進めるが、4年生担任に直接届いた求人票については、学生係に原本もしくはコピーを転送することのお願いがあった。

2. 平成17年度進路支援プログラムについて（資料1-1）

今年度の進路支援プログラムについて、室長より大まかな経過報告があった。その後、野頭主査により、以下の点について詳細説明と、これについての参加者の意見徴収があった。

1) 履歴書・エントリーシート等の講座（一色担当）について、参加者の現状が、一色アドバイザーから説明があった。参加申し込みをして参加しない学生や、参加申し込みをしないのに参加する学生がいる。参加しても、意識の高い学生と低い学生の両極端な状況があるといった状況が報告され、この状況に対する指導についてクラス担任からの協力も得たい旨の報告があった。

2) 模擬面接について、野頭主査から報告があり、その成果について学生や教員の感想が求められた。5年担任の渡辺教員から、臨機応変に面接試験リハーサルが実施されたことに学生も担任も感謝している旨発言があった。また、一方で事務部長や各課長にも対応いただいたことにもお礼があった。

3) SPIについては、担当の佐々木アドバイザーが不在のため、一色アドバイザーより説明があった。これまで、学生相談室で行っていたものを、進路支援室で引き継いだ経緯について原田教員から説明があった。

4) 1年から3年までのプログラムについては、各学年とも適当であり、3年生では成果も感じられた旨、池田教員より報告があった。

5) インターンシップについて、藤原教員（4年生）から、進路支援室の対応について質問があった。3学科の対応がまちまちであること（教務に相談中）や、事務の対応が整備されていないことから、未だ検討課題であることが説明された。

4) コンピテンシーの開発に、本支援室の活動が成果があったかの確認については、今後、学生や教員に対するアンケートにより確認することとした。

5) 進路支援室の予算について、解説があった。

議題：

1. 平成18年度進路支援プログラム（案）について、

1) 来年度進路支援プログラムについて、資料1-2に基づき説明がなされた。

これに対して、参加者からそれぞれの立場での意見が出された。

1年代表（吉田教員）・・・問題ない。ただし、試験の前後にプログラムが入ることには注意が必要。

2年代表（木村教員）・・・問題ない。しかし、2年生は今ひとつ進路に関する意識が低い。

3年代表（池田教員）・・・性格診断テストは、結果が保護者会の1週間前くらいまでに担任が理解できる状態にして欲しい。

年度始めは、クラス指導が必要なのでこれを配慮して欲しい。

プログラムの日程の変更は、出来るだけやめて欲しい。

性格診断テスト関連のHRは担任も参加した方がよい。

2) 来年度支援プログラムについては、これから行うアンケートや来年度の行事計画等を考慮して3月初旬をめぐりに完成することとした。

出典：進路支援室資料

資料7-2-④-9 進路支援室初年度の活動を振り返る（抜粋）

※本報告書の全体については訪問調査時に提示。

進路支援室初年度の活動（平成16年12月～平成18年3月）を振り返る

（アンケート結果の分析による報告）

徳山高専 学生課 専門員 野頭克己

序文

徳山高専のある山口県周南地方は山口県内では工業地域として位置付けられている。特に戦前に海軍の燃料省等の軍事施設もあり、出光徳山精油所、新日鐵光製鉄所はその跡地に建設されたものである。さらに東ソー、トクヤマの化学メーカーがあり、コンビナート群のまちである。山口県は人口150万人弱の県であるが、県庁所在地の山口市に主要産業が無く、県内に10万人から20万人の小都市が散在している。そのため、高専も宇部および大島（商船高専）と3箇所分散し、新幹線の駅も県内5箇所に散在している。

このような環境下で当校の卒業生は県内就職率20%台で、多くの優秀な学生が県外へ流出している。ただ、就職率は100%と企業の人気は高く、進路支援について表面的には問題がないように見える。しかしながら、学生相談室に相談を持ち込む学生の悩みのなかで進路の問題は多く、平成16年末に進路支援室を立ち上げることとなった。

支援室は年間のプログラムを作成し、本科5年生と専攻科2年生のすべての学生を対象に活動を開始した。プログラムは主にHRを活用した全員参加方式ものと希望講座の2種類がある。就職、進学を控えた4年生、5年生

(専攻科1年生, 2年生)は希望講座により, 特に就職活動のバックアップを図っている。

平成18年3月に実施したアンケートは, これらのプログラムに関する感想と(進路を中心とした)悩み, 不安についての項目を設けた。

アンケート対象学生数

本科1年生 126名, 2年生 124名, 3年生 124名,  
 4年生 120名(うち就職 72名, 進学 43名, 未定 5名)  
 5年生 115名(うち就職 75名, 進学 40名)  
 専攻科1年生 24名(うち就職 13名, 進学 8名, 未定 3名)  
 専攻科2年生 20名(うち就職 10名, 進学 10名)

**本文**

平成18年3月に実施したアンケートの結果を参考として, 支援室の活動を振り返る。学年毎に解説する。

**アンケートI (プログラムへの感想)**

1. 低学年

(1) 1年生

① 進路支援室(プログラム)の紹介(実施日 平成17年5月12日)

支援室スタッフにより, ①本校の就職・進学状況と社会状況(就職環境)の説明を交えながら解説し, ②高専生活(学ぶことの楽しさ等)の過ごし方のアドバイス, ③支援プログラムの説明を行った。

アンケート結果; 理解できた学生14%, に対して覚えてない学生が34%, 一部理解できた学生が45%という結果であった。

かたどおりの説明で, 浸透度はもう一つであるという反省もあり, 18年度は講話方式をやめて, 具体的な作業方式を取り入れることし, 各自に履歴書を作成させ, 今後の5年間で, 空白の部分はどう埋めるかを考えさせた。(実施日 平成18年4月27日)

② 5年生の講話(実施日 平成17年6月23日)

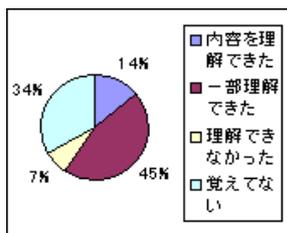
機械電気, 情報電子, 土木建築の3学科の5年生による講話で彼らの学生生活を振り返り, 語ってもらった。

役立った26%, 覚えてない23%, 少し役立った48%という結果となった。①のプログラムより, 肯定的な意見が10%程度増加している。先輩による, より具体的な話であり, (部活での思い出, 就職活動での履歴書に記入することのないあせり, 成績に可がたくさんあることの恥ずかしさ等)聞きやすさと説得力の効果がでている。この講話は引き続き実施していきたい。

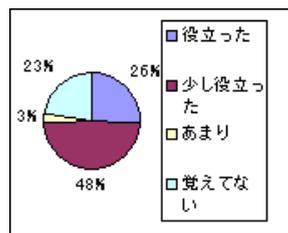
③ 外部講師による講話(実施日 平成17年10月6日)

本校の顧問である, 三池孝道さん(周南JC前理事長, あかえ坊住職)に外部からみた高専生の感想を交えながら, 現在の高校生の悩みや受け付けた相談についてわかりやすく解説してもらった。結果は残念ながら役に立ったという感想は15%, 覚えてない27%, 少し役に立った49%というもので, 先輩講話ほどの反応ではなかった。

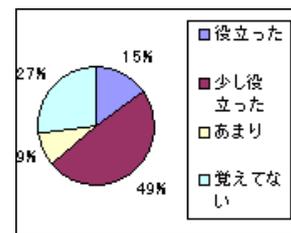
進路支援室紹介



5年生講話



外部講師(三池)



出典：進路支援室資料

資料7-2-④-10 各懇談会の議事録

(1) 就職・進学懇談会議事録

平成17年度 就職・進学懇談会(進路支援室)議事録

日時;平成17年7月11日(月) 16:10~17:30

場所;管理棟2階会議室

参加者;(敬称略) 4年担任 門脇 奥本 藤原 ;5年担任 兼重 池田 渡辺

上 学生主事;大橋 専攻科長;専攻幹事 西村 原田 熊野

進路支援室 田村室長 守川 一色 空 野頭

欠席者; 森野 教務主事;進路支援室 佐々木

## 議題（報告および意見交換）

## 1. 進路支援室の活動状況について（支援室長）

懇談会を年2回実施したい旨説明があった。ざっくりばらんな意見交換の場としたい。

- ・HPの概要説明

## ① 求人情報

## ② 編入情報

- ・キャリアサポートブースの状況説明

## 2. 就職・進学状況について（5年担任，専攻幹事）（資料 17年度進路内定状況）

就職状況はほぼ終了したとの説明があった。

- ・内定後に気が緩んでいる（ME, CA），成績の低下，補導案件等にあらわれている。この件で対策が必要（就職した先輩からの講話を5年生にもセットしてはどうかと意見があり，検討することとした）。

- ・身障者，女性の就職について厳しい状況あり。

## 3. 進路指導の状況について（4年担任）

1回目のアンケートをとった。

- ・ME 進学が1/3程度で例年通り。

- ・IE ほとんどの学生がはっきりしてない。

- ・CA キャリガイダンスを進学希望22名（迷っている者を含む），公務員7名，民間13名にわかれて受講。

## 4. インターンシップについて（支援室長）（別添資料により）

## ① 前年度の参加状況と今年度の参加予定状況を確認した。

- ・マナー講習を15日に進路支援室で実施予定。

- ・報告会についてIE以外は実施とのこと。

## ② 評価についても各学科で相違している。

- ・IEは受入企業が短期間ということでなじみにくいことから，参加者が少ない。

## ③ 受入企業の開拓，交渉，事務

（議論ができましたが，教務係と内容を確認した結果を書きます）

- ・Hyper-Campus（インターネット） 大手企業は（個別交渉の効率化から）この制度の利用が多い（県内企業はほとんど該当ない）。学生で県外大手を希望しているものはコード等を教務で確認して検索することが望ましい。

- ・経営者協会（ものづくり）経由

統一したフォームの作成が必要である。交渉力が協会は弱いので，個別折衝を学校側でする必要がある。複数の学校を受け入れる企業は窓口を経営者協会に統一してほしい意向がある。

- ・就職とのからみもあり，個別企業への折衝は各学科で行って欲しいが，事務手続きは教務で対応する。

- ・覚書等の締結を希望する企業もあるし，逆に細かい書類をいやがる企業もあり，個々の企業の要望に応じた交渉が必要である。

## 5. 進路支援プログラム実施状況と今後の予定について（支援室長，野頭）（資料 「支援プログラム」，「進路支援室の12月から6月までの活動について」）

- ・一色先生の履歴書からエントリーシートまでの集団指導，個別指導は各学科とも大変お世話になったとの感想。

- ・模擬面接は緊張した面接を実施できて，それなりの効果があった。

- ・IEは毎週木曜に専門面接を実施した。

- ・MEは履歴書提出から面接までの期間が短く，対応が難しかった。

- ・CAの学生は志望動機記述に悩む者が多かった。

## 6. その他

- ・熊野専攻幹事より専攻科へ多くの学生が受験することを願う依頼があった。

出典：進路支援室資料

## (2) 進路支援懇談会議事録

平成17年度進路支援懇談会議事録

日時：平成18年3月16日（木）13：00～

場所：管理棟2階会議室

参加者：吉田，桂，長廣，藤満，木村，池田光，重松，藤原，門脇，池田信，大成，江口，原田徳，大橋，森野，上，室長，国重，守川，田村，兼重，一色，佐々木

議 題

1. 進路支援室の活動について

1) 平成17年度の活動報告

資料1により，平成17年度の活動を報告した。22の進路支援プログラムと，これ以外の26の活動について説明があった。

2) 来年度の進路支援プログラムについて

資料2（平成18年度進路支援プログラム）について，平成17年度プログラムと比較しながら説明があった。

3) ホームページとデータベースについて

ホームページの内容について，変更した点（卒業生のUターン就職のためのページ等）の説明があった。

2. 5年生の進路状況について（5年担任）

各学科の5年生担任から資料3に基づき，5年生の進路状況について近況報告があった。

3. 4年生の進路指導及び求人等の状況について（4年担任）

各学科の4年生担任から，既に企業からの求人が始まっている等の近況報告があった。

4. 専攻科生の進路状況（専攻科長）

大橋専攻科長から，専攻科学生が進路状況が報告された。

出典：進路支援室資料

資料7-2-④-11 保護者対象の進路ガイダンスで用いたパワーポイント資料（一部抜粋）

2005年度後援会総会  
**進路支援室の活動**



委員 田村隆弘(土木建設工学部キャリアアドバイザー)  
野村雅夫(情報電子工学部高専研究員(専攻科長))  
専任 池田信(情報電子工学部) 一色兼重(総務部)  
専攻科長 野崎光広(専攻科)

1

**I. 進路支援室設置の背景**



徳山工業高等専門学校  
(新築校舎内)

2

**1. 時代(社会)および時代の背景**

学生向け進路ガイダンスから

(1) 日本の向かっている方向  
(2) ニートとフリーター

3

(1) 日本の向かっている方向

「一億中流意識」の喪失から「階層社会へ?」  
「中流意識」・・・1970年から1995年にかけて日本国内に普及。  
1997から98年にかけて「中流意識」の崩壊開始。  
原因は、大量生産・大量消費の「モノ作」経済から多様な商品を生産・消費する「ニューエコノミー経済」への転換による**企業のリストラ政策**  
・・・実力のある人が出世し、生き残る。

4

(1) 日本の向かっている方向(つづき)

「二極化」(量的格差、立場的格差、質的格差)  
「二極化」・・・給与が多いか少ないかの量的格差に留まらず、**正社員か一生涯フリーターか**といった立場的格差や仕事の質的格差。  
アメリカに見られる「一部の特権階層と貧困マジョリティー」社会の模倣

5

(2) ニートとフリーター

「時代の産物?」ニートとフリーター  
「ニート」・・・「無職で、かつ仕事を探そうともしない人、勉強しない人」・・・理由は、「入社き悪いなど、会社生活をうまくやっていると自信が無いから」つまり、「働く自分に対する自信の欠如」  
「フリーター」・・・「目的があって(夢を追って)、正社員とならない人」

6

■企業の作戦「差別化された雇用形態」

「4種類の労働者」  
①正社員  
②派遣・パート  
③仕事があるときだけ業務委託を受ける(疑似・個人事業主)  
④業務請負業者から送り込まれた労働者

×賃金格差、不平等な処遇、トイレの使用にさえ暗黙の優先順位があるという。

7

**2. 徳山高専の現状**

(1) 2004年度の進路状況  
(2) 最近の求人状況  
(3) しかし・・・



8

(1) 2004年度の進路状況

学科主任から紹介

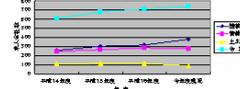


しごとフェア3600名(参加者)445名(参加者)18名(希望者)

9

(2) 最近の徳山高専への求人状況

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	今年度見込み
求職者数	205	202	216	225
求人数	241	267	262	277
求職率	85	76	75	81



10

(3) 就職率は100%、しかし・・・

かならずしも**希望通りの進路**となっていない。

- ・ 在学中を通じて、将来に対する意識が低い。
- ・ 就職試験対策が十分でなく第一希望で失敗。
- ・ 離職・転職の増加・・・?

根本は、**学習意識の低下**

11

**II. 進路支援室の目的**



2年次キャリアガイダンス(就職)での進路と将来の目標について16名の発表が

12

出典：進路支援室資料

資料 7-2-④-12 ウェブサイト上の進路情報データベースの部分

学科/専攻: ME 入社年度: 2007 順: 降順

ソートキー:  資料番号  企業名  業種  求人数  初任給

## 求人情報の検索

### 求人票の検索方法

- 学科を選択して下さい (IE, ME, CA 等)
- 入社年度を選択して下さい (西暦)
- 表示順を選択して下さい (昇順<1・2・・・>、降順<・・・2・1>)
- ソートキーを選んで下さい
  - 資料番号・・・研修室のファイルに綴じてある求人票の番号です  
 <求人票の詳細情報を閲覧の場合に必要です>
  - 企業名・・・・・・企業名でソートして表示します
  - 業種・・・・・・業種内容にまとめて表示します
  - 求人数・・・・・・求人数でソートして表示します
  - 初任給・・・・・・初任給でソートして表示します
- 検索キーを選んで下さい
  - なし・・・・その年度のすべての求人票を表示します
  - 職種・・・・職種で検索します
  - 勤務地・・・・勤務地で検索します

総カウント: 11918  
昨日: 011  
今日: 019

出典：本校ウェブサイト

資料 7-2-④-13 徳山高専ウェブサイト上のキャリアサポートブースの使い方の部分

**キャリアサポートブースの使い方**

ここには、これまでの進路情報や求人票の検索ができるように各種ファイルやデータベースを検索するためのパソコンが設置されています。これらの情報を活用して学生生活に役立ててください。

キャリアサポートブースは、進路に関する情報を集めた場所です。そして、ここはみなさんが日常的に自由に使うことのできる空間です。

- ミーティング&パソコン  
ここにパソコンが設置されていてデータベースやインターネット検索ができます。(パソコン利用時間30分700円) また、ここは企業関係者の来校時に使うことができます。
- 進路情報 USB  
ここでは、就職セミナーや各種資格試験、コンテストなどの進路情報が集まっています。ここを定期的にチェックしてください。
- 資料棚  
ここでは、これまでの求人票と大学編入や大学院進学に関する情報がアサインされています。アサインされているものから、特に興味があるものを選んでください。
- 各種申請書  
ここでは、学生課に提出する各種申請書が用意されています。必要なものを持ってきてください。
- マガジンのラック  
就職情報紙や様々なイベントのパンフレットなど、就職や進学に関する情報が集まっています。興味した後は、元に戻してください。

注意！ここにある資料の持ち出し及びブース内での飲食は禁止です。

[> Top](#)

出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/support/usage.html>

## 資料7-2-④-14 学科と進路支援室による共同の進路指導実績を示す資料（抜粋）

## 2005年度土木建築工学科4年生進路ガイダンス 実施要領

クラス担任・進路支援室

日時 4月13日（水）12:45～14:15（3時限）

場所 教室

内容 進路決定に関するガイダンス

- 1) 進路決定について
- 2) それぞれの進路へ進むための準備
- 3) 各種ガイダンス
- 4) インターンシップについて

□はじめに

いよいよ人生の岐路とも言うべき進路決定の時期が来ました。就職、進学いずれの進路を選ぶにしてもいわゆる天職を得るようしっかり準備しましょう。

本日のガイダンスは、皆さんがこれから進路決定するに際してのアドバイスや、進路決定した後の準備方法、また、これを支援する本校の応援態勢について説明します。これまで学び、そして蓄えてきた力を最大限に生かし、将来、幸せを掴むためにも、これから万全の対策を準備して下さい。

◇プログラム

1. 担任から
  - 1) 「天職」を得るために
  - 2) 就職と進学、公務員と民間就職、大学編入と専攻科進学、
2. 進路支援室から
  - 1) 2004年度の就職進学状況
  - 2) 進路支援プログラム（各種講座）について
  - 3) 進路情報データベースについて
3. インターンシップについて
4. アンケートについて

出典：進路支援室資料

資料 7-2-④-15 進路支援室と学生相談室が連携して学生をサポートすることを示す資料

平成 16 年 4 月運営委員会資料

資料 2

### 進路支援室の設置について（案）

#### 目的

現在、学科毎に対応を行っている進路指導を一元化し、充実発展させることにより、学生支援体制の強化を図る。

また、進路の相談が多数寄せられる学生相談室と連携を取り、低学年からキャリアガイダンス等を実施することにより、学生の不安を解消する。

#### 業務

- ・就職相談・指導
- ・進学相談・指導
- ・学科間の連絡調整
- ・キャリアガイダンスの企画、実施
- ・面接指導
- ・求人企業数増大のための方策の検討
- ・求人票、大学編入学募集要項等の管理
- ・求人情報、大学編入学募集情報の閲覧データ作成
- ・就職試験必要書類、進学試験必要書類の手配
- ・就職試験報告書、編入学試験報告書の管理
- ・求人企業等来訪時の対応・接遇
- ・卒業生の動静調査、訪問
- ・その他進路指導に関すること

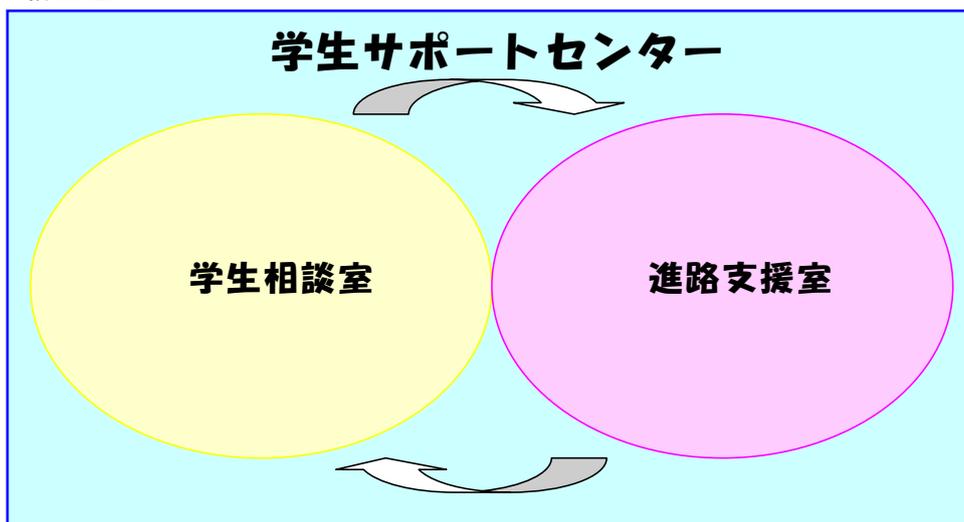
#### 構成

##### 進路支援室

各学科 1 名の 3 名（※室長は、室員の中から互選により選出）  
 学生生活・就職支援係長  
 民間企業経験者スタッフ（非常勤）1 名  
 事務員（パートタイム）1 名

計 6 名

#### 構成図



出典：運営委員会資料

資料 7-2-④-16 進路支援室と学生相談室が連携したケースを示す資料

※個人名が特定される恐れのある箇所は黒塗りがしてある。

IE 年（年組） の相談に対する対応について

年9月2日

◎ シェアすべき情報及びこれまでの大まかな流れ等

新入生アンケート（入学時実施）では意欲、不本意入学等については該当せず。⇒面談実施なし

ただし、不安（学習についていけるか等）は高かった。

マルチ検査（H年9月実施） 家庭不適應感＝やや高い、学校・学級不適應感＝低い、規律性＝やや低い、学習態度＝学校、家庭ともやや打ち込めない、学習意欲＝中間、学習に対する自信＝なくしている

成績：1年前中40/40（理数系、専門低い）、1年前末40/40、1年後中39/39、学年末39/39

2年前中39/39（理数系、英語低い、専門極端に低い）平均40.3

今年7月 先生経由で先生に相談：専門が分からない

先生が補習をアレンジ⇒何度か補習に行くが、「分からない、教え方が悪い」などの不満。

あまり改善せず。

今年8月 先生経由で野頭さんに相談：高校へ転学したい（高専ではきついで今よりレベルの低いところへの転学希望）

転学の制度等があるかどうかを野頭さんが調査

担任（先生）との面談⇒現実的なことを考えると3年終了を認定してもらい方向転換するのが妥当ではないかとの話をされている。

◎ その他

同じクラスのとよく一緒にいる。

いろいろなことを自分で決め、はきはきとしゃべる。

この夏休み中にをする⇒おもしろくなかった。

補習等での先生の気付き⇒教科書を読んで理解しようとしないう。

本校での勉強をがんばるように強く勧め続けると不登校になる心配もある。（本人もそのように言っている）

専門が苦手というレベルを超えて、完全に嫌いというレベルに達している。学習意欲もなさそうである。

◎ 相談室の見解

主訴、問題点が「高専での勉強がいやだ」ということくらいしか見当たらない。身体症状もなし。

⇒問題点（現実）をもう一度クリアにし、その問題を解決するためには何を必要があるかを自ら判断し、問題解決のために自らが動くよう（現在、判断は自分で下しているようだが、具体的な活動についてはほとんど他人任せになっている。）指導することが必要では。

このままの成績では、留年。⇒勉強をもう一度やり続ける。or進路変更を考える＝具体的な方法を自ら調査し、可能なら、その方向で自らが担任と相談しつつ動く。これくらいのオプションしか、現実にはないということをしっかり認識してもらう必要がある。

ただし、身体症状や、深いところに何か別の原因があるのであれば（現在の時点では分からない）、別の対応が必要。

出典：学生相談室資料

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・これまで学科やクラスごとに個別に実施されてきた学生支援が、学生相談室や進路支援室の働きにより、ネットワーク化、組織化され、協働で学生をサポートする体制が整っている点。
- ・単位習得の認定や経済的な支援で、学生に多くのインセンティブを与えている点。
- ・学習シートやアンケートで学生の希望や評価を積極的にくみ取ろうとしている点。

(改善を要する点)

- ・特になし。

### (3) 基準7の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスを全学生に対して学年別、学科別、クラス別と縦横に整備・実施している。

学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制も、学生相談室のコミュニティワークにより、ネットワーク化している。

個々の授業についての学習支援に関する学生のニーズは、学習シートを用いて把握している。また、資格試験や検定試験受講、外国留学に関する学生のニーズについても英語科のアンケートや各学科の各種資格試験受験者数調査によって把握している。

資格試験や検定試験、外国留学のための支援体制は、十分機能している。

留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生に対しては、事前指導や補習を行い、本校の環境に適応できるようにするための学習支援を提供している。

課外活動に対する支援体制は充実している。

学生の生活、経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制は、学生相談室のコミュニティワークにより多面的に機能し、支援実績も十分上がっている。

留学生に対しては、施設面だけでなく、留学生担当教員、チューターの複数のサポートネットワークが形成され、十分機能している。また、障害のある学生に対しても、施設のバリアフリー化が実施されているだけでなく、係わりのある複数の部署の教職員が、入学前の特別打ち合わせ会を通して情報をシェアし、サポートネットワークを形成し、生活面の支援を行っている。

学生寮は、寮務主事を中心とするスタッフおよび寮生会が協力して、生活および勉学のための有効な場としている。

進路指導については、従来の学科ごとの指導に、進路支援室による全学科・全学年対象のサポートが加わることにより、支援のネットワーク化が進み、質の高いサポートが提供できている。また、進路支援プログラムに組み込まれている各種講座に対して、学生は高い満足度をもっている。

## 基準 8 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

8-1-① 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

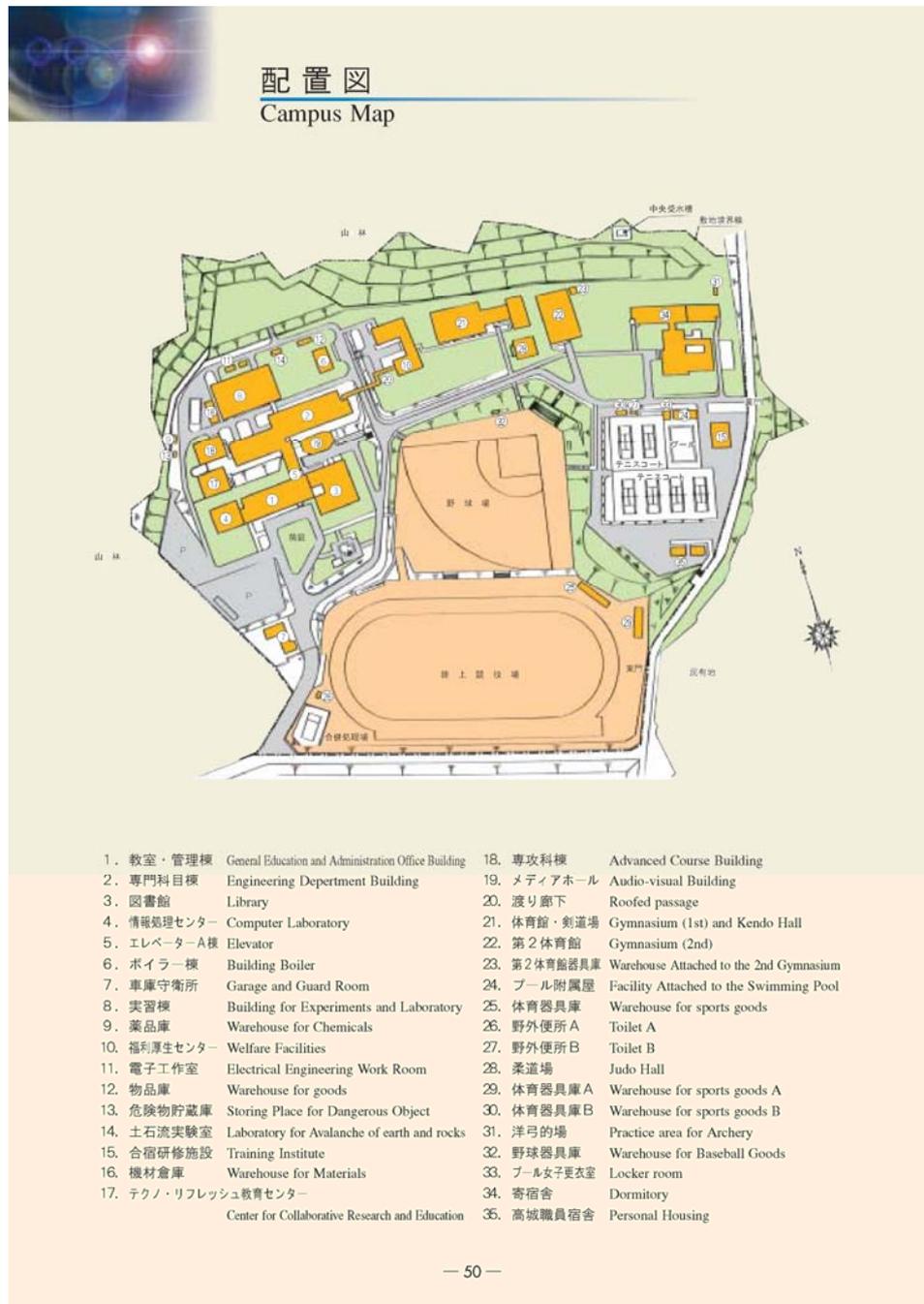
（観点にかかる状況）

平成16年4月に独立行政法人化され、本校の教育内容を達成するために国から譲り受けた財産として次に掲げる施設・設備を承継し、維持保全に努めながら有効に活用すると共に、教育環境の整備に向けた保守・整備を計画的に行っている。

(a) 主な建物（資料8-1-①-1）及び内訳

- ・ 教室・管理棟（1～3年生教室、物理実験室、LL教室、教官室、事務室等）
- ・ 専門科目棟（4～5年生教室、実験室、製図室、教官室等）
- ・ 図書館棟（閲覧室、書庫、事務室、保健室、学生談話室、講義室等）
- ・ 専攻科棟（実験室、講義室、学生研究室等）
- ・ テクノ・リフレッシュ教育センター（研究室、研修室等）
- ・ 情報処理センター（第一・第二パソコン室等）
- ・ 実習棟（実験室、工作室、機械工場等）
- ・ メディアホール（視聴覚室、機器室）
- ・ 体育施設（第一・第二体育館、武道場、柔道場、プール、庭球場、野球場、陸上競技場等）
- ・ 学生寄宿舍（男子寮、女子寮、食堂、浴室、談話室、補食室、事務室等）
- ・ 福利厚生センター（食堂、集会室、研修室、談話室等）
- ・ 合宿研修施設（研修室、宿泊室、教官室等）

資料 8-1-①-1 施設配置図



— 50 —

出典：学校要覧

(b) 各学年別教室一覧

名称	面積	収容数	クラス等
教室	69	44	1年1組
教室	69	43	1年2組
教室	68	43	1年3組
教室	68	42	2年1組
教室	68	42	2年2組

教室	69	43	2年3組
教室	69	48	土木建築3年
教室	68	42	情報電子3年
教室	68	42	機械電気3年
教室	68	41	情報電子4年
教室	69	47	機械電気4年
講義室	68	44	土木建築4年
講義室	68	40	機械電気5年
教室	59	41	土木建築5年
講義室	68	43	情報電子5年

## (c) 主な共通教室一覧

名称	面積	収容数	月	火	水	木	金
第一パソコン室	119	51	4/4	2/3	2/2	2/-	3/2
第二パソコン室	96	46	4/2	1/3	2/1	1/2	2/3
講義室1(専攻科)	35	24	1/3	2/3	-/-	1/3	-/-
講義室2(専攻科)	35	24	2/3	3/3	1/-	2/3	1/1
講義室3(専攻科)	35	24	2/2	3/2	-/1	1/2	3/2
中講義室	88	50	3/1	2/1	3/2	3/3	1/2
メディアホール	181	130	1/-	-/-	2/1	-/1	-/-
合併講義室	134	130	2/-	2/-	2/1	-/1	-/-
物理実験室	135	66	1/3	3/2	2/1	2/3	2/1
化学実験室	95	46	-/2	2/-	2/-	1/1	2/1
LL教室	101	46	2/-	3/3	-/-	1/1	-/-
留学生ゼミ室	32	8	-/2	-/1	-/2	-/3	-/1

※(稼働状況 月曜日～金曜日のコマ数, 午前/午後)

## (d) 共通教室の主な設備

- ・第1パソコン室 パソコン51台
- ・第2パソコン室 パソコン46台
- ・講義室1(専攻科) プロジェクター, 大型モニタ
- ・講義室2(専攻科) プロジェクター, 大型モニタ
- ・中講義室 プロジェクター, DVD, ビデオ, グランドピアノ
- ・メディアホール LANモジュールコンセント付きデスク
- ・合併講義室 プロジェクター, 大型モニタ, ビデオ, OHP
- ・物理実験室 実験台(水栓, ガス, コンセント付き)15台, OHP, プロジェクター
- ・化学実験室 実験台(水栓, ガス, コンセント付き)12台, ドラフトチャンバー
- ・LL教室 LL学習システム, モニタTV4台

- ・留学生ゼミ室 ノートパソコン, テレビ, モニタ, ラジカセ (2台)

(e) 施設の整備 (工事・営繕関係) 一覧

昭和50年 3月	本校舎, 寄宿舍, 体育館第1期工事竣工
昭和51年 3月	専門科目棟, 実験実習棟, 電子計算機棟, 図書館第2期工事竣工
昭和52年 3月	陸上競技場, 野球場工事竣工
昭和57年 3月	福利厚生施設, 柔道場工事竣工
平成 3年 3月	寄宿舍の一部を改修し, 女子寄宿舍を設置
平成 6年 3月	女子寄宿舍を増設
平成 6年 6月	校内緑化, 校内道路拡幅, 陸上競技場等改修工事竣工
平成 6年11月	テクノ・リフレッシュ教育センター工事竣工
平成 9年 3月	専攻科棟新営工事竣工
平成11年 7月	視聴覚棟(メディアホール)新営工事竣工
平成11年 8月	太陽光発電設備を設置
平成13年 3月	渡り廊下新営その他工事
平成17年 3月	教室・管理棟校舎外壁改修工事
平成18年 3月	校舎空調設備改修工事

(f) 主要な備品資産明細一覧

①一般科目

1) 全自動X線回折装置 (リガク, RINT-Ultima)

- ・試料にX線を照射して分析・構造を解明する装置
- ・主な用途: 研究用一層状チタン酸塩の合成。教育用一情報電子工学総合演習

②機械電気工学科

1) 三次元CAD教育システム (コンパック)

- ・三次元立体図面作成システム
- ・主な用途: 授業, 実習

2) CNC立フライス盤 (寿工業 KMV-4)

- ・数値制御付金属加工機械
- ・主な用途: 授業, 実習

3) 制御教育実習システム (オークママシニングセンター VR-40A)

- ・自動工具交換付金属加工機械
- ・主な用途: 授業, 実習

4) コンピュータ制御セラミック試験機 (3点4点曲げ試験治具付き)

- ・高温及び室温下におけるセラミック及び金属材料の機械的特性解析

- ・主な用途：卒業研究，特別研究
- 5) 複合負荷精密材料試験機（島津オートグラフ AG-100KNES）
  - ・金属材料の引っ張りおよびねじり強度を測定する試験機
  - ・主な用途：教育用－共析鋼の低サイクル疲労寿命の関係（卒業研究）工学実験，  
研究用－ラジカル窒化を施した高強度鋼の疲労特性と延性の関係
- 6) 電磁環境計測システム（米国アジレン社，新川電機）
  - ・低周波から高周波まで各種のシールド材料の遮蔽効果を計測し L S I 基板から放出される電磁波評価が可能
  - ・主な用途：教育用－工学セミナー，卒業研究  
研究用－専攻科総合実験，鋼板の渦電流探傷，導体板の速度測定

### ③情報電子工学科

- 1) 先端電子回路開発システム（ソフィアシステムズ）
  - ・電子回路の製作技術において書き換え可能な I C を設計製作する技術を教育するためのシステム
  - ・主な用途：基板設計および製作（実験実習，卒業研究）

### ④土木建築工学科

- 1) 三軸圧縮試験機（九州丸東）
  - ・粘土や砂の圧密せん断特性や土の強度変形特性を調べる試験機
  - ・主な用途：研究用－卒業研究，特別研究
- 2) 分割型圧密試験機（マルイ NIS-232-1-65-5）
  - ・分割された試料に対する経時的な層別圧密挙動及び間隙水圧の変化を計測する試験機
  - ・主な用途：研究用－卒業研究。特別研究
- 3) レーザ流速計（DISA55X シリーズ）
  - ・流速測定及び流れの可視化をする装置
  - ・主な用途：研究用－卒業研究，特別研究
- 4) ドップラー流速計（ダソテックエレクトロニクス社）
  - ・流速測定及び流れの可視化をする装置
  - ・主な用途：研究用－卒業研究，特別研究
- 5) 500kN 万能試験機・2MN 耐圧試験機（JT トーシ社）
  - ・材料・構造の強度試験をする装置
  - ・主な用途：研究用－卒業研究，特別研究。共同研究
- 6) サーボアクチュエータ式負荷装置（JT トーシ社）
  - ・5本のサーボアクチュエータと10本の油圧ジャッキによりさまざまな構造試験，振動試験を行う装置
  - ・主な用途：研究用－卒業研究，特別研究。共同研究
- 7) サーバシステム（日商エレクトロニクス）[情報処理センター]
  - ・学生演習用の LAN システム付属サーバー
- 8) キャンパス情報ネットワーク（日商エレクトロニクス）
  - ・高度な情報通信技術の活用による新しい教育環境を実現し，高速で新しい機能の追加や拡張性を備えたシステム

(資産台帳搭載価格 1,000 万円以上を計上)

(分析結果とその根拠理由)

最近の施設の改修工事としては、平成 17 年 3 月に校舎・管理棟の外壁改修工事を行い、平成 18 年 3 月には校舎空調設備改修工事を行って、教育環境が大いに改善された。

なお、本校の教育・研究環境の充実のためには、維持保全及び施設整備事業を鋭意行っていくことが必要であり、設置後 30 年を経過していることから老朽化改善対応、1 クラス最大 48 人の学級もあり、教室狭隘化解消、卒業研究に専念するための部屋の整備、さらには、ゆとりスペースの確保に向けた改善改修工事並びに安全確保のための耐震補強改修工事を計画的に行っていくことが必要である。

これらの改善改修を計画的に実施するため平成 14 年 12 月に策定された「教育環境改善計画」(資料別冊)を基に毎年、施設整備事業に係る予算要求を行っている。

以上のことから、本校の施設・設備については、高等専門学校設置基準における基準を満たし、整備されており有効に活用している。

**観点 8-1-②：教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

(観点にかかる状況)

(a) 学内ネットワークとして、平成 7 年度に幹線を 100Mbps FDDI、支線を 10Mbps イーサーネットとした学内 LAN を敷設した。その後、ネットワーク利用が急速に拡大したことから、平成 13 年度末に基幹 1Gbps、支線を 100Mbps に高速化した。

(b) 外部とのネットワークに関しては、安定な外部接続を確保するために以下のように 2 形態の回線接続を行っている。

① YSN (やまぐち情報スーパーネットワーク) を介しての山口大学との接続。

回線速度：100Mbps

利用目的：SINET を介してインターネットと接続。山口大学をはじめ YSN 接続機関との情報交換。

② CTNET (中国通信ネットワーク) を利用して CCCN (CTNET の運用するプロバイダ) と接続。

回線速度：4Mbps

利用目的：CCCN を介してインターネットと接続。YSN 停止時の非常回線として運用。

(c) メールサーバ用アンチウイルスソフトを平成 14 年 12 月に導入した。これにより、学外からのメールを介してのウイルスの進入を防御することができるようになり、かつ、学内からのウイルスメールも送付することができなくなった。なお、これまでに、送られてきているウイルスに関しては全て駆除されている。

(d) 学内の全教職員および学生は、情報処理センターのウェブサイトから、パソコン用ウイルス駆除ソフトをダウンロードできるようになっている(資料 8-1-②-1)。平成 15 年 11 月より、Windows 用の Symantec AntiVirus を、平成 17 年 10 月には、Mac OS X 用および UNIX 用の Sophos Anti-Virus も完備したことにより、全ての OS についての対応が可能となった。

(分析結果とその根拠理由)

インターネット利用を含め、学生のネットワーク利用状況は良い。また、学生寮にもネットワーク

を整備しており、学生の需要を満たしている。また、ネットワークのセキュリティを確保するために、アンチウイルスを導入するなど、ソフトウェア面からの対策は充足されている。校内ネットワーク設備については、各部所のネットワーク機器を基幹ネットワークに直接接続する形態となっており、取り扱いの不注意により障害が発生することがあり、必ずしも十分な設備とは言いがたい。これに関しては、予算要求を継続的に行っている。学生のニーズを満たす点では、校内LAN、外部接続とも十分である。更なる充実として、校内無線LANを計画中であり、これについても予算を要求している。

以上のことから報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されている。

以下は本校ウェブサイトからの裏づけ資料である。

## 学内のウイルス情報

・学内のパソコン（Windows, Mac）全部にアンチウイルスソフトをインストールできるライセンスを購入しました。アンチウイルスソフトを必ずインストールしてください。

### アンチウイルスソフトのインストール

・ウイルスに感染したときには、必ず、LANケーブルを抜いて、情報処理センターに連絡してください。

## ウイルス感染情報

2004/01/27 W32/MyDoom-A (W32.Novarg.A@mm) ウィルスに感染したパソコンがありました。

(センターに報告されたウイルスだけです。)

## メールウイルス情報

2002年12月にメールサーバにアンチウイルスソフトをインストールしました。

インストールしたことにより、学外からメールを介してウイルスが進入することを防ぐことができるようになりました。また、学内からウイルス付きのメールを送ることもできなくなりました。ウイルスに感染したメールを送ると戻って来ますので、そのようなことがありましたら、必ず、情報処理センターの方に連絡してください。

最近の送受信したウイルスメールを紹介します。

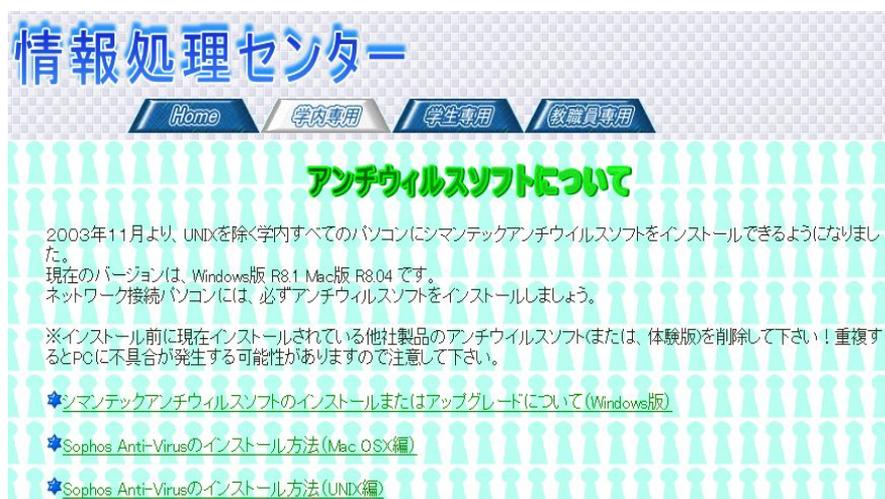
学内からのウイルス		
年月日	ウイルス名	件数
2004.01.27	W32/MyDoom-A	196
2003.02.18	W32/Klez.gen@MM	205
2003.02.17	W32/Klez.gen@MM	1224
2003.02.16	W32/Klez.gen@MM	586

学外からウイルス

年月日	ウイルス名	件数
2006. 04. 11	W32/Netsky-D	1
2006. 04. 10	W32/Netsky-Q	7
2006. 04. 10	W32/Netsky-P	4
2006. 04. 10	W32/Netsky-D	1
2006. 04. 09	W32/Netsky-Q	25
2006. 04. 09	W32/Netsky-P	4
2006. 04. 08	W32/Netsky-D	2
2006. 04. 08	W32/Netsky-Q	13
2006. 04. 08	W32/Netsky-P	3
2006. 04. 07	W32/Netsky-Q	12
2006. 04. 07	W32/Netsky-P	4
2006. 04. 06	W32/Netsky-P	3
2006. 04. 06	W32/Netsky-Q	13
2006. 04. 05	W32/Netsky-Q	12
2006. 04. 05	W32/Netsky-P	4
2006. 04. 05	W32/Netsky-D	1
2006. 04. 04	W32/Netsky-Q	17
2006. 04. 04	W32/Netsky-D	1
2006. 04. 04	W32/Mytob-C	2
2006. 04. 04	W32/Netsky-P	2
2006. 04. 03	W32/Netsky-Q	13
2006. 04. 03	W32/Mytob-C	4
2006. 04. 03	W32/Netsky-P	4
2006. 04. 03	W32/Netsky-D	2
2006. 04. 02	W32/Netsky-P	6
2006. 04. 02	W32/Netsky-Q	12
2006. 04. 02	W32/Netsky-D	1
2006. 04. 01	W32/Netsky-Q	17
2006. 04. 01	W32/Netsky-D	1
2006. 04. 01	W32/Netsky-P	2
2006. 03. 31	W32/Netsky-Q	15
2006. 03. 31	W32/Mytob-C	4
2006. 03. 31	W32/Netsky-P	2
2006. 03. 31	W32/Nyxem-D	1
2006. 03. 30	W32/Mytob-C	4
2006. 03. 30	W32/Netsky-Q	5
2006. 03. 30	W32/Netsky-P	6
2006. 03. 30	W32/Netsky-D	1
2006. 03. 29	W32/Netsky-Q	9
2006. 03. 29	W32/Netsky-D	1
2006. 03. 29	W32/Netsky-P	4

以下省略

## 資料 8-1-②-1 アンチウイルスソフトについて



出典：本校ウェブサイト

観点 8-2-①：図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され有効に活用されているか。

(観点にかかる状況)

図書館の閲覧室には 80,151 冊の図書 (内洋書 10,214 冊) と 831 種の雑誌 (内、洋雑誌 248 種) などが、専門分野ごとに系統的に整備・分類され、創造教育や外部資格取得関係の図書は、独立コーナーに利用しやすく配架してある。閲覧室には、検索用のパソコン 8 台、貸出用のノートパソコン 2 台、視聴覚資料用の AV 機器を 4 組設置している。平成 7 年 1 月から一般公開を開始した。図書館 HP では OPAC を公開し、平成 15 年 7 月からは山口県内横断検索にも参加している。

時間外開館は平成 4 年 4 月から実施した。当初は日曜日を除く開館 (平日 17:00～20:00・土曜日 9:00～13:00) であったが、平成 9 年 4 月からは日曜日の時間外開館 (9:00～13:00) も開始した。

また、図書館システムは平成 7 年度の校内ネットワークの整備に伴い、インターネットによる検索が可能となった。さらに、平成 10 年 3 月には更新 (丸善・PUBLIS) され、入退館システム (伊藤伊・ILAS) も導入した。図書の発注、受入、蔵書点検、貸出、雑誌の受入、製本、廃棄、貸出、文献複写の依頼・受付等、全て前述の図書館システムで処理している。所蔵雑誌は図書館が集中管理しているので、散逸することなく製本がスムーズにでき文献の依頼に対しても迅速に対応できる。昭和 55 年度から情報電子工学科の協力により、内部開発による電算化をすすめ、平成 8 年学内 LAN が整備されたのに伴い、新システムを導入し業務の電算化をほぼ完了している。

図書館システムに関しては長岡技術科学大学・高等専門学校統合図書館システムを平成 19 年 3 月より導入する事とし、また入退館システムを更新するための予算要求を継続的に行っている。なお、蔵書数は以下のとおりである。

蔵書冊数 (平成 18 年 3 月 31 日現在)

	図書 (冊)	雑誌 (種類)	視聴覚資料等(点)
和漢書	69,937	583	776
洋書	10,214	248	163
合計	80,151	831	939

(分析結果とその根拠理由)

図書館システムでは、教官室の端末から図書の注文、文献複写の依頼が出来る。図書館 HP には、OPAC、購読雑誌のコンテンツ、ScienceDirect、JDream、NACSIS の情報サービス等が掲載されているので文献検索が教官室・卒研室からできる。図書・雑誌のバーコードで貸出・返却が迅速に処理され、貸出情報で返却の督促通知や利用状況の統計処理等を行うことができる。貸出中の図書・雑誌の借り出し予約ができる。また、年に 1 度の蔵書点検のデータ処理が迅速であり、入退館システムの導入により行方不明図書が激減した。

試験前や試験中には閲覧室が満席になるほどの利用があるが、現在はワンフロアでパソコンも AV 機器も使用しており、図書館が十分な機能を発揮するには狭隘である。

以上のことから図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され有効に活用されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・学内情報ネットワークの高速化、学外接続との高速化がなされている。
- ・情報セキュリティの対応が確立されている。
- ・図書館システムを通じて、インターネットによるサービスが進んでいる。
- ・図書館システムによる業務の電算化で、素早い対応やきめ細かいサービスができる。

(改善を要する点)

- ・本校の教育・研究のさらなる発展を期するためには、老朽化対応、教室の狭隘化解消、卒業研究室の整備、ゆとりスペースの確保、創造教育の充実に係る施設の計画的な施設整備事業が必要である。
- ・無線 LAN の新規設置の検討が必要である。

## (3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の教育目標、教育課程に対応した校地・校舎・教室・図書館・情報処理センター・体育館・運動場等の施設が整備されている。教育用の機械・器具の設備も整備されており、有効に活用している。

また、学内情報ネットワークについても高速化、学外接続の高速化を図っているほか、情報セキュリティ対応についてもウィルス対策体制が確立されており、教育研究および学生のニーズを満たすものとして整備され、有効に活用している。

図書館については、学生および教員のニーズにあった図書、学術雑誌、視聴覚資料などの教育研究上必要な資料が備えられている。また、土・日や夜間の利用にも対応するなど利便性の高い図書館となっており、学生も有効に活用している。

## 基準 9 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

## (1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①: 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育活動に関するデータや資料の収集・蓄積は、学習・教育レビュー室を中心に各授業科目の成績評価資料(全答案を含む)管理およびシラバス内容の点検が行われている(資料 2-2-①-7)。平成 12 年度以降、学生からは授業アンケートを収集しているが、平成 18 年度からはオンライン授業アンケートシステムへ変更された(資料 9-1-①-1)。徳山高専教育モニターも参加する公開授業とそのレビュー会による評価資料も蓄積されている(資料 2-2-①-9)。

各教員の「年間職務の自己評価書」の提出が義務付けられ、自己評価委員会により主要結果はグラフにより HP で公開されている(資料 9-1-①-2)。

収集された資料・データは、学習・教育レビュー室のみならず FD 委員会、顧問会議(資料 11-2-①-1)や将来計画委員会・自己評価委員会、総合企画室、教務委員会、専攻科委員会、教員会議、教室会議等の連携による点検システムが確立され(資料 9-1-①-3)、継続的に教育の評価改善に反映されている。

## 資料 9-1-①-1 オンライン授業アンケートシステム

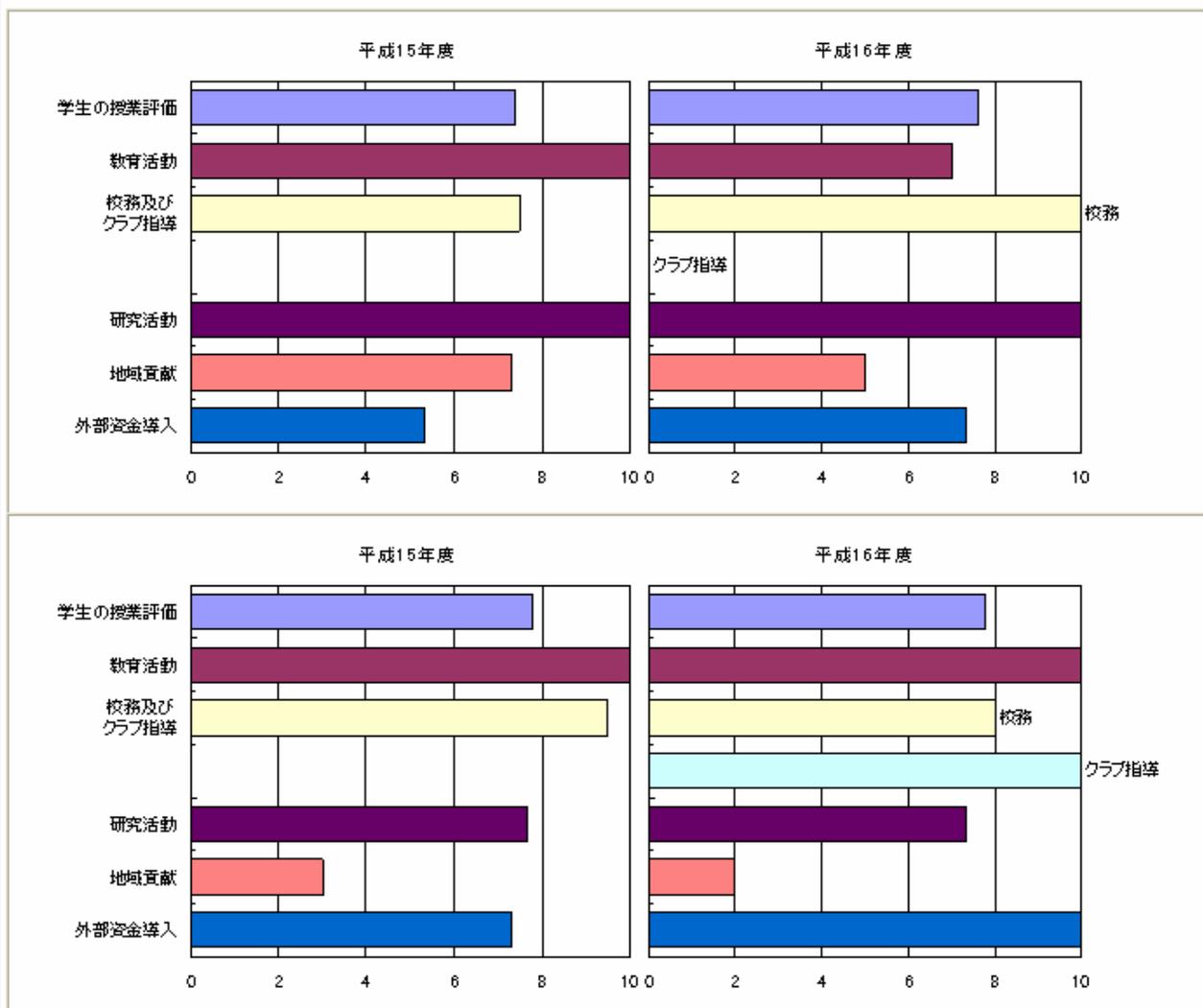
出典：本校ウェブサイト(学内限定)

資料 9-1-①-2 年間職務の自己評価結果の公開 (抜粋)

年間職務の自己評価を活用したグラフの公開

各教員ごとの15年度と16年度のデータを以下に示します。教科により、また、職務によっては、十分に果たし難い項目もあります。従って、絶対値そのものより、本校の教員それぞれが、昨年度1年間、何に力を入れて職務を行ってきたのか、また、一昨年度と比べた各教員の改善努力を示すものと理解して頂ければと思います。

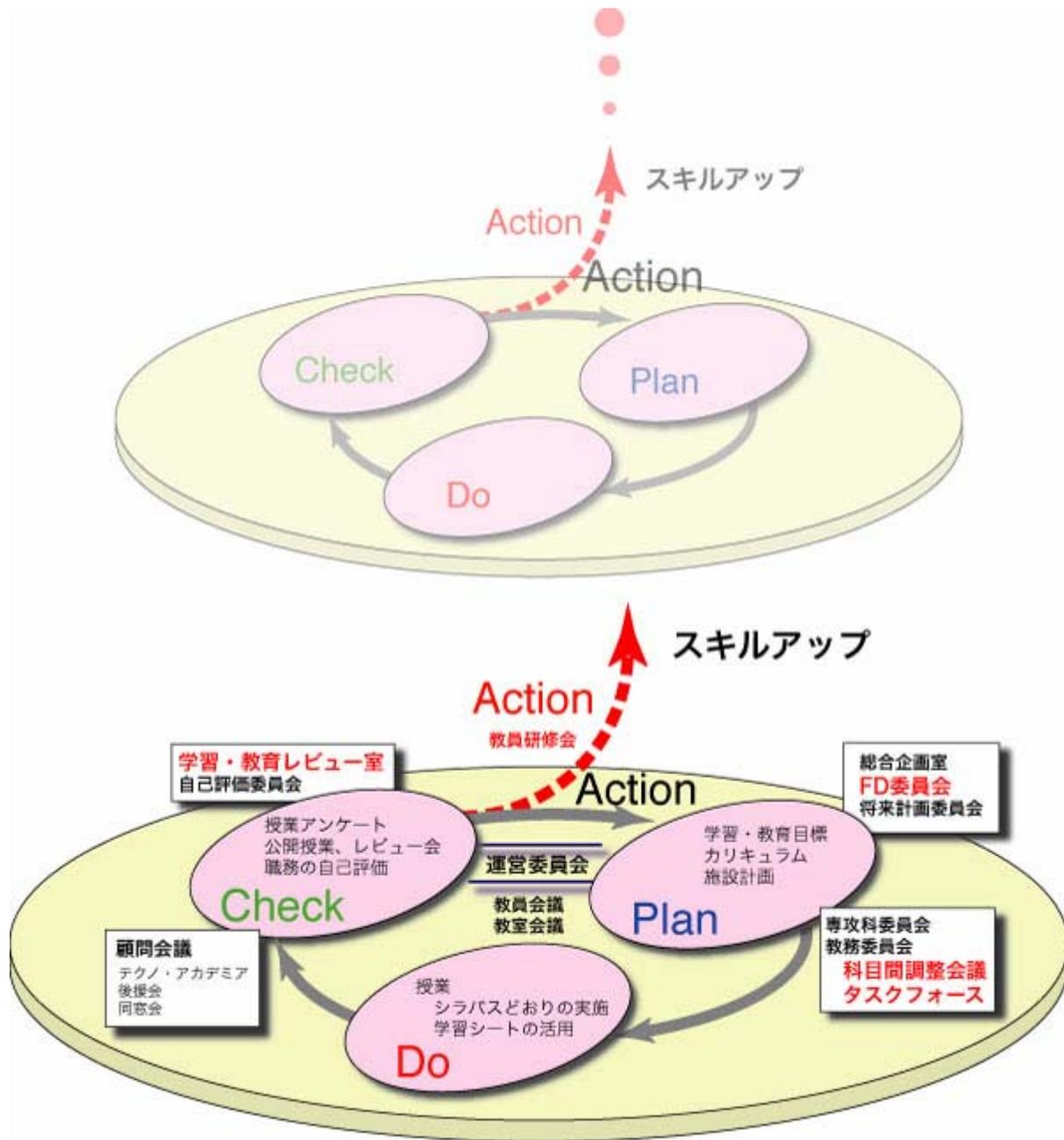
2005年度 機械電気工学科



出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/rader\\_graph.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/rader_graph.html)

資料9-1-①-3 教育点検システム



出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/jabee/edu\\_system.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/jabee/edu_system.html)

(分析結果とその根拠理由)

学習・教育レビュー室を中心として「成績評価資料」, 「授業アンケート」等の教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。また, FD委員会, 顧問会議や将来計画委員会・自己評価委員会においても, 各々教育の状況についての評価を適切に実施できる体制が整備されている。

以上のことから, 教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。教育状況に対する継続的な評価システムが十分整備され, スパイラルに改善, 発展するためにPDCA (Plan Do Check Action) が機能している。

観点 9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学生による授業評価アンケートが各科目とも年 2 回（半期科目は、中間と学期末、通年科目は、前期末と学年末）実施され、集計結果は各教員に通知され授業改善に役立てられている。HP では授業評価が公開されている（資料 9-1-②-1）。アンケート項目の検討、改善については学習・教育レビュー室を中心に授業アンケートに関する調査を学生に対し実施している（資料 9-1-②-2）。

学生および教員に対して「シラバスアンケート」が実施され、教員研修会およびHP で提示され、シラバスのブラッシュアップに役立てられている（資料 9-1-②-3）。学習シートの活用による、授業ごとの達成度評価および学生の要望の聴取がなされている（資料 9-1-②-4）。

各教員のオフィスアワー提示が教員室前およびHP に掲載され、活用されている（資料 9-1-②-5）。学生相談室における学生の要望聴取と指導がなされている（資料 9-1-②-6）。卒業研究、専攻科特別研究における学生による「コンタクトタイムノート」の記載および担当教員によるチェックが年間を通じて行われている（資料 5-7-①-1）。

#### 資料 9-1-②-1 学生による授業評価アンケート

##### 平成17年度後期末授業アンケート

徳山高専の教官は、学生の学力・技術力を効果的に向上させるため、さまざまな角度から自身の授業方法を点検し、改善して行きます。

学生による授業評価もその一つです。授業方法や授業内容等に関する学生の声をアンケートにより聞くことによって、より学生のためになる授業を模索します。アンケートは、各年度の中間段階と最終段階で行い、中間段階でのアンケート結果を参考にして後半の授業に臨みます。

##### アンケート項目

- ◆ 先生の言葉はよく聞き取れる。
- ◆ 先生の説明は理解しやすい。
- ◆ 授業の到達目標や毎回の説明は適切なレベル(難易度)である。
- ◆ 先生の黒板やOHP等の使い方や書き方はわかりやすい。
- ◆ 授業はシラバスの内容と一致している。
- ◆ 先生は学生の授業への参加意識を高めるようにしている。
- ◆ 学習シートなどの副教材は有効に活用されている。
- ◆ 授業は到達目標を満足できるよう工夫された構成(内容)である。
- ◆ 自分自身この授業に積極的に取り組んだ。

[本科アンケート集計結果一覧表\(Excelファイル\)](#)

[専攻科アンケート集計結果一覧表\(Excelファイル\)](#)

出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/self\\_evaluation.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/self_evaluation.html)

## 資料 9-1-②-2 平成17年度授業アンケートに関する調査結果（抜粋）

学生の皆さん、授業アンケートに関する調査に協力いただき、ありがとうございます。

次ページ以降に集計結果をまとめました。いずれの項目でも、学科による違いは見られませんでしたので、学年毎にグラフにしました。学年毎にも、各項目では大きな違いはないようです。

以下では各項目について見てみます。

実施回数について

現在、実施されている2回がよいと回答された方が、5～6割でした。

現在の実施回数でよいと思います。

記名について

「反対」の意見が多いようですが、「どちらでもよい」との意見も多いようです。

HP閲覧について

高学年になるにしたがって、見たことがある人が多いようです。

まだまだ、改善をする必要があると思います。

回答に真剣に記入しているか

大多数の方が、真剣に記入していると答えています。

自由記述欄には、「いい加減に答えている人が多い」と書かれた意見も多く見られました。

改善に役立っているか

33%近くの方が、改善に役に立っていると答えています。この数字の妥当性は分かりませんが、改善されていますので、授業アンケートは続けたいと考えています。

学習・教育レビュー室

出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/review/index.html>

## 資料 9-1-②-3 平成17年度実施シラバスアンケート集計結果（抜粋）

シラバスアンケートの集計について

学習・教育レビュー室

学生、教員の皆さん、シラバスに関するアンケートに協力いただき、ありがとうございました。

次ページ以降に集計結果をまとめました。一つは1年生から3年生と、4年生から専攻科の学生の2つの集団で集計し、他方は1年生から5年生と、専攻科の学生の2つの集団で集計を行いました。専攻科学生の結果は、本科学生との結果と一部異なる傾向が見られますが、全体的には同じ傾向を示しています。

また、2003年度にも、同じ内容でアンケートを実施した部分がありますが、その結果と比較しても、同じ傾向が見られました。

問3の各項目で重要度を比較するために、レーダチャートにしました。グラフは最後のページにあります。

回収率を以下の表に示します。

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	専攻科	学生全員	
回収率 (%)	98	94	85	86	78	71	87

教員の回収率 (%)	58
------------	----

要望の中から、以下の改善案を教務主事室へお願いしたいと考えております。

1. コンパクト化（軽く、薄く、学科別、学年別、クラス別）を検討する。
2. 分かりやすい表現での記入、評価法の詳しい（テスト以外の評価法も）記入を、お願いする。

出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/review/index.html>

資料 9 - 1 - ② - 4 学習シートの活用による、授業ごとの達成度評価および学生の要望の聴取  
(例)

建築構造設計(学習シート#01)                      CA4 番号      氏名

建築構造力学の基本の理解の程度に関する次の質問項目の□にチェックして答えて下さい。

1. 単純ばりや片持ちばりの反力をもとめることができますか。  
 できる。  
 簡単なものならできる。  
 できない。
2. 単純ばりや片持ちばりの曲モーメント図 (M 図)、せん断力図 (Q 図)、軸力図 (N 図) が描くことができますか。  
 できる。  
 簡単なものならできる。  
 できない。
3. 曲モーメントの 1 回微分はせん断力になり、せん断力の 1 回微分は分布荷重になることを理解していますか。  
 理解している。  
 なんとなく理解している。  
 理解できない。
4. 曲モーメントは引張り側を正 (+)、せん断力は時計回りを正 (+)、軸力は引張りを正 (+) とすることを理解していますか。  
 理解している。  
 なんとなく理解している。  
 理解できない。
5. 授業に関する疑問点や感想等を自由に書いて下さい。

出典：建築構造設計学習シート

## 資料 9-1-②-5 各教員のオフィスアワー提示 (抜粋)

## オフィスアワー

徳山工業高等専門学校では学生の皆さんの相談に応えるために、オフィスアワーを設けています。日常の学習や生活面での相談事がある場合には、いつでもオフィスアワーでなくても、遠慮なく、教員室を訪ねてください。先生方が在室されていて、都合が悪くなければ皆さんの相談に応じてもらえます。

特にオフィスアワーでは、学生の皆さんが来室しやすいように、先生方が在室されていて相談に応じてもらえる時間帯を設定しています。勉強や研究の事ばかりでなく学生生活のあらゆる相談にお答えしますので、遠慮なく教員室を訪ねてください。

また、オフィスアワーの時間に先生を訪ねる際には特に必要ではありませんが、あらかじめ相談事項をメールしておく、よりスムーズに問題解決ができるかもしれません。電子メールも利用してみてください。

□

## 一般科目

教官名	曜日及び時間帯	場所
和田 寛	月 屋休みと 18:00～17:00	教員室
吉田 輝	月、水～金 18:00～17:00	教員室
秋吉 康光	水、金 18:00～17:00	教員室
室長 大庭	水 18:00～17:00	教員室
原田 幸雄	水 18:00～17:00	教員室
大橋 正夫	月～金 12:00～12:30	教員室
国重 徹	水 18:00～17:00	教員室
桂 哲男	月～金 12:20～12:40	教員室
長戸 喜隆	月 18:00～17:00	教員室
天内 和人	月～木 屋休み	教員室
谷本 圭司	水、金 18:10～17:10	教員室
一色 誠子	月～金 屋休み (その他時間調整可)	教員室
齋藤 一彦	月 15:00～17:00 (必要に応じ時間調整可)	教員室
長廣 恭子	月～金 屋休み、月・水・金 放課後	教員室
柏倉 知秀	水 屋休みと 18:00～17:00	教員室

出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/office\\_hour.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/office_hour.html)

## 資料 9-1-②-6 学生相談室における学生の要望聴取と指導

## 学生相談室

私たちは毎日の生活の中で、いろいろなことについて悩み、不安を持って暮らしています。勉強のこと、就職・進学のこと、友人・家族との人間関係、異性との問題、生きる目的など……。自分で解決することも大切ですが、誰かに話をすることで解決の糸口が見つかることも多いものです。あるいは一つのアドバイスが氷を溶かすきっかけになることもあります。

悩みごとや困ったことがあるときは、気軽に学生相談室を訪ねてください。

学生相談室は、図書館棟1階「保健室」の中にあります。担当の先生方が皆さんの気持ちをお身にになって聞き、相談内容については秘密を厳守しています。

相談室開設時間は次のとおりです。

毎週 月・火・水・金 12:00～12:40 及び 16:00～17:00

また、毎週木曜日の午後には、専門のカウンセラーが相談に応じています。

出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/campuslife/counseling\\_center.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/campuslife/counseling_center.html)

(分析結果とその根拠理由)

授業評価や満足度評価、および教育環境のソフト面については、よく学生の意見が聴取され、改善に反映されている。

以上のことから、学生の意見の聴取が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

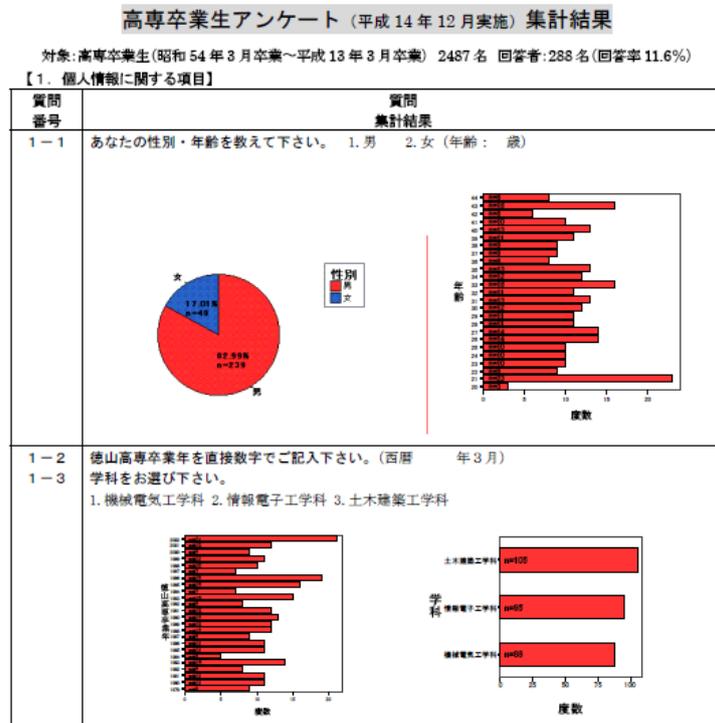
**観点 9-1-③：** 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

顧問会議（資料11-2-①-4）、卒業生アンケート（資料9-1-③-1）および企業アンケート（資料9-1-③-2）等による外部評価および検討がなされている。

アンケートの結果及び顧問会議の提言を受けて、将来計画委員会・総合企画室で審議し、例えば、社会との連携、国際交流等の課題を「中期計画」（資料9-1-③-3）に反映させ、その具体的方策としてインターンシップの推進・大学との連携・国際交流等（資料5-1-②-2）を実施するなど教育状況の改善を図った。

資料 9-1-③-1 高専卒業生アンケート集計結果（抜粋）



出典：徳山高専卒業生アンケート

資料9-1-③-2 企業アンケート集計結果 (抜粋)

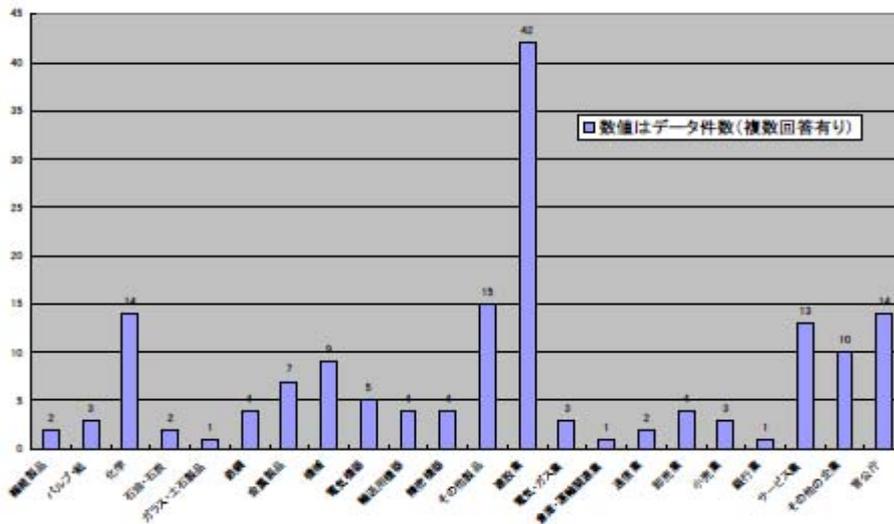
企業アンケート (平成14年11月実施) 集計結果

対象:全体626件 回答:165件(回答率26.4%)

送付先内訳	分類	送付件数	回答件数	回答率(%)
送付先内訳	地方自治体・官公庁	46	13	28.3
	ME 卒業生就職先企業	55	20	36.4
	IE 卒業生就職先企業	55	14	25.5
	CA 卒業生就職先企業	55	16	29.1
	その他の企業	415	102	24.6

アンケート:業種 下記業種一覧から、番号でお選び下さい。

製造業	(1)食料品 (2)繊維製品 (3)パルプ・紙 (4)化学 (5)医薬品 (6)石油・石炭 (7)ゴム製品 (8)ガラス・土石製品 (9)鉄鋼 (10)非鉄金属 (11)金属製品 (12)機械 (13)電気機器 (14)輸送用機器 (15)精密機器 (16)その他製品
その他	(17)水産・農林業 (18)鉱業 (19)建設業 (20)電気・ガス業 (21)陸運業 (22)海運業 (23)空運業 (24)倉庫・運輸関連業 (25)通信業 (26)卸売業 (27)小売業 (28)銀行業 (29)証券・商品先物取引業 (30)保険業 (31)その他金融業 (32)サービス業 (33)その他
官公庁等	(34)官公庁 (35)公団 (36)公社 (37)協会 (38)農協等 (39)病院・医療 (40)警察・消防 (41)その他団体



出典:企業アンケート

資料9-1-③-3 「中期計画」の該当箇所

IV. 社会との連携, 国際交流等に関する事項

1. 社会との連携に関すること

○ 地域社会等との連携・協力, 社会サービス等に関する具体的方策

テクノ・リフレッシュ教育センター, 徳山高専テクノ・アカデミア (地元企業の本校への支援組織) が協力して地域に根ざした高専づくりを行い, 地域連携を発展させる。具体的には, 月例の講演会, シンポジウム, 産業技術フォーラム in 山口, 各種人材養成講座, 公開講座などを発展させる。

また, 小中学生を対象とした「夏休み小学生工作体験教室」, 中学生を対象とした「大学等地域開放特別事業」のほか, 小学生から一般社会人を対象とした公開講座をさらに充実発展させる。

さらに, 地方公共団体, 周辺大学等と連携し実施している周南サテライトカレッジ, 周南オープンカレッジについても今後継続し発展させるとともに, 山口県をはじめとした地元自治体, 山口県産業技術センター及び周南地域地場産

業振興センター、徳山大学等との連携を強化する。

**○ インターンシップの推進など教育に関する産学連携の推進のための具体的方策**

本校では、徳山高専テクノ・アカデミア参加企業との産学連携を軸とした教育研究をすでに実施しており、今後更に産学連携の強化を図る。

**○ 広報の充実に関する具体的方策**

総合企画室でタイムリーな広報物の企画・発行を行う。同時に、すべての広報物の目的、対象、効果を調査・検討し、その見直しと統一的管理を行う。その際、電子媒体と冊子の使い分け、重ね合わせを行うことにより広報物の改善と広報効果の効率化を図る。また、2002年度に「Live & Active」と銘打って全面改訂を行ったホームページ及び周南市街地に開いた徳山高専サテライト「徳山高専夢広場」を活用して、学外の意見を収集するとともに、教育、研究、文化活動に関するリアルタイムな情報発信を行う。

2. 高専間または高専・大学間交流、国際交流等に関すること

**○ 国立高等専門学校間交流、大学・国立高等専門学校間交流に関する具体的方策**

高専間の交流を実施し、近隣大学との単位互換協定をはじめとした交流を更に推進する。

**○ 留学生交流、その他の国際交流に関する具体的方策**

検討されている留学生交流センター（仮称）を活用し教職員、学生、留学生間の交流を推進する。また、本科生（3～5年生）、専攻科生のシドニー工科大学への語学研修を推進し、教職員のシドニー工科大学への海外研修を実施する。今後、姉妹校として提携し、相互の人的交流を推進する。

出典：中期目標

（分析結果とその根拠理由）

学外関係者の意見をアンケートと顧問会議により聴取し、「中期目標」の策定に反映し、教育環境・教育システム等の改善に役立っている。

以上のことから、学外関係者の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

**観点 9-1-④：** 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

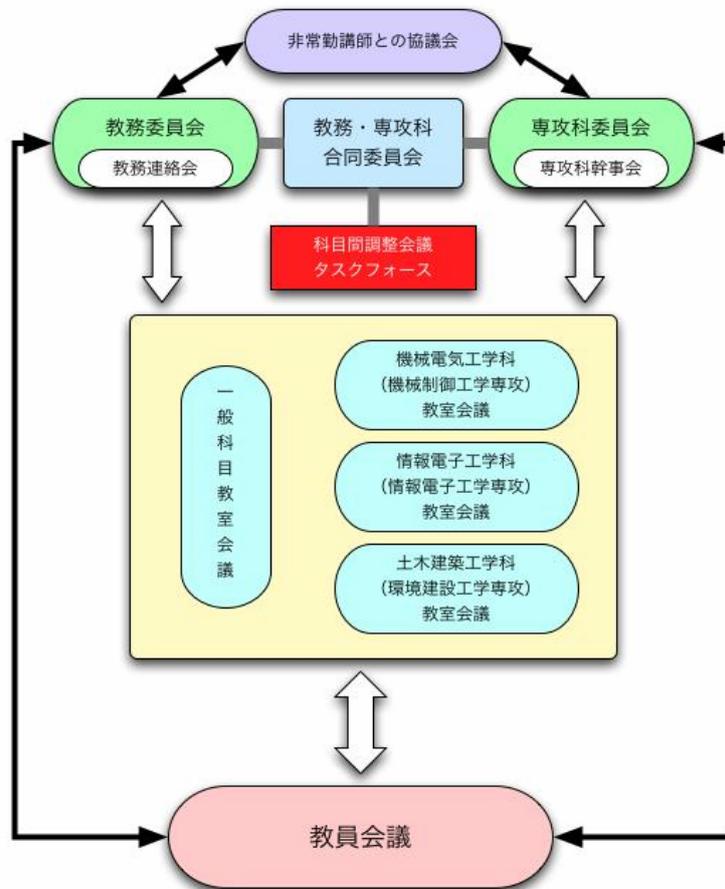
（観点到る状況）

教務委員会、専攻科委員会を中心に学科会議、科目間調整会議、タスクワークの密な連携によるカリキュラムの検討が継続的に行われている（資料 9-1-④-1）。自己評価委員会では教員に各自の年間職務の自己評価の提出を義務付けている（資料 9-1-④-2）。

教員研修会において、学生と教員による「授業評価アンケート」、「シラバスアンケート」実施結果および学習シートなどの「実施例」の報告、検討がなされている（資料 9-1-④-3）。

内部教員と外部の教育モニター参加による「公開授業」とその「レビュー会」、「学生からの意見聴取」が実施されている（年間 16 回）（資料 9-1-④-4）。また、学生に直接インタビューを行うプレレビュー会（公開授業実施前）とポストレビュー会（公開授業実施後）により、授業改善が行われたかどうかの確認を行っている（資料 9-1-④-5）。これらの公開授業レビュー会などの議事録は学習資料室に保管され、閲覧できる。さらに、定期試験の全答案および模範解答、学習シートなどが学習資料室に保管されており、他の教官も過去の資料を閲覧でき、授業改善に役立てられている（資料 9-1-④-6）。

資料9-1-④-1 教員間連絡ネットワーク組織



出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/jabee/curri\\_combi.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/jabee/curri_combi.html)

## 資料 9 - 1 - ④ - 2 年間職務の自己評価

## 平成16年度の職務の自己評価について

本校においては、平成12年度以来、各教員の業務について、毎年度、自己評価を行い、その概要を、本ホームページにおいて公開してきました。これは、各教員の自己研鑽を促し、本校の教育・研究水準の向上を図ること目的として、実施してきたものであり、それなりの成果を挙げてきているものと自負しています。

平成16年度の職務に関する自己評価から、従来6つであった指標の内、校務とクラブ活動を分け、以下の7項目について、その結果を数値化することにしました。

- 学生による授業評価
- 教育活動
- 校務
- クラブ活動
- 研究活動
- 地域貢献
- 外部資金導入

各項目の数値化の考え方は、別記のとおりで、それぞれ、10点を最高点としています。各項目の数値化の方法は一様ではなく、また、これが最善の方法であるとは限りませんが、各教員がそれぞれの項目について、自身の相対的な位置を確認し、自己研鑽の指標とするには十分であると考えています。

平成16年度の自己評価において、各項目の10点満点（または、上位10名）の教員は、以下のとおりです。

## ● 学生による授業評価

一色誠子(GE)、国重 徹(GE)、長戸喜隆(GE)、和田 實(GE)、小田和広(ME)、  
逆瀬川栄一(ME)、カ 規晃(IE)、新田貴之(IE)、佐賀孝徳(CA)、佐々木伸子(CA)、  
古田健一(CA)

## ● 教育活動

長戸喜隆(GE)、原田幸雄(GE)、室長大應(GE)、吉田 輝(GE)、池田光優(ME)、  
門脇重道(ME)、藤本 浩(ME)、重安邦之(IE)、上 俊二(CA)、佐賀

出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/self\\_evaluation.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/self_evaluation.html)

資料9-1-④-3 平成15年度第3回 教官研修会プログラム (抜粋)

Ⅲ. プログラム

1. 校長挨拶
2. ファカルティ・ディベロップメント (FD) について (13:30~14:30)  
講師：沖 裕風 (山口大学大学教育センター教授)
3. シラバスについて (14:40~15:10)  
担当：レビュー室 (百匠レビュー室長)
4. 学習シートについて (15:20~16:50)  
担当：技術者教育認定対策会第3小委員会 (一色誠子)
5. 閉会挨拶 (重松教務主事)

出典：教務係資料

資料9-1-④-4 公開授業の様子 (平成18年5月18日「測量学特論 (土木建築工学科5年)」)



授業風景と授業参観者



レビュー会の様子 (授業を記録したビデオで検討)

出典：学習・教育レビュー室資料

資料9-1-④-5 平成18年度 公開授業実施計画 (抜粋)

**実施計画**

平成15年度、自己評価委員会の担当により公開授業の試行が実施され、検討がなされた。その結果、公開授業を継続的に行っていくことが提案された。その後、平成16年度に公開授業を担当する学習・教育レビュー室においても検討を行い、公開授業は本校の授業改善に役立つとの結論に達した。以下に実施計画案をまとめる。

**公開授業の目的：** 授業方法の継続的改善を行うこと

- ・ 公開授業は、学科単位で行い、各学期 2 回（各試験前に 1 回、講師以上 1 2 名が 3 年周期）を目安に行う。公開授業は、原則として教室で行い、ビデオ撮影を行う。
  - ・ 参加者は、関連授業担当教員（1 名）、その他学科内教員（2 名）、他学科教員（1 名）、教育モニター（1～2 名：外部から募集）とする。
  - ・ レビュー会は、上記参加者により原則として当日開催する。その際、撮影されたビデオを用いる。レビュー会后、授業担当教員は、評価結果を踏まえての改善方策を学習教育レビュー室へ提出する。
  - ・ クラス学生を対象にプレレビュー会およびポストレビュー会を実施する。
  - ・ 参加者は、評価チェックシートおよび評価シートに記入し、公開授業後提出するものとする。
  - ・ 公開授業責任者は、原則として各科主任とする。なお、各科の学習・教育レビュー室エグゼクティブの代行も可能とする。各科主任とエグゼクティブは、連絡を密にし、以下のことを行う。
  - ・ 学科内から、公開授業講師を決定し依頼する。
- 公開授業およびレビュー会の日時を決定し、公表する。
  - 参観者の決定と依頼を行う。
  - 評価チェックシート等の集計を行う。
  - レビュー会の議事録をまとめ、学習・教育レビュー室に提出する。
  - 関係部署との諸連絡を行う。

公開授業に関しての総括を年度末に行い、次年度への改善提案を行う。

（以下略）

出典：学習・教育レビュー室資料

## 資料 9-1-④-6 学習資料室の保管状況



出典：学習・教育レビュー室資料

## （分析結果とその根拠理由）

学習・教育レビュー室の主導により、評価結果のチェックがなされ、FD委員会、教務委員会、専攻科委員会、科目間調整会議などの議論を経て教育の質の向上、改善が図られている。

以上のことから、教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、具体的かつ継続的な方策が講じられている。

**観点 9-1-⑤：** 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

学生による授業アンケート結果は、学内LAN上で公開され、各教員からは、自己評価としての授業アンケートに教員の予想点を示し公開している(資料9-1-⑤-1)。

各教員の年間職務の自己評価結果を前年度と比較して評価・公開することとしている(資料9-1-④-2)。自己評価委員会として5年間の報告を取りまとめ、改善状況を把握している(資料9-1-⑤-2)。

シラバスに関しては、学習・教育目標との整合性を図るため、学習・教育レビュー室にて再確認を行った(資料9-1-⑤-3)。教育課程に関しても、平成17年度の教務委員会において一部改定を行った(資料9-1-⑤-4)。

資料9-1-⑤-1 平成17年度前期末本科アンケート集計結果一覧表(抜粋)

・土木建築工学科										
<b>基礎工学デザイン</b>	先生の予想	2.9	2.8	2.7	2.9	2.8	2.8	2.9	2.7	2.7
土木建築工学科1年	学生の回答	2.95	2.62	2.76	2.51	3.03	2.78	2.78	2.78	3.51
<b>情報処理</b>	先生の予想	3	2	3	2	3	3	3	3	3
土木建築工学科2年	学生の回答	3.14	2.69	3	2.69	3.19	3.21	3.33	3.26	3.38
<b>創造演習</b>	先生の予想	3	2.5	2.5	2.5	2.8	3	3	2.8	3
土木建築工学科2年	学生の回答	3.75	3.57	3.64	3.45	3.59	3.5	3.48	3.48	3.7
<b>測量学</b>	先生の予想	3	3	3	3	3	3	3	3	3
土木建築工学科2年	学生の回答	3.15	2.48	2.95	2.63	3.18	3.03	3.33	3	3.4

出典：本校ウェブサイト

資料9-1-⑤-2 年間職務の自己評価 5年間を振り返って(抜粋)

徳山工業高等専門学校  
平成17(2005)年度  
自己評価委員会

0. はじめに

平成12(2000)年度から始めた「年間職務の自己評価」は平成16(2004)年度分までで、5年間の実績を達成した。そこで、この5年間を振り返り、その意義について検討した。評価項目や基準点は毎年、自己評価委員会によって少しずつ見直されてきたため、数値などの評価内容を単純に比較するのは困難である。委員会として、どのような総括が適当か検討した結果、最近の動向について、平成16(2004)年度の評価対象の7項目にわたって分析するのが妥当との結論にいたった。自己評価を行うことによる効果とは一概に言い切れない部分もあるが、教員が自己評価を行うことによって、それぞれの分野における毎年の努力目標が明確化され、学校教育研究活動全体の活性化が進んでいるものと考えられる。

出典：自己評価委員会

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/self\\_evaluation.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/education/self_evaluation.html)

資料9-1-⑤-3 学習・教育レビュー室 meeting (2003/11/26)議事録(抜粋)

(中略)

検討事項

シラバス・カリキュラムについて

- ・ 来年度の運営委員会メンバーがほぼ決定し、授業配当表の作成が可能となった。現在、教務サイドで検討している

とのことであった。

- ・ 数学関連と物理関連の内容に関しての検討が科目間調整会議で行われる。数学関連は、原田(幸)先生により取りまとめられる予定である。物理については未定である。数学関連は、現時点ではぼまとまっておき、シラバスに反映は可能であるとのことであった。この件に関してはレビュー室の手を離れ、科目間調整会議にお願いすることとなった。
- ・ シラバスに関してアンケートを学生と教官に実施することになった。12月上旬に実施予定。(池田(光)先生に案の作成をお願いすることになった)
- ・ アンケート結果で、すぐに実施可能な事柄は来年のシラバスに反映させる方向でまとまった。基本的には、1年経過をみてから変更を考える。今年度は、半期1ページで記入をお願いする程度か。

(以下略)

出典：学習・教育レビュー室議事録

#### 資料9-1-⑤-4 平成17年度 第5回教務委員会議事録(抜粋)

日時 平成18年2月2日(木) 16時10分～18時

場所 1F小会議室

(中略)

2. 授業終始時刻のパターンについて [教務主事] (資料)
- ・ 通常パターンについて、本科3・4時限と専攻科3時限は昼休憩45分が取れないため連続できないことや、寮当直者の専攻科1限目担当が困難であることなどの説明があり、協議の結果、時間割作成及び寮当直割り振り時の調整で対応を検討することとした。なお、短縮授業及び閉寮パターンについては、就業規則等を考慮の上、別途検討することとした。

(中略)

4. 進級・留年規程の改正について [教務主事] (資料)
- ・ 学修(大学)単位導入に伴うカリキュラム改訂で開設単位数が学科ごとに大きく異なることから、課程の修了要件について見直しを行い、同様の卒業単位及び進級規程を作成している沼津高専等の例を参考に教務規則第11条第2項第2号の変更を検討した。留年該当者のシミュレーション等資料も加味し、各学科に持ち帰り検討することとした。
  - ・ 卒業認定に関する第13条において、第1項に字句を追加し第2項を削除する案については、学生課で他高専の状況を調査した後、改めて検討することとした。
  - ・ 留年の場合の特別措置に関する内規の改正について  
高校卒業要件に合わせ、1.(4)として「第3学年での修得単位数合計74単位以上とする」を追加する案を各学科に持ち帰り検討することとした。

(以下略)

出典：教務委員会議事録

(分析結果とその根拠理由)

個々の教員は学生の授業アンケートによる評価結果に基づいて、教育の質の向上を図り、教授内容等の継続的改善を行っている。授業アンケートによる評価結果及び授業の改善状況は、学内LANで公開されている。さらに、毎年自己評価を行い、前年度と比較した改善状況を把握している。

以上のことから、十分な質の向上と継続的改善を行っており、その状況を学校として把握している。

**観点9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。**

(観点に係る状況)

各教官の研究活動は、5年生の卒業研究、専攻科生の特別研究、低学年の創造演習、創造製作、課題研究などのテーマ選択、および指導に寄与している。ここでは、具体例として教員研究テーマのう

ち、「教育用マイクロプロセッサに関する研究」、「教育支援システムに関する研究」に係る卒業研究のテーマを示した(資料9-1-⑥-1)。これらの研究成果は授業改善にもつながる。

教育改善に関する具体的な研究活動については[高専教育]などの論文誌に発表されている(資料9-1-⑥-2, 3)。

実際の授業内容の改善の試みとして、「基礎関数の概念導入における、従来のスタンスにとられない教科書構成の独自の取り組み」などがなされている(資料9-1-⑥-4)。

専攻科生に学会発表が義務付けられているが(資料9-1-⑥-5)，これによって研究活動の成果が学生のプレゼンテーション能力向上に寄与している。

資料9-1-⑥-1 教員の研究活動が5年生の卒業研究のテーマ選択, 指導および教育改善に寄与する例

平成17年度卒業研究テーマ名 (情報電子工学科)
ベイジアンネットによる図書推薦システムの作成
WebClassを利用した基本情報処理技術者を目指す学生のための学習支援教材の制作
Webカメラと電光掲示板による監視システムの開発
Webカメラと電光掲示板による監視システムの開発
H8マイコンを用いた遠隔実験室の構築
入出力動作を視覚化するPICシミュレータ
ステレオ視に基づくスリット光を用いた被写体の凹凸の検出
白線検出による並列駐車シミュレータの検討
自己組織化マップを用いた顔画像認証システム
Webを利用した就職・進学支援システムの開発
X Window System上で動作するPICシミュレータ
FPGAを用いたニューラルネットワークのハードウェア化
バスケットボール作戦システムの作成
UNIX上で動作する教育用オペレーティングシステムの開発
教育用マイコンを利用したデジタル信号処理学習機器の開発
ヘシアン行列を用いた効率的学習法に関する考察
WebClassによる学習支援ツールの試作
順序最小完全ハッシュ法について
インターネットを利用した家電製品の遠隔操作装置の製作
2次元電気泳動法によるタンパク質検出
David展開を用いた5変数関数の論理合成
PPPoEプロトコルのH8ボードマイコンへの実装
画像処理によるひずみの計測
5変数AND-EXOR最小論理式の合成
制御機器学習用自走型倒立振り子システムの開発
FPGAボードを用いたマイクロコンピュータの開発
Mutation-mutationを考慮したHIVモデルにおけるエイズ治療に関する研究
USBカメラを用いた人物の動き検出
Webカメラと電光掲示板による監視システムの開発
ICタグを用いたファイル管理
論理マッチングに基づく道路標識情報の認識
バスケットボール作戦システムの作成
データベースを用いた汎用制御器の開発
ADSLを使ったおとしよりみまもりシステムの開発と製品化
教育用コンピュータの改良
FPGAボードを用いたマイクロコンピュータの開発
ADSLを使ったおとしよりみまもりシステムの開発と製品化
Webカメラと電光掲示板による監視システムの開発
定期試験時間割作成システムの開発
バスケットボール作戦システムの作成
点字楽譜作成支援システムの改良
自律分散型警備ロボットの開発とシミュレート
脳波インタフェースに関する考察
授業時間割作成システムの開発

出典：教務係資料

資料 9-1-⑥-2 ハードウェア記述言語を用いた教育用マイクロプロセッサの開発

## ハードウェア記述言語を用いた教育用マイクロプロセッサの開発

守川 和夫\*

(徳山工業高等専門学校)

Development of Educational Microprocessor using  
Hardware Description LanguageKazuo Morikawa  
(Tokuyama College of Technology)

In many universities and technical colleges, environments for the development of the LSI designs by the use of HDL (Hardware Description Language) and the FPGA (Field Programmable Gate Array) implementation with the logic synthesis tools have recently been improved. At present, their main target is the development of microprocessors for computer architecture education. In the conventional FPGAs, the microprocessors of a wired logic control system have been mainly developed. However, FPGAs whose internal construction is suitable for memory components, as well as the tools for easier memory module production, have now been in use.

As the theme of the graduation research, we have developed the microprocessors of a wired logic and microprogrammed control systems using HDL. Consequently, this development has turned out to be useful for the students' understanding of the internal structures and the behavior principles of a computer. This paper describes the design techniques and the comparative evaluation of the performances of the microprocessors on the two control systems.

**KEYWORDS** : LSI design, HDL, FPGA, computer architecture education, microprocessor

## 1. はじめに

近年、LSI 技術の急速な発展によって書換え可能なゲートアレイ (FPGA) の大容量化、高速化、高機能化が進んでいる。また、LSI 設計では、その工程の上流でシステムの動作や構造をハードウェア記述言語 (HDL) で記述し、論理合成ツールによって回路を生成する方法が主流となっている。

このようなことから、最近では多くの大学・高専の研究室などにおいて、HDL を利用した LSI 設計及び論理合成ツールによる FPGA 実装の開発環境が整備され、計算機アーキテクチャ教育の

ための LSI 設計として主に教育用マイクロプロセッサの開発が進められている<sup>1)~6)</sup>。

従来の FPGA では、論理ブロック (CLB) にマイクロプログラム格納用の制御記憶を実現すると膨大な CLB を必要とするため、主にワイヤードロジック制御方式のマイクロプロセッサが開発の対象となっていた。しかし、近年ではメモリ構成に適したブロックメモリ (BM) 領域を持った FPGA が製造され、また、メモリモジュールを容易に生成できるツールが提供されたことから、効率のよい制御記憶の設計が行えるようになった。

卒業研究で、HDL によるマイクロプロセッサ

※ 情報電子工学科 morikawa@tokuyama.ac.jp

出典：「高専教育」25号 (2002)

## 資料 9-1-⑥-3 Linux を利用した遠隔制御基礎実験システムの開発

## Linux を利用した遠隔制御基礎実験システムの開発

山田 健仁<sup>\*1</sup> 百田 正広<sup>\*1</sup>  
(徳山工業高等専門学校)Development of Basic Experiment System  
for a Remote Control Equipment Using LinuxTakehito YAMADA Masahiro MOMOTA  
(Tokuyama College of Technology)

A remote control and a digital control technology are important for recent industrial automatic control equipments. In order to master the technologies, college students have to learn much knowledge of electronics and computer. We propose a basic experiment system for remote control equipment which works under an ART-Linux real-time operating system. The system is constructed from a ball-and-beam mechanism, an A/D-D/A interface board and computers. The computers which have Ethernets are connected by a local-area-network and they communicate each other by a TCP/IP protocol. By using the experiment system, the students will be able to understand the basic technology of the digital control and the remote control.

KEYWORDS: linux, remote control, digital control, server client, java, local area network

## 1. はじめに

本論文では、コンピュータによるデジタル制御機器と LAN (Local Area Network) を利用した遠隔制御機器の基礎技術の修得用に開発した実験システムについて述べる。産業機器や医療機器などにおいてネットワークを利用した遠隔制御機器が実用的になってきている。このような遠隔制御機器の技術を修得するためには、コンピュータによるデジタル制御技術、リアルタイム OS (Operating System) によるリアルタイム制御技術、ネットワーク通信技術、Web プログラミング技術などの、ソフトウェアとハードウェアの複合的な知識が必要となる。本研究は、このような遠隔制御技術を学生に体験させるための基礎実験システムを開発することを目的としている<sup>1)</sup>。

これまで LAN を利用した遠隔操作実験装置の提案があるが<sup>2)</sup>、これは主にシーケンス制御を扱

ったもので、デジタル制御の実験は対象としていない。本実験システムは、ビーム上のボール位置を制御するボール&ビーム機構<sup>3)</sup>、デジタル制御演算を行うための A/D 変換、D/A 変換ボードを搭載したパーソナルコンピュータ (PC)、及び、LAN 機器からなる。また、PC の OS にリアルタイム処理に対応できるように Linux のカーネル機能を拡張した ART-Linux<sup>4)</sup> を採用することにより、リアルタイムデジタル制御を実現した。デジタル制御手法は、理解が比較的容易なデジタル PID 制御とし、ART-Linux 上で C 言語により実装した。遠隔制御のためのコンピュータ間のネットワーク通信プロトコルは、TCP/IP プロトコルとし、UNIX ソケットプログラミングにより実現した。また、遠隔制御側のクライアント PC のプログラムを Java で記述することにより、Java アプレットが実行できる Web ブラウザを搭載した PC であればどのようなコンピュータ

※ 1 情報電子工学科 t-yamada@tokuyama.ac.jp

## 資料 9-1-⑥-4 基礎数学における概念導入について

## 8 基礎数学における概念の導入について

徳山工業高専 壽田村 泰生・秋吉 康光・長廣 恭子

## 1. 研究のねらい

近年、数学の教育内容が身のまわりの自然現象を記述することから完全に離れ、何のための数学かが受け手の学生にとってわからなくなっている。そのためにも、とくに物理現象を記述するために生まれた数学の概念については、その関連をも含めた数学教育内容にする方が望ましい。また、2002年より、小中学校においても、総合学習の時間を設け、従来の知識習得型の教育から、自ら考え、発見する教育へとカリキュラムの改訂が行われる。高専においても、従来のままでよいわけではない。ただ小中学校では教科学習とは別に総合学習なる時間を設けてそこで行うようであるが、できれば、数学という教科の時間内に総合学習的なことも取り入れて教育する方がより効果的と思う。このような観点から、高専1年次における基礎数学のテキストを作成した。以下にその概略を述べる。

## 2. 研究の内容

従来は1年次における「いろいろの関数」についての学習において、まず関数(の定義)が与えられ、その関数の性質を調べていく方法をとっている。そして身の回りの自然現象、社会現象との結びつきにはほとんど言及していないと言ってよい。たとえ言及しても、その関数の例としてでてくる程度であった。これに対して、われわれはまず自然現象(実験値)を与え、それらから、どのような関数関係が導かれるかを、テキストを読み、学生自身が試行錯誤しながら求めていく方法をとった。

関数関係の中で最も基本的で分かり易いものは1次関数(直線)である。ニュートンの慣性の法則(自然界では他から力が加わらない限り、物体は静止または等速直線運動をする。)を考慮してもわれわれの空間は1次関数(直線)を好むように思われる。時間の変化に対する物体の位置の変化を直線として捉えることは経験的に最もなじみやすい。したがって、実験値から、その間の関数関係を求めるためには直

線に modify することによって求める。このことにより、自然現象が数学でいかに表現されていくかが理解できる。

具体的な一例をあげれば

自然落下の実測値(時刻  $x$  と物体の位置  $y$ ) を数列とみなすとき、

①その階差数列が等差数列になることからもとの関数が2次関数になること

②実測値の座標をプロットし、2つの変数の間の関係を推理し、 $x, y$  の関係を  $x^2$  と  $y, \sqrt{x}$  と  $y, 1/x$  と  $y, \dots$  等の関係を求めること

により、比例関係になるものを探して関係式を導く。実験値が原点を通らないものについては、それぞれの数値を、原点を通るように平行移動させて上と同じ方法で探索すればよい。

夏休みには、自分の身の回りでデータを取り(または年鑑などから引用し)、その関数関係を見つけてレポートを提出する課題を課した。いくつかの面白い結果が出てきた。

内容の進め方で特徴的なものは、

- ・等差数列を1次関数の応用として、等比数列は指数関数の応用としてとらえたこと
- ・三角関数を円運動から導入し、三角比は三角関数の応用としたこと

などである。

このような授業を1年間やってきて、数学が自然界と密接な関係にあることをよく理解してくれた。半数以上の学生は積極的に取り組んだ。ただ、試行錯誤したり、点をプロットしたりする地道な作業を中学まではあまりやったことがないらしく、嫌がる学生も少数いた。

出典：日本数学教育学会誌 Vol. 82 臨時増刊号

## 資料 9-1-⑥-5 「設計情報工学」プログラム修了要件（抜粋）

1～3 （略）

4 TOEICにおいて400以上のスコアを取得し、情報関連等外部資格を取得し、学協会での発表を行うこと。  
（以下略）

出典：本校ウェブサイト

（分析結果とその根拠理由）

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われ、テクノセンターを中心とした学外との共同研究・受託研究の実績も重ねてきている。これらの成果が学生の卒業研究や専攻科特別研究に反映され、専門科目の授業内容にも活かされている。

以上のことから、研究活動が教育の質の改善に十分寄与している。

**観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。**

（観点到に係る状況）

ファカルティ・ディベロップメント（FD）については、JABEE受審のために設置された技術者教育認定対策会議は、十回に及ぶ本会議と、9つの小委員会による精力的な活動により、2年間にわたり、FD組織としての機能を果たしてきた。平成16年度からは、FD委員会（JABEE認定対策会議の発展的組織）が設置され、教育の質の向上と授業の改善に取り組んでいる（資料2-2-①-3）。

数学、物理など基幹となる科目と関連する専門科目相互の連携をはかる科目間調整会議により、教員の学科間相互乗り入れ、総合的なカリキュラム内容の検討が行われている（資料5-1-①-2）。

また、教員研修会におけるFD講習会、ワークショップ形式の討議、知的財産セミナー等の教職員の質的向上を図るFD活動を実施した（資料9-2-①-1）。

学外においては、定期的に行われる高等専門学校教員研究集会、高等専門学校新任教員研修会等に教員代表者が参加して、その報告会を開催し、学校全体として教員の質的向上を図ることにしている（資料9-2-①-2）。

## 資料 9-2-①-1 徳山高専教官研修会実施一覧

## 【平成12年度】

○第1回 平成12年6月12日

1. 「1999年度将来計画委員会報告事項について検討」  
報告・討論 … CA大成、一般小田宮
2. 「日本技術者認定機構（JABEE）問題は本校を発展させ得るか、その逆か報告・討論 … MA森野
3. 「クラブ活動の重要性について」講演  
講師 鹿児島高専教授 山崎 亨氏

○第2回 平成13年3月19日

1. 「心肺蘇生法の実技講習」… 徳山消防署
2. 「最新の日本技術者教育認定制度について」講演  
講師 （社）日本工学教育協会専務理事 椿原 治氏

## 【平成13年度】

○第1回 平成13年6月13日

1. 「新学習指導要領の課題」 講演  
山口大学附属山口中学校教諭 阿部 正二郎氏

2. 「本校に関する教官の意識について」集計報告 … C A 田村

○第2回 平成14年3月20日

1. 「クラブ活動における選手の健康および栄養管理について」講演  
(株)周南スイミングクラブ 佐野村 学氏
2. 「国家公務員の服務について」… 事務部長
3. 「学生相談室の活動状況について」… 学生相談室長

**【平成14年度】**

○第1回 平成14年6月11日

「産学連携における技術移転とTLO活動について」講演  
山口大学工学部機能材料工学科教授 松浦 満氏

○教職員特別研修会 平成14年10月7日(月)

「セクシュアル・ハラスメントの防止について」

**【平成15年度】**

○第1回 教官研修会 平成15年6月12日(木)

「労働基準法等講演会」

社会保険労務士 東 晴美氏

「徳山高専のこれからについて」

「JABEE受審に関する現状報告と今後の準備について」

○第2回 教官研修会 平成15年9月17日(水)

「特許セミナー」

(社)発明協会広島県支部参与 坂本 重道氏

○教職員特別研修会 平成15年12月18日(木)

「セクシュアル・ハラスメント」～予防に向けて全力を～」

嵯山女学園大学現代マネジメント学部 上田 純子氏

○第3回 教官研修会 平成16年3月22日(月)

「FDの基本理念についての講演会」

山口大学教育センター助教授 沖 裕貴氏

**【平成16年度】**

○第1回 教員研修会 平成16年6月8日(火)

「学生の学習意欲を向上させるには」

山口大学教育センター助教授 沖 裕貴氏

○著作権に関する講演会 平成17年1月20日(木)

「教育機関における著作権について」

文化庁長官官房著作権課課長補佐 山中 弘美氏

○第2回 教員研修会 平成17年3月18日(金)

「eラーニングの概要」

熊本大学総合情報基盤センター教授 中野 裕司氏

「eラーニングの教育研究での取り組み」

米子高専電気情報工学科助教授 新田 陽一氏

**【平成17年度】**

○第1回 教員研修会 平成17年5月27日(金)

「研究のための特許検索」

(財)やまぐち産業振興財団 特許情報活用支援アドバイザー 有馬 興一郎 氏

○第2回 教員研修会 平成18年3月6日(月)

「認証評価に係る訪問説明会」

大学評価・学位授与機構 評価研究部教授 野澤 庸則氏

出典：教務係資料

資料9-2-①-2 平成17年度高等専門学校新任教員研修会及び事務系職員民間派遣研修報告会の開催について（通知）

標記の研修報告会を下記により開催しますので、出席願います。

記

1. 日 時 平成18年2月1日(水) 16時10分～
2. 場 所 メディアホール

3. 対 象 全教職員

4. 内 容

(1) 平成17年度高等専門学校新任教員研修会報告

一般科目 助教授 齊 藤 一 彦

機械電気工学科 助教授 飛 車 来 人

(2) 事務系職員民間派遣研修報告

学生課教務係主任 岡 田 栄 三

会計課出納係主任 高 村 浩 二

庶務課庶務係主任 田 中 幹 夫

会計課出納係主任 杉 岡 啓 子

庶務課人事係主任 大 谷 幸

会計課総務係主任 大 橋 磨由美

庶務課図書係主任 玉 野 綾 子

学生課学生係主任 金 子 由己子

会計課用度係主任 兼 本 潔

庶務課地域連携推進係主任 村 重 清 司

出典：学内電子メール

(分析結果とその根拠理由)

FD委員会が平成16年度から設置され、学内では「授業の公開」、各委員会と連携したFD研修会、講演会等を組織として適切な方法で実施し、学外ではFD研修会への積極的な参加と全教員への報告を推進している。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されている。

**観点9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。**

(観点に係る状況)

教員研修会で提案、検討された事項（学習シートの有効性分析）が次年度に生かされている（資料9-2-②-1）。非常勤教員との懇談会が教育の質の改善に役立っている（資料3-1-①-3）。

科目間調整会議により提案された授業内容の検討や担当教員の変更などが実施されている（資料5-1-①-2）。英語教育改善をめざす基本方針が出され、TOEIC の実施、ACEの導入が決定され平成18年度より実施される（資料9-2-②-2）。

また、教育の質の向上や授業の改善については、「成績評価資料」に記載されている担当教員からのコメント（資料9-2-②-3）から確認できる。

資料 9-2-②-1 教員研修会で提案，検討された事項が次年度に生かされている例  
平成 15 年度第 3 回教員研修会報告書（抜粋）

3. 学習シートについて

学習シートは、JABEE 認定対策として設置された技術者教育認定対策会議の中の第 3 小委員会で、生まれた。今回、この第 3 小委員会の一色誠子委員を中心として、効果的学習シートを日指してグループ・マッピングの手法を用いた学習シート研究会を行った（資料 3 参照）。

V. 総括

FD に関する特別講演では、参加者の中からは、「カルチャーショックを受けた」とか、「目から鱗が落ちた」といった声が増えてくるくらい効果的な講演であった。講演内容は、シラバスや学生による授業アンケートその他多岐に渡ったが、授業アンケートは授業技術のポイントが 6～7 割を占めることや、授業改善相談室の話題は、参加者の興味を引いた。その後のシラバスについてのレビュー室長の説明についても、前出の講演と併せて時期的に当を得ていた。学習シートをテーマとした研修会では、グループ・マッピングと言う手法で教員の活発な意見を引き出すことが出来た。

参加した非常勤講師からは、高等が完全に教育改善に取り組んでいる様子がこの研修会を通じて良く理解できたといった声も聞かれた。今後も継続的に、FD 研修を実施する事で、一層内容の充実した教育機関となるよう全校、教職員一体となった努力を期待したい。

出典：教務係資料

資料 9-2-②-2 平成 17 年度 第 7 回教務委員会議事概要（抜粋）

- ① 日 時 平成 18 年 2 月 8 日（水） 15：00～16：00  
16：30～18：00
- ② 場 所 管理棟 1 階 小会議室
- ③ 出席者 森野，石田，杉村，古田，谷本  
藤満，小林，木村，和田，学生課長，教務係長
- ④ 欠席者 なし

議 事 概 要

（中略）

3. 「英語教育改善に関する答申」への対応について

TOEIC 賛助会員入会，TOEIC 本科 4・5 年生全員の年 1 回受験及び ACE を導入し年 1 回本科全員への受験について審議の結果，実施を了承した。

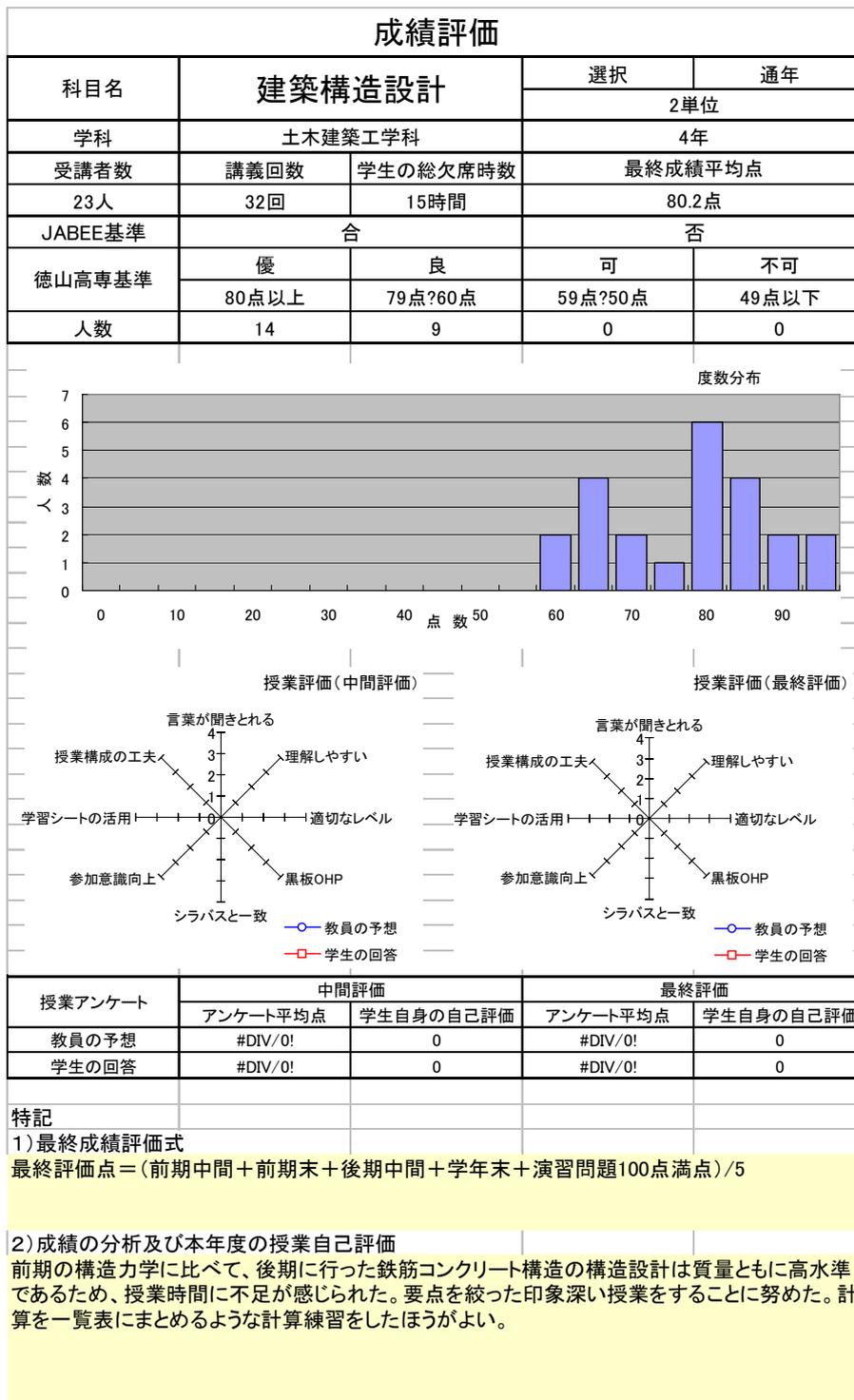
なお，経費の徴収方法は各クラス会計係担当の学生が行う。ACE は後期中間試験で実施する。ただし，TOICE の受験時期は英語科教員の意向により実施する。

「学年毎の学年修了要件への追加目標」及び 4 年次の学年修了要件への追加は，来年度の受験状況を調査のうえ，引き続き検討することとした。

（以下略）

出典：教務係資料

資料 9-2-②-3 「成績評価資料」に記載されている授業改善についての担当教員からのコメント (例)



出典：平成 17 年度成績評価資料；建築構造設計

(分析結果とその根拠理由)

授業方法の改善に対する取組状況についての意見は、「授業アンケート」や「成績評価資料」の教員による講評等により教育の質の向上や授業改善への取組が確認できる。また、授業の公開や教育に

関する科目間調整会議等のFD活動が教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントが教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育の質の向上及び改善のために、つねにPDCAを意識したシステムとしてよく整備されている。シラバス作成および改善、学習シートの活用、公開授業のレビュー会など積極的に教育改善に取り組んでいる。

(改善を要する点)

学生にさらなる参加意識をもたせる工夫が望まれる。このことは、FDがいかに教育改善に結びついたかの証左をうることにもつながる。

## (3) 基準 9 の自己評価の概要

教育活動の点検・改善のための学習・教育レビュー室は、学生による「授業アンケート」、教員による「成績評価資料」等の資料を収集・蓄積し、その評価結果を教務委員会・FD委員会等の各種委員会に報告している。各種委員会は、学習・教育レビュー室からの報告に加え、顧問会議の結果をもとに教育活動についての改善を実施する体制をとっている。

教務委員会、専攻科委員会、FD委員会は教育活動について恒常的な点検改善を行っている。各種委員会の議事の概要は学内LAN上で公開され、点検改善活動のため、積極的にフィードバックされている。

学生による授業アンケート結果は学内LAN上ですべて公開されており、個々の教員はその評価結果にもとづいて教育の質の向上を図り、教授内容等の継続的改善を行っている。各教員からは「年間職務の自己評価」の提出が義務づけられており、それにより個々の教員の改善状況を学校として把握している。

教員の研究や学生の学会発表などが積極的に行われているとともに、テクノ・リフレッシュ教育センターを中心とした学外との共同研究・受託研究の実績も重ねてきており、これらの成果が学生の卒業研究や特別研究に反映され、専門科目の授業内容にも活かされている。また、公開授業や教育に関する科目間調整会議等のFD活動が教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

## 基準10 財務

## (1) 観点ごとの分析

10-1 学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。

10-1-① 学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

(観点にかかる状況)

本校の資産は、文部科学省から出資された土地及び建物・構築物などであり、教育研究活動を将来に渡って適切かつ安定して遂行するため、高等専門学校設置基準に基づいて整備されている。平成18年3月末現在におけるその資産現在額は次のとおりである。

## (a) 固定資産

土地 面積 128,111㎡ 2,892,200,000円

建物 延面積 24,904㎡ 1,408,060,387円

構築物 148,198,117円

(価格は、すべて減価償却後の期末残高を計上)

## (b) 所属別工具器具備品資産等一覧

(点)

所 属	工具器具備品資産	少 額	合 計	備 考
一 般 科 目	15	295	310	
機械電気工学科	15	598	613	
情報電子工学科	2	397	399	
土木建築工学科	19	672	691	
専 攻 科	0	17	17	
情報処理センター	4	46	50	
テクノ・リフレッシュ教育センター	1	32	33	
事 務 部	13	572	585	
合 計	69	2,629	2,698	

※工具器具備品資産＝取得価格50万円以上、少額資産＝取得価格10万円以上50万円未満

(分析結果とその根拠理由)

平成16年度4月に国から現物出資を受けた資産について、時価評価を行い、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第31条の3「固定資産は、その増減及び異動を帳簿によって物件別に管理するものとする。」に基づいて資産管理している。

また、財務会計管理については、損益計算書、貸借対照表などの財務諸表類により財政状態及び運営状況を明らかにしており、過大な債務はなく、健全な財政管理及び運営となっている(資料10-1-①-1, 資料10-1-①-2)。

資料 10-1-①-1 貸借対照表

事業年度： 17年度		<b>貸借対照表</b>	
支部： 37 徳山工業高等専門学校		平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日	
会計区分： 国立高専機構			
部 署： 総括			
プロジェクト外： 総括			
セグメント： 総括			
[資産の部]		(単位：円)	
流動資産			
現金及び預金			
現金		0	
当座預金		0	
普通預金		179,657,650	

出典：財務会計システムより抜粋

資料 10-1-①-2 損益計算書

事業年度： 17年度		<b>損益計算書</b>	
支部： 37 徳山工業高等専門学校		平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日	
会計区分： 国立高専機構			
部 署： 総括			
プロジェクト外： 総括			
セグメント：			
[経常費用]		(単位：円)	
業務費			
教育・研究経費			
消耗品費		57,533,900	
備品費		21,946,233	
印刷製本費		6,978,655	
水道光熱費			

出典：財務会計システムより抜粋

以上のことから、学校の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有しており、活動を安定して遂行できる資産を有している。

また、債務が過大ではない。

10-1-② 学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点にかかる状況)

高専機構から配分される運営費交付金及び授業料収入等を教育研究活動の基本的財源とし、これらに加え奨学寄附金、共同研究・受託研究、科学研究費補助金などの外部資金の獲得により経常的収入を確保している。

また、全学的に外部資金獲得に向けた取組として科学研究費補助金獲得への学内説明会を実施するとともに、関連の助成金情報を学内のウェブサイト上で公開し、教員等へ周知を図っている。

・国費等関係 予算・決算額（年度別）（単位：千円）

平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
1,264,973	1,246,580	1,183,285	1,256,753	1,203,367

※平成16年度以降は、独立行政法人となり運営費交付金、施設整備費補助金等及び自己収入による総事業費（支出ベース）を計上。

・自己収入

授業料・入学料・検定料（年度別）（単位：千円）

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
授業料	137,358	136,115	143,124	130,075	152,632
入学料及検定料	20,384	22,580	22,773	22,235	20,003

・外部資金関係

奨寄附金受入件数・受入額（年度別）（単位：件，千円）

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	32	28	82	56	32
金額	14,014	8,000	19,121	20,939	15,080

共同研究・受託研究受入件数・受入額（年度別）（単位：件，千円）

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
共同受入件数	9	5	10	13	20
金額	4,180	2,100	3,050	4,790	8,409
受託受入件数	2	1	1	0	2
金額	650	1,050	600	0	670

科学研究費補助金申請・採択・交付額（年度別）（単位：件，千円）

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
申請件数	25	19	29	38	40
採択件数	6	4	6	12	8
交付金額	8,200	9,500	1,200	31,410	20,660

（分析結果とその根拠理由）

運営費交付金及び自己収入を基本的財源として、文部科学省をはじめ日本学術振興会、その他の機関が行っている各種公募型競争的資金などに応募するなど外部資金獲得へ積極的に取り組んでいる。

外部資金の獲得について、特に科学研究費補助金の採択状況は、16、17年度は、特に多い状況となっている。また、寄附金・共同研究等を合わせた外部資金は、全事業費の4%弱となっている。

以上のことから、学校の目的に沿った教育活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確

保されている。

10-2-① 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

本校の中期計画に基づき、総合企画室長を中心として、収入・支出計画を定めるとともに、財務内容改善のための具体的施策(外部資金の導入強化、経費の節減、業務の改善及び効率化等)を検討している。その審議内容及び決定事項については、随時、運営委員会や諸会議を通じて、また、本校ウェブサイトのTCT-infoに掲載し、その周知を図っている。

施設の改善計画については、教育環境改善計画(平成14年12月策定)を見直すこととして「将来計画委員会」で取り上げて検討しており、耐震、狭隘、老朽化対策に向けて、年次改善計画を策定中である。

・収入・支出計画

収入

(単位：百万円)

区 分	金 額					
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	計
運営費交付金	979	974	969	964	959	4,845
施設整備補助金	19					19
国立大学財務経営センター施設費交付金		29				29
自己収入						0
授業料及び入学検定料収入	173	173	173	173	173	865
雑収入	7	7	7	7	7	35
産学連携等研究収入及び寄附金収入						
今年度収入額	29	31	33	35	37	165
前年度繰越額	47	49	48	45	41	230
計	1,254	1,263	1,230	1,224	1,217	6,188

支出

区 分	金 額					
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	計
業務費						
教育研究経費(教育支援経費含む)	1,068	1,068	1,068	1,068	1,068	5,340
一般管理費	91	86	81	76	71	405
施設整備費	19					19
国立大学財務経営センター施設費交付金		29				29
産学連携等研究経費及び寄附金事業						0
今年度事業費	27	32	36	39	42	176
次年度繰越額	49	48	45	41	36	219
計	1,254	1,263	1,230	1,224	1,217	6,188

(分析結果とその根拠理由)

財務に係る計画等については、本校の中期計画に示され、その具体的施策についても効率化ワーキンググループによる検討結果や学校の全構成員が取組を行うような省エネ対策・経費削減策が随時TCT-info及びウェブサイトに公表されている。また、施設・設備に係る整備計画についても既に作成・公表されている。

資料：本校ウェブサイトTCT-info参照（学内限定のため訪問調査時に参照）  
「教育環境改善計画(キャンパスプラン)」（別冊）

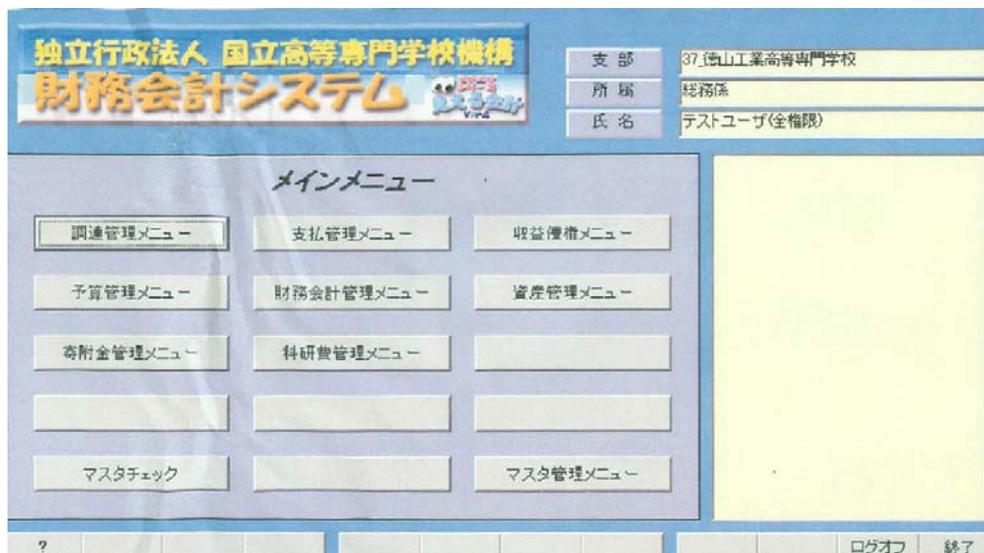
以上のことから、学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されている。

10-2-② 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点にかかる状況)

予算に基づく計画的な執行を念頭に置いて、財務会計システムにより常に予算を把握しながら執行を行っている。また、教員に対しては、年に数回執行状況を通知することにより、適切な予算計画と経費支出に努めており支出超過は生じていない。

資料 10-2-②-1 財務会計システムメニュー画面



出典：財務会計システムより抜粋

(資料10-1-①-1 「貸借対照表」参照)

(分析結果とその根拠理由)

財務会計システムにより常に予算を把握しながら執行を行っている。  
このことから、収支の状況において、過大な支出超過となっていない。

10-2-③ 学校の目的を達成するため、教育活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点にかかるとの状況）

学内の予算配分では、限られた資源を効果的に配分するため、競争的資金を確保するとともに各学科、情報処理センター、図書館、事務部等へ毎年事業年度の状況に応じ重点配分している。校長裁量経費（特別研究促進費、特別教育設備費、学外共同研究推進費、特別科学研究費補助金制度並びに学会発表に係る経費の補助）により教育研究活動の活性化とその環境の整備を図っている。競争的資金による研究には、本校の目的を達成する有効な手段であると同時に共同研究への発展や科学研究費補助金への応募が見込まれるなど、外部資金を獲得する上でも有効に働いている。

資料 10-2-③-1 平成17年度予算配分

平17. 6. 14運営委員会  
協議事項 2 の資料  
資料 2

平成17年度予算配分(案)

平成17年6月14日

1. 配分は、本部よりの配分内訳をベースとして別紙のとおり配分する。
2. 学科等教育研究経費
  - (1) 教育研究に必要な経費
 

教育経費	本科： 教員現員で按分した額を3学科及び一般科に配分する。 専攻科：専攻科に配分する。
研究経費	①校長裁量とする。(競争的資金) <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別研究促進費</li> <li>・特別教育設備整備費(後日配分)</li> <li>・科研費、共同研究助成金(後日配分)</li> <li>・学会発表出席旅費(交通費)助成</li> </ul> ②外国雑誌購入費半額補助

出典：運営委員会付議資料（平成17年6月）

（分析結果と根拠理由）

学内の予算配分では、教育研究活動の活性化を図るため競争的環境を創出し、その質の向上と充実した教育環境の整備を行い、適切な資源の重点配分を行っている。

・ 学内基礎配分状況 平成17年度当初配分

人件費	883,392,000円
物件費	
非常勤人件費	28,866,000円
教育研究費	105,413,180円
教育研究支援経費	14,870,600円
一般管理費	101,680,220円
（合計）	1,134,222,000円

・ 学内競争的資金の採択状況

平成17年度 (単位:円)

種 別	予算額	申請	申請金額	採択	採択金額
特別研究促進費	15,000,000	26	32,073,000	15	14,501,000
論文掲載料助成		8	412,528	8	288,500
特別教育設備整備費	5,435,000	9	11,847,000	6	5,435,000
学外共同研究推進制度	2,500,000	15	4,607,000	15	3,100,000
競争的資金応募者助成制度	1,500,000	9	2,700,000	3	900,000
合 計	24,435,000	67	51,639,528	47	24,224,500

以上のことから、学校の目的を達成するため、教育活動に対し、適切な資源配分がなされている。

10-3-① 学校を設置する法人の財務諸表が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

高専機構全体の財務諸表が、機構本部のウェブサイト上で公表されている。

(<http://www.kosen-k.go.jp/documents/zaimusyohyo.pdf>)

(分析結果と根拠理由)

公表されている。

機構本部が法人全体の財務諸表等を公表している。

10-3-② 財務に対して会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

支払契約決議、振替伝票、支出伝票により日常監査をおこなっている。

また会計監査実施規程による財務諸表類の定期監査を毎年1回実施している。

資料 10-3-②-1 内部監査実施報告

平成18年 2月10日

校 長 殿

監査員 会計課総務係長 岸本 篤信 

会計課総務係主任 大橋 磨由美 

平成17年度会計部内監査の結果について(報告)

独立行政法人国立高等専門学校会計規則第45条並びに徳山工業高等専門学校会計監査実施規程第2条の規定に基づき実施しました内部会計監査について、下記のとおり報告いたします。

出典：会計課資料

(分析結果と根拠理由)

内部監査に関して規程が制定されており、当該規程に基づいた内部監査が適正に実施されている。  
このことから、財務に対して会計監査等が適正に行われている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学習・教育目標を達成するための財源確保並びに予算の重点的配分など、適正かつ効率的な予算の獲得並びに執行に対する努力を行っている。

外部資金の確保に関し目標を定めるとともに外部資金の獲得のための補助金を補償するなど外部資金獲得に積極的に取り組んでいる。

(改善を要する点)

今後、文部科学省や日本学術振興会の科学研究費補助金あるいは各種財団の教育・研究助成等の申請及び採択率を上げるための取組みを行い、より一層外部資金獲得に向けた取組をする必要がある。

## (3) 基準10の自己評価の概要

本校が中期計画で掲げている教育研究事業を、将来にわたって適切かつ安定して遂行するためには、基本的に必要な施設である校地、校舎、各種設備の資産を有するとともに、国立高等学校機構からの運営費交付金ならびに自己収入である授業料、入学検定料、入学料などの基盤財源に加えて、外部資金（奨学寄附金、共同研究、受託研究、科学研究費補助金など）獲得に積極的に取り組み、安定して事業を遂行できる財務基盤を有している。

財務に関する将来の収支計画が作成されてウェブサイト上で公開されており、予算配分については、限られた予算をより効果的に配分するため、校長のリーダーシップのもとで総予算の約18%を競争的資金として重点配分を行っている。このことは、教育研究活動の活性化とその環境整備の向上を図るとした共同研究や地域社会との連携強化を推進する上でも有効な配分となっている。

また、財務会計処理に関する監査においては、監査法人にある監査が実施されており、適正な財務会計処理を行っている。

## 基準 1 1 管理運営

### (1) 観点ごとの分析

観点 11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点にかかる状況) 校長の役割は、学校教育法第70条の7(資料11-1-①-1)で明記され、高等専門学校においては、学校の管理運営等についての最終意思決定をすることとなっており、本校においても教学、研究、経営等の最高責任者として、学内コンセンサスに留意しながら、学校の管理運営を行っている。

教務、学生、寮務の3主事については、徳山工業高等専門学校学則第9条(資料11-1-①-2)によりその役割を規定しており、教務主事は教育計画の立案や教務に関する業務、学生主事は学生の厚生補導に関する業務、寮務主事は学寮における学生の厚生補導に関する業務を掌理し、校長を補佐している。

本校においては、本校の中期計画の目的と目標を達成するための具体的方策として、校長を補佐し機動的な学校運営を行うために「総合企画室」を設置し、情報収集・分析、学校運営の企画・経営方針等について、長期的視点から総合的に企画・立案、調整を行い、教育・研究活動の経営基盤の強化を図っている(資料11-1-①-3)。

また、校長の下に専攻科長、各学科等主任、図書館長、テクノ・リフレッシュ教育センター長及び情報処理センター長等を置き、それぞれの組織における管理・運営に携わっている(資料11-1-①-4)。

なお、校長と3主事、専攻科長、総合企画室長、テクノ・リフレッシュ教育センター長、事務部長及び各課長で構成する「主事連絡会」を毎週定例的に開催し、校長を補佐するとともに意思の統一と情報の共有を図っている。

また、運営委員会をはじめとする15の委員会を設置するとともに適宜ワーキンググループを設け、専門的分野での立案、検討及び調整を図りつつ、校長は学校運営の重要課題等については、「運営委員会」で意見を聴取しながら管理運営を行っている(資料11-1-①-5)。

これらの決定事項等(議事録)は、全教職員に迅速に周知するために学内の情報共有システム(TCT-info.) (資料11-1-①-6)を整備し、閲覧できる体制となっている。

#### 資料 11-1-①-1 学校教育法(抜粋)

- 第70条の7 高等専門学校には、校長、教授、助教授、助手及び事務職員を置かなければならない。
- 2 高等専門学校には、前項のほか、講師、技術職員その他必要な職員を置くことができる。
  - 3 校長は、校務を掌り、所属職員を監督する。
  - 4 教授及び助教授は、学生を教授する。
  - 5 助手は、教授又は助教授の職務を助ける。
  - 6 講師は、教授又は助教授に準ずる職務に従事する。

出典：学校教育法

#### 資料 11-1-①-2 徳山工業高等専門学校学則(抜粋)

- 第9条本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。
- 2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

- 3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
- 4 寮務主事は、校長の命を受け、学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。
- 第10条本校に、庶務、会計及び学生の厚生補導に関する事務を処理するため事務部を置く。
- 第11条前2条に規定するもののほか、本校の内部組織は、別に定めるところによる。

出典：本校規則集

資料 11-1-①-3 徳山工業高等専門学校総合企画室規則（抜粋）

制 定 平成15年4月1日  
最終改正 平成16年4月1日

（設置）

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に総合企画室を置く。

（目的）

第2条 総合企画室は、本校の運営・経営方針について、長期的視点から総合的に企画・立案することにより、本校の教育・研究活動及び経営基盤の強化を図ることを目的とする。

（業務）

第3条 総合企画室は、次の業務を行う。

- (1) 中・長期計画の企画・立案及び管理・評価に関すること。
- (2) 教育・研究及び管理業務の総合調整に関すること。
- (3) 対外的な業務（広報を含む。）の企画・立案及び調整に関すること。ただし、テクノ・リフレッシュ教育センターの業務に属することを除く。
- (4) その他前条の目的達成に必要な業務。

（組織）

第4条 総合企画室は、次の各号に掲げる職員をもって組織する。

- (1) 総合企画室長
- (2) 総合企画室事務主査
- (3) 総合企画室主務

（総合企画室長）

第5条 総合企画室長（以下「室長」という。）は、教授又は助教授の中から校長が任命する。

2 室長は、総合企画室の業務を掌理する。

（総合企画室事務主査）

第6条 総合企画室事務主査（以下「事務主査」という。）は、本校の事務系職員の中から校長が任命する。

2 事務主査は、総合企画室の業務に従事する。

（総合企画室主務）

第7条 総合企画室主務（以下「主務」という。）は、本校教職員の中から校長が任命する。

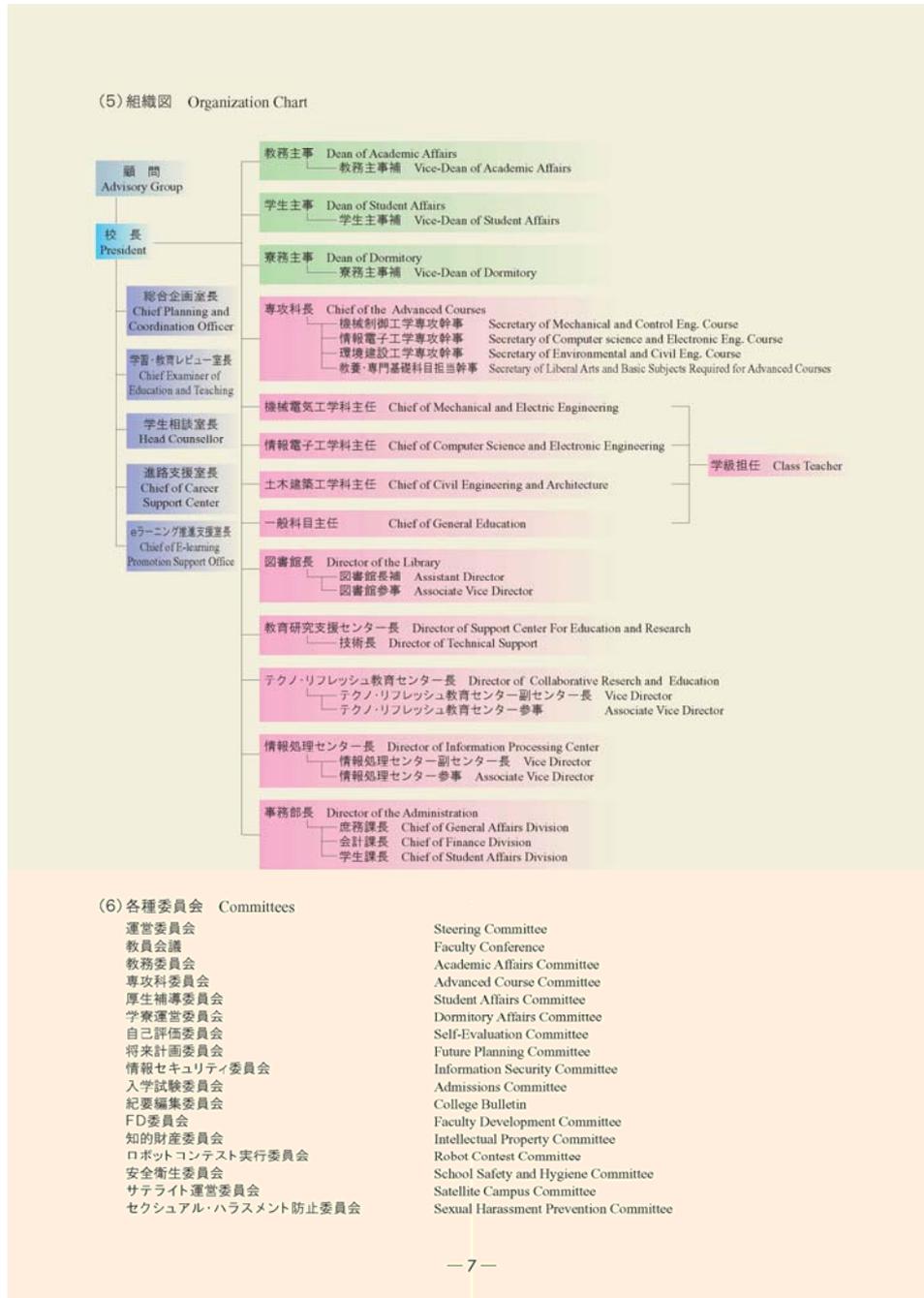
2 主務は、総合企画室の業務に従事する。

（雑則）

第8条 この規則に定めるもののほか、総合企画室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

出典：本校規則集

資料 11-1-①-4 組織図



出典：学校要覧

資料 11-1-①-5 徳山工業高等専門学校内部組織規則（抜粋）

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、徳山工業高等専門学校学則に基づき、徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織を定めることを目的とする。

(職及び任命)

第2条 本校に、学則第9条に定める教務主事、学生主事及び寮務主事のほか、次の職を置き、校長が任命する。

- (1) 専攻科長、専攻幹事及び教養・専門基礎科目担当幹事
- (2) 学科主任及び一般科目主任

- (3) 図書館長、図書館長補及び図書館参事
- (4) テクノ・リフレッシュ教育センター長、テクノ・リフレッシュ教育センター副センター長（以下「テクノ副センター長」という。）及びテクノ・リフレッシュ教育センター参事（以下「テクノセンター参事」という。）
- (5) 情報処理センター長、情報処理センター副センター長（以下「副センター長」という。）及び情報処理センター参事
- (6) 総合企画室長及び主務
- (7) 学習・教育レビュー室長及びエグゼクティブ
- (8) 学生相談室長及び相談員
- (9) 進路支援室長及びキャリアアドバイザー
- (10) eラーニング推進支援室長及びインストラクター
- (11) 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補
- (12) 学級担任  
(任期)

第3条 前条に定める職の任期は、第1号のうち専攻科長、第2号、第4号のうちテクノ・リフレッシュ教育センター長、第6号から第10号は2年、その他は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員補充者の任期は、前任者の残任期間とする。

## 第2章 専攻科長、専攻幹事及び教養・専門基礎科目担当幹事

### (資格)

第4条 専攻科長は、専攻科担当の教授をもって充てる。

2 専攻幹事は、専攻科担当の教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、専攻科特別研究担当の助手をもって充てることができる。

3 教養・専門基礎科目担当幹事は、専攻科教養・専門基礎科目担当の教授、助教授又は講師をもって充てる。

### (職務)

第5条 専攻科長は、専攻科の運営に関することを掌理する。

2 専攻幹事は、当分の間、研究、教務及び学生担当を分担し、各専攻1、2年生の指導教員を兼務する。

3 教養・専門基礎科目担当幹事は、教養科目及び専門基礎科目並びに放送大学等に関する連絡調整を行う。

## 第3章 学科主任及び一般科目主任

### (資格)

第6条 学科主任及び一般科目主任は、教授をもって充てる。

### (職務)

第7条 学科主任及び一般科目主任は、当該学科又は一般科目の運営、教務、及び学生指導等について、代表者として連絡調整に関することを行う。

## 第4章 図書館長、図書館長補及び図書館参事

### (資格)

第8条 図書館長は、教授又は助教授をもって充てる。

2 図書館長補は、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。

3 図書館参事は、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。

### (職務)

第9条 図書館長は、図書館の運営、図書を選定及び図書利用の指導等に関することを行う。

2 図書館長補は、図書館長の職務を補佐する。

3 図書館参事は、図書館の運営に関する事項を審議する。

## 第5章 テクノ・リフレッシュ教育センター長、テクノ副センター長及びテクノセンター参事

### (資格)

第10条 テクノ・リフレッシュ教育センター長は、教授又は助教授をもって充てる。

2 テクノ副センター長は、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。

3 テクノセンター参事は、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。

### (職務)

第11条 テクノ・リフレッシュ教育センター長は、テクノ・リフレッシュ教育センターの運営に関することを行う。

2 テクノ副センター長は、テクノ・リフレッシュ教育センター長の職務を補佐する。

3 テクノセンター参事は、テクノ・リフレッシュ教育センターの業務を遂行する。

## 第6章 情報処理センター長、副センター長及び情報処理センター参事

### (資格)

第12条 情報処理センター長は、教授又は助教授をもって充てる。

- 2 副センター長は、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。
  - 3 情報処理センター参事は、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。
- (職務)

第13条 情報処理センター長は、情報処理センターの管理運営、情報処理教育の充実及び利用計画等に関することを行う。

- 2 副センター長は、情報処理センター長の職務を補佐する。
- 3 情報処理センター参事は、センターの業務を行う。

#### 第7章 総合企画室長及び主務

(資格)

第14条 総合企画室長は、教授又は助教授をもって充てる。

- 2 主務は、教員並びに事務職員及び技術職員をもって充てる。

(職務)

第15条 総合企画室長は、総合企画室の業務を掌理する。

- 2 主務は、総合企画室の業務を行う。

#### 第8章 学習・教育レビュー室長及びエグザミネー

(資格)

第16条 学習・教育レビュー室長は、教授又は助教授をもって充てる。

- 2 エグザミネーは、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。

(職務)

第17条 学習・教育レビュー室長は、学習・教育レビュー室の業務を掌理する。

- 2 エグザミネーは、学習・教育レビュー室の業務に従事する。

#### 第9章 学生相談室長及び相談員

(資格)

第18条 学生相談室長は、教授又は助教授をもって充てる。

- 2 相談員は、原則として教授、助教授又は講師をもって充てる。

(職務)

第19条 学生相談室長は、相談室の業務を掌理する。

- 2 相談員は、相談室の業務に従事する。

#### 第10章 進路支援室長及びキャリアアドバイザー

(資格)

第20条 進路支援室長は、教授又は助教授をもって充てる。

- 2 キャリアアドバイザーは、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。

(職務)

第21条 進路支援室長は、進路支援室の業務を掌理する。

- 2 キャリアアドバイザーは、進路支援室の業務に従事する。

#### 第11章 eラーニング推進支援室長及びインストラクター

(資格)

第22条 eラーニング推進支援室長は、教授又は助教授をもって充てる。

- 2 インストラクターは、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、助手をもって充てることができる。

(職務)

第23条 eラーニング推進支援室長は、eラーニング推進支援室の業務を掌理する。

- 2 インストラクターは、eラーニング推進支援室の業務に従事する。

#### 第12章 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補

(資格)

第24条 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補は、教授、助教授又は講師をもって充てる。ただし、学生主事補及び寮務主事補は、助手をもって充てることことができる。

(職務)

第25条 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補は、それぞれの主事の職務を補佐する。

#### 第13章 学級担任

(資格)

第26条 学級担任は、教授、助教授又は講師をもって充てる。

(職務)

第27条 学級担任は、当該学級の運営、学生指導及び特別教育活動等に関するを行う。

第14章 会議及び委員会

(設置)

第28条 本校に次の会議及び委員会を置く。

- (1) 運営委員会
- (2) 教員会議
- (3) 教務委員会
- (4) 専攻科委員会
- (5) 入学試験委員会
- (6) 厚生補導委員会
- (7) 学寮運営委員会
- (8) 自己評価委員会
- (9) 将来計画委員会
- (10) FD委員会
- (11) 知的財産委員会
- (12) 情報セキュリティ委員会
- (13) 情報公開委員会
- (14) 安全衛生委員会
- (15) セクシュアル・ハラスメント防止委員会
- (16) 紀要編集委員会
- (17) その他校長が必要と認める会議及び委員会

2 前項各号に定める会議及び委員会に関することは、別に定める。

出典：本校規則集

## 資料 11-1-①-6 学内の情報共有システム (TCT-info.) イメージ

階層順表示 (件名を押せば、対象イベントが閲覧できます) [教職員トップページに戻る](#)

- ■ ルートフォルダ
  - ■ 評価関係資料
  - ■ 広報
  - ■ TCT 情報共有システム
    - ■ お知らせ
    - ■ 報告
    - ■ 地域貢献活動
    - ■ 研究活動関係
    - ■ 学内規則の制定、改廃等
    - ■ 人事異動等の記録
    - ■ 中期計画
    - ■ 法人評価関係
  - ■ 協定関係
  - ■ 一時保管
  - ■ 情報処理センター (部署別の利用例)
  - ■ 校長
  - ■ 一般科目
  - ■ 機械電気工学科
  - ■ 情報電子工学科
  - ■ 土木建築工学科
  - ■ 事務部長
  - ■ 庶務課
  - ■ 会計課
  - ■ 学生課
  - ■ 教育研究支援センター
  - ■ テクノ・リフレッシュ教育センター
  - ■ 学習・教育レビュー室
  - ■ 進路支援室
  - ■ 学寮関係

学内情報共有システム 情報閲覧ページ (Ver0.2 RC1)  
 (Directed by [総合企画室](#), System provided by [情報処理センター](#))

出典：本校ウェブサイト (学内限定)

## (分析結果と根拠理由)

本校の最高責任者である校長の責務は多岐にわたるため、3主事、専攻科長、総合企画室長等が配置され、各種委員会等の組織も整備されている。校長は校務全体を把握するための運営委員会を定期的で開催し、校長の運営方針等が具体的施策に反映できるよう意見の聴取及び情報の共有が行われ、学校の目的を達成するために効果的な意思決定を行える態勢となっている。

以上のことから本校の目的を達成するために校長、各主事及び委員会の役割が明確になっており効果的な意思決定がなされている。

**観点 11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。**

（観点にかかる状況） 本校では、校長が「運営委員会」で管理運営に関する重要事項について意見を聴きながら最終決定しているが、その他管理運営に関する委員会として「自己評価委員会」、  
「将来計画委員会」等各種委員会を設けて、それぞれの専門的分野について検討し、計画・実施している。各委員会には事務部から事務部長又は担当課長が委員として出席し、委員会の決定事項を所掌事務担当係に周知している。

また、委員会とは別に組織された「総合企画室」は、教員5名及び職員2名の計7名で構成し、教育・研究及び事務を全校的観点から検討することとしており、校長と総合企画室メンバーで打ち合わせを行う「コアタイム」（毎週木曜日）と、総合企画室メンバーで検討を行う「ミーティング」（毎週水曜日）を開催し、必要に応じその検討結果等をさらに所掌する各委員会等で専門的に検討することとしている。

なお、校長と3主事、専攻科長、テクノ・リフレッシュ教育センター長、総合企画室長、事務部長及び各課長で構成する「主事連絡会」（毎週金曜日）を開催し、運営方針の周知や情報の共有を図っている。

事務組織については、庶務課、会計課、学生課の3課を設置し、事務系職員45名が教員と緊密な連携・協力体制をとりつつ、全校一体となって運営しており、事務組織の職務内容及び事務分掌は「徳山工業高等専門学校事務組織規則」（資料11-1-②-1）及び「徳山工業高等専門学校事務分掌内規」（資料11-1-②-2）に明記されている。

技術系職員については、平成9年度に「教育研究支援センター」を設置し、機械工作部門、計測制御部門、ネットワーク部門の3部門に分かれ、その職務及び所掌事務は「徳山工業高等専門学校における技術職員の組織に関する規則」（資料11-1-②-3）に規定され、それぞれ教員と協力しながら学生の指導にあたるほか、自主的な研究活動も行うなどその成果を取りまとめた「教育研究支援センター報告書」（資料：別冊訪問調査時に提示）を毎年刊行している。

また、高専の第3の活動である「地域貢献」を充実させるため、庶務課に地域連携推進係を設置し、地域との連携窓口を統合するとともに教育・研究に対する情報発信の一元化を図った。

平成18年度には人事、給与及び共済業務を一係内に統合し、業務の効率化を図るとともに所掌事務の見直しを行い、活性化のための組織の再編成などを検討している。

資料11-1-②-1 徳山工業高等専門学校事務組織規則（抜粋）

全部改正 昭和52年4月1日  
最終改正 平成18年4月1日

（目的）

第1条 この規則は、徳山工業高等専門学校学則第10条に定める徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）事務部の事務組織を定めることを目的とする。

（組織）

第2条 本校に事務部を置き、庶務課、会計課及び学生課を置く。

第3条 庶務課に次の係を置く。

- (1) 庶務係
- (2) 人事係
- (3) 総合企画室事務係
- (4) 地域連携推進係
- (5) 図書係

2 会計課に次の係を置く。

- (1) 総務係
  - (2) 出納係
  - (3) 用度係
  - (4) 施設係
- 3 学生課に専門員並びに次の係及び専門職員を置く。
- (1) 教務係
  - (2) 学生係
  - (3) 専門職員（寮務・留学生担当）  
（事務部長及び課長）
- 第4条 事務部に事務部長を，課に課長を置く。
- 2 事務部長及び課長は，事務職員をもって充てる。  
（専門員）
- 第5条 課に専門員を置くことができる。
- 2 専門員は，事務職員をもって充てる。  
（技術専門員）
- 第6条 学生課に技術専門員を置くことができる。
- 2 技術専門員は，技術職員をもって充てる。  
（専門職員）
- 第7条 課に専門職員を置くことができる。
- 2 専門職員は，事務職員をもって充てる。  
（技術専門職員）
- 第8条 学生課に技術専門職員を置く。
- 2 技術専門職員は，技術職員をもって充てる。  
（係長）
- 第9条 各係に係長を置く。
- 2 係長は，事務職員又は技術職員をもって充てる。  
（主任）
- 第10条 課及び係に主任を置くことができる。
- 2 主任は，事務職員又は技術職員をもって充てる。  
（職務）
- 第11条 事務部長は，校長の命を受け，事務部の事務を処理する。
- 2 課長は，上司の命を受け，課の事務を処理する。
- 3 専門員は，上司の命を受け，課の所掌事務のうち高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を直接処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。
- 4 技術専門員は，上司の命を受け，極めて高度な専門的技術を必要とする技術に関する職務を処理する。
- 5 専門職員は，上司の命を受け，専門的知識若しくは経験を必要とする特定又は一定範囲の分野の事務を直接処理する。
- 6 技術専門職員は，上司の命を受け，高度な専門的技術を必要とする技術に関する職務を処理する。
- 7 係長は，上司の命を受け，系の事務を処理する。
- 8 主任は，上司の命を受け，課又は系の事務を処理する。  
（雑則）
- 第12条 各課における所掌事務並びに技術専門員，技術専門職員及び学生課に所属する技術職員の組織及び業務については，別に定める。

出典：本校規則集

資料 11-1-②-2 徳山工業高等専門学校事務分掌内規（抜粋）

徳山工業高等専門学校事務分掌内規

制 定 平成18年6月16日

第1条 徳山工業高等専門学校事務組織規則第12条に基づく各課における所掌事務 については，この内規の定めるところによる。

第2条 庶務課庶務係においては次の事務をつかさどる。

- (1) 本校の事務に関し，総括及び連絡調整すること。
- (2) 機密に関すること。
- (3) 儀式，会議，その他諸行事に関すること。
- (4) 学則その他諸規則の制定及び改廃に関すること。

- (5) 法人文書等の接受、発送及び整理保存に関すること。
- (6) 公印の管守に関すること。（会計機関の公印に関するものを除く。）
- (7) 宿日直の委託業務に関すること。ただし、学寮に関するものを除く。
- (8) 教職員の出張及び休暇等に関すること。
- (9) 情報公開に関すること。
- (10) 本校及び庶務に関する調査、統計その他諸報告に関すること。
- (11) その他、他の課、係の所掌に属しない事務を処理すること。

第3条 庶務課人事係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教職員の人事、給与、勤務評定及び服務に関すること。
- (2) 教員資格審査に関すること。
- (3) 教職員の労働時間に関すること。（休暇に関するものを除く。）
- (4) 教職員の安全保持、健康管理及び校内環境の整備に関する専門的事項に関すること。
- (5) 教職員の福利厚生及びレクリエーションに関すること。
- (6) 共済組合及び退職手当に関すること。
- (7) 栄典及び表彰に関すること。
- (8) 教職員の研修に関すること。
- (9) 人事記録の作成及び保管に関すること。
- (10) 労働組合に関すること。
- (11) 人事に係る調査、統計その他諸報告に関すること。
- (12) 教職員の身分に係る証明に関すること。
- (13) その他、人事に関すること。

第4条 庶務課総合企画室事務係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 中・長期計画に関すること。
- (2) 総合企画室の事務に関すること。
- (3) 広報に関すること。
- (4) 評価に関する連絡調整に関すること。
- (5) 個人情報保護に関すること。
- (6) 事務用電子計算機に関する連絡調整に関すること。
- (7) 事務の情報処理に係る啓蒙及び研修に関すること。

第5条 庶務課地域連携推進係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 地域社会との交流及び連携に関すること。
- (2) 科学研究費補助金等の申請及び報告に関すること。
- (3) 受託研究及び共同研究に関すること。
- (4) 学内競争的資金に関すること。
- (5) 研究協力に関すること。
- (6) サテライトオフィスに関すること。
- (7) 知的財産に関すること。
- (8) 研究集会及び講習会等に関すること。
- (9) テクノ・リフレッシュ教育センターの運営に関すること。
- (10) 生涯学習に関すること。
- (11) 地域連携及び外部資金に関する調査、統計その他諸報告に関すること。

第6条 庶務課図書係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館資料の受入れ並びに整理及び保存等に関すること。
- (2) 図書館資料の閲覧、貸出等利用に関すること。
- (3) 文献の交換及び複写に関すること。
- (4) 図書の検索指導及び読書相談等に関すること。
- (5) 紀要の編集及び発行に関すること。
- (6) 寄贈図書に関すること。
- (7) 図書に係る調査、統計及び諸報告に関すること。
- (8) その他、図書館に関すること。

第7条 会計課総務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 会計課の事務に関し、総括及び連絡調整すること。
- (2) 予算及び決算に関すること。
- (3) 会計の監査に関すること。
- (4) 会計機関の公印の管守に関すること。
- (5) 会計に関する諸規則及び内規に関すること。
- (6) 資産の使用及び貸付に関すること。
- (7) 教職員宿舎に関すること。
- (8) 会計に関する調査、統計及び諸報告に関すること。

(9) その他、会計事務で他の係の所掌に属しないこと。

第8条 会計課出納係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 収入、支出に関すること。
- (2) 給与、旅費及び謝金等の支払に関すること。
- (3) 債権の管理に関すること。
- (4) 科学研究費等外部資金及び寄付金の経理に関すること。
- (5) 共済組合の支払に関すること。
- (6) その他出納に関すること。

第9条 会計課用度係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 固定資産（備品）の管理等に関すること。
- (2) 物品の購入契約、役務契約に関すること。
- (3) 物品の取得、供用、貸付及び処分に関すること。
- (4) 物品の寄附受、管理換及び譲渡に関すること。
- (5) 電話、ガス、電気及び給排水等の支出契約に関すること。
- (6) 科学研究費等にかかる物品の購入契約及び物品管理に関すること。
- (7) 自動車の整備運行に関すること。
- (8) 用度に係る調査、統計及び諸報告に関すること。
- (9) その他、用度に関すること。

第10条 会計課施設係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 施設整備に関し、総括及び連絡調整すること。
- (2) 固定資産の管理及び処分に関すること。
- (3) 施設及び環境の整備並びに計画に関すること。
- (4) 営繕に関すること。
- (5) 土地、建物等の寄付及び借入れに関すること。
- (6) 防火、その他災害対策に関すること。
- (7) 施設に係る調査、統計及び諸報告に関すること。

第11条 学生課専門員（就職支援担当）は、次の事務をつかさどる。

- (1) 進路支援室に関すること。
- (2) 専攻科の入学者の選抜及び教務に関すること。
- (3) その他、学務に係る所掌事務のうち、重要な調査、企画及び連絡調整に関すること。

第12条 学生課教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生課の事務に関し、総括及び連絡調整すること。
- (2) 入学者の選抜に関すること。
- (3) 教育課程の編成及び授業並びに評価に関する企画・立案に関すること。
- (4) 学生の入学試験改善のための基本方針の企画・立案に関すること。
- (5) 学生の修学に関すること。
- (6) 年間の授業計画及び年間行事計画に関すること。
- (7) 学生の学籍に関すること。
- (8) 学生の身分証明書、成績証明書及び卒業証書等に関すること。
- (9) 学生の教科書、教具及び教材に関すること。
- (10) 学生の校外実習及び工場見学に関すること。
- (11) 学生便覧等刊行物に関すること。
- (12) 教務に係る調査、統計及び諸報告に関すること。
- (13) 研究生、科目等履修生及び聴講生に関すること。
- (14) その他、学生関係事務で他の係の所掌に属しないこと。

第13条 学生課学生係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外教育及び厚生事業に関すること。
- (2) 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
- (3) 学生の集会、掲示及び印刷物等に関すること。
- (4) 入学料、授業料の減免、猶予及び奨学金に関すること。
- (5) 学生の表彰及び懲戒に関すること。
- (6) 課外活動施設及び厚生施設の管理に関すること。
- (7) 日本スポーツ振興センターに関すること。
- (8) 学生の旅客運賃割引証に関すること。
- (9) 学生の保健衛生及び相談に関すること。
- (10) 学生に係る調査、統計及び諸報告に関すること。
- (11) その他、学生の厚生補導に関すること。

第14条 学生課専門職員（寮務・留学生担当）は、次の事務をつかさどる。

- (1) 外国人留学生の受け入れに関すること。

- (2) 学寮の管理運営に関すること。
- (3) 学生の入退寮に関すること。
- (4) 寮生の寮生活に関すること。
- (5) 寮費等の経理に関すること。
- (6) 寮生の保健衛生に関すること。
- (7) 学寮の委託業務に関すること。
- (8) 学寮宿日直に関すること。
- (9) 学寮の防災警備に関すること。
- (10) 寮生の郵便物接受及び配布に関すること。
- (11) 学寮及び留学生に係る調査、統計及び諸報告に関すること。
- (12) その他、寮務・留学生に関すること。

出典：本校規則集

### 資料 11-1-②-3 徳山工業高等専門学校における技術職員の組織に関する規則（抜粋）

#### 徳山工業高等専門学校における技術職員の組織に関する規則

##### （目的）

第1条 この規則は、徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における技術専門員、技術専門職員及び技術職員（以下「技術職員等」という。）の技術に関する専門的業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その能力、資質等の向上を図り、優れた人材を確保するため、技術職員等の組織に関し必要な事項を定めることを目的とする。

##### （センター等）

第2条 前条の目的を達成するため、本校に「教育研究支援センター」（以下「センター」という。）を設置する。

2 センターは、第一技術室（機械工作部門）、第二技術室（計測制御部門）及び第三技術室（ネットワーク部門）の3室で構成する。

3 センターにおいては、技術職員等の勤務部署との連絡を緊密に図り、技術職員等の研修、実験・実習室及び工場の設備及び備品の維持管理並びに地域社会との連携及び技術協力を行うとともに、各室においては、次表に掲げる業務を行う。

区 分	業 務 内 容
第一技術室 (機械工作部門)	機械工作・設計技術及びメカトロニクスに関する業務
第二技術室 (計測制御部門)	土木計測技術及び情報制御技術に関する業務
第三技術室 (ネットワーク部門)	ネットワーク運用技術及びネットワーク設計に関する業務

##### （センター長）

第3条 センターにセンター長を置き、テクノ・リフレッシュ教育センター長をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を統括する。

##### （技術長等）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置き、本校の技術職員等の中から校長が任命する。

- (1) 技術長
- (2) 技術室長
- (3) 技術室員

2 技術長は、センター長を補佐し、各技術室の業務を統括するとともに技術室長及び技術室員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。

3 技術室長は、技術室の業務を整理するとともに技術室員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。

4 技術室員は、技術業務を行う。

##### （事務）

第5条 技術職員等の組織に関する事務は、学生課において処理する。

##### （雑則）

第6条 この規則に定めるもののほか、技術職員等の組織に関し必要な事項は、別に定める。

出典：本校規則集

(分析結果と根拠理由)

本校の目的を達成するために校長の管理・運営方針が的確に示され、各委員会等において諸課題の審議・検討がなされており、教学に係る各種委員会等と管理運営組織等との連携も円滑に行われている。

教員組織と事務組織が緊密な協力体制をとり、全教職員が連携協力してその業務を遂行しており、効果的な活動が行われている。

以上のことから管理運営に関する各種委員会及び教員組織と事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

### 観点 11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点にかかる状況) 学校の管理運営に関する諸規則については、「徳山工業高等専門学校学則」, 「顧問規則」, 「内部組織規則」, 「運営委員会規則」等のほか各種委員会規則等が整備されており、学内の事務部ウェブサイト(学内限定)(資料 11-1-③-1)で全教職員が閲覧することができる。

#### 資料 11-1-③-1 本校諸規則一覧

##### 第1章 学 則

1. 徳山工業高等専門学校学則 ([PDF](#))

##### 第2章 組織及び運営

1. 徳山工業高等専門学校顧問規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
2. 徳山工業高等専門学校内部組織規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
3. 徳山工業高等専門学校運営委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
4. 徳山工業高等専門学校教員会議規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
5. 徳山工業高等専門学校図書館規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
6. 徳山工業高等専門学校テクノ・リフレッシュ教育センター規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
7. 徳山工業高等専門学校情報処理センター規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
8. 徳山工業高等専門学校総合企画室規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
9. 徳山工業高等専門学校学習・教育レビュー室規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
10. 徳山工業高等専門学校学生相談室規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
11. 徳山工業高等専門学校進路支援室規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
12. 徳山工業高等専門学校eラーニング推進支援室規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
13. 徳山工業高等専門学校職員相談室規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
14. 徳山工業高等専門学校将来計画委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
15. 徳山工業高等専門学校自己評価委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
16. 徳山工業高等専門学校FD委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
17. 徳山工業高等専門学校教務委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
18. 徳山工業高等専門学校専攻科委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
19. 徳山工業高等専門学校入学試験委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
20. 徳山工業高等専門学校厚生補導委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
21. 徳山工業高等専門学校学寮運営委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
22. 徳山工業高等専門学校安全衛生委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
23. 徳山工業高等専門学校知的財産委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
24. 徳山工業高等専門学校情報公開委員会規程 ([一太郎](#))・([PDF](#))
25. 徳山工業高等専門学校事務情報化推進委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
26. 徳山工業高等専門学校事務情報化推進室設置要項 ([一太郎](#))・([PDF](#))
27. 徳山工業高等専門学校紀要編集委員会規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
28. 徳山工業高等専門学校における技術職員の組織に関する規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))
29. 徳山工業高等専門学校環境建設工学センター規則 ([一太郎](#))・([PDF](#))

出典：本校ウェブサイト(学内限定)

(分析結果と根拠理由) 相応である。

管理運営に関する諸規則は適切に整備され、全教職員に周知するための方策として事務部ウェブサイト(学内限定)が整備されている。

### 観点 11-2-①: 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点にかかる状況) 平成12年度に徳山工業高等専門学校顧問規則(資料11-2-①-1)を制定し、教育研究分野に精通した大学等教育研究機関の教員、産業界の動向に精通した者、地域関係者で教育に識見を有する者等で組織する「顧問会議」を開催して外部有識者の意見等を学校の管理運営に反映させている。

顧問会議は、年1,2回定例的に開催され、当該年度ごとにテーマを掲げ、本校の目的を達成するための指導・助言を求めている。その意見等に基づき、「運営委員会」をはじめとする各種委員会等で検討され、改善を図っている。

近年では、「国立高等専門学校機構の中期目標、中期計画及び本校の中期計画について」と「高等専門学校機関別認証評価(試行的評価)の受審について」(資料11-2-①-2)及び「地元企業との交流」(資料11-2-①-3)をテーマに本校の地域連携活動について指導と助言を求めた。

一例として、顧問会議からの意見(資料11-2-①-4)を受けて「公開授業」(資料9-1-④-5)を本格実施し、平成14年度に4回、15年度に8回、16年度及び17年度には16回実施し、公開授業終了後に担当教員、レビュー教員、教育モニター(外部者)(資料2-2-①-9)を交えてのレビュー会を行い、公開授業終了後1週間以内に、授業の在り方や改善方法等を提案している。

#### 資料11-2-①-1 徳山工業高等専門学校顧問規則(抜粋)

(設置)

第1条 本校に、徳山工業高等専門学校学則第1条の2第4項の規定に基づき、自己点検・評価の結果について検証を行うため、顧問を置く。

(任務)

第2条 顧問は、校長の諮問に応じ、本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価の結果について意見を述べ、検証を行う。

(委嘱)

第3条 顧問は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱する。

- (1) 教育研究分野に精通した大学、高等専門学校等教育研究機関の教員等
- (2) 産業界の産業動向に精通した者
- (3) 本校の所在する地域の関係者で、教育に関し、広く、かつ、高い識見を有する者
- (4) その他高等専門学校に関し、広く、かつ、高い識見を有する者

2 顧問は、若干人とする。

3 顧問の任期は2年とし、再任を妨げない。

出典：本校規則集

#### 資料11-2-①-2 平成16年度第1回顧問会議日程表

日時 平成16年 5月19日(水) 14:00~16:30

場所 徳山工業高等専門学校 メディアホール

開 会 ・司 会：事務部長

議 事

- 14:00 学校紹介DVD上映

【資料1-1】 【資料1-2】

- 14:15 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標及び中期計画について 校長
- 14:25 徳山工業高等専門学校の中期計画（案）について 【資料2】 総合企画室長
- 14:50 J A B E E技術者教育プログラムの認定について 【資料3】 教務主事
- 14:55 高等専門学校機関別認証評価（試行的評価）の受審について 【資料4】 自己評価委員長
- 15:05 学習・教育レビュー室について 【資料5】 学習・教育レビュー室長
- 15:15 ~ 15:25 《休憩》 校長室
- 15:30 意見交換（パネルディスカッション）※顧問及び本校関係者の紹介 司会 総合企画室長
- 16:25 閉会挨拶 16:30 《終了》

出典：顧問会議資料

資料11-2-①-3 平成17年度第1回顧問会議日程表

日時 平成18年 3月 7日（火） 14:00~16:30

場所 徳山工業高等専門学校 メディアホール

出席顧問 小野 英輔 (株)サマンサジャパン代表取締役社長  
 柏原 伸二 柏原塗研工業(株)代表取締役社長  
 小泉 達也 (社)山口県技術交流協会会長  
 松 爲 宏幸 豊橋技術科学大学副学長  
 三池 孝道 (社)周南青年会議所直前理事長  
 村中 民義 徳山地区中学校長会代表 岐陽中学校長

開 会 司 会：総合企画室長

議 題 「地元企業との交流（企業との商品化）」

- 14:00 ・地元企業との交流について（テカ・リフレッシュ教育センター長） 土木建築工学科 教授 原 隆
- 14:15 ・足マウスの開発について 機械電気工学科 教授 門 脇 重道
- 14:30 ・お年寄り見守りシステムについて  
 ・席替えルーレット「どこどこ」について 情報電子工学科 教授 重安 邦之
- 14:55 ・竹チップを利用した舗装材の開発について 土木建築工学科 教授 藤原 東雄
- 15:10 ・マイクロバブルを用いた新たな取り組みについて 土木建築工学科 教授 大成 博文
- 15:25 ~ 15:40 《休憩》 校長室
- 15:40 意見交換（顧問及び本校関係者の紹介） 司 会：総合企画室長
- 16:25 閉会挨拶 校長 16:30 《終了》

出典：顧問会議資料

資料11-2-①-4 平成16年度 第1回顧問会議議事概要（抜粋）

日時 平成16年 5月19日（水） 14:00~16:30

場所 徳山工業高等専門学校メディアホール

出席者 有馬 弘 徳山地区中学校長会、富田中学校長  
 伊藤 俊昭 山口県商工労働部長  
 小野 英輔 徳山高専テクノ・アカデミア会長  
 三池 孝道 (社)周南青年会議所理事長  
 三木 俊克 山口大学工学部長

【中期計画等について、顧問からの意見】（抜粋）

三池孝道氏

『世界に通用する実践力のある開発型技術者を目指す人材の育成』、この教育理念は何も言うことがない。具体的な評価の基準として、英語はわかりやすいが、その他のことは基準がよくわからない部分もある。巣立っていく学生さんの仕上がり具合を確認させて頂くためにも、実際の学生の状況（授業等）がみてみたい。

【評価に関して】

三池氏

J A B E Eは非常に良いので、このまま続けたらよい。学生アンケートの評価では、この年代の子供達は教員を好き嫌いで判断することもあるので、参考程度で捉えて良いと思う。

学習・教育レビュー室での公開授業等は、をもう少しPRされてはいかがか。

出典 平成16年度第1回顧問会議議事概要

(分析結果とその根拠理由)

平成12年から設けられた「顧問会議」を定期的に開催し、産官学各界から広く意見・要望等を求めるとともに、その提言については、「総合企画室」、「運営委員会」、「将来計画委員会」、「学習・教育レビュー室」等で実施方法及び改善策等を検討し、具体化を図っているなど、外部の意見が反映されている。

以上のことから外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されている。

**観点 11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。**

(観点にかかる状況) 教育及び研究等に関する評価については、顧問会議、JABEEによる第三者評価や教員個々による年間職務の自己評価、自己評価委員会が行う自己点検・評価、教員及び学生による授業評価、公開授業等を実施している。特に、平成12年度から教員全員に対して行っている「年間職務の自己評価」で教育・研究・地域貢献に対する自己評価として、①学生による授業評価②教育活動③校務④クラブ活動指導⑤研究活動⑥地域貢献⑦外部資金導入の7項目について自ら評価を行っている。これらの評価結果については、自己評価委員会等が取りまとめ、各種報告書として公表するとともに、ウェブサイト上でもグラフにして公開するなど、各教員の自己研鑽を促し、本校の教育・研究水準の向上を図っている。

この年間職務の自己評価については、「自己評価委員会」が過去5年間について分析し、「年間職務の自己評価 5年間を振り返って」として取り纏めた報告を行い、ウェブサイトでも公開している(資料9-1-⑤-2)。

平成15年度には日本技術者教育認定機構(JABEE)から、JABEE技術者教育プログラムとして認定(認定プログラム名:「設計情報工学」、認定分野:「工学(融合複合・新領域関連分野)」)されている。

平成16年度には大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別評価(試行)を受審し、その評価結果は、大学評価・学位授与機構のウェブサイトで公開されている。

([http://www.niad.ac.jp/sub\\_hyouka/ninsyou/hyoukahou/houkoku.pdf](http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou/houkoku.pdf))

また、「総合企画室」では、本校の総合的な活動状況の点検・評価として本校が定めた中期計画の達成状況について毎年度の達成状況を検証し、今後の活動について継続的に審議・検討を行っている。

(学内限定:訪問調査時に提示)

(分析結果とその根拠理由)

本校の総合的な状況に関する自己点検評価として、本校が定めた中期計画に基づく年度計画を策定し、その達成状況について年度毎に確認と検証を行っている。またその結果等はウェブサイトでも公表している。この他、学生による授業評価、公開授業等を精力的に実施しており、特に教員の「年間職務の自己評価」については、教育及び研究、地域貢献等学校全体の取り組み及び活動の成果に対して、評価項目を設定して自己評価を行い、その結果等についても広く公表されるとともに

過去5年間の検証・評価が行われている。

また、大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別評価（試行）や JABEE プログラムに認定されるなど、本校の目的を達成するために外部機関による評価を積極的に受審し、総合的な評価が行われている。

以上のことから本校の教育研究活動については、総合的な評価が適切に行われ、かつ、その評価結果は公表されている。

### 観点 11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されているか。

（観点にかかる状況） 本校の中期計画において、社会への説明責任に関する目標（資料 11-3-②-1）及び社会への説明責任に関する目標を達成するためにとるべき措置（資料 11-3-②-2）を定めており、顧問会議における意見や助言については、「総合企画室」で取り纏め、「運営委員会」で報告するとともにその改善事項により「学習・教育レビュー室」、「教務委員会」、「専攻科委員会」、「自己評価委員会」、「将来計画委員会」及び「FD委員会」等において検討し、実施を図っている。

教育・研究に関する評価結果に基づく具体的な改善システムについては、顧問会議からの意見（資料 11-2-①-4）を受けて「公開授業」（資料 9-1-④-5）を本格実施し、平成14年度に4回、15年度に8回、16年度及び17年度には16回実施し、公開授業終了後に担当教員、レビュー教員、教育モニター（外部者）（資料 2-2-①-9）を交えてのレビュー会を行い、公開授業終了後1週間以内に、授業の在り方や改善方法等を提案している。

「自己評価委員会」の活動状況については、学内の情報共有システム（TCT-info.）で議事録を公開しており、平成17年度には過去5年間の総括を行っている。その結果として前年度の業務の見直しとともに、必然的に翌年度の新たな目標設定の機会が生まれ、各教員が職務全般に対する問題意識を持つようになり、学校教育研究活動の活性化が図られ改善されている。

また、中期計画の達成状況については、「総合企画室」において項目ごとに達成状況を調査し、その内容は毎年ウェブサイトに掲載することにより学内に周知されているが、更なる改善に向けて検討を行っている。

大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別評価（試行）で指摘のあった準学士課程と専攻科課程の学習・教育目標については、「FD委員会」で審議し、明確に定めている（資料 11-3-②-3）。

#### 資料 11-3-②-1 社会への説明責任に関する目標（抜粋）

##### 2. 目標

###### ○ 社会への説明責任に関する目標

ホームページの充実、情報公開内容の検討と可能な限りの開示の徹底、授業や卒業研究の成果の公開、シラバスの内容、授業評価の内容などの公開、教員の研究成果などの開示を通して、社会に対する説明責任能力を高める。

出典：中期計画

## 資料 11-3-②-2 社会への説明責任に関する目標を達成するためにとるべき措置（抜粋）

## 6. 社会への説明責任に関する目標を達成するためにとるべき措置

## (1) 評価の充実に関する目標を達成するための措置

## ○ 自己点検・評価や第三者評価の方法・内容に関する改善方策

- 1) 自己点検・評価機能を改善するために、自己評価委員会の活動をより活発化する。
- 2) 自己評価及び授業評価の結果を公開する。
- 3) 継続的な教育改善のための評価を学習・教育レビュー室が実施する。
- 4) 顧問会議の充実を図る。
- 5) JABEE 認定を受審する。

## ○ 評価結果を高専運営の改善に活用するための具体的方策

顧問会議、JABEE による外部評価及び自己評価（年間職務の自己評価、授業評価等）の結果を総合企画室が収集・分析し、高専運営を改善するために、各種委員会に改善策立案を依頼し、実施を図る。

## (2) 情報公開等の推進に関する目標を達成するための措置

## ○ 情報公開体制の在り方に関する具体的方策

- 1) 総合企画室を中心に、情報公開項目を精査し、その公開機能の充実を図る。
- 2) 必要な情報をホームページで公開するとともに、ホームページの充実を図る。
- 3) 周南市街に設置のサテライト「高専夢広場」における高専の PR 及び情報発信を図る。

出典：中期計画

## 資料 11-3-②-3 FD委員会議事概要

日 時 平成18年5月8日（月）17:05～17:40

場 所 2階会議室

## 議事

## 1. 準学士課程及び学士課程における到達目標について

別紙資料（案）により、審議の結果一部修正を行い次回運営委員会で審議・決定することとした。なお、準学士課程の表現について一部疑義がでたため、修正案を各委員へメールで照会することとした。

出典：FD委員会議事概要

## (分析結果と根拠理由)

評価結果に基づき、「総合企画室」、「学習・教育レビュー室」、「各種委員会」等によって改善が図れるよう、システムが整備され、継続的に改善が行われている。

大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別評価（試行）で指摘のあった改善項目は、「FD委員会」で審議し、改善している。

「自己評価委員会」の活動状況についても過去5年間の総括を行うなど積極的に改善に取り組んでいる。

以上のことから本校の目的を達成するための改善システムは整備され、有効に運営されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

各主事、総合企画室、各種委員会等の管理運営体制及び事務組織が整備され、その役割も果たされている。また、外部有識者の意見が反映されるシステムも整っている。また、教育、研究に関する自己点検・評価も適切に実施し、これらの評価結果についてはウェブサイト等に公表している。

## (改善を要する点)

該当なし

### (3) 基準11の自己評価の概要

学校の目的を達成するため、校長が最高責任者としての意思決定を行っている。

そのための補佐体制として、教育計画、学生の厚生補導、学寮の厚生補導について3人の主事を置くとともに、専攻科長、各学科等主任、図書館長、テクノ・リフレッシュ教育センター長、情報処理センター長および事務部長を配置し、それぞれの組織における体制を整備している。

また、機動的な学校運営を行うために総合企画室を設置し、中長期的視野における情報収集・分析、経営方針等について企画・立案、調整を行い、教育・研究活動の経営基盤の強化を図っている。

校長は、重要案件については運営委員会の意見を参考に管理運営を行うとともに、目的に応じて各種委員会を設置し、諸規則を整備している。各種委員会の審議内容は、学内の情報共有システム（TCT-info.）を通じて情報の共有化ができるように整備され、教職員の意識統一を図っている。

事務組織も教員と緊密な連携・協力体制をとりつつ全校一体となった運営を行っており、また、地域連携推進係を新設し、地域との窓口を統一するなど、業務の見直しを積極的に行っている。

自己点検・評価として毎年度教員自身による「年間職務の自己評価」として実施し、平成17年度には「過去5年間の年間職務の自己評価」として取りまとめ、報告された。学外有識者による「顧問会議」を開催し、本校の管理運営について改善に取り組んでいる。「公開授業」はその取り組みの成果であり、学習・教育レビュー室において、授業のあり方や改善方法等を提案している。

本校が実施または受審した自己評価あるいは各種外部機関からの評価については、TCT-info.により学内に周知されているが、教育・研究に関しては、その改善事項により、総合企画室や学習・教育レビュー室など、当該委員会において検討し、実施に移している。

中期計画の達成状況については、総合企画室において項目ごとに達成状況を調査し、その内容を学内に周知し、さらなる改善に向けて検討を行っている。

## 選択的評価事項に係る目的

### (選択的評価事項 A 「研究活動の状況」に係る目的)

本校の中期計画では、徳山高専において取り組むべき研究領域は、「開発型研究、ものづくり型研究、地域密着型研究及びそれらの基盤となる研究」であり、研究活動の目的を次のとおり定めている。

1. 徳山高専に適した効果的な教育を実現し、特色のある創造教育を推進する。
2. 研究資金を確保し、地域社会に貢献する。

具体的には、以下の活動に結びつく研究を行う。

- ・地域密着型研究、開発型研究、ものづくり型研究で得られた最先端技術、社会的ニーズなどを授業に生かす。
- ・専攻科生の特別研究や本科の卒業研究に地域企業との共同研究を積極的に取り入れる。
- ・従来の専門分野での共同研究に加え、複合領域にまたがる地場企業のニーズを「テクノ・リフレッシュ教育センター」を通じて調査し、技術相談、共同研究に教員が共同で対応する。

(選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的)

1. 地域社会等との連携・協力、社会サービス等の推進

「テクノ・リフレッシュ教育センター」，「徳山高専テクノ・アカデミア」（地元企業の本校への支援組織）が協力して地域に根ざした高専づくりを行い，月例の講演会，シンポジウム，産業技術フォーラムin山口，各種人材養成講座，公開講座などを発展させる。

また，小中学生を対象とした「夏休み小学生工作体験教室」，中学生を対象とした「大学等地域開放特別事業」のほか，小学生から一般社会人を対象とした公開講座をさらに充実発展させる。

さらに，地方公共団体，周辺大学等と連携し実施している周南サテライトカレッジ，周南オープンカレッジについても今後継続し発展させるとともに，山口県をはじめとした地元自治体，山口県産業技術センター及び周南地域地場産業振興センター，徳山大学等との連携を強化する。

2. インターンシップの推進など教育に関する産学連携の推進

「徳山高専テクノ・アカデミア」参加企業との産学連携を軸とした教育研究をすでに実施しており，今後更に産学連携の強化を図る。

徳山大学，長岡技術科学大学，豊橋技術科学大学との連携を強化する。

3. 広報の充実

「総合企画室」でタイムリーな広報物の企画・発行を行う。同時に，すべての広報物の目的，対象，効果を調査・検討し，その見直しと統一的管理を行う。その際，電子媒体と冊子の使い分け，重ね合わせを行うことにより広報物の改善と広報効果の効率化を図る。また，2002年度に「Live & Active」と銘打って全面改訂を行ったウェブサイトおよび周南市街地に開いた徳山高専サテライト「徳山高専夢広場」を活用して，学外の意見を収集するとともに，教育，研究，文化活動に関するリアルタイムな情報発信を行う。

## 選択的評価事項A「研究活動の状況」

### (1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

中期計画で定めた「開発型研究，地域密着型研究及びそれらの基盤となる研究に積極的に取り組む」ことを実現するため、以下の体制を整備してきた。

- ・テクノ・リフレッシュ教育センター（資料A-1-①-1， 1-①-2）
- ・テクノ・アカデミア（資料A-1-①-3， 1-①-4）
- ・地域連携推進係（資料A-1-①-5）
- ・知的財産委員会（資料A-1-①-6， 1-①-7）

#### 資料A-1-①-1 徳山工業高等専門学校テクノ・リフレッシュ教育センター規則（抜粋）

(目的)

第1条 徳山工業高等専門学校テクノ・リフレッシュ教育センター（以下「テクノセンター」という。）は、リフレッシュ教育等を中心とする人材育成事業及び学内外の共同研究等を推進することにより、徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究の充実発展に寄与し、併せて地域社会に貢献することを目的とする。

(業務)

第2条 テクノセンターは、前条の目的達成のため次の業務を行う。

- (1) 地域における民間団体等との協力，交流事業に関すること。
- (2) 生涯学習並びにリフレッシュ教育を通じて、地域における人材育成事業の推進に関すること。
- (3) 学内外の共同研究を充実発展させ、教育研究及び地場産業の発展に寄与すること。
- (4) 高専・大学等の諸機関と情報交換，連絡協議に努め、そのネットワーク化に関すること。
- (5) 徳山高専事業の推進に関すること。
- (6) その他テクノセンターの目的を達成するために必要な業務。

(組織)

第3条 テクノセンターに、次の各号に掲げる者を置く。

- (1) テクノセンター長
  - (2) テクノセンター副センター長（2名）
  - (3) テクノセンター参事（各学科（一般科目を含む）から2名）
- 2 前項に掲げる者の任命及び任期は、次の各号のとおりとする。
- (1) 前項第1号に掲げる者は、校長が任命する。
  - (2) 前項第2号及び第3号に掲げる者は、テクノセンター長の推薦に基づき校長が任命する。
  - (3) 前項第1号に掲げる者の任期は2年、同項第2号及び第3号に掲げる者の任期は1年とし、再任を妨げない。補欠を生じ任命された者の任期は前任者の残任期間とする。
- 3 第1項に掲げる者の職務は、次の各号のとおりとする。
- (1) テクノセンター長は、テクノセンターの業務を掌理する。
  - (2) テクノセンター副センター長は、テクノセンター長の職務の補佐及びテクノセンター業務を整理する。
  - (3) テクノセンター参事は、テクノセンターの業務を遂行する。

(運営)

第4条 テクノセンターの運営を円滑に行うため、テクノセンター運営会議を置く。

- 2 テクノセンター運営会議は、前条第1項に掲げる者及び庶務課専門職員（企画調査担当）をもって構成する。
- 3 テクノセンター運営会議は、テクノセンター長が主宰する。ただし、テクノセンター長に事故あるときは、あらかじめ指名されたテクノセンター副センター長がその職務を代行する。
- 4 テクノセンター運営会議は、次に掲げる事項を審議する。なお、重要と認める事項については、運営委員会に報告し了承を得るものとする。
  - (1) テクノセンターに関する予算要求に関すること。
  - (2) テクノセンターに関する施設，設備の整備に関すること。
  - (3) テクノセンターの運営・事業計画に関すること。
  - (4) テクノセンターの活動・研究成果に関すること。
  - (5) 地域の企業，団体，機関等から要請された第2条各号に関すること。
  - (6) 徳山高専事業の企画・実施に関すること。
  - (7) その他テクノセンターの運営に関すること。

出典：本校規則集

資料A-1-①-2 テクノ・リフレッシュ教育センターの位置づけ



出典：本校ウェブサイト

<http://www.tokuyama.ac.jp/techweb/techcenter/index.htm>

資料A-1-①-3 徳山高専テクノ・アカデミア会則（抜粋）

（名称及び事務局）

第1条 本会は、徳山高専テクノ・アカデミアと称し、事務局を周南市川端町2丁目17番地サマンサジャパン株式会社内に置く。

2 徳山工業高等専門学校に、円滑な連絡事務を行うため、連絡所を置く。

（目的）

第2条 本会は、徳山高専と地域産業界等との交流を深めることにより、地域産業の発展に寄与するとともに、徳山高専の教育研究の振興を図ることを目的とする。

（事業）

第3条 本会は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 徳山高専と地域産業等との交流に関する事。
- (2) 技術研究開発及び技術者リフレッシュ教育等企業の育成支援事業に関する事。
- (3) 徳山高専の教育研究に振興に関する事。
- (4) その他、本会の目的を達成するため適当と認められる事業

（構成）

第4条 本会は、次の各号に掲げる会員で構成する。

- (1) 一般会員 本会の趣旨に賛同した企業で、役員会の承認を受けたもの
- (2) 特別会員 本会の趣旨に賛同した学識経験者、行政機関等の役職員で役員会の承認を受けたもの
- (3) 協賛会員 本会に賛同した企業、団体又は個人で役員会の承認を受けたもの

（役員）

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 2名
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 若干名

第6条 会長はこの会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

3 理事は、必要に応じて会務を分担する。

4 監事は、会務の監査にあたる。監事は他の役員を兼ねることができない。

（役員を選出及び任期）

第7条 役員は、総会において選出する。ただし、再任を妨げない。

2 役員任期は、2年とする。

（顧問）

第8条 本会に顧問若干名を置き、役員会の推薦を経て会長が委嘱する。

- 2 顧問は、必要に応じ、会の組織・運営状況について報告を受けるとともに会長の諮問に応じる。  
 3 顧問は、総会及び役員会に出席して意見を述べるができる。  
 (会議)

第9条 会議は、総会、役員会及び専門部会とする。

第10条 総会は、当該年度中に少なくとも1回開催するものとし、会長が招集する。

- 2 総会において審議する事項は、次のとおりとする。  
 (1) 事業計画並びに予算決算  
 (2) 役員を選出  
 (3) 会則の改正  
 (4) その他、本会運営上の重要事項

第11条 役員会は、必要に応じ会長が招集する。

- 2 役員会において審議する事項は、次のとおりとする。  
 (1) 本会の事業の企画運営及び総会に提出する議案  
 (2) その他、会務遂行上必要と認められる事項  
 (専門部会)

第12条 専門部会に部会長を置く。

- 2 専門部会は、第3条第1号及び第2号に掲げる事項に関する諸事業を行う。  
 (経費等)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって充てる。

- 2 会費は、1口10万円とし、一般会員は1口以上負担するものとする。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

出典：徳山高専テクノ・アカデミア会則

#### 資料A-1-①-4 テクノ・アカデミア会員一覧

○徳山高専テクノ・アカデミア一般会員

赤坂印刷株式会社

株式会社アステック入江 光支店

株式会社インフォコム西日本

柏原塗研工業株式会社

株式会社兼清電子

サマンサジャパン株式会社

新生商事株式会社

総合緑化株式会社

時盛建設株式会社

永岡鋼業株式会社

弘木工業株式会社

株式会社ミヤベ

○徳山高専特別会員

大島商船高等専門学校長

下松市経済部産業振興室長

(財)周南地域地場産業振興センター専務理事

前徳山高専会長

徳山商工会議所会頭

光商工会議所専務理事

(財)やまぐち産業振興財団産学公連携コーディネーター

山口県商工労働部新産業振興課長

井森工業株式会社

江村建設株式会社

勝井建設株式会社

鋼板工業株式会社

周南マリコム株式会社

新立電機株式会社

多機能フィルター株式会社

徳機株式会社

日立笠戸エンジニアリング株式会社

株式会社ブンシージャパン

洋林建設株式会社

宇部工業高等専門学校長

オフィス・エフ代表

下松商工会議所専務理事

新南陽商工会議所専務理事

周南市経済部商工観光課次長兼課長

光市経済部商工観光課長

元東洋鋼板株式会社専務取締役下松工場長

山口大学工学部長

○徳山高専テクノ・アカデミア協賛会員

株式会社西京銀行

株式会社日刊工業新聞社西部支社北九州支局

株式会社山口新聞社東山口支社

株式会社新周南新聞社

株式会社山口銀行徳山支店

山口放送株式会社

出典：徳山高専テクノ・アカデミア資料

#### 資料A-1-①-5 地域連携推進係設置に関する規則 (抜粋)

全部改正昭和52年4月1日

最終改正平成18年4月1日

(目的)

第1条 この規則は、徳山工業高等専門学校学則第10条に定める徳山工業高等専門学校（以下「本校」という）事務部の事務組織を定めることを目的とする。

(組織)

第2条 本校に事務部を置き、庶務課、会計課及び学生課を置く。

第3条 庶務課に次の係を置く。

- (1) 庶務係
- (2) 人事係
- (3) 総合企画室事務係
- (4) 地域連携推進係
- (5) 図書係

出典：本校規則集

#### 資料A-1-①-6 徳山工業高等専門学校知的財産委員会規則（抜粋）

(設置)

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、知的財産委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、本校の知的財産の取扱いに関する次の事項について審議する。

- (1) 知的財産の創出に関すること。
- (2) 知的財産としての発掘、評価に関すること。
- (3) 知的財産の帰属に関すること。
- (4) 知的財産の管理、活用に関すること。
- (5) 知的財産創出のための教育・普及活動に関すること。
- (6) その他知的財産に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

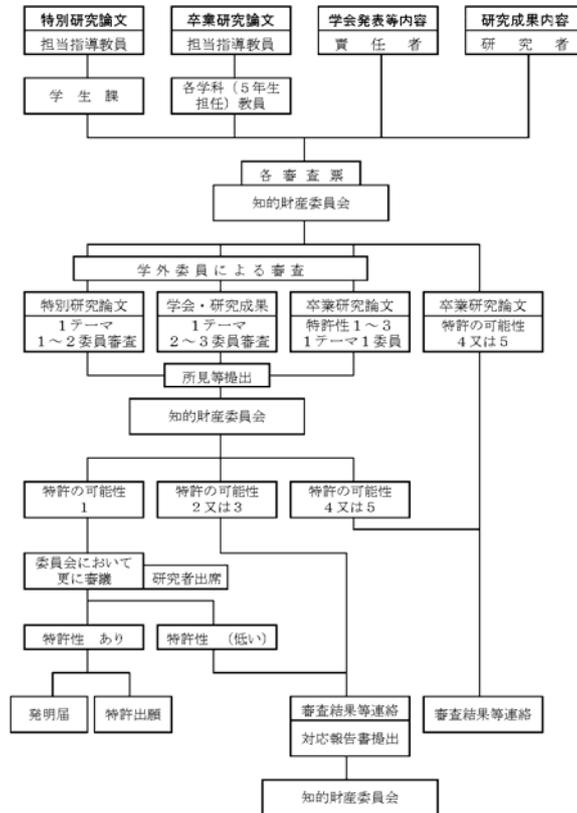
- (1) テクノ・リフレッシュ教育センター長
- (2) 教務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 総合企画室長
- (5) 校長が指名する本校の教員 若干人
- (6) 校長が委嘱する学外の知的財産に関する有識者
- (7) その他校長又は委員長が必要と認めた者

2 前項第5号から第7号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

出典：本校規則集

資料A-1-①-7 知的財産委員会フローチャート

知的財産委員会としての論文内容・学会発表等審査に係るフローチャート



出典：知的財産委員会資料

これらの中で、テクノ・リフレッシュ教育センターは、地域産業界との技術交流事業を展開している。(財)やまぐち産業振興財団が、平成14年度から山口県の支援を受けて開催している「地域別産学官技術交流会」にも協力し、平成14年および16年には本校が中心となって「産学公技術交流会 in 周南」を開催した(資料A-1-①-8)。ウェブサイトにおいても、技術相談や産官学共同研究に関する受付フォームを公開し、受け入れを行っている(資料A-1-①-9, 10, 11, 12)。

資料A-1-①-8 産学公技術交流会 in 周南

山口県の「産」業界の活力と、大学や高等専の「学」の研究成果が結びつき、新事業の展開や新産業の創出が実現することを期待し、「産学公技術交流会」を開催します。

周南会場においては、第一線で中国経済産業局の「若手研究者・企業経営者のための知的財産セミナー」と共催で、「知的財産権」の活用に関する基礎講演と、「環境」、「情報」、「材料」の分野で「学」が保有する「シーズ」を発表するとともに、第二部で「産」の求める「ニーズ」とマッチングできるようなネットワーク作りをめざし、交流・懇親の場を設けます。

この「産学公」の交流やネットワークが、「山口県産」の新技術、新製品の創出の契機となることが期待されますので、多くの方にご参加をいただきたく、ご案内申し上げます。

**主催者挨拶 (13:00~)**

**第一部 (会場：別館3階 銀河の間) 参加無料**

**1) 基礎講演 (13:10~14:10)**  
**「中小・ベンチャー企業における知財戦略のポイント」**  
 弁護士法人法眼橋・山上合同 弁護士・弁護士 藤川 義人氏

**2) シーズ発表 (14:15~17:40)**

**「マイクロ・ナノレベルで新ビジネス創出」** 徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 大成 博文氏  
 マイクロ・ナノレベル技術を利用した商品化の基礎概念を発表。

**「汚れた水をきれいにするものを作る一環境問題を解決する材料の開発」**  
 高度先端地、環境水汚染問題を解決すべく、炭ガラスを主成分とする無機性炭素  
 物を原料とした環境浄化セラミックスの開発に関する試みについて紹介。

**「廃FRPのケミカルリサイクル技術の開発」**  
 山口県産業技術センター 戦略プロジェクト部 友永 文昭氏  
 熱硬化性樹脂が使用されているため、リサイクルが困難でほとんどが埋め立て、廃棄処分  
 されているFRP樹脂のリサイクル技術の基礎技術として、アルコールを用いた高温高圧  
 有機反応により樹脂分（不飽和ポリエステル）のエステル結合を切断可溶性化する技術の模  
 試と、分解生成物からの樹脂の再結合、及びこれらの処理法がガラス繊維に与える影響に  
 ついて検討し、再判別の可能性を示す。

**「マルチエージェントシステム制御における履歴情報の役割」**  
 徳山工業高等専門学校 情報電子工学科 原田 耕治氏  
 様々な社会システムに見られる決断の緩和を目的し、エージェントが履歴を参照した結果  
 取れる決断の特徴について。

**「設計と計測に関する計算力学的手法の応用」** 徳山工業高等専門学校 機械電気工学科 小田 和広氏  
 応用新技術を機械要素の設計や非破壊検査に応用した事例について説明する。

**「ソル・ゲル法と放電プラズマ焼結 (SPS) 法を併用した機能性セラミックス材料の創製」**  
 山口県立理科大学 基礎工学科 物質・環境工学科 木塚 透氏  
 セラミック材料の非焼結法であるソル・ゲル法及び放電プラズマ焼結 (SPS) 法についての  
 概要及び研究例、さらに、負の熱膨張係数を有するセラミック材料の具体的な事例を紹介。

**「ナノ結晶制御による強度・靱性を向上させた金属材料の開発」**  
 和歌山県立材料研究所 研究所 岸 克宏氏  
 省エネのための部品の変な軽量化を目的として、強度・靱性にも優れた金属材料の製造  
 工程の概要、素材の特性、さらに本素材で作製したボルト・ナット部品としての  
 特性・利点などをまとめて紹介。

**第二部 (会場：別館2階 美智の間)**

**交流と懇話 (18:00~19:30) ~ネットワーク作り、意見交換~ 参加費1人 2,000円**

**と き 平成16年10月6日水 13:00~**  
 第一部：基礎講演およびシーズ発表・ポスター交流会 13:10~17:40 (参加無料)  
 第二部：交流・懇話会 18:00~19:30 (会費@2,000円)

**と ころ ホテルザルルート徳山 周南市築港町8-33 ☎0834-32-2611**

**問合せ先 財団法人やまぐち産業振興財団**  
 ☎083-922-9927 担当：技術振興部 (片山)

**参加申し込みの方法**  
 (第一、第二部ともに)  
 裏面の申込書をご使用ください。(当  
 口でも受け付けますが、郵送等をお選  
 びできない場合がありますので、出来  
 るだけ事前にお申し込みください。)

主催/徳山工業高等専門学校 中国経済産業局 山口県立理科大学 宇部工業高等  
 専門学校 山口県産学公連携イノベーション創出推進委員会 山口大学 山口県  
 別府法人やまぐち産業振興財団 財団法人やまぐち産業振興財団  
 後援/周南市 徳山商工会議所 新南陽商工会議所 徳山地域中小企業支援センター  
 徳山産学テクノ・アカデミア

産学公技術交流会  
 in 周南

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター資料

## 資料A-1-①-9 テクノ・リフレッシュ教育センター技術相談フォーム

[過去の技術相談](#)

## テクノ・リフレッシュ教育センター技術相談

徳山高専は「地域に根ざした高専づくり」を目指し、さまざまな地域協力を行っています。関係機関・企業・団体等からの科学技術に関する相談に応じ、抱えている疑問や疑問に答えるとともにそれらに基づく調査研究にも取り組んでいます。

## 相談申込書

相談事項

相談内容

希望担当教官氏名

回答希望年月日

会社名

氏名

所属

役職

連絡先住所

E-mail

電話番号

FAX

ホームページ

※赤字の項目は必須です。

出典：テクノ・リフレッシュ教育センターウェブサイト  
<http://www.tokuyama.ac.jp/cgi-bin/academia/mail.cgi>

## 資料A-1-①-10 産官学共同研究申込フォームダウンロードページ

## 産官学共同研究

科学技術がますます高度化・専門化し、急速に進展するなかで、国立学校等に対し、産業界をはじめとする社会の各方面から、より具体的な諸問題の解決等のため、多様な期待と要請が寄せられています。

本校では、本来の使命を踏まえつつ、幅広い教育研究の成果の蓄積とその人材を活かして、これらの社会的要請に適切に対処することとしています。  
 民間等との共同研究は、本校と企業等の研究者が、共通のテーマについて共同で研究を進めることにより、独創的な優れた研究成果を期待するものです。  
 このことは、地域社会への協力に止まらず、本校における教育研究にも有益な刺激を与えることとなっています。

[共同研究申し込み](#)

[受託研究申し込み](#)

出典：テクノ・リフレッシュ教育センターウェブサイト  
<http://www.tokuyama.ac.jp/techweb/techcenter/sangakuken.htm>

## 資料A-1-①-11 平成17年度技術相談受入一覧

## I 産官学連携

## 技術相談

本校では、「地域に根ざした高専づくり」を目指し、さまざまな地域協力を行っています。関係機関・企業・団体等からの科学技術に関する相談に応じ、抱えている難問や疑問に応えるとともに、それらに基づく調査研究にも取り組んでいます。平成17年度の技術相談の状況及び過去の技術相談件数は以下のとおりです。

受付年月	相談事項	対応学科等
17. 4	軟弱地盤で杭の打設のための支持力、転倒、安定計算及び図面について	土木建築工学科
17. 4	地面を突き固める機械工具の締結方法について	機械電気工学科
17. 5	在来木造住宅用パネルの性能について	土木建築工学科
17. 6	携帯電話を利用した野生動物調査について	情報電子工学科
17. 6	マイクロナノ・マイクロバブル技術の開発について（4件）	土木建築工学科
17. 7	投資先企業の研究内容（生命工学系）について	一般科目
17. 7	マイクロナノ・マイクロバブル技術の開発について（6件）	土木建築工学科
17. 7	投資先企業の研究内容（生命工学系）に関する専門的見解について	一般科目
17. 8	マイクロバブル技術の開発について（14件）	土木建築工学科
17. 9	タオルの洗浄問題の技術改善について	土木建築工学科
17. 9	マイクロナノ・マイクロバブル技術の開発について（8件）	土木建築工学科
17. 9	マイクロバブル技術の開発について（12件）	土木建築工学科
17. 9	水質浄化技術の導入について	土木建築工学科
17.10	マイクロナノバブル技術の開発について（4件）	土木建築工学科
17.10	マイクロバブル技術の開発について（7件）	土木建築工学科
17.11	マイクロバブル技術の開発について（13件）	土木建築工学科
17.11	パソコンの不具合について	情報処理センター
17.12	マイクロバブル技術の開発について（11件）	土木建築工学科
17.12	電子レンジ対応袋の性能テストについて	土木建築工学科
17.12	水槽の形状について	一般科目
18. 1	マイクロバブル技術の開発について（9件）	土木建築工学科
18. 2	マイクロナノ・マイクロバブル技術の開発について（3件）	土木建築工学科
18. 3	マイクロナノバブル技術の開発について（5件）	土木建築工学科

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

資料A-1-①-12 平成17年度共同研究一覧

I 産官学連携

本校の平成17年度の民間等との共同研究受入状況は以下のとおりです。

区分	研究課題	企業名	研究担当者	期間
分担型	温泉旅館を活用したデイサービス事業が高齢者の生活環境に与える影響に関する研究	㈱ぶらねっと	佐々木伸子	平成16年度～平成17年度
派遣型	マイクロノバブルの物理化学的特性と高機能性に関する研究	㈱ノブラネット研究所	大成 博文	平成16年度～平成17年度
分担型	橋梁管理支援システムの実用化に関する研究	㈱オリエンタルコンサルタンツ	河村 進一	平成16年度～平成17年度
"	斜張橋斜材ケーブルの架設機材に関する研究	㈱エスイー	河村 進一	平成17年度
"	団粒化剤とセメント系固着材を併用した細粒土の地盤改良に関する研究	㈱シーマコンサルタント	上 俊二	平成17年度
"	人工膝関節手術における褥瘡バランス計画装置の開発	ナカシマプロペラ㈱	櫻本 逸男	平成17年度
"	洗身シャワー装置用マイコン制御盤の開発	㈱ネオ山口	山口 健仁	平成17年度
"	粘土の二次圧密およびセメンテーションに関する研究	㈱宇部セントラルコンサルタント	上 俊二	平成17年度
"	マイクロバブルによる次世代型省エネ装置の開発	㈱三井造船昭島研究所	大成 博文	平成17年度
"	「道の駅」の動向と整備・改善のガイドライン策定	西日本技術開発㈱	熊野 稔	平成17年度
"	射出成形機用2相構造型スクリューの強度解析ならびに高強度デザインの研究	鋼鉄工業㈱	小田 和広	平成17年度
"	団粒化剤とセメント系固着材を併用した泥濘化したまき土の地盤改良に関する研究	(財)山口県建設技術センター	上 俊二	平成17年度
"	地域個性を活かした公共事業景観形成ガイドライン(案)の作成	(財)山口県建設技術センター	熊野 稔	平成17年度
"	ダム貯水池直下流の河川の水質浄化と生物環境共生	(財)山口県建設技術センター	大成 博文	平成17年度
"	山口宇部線試験線施工で得られるコンクリートひび割れに関する情報の分析とこれに基づく実用的なひび割れ対策技術の研究	(財)山口県建設技術センター	田村 隆弘	平成17年度
"	貯油槽・貯水槽の地震時安全性確保のための手法の研究	(財)山口県建設技術センター	原 隆	平成17年度
"	長周期地震波に対する貯油槽のスロッシング抑制機構の研究	勝井建設㈱	原 隆	平成17年度
"	再生可能エネルギー利用教材の開発に関する研究	昭和理化学器械㈱	伊藤 尚	平成17年度
"	工場内の見学通路掃除ロボットの開発	㈱アステック入江光支店	兼重 明宏	平成17年度
"	高齢者福祉施設における計画策定ガイドラインの策定	時盛建設㈱	熊野 稔	平成17年度
"	FPGA ボードへの組み込みLinuxの移植	㈱兼清電子	力 規晃	平成17年度
"	保水型インターロッキングブロックの凍結融解試験に関する研究	㈱スエオカ	上 俊二	平成17年度
"	外国人観光客を対象とする観光まちづくりに関する基礎的研究	㈱福山コンサルタント西日本事業部	熊野 稔	平成17年度

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

テクノ・アカデミアは、徳山高専テクノ・リフレッシュ教育センターの活動をさらに推し進め、独自の共同研究制度を設けている（資料A-1-①-13, 14）。また、地域の企業ニーズを集積し、産業振興のブレークスルーとなるような製品・商品の開発を目指して、テーマ別に小人数からなる研究会・勉強会を開催している（資料A-1-①-15）。

資料A-1-①-13 テクノ・アカデミア共同研究

テクノ・アカデミア共同研究

「テクノ・アカデミア共同研究」はテクノ・アカデミア会員企業が徳山高専の教官と共同で研究開発を始める際の端緒となる活動資金を助成すること、あるいは各企業のかかえる問題を共同で解決するための活動資金を助成することを目的として実施されるものです。

研究経費総計の上限 30万円

採 択 数 4件程度

出典：テクノ・リフレッシュ教育センターウェブページ

<http://www.tokuyama.ac.jp/techweb/academia/research/research.htm>

資料A-1-①-14 平成17年度テクノ・アカデミア共同研究テーマ

Ⅲ 徳山高専テクノ・アカデミア事業

テクノ・アカデミア共同研究

徳山高専テクノ・アカデミアの会員企業が、徳山高専の教員と共同で研究開発や問題解決のための活動を開始しようとする際に、その端緒となる活動（テーマ）に対して資金の助成（研究助成）を行うことを目的として、「テクノ・アカデミア共同研究」の制度が平成12年度から始められました。  
平成17年度のテーマは次のとおりです。

企業名	研究課題
銅飯工業㈱	射出成形機用2相構造型スクリューの強度解析ならびに高強度デザインの研究
勝井建設㈱	長周期地震動によるタンクの制振技術
㈱兼清電子	FPGAボードへの組み込みLinuxの移植
時盛建設㈱	高齢者福祉施設における計画策定ガイドラインの作成
㈱アステック入江 光支店	工場内の見学通路掃除ロボットの開発

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

資料A-1-①-15 平成17年度技術研究会

技術研究会

会員企業が、これから取り組みたい研究開発や業務上の課題で、かつ長期にわたっての情報収集や勉強会を重ねるべき課題について、目的を共に持つ徳山高専教員とグループを形成することにより、課題の解決にあたる研究会を設立し、活動するための資金を助成しています。これまでに設立され研究会のうち、平成17年度に活動した研究会は以下のとおりです。

研究会名称	代表者	研究期間
コンクリートよろず研究会	徳山高専土木建築工学科 助教授 田村隆弘	平成14～18年度
山口県まちづくり支援研究会	徳山高専土木建築工学科 助教授 熊野 稔	平成15～17年度
環境蘇生技術研究会	新立電機株式会社 代表取締役社長 池田勝利	平成15～17年度
ICTタグ実用化研究会	赤坂印刷株式会社 取締役社長 赤坂善通	平成15～17年度

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

地域連携推進係は、地域産業界との交流窓口であるとともに、学内への外部資金獲得のための情報を周知し（資料A-1-①-16）、関連の事務を担当する。さらに、学内の競争的資金の周知（資料A-1-①-17）やその成果報告会（資料A-1-①-18, 19）を開催する。

## 資料 A-1-①-16 外部資金獲得のための情報

## 外部資金関連ページ

独立行政法人化に伴い、今後研究費を確保するために、外部資金の獲得が重要な課題となります。そこで、教員がそれぞれの分野で可能な助成金に積極的に応募して頂く必要があります。以下の研究助成事業の公募状況、科学研究費補助金の項目を参考してください。

## 研究助成事業の公募状況

助成金等の申請は、全て事務で取りまとめて提出しますので、申請期限1週間前まで、庶務課地域連携推進係へ提出願います。

- ▶ 平成15年度1月～12月提出期限分
- ▶ 平成16年度1月～12月提出期限分
- ▶ 平成17年度1月～12月提出期限分
- ▶ 平成18年度1月～12月提出期限分 **最新**

## 科学研究費補助金

- ▶ 科学研究費補助金の申請まで(流れ図)
- ▶ 科研申請書見本(基礎)(PDF形式)
- ▶ 日本学術福興会科学研究費補助金
- ▶ 科学研究費補助金公募要領・計画調書等ダウンロードページ
- ▶ 科研費申請10箇条
- ▶ 平成16年度採択状況

## 助成金情報

- ▶ 産学官連携コーディネーターサイト“公募情報”

[前ページへ戻る](#)

出典：本校ウェブサイト（学内限定）

## 資料 A-1-①-17 学内への競争的資金の周知

Subject: 平成18年度特別研究促進費の募集について

Date: Mon, 23 Jan 2006 10:36:45 +0900

教員各位

地域連携推進係

平成18年度特別研究促進費の募集について

このことについて、下記のとおり募集しますので、応募される方は申請書を地域連携推進係へ提出願います。

なお、4月1日から採用となる教員も対象になります。

記

1. 先端的、独創的な発想により社会の要請に応える研究への助成
  - 限度額：個人研究150万円，共同研究300万円
  - 期間：1～3年
  - 提出期限：平成18年2月20日（月）  
（新任等教員の場合）4月20日（木）
2. 論文発表を促進するための助成  
（査読付論文で掲載料等を支払った場合に限る）
  - 限度額：1件につき4万円
  - 提出期限：支払いの都度

出典：地域連携推進係からのメール

資料A-1-①-18 成果報告会の案内

From: 地域連携推進係 <tiren@tokuyama.ac.jp>  
 To: 学生全員 <gak@tokuyama.ac.jp>,  
 全員 <kan@tokuyama.ac.jp>  
 Subject: 平成16年度特別研究促進費成果報告会の開催について【案内】  
 Date: Tue, 25 Oct 2005 10:18:33 +0900

平成17年10月25日

各位

地域連携推進係

平成16年度特別研究促進費研究成果報告会の開催について

このことについて、下記のとおり開催いたしますので是非ご聴講願います。

記

第1回

日時:平成17年12月 7日(水) 16:10～  
 場所:メディアホール  
 プログラム 座長:機械電気工学科 小田 和広  
 16:10～ 開会挨拶(総合企画室長)  
 16:15～ ①ショウジョウバエを用いた神経変性疾患の研究  
 一般科目 天内 和人  
 16:35～ ②誘導電動機速度センサレス制御システムの開発  
 機械電気工学科 逆瀬川 栄一  
 16:55～ ③剥離流れの三次元性を利用した橋桁の非定常流体  
 力低減効果に関する数値流体解析  
 土木建築工学科 河村 進一  
 17:15～ 閉会挨拶

第2回

日時:平成17年12月 8日(木) 16:10～  
 場所:メディアホール  
 プログラム 座長:一般科目 長戸 喜隆  
 16:10～ 開会挨拶(総合企画室長)  
 16:15～ ①排他的論理和ゲートを含む組み合わせ論理回路の自動  
 合成に関する研究  
 情報電子工学科 神田 徳夫  
 16:35～ ②Idiotypeネットワーク仮説の数理的検証と理論免疫  
 学の構築へ向けて  
 情報電子工学科 原田 耕治  
 16:55～ ③自己検証非決定性チューリングマシン及びプッシュ  
 ダウンオートマトンに関する諸特質の解明  
 情報電子工学科 義永 常宏  
 17:15～ ④電子工学実験における工学教育手法の開発  
 情報電子工学科 神田 徳夫  
 17:35～ ⑤Ni基超合金の中高温における疲労強度向上の機構解明  
 機械電気工学科 森野 数博  
 17:55～ 閉会挨拶

出典:地域連携推進係からのメール

資料A-1-①-19 特別研究促進費成果報告会新聞記事



出典：平成18年6月13日（火）【日刊新周南】

一方、特色のある創造教育を推進するため、創造教育推進プロジェクト（資料A-1-①-20, 21）が発足した。その他の教育改善の方策として、以下の活動が行われている。

- ・学習シートを用いた教育改善の試み（資料5-6-①-2 <P.165>）
- ・e-Learningシステムの運用方法の検討（資料A-1-①-22）
- ・コンピュータ教育に利用するための教育用コンピュータの開発（資料5-2-①-③）

資料A-1-①-20 創造教育推進共同プロジェクト設立の議事録

平成17年度 第7回 教務・専攻科合同委員会議事概要

- ① 日時 平成17年11月17日（木） 16:20～18:50
- ② 場所 管理棟2階 会議室
- ③ 出席者 教務7名, 専攻科7名, 学生課長, 教務係長
- ④ 欠席者 木村武馬, 和田 實, 熊野 稔

3. 「創造教育に関する部会」設立について

教務主事より、11/4開催の同委員会において、一般科目の課題研究を来年度実施しないことが了承されたが、この件は科目間調整会議において審議を行うことが必要のため、11/1に義永主査のもと課題研究の取り止めについて審議を行って承されたことが報告された。

なお、本校中期計画における創造教育を達成するための具体的方策に係る「創造実践教育推進共同プロジェクト」を設立するため、各学科より1～3名の委員選出を近日中に依頼することを報告。

出典：教務・専攻科合同委員会議事録

資料A-1-①-21 創造教育推進プロジェクト委員会の開催通知

平成18年6月20日

委員各位

創造実践教育  
推進共同プロジェクト委員長  
門脇重道

第4回 創造実践教育推進共同プロジェクト  
委員会の開催について

このことについて、下記のとおり開催しますのでご参集願います。

記

日時：平成18年6月29日(木) 16:15～  
場所：管理棟2階 会議室

会議の趣旨

これまでの会議の内容を踏まえて、具体的な提案があれば提示していただきたいと思います。  
これまで確認されたこととしては、

- ①各科のこれまでの創造教育の取り組みは、それぞれ目標とするところに違いがあるが、それぞれの学科の取り組みを認め尊重し、発展させる方向であること。
- ②取り組みとして進んでいるMEのものを参考として取り組み内容を検討する。そのためMEの取り組みを含めて各科の取り組みを紹介する。(5月1日の会議)
- ③各科の取り組みを尊重した上で、共通で取り組めるものがあれば共通で行うことを考える。

これらのことを踏まえて、各科の創造教育を発展させるためのカリキュラムなどにおける提案があればお願いします。

出典：教務係からの開催通知

資料A-1-①-22 e-Learningシステムの導入に関する要求書

(様式1)

平成14年度高等専門学校教育改善充実費及び大学改革

推進経費(ものづくり教育推進経費)要求書

徳山工業高等専門学校

経費区分	1. 教育研究活動高度化経費		2. 産業界との交流促進経費	
	3. ものづくり推進経費			
プロジェクトの名称	英語力brush upのためのプログラム整備～TOEIC400点以上、実用英検準2級以上、工業英検3級以上の全学生取得を目指して			要求順位
プロジェクトの概要	平成12年末に文部省から予算要求が認められ、平成13年3月末まで実施された「英語資格取得のための教育改善計画」の継続プロジェクトとして、特にTOEICという英語力診断テストにおいて全学生が400点以上を取得できるような、徳山高専独自の英語学習プログラムを構築する。具体的には、まず、授業内外で効率よく英語学習が、しかも個人個人のペースで行えるように、イントラネット用のTOEIC学習ソフトをインストールし、どのコンピュータ端末からでも自由に自主学習を進めることのできる環境を整備し、次に、これまでは主として専攻科生が中心となって取り組んできたTOEICの本試験やIPテスト(模擬試験)の受験指導(補習や、全学英語実力試験など)を、専攻科と協力しつつ本科生にまで広げる。			
プロジェクトの実施計画・方法	イントラネット用のTOEIC学習ソフトを学内のサーバーにインストールし、学内のどのコンピュータ端末からでも自由に自主学習を進めることのできる環境を整備する。全学生に自主学習の進捗の目標を伝達し、全員がその目標を達成できるよう努力させる。その際、プロジェクト担当者が協力して、個人個人の学習進捗状況を調べ、遅れている学生に対しては個別指導等を行う。また、すでにこのようなシステムを導入している大学や高専を視察してその効果的な活用方法を研究する。その上で、現在ほとんど専攻科生のみが受験しているTOEICの本試験やIPテスト(模擬試験)の受験を本科生にも勧め、そのための補習を実施したり、現在は実用英検と工業英検に関してのみ実施されている全学英語実力試験にTOEICの模擬試験を加えたりすることも検討・実施する。			
プロジェクト担当者 代表校・代表者に ※印を付すこと	氏名	所属官職(役職名)	担当分担	
	※室長 大應 森野 数博 桂 哲男 長戸 喜隆 四重 徹	一般科目 教授 機械電気工学科 教授 一般科目 助教授 一般科目 助教授 一般科目 助教授	代表 専攻科生指導担当 英語指導全般担当 英語指導全般担当 英語指導全般担当	

出典：一般科目資料

教員グループによる教育・研究活動を支援するため、特別研究促進費ならびに特別教育設備整備費の制度が整備され、研究資金の配分および研究成果の発表に対する支援が行われている（資料A-1-①-23, 24, 25）。

資料A-1-①-23 徳山工業高等専門学校における競争的資金に関する運用方針

徳山工業高等専門学校における競争的資金に関する運用方針

平成14年5月14日  
運営委員会決定  
改正平成14年10月8日

1 目的

予算を重点的に配分することにより、教育研究の競争的環境を創出し、本校における教育研究活動の活性化とその質の向上を図るとともに、地域社会との連携の強化を推進する。

2 競争的資金

(1) 特別研究促進費

ア 先端的、独創的な発想により社会の要請に応える研究への助成

イ 論文発表を促進するための助成

(査読付論文で掲載料等を支払った場合に限る)

(2) 特別教育設備整備費

先進的、国際的な教育を推進するための設備整備への助成

(3) 学外共同研究推進制度

民間等外部機関との共同研究への一部助成

(4) 特別科学研究費補助金制度

若手教官（助教授以下）の研究活動への助成

3 助成期間

原則として単年度とする。ただし、特別研究促進費のAについては年次計画に基づき、最長3年間助成することができる。

4 その他

詳細については各実施要項によるものとする。

特別研究促進費及び特別教育設備整備費助成に係る実施要項

平成14年5月14日  
運営委員会決定  
改正平成14年10月8日

1 助成予定額

(1) 特別研究促進費 2,000万円（論文掲載料助成を含む）

(2) 特別教育設備整備費 770万円（本省積算の一般分を充当）

2 申請方法

助成を希望する者は、次の書類を校長に提出するものとする。

(1) 特別研究促進費（別紙様式1）

(2) 論文掲載料助成（別紙様式2）

(3) 特別教育設備整備費（別紙様式3）

3 申請額

(1) 特別研究促進費

個人研究については150万円、共同研究については300万円を限度とする。

(2) 特別教育設備整備費

一学科（一専攻）は150万円、複数学科（複数専攻）は300万円を限度とする。

(3) 論文発表を促進するための助成

一件当たり4万円を限度とする。

4 申請期限

申請期限は、特別研究促進費に関するものは2月20日、特別教育設備整備費に関するものは10月末日とする。ただし、論文掲載料助成についてはその都度申請するものとする。

5 選考方法等

校長は、運営委員会の議を経て決定するものとする。ただし、論文掲載料助成は随時決定するものとする。

6 助成を受けた者の義務

(1) 助成を受けた者は、翌年度4月末日までに特別研究促進費等実施報告書（別紙様式4）を提出するとともに、本校ウェブサイト等において公表するものとする。ただし、論文掲載料助成は除く。

(2) 年次計画に基づく助成を受けた者は、中間報告を上記に準じて提出するものとする。

7 その他

- (1) この要項は、平成14年5月14日から施行し、平成14年4月1日から適用する。
- (2) 平成14年度は、特別研究促進費については7月末日を申請期限とする。
- (3) この要項に係る事務は、会計課総務係において処理する。

附 則

この要項は、平成14年10月8日から施行し、平成14年4月1日から適用する。

出典：徳山高専規則集

資料A-1-①-24 研究成果の発表に対する支援

平成16年度当初配分方針 (案)

- 1. 当初配分表（高専機構）により配分する。
- 2. 学会出席旅費は全額留保し、以下のとおり4半期ごとに実態に応じて配分する。
  - (1) 学会発表のために学会に出席する場合は、交通費相当額を配分する。
  - (2) 委任経理金で出張する場合は除く。

出典：運営委員会資料

資料A-1-①-25 平成17年度特別研究促進費採択状況

IV 付 録

特別研究促進費

教育研究の競争的環境を創出し、本校における教育研究活動の活性化とその質の向上を図るとともに、地域社会との連携の強化を推進することを目的として平成14年度から導入されたもので、先導的、独創的な発想により社会の要請に応える研究等に助成するものです。

平成17年度採択状況

プロジェクトの名称	プロジェクト担当者	期 間
層状チタン酸塩の合成と光機能	一般科目 大橋 正夫	平成17年度
イスラム社会のスポーツ教育システムに関する研究 ～その社会的・教育的位置づけ～	一般科目 齋藤 一彦	平成17～18年度
炭プラスチック材のフラフ燃焼の燃焼特性に関する研究	機械電気工学科 池田 光優	平成17年度
弾性体と流体の数値的なシミュレーション	機械電気工学科 飛重 来人	平成17年度
独居老人のための監視装置の開発と商品化	情報電子工学科 重安 邦之	平成17年度
ICタグを用いた情報管理・検索システム	情報電子工学科 奥本 幸 岩佐 寛子 (赤坂引副属)	平成17年度
「非対称」リンノ媒同相互作用下での免疫機能発現に関する理論研究	情報電子工学科 原田 耕治	平成17年度
組合せ力を受ける鉄筋コンクリート構部材の研究	土木建築工学科 田村 隆弘 重松 恒美 下村 匠 (長岡技術科大)	平成17～18年度
公共空間へのユニバーサルデザインの導入とその評価 ～UIパンチの製作とその利用実態の分析を通して～	土木建築工学科 佐々木伸子 石川 博幸 (徳島産業振興センター)	平成17～18年度
緑化可能なポーラスコンクリート資材の開発	土木建築工学科 藤原 東雄 工藤 洋三 原 隆 橋本 堅一 田村 隆弘	平成15～17年度 (継続分)
セメント改良土の物性と力学特性に関する研究	土木建築工学科 上 俊二 藤原 東雄 桑嶋 啓治	平成15～17年度 (継続分)
センサ融合の支援型、自律型搬送システムの開発	機械電気工学科 兼重 明宏 藤本 浩	平成16～17年度 (継続分)
比例法による三次元表面き裂問題の高精度解析手法に関する研究	機械電気工学科 小田 和広	平成16～17年度 (継続分)
学生実験用コンピュータシステムとオペレーティングシステムの開発	情報電子工学科 重村 哲至 山田 健仁 原田 徳彦 新田 貴之	平成16～17年度 (継続分)
exCampus上で稼働する情報処理関連資格取得に必要な教材開発	情報電子工学科 百田 正広 山田 健仁 杉村 敦彦 重村 哲至 新田 貴之	平成16～17年度 (継続分)

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

(分析結果とその根拠理由) 研究の目的を達成するための実施体制および支援体制が整備されており、機能している。

地域産業界との連携のため、テクノ・リフレッシュ教育センターおよびが設置され、教員の研究

活動に対する情報提供や共同研究推進の窓口として地域連携推進係が組織され、機能している。また、研究成果を特許につなげるための知的財産委員会も設置され、すべての研究成果の特許出願の可能性について検討されている。教員の教育研究活動に対する支援体制としては、特別研究促進費ならびに特別教育設備整備費の制度が整備されている。

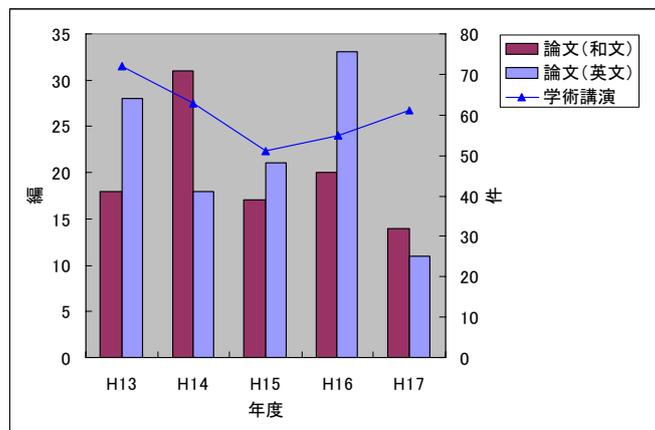
**観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。**

(観点に係る状況)

本校中期計画では、「教員の教育研究活動を活発化し、学会誌等への教育研究論文の掲載数を2倍化させる（年間60件）。教員（学生も含む）による特許を年間少なくとも10件申請し、その半数の取得をめざす。また、文部科学省科学研究費補助金の申請においては一人1申請以上を実現し、学校全体として、年間、インパクトファクター10点の取得をめざす」としている。

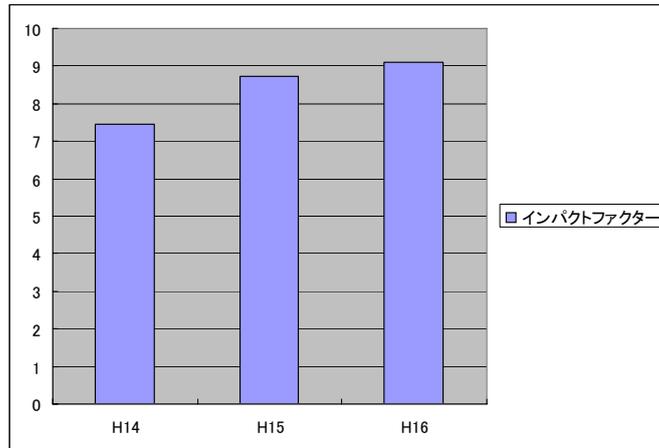
過去5年間の研究活動についてみると、研究実績は現状を維持しており（資料A-1-②-1）、インパクトファクターの全教員の合計値は増加し、中期計画で定めた10点に近い値を示している（資料A-1-②-2）。科研費についても、5年前に比べて採択件数および交付金額は増加している（資料A-1-②-3）。民間企業との研究契約件数（資料A-1-②-4）および外部資金導入額（資料A-1-②-5）も増加している。

資料A-1-②-1 研究実績の推移



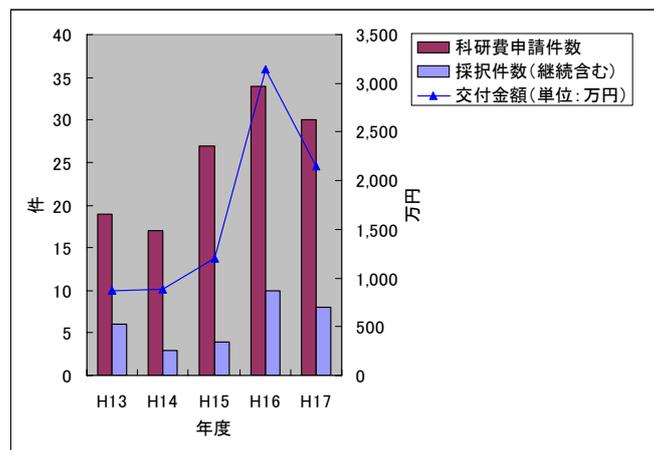
出典：自己評価委員会資料

資料A-1-②-2 インパクトファクターの合計値



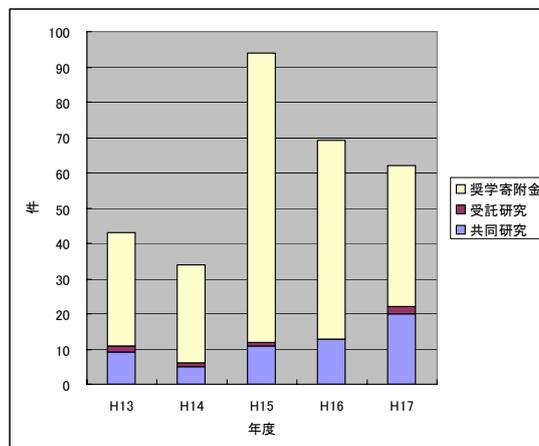
出典：年間職務の自己評価

資料A-1-②-3 科学研究費補助金



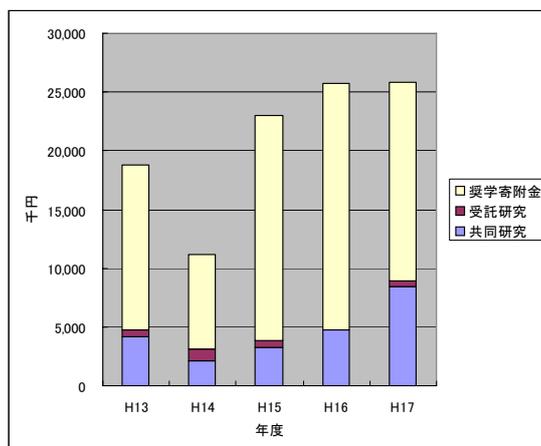
出典：地域連携推進係資料

資料A-1-②-4 研究契約件数の推移



出典：徳山高専テクノ・リフレッシュ教育センター資料

資料A-1-②-5 外部資金導入額の推移



出典：地域連携推進係資料

共同研究において教員が行った研究の成果を資料A-1-②-6に、その新聞報道を資料A-1-②-7に示す。また、共同研究を卒業研究に取り入れており、その事例を資料A-1-②-8に示す。

資料A-1-②-6 共同研究において教員が行った研究の成果（抜粋）

I 産学官連携		民間との共同研究報告
研究題目	温泉旅館を活用したデイサービス事業が高齢者の生活環境に与える影響に関する研究	
区分	分担型	
研究体制	高専代表者	土木建築工学科 佐々木 伸子
	企業名	(株)ふらねっと
研究成果の概要	温泉旅館を活用した「生活文化型介護サービス事業」について、新しいタイプの介護事業が利用者に与える影響を調査し、その利用効果を明らかとした。通所介護利用者のデイサービス事業についての評価構造及び個人の主観的健康観であるQOL (SF-36)を調査した。分析の結果、現状の業務の中での改善点が指摘され、更に調査対象施設のサービス内容と立地環境が利用者評価に大きく影響していることが明らかとなり、今後の展開策への資料となった。	
研究題目	マイクロナノバブルの物理化学的特性と高機能性に関する研究	
区分	派遣型	
研究体制	高専代表者	土木建築工学科 大成 博文
	企業名	(株)ナノプラネット研究所
研究成果の概要	マイクロバブル発生装置を用いて、マイクロバブル及びマイクロナノバブルの物理化学的特性を解明した。また、マイクロバブル水の化学的特性を解明した。その結果、マイクロバブルの収縮特性、上昇速度、電位特性を明らかにした。さらに、マイクロバブル水の水素イオン濃度特性が液体や気体の種類によって変化することを示した。 以上を踏まえ、マイクロバブル技術を用いた商品開発の可能性について検討した。	

研究題目	橋梁管理支援システムの実用化に関する研究	
区分	分担型	
研究体制	高専代表者	土木建築工学科 河村 進一
	企業名	(株)オリエンタルコンサルタンツ
研究成果の概要	既に構築済みの橋梁のひずみ計測結果から走行車両重量をリアルタイムで推定するシステムにおいて、走行車両重量の測定結果と車両画像ファイルを開覧するための画像データベースシステムを開発した。さらに、計測期間を指定して、時間帯別・重量別等の統計処理したデータを自動的に生成しエクセル上でグラフ作成するための自動統計処理プログラムを作成した。これらのシステムを用いて、調査対象橋梁の1年分の車両重量データを示し、導入コストの問題はあるものの十分実用化可能であることを示した。	
研究題目	団粒化剤とセメント系固化材を併用した細粒土の地盤改良に関する研究	
区分	分担型	
研究体制	高専代表者	土木建築工学科 上 俊二
	企業名	(株)シーマコンサルタント
研究成果の概要	本研究では、土質の種類・団粒化剤とセメント系固化材の配合率を変化させた改良土の力学試験、化学分析、土構造の観察などを行い、改良土の力学特性、物理化学的特性を解明した。その結果、団粒化剤とセメント系固化材の配合率を土質の種類、含水比をもと最適な配合率を決定することにより、改良土の透水性と保水性が向上し、強度耐久性があることを実験において実証することができた。また、建設残土などの細粒分の多い土の再利用が可能となるものと考えられた。	

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

資料A-1-②-7 テクノ・アカデミア共同研究中間報告会

## 手すり清掃ロボットの開発も

徳山高専・アカデミア共同研究中間報告会熱心に

徳山高専テクノ・アカデミア（小野英輔会長）のアカデミア共同研究中間報告会が十七日開かれ、工場の粉じんで汚れた

がちな見学通路の手すりを自動的に清掃するロボットの開発など四件の発表があった。共同研究は企業が抱え



発表する勝井さん

る課題を教員が協力して解決しようというもの。清掃ロボットはアステック入江光支店に機械電気工学科の兼重明宏助教が協力したもので、手すりの上を走る試作機の様子をスクリーンに映しながら説明した。

また岩国市の勝井建設の勝井勇次さんは原隆教授の協力で開発中の中期地震動によるタンクの振動を減らす装置について発表した。中期地震動は二〇〇三年（H15）の十勝沖地震で石油タンク火災の原因になったが、実験では開発中の装置で振動が六割近くも小さくなったと発表して注目された。

出典：平成18年3月20日（月）【日刊新周南】

## 資料A-1-②-8 共同研究の卒業研究への取り入れ

平成17年度  
徳山高専卒業研究論文集

231

## 工場内手摺りの自動清掃ロボットの試作

Making an automatic robot to clean the handrail  
in the factory

This paper is concerned with making an automatic robot which can clean up the handrail in the factory of the production system such as steel product and so on. Mine dust in this factory has possibility to cause the quality degradation and the malfunction of production device. But because of labor cost, the handrail in the factory that has no direct relation to the product is not enough cleaned. However, in the point of work environment and sanitary conditions, we need measures against mine dust. So, in this study, we have made a cleaning robot which can do stable self-running on the handrail. This robot can reduce labor cost and improve the environment in the factory.

**Key Words** : Clean up in the factory, Handrail, Mine Dust, Automatic Robot

## 1. 結 論

工場における粉塵は製造される製品の品質劣化や誤作動の原因にも成り得る。これらの粉塵への対策として、製造装置などに付着した製品の品質を劣化する恐れのある粉塵については作業者が細かく清掃を行っているが、直接製品の品質に関係しない Fig.1 のような通路や手摺りにある粉塵については、省人化のため十分に行われていないのが現状である。しかし工場内の作業環境や衛生面からも粉塵対策は必要となってきた。

そこで、これらの通路や手摺りの粉塵を自動で清掃するロボットがあれば、改めて掃除のために人員を配置する必要がなく、従来から省人化の図られているこれらの工場における人件費の削減、工場内環境の改善とその啓発につながると考える。

このようなニーズに対して、創造製作の授業で製作した「ハビブ上を走行するロボット」の機構を応用することによって、このニーズに応えることができるロボットを製作することができるのではないかと考えた。本研究では工場内の手摺りを自動で清掃するロボットを試作し、商品化への足掛かりを目的とする。

\* システム制御研究室

No. 12 (2006)



Fig.1 Handrail in the factory

## 2. ロボットの使用条件

本研究において試作を行う掃除ロボットの使用条件を以下に示す。

- (1) 手摺りは Fig.2 に示すような円形で直線的に配置されたものに限定する  
(曲折部、十字路、傾斜、段差等のある手摺りは対象としない)
- (2) 動力源はバッテリーとする
- (3) 自律走行制御とする

出典：卒業研究論文集

創造教育推進の結果、以下の事例が学生による商品開発や特許出願につながった。

- ・ ゆがまないラジコン車台 (資料A-1-②-9)
- ・ 商品開発事例 (資料A-1-②-10)
- ・ 足マウス (資料A-1-②-11)
- ・ ピッキング防止錠 (資料A-1-②-12)

資料A-1-②-9 ゆがまないラジコン車台

## ゆがまぬ車台 優秀賞を受賞

徳山高専の藤井さん

周南市安田、徳山高専機械制御工学専攻科一年藤井健さん(21)が、新技術やビジネス案を学生から募る「キャンパスベンチャーグランプリ中国」のニュービジネス・アイデア部門で優秀賞を受賞した。衝突してもゆがまない無線操縦カーの車台を提案。「培った知識を実際の車造りにぶつけた

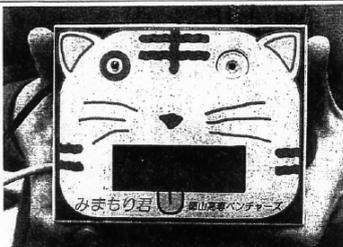


ベンチャーグランプリ中国

出典：平成18年2月25日(土)【中国新聞】

資料A-1-②-10 席がえルーレット・みまもり君

(前三種郵便物認可)



みまもり君  
席がえルーレットどこどこ

2005年(平成17年)12月15日(木曜日) 言賀 登 兼斤 尾門

## 徳山高専生が開発 2製品を商品化

周南市の徳山高専情報電子学科の学生13人で行った新製品開発グループ「徳山高専ベンチャーズ」が開発した二つの製品が商品化され、販売されている。独居老人を見守るシステム「みまもり君」と、最大で64人の教室の席順を自動的に変更できる「席がえルーレット」だ。19、25日、同市銀座の「あいうパルク」街内の「二高専広場」で展示される。

みまもり君は、周南地域地場産業振興センター周南市の資金援助を受け卒業生への研究を5年生2人が引き継いで製作した。機械は総じて約15センチ厚さ5センチで、デジタルカメラや学生が簡単にプログラムをいれたマイクロコンピュータを内蔵している。独り暮らしのお年寄り

19日から展示  
見守り装置と席決め機

の寮などに設置し、A/D S/L(非対称デジタル加工素子)などを接続すると、離れた場所にいる人が、パソコンや携帯電話を使って専用のホームページから画像を送ると、10万画素で、人間に二つの静止画面が送られる。

異なる側からは、80以内のメッセージを送るとともに、到着するトナザリが鳴る。画像を見たり文字を書き込んだりするには、パスワードが必要で、安全性も考慮されている。

ルーレットは女子学生5人が手掛け、約13・5センチ、厚さ5センチで、マイコンを内蔵。赤と緑の発光ダイオードが無作為に

出典：平成17年12月15日(木)【読売新聞】

資料A-1-②-11 足マウス

(前三種郵便物認可)

2005年(平成17年)11月29日(火曜日) 言賀 登 兼斤 尾門

## 足マウスのアイデアは 徳山高専の 兼行さん考案

足用マウスのアイデアは、兼行さんが、同校機械電子学科4年生のとき、同校の障害者施設で学生で作る商品開発で、手以外で操作するマウスがないかと考えていた際、浮かんだ。

手用のマウスを分解し、足裏の型に合わせた発振チップのボードに取り付け、配線を密着して試作品を製作。使ってみると、足全体で動かすことが、これまで商品化されているスティック型のマウスと同様にクリック時に反応がなくて、使っていると疲れたという。このため、ボードのかたまりをなくし、かたまりを削ぎつけて固定し、足だけで操作できるように改良した。パソコンの画面上に出るポインタも、足でも正確に動かすように改良した。今年6月、特許庁に特許を出願した。

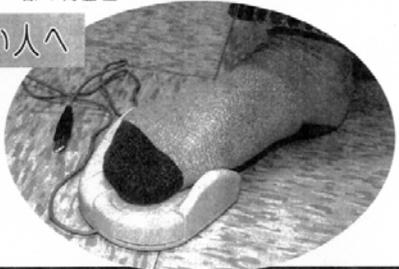
その後、同市の財団法人「周南地域地場産業振興センター」の協力を得ながら、商品化に向けた試作に取りかかっ

手の不自由な人、入力専念したい人へ

「足技」

間い合わせは、グリーンテックサポート(電話・ファックス番号0904・28・4143)へ。

# 足 でクリック マウス商品化



出典：平成17年11月29日（火）【読売新聞】

資料A-1-②-12 ピッキング防止錠



**徳山高専 大野君(3年)が上海の国際発明展で発表**  
**ピッキング防止の錠とロックシステム**

徳山高専機械電気工学科三年の大野充孝君(17)が、柳井市上田君(17)と共同で、ピッキング防止の錠とロックシステムを開発し、上海で開かれた国際発明展に出品された。注目を集めた。

国際発明展は四年に一度、各国で開かれ、世界中の発明家がアイデアの成果を持ち寄るが、大野君のアイデアは学生の発明を集めた未来工師展で発表されたもので、日本の発明協会から五人が奥にあり、カギを差し込

んでから内蔵している突起物を出し、ピンを押し開錠する。針金では奥のピンまで届かないため、開錠は不可能という。このアイデアは特許庁や発明協会などが大学、高専、高校生が対象の十年度の「プレバテントコンテスト」で特許化候補作品に選ばれ、昨年三

大野君はカギ穴に針金を入れてこじ開けるピッキング盗が多いことから研究し、ピッキングが不可能な新しい施錠システムを考え出した。従来のはカギを回して突起でピンを上下させて開けるが、大野君のアイデアは複数のピンが通常のシリンダーより

大野君はカギ穴に針金を入れてこじ開けるピッキング盗が多いことから研究し、ピッキングが不可能な新しい施錠システムを考え出した。従来のはカギを回して突起でピンを上下させて開けるが、大野君のアイデアは複数のピンが通常のシリンダーより

大野君はカギ穴に針金を入れてこじ開けるピッキング盗が多いことから研究し、ピッキングが不可能な新しい施錠システムを考え出した。従来のはカギを回して突起でピンを上下させて開けるが、大野君のアイデアは複数のピンが通常のシリンダーより

国際発明展で発表した大野君

出典：平成16年12月26日（金）【日刊新周南】

(分析結果とその根拠理由) 本校の目的に沿った成果が得られている。

研究実績、共同研究ならびに外部資金獲得額は、この5年間ですべて増加している。共同研究は卒業研究および専攻科特別研究に取り入れられている。共同研究や卒業研究を含むすべての研究成果は、知的財産委員会を中心に特許出願の可能性が検討されている。本校がこれまで行ってきた創造教育の成果は、商品開発や特許取得として現れている。

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

研究活動の点検・評価と活性化方策は、以下の体制によって行われる。

- ・ 学内の競争的資金制度（特別研究促進費，特別教育設備整備費，学外共同研究推進制度，特別科学研究費補助金制度）（資料A-1-①-23）
- ・ 上記競争的資金の成果報告会（資料A-1-①-18, 19）
- ・ 共同研究報告（資料A-1-③-1）
- ・ 知的財産委員会（資料A-1-③-2）

資料A-1-③-1 共同研究中間報告会

Subject: 徳山高専テクノ・アカデミア交流会 「アカデミア共同研究中間報告会」の開催について  
 Date: Thu, 9 Mar 2006 16:08:27 +0900

各位

地域連携推進係

徳山高専テクノ・アカデミア交流会  
「アカデミア共同研究中間報告会」の開催について

アカデミア共同研究中間報告会を下記のとおり開催いたしますので、ご参加いただける方で未連絡の方がおられましたら地域連携推進係までご連絡よろしくお願いたします。

記

日時 平成18年3月17日(金) 18:00～

第1部 アカデミア共同研究中間報告 (18:00～19:20)

(各報告: 20分(質疑応答を含む。))

場所: 徳山工業高等専門学校 メディアホール

「FPGAボードへの組み込みLinuxの移植」 (株)兼清電子 山城利勝, 徳山高専 力 規晃, 重村哲至, 山田健仁

「高齢者福祉施設における計画策定ガイドラインの作成」 時盛建設(株) 時盛 真, 徳山高専 熊野 稔

「工場内の見学通路掃除ロボットの開発」 (株)アステック入江 光支店 浅本秀樹, 徳山高専 兼重明宏

「長周期地震動によるタンクの制振技術」 勝井建設(株) 勝井 優, 勝井勇次, 徳山高専 原 隆

第2部 意見交換会 (19:30～20:30) 第2部のみ参加も可能です。

場所: 徳山工業高等専門学校 学生食堂

(参加費1,000円は、当日受付にてお支払い願います。ソフトドリンクも準備いたします。)

※お問い合わせ先(窓口)

庶務課地域連携推進係 石飛, 村重, 椀村, 山本

[Tel: 0834(29)6399・6227/E-mail: academia@tokuyama.ac.jp]

出典: 地域連携推進係からのメール

資料A-1-③-2 知的財産委員会による研究成果内容の審査票

平成17年度用

研究成果内容 審査票

この審査票は、研究成果内容が特許化に繋がるものであるかについて、自ら判断して記載願います。

		作成日	平成1 年 月 日	
所 属 (印等記載)	機械電気 工学科 情報電子 工学科 土木建築 工学科 一 般 科 目	氏 名		印
研 究 テ ー マ				
研究者(教員)記入欄 テーマの概要 及 特 許 性 か あ る と 思 料 さ れ る 内 容  別途、図面・ 写真等で、 より具体的な 説明をする 場合の様式は、 任意のA4 版として添付 すること				
特 許 の 可 能 性	1. ある 2. あると思われる 3. わからない 4. ないと思われる 5. ない	左欄で 1～4を 選択の時 は右欄へ	特許調査	1. 実施済(年月日) 2. 未実施 (実施予定時期/年月日)
特許権取得済みの状況を把握するためには、特許電子図書館ホームページ (http://www.ipdl.ncipi.go.jp/homepg.ipdl)「特許・実用新案の検索」を活用し、調査して下さい。				
(以下 知的財産委員会 使用欄)				
委員会の所見				

出典: 知的財産委員会資料

(分析結果とその根拠理由) 問題点の把握の把握と改善を図るための体制が整備され、機能している。

すべての研究成果は知的財産委員会において特許出願の可能性が審査され、競争的資金によって予算配分されるとともに、その成果報告会で研究内容についての確認が行われている。成果報告会では、成果のレビューをするとともに、学外からも出席者を募集し、成果を公表している。これによって、問題点の把握と改善が行われる。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・中期計画において数値目標を掲げ、インパクトファクター10点に近い実績を挙げている。
- ・研究成果発表会を開催し、成果のレビューと公開に努めている。

(改善を要する点)

- ・知的財産の創出、取得、管理、活用の促進および自己収入の増加。

## (3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

教員個々の教育研究活動に対して、学内における資金的な支援体制と情報提供の制度が整備され、研究実績、共同研究ならびに外部資金獲得額の増加につながっている。

地域産業界との連携に関しては、テクノ・リフレッシュ教育センターならびにテクノ・アカデミアを通じて交流を行い、研究成果の実用化や発明の成果をあげている。その他すべての研究成果も特許出願を視野に入れた取り組みが行われている。

教員の教育研究成果は学生への指導に反映され、学生による商品開発や特許取得が行われている。

## (4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。

## 選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」

## (1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校の中期計画の中の「目的及び目標」において、地域に根ざした高専づくりが目標に盛り込まれている。

資料B-1-①-1 教育、研究、社会との連携、国際交流等に関する目標

I. 目的及び目標

2. 目標

○ 教育、研究、社会との連携、国際交流等に関する目標

既成概念にとらわれずチャレンジ精神を持って教育・研究に取り組むとともに、地域に根ざした高専づくりを推進し、世界に認められる個性をもった教育界のオンリーワンをめざす。

出典：中期計画

この中期計画では、社会との連携に関することで、以下の3項目を掲げている。

- 1) 地域社会等との連携・協力、社会サービス等の推進
- 2) インターンシップの推進など教育に関する産学連携の推進
- 3) 広報の充実

資料B-1-①-2 地域社会等との連携・協力、社会サービス等に関する具体的方策

IV. 社会との連携、国際交流等に関する事項

1. 社会との連携に関すること

○ 地域社会等との連携・協力、社会サービス等に関する具体的方策

テクノ・リフレッシュ教育センター、徳山高専テクノ・アカデミア（地元企業の本校への支援組織）が協力して地域に根ざした高専づくりを行い、地域連携を発展させる。具体的には、月例の講演会、シンポジウム、産業技術フォーラム in 山口、各種人材養成講座、公開講座などを発展させる。

また、小中学生を対象とした「夏休み小学生工作体験教室」、中学生を対象とした「大学等地域開放特別事業」のほか、小学生から一般社会人を対象とした公開講座をさらに充実発展させる。

さらに、地方公共団体、周辺大学等と連携し実施している周南サテライトカレッジ、周南オープンカレッジについても今後継続し発展させるとともに、山口県をはじめとした地元自治体、山口県産業技術センター及び周南地域地場産業振興センター、徳山大学等との連携を強化する。

○ インターンシップの推進など教育に関する産学連携の推進のための具体的方策

本校では、徳山高専テクノ・アカデミア参加企業との産学連携を軸とした教育研究をすでに実施しており、今後更に産学連携の強化を図る。

○ 広報の充実に関する具体的方策

総合企画室でタイムリーな広報物の企画・発行を行う。同時に、すべての広報物の目的、対象、効果を調査・検討し、その見直しと統一的管理を行う。その際、電子媒体と冊子の使い分け、重ね合わせを行うことにより広報物の改善と広報効果の効率化を図る。また、2002年度に「Live & Active」と銘打って全面改訂を行ったホームページ及び周南市街地を開いた徳山高専サテライト「徳山高専夢広場」を活用して、学外の意見を収集するとともに、教育、研究、文化活動に関するリアルタイムな情報発信を行う

出典：中期計画

以上のとおり、本校では社会との連携や地域社会に対する教育サービスを中期計画により、本校の目的として明示している。また、中期計画そのものは本校のウェブサイトでも公開している。

資料B-1-①-3 高専機構および本校の中期計画等

中期目標・中期計画

独立行政法人国立高等専門学校機構

中期目標(PDF形式) 中期計画(PDF形式)

□

徳山工業高等専門学校

中期計画(PDF形式)

中期計画 2004年度年次計画(PDF形式)

出典：本校ウェブサイト

[http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/what\\_is/aim\\_plan.html](http://www.tokuyama.ac.jp/japanese/information/what_is/aim_plan.html)

これらの実施例として、地域審議会などへの参加、徳山高専テクノ・アカデミアにおける活動、各種研修・セミナー等の企画・実施状況、および施設・設備の開放状況について示す。

(1) 地域審議会などへの参加

山口県や周南市などの要請に応じ、校長をはじめ教職員が各種委員・講師として対応している(資料B-1-①-4)。ものづくり推進委員会委員(校長, 山口県)をはじめ、公的機関を対象にしたものだけでも年間約50件にのぼり、地域の要請に応じている。

(2) 徳山高専テクノ・アカデミア(以後アカデミアと称す)

アカデミアは平成9年12月に地場の中小企業24社の会員企業で創設され、会員の異動はあるものの現在も24社で運営している。地場企業への貢献として、以下の事業を教職員が企画運営している。

- (a) 若手技術者と社員のスキルアップを目的とした人材養成講座
- (b) 中堅技術者のスキルアップのための技術研修会
- (c) 企業からの技術相談(技術相談は直接に依頼があるものと、年2回の定期的な企業訪問における相談事例の引き起こしの2種類がある)

- (d) 企業との共同研究のトライアルとしてのアカデミア共同研究
- (e) 会員企業を中心に会員外の企業も含めたグループとしてのアカデミア研究会
- (f) 会員に関心のある事柄についてのセミナー、講演会の開催と学会等のCPD事業のサービス  
また、企業から高専へのサービスとしては以下の事柄が行われている。
- (g) 専攻科学生の学会発表についての派遣の補助
- (h) 学生の各種コンテストへの参加補助
- (i) 学生のインターンシップ受け入れ

資料B-1-①-5に過去3年のアカデミア事業の実施状況を示す。

- ・ 件数、参加者数とも人材養成講座を除き、増加傾向にある。また、人材養成講座については、新規採用者の減少もあって、講座内容と希望者についてやや不一致が見られ、改善の余地がある。
- ・ CPD(Continuous Professional Development)は近年、学会等を中心に推進されており、広島、九州に比べて受講機会の少ない県内企業（会員会員外を問わず）にできるだけ提供できるように努力している。
- ・ 会員各社ともに独自技術の模索をしており、アカデミア共同研究から共同研究、コアビジネスへ発展させている企業が数例ある。
- ・ 企業からの支援の結果として、会員企業の援助により、専攻科学生の研究活動や、創造教育の発現としての各種コンテストに対する成果が得られているが、詳細は別項を参照されたい。

資料B-1-①-4 地域からの依頼による各種委員・講師等（平成17年度）		
依頼機関 Requested by ~	内 容 Name of the Committee or the Course	期 間
山口県	技能五輪・アビリンピック山口大会推進協議会総務企画専門委員会委員	H17. 4. 1-H18. 3. 31
山口県	自然環境保全審議会委員	H17. 9. 1-H19. 8. 31
山口県	建築審査会委員	H16. 5. 12-H18. 3. 31
山口県	大規模小売店舗立地協議会委員	H16. 6. 1-H18. 3. 31
山口県	屋外広告物審議会委員	H16. 5. 12-H18. 3. 31
山口県	県営住宅入居者資格審議会委員	H18. 4. 1-H20. 3. 31
山口県	公共事業再評価委員会委員	H17. 4. 1-H19. 3. 31
山口県	山口県産業科学技術振興賞選考委員会委員	H17. 10. 4-H18. 3. 31
山口県	木屋川川づくり検討委員会委員	H17. 9. 20-H18. 9. 19
山口県	柳井川川づくり検討委員会委員長	H17. 9. 20-H18. 9. 19
山口県	錦川川づくり検討委員会委員	H17. 9. 20-H18. 9. 19
山口県	土穂石川川づくり検討委員会委員長	H18. 2. 1-H19. 1. 31
山口県	技術アドバイザー	H17. 10. 21-H20. 3. 31
山口県産業技術センター	運営協議会委員	H17. 4. 1-H18. 3. 31
山口県産業技術センター	山口県中核技術研究開発事業課題選定委員会委員	H16. 6. 10-H18. 3. 31
山口県産業技術センター	技術アドバイザー	H17. 8. 1-H19. 7. 31
山口県産業技術センター	Y S N活用生産技術支援事業推進委員会委員	H16. 11. 1-H19. 3. 31
周南市	国民健康保険運営協議会委員	H17. 4. 21-H18. 3. 31
周南市	周南市都市計画審議会委員	H17. 4. 28-H19. 3. 31
周南市	周南市ごみ対策推進審議会委員	H17. 7. 8-H19. 12. 1
周南市	徳山地区地域審議会委員	H17. 10. 1-H19. 9. 30
周南市	周南市男女共同参画審議会委員	H17. 11. 1-H19. 10. 31
周南市	周南市行政改革推進委員会委員	H16. 2. 17-H18. 2. 16
周南市	徳山駅周辺整備推進検討委員会委員	H17. 8. 10-H19. 8. 9
周南市	周南市環境基本計画策定委員会委員	H16. 8. 25-H18. 3. 31
周南市	周南市生活交通活性化委員会委員	H16. 8. 1-H18. 3. 31

周南市	周南市公共施設省エネルギー改修プラン策定協議会委員	H16. 8. 1-H17. 2. 28
周南市	周南市市民参画検討委員会委員	H17. 7. 1-H19. 6. 30
周南市	周南市住宅マスタープラン検討委員会委員	H17.10. 1-H19. 9. 30
周南市	徳山駅周辺整備事業計画検討委員会委員	H17. 8.10-H19. 8. 9
周南市ひと・輝きプロジェクト 公募事業委員会	周南市ひと・輝きプロジェクト公募事業委員会委員	H17. 4.21-H18. 3. 31
周南市市民交流センター	ビジネスサポートコーナーブース入居者審査委員会委員	H17. 4. 1-H18. 3. 31
周南市教育委員会	周南市公民館運営審議会委員	H16. 1.19-H17.11. 30
周南市教育委員会	周南市スポーツ振興計画策定委員会委員	H17.10.17-H18. 3. 31
(財)周南市ふるさと振興財団	周南市ふるさと振興財団評議員	H17. 5.23-H18. 3. 31
下松市	下松市洪水ハザードマップ検討委員会委員	H18. 3. 1-H18. 6. 30
防府市	防府市まちづくり委員会委員	H17. 7.13-H18. 3. 31
下関商工会議所	長府地区産業振興ビジョン策定委員会委員	H17. 9. 1-H18. 3. 31
光市	光市環境審議会委員	H17. 3.22-H19. 3. 31
光市	光市自然敬愛推進検討委員会委員 (座長)	H17. 9.28-H18. 3. 31
やまぐち産業振興財団	技術開発等審査委員会委員	H17. 5.30-H18. 3. 31
やまぐち県民活動きらめき財団	県民活動出前アドバイザー	H16. 5.25-H18. 3. 31
山口県バレーボール協会	山口県バレーボール協会グローアップシステム事業選考委員	H17. 7. 4-H19. 3. 31
(財)山口県体育協会	スポーツ医・科学サポート委員会科学専門部会委員	H16. 7.30-H18. 7. 29
山口地方裁判所	専門委員	H16.10. 1-H18. 9. 30
(社)土木学会中国支部	幹事会幹事	H17. 5.20-H18. 5. 13
(社)地盤工学会中国支部	役員 (地域幹事)	H17. 5.25-H18. 5. 1

出典：本校学校要覧

資料B-1-①-5 アカデミア活動状況

アカデミア活動状況(括弧内は述べ参加者)

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
部門交流(回)	1(41)	1(50)	2(78)		
セミナー(回)	1(44)		1(42)	1(45)	1(41)
技術研修(回)	4(172)	4(121)	6(194)	1(45)	3(5)
人材養成(回)	8(139)	8(115)	7(96)	12(140)	3(49)
共同研究(件)	2	5	4	4	5
研究会(会)		2	5	5	4
CPD(件)	1(40)	1(74)	2(89)	1(112)	1(140)*1)

\*1) ISEC-03

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

(3) 各種研修・セミナー等の企画・実施状況

・公開講座

教育・研究の成果を広く社会人に公開し、地域社会の教育文化の向上に資することを目的とする。

年度	件数	総日数
平成12年	5	8
平成13年	6	13
平成14年	11	18
平成15年	7	13
平成16年	8	10
平成17年	6	8

・周南サテライトカレッジ（主催：周南市）

周南市では、平成13年度より、JR徳山駅ビル内の市民交流センターにおいて、山口大学、山口県立大学、徳山大学、徳山女子短期大学(平成15年度まで)、山口キャリアデザイン専門学校（平成16年度より）および本校が共同で行なっている。

年度	件数	総日数
平成13年	5	9
平成14年	7	23
平成15年	5	23
平成16年	3	24
平成17年	3	24

・周南オープンカレッジ（主催：周南市生涯学習センター）

周南市では、市民への生涯学習事業の一環として、多様化、高度化する市民の学習要求に応え、高等教育機関に集約された教育機能や研究成果を広く地域社会に還元するため、徳山大学、山口大学、および本校との共催で行なっている。

年度	件数	総日数
平成12年	2	7
平成13年	2	7
平成14年	2	7
平成15年	2	9
平成16年	2	8
平成17年	2	8

・夏休みジュニア科学教室（主催：夏休みジュニア科学教室実行委員会）

山口県内の産官学で組織された「夏休みジュニア科学教室実行委員会」は将来に無限の可能性をもつ子供たちに科学の面白さを知ってもらうため、大学や高専、企業の研究所などの協力と、山口県や山口県教育委員会などの講演を得て、小学5年生から中学校3年生を対象に開講している。

年度	件数
平成12年	2
平成13年	2
平成14年	2
平成15年	2
平成16年	2
平成17年	2

・ソラールにおける協力事業

平成10年防府市に子供から大人まで科学に触れ合う機会を提供できる身近な生涯学習施設として、防府市青少年科学館（通称ソラール）がオープンした。常設展を中心に、企画展や科学教室など多彩な行事を行っている。毎年夏休みに企画している青少年のための科学の祭典「おもしろサイエンス in ソラール」に平成14年からは徳山高専も毎年参加をし青少年の科学に対する興味を駆り立てている。高専ロボットコンテストに出場し優秀な成績を収めたロボットを実際に子供たちに操作してもらう企画や、物理や科学の身近な題材をテーマとした企画などで参加している。

年 度	テ ー マ
平成 10 年	競技用ロボットを動かしてみよう
平成 12 年	コンデンサで遊ぼう
平成 14 年	動かしてみよう競技用ロボット, 放射線の飛行機雲, 燃料電池と電気分解
平成 15 年	競技ロボットを動かしてみよう, 磁気カードの秘密, 水素のちから
平成 16 年	競技ロボットを動かしてみよう, 水の不思議(よろず運びます), 錬銀術? 銀の鏡をつくろう
平成 17 年	競技用ロボットを操縦してみよう, ペーパークラフトで学ぶ橋のしくみ, 色の魔術師クロマトグラフィー

## 資料B-1-①-6 ソラールにおける協力事業

## 水の不思議 -萬(よろず)運びます-

徳山工業高等専門学校 室長 大應 (SR)

## どんなことをするの?

水はなんでも運ぶことができる運送会社です。写真は、水道管の内部に付着した炭酸カルシウムの結晶の電子顕微鏡写真です。これは、水が溶かして運んできたものが、水道管の中で結晶になったものです。ここでは、水がいろいろな物質(もの)を溶かして運ぶはたらきをもっていたり、熱などのエネルギーを運ぶはたらきがあることを調べる実験をします。



## どんな実験なの?

実験1: ミネラルウォーターの硬度を調べよう。

バックテストで、ミネラルウォーターの硬度を調べます。

実験2: 石灰乾燥剤(生石灰)で石灰水をつくり、炭酸カルシウムの性質を調べよう。

(1) 石灰岩を観察しよう。

腕足貝などの化石を観察します。

うすい塩酸の中に石灰石のかけらを入れて変化を調べます。

(2) 二酸化炭素を溶かした水の性質を調べます。

(3) 石灰水に息を吹き込み続けて、変化を調べます。

実験3: 水の沸騰について調べよう。

(1) 減圧沸騰 --- 減圧沸騰を続けると水の温度が下がることを調べます。

(2) 断熱膨張 --- 断熱膨張で雲を発生させ、その原理を考えます。

500ml くらいの透明なペットボトルに、キャップのかわりに「炭酸抜けま検」をつけ、加圧してから急に栓を開けてみよう。どんなときに、霧ができるだろうか。また、霧はどのような色をしているだろうか。

(3) 水飲み鳥 --- 水飲み鳥の動作原理を調べます。

(4) ぼんぼん舟 --- 昔懐かしい「ぼんぼん舟」は、高圧の水蒸気で進む舟です。

実験4: 紙を焦がす水蒸気

フラスコに入れた水を加熱し、発生した水蒸気をコイル状にした細い銅パイプの中を通す。この水蒸気をコイル状の銅パイプ部分でさらに加熱すると紙を焦がすほどの高温水蒸気がある。水蒸気でほんとうに紙が燃えるだろうか?

出典: おもしろサイエンス in ソラール 2004 実験解説集

## ・ひと・輝きプロジェクト (主催: 周南市企画課)

周南市は「ひとづくり」のための施策を市民や市に所在する団体から募集している。この施策は市と提案した者との協働により実施される。平成17年度に採択された10テーマのうち6テーマまでが、本校教職員が関係した企画であった。

資料B-1-①-7 ひと・輝きプロジェクト

別紙

平成17年度 ひと・輝きプロジェクト公募事業 採択プロジェクト一覧

平成17年10月6日  
岡南市ひと・輝きプロジェクト公募事業委員会

プロジェクト名(仮称)	プロジェクトの内容	担当者 (氏名・敬称略)	関係課 (課名)	備考	採択 項目	
1 「いのちに学ぶ」プロジェクト	「いのちや自然環境についての学習、研究、情報発信を行う」岡南いきもの教育・研究センター(仮称)を、徳川動物園に、岡南地域の生物系の教員、企業研究員の参加を得て設立。学校教育、生涯学習の場とするとともに、生命科学の研究拠点とする。	天内 和人 関野 肇	総合政策部 経済部 教育委員会	企画課 動物園 学校教育課 生涯学習課	所定の施設は、動物園内、又は隣接地に整備すること。	1
2 「わたし発 防災防犯」プロジェクト	小・中学生が防災防犯対象について話し合い、家族や近隣住民へのインタビューを通じ、情報の収集、地域防災防犯マニュアルを作成。	堀野 一恵	総合政策部 経済部 教育委員会	企画課 元氣こども課 総務課(まち防災室) 学校教育課	授業書の居住地区をモデルとして実施。学校教育の一環として位置付けること。	1
3 「ワイワイものづくり」プロジェクト	学校教育及び学外における体験型科学教育・サイエンスイベントの充実。そのための人材ネットワークの整備。	大茂 博文 大塚 止夫 松村 裕一 関野 肇 村重 清司	総合政策部 経済部 教育委員会	企画課 商工観光課 学校教育課 生涯学習課	単独でなく、小中学校と協力して、定期的・継続的に実施するものであること。	1
4 「わが子への手紙」プロジェクト	誕生日、入学、履修など7つもの節目となる出立事の際に、わが子或いは地域の子どもへの思いを手紙に書く。冊子にして子育て中の方に配布する他、広報誌に定期的に掲載。	関野 肇 関野 肇 関野 肇	総合政策部 経済部 健康福祉部 教育委員会	企画課 元氣こども課 総務課 健康福祉課 学校教育課	学校の保護者会、地域で子どもを対象の活動を行っている方々の参加を広く求めること。	1
5 「私のまち美観」プロジェクト	岡南市内の文化財、名勝、ハイキングコース等のマップ作成と情報提供システムの整備。それら文化財等の整備・管理を兼ねたイベントの開催。子ども達によるまち美観コンテストなどの開催。	加藤 昌博 工藤 洋三 村々木 和子 関野 肇 関野 肇 関野 肇	総合政策部 経済部 健康福祉部 教育委員会	企画課 元氣こども課 商工観光課 健康福祉課 生涯学習課	イベントについては、当面、市民が主たる参加者となるものとする。	2
6 「カンガルーママ」プロジェクト	空き施設である元母子寮を、親子で遊べる場所、母親のサークル活動の場所として整備。	関野 肇	総合政策部 健康福祉部	企画課 見守り課	運営については、施設所在地の方々による自主管理組織を設立して行うこと。	2
7 「木のぬくもり」プロジェクト	身体杖となった杖倉を修繕・活用して、木工をはじめとするものづくり、各種講座や体験学習を実施。	関野 肇 木村 武馬 工藤 洋三 松村 裕一 関野 肇	総合政策部 経済部 健康福祉部 教育委員会	企画課 林政課 動物園 高齢学習課 学校教育課 生涯学習課	繋がる杖校校舎の中から、一カ所を譲渡で実施すること。	3
8 「フンステップ・アップ」プロジェクト	キャリア・アップをめざす若者の相談、資格取得・トレーニング支援、就業情報の収集・提供を総合的に行う体制の確立。	関野 肇 関野 肇 関野 肇	総合政策部 経済部	企画課 商工観光課	窓口を集約して実施すること。	3
9 「しみんの維新」プロジェクト	市民参画・協働によるまちづくりに関する講座・セミナー等を開催。	関野 肇 関野 肇	総合政策部 健康福祉部	企画課 (市民活動室) 市民活動推進課		3
10 「ひと・輝きプレス」プロジェクト	市民の若者と行政の若者が協力して、「ひと・輝きプロジェクト」の動きを中心とした広報誌を作成。	関野 肇	総合政策部	企画課 政策調整課		3

出典：平成17年度 ひと・輝きプロジェクト公募事業 採択プロジェクト一覧

・専門研究部会/技術研修会，人材養成講座（主催：徳山高専）

地域産業界との技術交流として、各種講演会，技術研修会や人材養成講座を企画し実施している。

年度	専門研究部会/技術研修会		人材養成講座		計	
	件数	総日数	件数	総日数	件数	総日数
平成12年	7	1	9	44	16	45
平成13年	9	1	9	27	18	28
平成14年	4	8	8	37	12	45
平成15年	6	14	9	25	15	39
平成16年	1	1	2	33	13	34
平成17年	1	3	3	17	4	20

・徳山高専夢広場

平成14年7月，徳山商工会議所のまちづくり機関「TMO 徳山」が中心商店街の空洞化対策や起業化の支援のために，徳山市銀座旧サティ2階にチャレンジショップとくやま『街あい』をオープンした。家賃は無料でオープン当時，飲食・食品，物販・展示，サービスなどの21店舗が集まっていたが，徳山高専もこの一角を借り受け，徳山高専夢広場を開設した。ここで徳山高専を広く市民に知ってもらうため既設学科の紹介や，学生会活動の展示などほぼ1週間単位ごとのローテーションでさまざまな展示をしてきた。平成15年には場所を市内の旧電気販売店跡地に場所を移し，新たに「イングリッシュルーム」という英会話を楽しむ企画を加え，毎週金曜日に市民も含めた大勢の参加者でに

ぎわっている。最近では在学あるいは卒業した留学生のふるさとを紹介する企画なども行われている。平成16年より「パソコン若葉相談室」を開設し、市民を対象としたパソコン使用時のささいな疑問や予期せぬトラブルなどへの対応を開始し、現在では、週1回の開催となっている。

・イングリッシュルーム

平成16年2月より始めた周南市街地に開いた徳山高専サテライト「徳山高専夢広場」にて、本校英語科の教員による英会話教室を週1回1時間程度開催している。英語のみの会話に徹する教室で実施している。参加者は本校の「英語に親しむ同好会」のメンバー、専攻科生、教職員が中心で、毎回数名の市民の参加もある。平成18年5月に100回目を達成した。

・地域ロボコン

平成16年度より、ロボコンの街「周南」において、市民の方がロボットに触れる機会を増やし、実際に製作する体験を通して、ロボットと共存する21世紀社会を実現することを目的とした地域交流事業として実施している。今後も、様々な年齢層の方々が参加できる数種類のコンテストの実施によって、ものづくりに親しむ 文化的土壌づくりを行う予定である。

平成16年	2004年度小学生ロボコン 中国新聞防長本社杯「木星探査大作戦」
平成17年	中国新聞防長本社杯 ロボットコンテスト 2005 in 徳山高専「ONI ごっこ」

・出前講座

平成17年度には、徳山小学校へ教員6名が出向き、LEGOを用いた出前講座を行った。その際、本校情報電子工学科所有のLEGOの貸し出しも同時に行った。

・徳山高専中学校連携講座

本校が近隣の中学生を対象として科学技術に関する興味・関心と知的探求心等を高める機会を充実するために開催するものであり、中学生が未来を支える先端技術について理解と関心を深めるとともに、未来に対する夢を醸成することを目的としている。

平成16年	日本科学未来館毛利館長に聞くー科学技術の進歩ー 全2回
平成17年	棒のぼりロボット製作講座 全3回

・周南テクノキッズ

小学生高学年を対象に夏休み1泊2日で、自然や科学に触れる機会を提供し、楽しみながら理科に関する興味と関心を深める。

平成17年	徳山高専理科大好き夏休み体験教室 周南テクノキッズー科学で遊ぼうー
-------	-----------------------------------

・資格関係講座

講座名	補 講	模擬試験
ボイラー技師資格試験講座	2回/年	
工業英語検定受験講座	4回/年	2回/年
実用英語検定面接指導		3回/年

(4) 施設・設備の開放状況

・体育館，運動場，その他（野球場，テニスコート）

年 度	件 数	のべ利用者数
平成13年	130	3479
平成14年	147	2479
平成15年	80	1392
平成16年	54	1393
平成17年	65	2096

・図書館

図書館の利用を申し出た学外の一般の利用者にも図書館の利用を開放している。

曜日の別	平 日	土曜日，日曜日
開放時間	9：00～20：00	9：00～13：00

また，正規課程以外の学生受け入れとして，以下の「研究生制度」，「聴講生制度」，「科目等履修生制度」の3制度があり，さらに，徳山大学との「単位互換」による学生受入れや，長岡技術科学大学と本校による「高専との連携教育」による大学院生受け入れを行っている。

○「研究生制度」 特定の研究あるいは専門事項の研究を希望する者に対し，校長が，本校の教育研究に支障のない場合に限り，選考の上研究生として入学を許可する制度である。

○「科目等履修生制度」 一般科目及び専門科目の中の一又は複数の授業科目を履修し単位の修得を希望する者に対し，校長が，本校の教育に支障のない場合に限り，選考の上科目等履修生として入学を許可する制度である。

○「聴講生制度」 一般科目及び専門科目の中の一又は複数の授業科目について聴講を希望する者に対し，校長が，本校の教育に支障のない場合に限り，選考の上聴講生として入学を許可する制度。

資料B-1-①-8 徳山工業高等専門学校研究生規則（抜粋）

徳山工業高等専門学校研究生規則

（趣 旨）

第1条 徳山工業高等専門学校学則第54条の規定に基づき，徳山工業高等専門学校研究生（以下「研究生」という。）については，この規則の定めるところによる。

（入学資格）

第2条 研究生として入学することのできる者は，次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 本校が前号に準ずる研究能力及び学力があると認められた者

（入学志願の手続）

第3条 入学志願者は，原則として，学年又は学期の開始の2週間前までに次の各号に掲げる書類に検定料を添えて，校長に願い出なければならない。

- (1) 願書（別紙様式）
- (2) 履歴書
- (3) 資格を証明し得る書類（最終学校の卒業証明書，修了証明書，成績証明書等）
- (4) 健康診断書
- (5) 現に職を有している者は，勤務先の長の許可書

（入学許可）

第4条 入学志願者に対しては，選考の上，校長が入学を許可するものとする。

2 入学を許可された者は，所定の期日までに，誓約書及び校長が定めた書類を提出しなければならない。

出典：学生便覧

## 資料B－1－①－9 徳山工業高等専門学校聴講生規則（抜粋）

## 徳山工業高等専門学校聴講生規則

(趣 旨)

第1条 徳山工業高等専門学校学則第55条の規定に基づき、徳山工業高等専門学校聴講生（以下「聴講生」という。）については、この規則の定めるところによる。

(入学資格)

第2条 聴講生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 本校において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学志願の手続)

第3条 聴講を希望する者は、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて、校長に願出なければならぬ。

- (1) 願書（別紙様式）
- (2) 履歴書
- (3) 資格を証明し得る書類（最終学校の卒業、修了証明書等）
- (4) 健康診断書
- (5) 現に職を有している者は、勤務先の長の許可書

(願書の受付)

第4条 願書の受付期間は、次のとおりとする。

- 前学期 3月20日から3月31日まで  
後学期 9月20日から9月30日まで

(入学許可)

第5条 聴講を希望する者に対しては、選考の上、校長が入学を許可するものとする。

出典：学生便覧

## 資料B－1－①－10 徳山工業高等専門学校科目等履修生規則（抜粋）

## 徳山工業高等専門学校科目等履修生規則

(趣 旨)

第1条 徳山工業高等専門学校学則第55条の2第3項の規定に基づき、科目等履修生に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

(入学資格)

第2条 科目等履修生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
  - (2) 本校が前号と同等以上の学力があると認めた者
- 2 専攻科の科目等履修生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 本校が前号と同等以上の学力があると認めた者

(入学志願の手続)

第3条 科目等履修生として入学を志願する者は、学年又は学期の開始の2週間前までに次の各号に掲げる書類に検定料を添えて、校長に願出なければならない。

- (1) 科目等履修生入学願書（別紙様式1）
- (2) 履歴書
- (3) 履歴書に記載された学歴等を確認し得る書類（最終学校の卒業証明書又は修了証明書、成績証明書等）
- (4) 健康診断書
- (5) 勤務先所属長の承諾書（現に職を有している者に限る。）

(入学許可)

第4条 入学志願者に対しては、選考の上、校長が入学を許可する。

- 2 入学の許可に際しては、所定の期日までに入学料を納付しなければならない。
- 3 入学を許可された者は、所定の期日までに誓約書（別紙様式2）を提出しなければならない。

出典：学生便覧

資料B-1-①-11 徳山大学との単位互換

(1) 単位互換の推進

大学側から別紙1「徳山大学と高専との単位互換に関する打ち合わせ（第1回）」が提示，説明され協議が行われた。

両者間で大きく食い違ったのは単位の認定方法で，大学は高専で認定された単位を大学の単位として認定するのに対し，高専側はまず答案用紙を受け取り，学内で採点，

単位認定という希望であった。結論として，審査員に説明が出来るよう優・良・可・不可の評価ではなく，素点で評価することになった。大学の問題点として，評価の配分が人によって違うので整備するよう検討することとなった。また，科目によっては試験をしない場合があるのでその際は，あらかじめ協議することとなった。

高専の寄附講義「経営管理」（大学科目名「実践ビジネス講座」）は14：30開始予定であったが，大学側の受講に配慮して15：00開始となった。今年度は90分授業で来年は100分授業の予定との報告があり，18年度はカリキュラムを大幅に変えるので単位互換について本格的に検討するとのことであった。

その他，システム関係の履修を希望する場合，体系的に履修できるようモデルを作ることとなった。

出典：徳山大学との協力協定第2回運営会議議事概要

資料B-1-①-12 長岡技術科学大学からの学生派遣（長岡技術科学大学からの依頼）

長技大学第 号  
平成 年 月 日

徳山工業高等専門学校長 殿

長岡技術科学大学長  
小 島 陽

高専との連携教育による学生の派遣について（依頼）

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は本学の教育・研究に対し、格段のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび 本学客員助教授であります貴校土木建築工学科 田村隆弘 氏から、貴校において下記学生の研究指導を賜りたいと存じますので、ご多用中恐縮ですが、ご承諾くださいますようお願いいたします。

なお、ご承諾のうえは、別紙によりご回報くださるよう併せてお願い申し上げます。

記

1. 委託学生 : 大学院工学研究科 修士課程 建設工学専攻 第1学年  
島本 隆幸 (島方太郎 七しおぶ)  
昭和37年8月7日生 (30歳)
2. 委託期間 : 平成18年1月10日～平成18年3月31日
3. 研究題目 : ガラス繊維シートを用いたコンクリート部材の補強に関する研究

出典：高専との連携教育による学生の派遣依頼

資料B-1-①-13 長岡技術科学大学からの学生派遣（徳山高専の回答）

平成 年 月 日

長岡技術科学大学長 殿

徳山工業高等専門学校長

印

高専との連携教育による学生の教員の派遣について（回答）

平成 年 月 日付け長技大学第 号で依頼のありました標記のことについて、下記学生の受入れを承諾します。

記

長岡技術科学大学院工学研究科 建設工学専攻 第1学年 青島謙幸

出典：高専との連携教育による学生の教員派遣について

（分析結果とその根拠理由）

本校における正規課程の学生以外に対する教育サービスは、単に研究生、聴講生、科目等履修生などの受け入れ制度だけではなく、地域に根ざした高専づくりや社会との連携の一環として推進している。このことは、中期計画に目標の一つとして掲げ、その具体的方策を策定している。その内容は、ウェブサイトなどを通じて広く公表している。

具体的な活動としては、地域審議会などへの参加や、徳山高専テクノ・アカデミアによる地元企業との連携および各種研修・講座の開催、地域機関主催の各種公開講座などへの協力、本校主催の地域イベント、さらに施設・設備の開放などを、毎年計画的に企画し、数多く実施している。これらの内容は、企業向けの先端技術や最近の技術に関するものから、一般市民の生涯学習の一環として位置づけられるものや、小学生・中学生を対象とした自然や科学に対する興味に応えるものまで、広範囲にわたっている。

また、徳山高専夢広場などの街中拠点の整備や、大学学部生や院生の受け入れなど新しい試みもおこなわれている。以上のことから、本校における正規課程の学生以外に対する教育サービスは、その目的や具体的方策を明確に定め、数多くの教育サービスを計画的に実施することができている。

以上のことから、正規課程の学生以外に対する教育サービスは、十分計画的に実施されている。

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。  
また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

各項目に対する人数、回数およびアンケート結果を以下に示す。

研究生数

年 度	人数
平成12年	4
平成13年	3
平成14年	4
平成15年	2
平成16年	2
平成17年	2

科目等履修生数

年 度	人数
平成14年	1
平成15年	2
平成16年	2
平成17年	5

聴講生数

近年なし

徳山大学からの学生の受け入れ

年 度	人数
平成17年	1

長岡技術科学大学からの学生の受け入れ

年 度	人数
平成17年	1

各種研修・セミナー等の参加者数

・公開講座

年 度	件数	総日数	受講者数
平成12年	5	8	151
平成13年	6	13	284
平成14年	11	18	353
平成15年	7	13	74
平成16年	8	10	142
平成17年	6	8	95

平成17年度公開講座「夏休みものづくり教室」アンケート結果

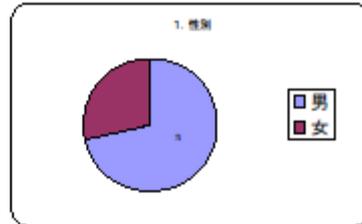
資料B-1-①-14 平成17年度公開講座アンケート集計表

夏休みものづくり教室（掛け時計の製作） アンケート集計表

平成17年8月5日（金） 10:00-15:00

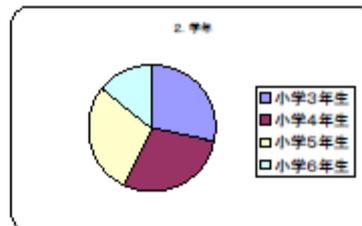
1. 性別

1	男	5
2	女	2



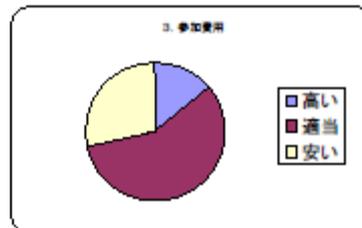
2. 学年

1	小学3年生	2
2	小学4年生	2
3	小学5年生	2
4	小学6年生	1



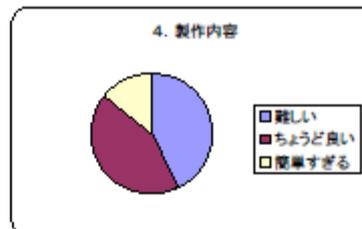
3. 参加費用

1	高い	1
2	適当	4
3	安い	2



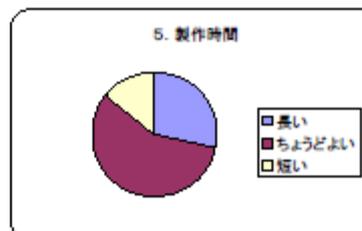
4. 製作内容

1	難しい	3
2	ちょうど良い	3
3	簡単すぎる	1



5. 製作時間

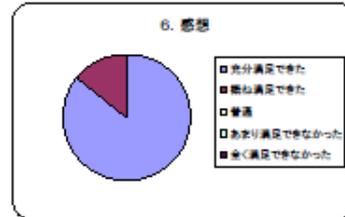
1	長い	2
2	ちょうどよい	4
3	短い	1



夏休みものづくり教室（掛け時計の製作） アンケート集計表

6. 感想

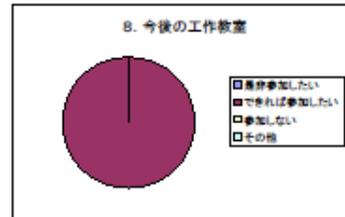
1	充分満足できた	6
2	概ね満足できた	1
3	普通	0
4	あまり満足できな	0
5	全く満足できなかった	0



8. 今後の工作教室  
に対して

1	是非参加したい	0
2	できれば参加したい	7
3	参加しない	0
4	その他	0

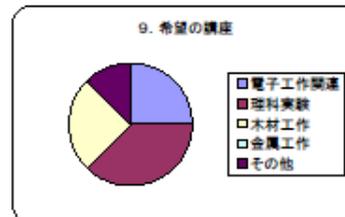
※電池で動くおもちゃ教室



9. 希望の講座

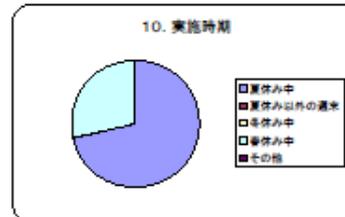
1	電子工作関連	2
2	理科実験	3
3	木材工作	2
4	金属工作	0
5	その他	1

※複数回答有り



10. 実施時期

1	夏休み中	5
2	夏休み以外の週末	0
3	冬休み中	0
4	春休み中	2
5	その他	0



11. その他 意見・感想

先生方が優しく教えてくれたのでおもしろくできた
また行きたい
作るのが楽しかった
困った時に助けてくれたりしたからよかった
色々教えてくれてありがとうございました 太陽にあたった目玉焼きおいしかったです
猫の時計が完璧にできてよかったです

出典：夏休みものづくり教室 アンケート集計表

・周南サテライトカレッジ（主催：周南市）

年 度	件数	総日数	受講者数
平成13年	5	9	46
平成14年	7	23	159
平成15年	5	23	120
平成16年	3	24	222
平成17年	3	24	76

・周南オープンカレッジ（主催：周南市生涯学習センター）

年 度	件数	総日数	受講者数
平成12年	2	7	213
平成13年	2	7	225
平成14年	2	7	193
平成15年	2	9	193
平成16年	2	8	149
平成17年	2	8	209

周南オープンカレッジアンケート結果

資料B-1-①-15 周南オープンカレッジアンケート集計表

「漱石はいつでも新しい門を読む」受講アンケート結果詳細（回収26人中22人）※複数回答可

①この講座をどのよう にして知りましたか	市広報		チラシ		インターネ ット		メール マガジン		知人		その他							
	8	9	0	0	1	5	・ 昨年受講 者案内2 ・ 新聞記事 ・ 駅ビルポスター ・ 問い合わせ											
②あなたの年齢を教 えてください	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	0					3	0	1	5	9	4
③受講理由について 教えてください（複 数回答可）	知人のす すめ	文学に関 心がある	漱石の作 品が好き	その他				・ 一色先生の講座を受講したかった。 ・ 前回から受講している。 ・ この機会を利用して漱石の作品を読 んでみようと思ったから。										
④開催時間はどうで したか	午前中がよい		午後がよい			夜間がよい		いつでもよい		4			6	12	4			
⑤開催日はどうでし たか	平日がよい		土曜日がよい		日曜日がよい		いつでもよい		14			1	1	7				
⑥開催場所はどうで したか	こちらでよい		他の場所がよい			22						0						
⑦実施回数はどうで したか	今回(4回)でよい		少ない方がよい			もっと回数を増やしてほ しい		16					0	17				
⑧講師について	わかりやす い	(その理由)			わかり にくい	その他		(その理由)										
21	・ 説明が、明確 ・ 自分が思いつかない 点などの説明が良い			0	1		・ 作品の読み方を深 めていくために参加 している											

	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかりやすく今までにない視点を与えてくださって、そういう読み方もあるのかと思った。</li> </ul>	
⑩講座の内容はどのようでしたか	むづかしい ちょうどよい 簡単すぎる その他希望	<その理由> ・本を読んでいないので
	0 21 0	1
⑪1回当たりの講義時間はどのようでしたか	長い ちょうどよい 短い	
	0	22 0
⑫今後、取り上げてほしい文学作品は、ありますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>一通り夏目漱石</li> <li>日本文学なら何でも(2人)</li> <li>芥川龍之介(3人)</li> <li>三島由紀夫(2人)</li> <li>夏目漱石「こころ」「明暗」</li> <li>平家物語</li> <li>万葉集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本古典文学</li> <li>太宰治(2人)</li> <li>川端康成</li> <li>森鷗外</li> <li>島崎藤村</li> <li>「家」「夜明け前」</li> <li>宇野千代</li> </ul>
⑬この講座以外の内容で今後開催してほしい講座<特に徳山高専に開催してほしい講座>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典だけではなく比較的新しいものを取り上げて欲しい。</li> <li>地域文学(世界の各地もきめて)</li> <li>地理文化(それぞれの特色)</li> <li>明治維新前後の長州の藩閥史</li> <li>昭和の228事件前後の歴史から講和までの藩閥史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文系の講座</li> <li>文学史</li> <li>比較文学(作家論)</li> <li>現代史(背景としての時代)</li> <li>日本の歴史、特に明治以降の近代史</li> <li>言語学、日本語コミュニケーション</li> </ul>
⑭この講座に関する要望や感想、その他生涯学習センターに対するご希望があればご記入ください。(簡潔に箇条書きでお願いします。)	○一色先生の講座について <ul style="list-style-type: none"> <li>非常に丁寧な解説でわかりやすかった。</li> <li>一色先生、たいへんありがとうございました。来年もどうぞよろしく願いかけします。</li> <li>二年続きで充実した時間を持たせていただきました。回数を多くして、これからも一年に何度か文学的な内の機会を作って欲しいと思います。先生の話し方、内容、掘り下げ方、再発見の場所が多くあってとてもうれしかったです。ありがとうございました。</li> <li>月2回でも良いので、年間を通して実施して欲しい。(4回だけで終了するのは、惜しい。)</li> <li>一年間を通して月に一度でよいので、長期間開催して欲しい。</li> <li>シリーズの中で1回くらいは、講師を回して、それぞれの参加者の所見を言う機会、内容のことで講師に確かめる機会を設けて欲しい。</li> <li>漱石が日本の近代文学の夜明けを担ったのはよくわかったが、作品そのものはそれほど面白いとは思えない。藤村の「破戒」の方がよほど面白く探める。</li> </ul>	
	2	
	○オープンカレッジへの要望	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「歴史教科書」「靖国問題」等学線で教育を受けていないことが、余りにも多い。ぜひこれらのことに関する歴史を要望する。</li> <li>多くの友人が、この文学講座を受講したくても夜外出するのが難しく、残念がついてる。昼間にできませんか。</li> </ul>	

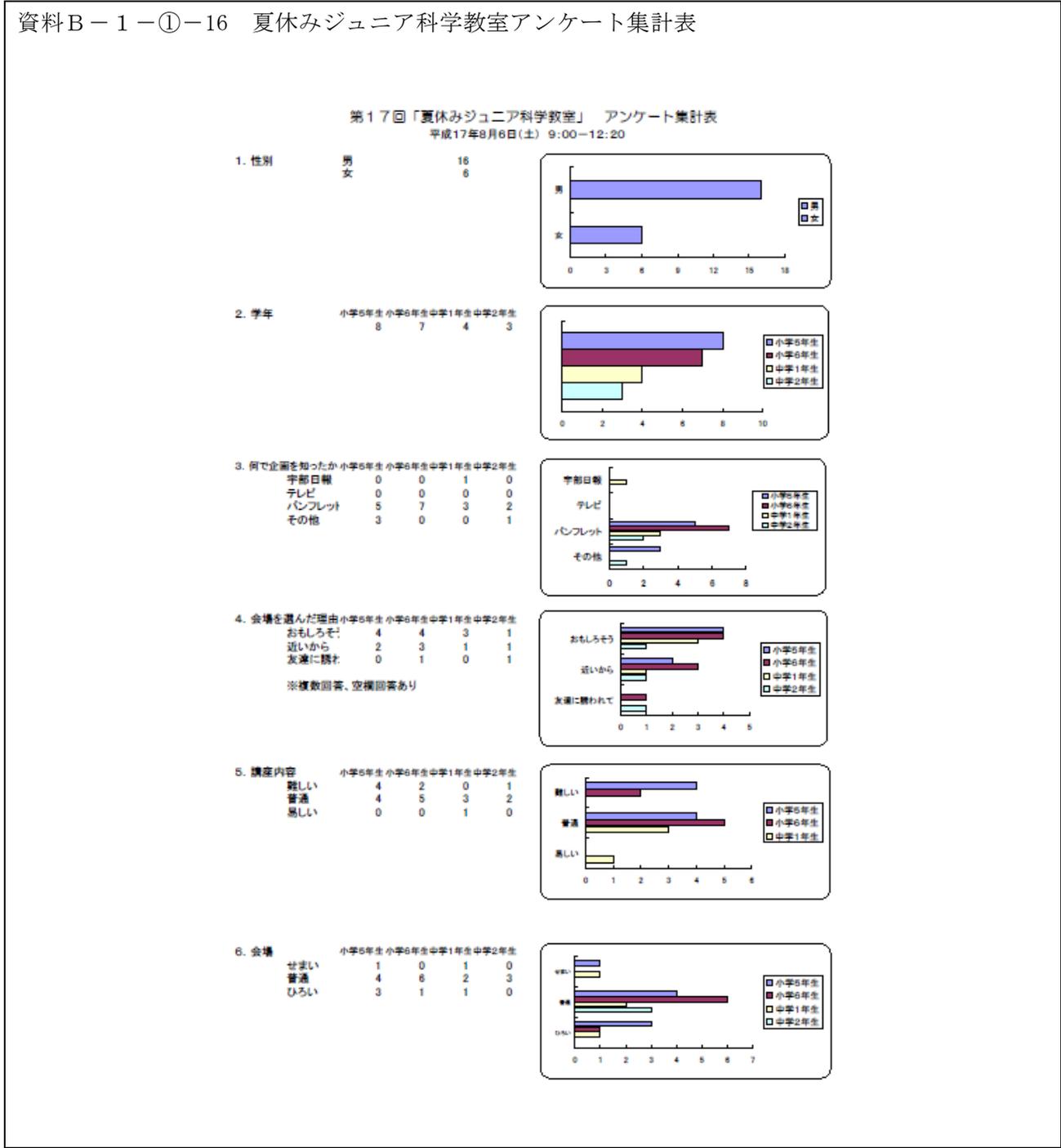
出典：「漱石はいつでも新しい—『門』を読む」受講アンケート結果

・夏休みジュニア科学教室（主催：夏休みジュニア科学教室実行委員会）

年度	件数	総日数	受講者数
平成12年	2	1	80

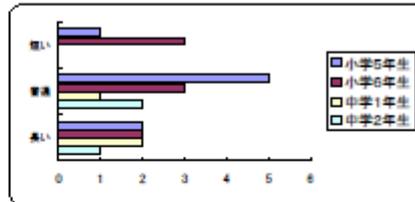
平成13年	2	1	48
平成14年	2	1	60
平成15年	2	1	46
平成16年	2	1	42
平成17年	2	1	46

夏休みジュニア科学教室アンケート（平成17年度）

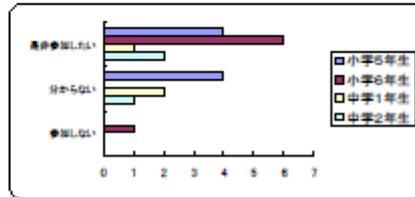


第17回「夏休みジュニア科学教室」アンケート集計表

7. 時間	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生
短い	1	3	0	0
普通	5	3	1	2
長い	2	2	2	1



8. また参加したいか	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生
是非参加し	4	6	1	2
分からない	4	0	2	1
参加しない	0	1	0	0



※空白回答有り

9. その他 意見・感想

とても貴重な時間になった(2名)
全体的におもしろかった
日頃できないことができたので、よかったです
ブラックライトが僕の影にあたらたら、黒と白の影に見えた。驚いた
部屋がとても暑かった
空気の流れなどいろんな事がわかった
見たことないものもみれた
とても楽しかった(2名)
もうちょっと時間を長くしてほしい
クイズが楽しかった(答えを覚録で確かめたりした)。またやってほしい。
本当にこの答えであっているか確かめてくれた。とてもクイズが楽しかったデース！！もう一度やりたい！！
つまらん。楽しくない。がっかり。でも兼品がよかった！
クイズに答えて、覚録で答えを出す。ということが楽しかった。来年も是非でたい！！
自然の有効利用ができておもしろかった
ソーラークッカーでホットケーキもつくれた
いろいろためになった
どうしてそうなるのかをくわしく説明してくれて分かりやすかった
学校で教えてもらえない事がおしえてもらえてとてもおもしろかったです。また来たいです。

10. 次回どのようなテーマの講義がよいか

夏流と夏庄(2名)
くすりができるまで
目で見て耳で聞けて体で感じられる内容の講義
ロボット(仕組みなど)などやりたい(2名)
パソコンをさわってみよう
先生のオススメのテーマが聞きたいです！！
ソーラークッカーでやる料理(高専で)
魚の体のつくりが知りたい
夏気や岩石のことなど
ソーラーエンジン
ソーラーカー、ロボット
昆虫の体の仕組み、日本の食料生産について

出典：第17回「夏休みジュニア科学教室」アンケート集計表

- ・ 専門研究部会/技術研修会，人材養成講座（主催：徳山高専）

年 度	専門研究部会/技術研修会			人材養成講座			計		
	件数	総日数	受講者数	件数	総日数	受講者数	件数	総日数	受講者数
平成12年	7	1	150	9	44	868	16	45	1018
平成13年	9	1	172	9	27	405	18	28	577
平成14年	4	8	169	8	37	556	12	45	725
平成15年	6	14	429	9	25	378	15	39	707
平成16年	1	1	45	12	22	140	13	23	185
平成17年	1	3	5	3	17	49	4	20	54

資格関係講座

- ・ボイラー技師資格試験講座

補講回数/年	受講者数	合格者数
2	34	26

- ・工業英語検定受験講座

級	受講者数
4級	80
3級	30
2級	2

級	4級		3級		2級	
平成15年度	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
1回目	71	52	19	9	3	1
2回目	50	28	22	2	2	0

受講者のうち3級は20%、4級は70%の者が合格した。

- ・実用英語検定 面接試験のための模擬試験  
受講者数 6人中5人が合格した。

- ・イングリッシュルーム参加者数

平成18年5月までの実施全13回の参加者人数

回	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97
人数	23	24	33	24	19	21	20	20	43	26

回	98	99	100
人数	23	26	56

施設・設備の利用実績

- ・体育館，運動場，その他（野球場，テニスコート）

年度	件数	のべ利用者数
平成13年	130	3479
平成14年	147	2479
平成15年	80	1392
平成16年	54	1393
平成17年	65	2096

- ・図書館

年度	のべ利用人数
平成14年	69
平成15年	94
平成16年	28
平成17年	119

改善のためのシステム

テクノ・リフレッシュ教育センターをはじめ、関係の部署にて、各企画でのアンケート結果をもとに、次回の企画について検討がなされている。一例を挙げれば、徳山高専テクノ・アカデミアにおける人材養成講座で実施している、Java関係の講座内容は、アンケート結果をもとにその内容を要望されているものへ対応できるものになっている。

資料B-1-①-17 人材養成講座アンケート集計表

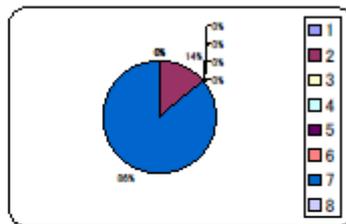
徳山高専テクノ・アカデミア「Java言語プログラミング講座」  
アンケート集計表

平成16年12月20日(月)～22日(水) 19:00～21:00

1. 業種関連分野

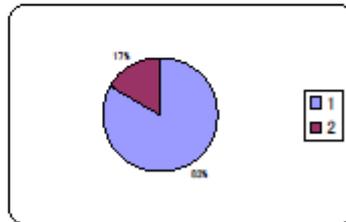
1	機械系	0
2	電気系	1
3	土木系	0
4	建築系	0
5	材料系	0
6	電子系	0
7	情報系	6
8	その他	0

(複数回答あり)



2. 性別

1	男	5
2	女	1

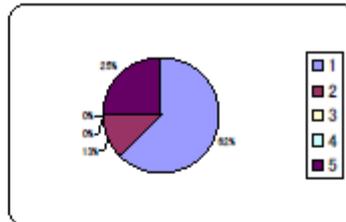


3. 講義内容

1	難しい	5
2	ちょうど良い	1
3	簡単すぎる	0
4	期待した内容と異なる	0
5	その他	2

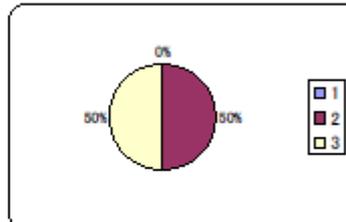
もう少しゆっくりやって欲しい。  
テキストのプログラムにもっとコメントを書いて欲しい。

(複数回答あり)



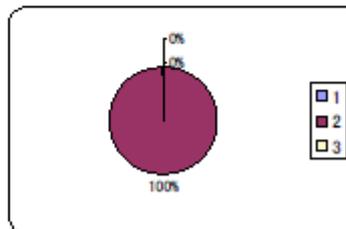
4. 講義時間

1	長い	0
2	ちょうど良い	3
3	短い	3



5. 講義開始時間

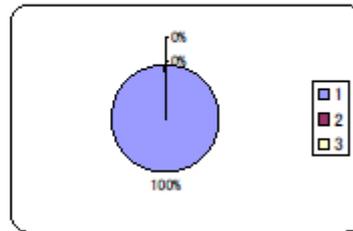
1	早い	0
2	ちょうど良い	6
3	遅い	0



徳山高専テクノ・アカデミア「Java言語プログラミング講座」アンケート集計表

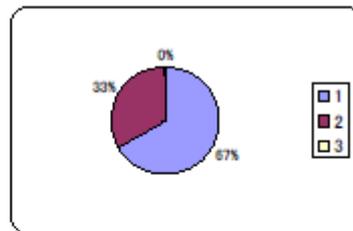
6. 開催回数

1	少ない	6
2	ちょうど良い	0
3	多すぎる	0



7. 過去の参加回数

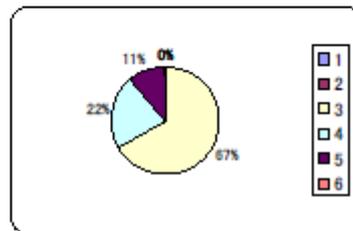
1	なし	4
2	1回	2
3	2回以上	0



9. 今後の実施時期

1	平日の午前	0
2	平日の午後	0
3	平日の夜間	6 19時
4	休日の午前	2 9時
5	休日の午後	1 13時
6	その他	0

(複数回答あり)



8. 人材養成講座・技術研究会への希望

講座の回数が非常に少ない気がした。最低でも6回はやってもらいたい。  
 Javaでのアプリ開発  
 途中で終わった感じがあるので、続きを行って欲しい。  
 JavaとNETの比較

10. その他 意見・感想

同じ動きをするプログラムでJavaのソースとC言語のソースをテキストに記載すれば、イメージがもっと沸いた。  
 とても楽しく受講させていただきました。今回の内容をより掘り下げるか、表面上のみをなめるような形も良いかと思われます。

出典：平成16年度 人材養成講座「Java 言語プログラミング講座」アンケート結果

資料B-1-①-18 人材養成講座名

- 人材養成講座（平成16年度）
- 建築学講座（全4回）
- 構造工学講座（全3回）
- バイオテクノロジー基礎講座I（全3回）
- 技術士（建設部門）受験基礎講座
- 土質工学基礎（全3回）
- 水理学講座（全3回）
- ACCESSによるデータベース構築（全3回）
- MOT研修－実践ファイナンスコース（全2回）
- コミュニケーション・センス講座（全2回）
- 制御工学の基礎（全3回）
- Java言語プログラミング講座（全3回）
- PIC初級講座－ワンチップマイコンPICを用いた機械制御入門－（全3回）

人材養成講座（平成17年度）  
 バイオテクノロジー基礎講座 II  
 機械製図の基礎講座（全6回）  
 EclipseによるJavaプログラミング講座（全6回）

出典：テクノ・リフレッシュ教育センター年報

#### （分析結果とその根拠理由）

前項の分析結果から、地域連携の成果は上がっているように判断できる。毎年2回の企業訪問アンケート調査からも、年を追って要望、相談事項が増加していることがわかる。平成18年現在では、大企業の業績回復の観測がなされているが、中小企業にとってはそれに伴う資材の不足高騰、製品価格低下といった経営環境の悪化は顕著であり、本校が何らかの力添えになれるよう努力している。

各種研修・セミナー等の実施状況、参加者数の状況と照らし合わせて十分な成果が上がっている。特に資格講座については、合格者の数から見て十分と思われる。公開講座については、アンケートの結果から内容は子供や保護者にも充実しているものであることが伺え期待が大きいと思われる。周南オープンカレッジについては、内容や受講料の適正なことがアンケート結果から判断できる。夏休みジュニア科学教室については子供たちの興味に適合した内容で実施され十分満足の得られる内容である事がわかる。また、市民への教育サービスとして、英会話が気軽に楽しめる広場「イングリッシュルーム」を提供していることは、本校の広報活動にも大きく貢献していると思われる。広報の充実のため、平成14年度7月にJABEE対策会議において本校のウェブサイトの改訂が決定され、リニューアル版が公開されている。このウェブサイトは徳山高専の現在の状況を常に新しい情報として広く公開することを基本コンセプトとするものである。中心には学校の今を紹介する記事を写真入で掲載し、月単位での更新がなされる。他にニュース、イベントに加えウイークリートピックコーナーでは週代わりのシリーズものの掲載がなされる。掲載内容については情報処理センターに情報収集システムが稼動し広範囲からの情報提供を促し、学校が主催する各種イベント（公開講座、人材養成講座、技術研修会等）の開催については随時提供される情報をもとに掲載している。

以上のことから、正規課程の学生以外に対する教育サービスの成果は十分に上がっており、さらに改善のためのシステムもあり、機能している。

### （2）優れた点及び改善を要する点

#### （優れた点）

- ・ 正規課程の学生以外に対する教育サービスは中期計画に明確に位置づけ、専門分野を中心に幅広く継続的に企画・実施されている。
- ・ 街中に徳山高専夢広場という活動拠点を持っている。

#### （改善を要する点）

- ・ 市民の希望に対し応えられる範囲には限界があるが、可能な限りの企画を考えることが必要である。

### （3）選択的評価事項Bの自己評価の概要

正規課程の学生以外に対する教育サービスを、地域に根ざした高専づくりとして本校中期計画のなかで明確に目的として示している。またその具体的な方策も中期計画のなかに示している。

テクノ・リフレッシュ教育センターや徳山高専テクノ・アカデミアとの連携で行っている、技術研修、人材養成は、地場企業の要請に対応する内容を計画的に実施している。また、各種公開講座は、一般市民の生涯学習に関係するものから、小中学生に対する自然や科学に対する興味関心を引き出すものまで、幅広く計画的、持続的に実施している。また、本校ウェブサイトを用いた広報活動も適宜行われ、十分な情報を発信している。

周南市の市街地に徳山高専夢広場という活動拠点をもち、そこで、本校学生も参加した、一般市民を対象としたイベントを定期的で開催している。また、市民の目に触れやすいという特色を生かし、各種の情報発信も積極的に行っている。

これまでに開催した各種公開講座、研修会、セミナーなどは、開催回数、参加者数、アンケート結果などで十分な成果を上げ、その目的を達成している。また、アンケート結果から希望する講座内容を次回に反映させるなど、テクノ・リフレッシュ教育センターや徳山高専テクノ・アカデミアを中心とした、改善のためのシステムがあり、有効に機能している。

大学学部生、院生の教育に関する大学との連携も始まっており、今後の発展が期待される。

#### (4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。